QuarkXPress 2017ガイド



目次

本書について.....15
想定される前提条件.....15
ヘルプが必要な場合の参照先.....15
表記規則.....15
技術情報.....16

ユーザーインターフェイス.....18
ツール.....18
はさみツール.....21
星形ツール.....22
シェイプメーカーツール.....22
メニュー.....41
QuarkXPressメニュー（Mac OS Xのみ）.....41
ファイルメニュー.....42
編集メニュー.....42
スタイルメニュー.....44
アイテムメニュー.....47
ページメニュー.....49
レイアウトメニュー.....49
テーブルメニュー.....50
表示メニュー.....51
補助メニュー.....52
ウィンドウメニュー.....54
ヘルプメニュー.....56
コンテキストメニュー.....57
パレット.....57
高度なイメージ制御パレット.....58
ブックパレット.....58
コールアウトスタイルパレット.....59
カラーパレット.....59
条件付きスタイルパレット.....59
コンテンツパレット.....60
コンテンツ変数パレット.....60
脚注スタイルパレット.....61
字形パレット.....62
グラデーションパレット.....62
グリッドスタイルパレット.....63
ガイドパレット.....63
HTML5パレット.....64

ハイパーリンクパレット....64
イメージ編集パレット....64
索引パレット....65
アイテムスタイルパレット....65
レイヤーパレット....65
リストパレット....66
メジャーパレット....66
メジャーパレット - Mac OS X....67
メジャーパレット - Windows....69
ページレイアウトパレット....70
プロファイル情報パレット....70
変更履歴パレット....71
リフローのタグ付けパレット....71
サイズ変更パレット....71
スタイルシートパレット....71
テーブルスタイルパレット....72
テキストシェーディングスタイルパレット....72
ツールパレット....73
パレットグループおよびパレットセット....73
レイアウトコントロール....75
表示と表示セット....76
ウィンドウの分割....76
ウィンドウの作成....77
ストーリーエディタ表示の使用....77
表示セット....78

プロジェクトとレイアウト....80
プロジェクトの使用....80
印刷レイアウトのオプション....81
QuarkXPressプロジェクトの保存と命名....82
レイアウトおよびプロジェクトの書き出し....82
カスタムページサイズ....82
レイアウトの使用....84
プロジェクトレベルリソースとレイアウトレベルリソース....85
適応型サイズ変更....85
ガイドの使用....88
コラムガイドおよびマージンガイド....88
ルーラーガイド....88
ガイドへの吸着....89
ダイナミックガイド....89
アクションの取り消しおよびやり直し....90

ネイティブのQuarkXPressオブジェクト....92
既存のアイテムからネイティブのQuarkXPressオブジェクトへの変換....92
オブジェクトをネイティブのQuarkXPressオブジェクトとして取り込む....93

コンテンツ変数.....95
コンテンツ変数の編集.....96
カスタムコンテンツ変数の作成.....97
コンテンツ変数の挿入.....99

ボックス、ライン、およびテーブル.....100
アイテムとコンテンツの理解.....100
ハンドルの理解.....101
ベジエ形状の理解.....102
ドロップシャドウ.....105
アイテム検索／置換.....106
ボックスの使用.....108
テキストボックスおよび画像ボックスの作成.....108
ボックスのサイズ変更.....109
ボックスや画像の縦横比のロック.....110
ボックスの形状変更.....111
ボックスへのフレームの追加.....111
ボックスへのカラーの適用.....111
ボックスへのグラデーションの適用.....112
テキストボックスの列数の指定.....112
ボックスの融合および分割.....112
ボックスへのテキストと画像の追加.....114
ボックスタイプの変更.....114
クリッピングパスからのボックスの作成.....114
ボックスから別のボックスへの属性のコピー.....114
高性能連続複製.....116
シェイプメーカー.....117
ラインの使用.....122
ラインの作成.....122
直角ラインのラインモード.....123
ラインのサイズ変更.....123
ラインの形状変更.....124
ラインのアピアランスの制御.....124
ラインの連結.....124
オープンなパスの連結、拡張、およびクローズ.....124
ラインから別のラインへの属性のコピー.....125
アイテムの操作.....126
アイテムの選択.....126
アイテムの移動.....126
アイテムのカット、コピー、およびペースト.....127
アイテムのスタック順序の制御.....127
アイテムのグループ化.....128
アイテムの複製.....129
複数アイテムの配置.....129
アイテムの回転.....129
アイテムの傾斜.....130

アイテムのロックおよびロック解除.....130
テキスト内のアイテムおよびグループへのアンカーの付加.....130
コールアウトの使用.....131
コールアウトの理解.....131
コールアウトの作成.....133
コールアウトアンカーの設定.....135
コールアウトスタイルの使用.....135
コールアウトと回り込み.....136
テーブルの使用.....136
テーブルの描画.....137
テキストからテーブルへの変換.....138
Excelテーブルの取り込み.....139
Excelチャートの取り込み.....141
インラインテーブル.....141
テーブルスタイル.....142
テーブルへのテキストと画像の追加.....143
テーブルテキストの編集.....144
テーブルのセルのリンク.....144
テーブルのフォーマット.....145
グリッドラインのフォーマット.....145
行と列の挿入と削除.....146
セルの統合.....147
テーブル、行、列の手動でのサイズ変更.....147
テキストへのテーブルの変換.....147
テーブルおよびグループの使用.....147
他の場所でのテーブルの継続.....148
Table Import.....151

テキストと組版.....153
テキストの編集.....153
ボックスをテキストに合わせる機能.....153
テキストの取り込みおよび書き出し.....154
Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し.....155
テキストの検索と置換.....155
特殊文字コード.....157
脚注と文末脚注の使用.....158
脚注と文末脚注の挿入.....159
脚注／文末脚注スタイル.....160
脚注セパレータ.....162
スペルチェック.....165
ユーザー辞書.....167
単語および文字のカウント.....168
文字属性の適用.....169
フォントの適用.....169
フォントサイズの選択.....169
文字飾りの適用.....170

カラー、シェードおよび不透明度の適用.....171
横比率または縦比率の適用.....171
ベースラインシフトの適用.....172
テキストストロークの適用.....172
複数の文字属性の適用.....173
段落設定の適用.....174
行揃えの制御.....174
インデントの制御.....175
行送りの制御.....176
前段落との間隔および次段落との間隔の制御.....177
列フローの制御.....177
タブの設定.....183
ウィドウ行およびオーファン行の制御.....184
テキストシェーディングの使用.....184
テキストシェーディングスタイルの作成と編集.....184
テキストシェーディングの適用.....188
書式のコピー／貼付け.....189
カーニングの制御.....189
手動カーニング.....190
自動カーニング.....190
ハイフネーション＆ジャスティフィケーションの制御.....190
例外ハイフンの指定.....193
例外ハイフンファイル.....193
任意ハイフンの使用.....202
トラッキングの制御.....202
手動トラッキング.....202
トラッキングテーブルの編集.....203
スタイルシートの使用.....203
段落スタイルシートの作成および編集.....203
文字スタイルシートの作成および編集.....206
スタイルシートの適用.....208
スタイルシートの追加.....209
条件付きスタイルの使用.....209
条件付きスタイルの作成.....211
条件付きスタイルの適用.....213
条件付きスタイルの解除.....214
条件付きスタイルマーカーの使用.....214
条件付きスタイルの編集.....216
箇条書きおよび番号付きリスト.....216
箇条書き記号スタイルの使用.....217
箇条書き自動番号スタイルの使用.....218
アウトラインスタイルの使用.....220
箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート.....222
テキストボックスのテキストの位置.....223
ベースライングリッドの使用.....223
垂直方向のテキストの位置揃え.....224
テキストとの間隔の指定.....224

フォント使用状況の制御.....225
テキストからボックスへの変換.....225
テキストの回り込みの使用.....225
アイテムの4隅にテキストを回り込ませる.....226
ラインおよびテキストパスにテキストを回り込ませる.....226
テキストボックスにテキストを回り込ませる.....227
テキストの画像への回り込み.....227
回り込みパスの微調整.....228
回り込みパスの編集.....229
テキストパスの使用.....229
ドロップキャップスの作成.....230
段落上下の罫線の作成.....230
アンカーボックスの使用.....231
テキスト内のボックスおよびラインへのアンカーの付加.....231
アンカーボックスおよびラインのカット、コピー、ペースト、および削除.....231
ボックスおよびラインのアンカー解除.....231
OpenTypeフォントの使用.....231
OpenTypeスタイルの適用.....232
合字の使用.....235
OpenType書式セットの使用.....236
字形パレットの使用.....239
特殊キャラクタの表示.....240
特殊文字の挿入.....240
スペースの挿入.....240
その他の特殊文字の挿入.....240
文字言語の指定.....240
未定義キャラクタの代替の使用.....241
フォントマッピングルールの使用.....241
デザイングリッドの使用.....242
デザイングリッドの理解.....242
デザイングリッドの基本.....246
グリッドスタイルの使用.....255
デザイングリッドの使用.....258
ぶら下がり文字の使用.....260
ぶら下がり文字クラスの作成.....262
ぶら下がり文字セットの作成.....263
ぶら下がり文字セットの適用.....264
Type Tricks.....264
分数の作成.....264
通貨の作成.....265
単語スペーストラッキング.....265
ラインチェック.....266
カスタムアンダーライン.....267
ハイパーリンク.....267
リンク先の作成.....268
アンカーの作成.....269
既存のリンク先を使用したハイパーリンクの作成.....270

ハイパーリンクの新規作成....270
ハイパーリンクパレットでのリンクの表示....270
ハイパーリンクのフォーマット....271
リンク先の編集と削除....271
アンカーの編集と削除....271
ハイパーリンクの編集と削除....271
ハイパーリンクパレットの使用へのナビゲーション....272

画像....273
画像の使用....273
画像の取り込み....273
画像の移動....274
画像のサイズ変更....274
画像の切り抜き....274
画像の回転と傾斜....274
画像へのカラーおよびシェードの適用....275
画像のフリップ....275
画像の一覧表示、状況確認、および更新....275
画像バックグラウンドカラーの指定....275
画像属性の保持....275
ラスター画像の編集....276
クリッピングパスの使用....282
クリッピングパスの作成....282
埋め込みクリッピングパスの使用....284
クリッピングパスの操作....284
クリッピングパスを使用した特殊効果の作成....284
アルファマスクの使用....285
PSD画像の使用....285
PSDファイルの準備....286
PSDレイヤーの使用....286
PSDチャンネルの使用....287
PSDパスの使用....288
PSD画像の印刷....288

クロス参照....289
クロス参照の挿入....289
クロス参照の同期....291

カラー、不透明度、およびドロップシャドウ....292
カラーの使用....292
カラーパレット....292
カラーダイアログボックス....293
カラーの作成....293
グラデーションの作成....294
カラーの編集....297
カラーの複製....297

色の削除.....297
色の選択ツールを使用してカラーを追加する.....297
別アーティクルやプロジェクトからのカラーの取り込み.....300
カラーの一括変換.....300
カラーとシェードの適用.....300
カラーおよびシェードをテキストに適用.....300
ラインへのカラーとシェードの適用.....301
透明度ブレンドモードの適用.....301
不透明度の使用.....306
不透明度の指定.....306
グループの不透明度の指定.....306
透明度のあるブレンドの作成.....307
カラーマネージメント.....307
ソースセットアップおよび出力セットアップ.....307
カラーマネージメントの紹介.....307
カラーエキスパートからのソースセットアップと出力セットアップの使用.....308
レガシーカラーマネージメント環境での作業.....309
画面上でのカラーのプルーフ（ソフトプルーフ）.....310
エキスパート向けカラーマネージメント.....310
ソースセットアップの作成.....311
出力セットアップの作成.....311
プロファイルの管理.....312
ドロップシャドウの使用.....313
ドロップシャドウの適用.....314
ドロップシャドウのカスタマイズ.....314
アイテムとのドロップシャドウの結合.....314

カスタムブリード.....316
カスタムブリードの使用.....316
ブリード限度でのクリップの使用.....317

アイテムスタイル.....318
アイテムスタイルパレットの使用.....318
アイテムスタイルの作成.....319
アイテムスタイルの使用状況の確認.....320

DejaVu（Windowsのみ）.....322

ドキュメントの構築.....323
自動ページ番号設定の使用.....323
自動テキストボックスの作成.....323
マスターページの使用.....324
マスターページの作成.....324
マスターページの適用.....328
マスターページの更新.....329

マスターページとレイアウトファミリー.....329
レイヤーの使用.....329
レイヤーの理解.....330
レイヤーの作成.....331
レイヤーの選択.....331
レイヤーの表示および非表示.....332
アイテムが存在するレイヤーの判断.....332
レイヤーの削除.....332
レイヤーオプションの変更.....333
別のレイヤーへのアイテムの移動.....334
レイヤー間でのアイテムのコピーとペースト.....334
レイヤーのスタック順の変更.....335
レイヤーおよびテキストの回り込み.....335
レイヤーの複製.....336
レイヤーの統合.....336
レイヤー上のアイテムのロック.....337
レイヤー付きマスターページの使用.....337
レイヤーを印刷しない.....337
PDFレイヤーの使用.....338
リストの使用.....338
リストの準備.....338
リストの作成.....339
別のドキュメントからのリストのインポート.....340
リストでのナビゲーション.....340
リストの作成.....340
リストの更新.....341
索引の使用.....341
索引マーカの色の指定.....341
索引の見出し語の作成.....342
クロス参照の作成.....343
索引見出し語の編集.....345
索引見出し語の削除.....345
索引で使用する約物の指定.....345
索引の作成.....346
最後の索引の編集.....347
ブックの使用.....348
ブックの作成.....349
チャプターの使用.....349
ページ番号の制御.....351
チャプターの同期.....352
チャプターの印刷.....353
ブックからPDFを生成する.....354
ブックの索引と目次の作成.....355
ライブラリの使用.....355
ライブラリの作成.....356
ライブラリアイテムの追加.....356
ライブラリアイテムの検索.....357

ライブラリアイテムの操作.....357
ラベルの使用.....357
ライブラリの保存.....358
ガイドパレット.....358
ガイドパレットの使用.....359
ガイドパレットメニュー.....360
ガイドパレットによるガイドの作成.....361
ガイドパレットによるグリッドの作成.....362
行と列の作成.....364
ブリードとセーフティガイドの作成.....365
サイズ変更機能.....367
クローナー機能.....369
イメージグリッド機能.....371
リンクスター機能.....373

出力.....375
印刷レイアウト.....375
画像パスの更新.....375
印刷ダイアログボックスの制御に関する設定.....375
印刷ダイアログボックス.....377
色分解の印刷.....382
カラーコンポジットの印刷.....383
レイアウトの書き出し.....384
EPS形式でのレイアウトの書き出し.....385
PDF形式でのレイアウトの書き出し.....385
PostScriptファイルの作成.....387
レイアウトを画像として書き出す.....388
Using Collect for Output.....388
出力スタイルの使用.....389
App Studioの出力スタイル.....390
HTML5出版物の出力スタイル.....392
トラップの使用.....393
平滑化の理解と製品の問題点.....394
PDF.....394
画像ボックスへのPDFファイルの取り込み.....394
Word Filter.....396
Script XTensionsソフトウェア.....398
ボックスツールサブメニュー.....398
グリッドサブメニュー.....399
イメージサブメニュー.....399
画像ボックスサブメニュー.....399
保存中サブメニュー.....400
特殊サブメニュー.....400
ストーリーサブメニュー.....400
テーブルサブメニュー.....401
組版サブメニュー.....401

グループ作業およびシングルソース.....402
共有コンテンツの使用.....402
コンテンツの共有および同期.....404
同期オプションの理解.....405
同期アイテムの配置.....406
同期コンテンツの配置.....406
共有コンテンツライブラリへのコンテンツの取り込み.....406
Composition Zonesの使用.....407
コンポジションゾーンの理解.....407
Composition Zonesアイテムの作成.....410
コンポジションゾーンアイテムの配置.....413
配置したComposition Zonesアイテムでの複数ページの管理.....413
Composition Zonesアイテムの属性の編集.....414
コンポジションゾーンアイテムから画像への変換.....415
コンポジションゾーンアイテムの同期の解除.....415
コンポジションレイアウトの編集：コンテンツ.....415
コンポジションレイアウトのコンテンツの編集.....415
コンポジションレイアウトの同期の解除.....416
コンポジションレイアウトの削除.....416

ノート.....417
ノートの作成.....417
ノートの使用.....418
ノートの開始と終了.....418
ノートの表示および非表示.....418
ノートの削除.....418
ノートおよびテキストの相互変換.....419
作成者、日付、名前、または色別のノートの表示.....419
ノートの移動とサイズ変更.....419
ノートの印刷.....419
PDFのノート.....419

変更履歴.....420
トラッキングの切り替え.....420
トラッキングされた変更内容の表示.....421
変更内容の同意および拒否.....422

ジョブジャケット.....423
ジョブジャケットの理解.....423
ジョブジャケットとは.....424
ジョブジャケットの構造.....424
ジョブジャケットのワークフロー例.....428
ジョブジャケットの使用.....429
基本モードと詳細設定モード.....429
ジョブジャケットファイルの作成.....430

ジョブチケットの使用.....434
ジョブチケットテンプレートの作成.....434
ジョブチケットへのレイアウト定義の追加：詳細設定モード.....439
プロジェクトへのジョブチケットテンプレートの適用.....440
プロジェクトへのレイアウト定義の適用.....443
ジョブチケットの書き出しと取り込み.....443
デフォルトのジョブジャケットファイル.....444
デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：ファイルメニュー.....444
デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：補助メニュー.....445
デフォルトジョブジャケットファイルの編集.....445
リソースの使用：詳細設定モード.....446
リソースへのアクセス：詳細設定モード.....446
リソースの設定：詳細設定モード.....447
リソースの場所の指定：詳細設定モード.....448
レイアウト仕様の使用.....449
レイアウトの仕様の作成：詳細設定モード.....449
レイアウトへのレイアウトの仕様の適用.....450
ルールおよびルールセットの使用.....452
ルールの作成：詳細設定モード.....453
ルールセットへのルールの追加：詳細設定モード.....455
レイアウトへのルールセットの適用.....456
レイアウトの評価.....458
ジョブジャケットのロック.....460
JDF出力での印刷.....462

多言語の使用.....463
文字言語の適用.....463
表示言語の変更.....464

XTensionsソフトウェア.....465
XTensionsモジュールの使用.....465
XTensionsモジュールのインストール.....465
XTensionsの有効化と無効化.....466
XTensionsセットの使用 （Windowのみ） 466

環境設定.....467
環境設定の理解.....467
環境設定が一致しませんという警告.....467
QuarkXPress環境設定への変更.....468
環境設定ファイルの内容.....468
アプリケーションの環境設定.....469
環境設定 - アプリケーション - 表示.....470
環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ.....470
環境設定 - アプリケーション - キーショートカット.....470
環境設定 - アプリケーション - 入力設定.....471
環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替.....472

環境設定 - アプリケーション - 取り消し....473
環境設定 - アプリケーション - 開く＆保存....473
環境設定 - アプリケーション - XTensionsマネジャー....474
環境設定 - アプリケーション - 共有....474
環境設定 - アプリケーション - フォント....474
環境設定 - アプリケーション - テキストのハイライト....475
環境設定 - アプリケーション - 東アジア....475
環境設定 - アプリケーション - ダイナミックガイドのカラー....475
環境設定 - アプリケーション - ファイルリスト....475
環境設定 - アプリケーション - デフォルトパス....476
環境設定 — アプリケーション — 索引....476
環境設定 - アプリケーション - ジョブジャケット....476
環境設定 - アプリケーション - ノート....477
環境設定 - アプリケーション - PDF....477
環境設定 - アプリケーション - 変更履歴....477
環境設定 - アプリケーション - スペルチェック....478
環境設定 - アプリケーション - テーブル....479
環境設定 - アプリケーション - 分数／通貨....479
プロジェクトの環境設定....479
環境設定 - プロジェクト - 一般....479
レイアウト環境設定....480
環境設定 - レイアウト - 一般....480
環境設定 - レイアウト - 単位....481
環境設定 - レイアウト - 段落....482
環境設定 - レイアウト - 文字設定....483
環境設定 - レイアウト - ツール....485
環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド....485
環境設定 - レイアウト - カラーマネジャー....486
環境設定 — レイアウト — レイヤー....487

法律上の注記....488

本書について

QuarkXPress®の資料を最初から最後まですべて読む必要はありません。本書を使用して簡単に必要な情報を調べながら、作業を進めてください。

想定される前提条件

本書では、ユーザーがコンピュータの操作に慣れていると同時に、下記の操作方法を理解していることを想定しています。

- アプリケーションの起動
- ファイルを開く、保存する、閉じる
- メニュー、ダイアログボックス、およびパレットの使用
- ネットワークで接続されたコンピュータ環境での作業
- マウス、キーボードコマンド、および修飾キーの使用

これらの操作に関する情報が必要な場合は、ご使用のコンピュータに付属のマニュアルや他のリソースを確認してください。

ヘルプが必要な場合の参照先

初めてQuarkXPressをご使用になる場合、またはある機能について調べる場合は、下記のリソースを参照してください。

- サードパーティの出版物
- DTPに関する一般的な出版物

たとえば、ファイルの保存、ファイルの移動、フォントのアクティブ化など、問題がシステムレベルの場合は、ご使用のコンピュータに付属されているマニュアルを参照してください。

表記規則

本書では、ユーザーが必要な情報をすばやく見つけることができるように、表記規則を使用して重要な情報を強調表示しています。

- ボールド体：ダイアログボックス、フィールド、およびその他のコントロールの名前はすべてボールド体で表記されています。例：「**OK**をクリックします。」
- 注釈：機能の説明では、括弧内の注釈でそれらの機能の場所が分かるようになっています。例：「**検索／置換**ダイアログボックス（**編集**メニュー）でテキストを置換できます。」
- 矢印：矢印（**>**）は機能へアクセスするためのメニューパスを示すもので、頻繁に使用されます。例：「**編集 > スタイルシート**を選択して、**スタイルシート**ダイアログボックスを表示します。」
- アイコン：多くのツールやボタンは、ツールチップで表示される名前で説明されますが、ユーザーが見つけやすいようにアイコンで示される場合があります。例：「**メジャー**パレットの≡ボタンをクリックして、テキストをセンター揃えにします。」
- クロスプラットフォームの問題：このアプリケーションは、異なるオペレーティングシステム間での整合性があります。ただし、ユーザーインターフェイス規則やその他の要因により、アプリケーションのラベル、ボタン、キーの組み合わせなどについて、Mac OS®とWindows®間で違いが生じる場合があります。そのような場合は、Mac OSとWindowsの両方のバージョンが記載されています。両バージョンはスラッシュで区切られ、Mac OSバージョンが先に記載されます。たとえば、Mac OSバージョンのボタンの名前が**選択**で、Windowsバージョンの名前が**参照**の場合、説明は「**選択／参照**をクリックします」となります。プラットフォーム間の違いがより複雑な場合は、ノートや括弧を使用して説明されます。

技術情報

Quarkは、出版者が組版、カラー、グループ作業を管理できるように、Mac OS XおよびWindows向けのQuarkXPressを開発しました。QuarkXPressは、独自の組版管理に加えて、TrueType®、OpenType®、およびUnicode®のサポートなどの、総合的なフォントサポートを提供します。設計者は、PANTONE®（PANTONE MATCHING SYSTEM®）、Hexachrome®、Trumatch®、Focoltone®、DIC®、およびTOYOを使用して、ページレイアウトに色を追加できます。

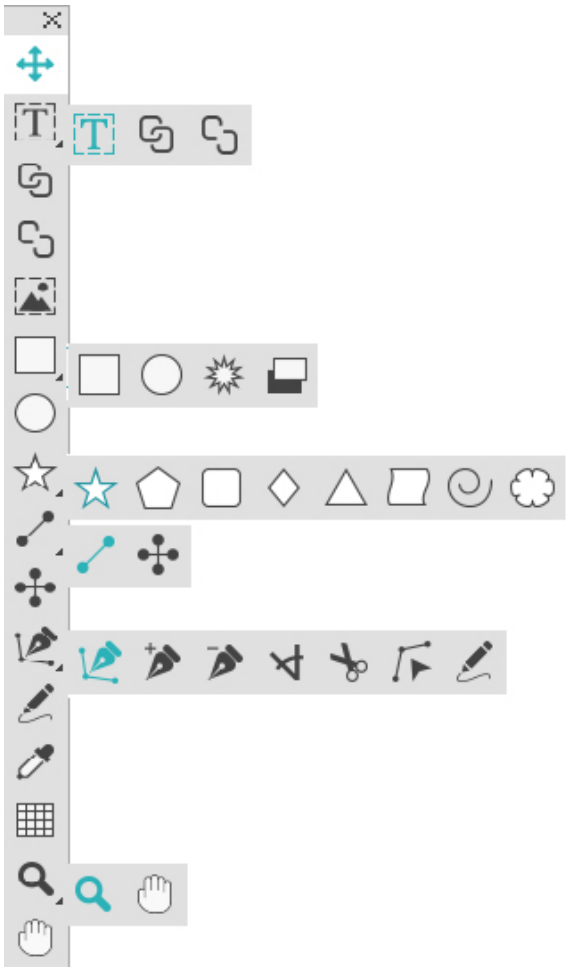
複数のファイルフォーマットでコンテンツの取り込みや書き出しを実行したり、デザインコンポーネントの他ユーザーとの共有を可能にするQuarkXPressは、出版環境におけるグループ作業のハブとして機能します。Microsoft® Word、Microsoft Excel®、Adobe® Illustrator®、Adobe Photoshop®などのアプリケーションからファイルを取り込むことができます。QuarkXPressは外部アプリケーションからのコンテンツのコピーやペーストをサポートし、取り込まれたベクトルの画像データをネイティヴ・オブジェクトへ変換できます。コンテンツをPostScript®またはAdobe Acrobat® Reader®用のPDF形式で出力できます。QuarkXPressでは、デジタル出力をePub、Kindleフォーマット、およびHTML5出版物へ書き出すことができます。ePubファイルは、主なすべてのePubリーダー、およびGoogle Chromeと互換性があります。KindleファイルはKindleデバイスと互換性があります。また、Internet Explorer®、Safari®、Google Chrome®、Firefox®を使用して表示可能なファイルを書き出すこともできます。Job Jackets®やComposition Zones®などの機能を使用すると、複数のユーザーが同じ出版物に対して同時に作業しているときでも、仕様を共有して一貫性のある出版物を作成できます。

QuarkXPressのソフトウェアアーキテクチャにより、ユーザーやソフトウェア開発者が使用できる出版機能が強化されます。XTensions®のソフトウェア技術を使用して、サードパーティの開発者はQuarkXPressのカスタムモジュールを作成できます。QuarkXTensions® （Quark® XTensionsソフトウェア）も、特定の出版ニーズに合わせたモジュール単位のアプローチを提供します。さらに、Apple®のスクリプト記述言語であるAppleScript®を使用してスクリプトを記述できれば、多くのQuarkXPressアクティビティを自動化できます。

ユーザーインターフェイス

QuarkXPressユーザーインターフェイスを見ると、使い慣れた、用途が一目で分かるコマンドが多いことが分かります。QuarkXPressのメニューとダイアログボックスに慣れると、キーボードコマンドとパレットを使用して、メニューからもアクセスできる機能に簡単にアクセスできるようになります。

ツール



ツールパレット

ツールパレットには、以下のコントロールがあります。

- **アイテム**ツールは、アイテム（ボックス、ライン、テキストパス、グループ）の選択、移動、サイズ変更、形状変更に使用します。**アイテム**ツールが選択されていない場合、Command／Ctrlキーを押して、一時的に**アイテム**ツールへアクセスできます。
- **テキストコンテンツ**ツールは、テキストボックスを描画し、ボックス内のテキストを編集するために使用します。
- **テキスト連結**ツールは、テキストボックスのリンクに使用します。テキストをそれぞれのボックス内に保持するには、このツールを使用するときにAlt／Optionキーを押したままにします。
- **テキスト連結解除**ツールは、テキストボックスのリンク解除に使用します。テキストをそれぞれのボックス内に保持するには、このツールを使用するときにAlt／Optionキーを押したままにします。ボックスをテキストごとテキストチェーンから外に移動するには、このツールを使用するときにShift+Optionキーを押したままにします。
- **画像コンテンツ**ツールは、画像ボックスを描画し、ボックス内の画像を編集するために使用します。
- **方形ボックス**ツールは、方形ボックスの作成に使用します。正方形ボックスを描画するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- **星型**ツールは、星型ボックスの作成に使用します。
- **コンポジションゾーン**ツールは、コンポジションゾーンボックスの作成に使用します。
- **楕円形ボックス**ツールは、楕円形ボックスの作成に使用します。正円形ボックスを作成するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- **星形**ツール☆は、星形の作成に使用します。
- **多角形**ツールは、多角形の作成に使用します。
- **角丸形方形**ツールは、角丸形の方形の作成に使用します。
- **ダイアモンド**ツール◇は、ダイアモンド形の作成に使用します。
- **三角形**ツール△は、三角形の作成に使用します。
- **波形**ツールは、波形の作成に使用します。
- **渦巻き**ツールは、渦巻き形の作成に使用します。
- **雲形**ツールは、雲形の作成に使用します。
- **ライン**ツールは、任意の角度を持つ斜めの直線の作成に使用します。ライン角度を45度に制限するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- **直角ライン**ツールは、直角ラインの作成に使用します。
- **ベジエペン**ツールは、ベジエラインおよびボックスの作成に使用します。ライン角度を45度に制限するには、Shiftキーを押したまま描画してください。
- **ポイント追加**ツールは、任意の種類のパスにポイントを追加するために使用します。コンテンツボックスにポイントを追加すると、コンテンツボックスは自動的にベジエアイテムに変更されます。

- **ポイント削除**ツールは、任意の種類のパスからポイントを削除するために使用します。
- **ポイント変換**ツールは、コーナーポイントを曲線ポイントへ、曲線ポイントをコーナーポイントへ自動的に変換するために使用します。クリックしてドラッグすることによって、ポイントの位置、曲線セグメントの曲線、直線セグメントの位置を変更します。このツールを選択して、方形ボックスや直線をクリックして、アイテムをベジエボックスやベジエラインに変換します。
- **はさみ**ツールは、アイテムを別々のパスへ分割するために使用します。
- **ポイント選択**ツールは、曲線やポイントを選択し、移動または削除するために使用します。複数のポイントを選択するには、Shiftキーを押しながらクリックします。シンメトリカルポイントにするには、Option／Altキーを押しながらクリックします。
- **フリーハンド描画**ツールは、任意の形状のラインまたはボックスを描画するために使用します。フリーハンドボックスを閉じなければ、ラインは保持されます。フリーハンドボックスを自動的に閉じるには、Option／Altキーを押します。
- **アイテムの書式のコピー／貼付け**ツールは、1つのアイテムに適用されているすべての属性をコピーし、他の任意のアイテムに適用するために使用します。
- **テーブル**ツールは、テーブルの作成に使用します。
- **ズーム**ツールは、ドキュメントの表示を拡大または縮小するために使用します。
- **パン**ツールは、アクティブなレイアウトの位置を変更するために使用します。

➡ **方形ボックス**ツールを使用してボックスを描画するとき、キーコマンドを使用してコンテンツの種類を宣言できます。描画するときにRを押すと画像コンテンツが、Tを押すとテキストコンテンツが宣言されます。既存のボックスについてコンテンツの種類を変更するには、ボックスを右クリックし、コンテンツでテキスト、画像、なしのいずれかを選択します。

➡ ベジエボックスとラインの詳細は、「*ベジエボックスの作成*」および「*ベジエラインの作成*」を参照してください。

➡ ペンツールを選択しているときにレイアウトをパンするには、Shift+スペースを押して、クリックアンドドラッグします。

➡ ラインまたはパスにテキストを追加するには、**テキストコンテンツ**ツールを選択し、ラインまたはパスをダブルクリックします。

➡ コンポジションゾーンの詳細は、「*Composition Zonesアイテムの作成*」を参照してください。

➡ ユーザーは、**ウィンドウ**メニューの**ツール**パレットを垂直方向にも水平方向にも表示できます。パレットを水平方向に表示するには、**Windows**ではタイトルバーをCtrl+ダブルクリックし、**Mac OS X**ではツールパレットを上端にドッキングします。

ツールキーコマンド

アクティブなテキストボックスまたはテキストパスがない場合、下記のキーコマンドを使用して、ツールをすばやく切り替えられます。

ツール	Windows	Mac OS X
アイテムツール	V	V
テキストコンテンツツール	T	T
テキスト連結ツール	T	N
テキスト連結解除ツール	T	N
画像コンテンツツール	R	R
方形ボックスツール	B	B
楕円形ボックスツール	B	B
星形ツール	B	B
シェイプメーカーツール	M	M
コンポジションゾーンツール	L	B
ラインツール	P	L
直角ラインツール	P	L
ベジエペンツール	P	P
ポイント追加ツール	P	P
ポイント削除ツール	P	P
ポイント変換ツール	P	P
はさみツール	P	P
ポイント選択ツール	P	P
フリーハンド描画ツール	P	P
アイテムの書式のコピー／貼付けツール	I	I
テーブルツール	G	G
ズームツール	Z	Z
パンツール	x	x

はさみツール

はさみツールを使用すると、ボックスのアウトラインをカットしてラインに変換するか、ラインまたはテキストパスを2つにカットできます。

はさみツールは、QuarkXPressの**ツール**パレットに表示されます。**はさみ**ツールを使用するには、下記の手順に従ってください。

1 **はさみ**ツールを選択します。

- 画像ボックスをカットすると、ボックスはベジエラインに変換されます。その結果、カット後にボックスのコンテンツは維持されません。
- テキストボックスをカットすると、ボックスはテキストパスに変換されます。
- テキストパスをカットすると、パスは2つのリンクされたパスに変換されます。

2 **ポイント選択**ツールを選択し、ポイントをクリックアンドドラッグして調整します。

星形ツール

星形ツールを使用すると、すばやく簡単に星形のボックスを作成できます。

星形ツールを使用して星形の画像ボックスを作成する方法は2つあります。

1 **星形**ツールを選択し、クリックアンドドラッグします。

2 星型ボックスを作成するとき特定の属性を定義するには、**星形**ツールを選択してから、星形ボックスを作成する場所へ十字ポインタを移動し、1回クリックします。**星形**ダイアログボックスが表示されたら、次のフィールドに値を入力して**OK**をクリックします。

- **星形の幅**
- **星形の高さ**
- **尖端の数**
- **尖端の高さ**：尖端の先から尖端のベースまでの任意の距離をパーセントで入力します。
- **尖端のランダム配置**：0から100の値を入力します。0はランダムが適用されず、100は、フルランダムが適用されます。

シェイプメーカーツール

次のツールを使用して、各種の形状をすばやく簡単に作成できます。

- **星形**ツール
- **多角形**ツール
- **角丸形方形**ツール
- **ダイアモンド**ツール
- **三角形**ツール
- **波形**ツール
- **渦巻き**ツール
- **雲形**ツール

➡ mキーを押すと、それぞれの形状ツールを順に切り替えできます。

また、**補助 > シェイプメーカー**を選択しても、シェイプメーカーツールにアクセスできます。「*シェイプメーカー*」を参照してください。

星形ツールの使用

星形の形状を作成する方法は2つあります。

1 **星形**ツール☆を選択し、星形を作成する場所に十字ポインタ┼を移動して、クリックアンドドラッグします。

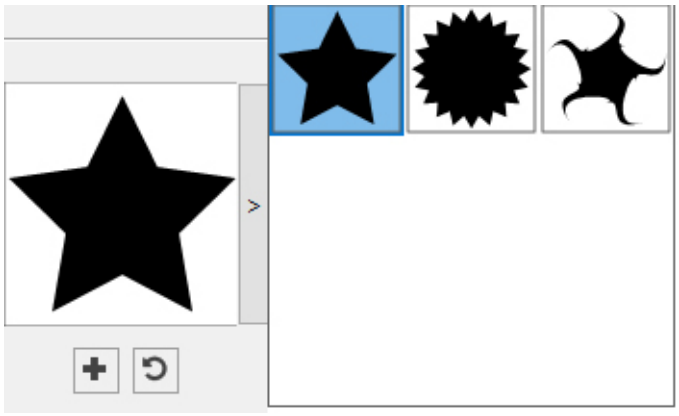
2 **星形**ツール☆を選択し、星形を作成する場所に十字ポインタ┼を移動して、1回クリックします。**星形の作成**ダイアログボックスが表示されます。



次のフィールドに値を入力します。

- **幅**
- **高さ**
- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

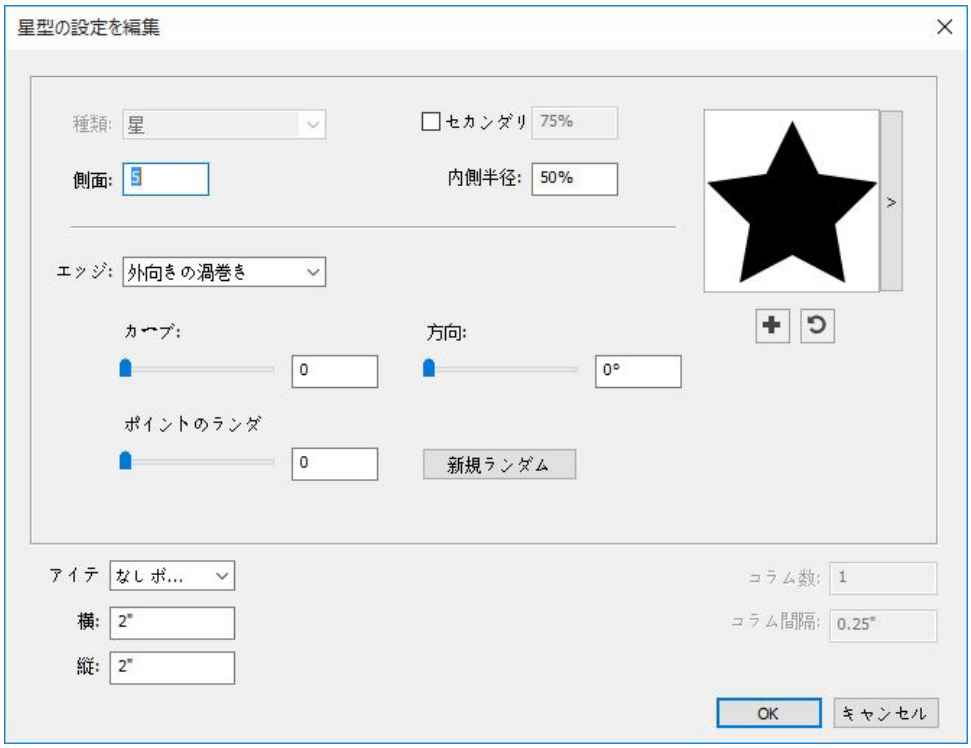
デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



作成をクリックします。

デフォルトの星形の設定

デフォルトの星形の設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**星形**ツールをダブルクリックします。**星形の設定の編集**ダイアログが表示されます。

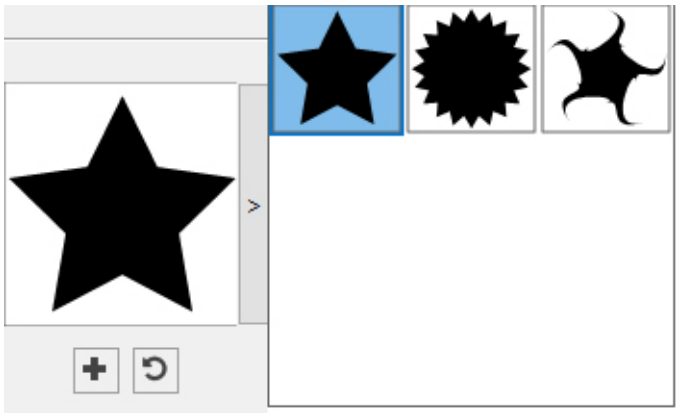


このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

- **セカンダリ**をオンにすると、追加のセカンダリ側面／ポイントが追加されます。これにより、星形の側面間に異なる角度／形状を追加できます。
- **側面**：星形の側面（ポイント）の数を指定します。
- **内側半径**：星形の各ポイントの内側半径を指定します。
- **エッジ**：星形のエッジの形状を指定します（**フラット**、**逆角丸**、**コンベックス**、**外向きの渦巻き**、**内向きの渦巻き**、**反転渦巻き**、**二重渦巻き**）。**フラット**以外のオプションを選択した場合は、**カーブ**コントロールでエッジのカーブを指定できます。いずれかの**渦巻き**のオプションを選択した場合は、**方向**コントロールで渦巻きの方向を指定できます。
- **ポイントのランダム化**：図形のランダムの度合いを、0（なし）から100（最大）の間で制御できます。
- **新規ランダム**：図形に特定のランダムを適用します。
- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



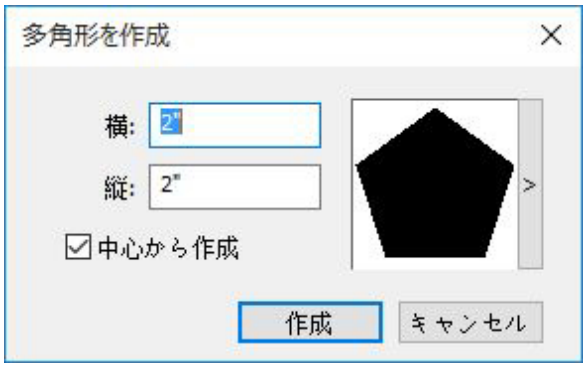
定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

多角形ツールの使用

多角形の形状を作成する方法は2つあります。

1 **多角形**ツールを選択し、多角形を作成する場所に十字ポインタを移動して、クリックアンドドラッグします。

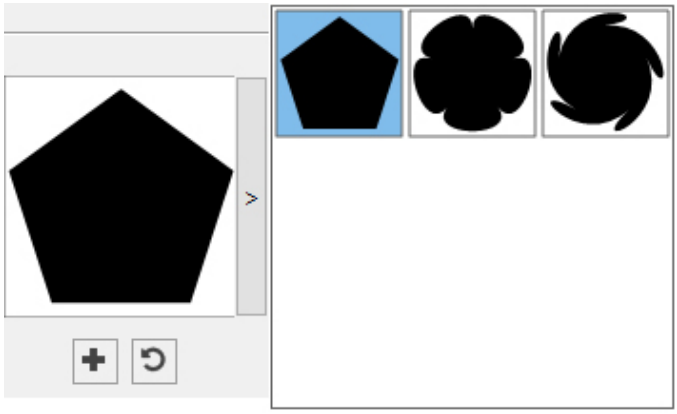
2 **多角形**ツールを選択し、多角形を作成する場所に十字ポインタを移動して、1回クリックします。**多角形の作成**ダイアログボックスが表示されます。



下記のフィールドに値を入力します。

- **幅**
- **高さ**
- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

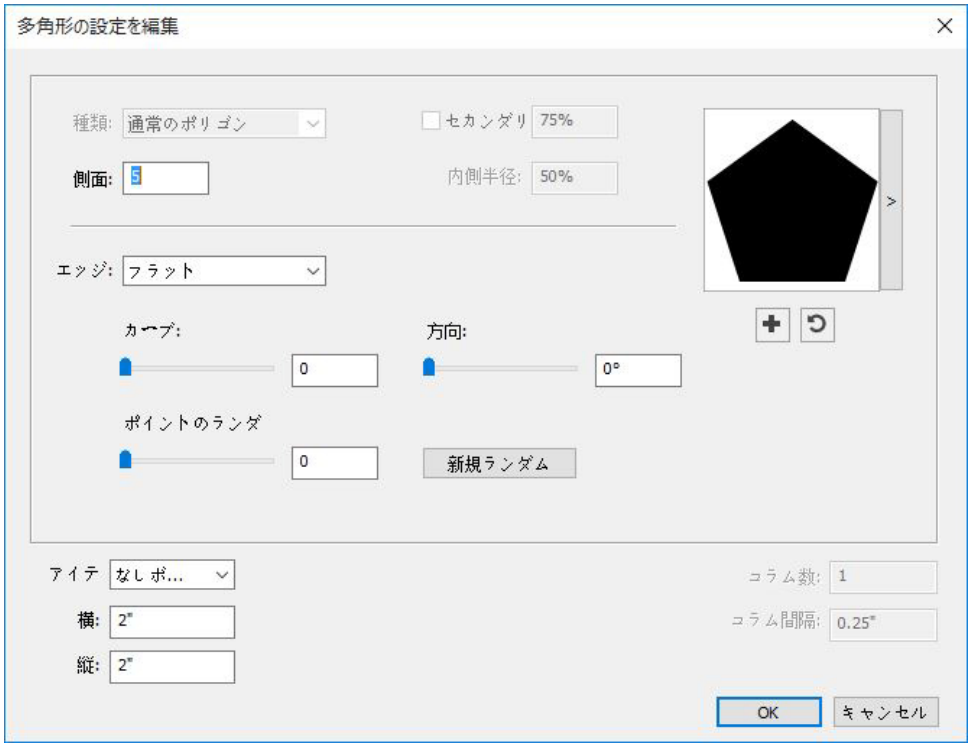
デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



作成をクリックします。

デフォルトの多角形の設定

デフォルトの多角形の設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**多角形**ツールをダブルクリックします。**多角形の設定の編集**ダイアログが表示されます。



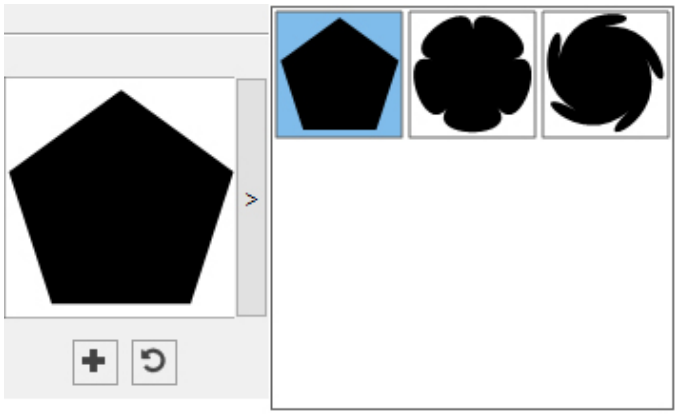
このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

- **側面**：多角形の側面の数を指定できます。
- **エッジ**：ボックスのエッジをフラットにするかカーブさせるかを制御できます。**フラット**以外のオプションを選択した場合は、**カーブ**コントロールで側面のカーブを指定できます。いずれかの**渦巻き**のオプションを選択した場合は、**方向**コントロールで渦巻きの方向を指定できます。
- **ポイントのランダム化**：図形のランダムの度合いを、0（なし）から100（最大）の間で制御できます。

- **新規ランダム**：図形に特定のランダムを適用します。
- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



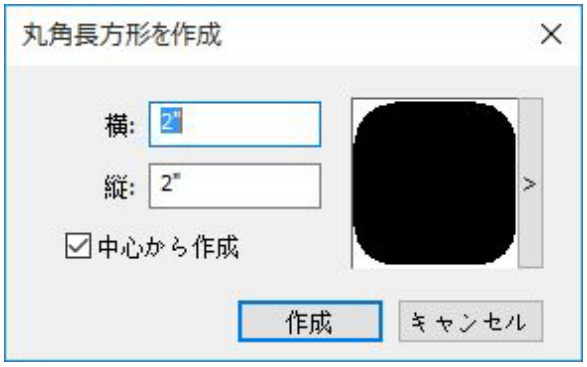
➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

角丸形方形ツールの使用

角丸形方形の形状を作成する方法は2つあります。

1 **角丸形方形**ツールを選択し、方形を作成する場所に十字ポインタを移動して、クリックアンドドラッグします。

2 **角丸型方形**ツールを選択し、方形を作成する場所に十字ポインタを移動して、1回クリックします。**角丸形方形の作成**ダイアログボックスが表示されます。

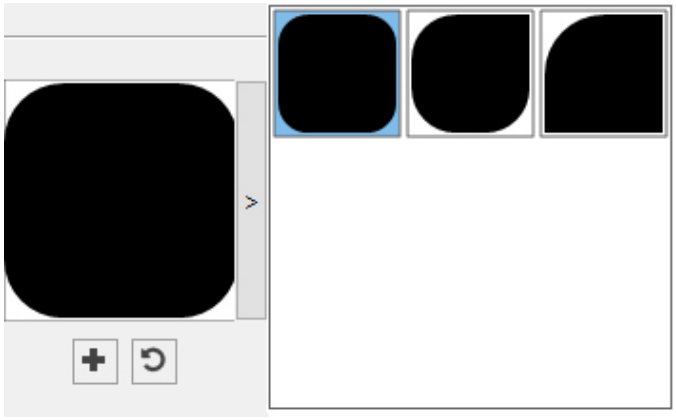


下記のフィールドに値を入力します。

- **幅**
- **高さ**

- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

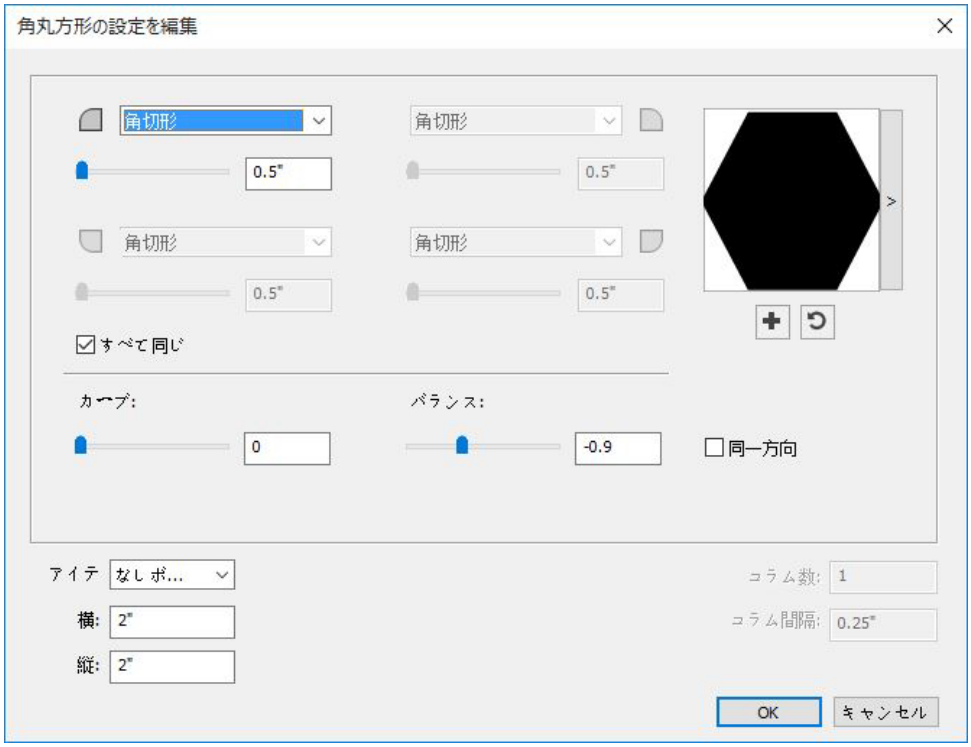
デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



作成をクリックします。

デフォルトの角丸形方形の設定

デフォルトの角丸形方形の設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**角丸形方形**ツールをダブルクリックします。**角丸形方形の設定の編集**ダイアログが表示されます。



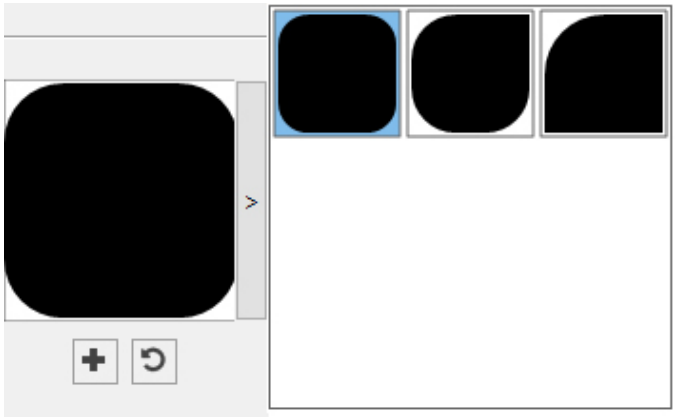
このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

- **すべて同じ**をオンにすると、単一のコントロールの組により、形状の4つの角をすべて設定できます。ボックスの角を別々に設定するには、**すべて同じ**をオフにします。

- ドロップダウンメニューを使用して角の種類（**標準**、**丸形**、**角切形**、**逆角丸**、**突起**、**開始位置**）と、直径（直径を含むオプションの場合）を指定できます。
- **カーブ**：カーブを含んでいるオプションを選択した場合は、角のカーブを制御できます。
- **バランス**：一部のオプションでは、角をボックスの側面の方向に傾けるか、上方向に傾けるかを制御できます。
- **同一方向**：一部のオプションでは、ボックスの角をボックスの中央と揃えるかどうかを制御できます。
- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

ダイアモンドツールの使用

ダイアモンド形状を作成する方法は2つあります。

1 **ダイアモンド**ツールを選択し、ダイアモンド形を作成する場所に十字ポインタを移動して、クリックアンドドラッグします。

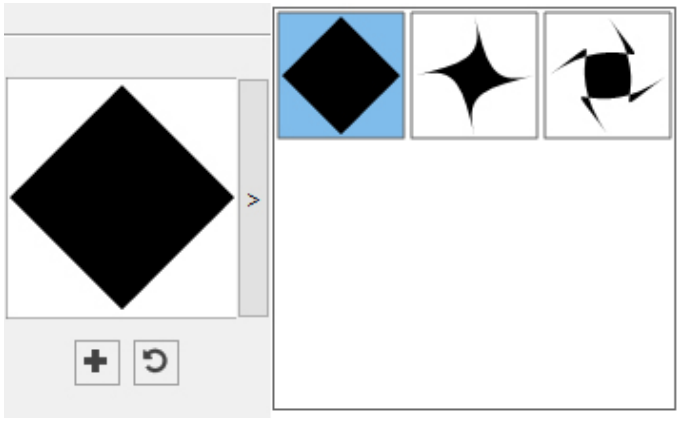
2 **ダイアモンド**ツールを選択し、ダイアモンド形を作成する場所に十字ポインタを移動して、1回クリックします。**ダイアモンドの作成**ダイアログボックスが表示されます。



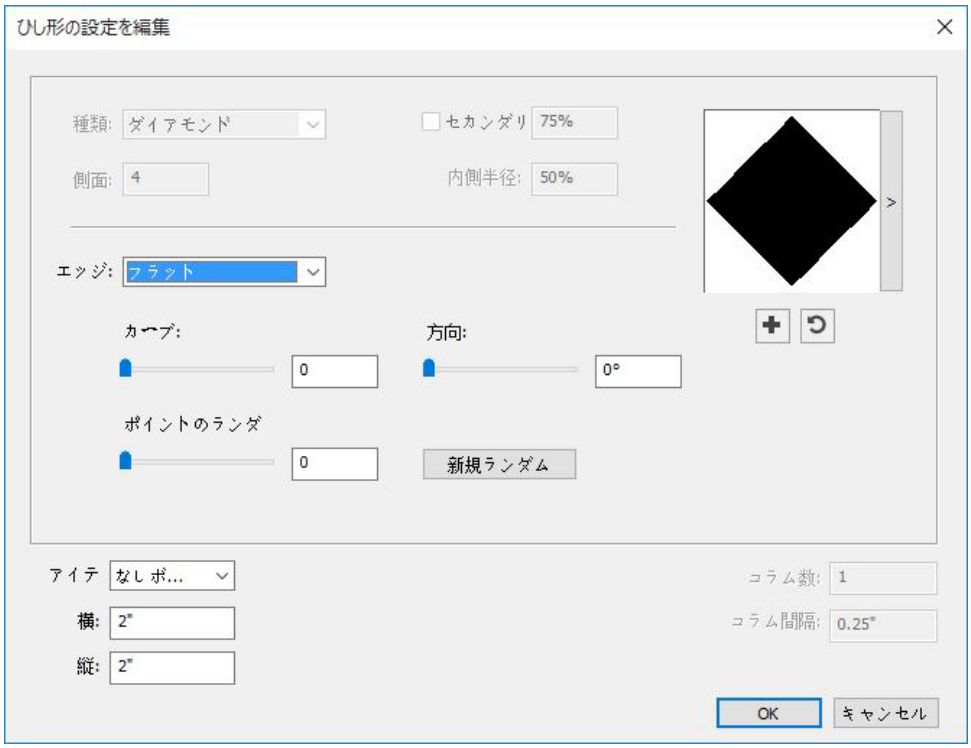
下記のフィールドに値を入力します。

- **幅**
- **高さ**
- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



デフォルトのダイアモンドの設定
デフォルトのダイアモンドの設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**ダイアモンド**ツールをダブルクリックします。**ダイアモンドの設定の編集**ダイアログが表示されます。

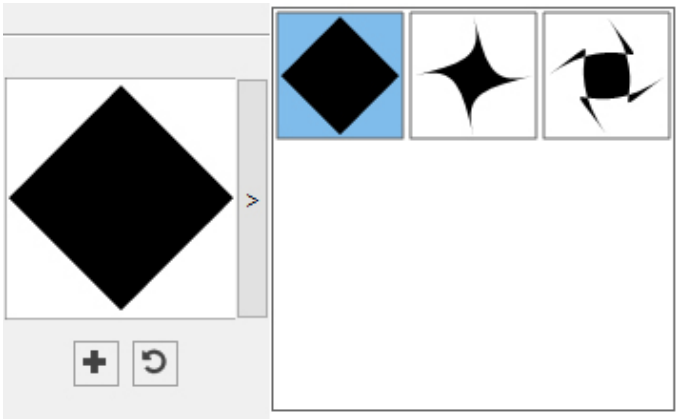


このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

- **エッジ**：ダイアモンドのエッジの形状を指定します（**フラット**、**逆角丸**、**コンベックス**、**外向きの渦巻き**、**内向きの渦巻き**、**反転渦巻き**、**二重渦巻き**）。**フラット**以外のオプションを選択した場合は、**カーブ**コントロールでエッジのカーブを指定できます。いずれかの**渦巻き**のオプションを選択した場合は、**方向**コントロールで渦巻きの方向を指定できます。
- **ポイントのランダム化**：図形のランダムの度合いを、0（なし）から100（最大）の間で制御できます。
- **新規ランダム**：図形に特定のランダムを適用します。
- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



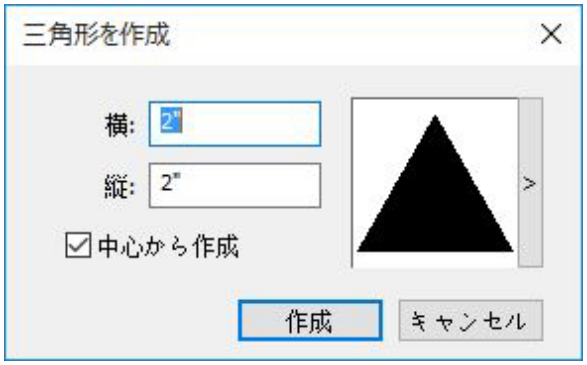
定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

三角形ツールの使用

三角形の形状を作成する方法は2つあります。

1 **三角形**ツール△を選択し、三角形を作成する場所に十字ポインタ┼を移動して、クリックアンドドラッグします。

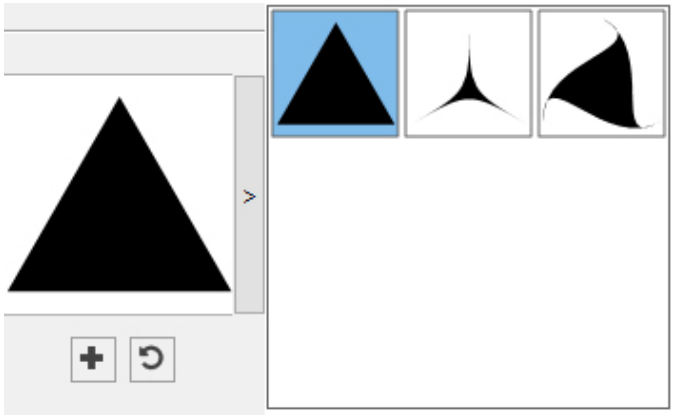
2 **三角形**ツール△を選択し、三角形を作成する場所に十字ポインタ┼を移動して、1回クリックします。**三角形の作成**ダイアログボックスが表示されます。



次のフィールドに値を入力します。

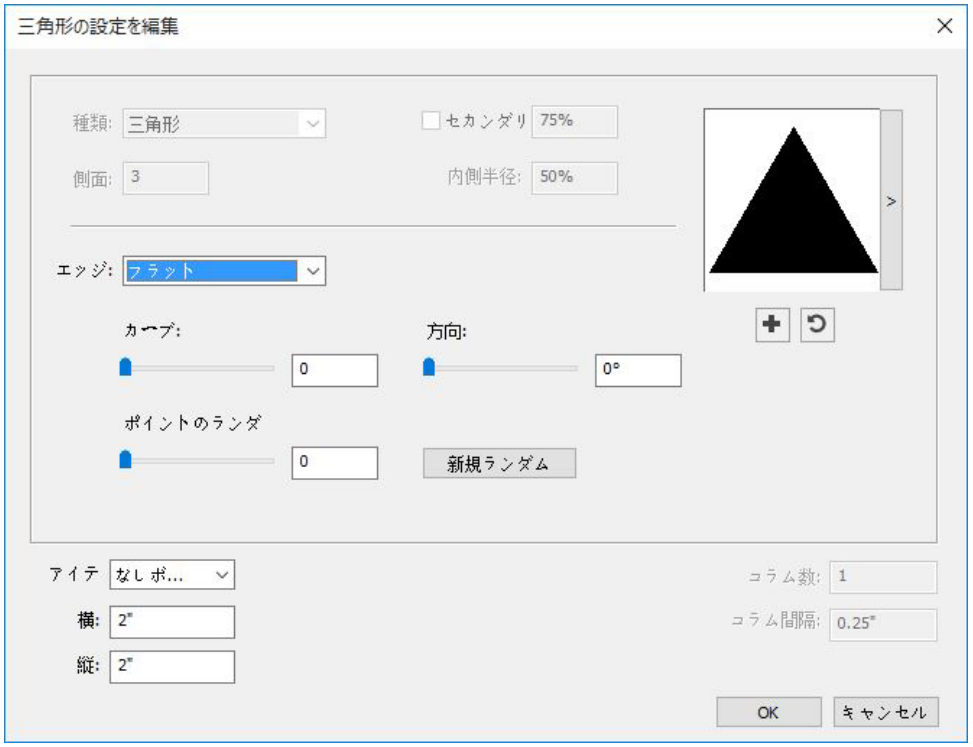
- **幅**
- **高さ**
- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



デフォルトの三角形の設定

デフォルトの三角形の設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**三角形**ツールをダブルクリックします。**三角形の設定の編集**ダイアログが表示されます。



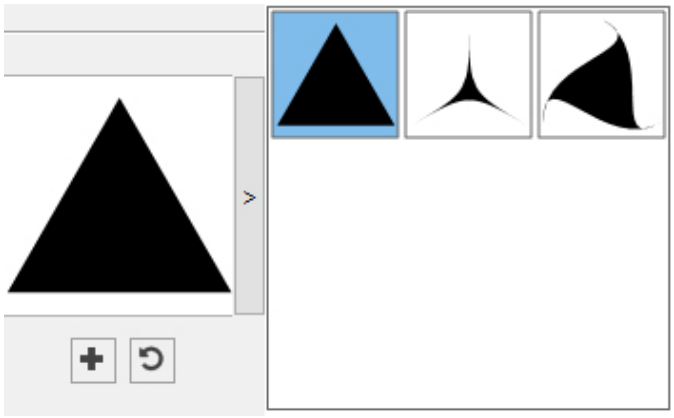
このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

- **エッジ**：三角形のエッジの形状を指定します（**フラット**、**逆角丸**、**コンベックス**、**外向きの渦巻き**、**内向きの渦巻き**、**反転渦巻き**、**二重渦巻き**）。**フラット**以外のオプションを選択した場合は、**カーブ**コントロールで側面のカーブを指定できます。いずれかの**渦巻き**のオプションを選択した場合は、**方向**コントロールで渦巻きの方向を指定できます。
- **ポイントのランダム化**：図形のランダムの度合いを、0（なし）から100（最大）の間で制御できます。
- **新規ランダム**：図形に特定のランダムを適用します。

- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



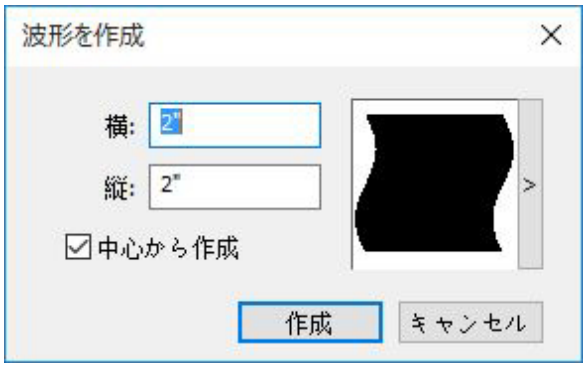
➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

波形ツールの使用

波形の形状を作成する方法は2つあります。

1 **波形**ツールを選択し、波形を作成する場所に十字ポインタを移動して、クリックアンドドラッグします。

2 **波形**ツールを選択し、波形を作成する場所に十字ポインタを移動して、1回クリックします。**波形の作成**ダイアログボックスが表示されます。

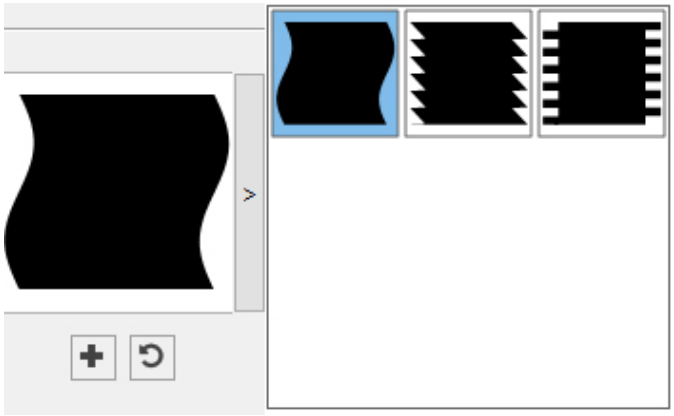


次のフィールドに値を入力します。

- **幅**
- **高さ**

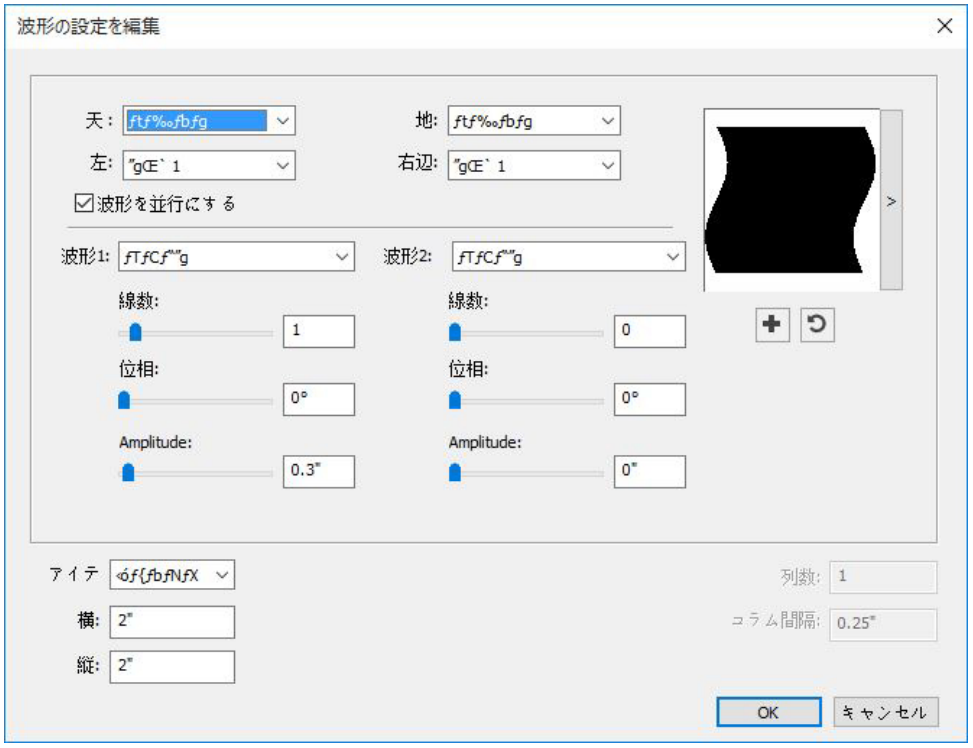
- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



デフォルトの波形の設定

デフォルトの波形の設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**波形**ツールをダブルクリックします。**波形の設定の編集**ダイアログが表示されます。



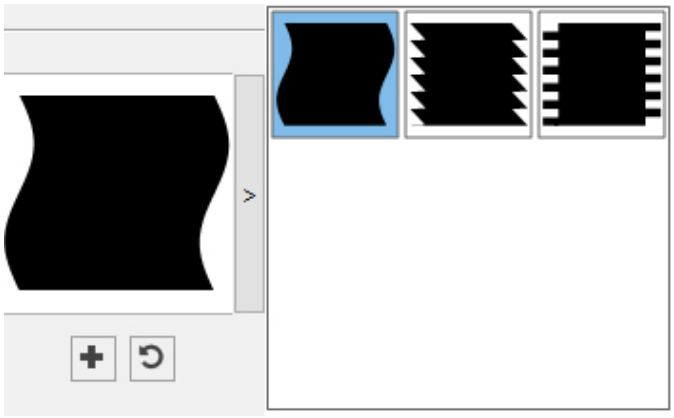
このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

- **上**、**左**、**下**、**右**：これらのコントロールで、ボックスの4つの側面を設定できます。**波形1**、**波形2**、または**フラット**を選択できます。
- **波形を並行にする**：ボックスのどちらか一方の側面の波形を、もう一方と並行に維持します。

- **波形1**領域と**波形2**領域のコントロールで、使用する波形の種類、波形の周期、波形の位相（出発点）、波形の振幅（深度）を選択できます。
- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

渦巻きツールの使用

渦巻き形状を作成する方法は2つあります。

1 **渦巻き**ツールを選択し、渦巻きを作成する場所に十字ポインタを移動して、クリックアンドドラッグします。

2 **渦巻き**ツールを選択し、渦巻きを作成する場所に十字ポインタを移動して、1回クリックします。**渦巻きの作成**ダイアログボックスが表示されます。

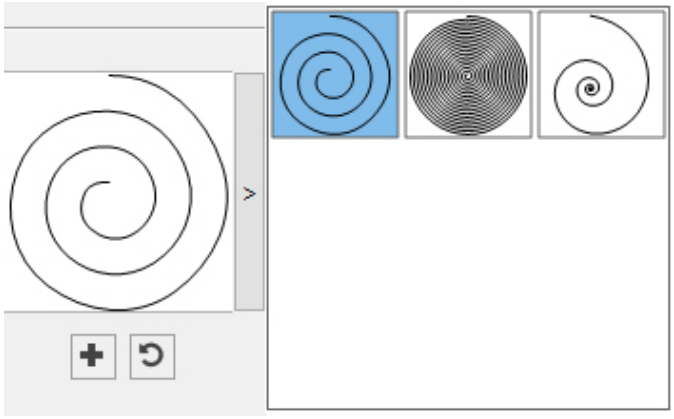


下記のフィールドに値を入力します。

- **幅**

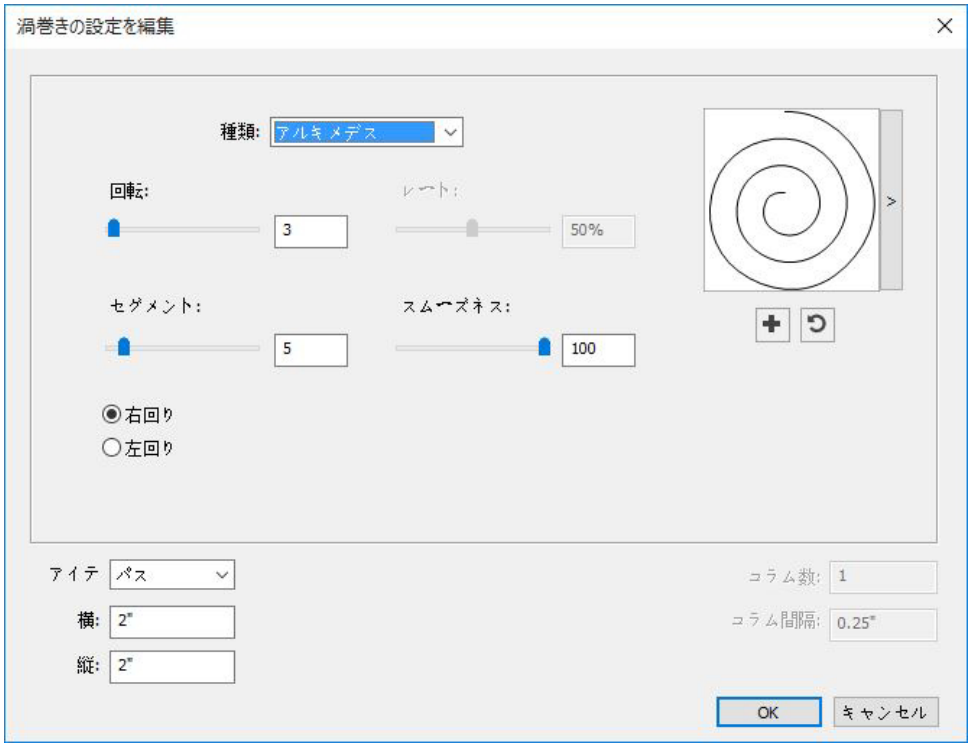
- **高さ**
- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



デフォルトの渦巻きの設定

デフォルトの渦巻きの設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**渦巻き**ツールをダブルクリックします。**渦巻きの設定の編集**ダイアログが表示されます。



このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

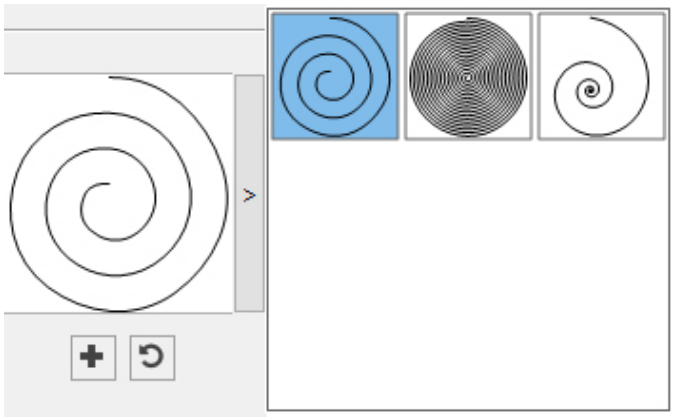
- **種類**：ドロップダウンメニューで、作成する渦巻きの種類を選択します。
  - **アルキメデス**：均等な間隔の円形の渦巻き。

- **黄金渦巻き**：黄金比で作成された渦巻き。
- **カスタム**：**回転**フィールドが利用可能になります。

- **回転**：渦巻きの回転数を制御できます。
- **レート**：渦巻きの幅を増やす速さを制御できます。
- **セグメント**：渦巻きの円形で、回転ごとにいくつのセグメントを指定可能にするかを制御できます。
- **スムーズネス**：渦巻きのなめらかさを制御できます。**セグメント**や**スムーズネス**の値を小さくすると、よりハードエッジな形状にできます。
- **右回り**と**左回り**：渦巻きの方向を制御できます。
- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



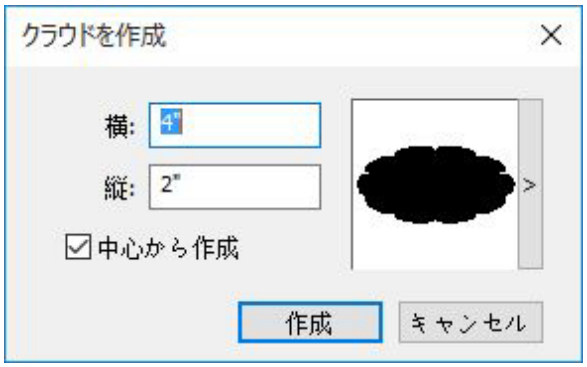
➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

雲形ツールの使用

雲形の形状を作成する方法は2つあります。

1 **雲形**ツールを選択し、雲形を作成する場所に十字ポインタを移動して、クリックアンドドラッグします。

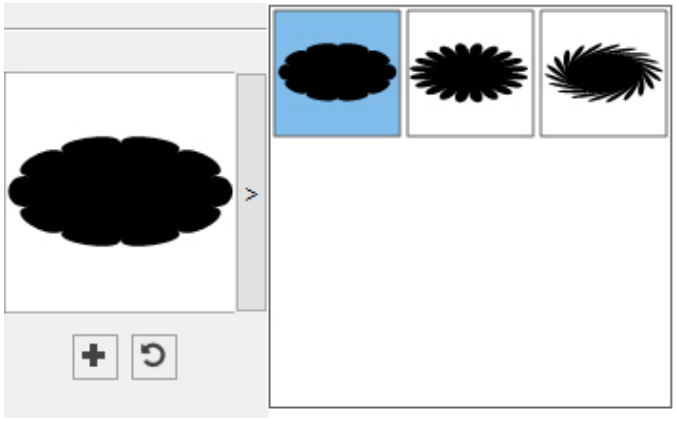
2 **雲形**ツールを選択し、雲形を作成する場所に十字ポインタを移動して、1回クリックします。**雲形の作成**ダイアログボックスが表示されます。



下記のフィールドに値を入力します。

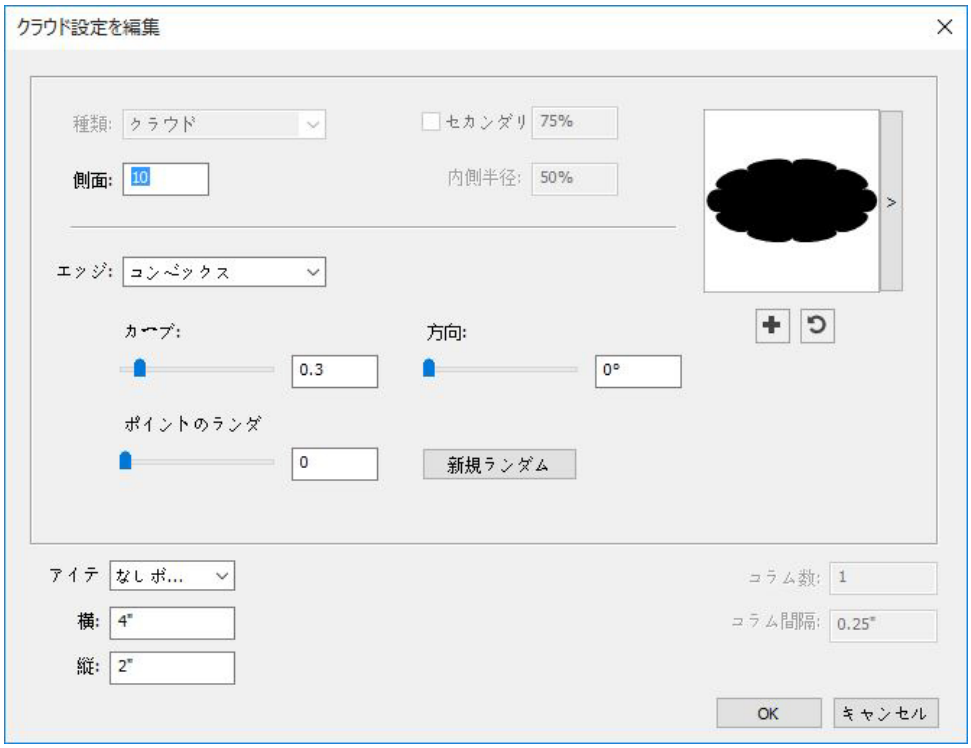
- **幅**
- **高さ**
- **センターから作成**を選択すると、十字ポインタを置いた場所が形状のセンターに指定されます。

デフォルト属性を適用するか、形状プレビューの横にある矢印をクリックし、定義済みの形状を選択できます。



デフォルトの雲形の設定

デフォルトの雲形の設定は、このツールを使用するとき自動的に適用されます。この設定を編集するには、**雲形**ツールをダブルクリックします。**雲形の設定の編集**ダイアログが表示されます。

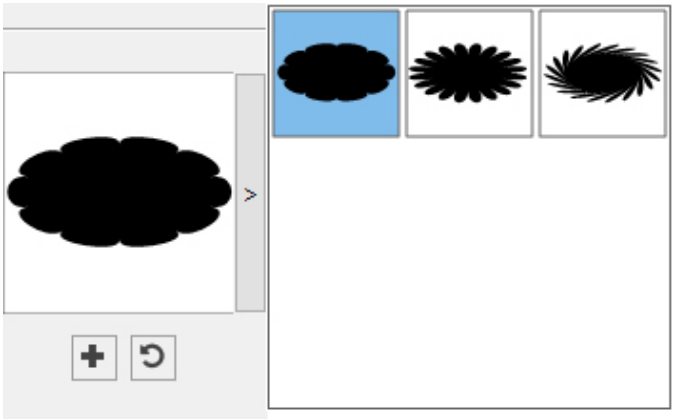


このツールを使用するとき適用されるデフォルト設定を指定します。

- **側面**：雲形の側面の数を指定します。
- **エッジ**：雲形のエッジの形状を指定します（**フラット**、**逆角丸**、**コンベックス**、**外向きの渦巻き**、**内向きの渦巻き**、**反転渦巻き**、**二重渦巻き**）。**フラット**以外のオプションを選択した場合は、**カーブ**コントロールでエッジのカーブを指定できます。いずれかの**渦巻き**のオプションを選択した場合は、**方向**コントロールで渦巻きの方向を指定できます。
- **ポイントのランダム化**：図形のランダムの度合いを、0（なし）から100（最大）の間で制御できます。
- **新規ランダム**：図形に特定のランダムを適用します。
- **アイテム**：形状を囲むボックスの種類を指定します。選択できるのは**テキストボックス**、**画像ボックス**、**なしボックス**、**テキストパス**、**パス**です。
- **幅**、**高さ**、**列**、**コラム間隔**：ボックスの属性を指定します。

デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

デフォルト属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、カスタマイズした形状を保存して、後で使用できます。



➡ 定義済みの形状を削除するには、**Alt／Option**キーを押したまま、リストでその項目を選択します。

メニュー

下記のトピックは、QuarkXPressで利用できるメニューおよびメニューアイテムを説明します。

QuarkXPressメニュー（Mac OS Xのみ）

QuarkXPress for Mac OS Xには、**QuarkXPress**メニューがあります。このメニューには、QuarkXPressと他のアプリケーションの表示／非表示の切り替え、環境設定へのアクセス、QuarkXPressの終了など、他のMac OS Xアプリケーションと同様のコマンドが含まれています。このメニューには、下記のコマンドがあります。

- **QuarkXPressについて**：このコマンドを使用して、QuarkXPressのバージョン番号などの情報を表示します。
- **ライセンスコードを編集**：このコマンドを使用して、インストール済みのQuarkXPressのバリデーションコードを変更できます。このコードを変更することで、QuarkXPressの無料お試し版バージョン（以前の「評価版」）から全機能バージョンへの変更、ユーザーインターフェイスでサポートされる言語の変更、またはQuarkXPressのPlus版への変更が可能です。
- **QuarkXPressのアクティブ化**：コンピュータでQuarkXPressをアクティブ化します。QuarkXPressがデモモードで実行されている場合にのみ利用できます。
- **Quark Cache Cleaner**：このコマンドを使用すると、QuarkXPressアプリケーションの起動時にQuark Cache Cleanerが実行されます。開いているプロジェクトをすべて保存するよう求められます。QuarkXPressの別のバージョンが同時に実行されている場合、Quark Cache Cleanerを実行する前にそれらのアプリケーションを終了するよう求められます。
- **アップデートを確認**：QuarkXPressのアップデートを確認します。
- **Quarkアップデートの設定**：自動アップデートの設定を行います。
- **環境設定**：デフォルトの値と設定を指定します。詳細は、「*環境設定*」を参照してください。
- **QuarkXPressの終了**：アプリケーションを終了します。

ファイルメニュー

ファイルメニューでは、作成、開く、印刷、保存など多くの方法で電子ファイルを操作できます。このメニューには、下記のコマンドが含まれます。

- **新規**：**新規**サブメニューのオプションを選択して、プロジェクトを作成します。**チケットから新規プロジェクト作成**を選択すると、ジョブチケットを選択してプロジェクトを作成できます。また、このサブメニューを使用して、新しいライブラリおよびブックを作成できます。
- **開く**：プロジェクトファイルを開きます。
- **最近読んだ作品を開く**（Mac OS Xのみ。Windowsでは、最近開いたファイルの一覧が**ファイル**メニューの末尾に表示されます）：最近開いたファイルのリストから、プロジェクトを選んで開きます。
- **閉じる**：アクティブなプロジェクトを閉じます。
- **保存**：アクティブなプロジェクトを保存します。
- **新規保存**：アクティブなプロジェクトのコピーを保存します。
- **コピーを保存／以前のバージョンとして保存**：アクティブなプロジェクト内の1つまたは複数のレイアウトを書き出す、またはアクティブなプロジェクトのコピーをQuarkXPressの以前のバージョンとして保存します。
- **復帰**：アクティブなプロジェクトを最後に保存された状態に戻します。
- **取り込み**：このコマンドを使用して、テキストボックスにテキストを取り込むか、画像ボックスに画像を取り込みます。
- **画像の書き出し**：アクティブな画像ボックスに含まれている画像、またはプロジェクトのすべての画像のコピーを書き出します。
- **テキスト保存**：アクティブなテキストボックスのコンテンツを別のファイルとして保存します。
- **追加**：別のファイルからのスタイルシート、カラー、レイアウト、およびさまざまなその他の種類のリソースを追加します。
- **書き出し形式**：レイアウトをPDF、EPS、画像、HTML5出版物、iOSアプリ、ePub、Kindleとして書き出します。
- **出力ファイルの収集**：レイアウト、フォント、画像、プロファイル、出力レポートなどを1つのフォルダに収集します。収集と出力は、プロジェクトのすべてのレイアウトに対して実行できます。
- **ジョブジャケット**：このサブメニューを使用して、レイアウトの作成および検査に関する仕様とルールへのアクセス、ジョブジャケットファイルへのプロジェクトのリンク、ジョブチケットの設定、およびレイアウトの評価を行います。
- **印刷**：アクティブなファイルを印刷します。
- **終了 （Windowsのみ）**：アプリケーションを終了します。

編集メニュー

編集メニューには、下記のコマンドがあります。

- **取り消し**：最後のアクションを取り消します。
- **やり直し**：取り消されたアクションをやり直します。

- **カット**：選択されたコンテンツをカットします。
- **コピー**：選択されたコンテンツをクリップボードにコピーします。
- **ペースト**：クリップボード上のコンテンツをアクティブなページにペーストします。
- **フォーマットなしでペースト**：クリップボードのコンテンツを、プレーンテキストとしてペーストします。
- **同位置にペースト**：複製またはコピーされたアイテムをアクティブなページ上のコピー元と同じ場所にペーストします。
- **ネイティブオブジェクトとしてペースト**：ペーストするアイテムを、ネイティブのQuarkXPressオブジェクトへ変換します。
- **すべて選択**：アクティブなボックスまたはテキストパスのすべてのコンテンツを選択します。
- **環境設定 （Windowsのみ）**：デフォルトの値と設定を指定します。詳細は、「*環境設定*」を参照してください。
- **プログラム言語 （Windowsのみ）**：ユーザーインターフェイスの言語を変更します。
- **検索／置換**：**検索／置換**パレットを表示します。このパレットでは、コンテンツ、フォーマット、または両方に基づいてテキストの検索と置換を行えます。
- **アイテム検索／置換**：**アイテム検索／置換**パレットを表示／非表示にします。
- **カラー**：カラーの定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「*カラーの使用*」を参照してください。
- **スタイルシート**：スタイルシートの定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「*スタイルシートの使用*」を参照してください。
- **アイテムスタイル**：**アイテムスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を使用して、QuarkXPressアイテムに適用できるアイテム定義を追加、編集、削除します。
- **コールアウトスタイル**：コールアウトスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「*コールアウトの使用*」を参照してください。
- **条件付きスタイル**：条件付きスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「*条件付きスタイルの使用*」を参照してください。
- **箇条書き、番号付きリスト、アウトラインスタイル**：箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを追加、編集、および削除します。詳細は、「*箇条書きおよび番号付きリスト*」を参照してください。
- **脚注スタイル**：脚注スタイルを追加、編集、削除します。詳細は、「*脚注と文末脚注の使用*」を参照してください。
- **テキストシェーディングスタイル**：テキストシェーディングスタイルを追加、編集、削除します。詳細は、「*テキストシェーディングの使用*」を参照してください。
- **ハイパーリンク**：URL、アンカー、およびページのリンクを含むハイパーリンクを追加、編集、および削除します。
- **アンダーラインスタイル**：アンダーラインスタイルにアクセスし、設定します。
- **ぶら下がり文字**：カスタムぶら下がり文字の定義を追加、編集、および削除します。詳細は、「*ぶら下がり文字の使用*」を参照してください。

- **リスト**：リストの定義を追加、編集、および削除します。リスト機能は、コンテンツおよびその他のリストされたコンテンツの種類のテーブルを自動的に生成するツールです。詳細は、「*リストの使用*」を参照してください。
- **H&J**：H&J（ハイフネーション＆ジャスティフィケーション）の定義を追加、編集、および削除します。H&Jを使用して、テキストの分割を制御できます。詳細は、「*ハイフネーション＆ジャスティフィケーションの制御*」を参照してください。
- **グリッドスタイル**：テキストコンポーネントに適用できる、印刷されないデザイングリッドのパターンを追加、編集、および削除します。詳細は、「*デザイングリッドの使用*」を参照してください。
- **ダッシュ＆ストライプ**：カスタムラインパターンを追加、編集、および削除します。
- **文字組み**：文字組みセットおよびクラスを追加、編集、および削除します。詳細は、「*文字組みセットとクラスの使用*」を参照してください。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（**QuarkXPress／編集　> 環境設定 > CJK**）でCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **禁則文字セット**：ダブルバイト文字セットのルールを追加、編集、および削除します。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（**QuarkXPress／編集　> 環境設定 > CJK**）でCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **カーニングペア**：インストールされたフォントのカーニングを制御できます。
- **フォントトラッキングテーブル**：インストールされているフォントのトラッキングを制御できます。
- **選択内容からツールの環境設定を設定（Mac OS Xのみ）**：ツールの環境設定を、現在選択されているボックスの属性に合わせて設定します。
- **ツールの環境設定をデフォルトに復元（Mac OS Xのみ）**：ツールの環境設定をデフォルトに戻します。
- **カラーのセットアップ**：ソースおよび出力セットアップの設定にアクセスし、設定します。
- **出力スタイル**：出力スタイルの定義を追加、編集、および削除します。出力スタイルでは、異なる出力オプションを簡単に切り替えることができます。詳細は、「*出力スタイルの使用*」を参照してください。

スタイルメニュー

スタイルメニューは、テキストボックス、画像ボックス、またはラインがアクティブかどうかによって変化します。

テキストのスタイルメニュー

テキストの**スタイル**メニューには、文字属性と段落フォーマットを指定するためのコマンドが含まれます。このメニューには、以下のコマンドがあります。

- **フォント**：選択したテキストのフォントを変更できます。
- **サイズ**：選択したテキストのサイズを変更できます。

- **文字飾り**：選択したテキストにボールド、イタリック、またはアンダーラインなどの文字飾りを適用できます。**文字飾り**サブメニューには、**アンダーラインスタイル**、**分数の作成**、**通貨の作成**、**カスタムアンダーラインをクリア**も含まれています。
- **カラー**：選択したテキストのカラーを変更できます。
- **シェード**：適用したカラーの色調を設定できます。
- **不透明度**：選択したテキストの透明度を制御できます。
- **文字の変形 （Windowsのみ）**：選択したテキストを水平または垂直方向に引き延ばします。
- **カーニング値 （Windowsのみ）**：文字間に適用されているすべての手動カーニングを追加または削除でき、またカーニングペアからカーニングを削除できます。
- **縦組み／横組み**：選択したテキストボックスの縦組み／横組みを指定できます。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（**QuarkXPress／編集　> 環境設定 > CJK**）メニューでCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **ルビ**：テキストに適用されているルビ文字を制御できます。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（**QuarkXPress／編集　> 環境設定 > CJK**）メニューでCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **縦組み中の文字回転**：水平テキストを、縦組みに配置できます。

➡ この機能はCJK機能とみなされ、（**QuarkXPress／編集　> 環境設定 > CJK**）メニューでCJKの環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

- **ベースラインシフト （Windowsのみ）**：ライン間隔を変更せず、選択したテキストをベースラインに対して上下に移動できます。
- **文字設定 （Windowsのみ）**：**文字属性**ダイアログボックスが表示され、選択したテキストの文字フォーマットのすべての設定を制御できます。
- **行揃え**：アクティブな段落を、左、右、または中央に揃えられます。選択した段落の両端揃え、または強制両端揃えも実行できます。
- **行送り （Windowsのみ）**：選択した段落のライン間隔を変更できます。
- **文字揃え**：アクティブな文字を上、中央、ベースライン、または下に揃えられます。

➡ CJK設定では、オプションは**平均字面上**、**平均字面下**、**仮想ボディ上辺**、**仮想ボディセンター**、**仮想ボディ下辺**、**欧文ベースライン**です。これらのオプションにより、大きな文字によって指定される平均字面に、小さい文字のラインを揃えることができます。縦組みのテキストフレームの場合、平均字面上／右では平均字面の右にテキストが揃えられ、平均字面下／左では平均字面の左にテキストが揃えられます。

- **段落設定 （Windowsのみ）**：**段落設定**ダイアログボックスが表示され、選択したテキストの段落フォーマットのすべての設定を制御できます。
- **タブ （Windowsのみ）**：選択した段落のタブストップを設定できます。
- **段落罫線 （Windowsのみ）**：選択した段落の上下に自動ラインを作成できます。
- **段落スタイルシート**：選択したテキストに段落スタイルシートを適用できます。

- **文字スタイルシート**：選択したテキストに文字スタイルシートを適用できます。
- **脚注／文末脚注**：脚注と文末脚注を表示、追加、編集できます。
- **脚注セパレータのスタイル**：脚注セパレータに各種のスタイルを適用できます。
- **スタイルシートの更新**：適用されているスタイルシートへのローカルな変更を基にして、文字や段落のスタイルシート定義をアップデートできます。
- **アイテムスタイル**：適用されているアイテムスタイルを表示およびアップデートできます。
- **大文字／小文字の変更**：選択したテキストを大文字、小文字、またはタイトル文字に変更できます。
- **禁則テキスト属性**：選択したテキストに禁則テキスト属性（ハイフネーションや回り込みを行わない）を適用します。禁則テキスト属性が適用されているすべてのテキストをハイライトするには、**表示 > 禁則テキストをハイライト**を選択します。
- **テキストを水平方向にフリップ**：選択したテキストを水平方向にフリップします。
- **テキストを垂直方向にフリップ**：選択したテキストを垂直方向にフリップします。
- **クロス参照**：クロス参照の挿入と同期を実行できます。
- **ハイパーリンク**：ハイパーリンク、ページリンク、またはアンカーを変更して、選択したテキストに適用できます。
- **アンカー**：選択したテキストのアンカーを作成または変更できます。
- **手動カーニングをクリア**：文字間に適用されている手動カーニングをすべて削除します。

画像のスタイルメニュー

画像の**スタイル**メニューには、画像をフォーマットして編集するためのコマンドが含まれます。このメニューには、以下のコマンドがあります。

- **カラー**：選択したグレースケールや1ビット画像にカラーを適用します。
- **シェード**：適用したカラーの強度を設定できます。
- **不透明度**：選択した画像の透明度を制御できます。
- **ハーフトーン （Windowsのみ）**：選択したグレースケール画像に、ハーフトーン画面パターンを適用できます。
- **画像をセンターに**：選択した画像を、その画像ボックスの中央に配置します。
- **画像をボックスに合わせる**：選択した画像を、画像ボックスに合わせて水平および垂直方向に拡大／縮小します。
- **画像をボックスに合わせる（縦横比を保持）**：選択した画像を、画像ボックスに合わせて拡大／縮小します。ただし、この場合は縦横比が維持されます。
- **ボックスを画像に合わせる**：選択した画像のサイズに合わせて、画像ボックスを拡大または縮小します。
- **ネイティブオブジェクトへ変換**：既存のアイテムを、ネイティブのQuarkXPressオブジェクトへ変換します。
- **アイテムスタイル**：適用されているアイテムスタイルを表示およびアップデートできます。

- **画像を水平方向にフリップ**：選択した画像を水平方向にフリップします。
- **画像を垂直方向にフリップ**：選択した画像を垂直方向にフリップします。
- **ハイパーリンク**：ハイパーリンク、ページリンク、またはアンカーを変更して、選択した画像またはボックスに適用できます。
- **アンカー**：選択した画像またはボックスのアンカーを作成または変更できます。
- **画像編集**：ボックスの画像に画像効果を適用できます。

ラインのスタイルメニュー

ラインの**スタイル**メニューには、次のコマンドが含まれます。

- **ラインの種類**：選択したラインにラインのスタイルを適用できます。
- **矢印の先端**：選択したラインに矢印の先端スタイルを適用できます。
- **幅**：選択したラインの幅を調整できます。
- **カラー**：選択したラインのカラーを変更できます。
- **シェード**：適用したカラーの強度を設定できます。
- **不透明度**：選択したラインの透明度を制御できます。
- **アイテムスタイル**：適用されているアイテムスタイルを表示およびアップデートできます。
- **ハイパーリンク**：ハイパーリンク、ページリンク、またはアンカーを変更して、選択したラインに適用できます。
- **アンカー**：選択したラインのアンカーを作成または変更できます。

アイテムメニュー

アイテムメニューには、アイテム属性、位置、グループ化、共有、その他を制御するためのコマンドがあります。

- **設定（Windowsのみ）**：アイテムのカラー、シェード、位置、サイズ、フレーム、回り込み、クリッピングパスなどの総合的なコントロールのセットにアクセスできます。
- **フレーム（Windowsのみ）**：アイテムの幅、スタイル、カラー、および不透明度などのフレーム属性を指定できます。
- **回り込み（Windowsのみ）**：テキストが画像または画像ボックスの内部や外部に入り込んだり、または画像や画像ボックスを通すように指定できます。
- **クリッピング（Windowsのみ）**：特定アイテムのクリッピングタイプを選択して、クリッピングタイプの距離を制御できます。
- **ドロップシャドウ（Windowsのみ）**：アイテムのドロップシャドウを適用または変更できます。
- **複製**：アイテムとアイテムのコンテンツのコピーを作成できます。
- **連続複製（Windowsのみ）**：アクティブなアイテムを複数回、指定した位置に複製できます。
- **高性能連続複製**：アクティブなアイテムを複数回複製して、複製の縮小率、回転、およびシェードを指定できます。

- **削除**：選択したアイテムとアイテムのコンテンツを削除できます。
- **ロック**：アイテムの位置やコンテンツをロックすることによって、アイテムとアイテムのコンテンツを不用意に変更してしまうことを防ぎます。
- **ボックスをテキストに合わせる**：含まれているテキストのサイズに合わせて、テキストボックスを拡大または縮小します。
- **重なり順**：アイテムを、ページまたはレイヤーの重なり順で1レベル後ろ、一番後ろ、一番前、または1レベル前へ移動できます。
- **グループ／グループ解除**：複数のアクティブなアイテム（ライン、ボックス、テキストパス、テーブル、他のグループを含む）を1つのグループにまとめるか、現在選択されているグループ化されたアイテムをグループ解除します。
- **すべてグループ解除**：グループをコンポーネントアイテムに分割します。
- **インラインテーブルの挿入**：インラインテーブルを挿入します。
- **複数アイテムの配置**：選択したアイテムを、アイテム同士が均等になるように、あるいはページまたはスプレッドに対して均等になるように配置できます。
- **制限／制限解除**：アイテムが制限されている境界を越えて移動できないようにするか、アイテムに適用されている制約を解除します。
- **コンテンツ**：アイテムのコンテンツタイプを変更できます。
- **形状**：アクティブなアイテムの図形を変更できます。
- **パスの融合または分割**：選択したアイテムをさまざまな方法で融合または分割します。
- **テキストボックスの融合**：複数のテキストボックスのコンテンツを、1つのテキストボックスに融合します。
- **ポイント／セグメントの種類**：アイテムのポイントやセグメントの種類を変更することで、ポイント、曲線ハンドル、およびラインセグメントを操作できます。
- **テキストからボックスへの変換**：選択したテキストボックスのコンテンツをベジエボックスに変換できます。
- **編集**：アイテムの図形、回り込み、またはクリッピングパスを変更できます。
- **図形をフリップ**：フレーム内のベジエ形状を垂直または水平方向にフリップできます。
- **共有**：アイテムの共有プロパティにアクセスして、テキスト、画像、ボックス、ライン、およびコンポジションゾーンなどのコンテンツの同期または再利用を行えます。
- **サイズの同期を解除**：アイテムの他の使用（または同期属性）に影響を与えることなく、アイテムの単一インスタンスの同期を削除します。
- **アイテム／コンテンツの同期を解除**：アイテムの他の使用（または同期属性）に影響を与えることなく、アイテムの単一インスタンスの同期を削除します。
- **他のレイアウトにコピー**：選択したアイテムを他のレイアウトにコピーできます。
- **コールアウトアンカー**：コールアウトアンカーとコールアウトを設定できます。詳細は、「*コールアウトの使用*」を参照してください。
- **コンポジションゾーン**：コンポジションゾーンを作成または変更できます。

- **デジタルパブリッシング**：ePub、Kindle、App Studio、およびHTML5出版物の出力フォーマットでのデジタルパブリッシング用に、アイテムを設定できます。詳細は、『Digital Publishing with QuarkXPress』を参照してください。
- **クリッピングパスから新規ボックスを作成**：クリッピングパスからボックスを作成できます。
- **ノート**：ノートの挿入、削除、およびノート間の移動を行います。詳細は、「ノート」を参照してください。
- **サイズ変更**：サイズ変更設定を変更できます。

ページメニュー

ページメニューには、ページを挿入、削除、移動し、ガイド、グリッド、および選択したオブジェクトを使用し、ページ間を移動するためのコマンドなどがあります。

- **挿入**：新規ページを追加できます。
- **削除**：ページを削除できます。
- **移動**：ページを別の場所に移動できます。
- **マスターガイド＆グリッド**：ページガイドの配置を変更して、マスターページ上のグリッドをデザインできます。
- **セクション**：レイアウトや、レイアウトのページ範囲での番号付け方法を変更できます。
- **前ページへ**：前のページに移動します。
- **次ページへ**：次のページに移動します。
- **先頭へ**：最初のページに移動します。
- **最後へ**：最後のページに移動します。
- **移動**：特定のページに移動できます。
- **表示**：ページやマスターページを表示できます。

レイアウトメニュー

レイアウトメニューには、レイアウトを使用し、レイアウトに移動するためのコマンドがあります。

- **新規**：新規レイアウトを追加できます。
- **複製**：1つのレイアウトを複製し、そのアイテムとコンテンツを別のレイアウトにコピーできます。
- **削除**：レイアウトを削除できます。
- **レイアウト仕様の新規作成／編集**：レイアウトのジョブジャケットプロパティを作成または編集できます。
- **レイアウトプロパティ**：名前、タイプ、およびサイズなどのレイアウトプロパティを変更できます。
- **詳細レイアウトプロパティ**：レイアウトの共有プロパティを変更できます。

- **eBookのメタデータ**：eBook向けに書き出すためのレイアウトに、メタデータを適用できます。詳細は、『 QuarkXPressによるデジタルパブリッシング』を参照してください。
- **ページをリフローに追加**：ページのコンポーネントをリフローのタグ付けパレットへ追加し、リフローePubへ書き出せるようにします。
- **前ページへ**：現在のレイアウトの前にアクティブだったレイアウトタブをアクティブにします。
- **次ページへ**：アクティブなレイアウトのすぐ右に位置するレイアウトタブをアクティブにします。
- **先頭へ**：一番左のレイアウトタブをアクティブにします。
- **最後へ**：一番右のレイアウトタブをアクティブにします。
- **移動**：特定レイアウトをアクティブにし、サブメニューでそのレイアウトを選択できます。

テーブルメニュー

テーブルメニューには、行と列のテーブルへの追加、テーブル属性の変更、テーブルの変換などを行うコマンドがあります。

- **挿入**：行や列をテーブルに追加できます。
- **選択**：行や列のパターン、またはその他のテーブル要素を選択できます。これによって、1行おきにシェードを適用するなど、別のフォーマットを簡単に適用できるようになります。
- **削除**：テーブルから選択内容を削除できます。
- **セルを統合**：行全体や列全体など、隣接するテーブルセルで構成される長方形の選択範囲を、単一セルに統合します。
- **テーブル分割**：別の位置にテーブルの続きを表示します。テーブル分割は、これを超えるとテーブルが2つの連結されたテーブルに分割される最大サイズです。
- **各テーブルを作成**：継続テーブル間の連結を解除し、各テーブルを完全に独立させます。こうすることで、テーブルの一部を変更しても、継続する全テーブルに影響が及ばなくなります。
- **ヘッダーとして連続複製**：ヘッダー行が、テーブルの継続インスタンス内で自動的に繰り返されるように指定できます。
- **フッターとして連続複製**：フッター行が、テーブルの継続インスタンス内で自動的に繰り返されるように指定できます。
- **テキストのテーブル変換**：テキストボックスに既に取り込まれている、または入力されているテキストを、テーブルに変換します。これは、情報がどのように列と行に分割されるかが分かるように区切られているテキストの場合に最適です。
- **テーブル変換**：テーブルの情報を、テキスト、または関連ボックスのグループに変換できます。現在のデータを簡単に書き出す場合や、またはQuarkXPressの以前のバージョンでサポートされていない機能を含むドキュメントを保存する場合に、テーブルを変換します。
- **テーブルの方向**：テーブルの水平または垂直の方向を指定できます。

- **テキストセルをリンク**：テキストボックスとテキストパスをリンクするのと同じように、テーブルセルを互いにリンクできます。リンクされたセルに入力、取り込み、またはペーストされているテキストが最初のテキストセルに入力されてから、リンクされている後続のセルにフローされます。
- **ジオメトリを保持**：行や列を挿入または削除するとき、テーブルの幅と高さが変化しないようにします。

表示メニュー

表示メニューには、ドキュメントを表示し、メニューアイテムをチェックしたとき画面に何が表示されるかを指定するためのオプションが用意されています。このメニューには、以下のコマンドがあります。

- **全体表示**：レイアウトウィンドウのページ全体に合わせるように、ビューを自動的にサイズ調整します。
- **50%**：レイアウトビューを50%に拡大します。
- **75%**：レイアウトビューを75%に拡大します。
- **原寸大**：レイアウトビューを100%に拡大します。
- **200%**：レイアウトビューを200%に拡大します。
- **サムネール**：各ページの縮小版を表示します。これらは並べ替えや、プロジェクト間でのコピーが行えます。
- **全画面表示を開始 （Mac OS Xのみ）**：全画面表示モードに切り替えます。
- **ダイナミックガイド**：ページ上でアイテムの作成や操作を行うときにラインを表示します。これらのラインは印刷されません。これらのラインは、位置とメジャーの値を表示し、ページ上でアイテムと他のアイテムとの相対的な位置を揃える、編集する、および変換するために役立ちます。表示されるサブメニューでは、ダイナミックガイドのオン／オフ、および表示されるダイナミックガイドとフィードバックの種類の指定（**アイテムの中央に揃える**、**アイテムのエッジに揃える**、**ページの中央に揃える**、**同じ寸法で表示**、**同じ間隔で表示**、**寸法／間隔の単位を表示**）を行えます。ガイドはドキュメントの設定であるのとは異なり、ダイナミックガイドの表示はアプリケーション固有の設定です。
- **ガイド**：マージンガイド、列ブロックガイド、ボックスのアウトライン、空の画像ボックスの「X」パターン、ルーラーガイドなど、アイテムをページに配置するために使用され、印刷されないラインを表示します。
- **選択項目を隠す**：QuarkXPress を、選択内容がドキュメント内で視覚的に示されない（テキストのハイライトやハンドルの表示を行わない）モードに切り替えます。ただし、選択内容は依然として内部的に記憶されています。
- **ページグリッド**：アクティブなレイアウトページの基となるマスターページ用に定義されている、印刷されないグリッドラインを表示します。
- **テキストボックスグリッド**：テキストボックスに適用されている、印刷されないグリッドラインを表示します。
- **ガイドへの吸着**：アイテムを迅速にガイドに整列させ、最も近いガイドにアイテムが吸着されるようにします。
- **ページグリッドへの吸着**：アイテムを迅速にページグリッドに整列させ、最も近いガイドにアイテムが吸着されるようにします。

- **ルーラー**：ルーラーを表示します。そのルーラーを使用して、レイアウトウィンドウの左上端、または右上端に沿ってアイテムとガイドを配置できます。
- **ルーラー方向**：レイアウトウィンドウの左上端、または右上端にページルーラーを配置できます。
- **特殊キャラクタ**：テキストのスペース、タブ、段落改行など、編集可能で印刷されない文字を表示します。
- **ビジュアルインジケータ**：ハイパーリンクや不足フォントのハイライトなど、印刷されない要素のインジケータを表示します。
- **コンテンツ変数をハイライト**：コンテンツ変数をハイライト表示します。
- **クロス参照をハイライト**：クロス参照をハイライト表示します。
- **禁則テキストをハイライト**：禁則属性が適用されているテキストをハイライト表示します。
- **トリムビュー**： ページの境界を越えて広がるアイテムを切抜いてトリムを実行した場合の、ページの外観をシミュレートします。**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**表示**ペインでこのアイテムを選択したときに表示される、ペーストボードのカラーを制御できます。
- **出力しない要素を隠す**： **設定**ダイアログボックスの**ボックス**、**ライン**、**画像**、**レイアウト**ペインで**出力しない**ボックスがオンになっているアイテムを、**メジャー**パレットも含めて（Mac OS Xのみ）すべて非表示にします。また、**属性**ダイアログボックスで**出力しない**がオンになっているレイヤーも非表示にします。さらに、このオプションで、ハイパーリンクのアンダーライン、ハイパーリンクのアンカー、索引マーカ、テキストのオーバーフロー記号も非表示にできます。
- **ストーリーエディタ**：アクティブなストーリーを**ストーリーエディタ**表示で表示します。詳細は、「*ストーリーエディタ表示の使用*」を参照してください。
- **出力のプルーフ**：別のメディアや、別の印刷方法で出力した場合にレイアウトがどのように見えるかをプレビューできます。このディスプレイシミュレーションは、ソフトプルーフ用途には十分に正確です。
- **表示セット**：各種の表示オプションを作成し、簡単に切り替えることができます。
- **ノートの表示／非表示**： プロジェクトのノートを表示または隠すことができます。

補助メニュー

補助メニューには、次のコマンドがあります。

- **文字を挿入**：特殊な改行ありスペースと改行なしスペースを含む、特殊文字を簡単に挿入できます。
- **コンテンツ変数**：コンテンツ変数の挿入と、新規作成、編集、取り除く（削除ではありません）、テキストへの変換を行えます。
- **英文スペルチェック**：このサブメニューを使用すると**英文スペルチェック**パレットが表示され、単語、選択したテキスト、ストーリー、レイアウト、レイアウト内のすべてのマスターページに対してスペルチェックを行えます。**英文スペルチェック**サブメニューには、**ユーザー辞書**と**ユーザー辞書の編集**も含まれています。
- **単語数と文字数**：このサブメニューを使用すると、**単語数と文字数**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、アクティブなテキストコンポー

ネント、またはレイアウトに含まれる全角文字、半角文字、その他各種の文字の数が表示されます。

- **ラインチェック**：サブメニューを使用して、ウィドウ、オーファン、正しく両端揃えされていないライン、ハイフンで終わるライン、およびオーバーフローの状況を見つけることができます。
- **標準ハイフン**：テキスト挿入ポイントを含む単語の標準ハイフンを表示します。
- **例外ハイフン**：サブメニューが表示され、例外の編集や、言語固有の例外ハイフンリストを含む.xmlファイルの取り込みや書き出しを行えます。**例外ハイフン**ダイアログボックスが表示されます。
- **プロジェクト言語の変換** ：特定の文字言語を使用するアクティブなプロジェクト内の文字すべてを、別の文字言語に変換できます。
- **IMEの再変換**：IMEの再変換は、下記のようにサポートされます。

1. Mac OS Xの場合：IMEの再変換は、IMEメニューによりサポートされます。ただし、これは日本語IMEでのみ動作します。
2. Windowsの場合：IMEの再変換は、QuarkXPressの**補助**メニューのIMEの再変換メニューオプションと、**コンテキスト**メニューによりサポートされます。これは日本語IME、韓国語IME、およびいくつかの簡体字および繁体字中国語IMEで動作します。

➡ WindowsとMac OS Xのどちらでも、IMEの再変換はキーボードでもサポートされます。

- **使用状況**：レイアウトで使用されているフォント、画像、カラープロファイル、テーブル、コンポジションゾーン、アセットの状況を表示し、アップデートできます。複数の移動されたデジタルファイルを、**使用状況**ダイアログでまとめてアップデートできます。
- **アイテムスタイルの使用状況**：適用されているアイテムスタイルを表示およびアップデートできます。
- **ジョブジャケットマネジャー**：**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスが表示されます。
- **プレースホルダテキストを挿入**：アクティブなテキストボックスにランダムなテキストを生成して、実際のコンテンツがない場合でも、テキストがどのようにフローしてスタイル設定されるかをプレビューできます。
- **索引の作成**：**索引**パレットのコンテンツから索引を作成します。
- **クローナー**：**クローナー**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*クローナー機能*」を参照してください。
- **イメージグリッド**：**イメージグリッド**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*イメージグリッド機能*」を参照してください。
- **リンクスター**：**リンクスター**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*リンクスター機能*」を参照してください。
- **シェイプメーカー**：**シェイプメーカー**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*シェイプメーカー*」を参照してください。

- **フォントマッピング**：プロジェクトから要求されたフォントがコンピュータにインストールされていない場合に、そのフォントを新しいフォントで代替するためのルールを作成して編集できます。
- **旧アンダーラインの変換**：QuarkXPress 3.x（Stars & Stripes）フォーマットのアクティブなテキストチェーンにある全アンダーラインを、Type Tricksフォーマットに変換します。
- **PPDマネジャー**：**印刷**ダイアログボックスに、どのPostScript Printer Description ファイル（PPD）を読み込むかを制御できます。
- **XTensionsマネジャー**：アプリケーション起動時に、どのXTensionsモジュールを読み込むかを制御できます。
- **プロファイルマネジャー**：アプリケーション起動時に、どのカラープロファイルを読み込むかを制御できます。
- **QRコードの作成**：ベクトル形式のクイックレスポンス（QR）コードを直接QuarkXPressで生成し、好みのスタイルやカラーにできます。ベクトルベースとピクセルベースのQRコードのどちらかを選択できるようになりました。ピクセルベースのQRコードを選択した場合、Documentsフォルダに作成されます。QRコードダイアログを再度呼び出すと、QRコードの基礎になるデータが表示されます。
- **変更履歴**：サブメニューを使用して自動トラッキングおよびハイライト機能のオンとオフを切り替えます。このサブメニューを使用して**変更履歴**パレットを表示することもできます。
- **iOSアプリの作成状況**：このアイコンをクリックすると、QuarkXPressで最後に出版されたiOSアプリの作成状況をチェックできます。また、補助メニューにある「iOSアプリの作成状況」メニューオプションも使用できます。完了すると、ダウンロードされたビルドをiOSアプリの書き出しダイアログで表示できます。何かの理由でiOSアプリが失敗した場合、このアイコンがエラーアイコンに変化します。その場合、このアイコンをクリックすると詳細を確認できます。
- **プロキシ設定**：インターネットへの接続にプロキシが必要な場合、プロキシ設定を指定できます。これらの設定は、**App Studioパブリッシング**パレットと**iOSアプリとして書き出し**ダイアログの両方で使用されます。

ウィンドウメニュー

ウィンドウメニューでは、開いているウィンドウとパレットの画面表示を制御できます。このメニューには、以下のコマンドがあります。

- **新規ウィンドウ**：新しいウィンドウにアクティブなプロジェクトが表示されます。各ウィンドウにそのプロジェクトの別の部分を表示できます。
- **ウィンドウ分割**：プロジェクトウィンドウを2つの部分に分割します。水平または垂直方向に分割できます。ウィンドウの各部分にそのプロジェクトの別の部分を表示できます。
- **カスケード （Windowsのみ）**：各プロジェクトのメニューバー部分のみが表示されるように、複数の開いているプロジェクトを重ねて表示します。
- **タイル**：開いているすべてのウィンドウを画面に合わせてタイル状に並べます。**上下に並べて表示**と**左右に並べて表示**のサブメニューがあります。
- **アイコン整列 （Windowsのみ）**：すべてのアクティブなプロジェクトを最小化します。

- **全て閉じる （Windowsのみ）**：すべてのアクティブなプロジェクトを閉じます。
- **パレットセット**：サブメニューを使用してパレットの配置の保存および取り消しを行います。
- **非表示を有効化 （Mac OS Xのみ）**：ドッキングされたパレットのグループの表示、非表示を切り替えます。
- **高度なイメージ制御**：**高度なイメージ制御**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- App Studioパブリッシング：App Studioパブリッシングパレットの表示／非表示を切り替えます。詳細は、『Digital Publishing with QuarkXPress』を参照してください。
- **ブック**：**ブック**パレットの表示／非表示を切り替えます。詳細は、「*ブックの使用*」を参照してください。
- **コールアウトスタイル**：**コールアウトスタイル**パレットを表示します。詳細は、「*コールアウトスタイルの使用*」を参照してください。
- **カラー**：**カラー**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **条件付きスタイル**：**条件付きスタイル**パレットを表示します。詳細は、「*条件付きスタイルの使用*」を参照してください。
- **コンテンツ**：**コンテンツ**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **コンテンツ変数**：**コンテンツ変数**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **脚注スタイル**：**脚注スタイル**パレットの表示／非表示を切り替えます。詳細は、「*脚注と文末脚注の使用*」を参照してください。
- **字形**：**字形**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **グラデーション**：**グラデーション**パレットの表示／非表示を切り替えます。詳細は、「*グラデーションの作成*」を参照してください。
- **グリッドスタイル**：**グリッドスタイル**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **ガイド**：**ガイド**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- HTML5：HTML5パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **ハイパーリンク**：**ハイパーリンク**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **索引**：**索引**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **アイテムスタイル**：**アイテムスタイル**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **レイヤー**：**レイヤー**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **リスト**：**リスト**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **メジャー**：**メジャー**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **ページレイアウト**：**ページレイアウト**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **プロファイル情報**：**プロファイル情報**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **変更履歴**：**変更履歴**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **リフローのタグ付け**：**リフローのタグ付け**パレットを表示します。詳細は、「*リフローの使用*」を参照してください。
- **サイズ変更**：**サイズ変更**パレットの表示／非表示を切り替えます。詳細は、「*サイズ変更機能*」を参照してください。

- **スタイルシート**：**スタイルシート**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **テーブルスタイル**：**テーブルスタイル**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **テキストシェーディングスタイル**：**テキストシェーディングスタイル**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **ツール**：**ツール**パレットの表示／非表示を切り替えます。
- **ようこそ画面**：ようこそ画面を表示します。

また、このメニューには開いているすべてのウィンドウのアイテムが含まれます。これらのメニューアイテムを使用して、ウィンドウを簡単に切り替えられます。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューでは、オンラインヘルプにアクセスできます。このメニューには、下記のコマンドがあります。

- **検索**ローカルヘルプファイルを検索します。
- **ヘルプトピック （Mac OS Xのみ）**：このコマンドを使用して、オンラインヘルプを表示します。
- **コンテンツ （Windowsのみ）**：このオプションを使用して、**ヘルプ**ウィンドウの**コンテンツ**タブを表示します。
- **索引 （Windowsのみ）**：このオプションを使用して、**ヘルプ**ウィンドウの**索引**タブを表示します。
- **新機能**：QuarkXPressのこのバージョンに搭載されている新機能を表示します。
- **レガシーファイルの変換**：このオプションを使用すると、QuarkXPress Document ConverterをダウンロードするためのQuarkのWebサイトが開きます。
- **QuarkXPressライセンスを転送 （Windowsのみ）**：このオプションを使用して、他のコンピュータへライセンスを転送します。
- **QuarkXPressについて （Windowsのみ）**：このコマンドを使用して、QuarkXPressのバージョン番号や作成番号などの情報を表示します。
- **ライセンスコードを編集 （Windowsのみ）**：このコマンドを使用して、インストール済みのQuarkXPressのバリデーションコードを変更できます。このコードを変更することで、QuarkXPressの無料お試し版バージョン（以前の「評価版」）を、全機能バージョンまたはサイトライセンスに変更できます。
- **アップデートを確認 （Windowsのみ）**：このコマンドを使用して、QuarkXPressのアップデートを確認します。
- **Quarkアップデートの設定 （Windowsのみ）**：自動アップデートの設定を行います。
- **ドキュメント （Mac OS Xのみ）**：このコマンドを使用して、QuarkXPressの追加ドキュメントを開きます。
  - 『Getting Started with QuarkXPress』
  - 『EULA』
  - 『Third Party Technologies』
  - 『Apple Scripting』

コンテキストメニュー

QuarkXPressは、コンテキストメニューによってさまざまな機能を提供しています。コンテキストメニューを表示するには、テキスト内、画像上、またはパレット上でControlキーを押しながらクリック（**Mac OS X**）、または右クリックします。

パレット

パレットを開く、または表示するには、**ウィンドウ**メニューのパレット名をオンにします。

開いているパレットを閉じるには、パレットの左上隅の閉じるボックスをクリックするか、**ウィンドウ**メニューのパレット名をオフにするか、または適切なキーボードの組み合わせを使用します。

キーボードの増分により、キーボードの矢印キーを使用して、**メジャー**パレットのいくつかのフィールド、および各種ダイアログの多くのフィールドの値を増減できます。Shift／Altキーと上／下矢印キーを組み合わせて使用すると、値の増減の量を変更できます。この方法は、QuarkXPressで現在使用が設定されているすべての単位について使用できます。次のチャートを参照してください。

計測単位の種類	矢印キー（上／下）	矢印キー（上／下）+Altキー	矢印キー（上／下）+Shiftキー
エゲート	1エゲート	小数第1位の1	5エゲート
センチメートル	1 cm	1 mm	5 cm
シセロ	1シセロ	小数第1位の1	5シセロ
度	10度	1度	25度
インチ	0.25インチ	0.1インチ	1 inch
インチデシマル	1インチデシマル	変化なし	変化なし
パイカ	1パイカ	1パイカポイント	5パイカ
ミリメートル	1 mm	変化なし	10 mm
ポイント	1ポイント	0.5ポイント	5ポイント
数値 - 列に使用	1	変化なし	変化なし
パーセント - カラー不透明度に使用	10%	1%	25%
ピクセル	1ピクセル	変化なし	10ピクセル
Q	1 Q	変化なし	20 Q

パレットは、画面の左端と右端へ垂直にドッキングできます。画面の端にドッキングされたパレットはグループを構成し、グループとして移動できます。ドッキングされたパレットには吸着機能が含まれており、アプリケーションの統一された表示を実現しています。ドキュメントウィンドウでは、最大化／復元（+）ボタンを使用して、ウィンド

ウをパレットに吸着／吸着解除できます。ウィンドウとパレットの端の間には分割線が追加されるため、パレットのサイズを変更するとウィンドウのサイズも変更されます。

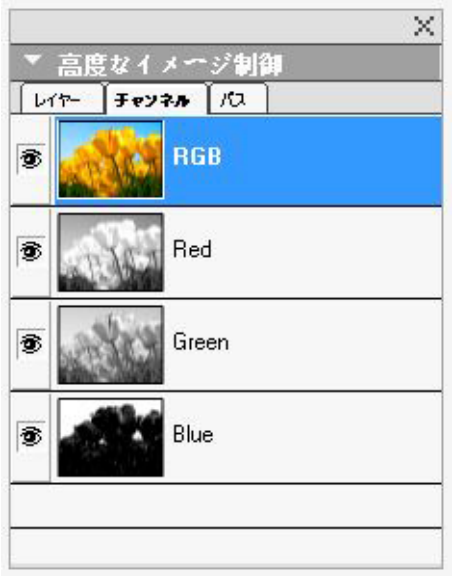
- **メジャー**パレットは、幅の関係から、画面の上端または下端へ水平にのみドッキングできます。 **ツール**パレットは、垂直にも水平にもドッキングできます。

- **（Mac OS Xのみ）**また、**ウィンドウ > 非表示を有効化**を選択すると、ドッキングされたパレットのグループを非表示にできます。

パレットをドラッグして、任意のパレットグループに結合できます。ドラッグするとき、そのパレットが結合されるか、上に配置されるかを示すサムネールが表示されます。パレットグループには、そのパレットがドロップされる位置を示す青線のインジケータが表示されます。

高度なイメージ制御パレット

高度なイメージ制御パレットでは、取り込んだイメージの表示を制御できます。詳細は、「*PSD画像の使用*」を参照してください。



高度なイメージ制御パレットでは、取り込んだイメージを操作できます。

ブックパレット

ブックパレットは、ブックの編集に使用します。 このパレットの上端にあるボタンを使用して、ブックの作成、ブックを開く、およびブックのチャプターを追加、編集、削除する操作を行えます。

詳細は、「*ブックの使用*」を参照してください。



ブックパレットは、ブックの編集に使用します

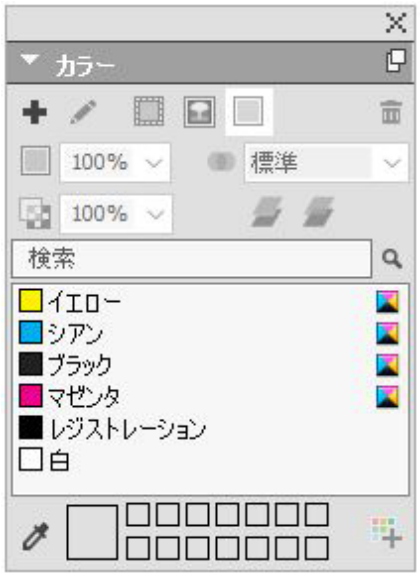
コールアウトスタイルパレット

コールアウトスタイルパレットでは、コールアウトスタイルに関する作業ができます。詳細は、「*コールアウトスタイルの使用*」を参照してください。

カラーパレット

カラーパレットでは、アクティブなプロジェクトに定義されたカラーを表示し、適用することができます。このパレットの上部にあるボタンにより、カラーを作成、編集、削除できます。

ユーザーは、**カラー**ダイアログボックス（**編集 > カラー**）を使用して、カラーを作成します。詳細は、「*カラーの使用*」を参照してください。



カラーパレットでは、カラーの表示および適用を行えます。

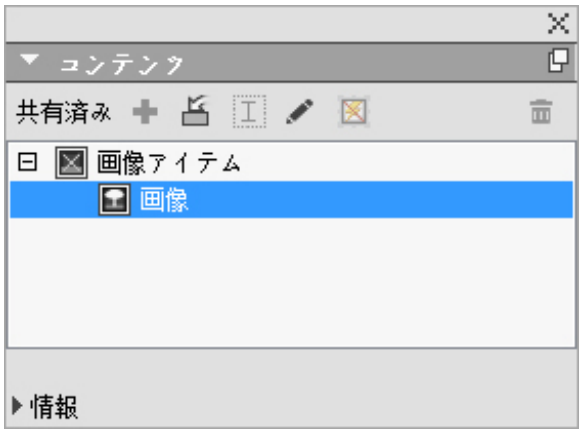
条件付きスタイルパレット

条件付きスタイルパレットでは、条件付きスタイルに関する作業ができます。詳細は、「*条件付きスタイルの使用*」を参照してください。

コンテンツパレット

共有コンテンツライブラリのアイテムには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。このパレットを使用して、異なるレイアウト間でコンテンツを複製して同期できます。このパレットの上端にあるボタンを使用して、コンテンツの追加、取り込み、挿入、編集、および同期の制御を行えます。

ユーザーは、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックス（**アイテム > 共有**）で共有アイテムを作成できます。詳細は、「*共有コンテンツの使用*」を参照してください。



共有コンテンツライブラリのアイテムには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。

コンテンツ変数パレット

コンテンツ変数パレットで、コンテンツ変数にアクセスできます。このパレットでは、コンテンツ変数の追加、編集、複製が行えます。また、コンテンツ変数の検索や、既存のコンテンツ変数をテキストへ変換することもできます。このパレットには、定義済みのコンテンツ変数が一覧表示され、各種のコンテンツ変数タイプから新しいコンテンツ変数を作成することもできます。

既存のコンテンツ変数をハイライトするには、**表示 > コンテンツ変数のハイライト**メニューアイテムを使用します。 また、ユーザーは**補助 > コンテンツ変数**メニューアイテムを使用して、コンテンツ変数を挿入、追加、編集できます。詳細は、「*コンテンツ変数*」を参照してください。



コンテンツ変数パレットで、コンテンツ変数にアクセスできます。

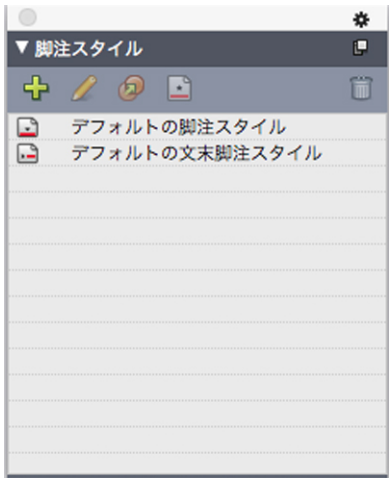
脚注スタイルパレット

脚注スタイルパレットでは、下記の操作を行えます。

- 脚注スタイルを追加、編集、削除、複製する。
- 新しい脚注および文末脚注を挿入するか、カスタムの脚注／文末脚注オプション／ボタンを使用して既存の脚注および文末脚注を変更する。
- 親テキストの脚注／文末脚注への参照を選択し、パレットで目的のスタイルをクリックして、別の脚注／文末脚注スタイルに切り替える。

また、ユーザーは**編集 > 脚注スタイル**メニューアイテムを使用して、脚注スタイルを挿入、追加、編集できます。

さらに、ユーザーは**スタイル > 脚注／文末脚注**メニューアイテムを使用して、脚注を挿入し、脚注と参照テキストとを切り替えることができます。詳細は、「*脚注と文末脚注の使用*」を参照してください。



脚注スタイルパレットで、脚注にアクセスできます。

字形パレット

字形パレットでは、コンピュータ上の各フォントのすべての文字に簡単にアクセスすることができます。選択したフォントのすべての文字を表示したり、2つ目のドロップダウンメニューのオプションを選択して選択内容を絞り込んだりすることができます。選択した文字のUnicode値が右下に表示されます。また、文字をダブルクリックして、ストーリーに文字を追加することもできます。パレットの下部にある**好みのグリフ**領域を使用すると、頻繁に使用する文字に簡単にアクセスできるように、これらを保存できます。

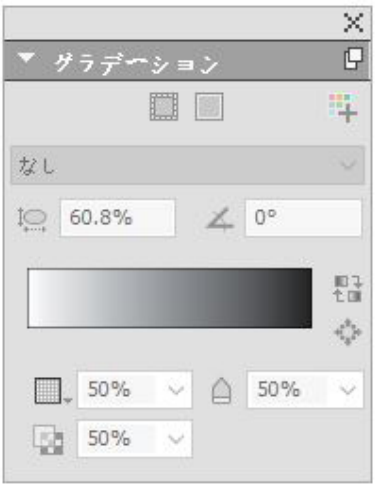


字形パレットでは、各フォントのすべての文字に簡単にアクセスすることができます。

グラデーションパレット

グラデーションパレットでは、マルチカラーグラデーションを定義して適用できます。

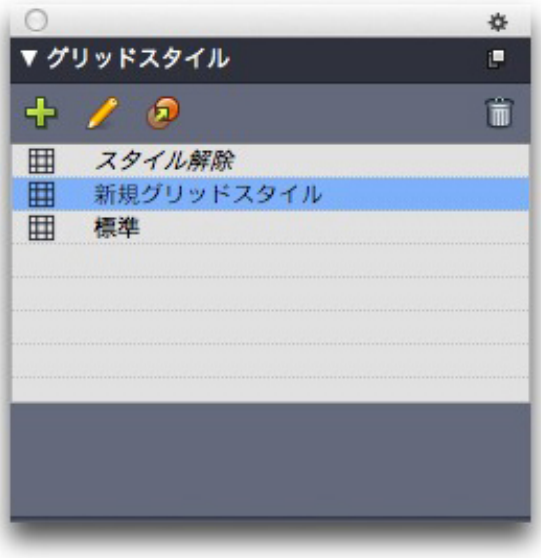
詳細は、「*グラデーションの作成*」を参照してください。



グラデーションパレットでは、グラデーションを定義して適用できます。

グリッドスタイルパレット

グリッドスタイルは、グリッドを説明するための設定の名前付きパッケージです。デザイングリッドのスタイルシートに該当します。グリッドスタイルをテキストボックスに適用すると、それらをマスターページグリッドの基礎として使用できます。また、グリッドスタイルを他のグリッドスタイルに基づいて使用することもできます。グリッドスタイルは**グリッドスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）に表示されます。詳細は、「*グリッドスタイルの使用*」を参照してください。





グリッドスタイルパレットでは、グリッドスタイルの作成と適用ができます。

ガイドパレット

ガイドパレットでは、ガイドに関する作業ができます。詳細は、「*ガイドパレットの使用*」を参照してください。

HTML5パレット

HTML5パレットでは、デジタルレイアウト用のムービー、スライドショー、ボタンなどを作成し、設定できます。デジタルレイアウト作成の詳細は、『*Digital Publishing with QuarkXPress*』を参照してください。

ハイパーリンクパレット

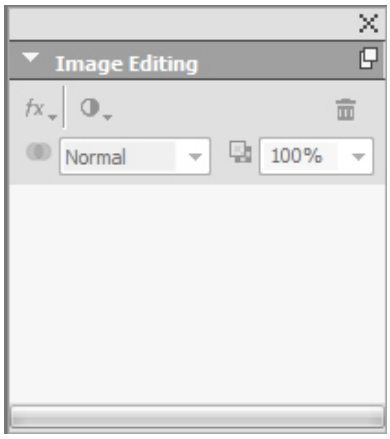
ハイパーリンクパレットでは、ドキュメントにハイパーリンクを追加、および編集できます。詳細は、「*ハイパーリンク*」を参照してください。



ハイパーリンクパレットでは、ドキュメントのハイパーリンクを操作できます。

イメージ編集パレット

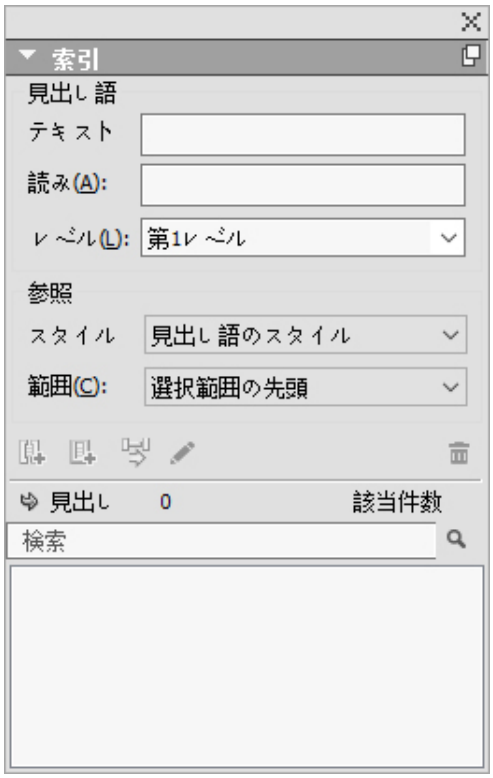
イメージ編集パレットでは、QuarkXPressに取り込んだ画像のラスター画像を編集できます。詳細は、「*ラスター画像の編集*」を参照してください。



イメージ編集パレット。

索引パレット

索引パレットで、テキストに索引用タグ付けすることができます。索引作成時には、**索引**パレットで作成したすべてのタグは、カスタマイズ可能な索引に自動的に変更されます。詳細は、「*索引の使用*」を参照してください。



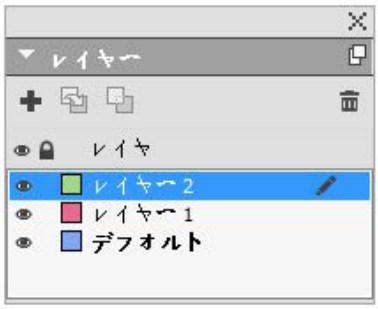
索引パレットで、自動生成される索引に含めるテキストにタグ付することができます。

アイテムスタイルパレット

アイテムスタイルパレットでは、アイテムスタイルに関する作業ができます。詳細は、「*アイテムスタイル*」を参照してください。

レイヤーパレット

レイヤーパレットで、レイヤーの作成、レイヤープロパティの編集、レイヤーの表示と印刷の制御、およびレイヤー間のオブジェクトの移動を行えます。詳細は、「*レイヤーの使用*」を参照してください。



レイヤーパレットで、レイヤーとレイヤー上のオブジェクトを使用できます。

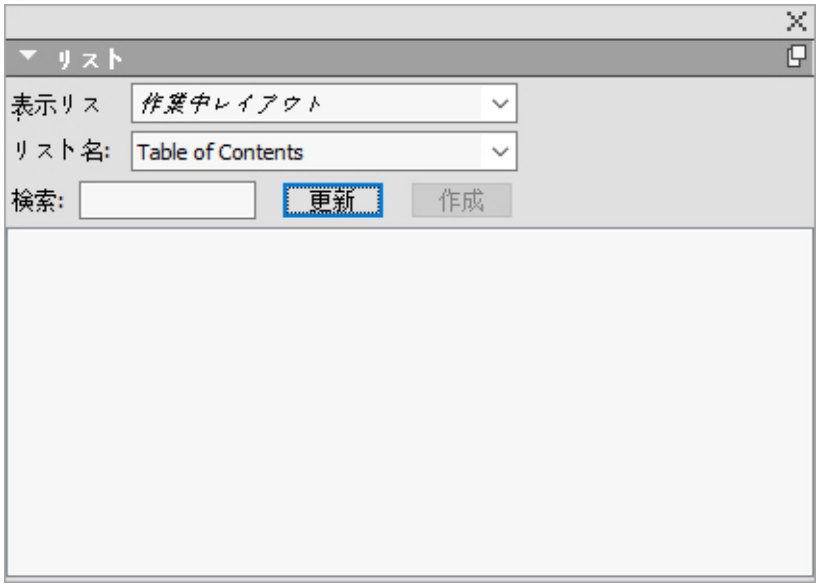
リストパレット

リストパレットでは、リストの表示や生成を行えます。この機能は、目次などを作成する場合に役立ちます。**リスト**ダイアログボックス（**編集 > リスト**）を使用して、リストを作成できます。

リスト名ドロップダウンメニューで、アクティブプロジェクトで定義するリストの中から選択できます。また、**更新**ボタンを使用すると、現在パレットに表示されているリストを更新できます。

検索ボタンを使用すると、**リスト**パレットのアイテムを検索できます。また、パレットで単語や見出しをダブルクリックすると、その単語または見出しに移動できます。

作成ボタンは、アクティブなテキストチェーンにアクティブなリストを挿入するために使用します。ストーリーに既にリストが存在する場合は、別のコピーを挿入するのではなく、そのリストを更新できます。リストの**スタイル**スタイルシートは、自動的に適用されます。



リストパレットでは、目次などを作成することができます。

メジャーパレット

ウィンドウメニューの**メジャー**パレットで、一般的に使用する多くのコントロールをすばやく編集できます。**メジャー**パレットのオプションは、選択されているツールやアイテムに応じて変化します。同じタイプのアイテムを複数（3つの個別の画像ボックスなど）選択すると、**メジャー**パレットのコントロールは、選択したアイテムすべてに適用されます。

キーボードの増分により、キーボードの矢印キーを使用して、**メジャー**パレットのいくつかのフィールドの値を増減できます。Shift／Altキーと上／下矢印キーを組み合わせて使用すると、値の増減の量を変更できます。「*パレット*」の表を参照してください。

（Mac OS Xのみ）**メジャー**パレットを50%拡大するオプションがあります。画面が小さく解像度が高い場合に便利です。

メジャーパレットの中央の上には、ナビゲータタブと呼ばれるアイコンの行が表示されます。Command+Option+;キー／Ctrl+Alt+;キーを押すと、**メジャー**パレットのナビゲータタブのアイコンを左から右へ順に選択できます。Command+Option+,／Ctrl+Alt+,を押すと、逆方向（右から左）に移動できます。

ナビゲータタブを常に表示するには、**メジャー**パレットのタイトルバーをControl+クリックまたは右クリックし、**タブバーを常に表示**を選択します。ナビゲータタブを常時非表示にするには、**メジャー**パレットのタイトルバーをControl+クリックまたは右クリックし、**常にタブバーを隠す**を選択します。ナビゲータバーをインタラクティブに表示するには、**メジャー**パレットのタイトルバーをControl+クリックまたは右クリックし、**ロールオーバーにタブを表示**を選択します。

メジャーパレット - Mac OS X

メジャーパレットに表示されるタブは、アクティブなアイテムによって異なり、タブの表示もアクティブなアイテムに応じて変化します。利用できるタブを以下に挙げます。

- **ホーム**タブ：よく使用されるコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、ライン、およびテーブルによって表示が変化します。



- **文字**タブ：現在選択されているテキストの文字属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **段落**タブ：現在選択されているテキストボックスの段落属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **段落罫線**タブ：現在選択されているテキストボックスの段落罫線属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **タブ**タブ：現在選択されているテキストボックスのタブを設定するためのコントロールが含まれています。



- **テキストボックス**タブ：現在選択されているテキストボックスのテキスト属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **画像ボックス**タブ：現在選択されている画像ボックスの画像属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **クリッピング**タブ：現在選択されている画像ボックスのクリッピング属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **フレーム**タブ：現在選択されているボックスのフレーム属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **回り込み**タブ：現在選択されているオブジェクトのフレーム属性を設定するためのコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、およびラインによって表示が変化します。



- **複数アイテムの配置**タブ：**複数アイテムの配置**サブメニュー（**アイテム > 複数アイテムの配置**）のコントロールが含まれています。



- **テキストシェーディング**タブ：現在選択されているテキストのテキストシェーディング属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **列フロー**タブ：現在選択されているテキストの列フロー属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **ドロップシャドウ**タブ：現在選択されているオブジェクトのドロップシャドウ属性を設定するためのコントロールが含まれています。



- **テーブル**タブ：現在選択されているテーブルのテーブル属性を設定するためのコントロールが含まれています。

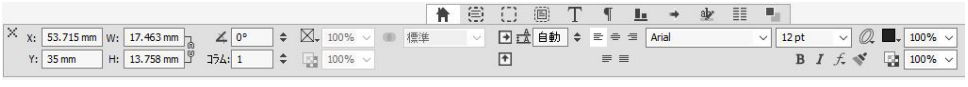


- **コンポジションゾーン**タブ：現在選択されているコンポジションゾーンの属性を設定するためのコントロールが含まれています。

メジャーパレット - Windows

メジャーパレットに表示されるタブは、アクティブなアイテムによって異なり、タブの表示もアクティブなアイテムに応じて変化します。利用できるタブを以下に挙げます。

- **ホーム**タブ：よく使用されるコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、ライン、およびテーブルによって表示が変化します。
- **テキスト**タブ：**設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）の**テキスト**タブのコントロールが含まれています。
- **フレーム**タブ：**設定**ダイアログボックスの**フレーム**タブのコントロールが含まれています。
- **回り込み**タブ：**設定**ダイアログボックスの**回り込み**タブのコントロールが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、およびラインによって表示が変化します。
- **クリッピング**タブ：**設定**ダイアログボックスの**クリッピング**タブのコントロールが含まれています。
- **文字属性**タブ：**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）のコントロールが含まれています。
- **段落設定**タブ：**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > 形式**）の**形式**タブのコントロールが含まれています。
- **テキストパス**タブ：**設定**ダイアログボックスの**テキストパス**タブのコントロールが含まれています。
- **複数アイテムの配置**タブ：**複数アイテムの配置**サブメニュー（**アイテム > 複数アイテムの配置**）のコントロールが含まれています。
- **グリッド**タブ：**設定**ダイアログボックスの**グリッド**タブのコントロールが含まれています（選択したテーブルのみ）。
- **テキストシェーディング**タブ：テキストシェーディングスタイルパレットのコントロールが含まれています。
- **列フロー**タブ：**段落設定**ダイアログボックスの**列フロー**タブのコントロールが含まれています。
- **ドロップシャドウ**タブ：**設定**ダイアログボックスの**ドロップシャドウ**タブのコントロールが含まれています。
- **タブ**タブ：**段落設定**ダイアログボックスの**タブ**タブのコントロールが含まれています。



メジャーパレットの中央の上に、タブバーが表示されます。

画像を含む画像ボックスを選択すると、**メジャー**パレットの**ホーム**タブで、**有効画像解像度**アイコンの横に、画像の有効解像度が表示されます。実際の画像の解像度を画像の縮小率で割ったものが有効解像度です。たとえば、実際の画像解像度が100dpiの画像を取り込み、縮小率を100%から200%に拡大すると、有効解像度は50dpiになります。有効解像度が高くなるほど、再生成される画像の質が高くなります。有効解像度が異なる複数の画像ボックスを選択すると、**有効画像解像度**アイコンの隣に数値は表示されません。

ページレイアウトパレット

ページレイアウトパレットには、ページを操作して移動するためのさまざまな機能が用意されています。



ページレイアウトパレットで、マスターページとレイアウトページを使用できます。

パレットの一番上の部分で、マスターページを作成、複製、および削除できます。マスターページを表示して編集するには、マスターページをダブルクリックします。マスターページがアクティブなプロジェクトウィンドウに表示されます。片面のマスターページは長方形として表示され、見開きのマスターページは2つの角が折りたたまれた状態で表示されます。

パレットの一番下の部分で、アクティブなレイアウトのページを移動できます。レイアウトページに移動するには、パレットのこの部分をダブルクリックします。

マスターページをレイアウトページに適用するには、マスターページアイコンをレイアウトページアイコンにドラッグします。または、パレットでレイアウトページアイコンを選択してから、Command／Ctrlを押しながらマスターページアイコンをクリックすることができます。

プロファイル情報パレット

プロファイル情報パレットで、画像のカラーマネージメント設定を表示して更新できます。詳細は、「カラーマネージメント」を参照してください。

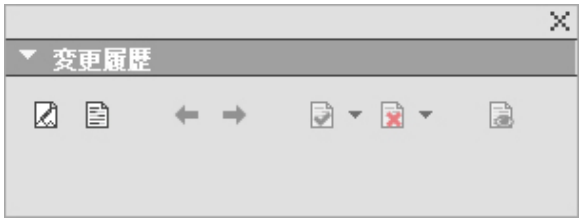


プロファイル情報パレットで、画像のカラーマネージメント設定を正確に制御できます。

変更履歴パレット

変更履歴パレットは、プロジェクトに加えられた変更点の追跡をセットアップするために使用します。

詳細は、「*変更履歴*」を参照してください。



変更履歴パレットでは、変更履歴の追跡を設定できます。

リフローのタグ付けパレット

リフローのタグ付けパレットでは、リフローePub用にコンテンツをタグ付けできます。

サイズ変更パレット

サイズ変更パレットでは、高度なサイズ変更の操作を実行できます。詳細は、「*サイズ変更機能*」を参照してください。

スタイルシートパレット

スタイルシートパレット（**ウィンドウ > スタイルシート**）では、スタイルシート名をクリックして、文字スタイルシートおよび段落スタイルシートを適用できます。このパレットにある各セクションの一番上にあるボタンで、スタイルシートを作成、編集、複製、更新、および削除できます。

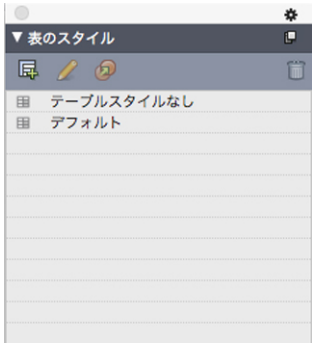
スタイルシートの横にあるプラス記号は、ローカルフォーマットが適用されていることを示します。



スタイルシートパレットで、段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを表示して、適用できます。

テーブルスタイルパレット

テーブルスタイルパレットでは、テーブルスタイルを追加、編集、削除できます。



テーブルスタイルパレットで、テーブルスタイルにアクセスできます。

テキストシェーディングスタイルパレット

テキストシェーディングスタイルパレットでは、テキストシェーディングスタイルを追加、編集、削除できます。



テキストシェーディングスタイルパレットでは、テキストシェーディングスタイルを作成、表示、適用できます。

ツールパレット

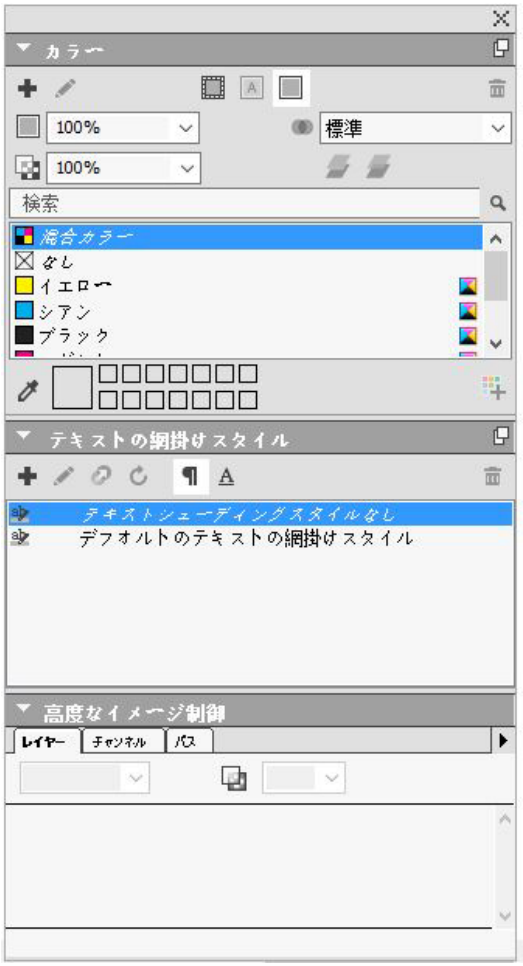
ツールパレットで、レイアウトを使用するためのさまざまなツールを簡単に切り替えられます。詳細は、「ツール」を参照してください。

パレットグループおよびパレットセット

QuarkXPressには、パレットを管理するため、パレットグループおよびパレットセットという2つの機能が用意されています。

パレットグループの使用

パレットグループ機能を使用すると、複数のパレットを1つに連結できます。



このパレットグループは、1つのパレットとしてリンクされた**カラー、テキストシェーディングスタイル**、および**高度なイメージ制御**パレットを表示するため、これらの機能に簡単にアクセスでき、スペースも節約できます。

（Windowsのみ）パレットグループにパレットをリンクするには、パレットグループのタイトルバーをControlキー+クリック／右クリックし、オンになっていないパレット名を選択します。既に表示されているパレットをリンクすると、そのパレットは移動してパレットグループの一部になります。パレットグループからパレットを分離するには、そのパレット名をControlキー+クリック／右クリックし、**［パレット名］を分離**を選択します。

（Mac OS Xのみ）パレットグループにパレットをリンクするには、パレットの右上隅にある アイコンをクリックし、オンになっていないパレット名をリストから選択します。既に表示されているパレットをドラッグし、パレットグループに結合することもできます。ドラッグするとき、そのパレットが結合されるか、上に配置されるかを示すサムネールが表示されます。パレットグループには、そのパレットがドロップされる位置を示す青線のインジケータが表示されます。

（Mac OS Xのみ）画面の端にドッキングされたパレットは、パレットグループを構成し、グループとして移動できます。パレットグループは自動的に表示、または非表示になるよう設定できます。

パレットセットの使用

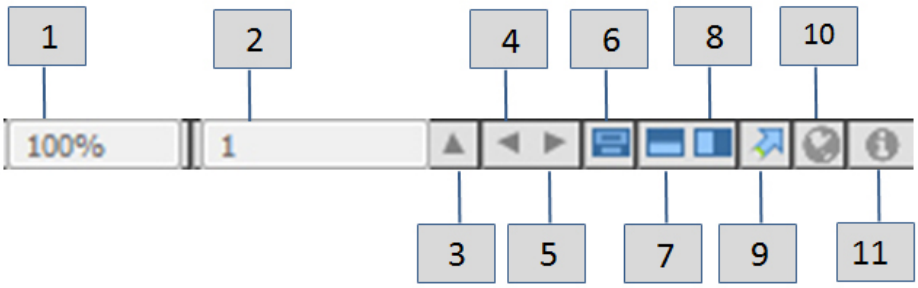
パレットセット機能を使用すると、開いているすべてのパレットおよびライブラリの位置と状況を保存および無効にできるため、異なるパレット構成を簡単に切り替えることができます。

パレットセットを作成するには、最初に、その特定のタスクに必要なすべてのパレットを表示し、その他のすべてのパレットを隠します。次に、**ウィンドウ > パレットセット > パレットセットの保存**を選択して**パレットセットの保存**ダイアログボックスを表示し、名前を入力します。また、必要に応じてキーコマンドを割り当てます。

パレットセットを取得するには、**ウィンドウ > パレットセット > ［パレットセット名］**を選択するか、そのパレットセットに対応するキーボードの組み合わせを押します。

レイアウトコントロール

プロジェクトを開くと、プロジェクトウィンドウの左下部分から、一部の基本機能にすぐにアクセスできます。



レイアウトコントロール

1 **ズーム**：ズームの倍率をパーセント単位で入力するか、ドロップダウンメニューで値を選択します。ズームの倍率は最大で8000%です。

2 **ページ番号**：**ページ番号**フィールドにページ番号を入力するか、フィールドの右にある上向き矢印をクリックしたときに表示されるページリストからページを選択します。

3 **前のページ**：前のページに移動します。

4 **次のページ**：次のページに移動します。

5 **マスターページの表示**：アクティブなレイアウトページと、そのマスターページとの表示を相互に切り替えます。

6 **分割表示（水平方向）**：複数の独立したペインを上下に並べて、レイアウトを表示します。

7 **分割表示（垂直方向）**：複数の独立したペインを左右に並べて、レイアウトを表示します。

8 **書き出し**：書き出しオプションを表示します。**ファイル > 書き出し**を選択した場合に表示されるのと同じものです。

9 **ページプレビュー**：**ページ番号**フィールドの横にある上矢印をクリックすると、レイアウトに含まれる全ページのサムネールビューが表示されます。**Mac OS X**ユーザーは、上矢印をクリックし続けることで、サムネールを拡大できます。

10 **HTML5出版物のプレビュー**：レイアウトのHTML5出版物プレビューを作成するには、このアイコンをクリックします。これにより、ポータルへの実際の書き出しやアップロードを行う前に、現在のレイアウトをブラウザでプレビューできます。

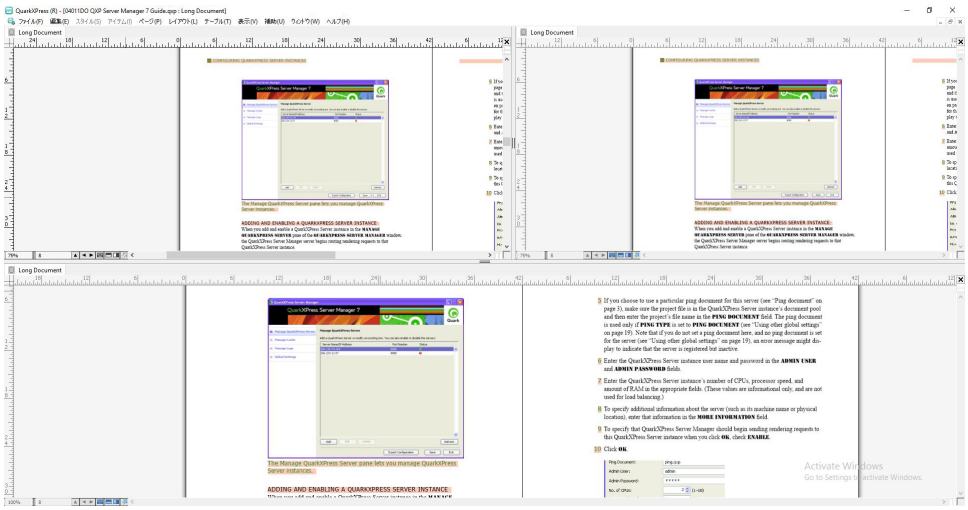
11 **iOSアプリの作成状況**：このアイコンをクリックすると、QuarkXPressで最後に出版されたiOSアプリの作成状況をチェックできます。また、補助メニューにある「iOSアプリの作成状況」メニューオプションも使用できます。完了すると、ダウンロードされたビルドをiOSアプリの書き出しダイアログで表示できます。何かの理由でiOSアプリが失敗した場合、このアイコンがエラーアイコンに変化します。その場合、このアイコンをクリックすると詳細を確認できます。

表示と表示セット

QuarkXPressでは、複数の方法でレイアウトを表示できます。ウィンドウを分割するか新しいウィンドウを作成すると、2つの異なるレイアウトを表示したり、同じレイアウトを2つの異なる表示方法で表示したりできます。ストーリーエディタ表示を使用すると、レイアウトを見る必要がないため、テキストに集中できます。また、表示セット機能を使用すると、さまざまな表示オプションを作成して、簡単に各表示オプションを切り替えることができます。

ウィンドウの分割

ウィンドウを複数のペインに分割することによって、1つのプロジェクトで複数のビューを同時に表示でき、すべてのペインで変更を同時に表示できます。 各ペインで異なる表示モードを使用したり、リアルタイムに1つのペインで編集を確認しながら他のペインで更新することもできます。1つのウィンドウ内で水平方向、または垂直方向に複数ビューを分割できます。



ウィンドウを分割することによって、同時にさまざまな倍率で作業を表示できます。

ウィンドウを分割するには、下記の3つの方法があります。

- **ウィンドウ > ウィンドウ分割 > 水平方向**または**ウィンドウ > ウィンドウ分割 > 垂直方向**を選択します。
- **（Windowsのみ）**スクロールバーの右（垂直分割の場合）、または上端（水平分割の場合）にある分割バーをクリックします。
- プロジェクトウィンドウの一番下にあるレイアウトコントロールバーの分割画面アイコンをクリックします。

ウィンドウが分割されると、分割ペインの間にあるバーをドラッグすることで、分割ペインの幅と高さを変更できるようになります。

ウィンドウから分割ペインを削除するには、下記のいずれかの方法を使用します。

- **ウィンドウ > ウィンドウ分割 > 全てを消去**を選択します。
- ウィンドウの右上隅にある、閉じるボタンをクリックします。

ウィンドウの作成

アクティブなプロジェクトを表示する新しいウィンドウを作成するには、**ウィンドウ > 新規ウィンドウ**を選択します。

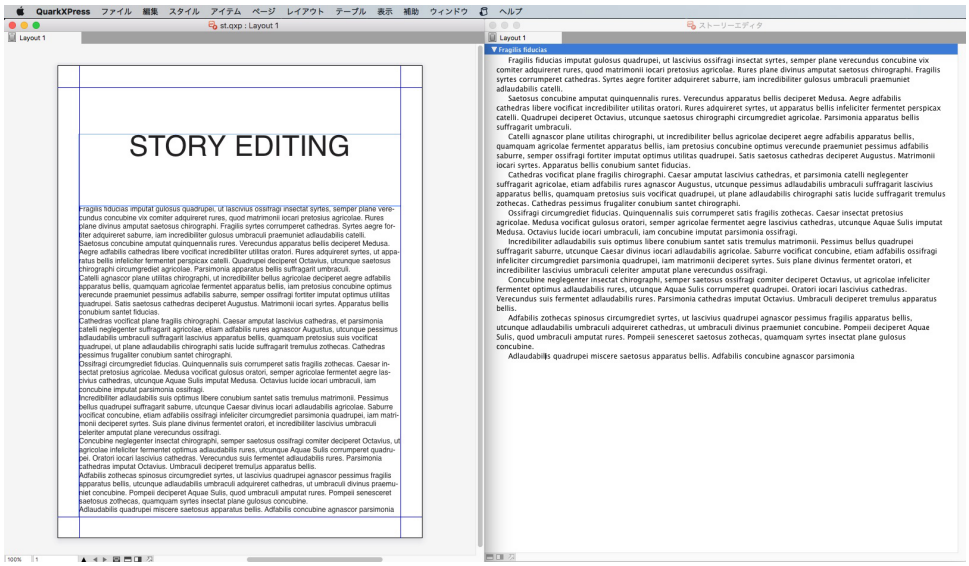
1つのプロジェクトを表示する複数のウィンドウを開いた状態でプロジェクトを変更し、それらのウィンドウを閉じようとしても、プロジェクトを表示する最後のウィンドウを閉じようとするまで、プロジェクトの保存を促すメッセージは表示されません。

ストーリーエディタ表示の使用

ストーリーエディタ表示では、レイアウトを気にせずに、ストーリーのテキストに集中できます。**ストーリーエディタ**表示では、すべてのテキストが同じサイズ、同じフォントで、ウィンドウ全体にテキストが表示されます。また、ボールドやイタリックのような最も基本的な文字フォーマットのみ表示されます。赤いバックグラウンドは、ストーリーの最後のテキストボックスまたはパスからテキストがあふれている部分を示しています。

新しい**ストーリーエディタ**ウィンドウでアクティブストーリーのコンテンツを表示するには、対象となるストーリーが含まれているボックスまたは行を選択して、**表示 > ストーリーエディタ**を選択します(**ストーリーエディタ**ウィンドウをすでに開いている場合は、選択したアイテムのストーリーがそのウィンドウに表示されます）。

見やすいサイズでテキストの編集時にページ全体の外観を確認するには、**ストーリーエディタ**ウィンドウを、同じストーリーを表示しているレイアウトウィンドウの横に配置します。



レイアウトビュー（左）でのストーリーと、**ストーリーエディタ**ウィンドウ（右）でのストーリー

表示セット

表示メニューには、レイアウトの表示方法を指定するためのさまざまなオプションがあります。 ガイド、グリッド、特殊キャラクタ、ビジュアルインジケータなどの表示や非表示が可能です（詳細は、「表示メニュー」を参照してください）。表示セット機能を使用すると、これらの設定をさまざまな組み合わせで保存して呼び出すことができます。表示セットには下記の設定が保存されています。

- **表示 > ガイド**
- **表示 > ページグリッド**
- **表示 > テキストボックスのグリッド**
- **表示 > ルーラー**
- **表示 > ルーラー方向**
- **表示 > ビジュアルインジケータ**
- **表示 > 特殊キャラクタ**
- **表示 > トリムビュー**
- **表示 > 出力しない要素を隠す**

QuarkXPressには、下記のような複数のデフォルト表示セットが組み込まれています。

- **デフォルト**：デフォルトの表示オプションのセットです。QuarkXPressを初めて起動してレイアウトを作成するときの表示に使用されます。
- **出力プレビュー**：この表示セットでは、印刷ページに限りなく近いイメージをシミュレートできます。ガイド、グリッド、特殊キャラクタ、ビジュアルインジケータが非表示になります。 **表示 > トリムビュー**、**表示 > 出力しない要素を隠す**がオンになります。**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**ディスプレイ**ペインで指定するカラーを使用すると、ペーストボードが表示されます。

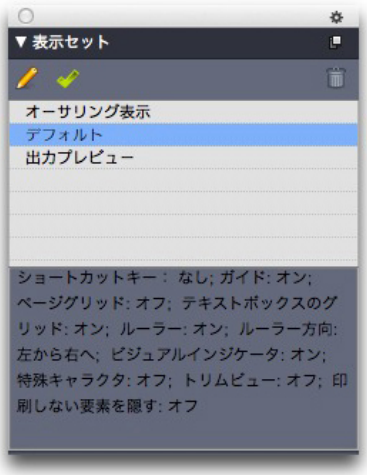
- **オーサリング表示**： この表示セットでは、ガイド、特殊キャラクタ、ビジュアルインジケータ、ルーラーが表示されます。

表示セットを作成するには、最初に、表示セットに保存する表示オプションのみを有効にします。次に、**表示 > 表示セット > 表示セットとして保存**を選択して**表示セットとして保存**ダイアログボックスを表示し、名前を入力します。また、必要に応じてキーコマンドを割り当てます。

表示セットに切り替えるには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **表示 > 表示セット > [表示セットの名前]**を選択します。
- その表示セット用のキーボードの組み合わせを押します。
- **表示セット**パレット（**表示 > 表示セット > 表示セットの管理**）を表示し、パレットにある表示セットの名前をクリックしてから、**適用**をクリックします（または、表示セットの名前を直接ダブルクリックします）。

作成済みの表示セットを管理するには、**表示 > 表示セット > 表示セットの管理**を選択します。**表示セット**パレットが表示されます。このパレットの上部にあるボタンを使用して、選択した表示セットの**編集**、**適用**、**削除**ができます。



表示セットパレット

表示セットはアプリケーションレベルで保存されます。ただし、表示セットを使用してレイアウトに適用する表示設定は、そのレイアウトとともに保存されます。

プロジェクトとレイアウト

QuarkXPressファイルは**プロジェクト**と呼ばれ、各プロジェクトには1つ以上の**レイアウト**が含まれています。すべてのレイアウトは1つのプロジェクト内に保存され、すべてのプロジェクトには少なくとも1つのレイアウトがあります。各レイアウトは最大2,000ページを含むことができ、サイズは最大で224"×224"（2ページのスプレッドでは112"x224"）です。プロジェクトには、レイアウトを無制限に保存できます。

複数のレイアウトを1つのファイルに保存することができるため、たとえばレターサイズとA4レイアウトサイズの文面が同じ手紙など、種類の異なるドキュメント間でコンテンツを容易に共有できます。

QuarkXPressプロジェクトには、印刷とデジタルの2種類のレイアウトを含めることができます。1つのプロジェクトを使用して、印刷、PDF、ePub、ネイティブアプリ、Kindleブック、HTML5出版物など、各種メディアのコンテンツを作成できます。

プロジェクトの使用

プロジェクトを作成するには、**ファイル > 新規 > プロジェクト**を選択します。**新規プロジェクト**ダイアログボックスが表示されます。



印刷レイアウトタイプ用の**新規プロジェクト**ダイアログボックス

QuarkXPressプロジェクトそれぞれに、少なくとも1つのレイアウトが含まれています。したがって、プロジェクトを作成するときは、そのファイルのデフォルトのレイアウトを指定する必要があります。デフォルトレイアウトの種類を指定するには、**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**印刷**または**デジタル**を選択します。

デジタルレイアウトの詳細は、『QuarkXPressによるデジタルパブリッシング』を参照してください。

QuarkXPressの各国語版で作成されたプロジェクトは、他の言語版で、編集、印刷、保存が可能です。使用可能なスペルチェック辞書と自動ハイフンルールはすべて、各国語版でサポートされています。

印刷レイアウトのオプション

デフォルトのレイアウト名を使用したり、**レイアウト名**フィールドにレイアウトの新しい名前を入力したりできます。

デフォルトでは、プロジェクトの各レイアウトのプロジェクトウィンドウ上部にタブが表示されます。これらのタブが表示されないようにするには、**単独レイアウトモード**をオンにします（プロジェクトに引き続きレイアウトを追加できますが、単独レイアウトモードではなくなります）。

ページ領域では、コントロールを使用してデフォルトレイアウトのページサイズと方向を設定できます。

➡ カスタムのページサイズを使用する方法は、「*カスタムページサイズ*」を参照してください。

見開きチェックボックスでは、スプレッドを作成できます。デフォルト設定が横組みのプロジェクトでは、**左側に奇数ページを許可**チェックボックスによって、左側を奇数ページにできるかどうかを制御できます。デフォルト設定が縦組みのプロジェクトでは、**右側に奇数ページを許可**チェックボックスによって、右側を奇数ページにできるかどうかを制御できます。

テキストボックスの自動作成チェックボックスによってレイアウトのデフォルトマスターページにテキストボックスを追加できます。

マージンガイドのコントロールを使用してレイアウトのデフォルトマージンを設定でき、**コラムガイド**領域では、コントロールを使用してマルチコラムのページをデフォルトで作成できます。

ページ数では、最初に作成するページ数を指定できます。

QuarkXPressプロジェクトの保存と命名

初めてQuarkXPressプロジェクトを保存する場合には、**新規保存**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、プロジェクト名、ロケーション、および種類を指定します。

QuarkXPressプロジェクトを保存するには、**タイプ／タイプとして保存**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

- 変更できるプロジェクトを保存するには、**プロジェクト**を選択します。
- 読み取り専用プロジェクトを保存するには、**プロジェクトテンプレート**を選択します。

レイアウトおよびプロジェクトの書き出し

アクティブなプロジェクト内の1つまたは複数のレイアウトを書き出すには、**ファイル > コピーを保存／以前のバージョンとして保存**を選択します。**ファイル名**フィールドに名前を入力し、**タイプとして保存**および**バージョン**フィールドで種類とバージョンを選択します。

プロジェクトにすべてのレイアウトを書き出すには、**レイアウト**領域の**すべて選択**をオンにします。個々のレイアウトを書き出すには、この領域で各レイアウトにチェックマークを付けます。

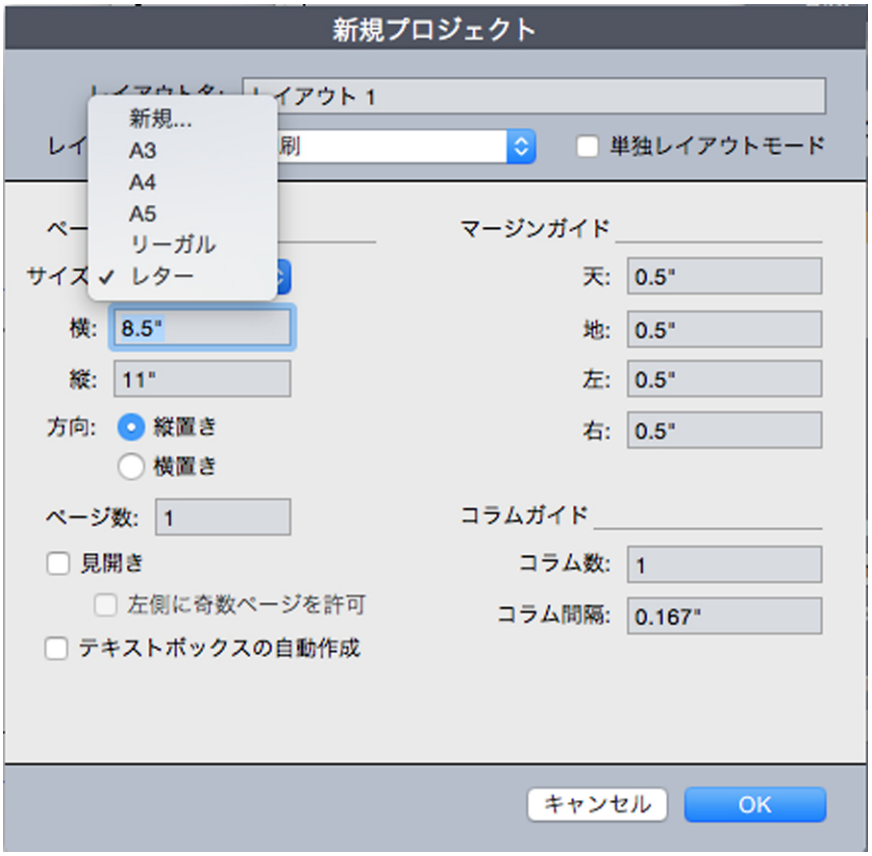
QuarkXPressの以前のバージョンで開くことができるレイアウトを書き出すには、**バージョン**ドロップダウンメニューで、以前のバージョン番号を選択します。

カスタムページサイズ

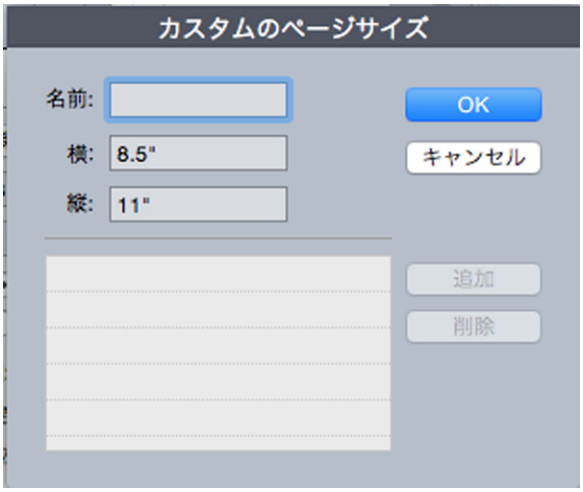
特定のカスタムページサイズを多用する場合、そのページサイズを定義し、**新規プロジェクト**ダイアログの**ページサイズ**ドロップダウンメニューに追加できます。これらのカスタムページサイズは、印刷および電子書籍のレイアウトに使用できます。

カスタムページサイズを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 新規 > プロジェクト**を選択します。**新規プロジェクト**ダイアログボックスが表示されます。
2 **レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**印刷**または**デジタル**を選択します。



3 **ページサイズ**：ドロップダウンメニューから**新規**を選択します。**カスタムページサイズ**ダイアログボックスが表示されます。



4 新しいカスタムページサイズの**名前**を入力し、**幅**と**高さ**を定義します。方向は、**幅**と**高さ**に入力された値に応じて自動的に割り当てられます。

➡ 複数のカスタムページサイズを作成するには、**追加**をクリックします。新しいカスタムページサイズがリストに表示され、別のサイズを作成できるようになります。カスタムページサイズを削除するには、リストでそのサイズを選択し、**削除**をクリックします。カスタムページサイズを編集するには、リストでそのサイズを選択し、**幅**と**高さ**フィールドを再定義します。

5 OKをクリックします。

作成したカスタムページサイズはすべて**新規プロジェクト**および**新規レイアウト**ダイアログボックスの**ページサイズ**ドロップダウンメニューに表示され、新しい印刷および電子書籍形式のレイアウトを作成するときに選択できますが、印刷レイアウト用に定義されたカスタムページサイズは新しい印刷レイアウトを作成するときのみ使用でき、電子書籍レイアウト用に定義されたカスタムページサイズは新しい電子書籍レイアウトを作成するときのみ使用できます。環境設定を削除し、新しい環境設定を作成すると、カスタムページサイズも削除されます。

➡ **新規レイアウト**ダイアログを使用してカスタムページサイズを作成することもできます（**レイアウト > 新規**）。

レイアウトの使用

レイアウト間の移動、およびレイアウトの追加、複製、削除は簡単です。

デフォルトでは、プロジェクトの各レイアウトのプロジェクトウィンドウ上部にタブが表示されます。Mac OS Xでは、レイアウト名のタブをドラッグアンドドロップすることで、レイアウトタブにレイアウトが表示される順序を変更できます。この設定はドキュメントと共に保存され、順序が保持されます。

レイアウト間を移動するには、プロジェクトウィンドウの上部にあるタブを使用します。

アクティブプロジェクトにレイアウトを追加するには、**レイアウト > 新規**を選択するか、レイアウトタブをクリックし、コンテキストメニューで**新規**を選択します。

レイアウトを複製するには、複製するレイアウトを表示してから**レイアウト > 複製**を選択するか、**レイアウト**タブのコンテキストメニューから**複製**を選択します。レイアウトタイプとして**デジタル**を選択すると、印刷レイアウトをデジタルレイアウトへ複製できます。（詳細は、『Digital Publishing with QuarkXPress』を参照してください。）

レイアウトのプロパティを変更するには、レイアウトを表示して**レイアウト > レイアウトプロパティ**を選択するか、**レイアウト**タブのコンテキストメニューで**レイアウトプロパティ**を選択します。**レイアウトプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、レイアウトタイプに基づく制限付きで、レイアウトプロパティを変更できます。ただし、デジタルレイアウトタイプへの変更や、デジタルレイアウトタイプからの変更はできません（詳細は、『Digital Publishing with QuarkXPress』を参照してください。）

レイアウトを削除するには、レイアウトを表示して**レイアウト > 削除**を選択するか、**レイアウト**タブのコンテキストメニューで**削除**を選択します。

下記のコマンドを使用すると、結果の出力にはアクティブレイアウトだけが含まれます。

- **ファイル > 書き出し形式 > PDF**

- **ファイル > 書き出し形式 > EPS**
- **ファイル > 書き出し形式 > 画像**
- **ファイル > 書き出し形式 > HTML5出版物**
- **ファイル > 書き出し形式 > iOSアプリ**
- **ファイル > 書き出し形式 > ePub**
- **ファイル > 書き出し形式 > Kindle**

➡ レイヤーを作成および編集すると、アクティブなレイアウトに適用されます。

➡ **編集 > 取り消し**などプロジェクトレベルのアクションを実行すると、そのアクションはすべてのレイアウトの取り消し履歴に追加されます。

➡ **補助**メニューの英文スペルチェックを実行すると、アクティブレイアウトだけがチェックされます。

➡ **編集**メニューの**検索／置換**機能で検索できるのは、アクティブレイアウトだけです。

プロジェクトレベルリソースとレイアウトレベルリソース

リソースには、プロジェクトレベルで定義されるリソースと、レイアウトレベルで定義されるリソースがあります。

プロジェクトレベルリソース

プロジェクトレベルリソースは、プロジェクトのすべてのレイアウトで使用することができ、使用されるすべてのレイアウトで同じです。プロジェクトレベルリソースには、アプリケーション環境設定、スタイルシート、カラー、H&J、リスト、およびダッシュとストライプがあります。

➡ 作成するすべてのリスト定義はプロジェクト内の任意のレイアウトで使用できますが、リストは、リストを作成するときのアクティブなレイアウトからのみ描画されます。

レイアウトレベルリソース

レイアウトレベルリソースは、プロジェクトのすべてのレイアウトに固有のリソースにすることができます。レイアウトレベルリソースには、下記のリソースがあります。

- レイアウト環境設定（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > レイアウト**）
- カーニング設定
- トラッキング設定
- 例外ハイフン
- ズーム値

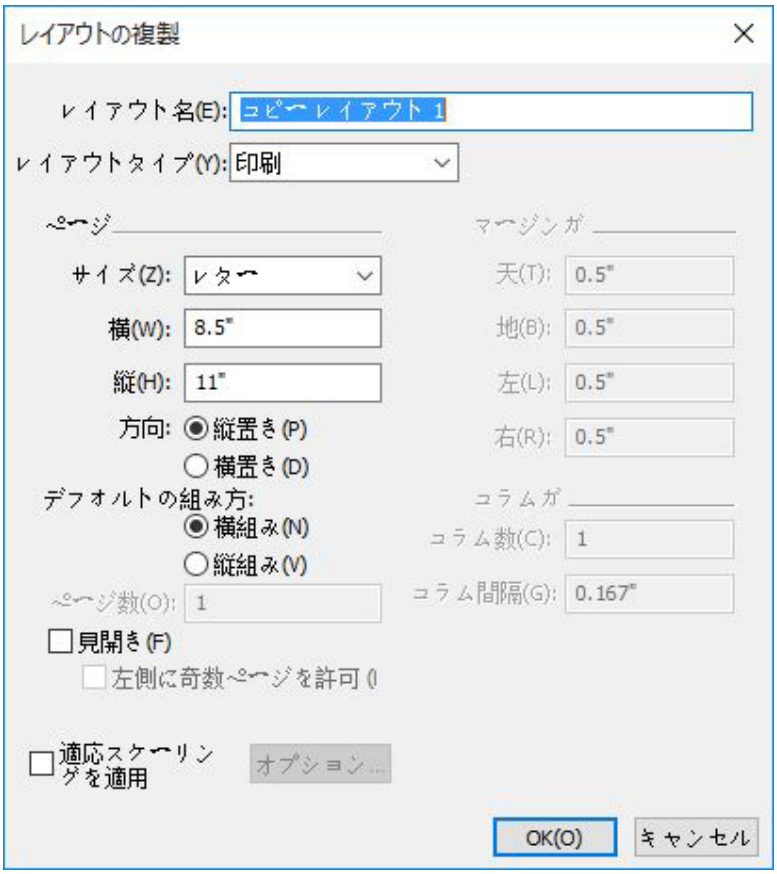
適応型サイズ変更

ここでは、**レイアウトプロパティ**ダイアログの**レイアウトの複製**で利用可能な、**適応型サイズ変更の適用**オプションについて説明します。

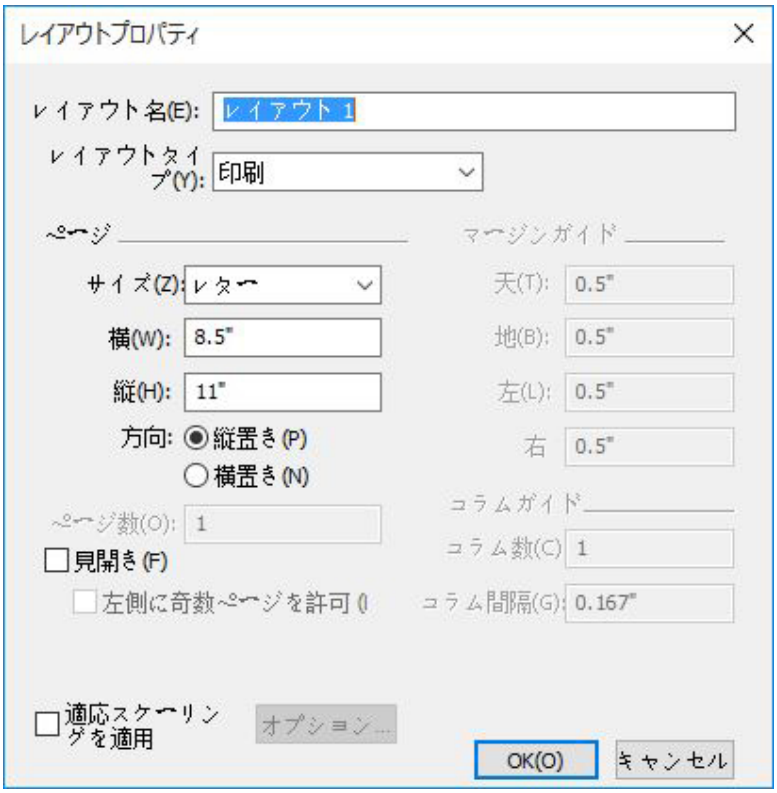
➡ このオプションは、**印刷**レイアウトの**レイアウトプロパティ**ダイアログでのみ使用できます。

この機能を使用すると、設定可能な一連のルールに基づいてアイテムのサイズを変更し、新しいサイズでほぼそのまま使用可能なレイアウトを得ることができます。

1 レイアウトを複製する際に適応型サイズ変更を適用するには、**レイアウト > 複製**を選択します。**レイアウトの複製**ダイアログが表示されます。

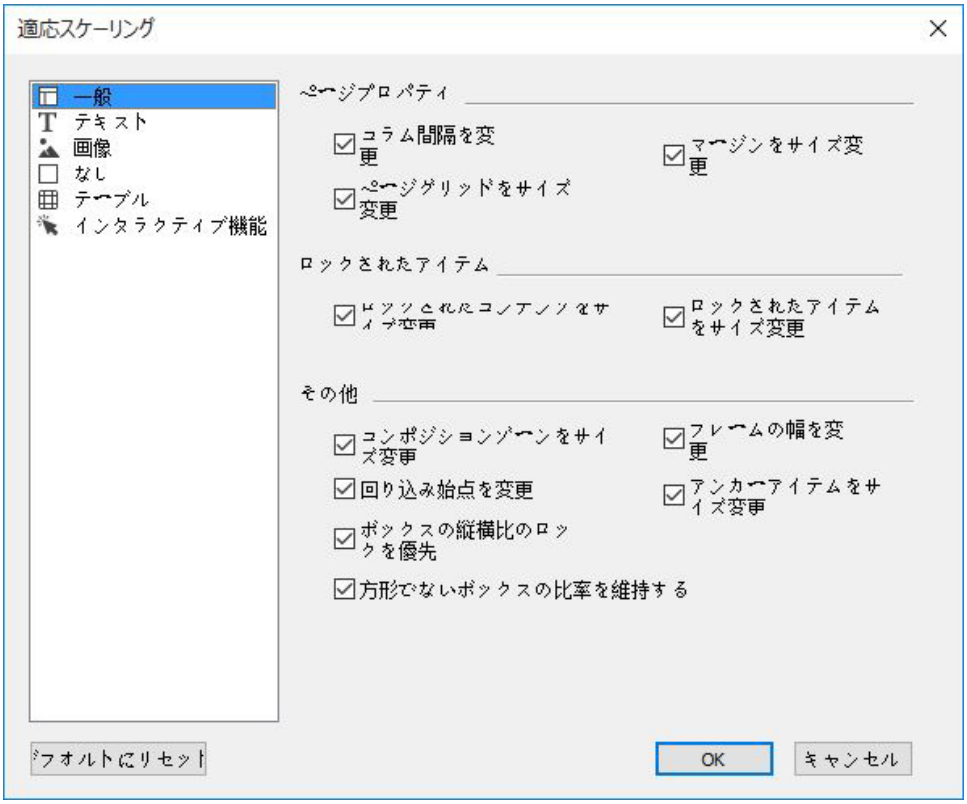


アクティブな**印刷**レイアウトに適応型サイズ変更を適用するには、**レイアウト > レイアウトプロパティ**を選択します。**レイアウトプロパティ**ダイアログが表示されます。



2 **適応型サイズ変更の適用**をオンにします。

3 **オプション**をクリックし、レイアウト上のアイテムのサイズを変更するルールを設定します。**適応型サイズ変更**ダイアログが表示されます。



4 ダイアログを使用し、レイアウト上のアイテムのサイズを変更するルールを設定します。**適応型サイズ変更**ダイアログでは、レイアウトに存在するページのプロパティ、ロック

されたアイテム、テキスト、画像、ボックス、ライン、テーブル、および任意のインタラクティブ機能アイテムのルールを設定できます。

5 OKをクリックします。

適応型サイズ変更を使用する前に、ファイルのコピーを作成することをお勧めします。これは、**適応型サイズ変更**ダイアログで、**テキスト**、**画像**、**なし**タブの**ボックス属性およびコンテンツを同期**オプションをオンにした場合は、特に重要です。このオプションはソースレイアウトに影響し、また共有は取り消しできません。これによって、**コンテンツ**パレットに多数のアイテムが追加されます。

ガイドの使用

ガイドとは、印刷されないガイドラインのことで、レイアウト上にアイテムおよびテキストを配置するときに役立ちます。 ガイドには、 **ルーラーガイド**、 **コラムおよびマージンガイド**、 **ダイナミックガイド**の3種類があります。

デザイングリッドも印刷されないガイドラインで、テキストサイズおよび位置に従ってアイテムやテキストを整列させるときに使用できます。

詳細は、「*ガイドパレット*」および「*デザイングリッドの理解*」を参照してください。

コラムガイドおよびマージンガイド

マージンガイドおよびコラムガイドは、ページの外側のマージンの位置およびコラムの配置場所を示します。

印刷レイアウトを新たに作成すると、自動的にコラムガイドとマージンガイドが配置されます。各ガイドの位置は、**新規プロジェクト**ダイアログボックス（**ファイル > 新規 > プロジェクト**）の**コラムガイド**フィールドおよび**マージンガイド**フィールド、または**新規レイアウト**ダイアログボックス（**レイアウト > 新規**）で指定できます。

プロジェクトウィンドウにマスターページが表示されると、**マスターガイド＆グリッド**ダイアログボックス（**ページ > マスターガイド＆グリッド**）を使用してコラムガイドおよびマージンガイドの配置場所を変更できます。**新規プロジェクト**ダイアログボックス（**ファイル > 新規 > プロジェクト**）または**新規レイアウト**ダイアログボックス（**レイアウト > 新規**）で**テキストボックスの自動作成**チェックボックスをオンにしている場合は、**マージンガイド**領域で指定した値によって、自動作成されるテキストボックスのサイズと配置場所が決まります。

コラムガイドおよびマージンガイドの作成については、「*マスターページグリッドの設定*」を参照してください。

詳細は、「*ガイドパレット*」を参照してください。

ルーラーガイド

ルーラーガイド（または単に「ガイド」）は、手動で配置できる印刷されないガイドラインです。縦横揃えルーラー（**表示 > ルーラー**）からドラッグして、ルーラーガイドを作成できます。マスターページおよび個々のレイアウトページ上で、ルーラーガイドを作成できます。

- 水平ルーラーガイドを作成するには、上部ルーラーをクリックします。↕ポインタが表示されたら、ルーラーガイドをページ上の位置にドラッグします。垂直ルーラーガイドを作成するには、垂直ルーラーをクリックします。↔ポインタが表示されたら、ルーラーガイドをページ上の位置にドラッグします。ルーラーガイドをドラッグするときに**メジャー**パレットが開いていると、垂直ルーラーガイドの場合は**X**フィールドに、水平ルーラーガイドの場合は**Y**フィールドに、ガイドの位置が示されます。
- 水平ルーラーガイドの作成時、ルーラーガイドがペーストボード上にあるときにマウスボタンを放すと、スプレッドのペーストボードおよび全ページにわたってルーラーガイドが延長されます。水平ルーラーガイドがドキュメントページ上にあるときにマウスボタンを放すと、ルーラーガイドはそのページにのみ表示されます。
- ルーラーガイドの位置を変更するには、ルーラーガイドをクリックしてから、ガイドポインタが表示されているときに別の位置にドラッグします。また、**アイテム**ツールを選択した状態でルーラーガイドをダブルクリックし、**Guide Manager Pro**ダイアログボックスに新しい位置を入力できます。
- ルーラーガイドを消去するには、ガイドをページ外にドラッグします。
- あるページからすべてのルーラーガイドを消去するには、ページの一部が表示されるまでスクロールし、Option／Altキーを押しながらガイドをドラッグしてルーラーに戻します。
- スプレッドのペーストボードからすべてのルーラーガイドを消去するには、ペーストボードの一部が表示されるまでスクロールし、Option／Altキーを押しながらルーラーの一部をクリックします。

「*ガイドパレット*」も参照してください。

ガイドへの吸着

QuarkXPressでは、ガイドの近くにアイテムをドラッグするとアイテムが自動的にガイドに揃えられる、いわば「磁場」をガイドの周囲に作ることができます。この機能は**ガイドへの吸着**（**表示**メニュー）と呼ばれ、磁場の幅を**ガイド吸着距離**と呼びます。

QuarkXPressコントロールで吸着を制御するには、**表示** > **ガイドへの吸着**をチェックします。距離を指定するには、**QuarkXPress／編集** > **環境設定** > **印刷レイアウト** > **ガイドとグリッド**を選択して、**ガイド吸着距離**フィールドにピクセル値を入力します。

表示 > ページグリッドへの吸着を選択して、マスターページグリッドにアイテムを揃えることもできます。**ガイド吸着距離**フィールドの値は、マスターページグリッドにも適用されます。詳細は、「*デザイングリッドへのアイテムの吸着*」を参照してください。

ダイナミックガイド

ダイナミックガイドはページのアイテムを作成または操作するときに一時的に表示されるガイドで、印刷はされません。これらのガイドは、レイアウト内でアイテムと、他のアイテムやページとの相対位置を揃えるために役立ちます。表示されるダイナミックガイドやフィードバックの種類を指定できます。

アイテムの作成、変換、または移動を行うとき、新しいアイテムと既存のアイテムやページとの相対位置を指定するため、ダイナミックガイドが自動的に表示されます。

ガイドをオン／オフするには、**表示 > ダイナミックガイド > ダイナミックガイドを表示／隠す**を選択します。

表示 > ダイナミックガイドサブメニューを使用して下記のオプションを選択すると、ダイナミックガイドの表示時期と表示方法を変更できます。

- **アイテムの中央に揃える**を選択すると、アイテムの中心を他のアイテムの中心やエッジと揃えるとき、ガイドラインが生成され、表示されます。これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **アイテムのエッジに揃える**を選択すると、アイテムのエッジを他のアイテムのエッジと揃えるとき、ガイドラインが生成され、表示されます。これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **ページの中央に揃える**を選択すると、アイテムのエッジや中央をページの中央に揃えるとき、ガイドラインが生成され表示されます。これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **同じ寸法で表示**を選択すると、アイテムの寸法が他のアイテムの寸法と等しいとき、ガイドラインが生成され表示されます。これらは、アイテムの作成およびサイズ変更時に表示されます。
- **同じ間隔で表示**を選択すると、アイテム間の水平または垂直の距離が、ページ上の他のアイテム間の距離と等しいとき、ガイドラインが生成され表示されます。これらは、アイテムの作成および移動時に表示されます。
- **寸法／間隔の単位を表示**を選択すると、**同じ寸法で表示**が選択されているときは寸法の値、**同じ間隔で表示**が選択されているときは間隔の値が表示されます。

➡ このオプションは、**同じ寸法で表示**または**同じ間隔で表示**が選択されているときのみ利用可能です。

➡ デフォルトではダイナミックガイドはオンで、すべてのオプションが選択されています。

➡ **アイテムの中央に揃える**および**アイテムのエッジに揃える**が選択されている場合は、他のテキストボックスの中心やエッジを揃えるときだけでなく、周囲のテキストボックスに含まれているコラムの中央やエッジを揃えるときも、ガイドが生成されます。

Windowsでは、**環境設定**ダイアログボックスの**ダイナミックガイドのカラー**ペインを使用して、ダイナミックガイドの種類ごとにカラーを指定できます。「*環境設定 - アプリケーション - ダイナミックガイドのカラー*」を参照してください。 Mac OS Xでは、**環境設定**ダイアログボックスの**カラーテーマ**ペインを使用して、ダイナミックガイドのカラーを設定できます。「*環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ*」を参照してください。

アクションの取り消しおよびやり直し

編集メニューの**取り消し**コマンドは、アイテムに対して実行された最後のアクションを元に戻します。たとえば、画像ボックスを誤ってカットしてしまった場合、**取り消し**コマンドを使用して、画像ボックスをクリップボードからレイアウト内に戻すことができます。**編集**メニューの**やり直し**コマンドで、取り消したアクションを再度実行できます。

最後に実行したアクションを元に戻すには、**編集 > 取り消し**（Command+Z/Ctrl+Z）を選択します。メニューアイテムでは、取り消しできるアクションが特定されます。たとえば、**削除の取り消し**コマンドは、**アイテム > 削除**コマンドを使用した後に、**編集**メ

ニューで使用できます。**取り消し**機能を使用できない場合は、**取り消し不能**がグレーのテキストで表示されます。

アクションを再度実行するには、アクションを取り消した後で、**編集 > やり直し**（Command+Shift+Z/Ctrl+Y）を選択します。

ネイティブのQuarkXPressオブジェクト

QuarkXPressでは、Excel、Illustrator、PowerPoint、InDesignなど他のアプリケーションや、PDF、Illustrator、WMF、EPSファイルのアイテムを、ネイティブのQuarkXPressオブジェクトへ変換できます。

これによって、次のような作業が可能になります。

- AI、WMF、EPS、PDFなど、サポートされているファイルフォーマットから、ロゴなどのベクトルデータを変換して編集する。
- 編集可能なPDFを変換し、コンテンツを更新して、PDFまたはQuarkXPressでサポートされている他のフォーマットで再発行する。
- PDFからカラーや組版を抽出し、QuarkXPressで使用する。

ネイティブのQuarkXPressオブジェクトは、下記の方法で取得できます。

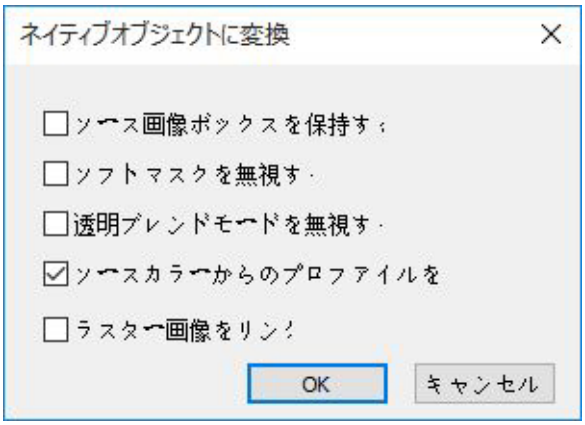
- **既存のアイテムの変換**：ドキュメントに取り込まれているファイルを、ネイティブのQuarkXPressオブジェクトへ変換します。
- **アイテムの取り込み**：アイテムをコピーしてから、ネイティブのQuarkXPressオブジェクトとしてペーストします。

これによって生成されるオブジェクトは、ベクトルグラフィックの完全に編集可能なベジエ版、および編集可能テキストです。カラーとフォントの情報は自動的に抽出されます。

既存のアイテムからネイティブのQuarkXPressオブジェクトへの変換

既存のアイテムをネイティブのQuarkXPressオブジェクトへ変換するには、下記の手順に従ってください。

1 オブジェクトを右クリックし、コンテキストメニューの**ネイティブオブジェクトへ変換**を選択します（または、**スタイル > ネイティブオブジェクトへ変換**を選択します）。**ネイティブオブジェクトへ変換**ダイアログが表示されます。



➡ 変換する画像には、ベクトルまたはテキストコンポーネントが含まれている必要があります。ラスターのみの画像では、**ネイティブオブジェクトへ変換**機能はサポートされません。

2 変換されたオブジェクトと、取り込まれたソース画像とを比較するには、**ソース画像ボックスの保持**をオンにします。

3 ソース画像のソフトマスクを変換から除外するには、**ソフトマスクを無視**をオンにします。

4 ソース画像に適用されている透明なブレンドを無視するには、**透明ブレンドモードを無視**をオンにします。

5 **ソースカラーのプロファイルを無視**をオンにすると、ソースファイルの画像に埋め込まれているプロファイルは無視されます。その代わりに、QuarkXPressの汎用プロファイルへマップされます。

6 PDFのラスター画像をPDF画像としてディスクへ保存するには、**ラスター画像のリンク**をオンにします。保存済みプロジェクトのリンク付き画像は、プロジェクト名と画像番号が追加され、フォルダに保存されます。保存されていないプロジェクトについては、OSの一時フォルダに作成されます。

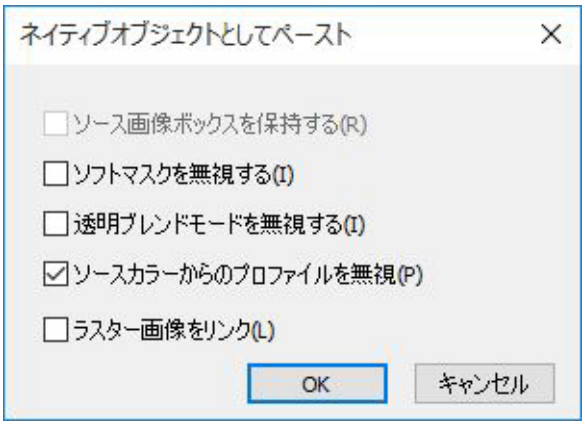
7 **OK**をクリックします。

オブジェクトをネイティブのQuarkXPressオブジェクトとして取り込む

アイテムをネイティブのQuarkXPressオブジェクトとして取り込むには、下記の手順に従ってください。

1 オブジェクトを、対象のアプリケーションからクリップボードへコピーします。

2 プロジェクトで、オブジェクトを配置する場所を右クリックし、コンテキストメニューの**ネイティブオブジェクトとしてペースト**を選択します（または、**編集 > ネイティブオブジェクトとしてペースト**を選択します）。**ネイティブオブジェクトとしてペースト**ダイアログが表示されます。



➡ このダイアログをスキップするには、コンテキストメニューの**ネイティブオブジェクトとしてペースト**を選択するとき、**Option**キー（**Mac OS X**）または**Alt**キー（**Windows**）を押したままにします。

➡ このダイアログで選択したオプションは保存され、ダイアログを表示しない選択をしたときに使用されます。

3 ソース画像のソフトマスクを変換から除外するには、**ソフトマスクを無視**をオンにします。

4 ソース画像に適用されている透明なブレンドを無視するには、**透明ブレンドモードを無視**をオンにします。

5 **ソースカラーのプロファイルを無視**をオンにすると、ソースファイルの画像に埋め込まれているプロファイルは無視されます。その代わりに、QuarkXPressの汎用プロファイルへマップされます。

6 **ラスター画像のリンク**をオンにすると、ラスター画像の変換するプロジェクトが保存され、保存するプロジェクトのソースPDFからリンクされます。保存されていないプロジェクトについては、OSの一時フォルダに作成されます。

7 **OK**をクリックします。

プロジェクトにアイテムが、ネイティブのQuarkXPressオブジェクトとしてペーストされます。

➡ そのアイテムに含まれているフォントがシステムにインストールされていない場合、警告が表示されます。このとき、システムで利用できないフォントのリストを表示でき、それらを置き換えることもできます。

コンテンツ変数

コンテンツ変数は、ドキュメントに挿入するアイテムで、コンテキストにより変化するものです。たとえば、**最後のページ番号**変数は、ドキュメントの最後のページのページ番号を表示します。ページを追加または削除すると、それに応じて変更がアップデートされます。

コンテンツ変数は、テキストと同様に回り込みおよび改行され、必要に応じてハイフネーションも行われます。

コンテンツ変数内のテキストは、**検索／置換**パレットを使用して検索できます。検索対象のテキストがコンテンツ変数内に含まれている場合、変数の全体がハイライトされます。

現在のプロジェクトに含まれているすべての変数をハイライトするには、**表示 > コンテンツ変数をハイライト**を選択します。

QuarkXPressには、下記のプリセットコンテンツ変数が含まれており、ドキュメントに挿入できます。

- 作成日
- 現在のページ番号
- ファイル名
- 最後のページ番号
- 修正日
- 次のページ番号
- 出力日
- 前のページ番号

これらの変数の形式を編集するか、独自の変数を作成できます。

定義済みの変数のセットに加えて、以下のようなテキストタイプの追加変数を作成できます。

- カスタム変数：テキスト文字列を他の定義済み変数と組み合わせることができます。
- 継続ヘッダー：この変数タイプは、ドキュメント内で段落または文字のスタイルシートを参照し、ソースデータを選択するために使用します。この変数タイプをマスターページに適用して、継続ヘッダーを自動的に更新できます。 **たとえば、左側のページに書籍のタイトルを、右側のページにチャプター／セクションのタイトルを表示できます。**

- ページ参照：この変数は、既存のアンカー機能を使用して既存のレイアウトオブジェクトへの参照を作成します。このオブジェクトはドキュメント内の別の場所から参照でき、参照先のオブジェクトのページ番号を含めることもできます。
- スタティックテキスト：単純なスタティックテキスト変数を作成し、ドキュメントのどこにでも挿入できます。たとえば、ドキュメント全体で同じ企業名を参照し、それらの企業名を同時に変更するような場合は、この変数を使用すると便利です。

コンテンツ変数の編集

コンテンツ変数を編集するには、**ウィンドウ > コンテンツ変数**を選択し、**コンテンツ変数**パレットを表示します。このパレットの上端にあるボタンを使用して、コンテンツ変数の追加、編集、複製を行えます。既存のコンテンツ変数を選択してボタンをクリックすると編集でき、ボタンをクリックすると新しいコンテンツ変数を追加できます。

コンテンツ変数の編集ダイアログボックスが表示されます。

新しいコンテンツ変数を追加するときは、**補助 > コンテンツ変数**を選択し、ドロップダウンメニューから**新規**を選択しても、このダイアログを表示できます。

名前フィールドに名前を入力します。新しいコンテンツ変数を追加する、または既存のコンテンツ変数を複製するときは、ドロップダウンメニューからコンテンツ変数の**タイプ**を選択します。コンテンツ変数の属性を指定します。これらの属性は、編集するコンテンツ変数のタイプによって異なります。

- 作成日： 作成日には、ドキュメントが最初に保存された日時が挿入されます。日付の前や後にテキストを挿入でき、すべての日付変数について、ドロップダウンメニューを使用して日付形式を変更できます。
- 現在のページ番号： この変数は、現在のプロジェクトにおける現在のページ番号を、ドキュメントへ挿入します。
- カスタム変数：詳細は、「*カスタムコンテンツ変数の作成*」を参照してください。
- ファイル名 この変数は、現在のファイル名をドキュメントへ挿入します。選択 ファイル名の拡張子を含めるには、**拡張子を含める**をチェックします。ファイル名変数は、ファイルを新しい名前で保存、または新しい場所へ保存するごとにアップデートされます。 拡張子は、ドキュメントが保存されるまでは表示されません。
- フローボックスのページ番号：この変数は、現在のボックスが複数のページにまたがり、それらのページが連続していない可能性があるとき、継続先（または継続元）のページ番号を挿入します。 **コンテキスト**ドロップダウンメニューから、**次のボックス**または**前のボックス**を選択し、ボックスの継続先と継続元のどちらのページ番号を挿入するかを指定します。
- 最後のページ番号： この変数は、現在のプロジェクトに含まれる最後のページ番号を、ドキュメントへ挿入します。 最後のページ番号のタイプは、一般的な**3/12ページ**の形式を使用して、ドキュメントのヘッダーやフッターに合計ページ数を追加するために便利です。この場合、12という数値は最後のページ番号によって生成され、ページが追加または削除されるたびにアップデートされます。**範囲**ドロップダウンメニューで、セクションとレイアウトのどちらについて最後のページ番号を使用するかを選択します。

- 修正日： 修正日には、ドキュメントが最後に保存された日時が挿入されます。日付の前や後にテキストを挿入でき、すべての日付変数について、ドロップダウンメニューを使用して日付形式を変更できます。
- 次のページ番号： この変数は、現在のプロジェクトに含まれる次のページ番号を、ドキュメントへ挿入します。**範囲**ドロップダウンメニューで、セクションとレイアウトのどちらについて次のページ番号を使用するかを選択します。
- 出力日： 出力日には、ドキュメントが印刷または書き出しされた日時が挿入されます。日付の前や後にテキストを挿入でき、すべての日付変数について、ドロップダウンメニューを使用して日付形式を変更できます。
- ページ参照：ページ参照変数の前後にテキストを挿入できます。ドロップダウンメニューから**アンカー名**を選択します。**ハイパーリンクの作成**を使用して、テキストにハイパーリンクを作成できます。
- 前のページ番号： この変数は、現在のプロジェクトに含まれる前のページ番号を挿入します。**範囲**ドロップダウンメニューで、セクションとレイアウトのどちらについて前のページ番号を使用するかを選択します。
- 継続ヘッダー：ヘッダーに表示するソーススタイルシートを選択してから、ページで最初に出現する場所、ページで最後に出現する場所、スプレッドで最初に出現する場所、スプレッドで最後に出現する場所のうち、どれを表示するかを選択します。
- スタティックテキスト：このコンテンツ変数を挿入するときに表示されるテキストを入力します。

終了したら、**OK**をクリックします。

➡ コンテンツ変数を追加またはアップデートすると、**補助 > コンテンツ変数**ドロップダウンメニューと**コンテンツ変数**パレット（**ウィンドウ > コンテンツ変数**）にも一覧表示されます。テキストにコンテンツ変数を挿入するとき、新しい変数を利用できるようになります。

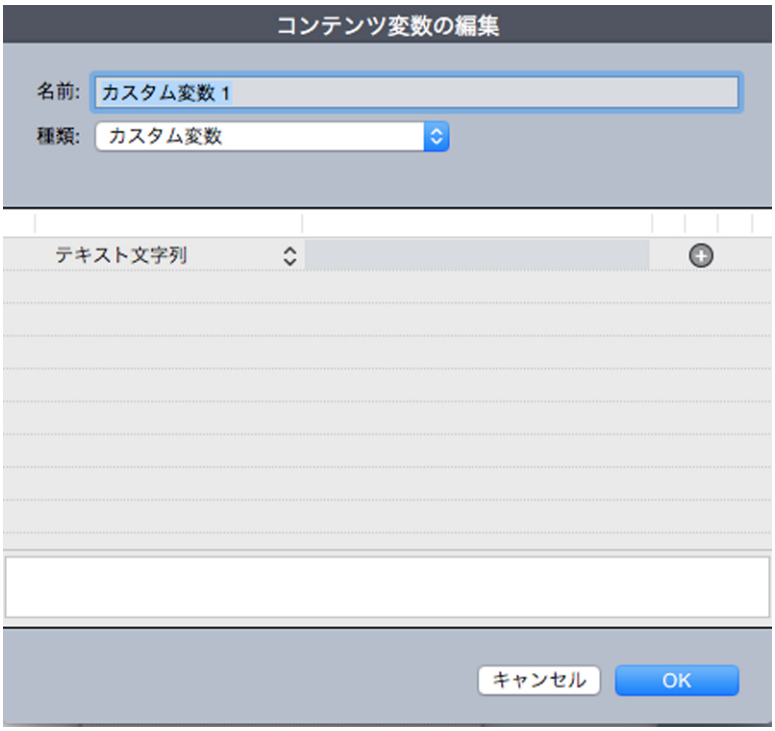
カスタムコンテンツ変数の作成

QuarkXPressで提供されている既存のプリセットコンテンツ変数に加えて、カスタムコンテンツ変数を作成してプロジェクトに使用することもできます。カスタム変数は、テキストストーリー内のどこかでテキストコンテンツを使用し、同じコンテンツを別のストーリーや別の場所でも使用する場合に便利です。カスタム変数のコンテンツを変更すると、使用されているすべての場所で変更されます。

カスタムコンテンツ変数を作成するには、下記の手順に従ってください。

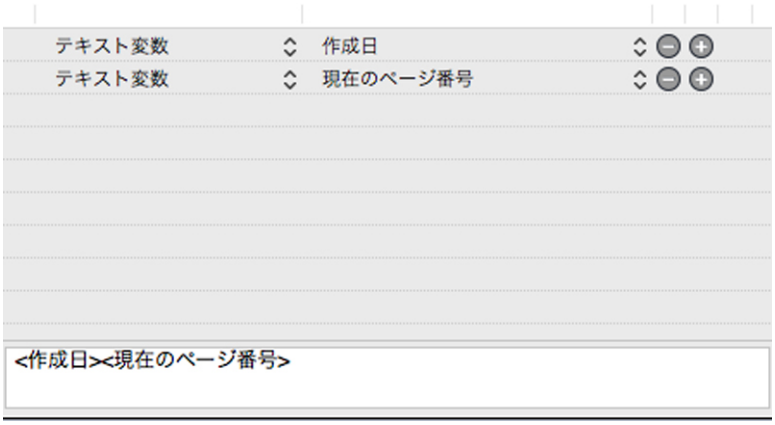
1. 変数を表示する場所に挿入ポイントを置きます。
2. **補助 > コンテンツ変数**を選択し、ドロップダウンメニューで**新規**を選択します。

   コンテンツ変数の編集ダイアログボックスが表示されます。
3. **名前**フィールドに名前を入力します。
4. **タイプ**ドロップダウンメニューで**カスタム変数**を選択します。



5 このカスタムコンテンツ変数を使用するとき、**テキスト文字列**または**テキスト変数**の挿入を選択できます。

- テキスト文字列を挿入するカスタム変数を作成するときは、このコンテンツ変数を挿入したときに表示されるテキストを入力します。テキストに行を追加するには、プラス（+）記号をクリックします。
- テキスト変数を挿入するカスタム変数を作成するには、ドロップダウンメニューで目的のテキスト変数を選択します。 プラス記号をクリックして別のテキスト変数を追加すると、2つ以上のテキスト変数を組み合わせることができます。



6 OKをクリックします。

➡ カスタムコンテンツ変数を追加すると、**補助 > コンテンツ変数**ドロップダウンメニューと**コンテンツ変数**パレット（**ウィンドウ > コンテンツ変数**）にも一覧表示されます。テキストにコンテンツ変数を挿入するとき、新しい変数を利用できるようになります。

コンテンツ変数の挿入

プロジェクトにコンテンツ変数を挿入するには、下記の手順に従ってください。

1. 変数を表示する場所に挿入ポイントを置きます。
2. **補助 > コンテンツ変数**を選択し、挿入する変数をドロップダウンメニューから選択します。

ドキュメントに入力したのと同様に、変数がページに表示されます。

➡ コンテンツ変数は、リストおよびインデックスへ挿入できます。

ボックス、ライン、およびテーブル

使いやすいページレイアウトを作成するには、ボックスを使用する必要があります。ボックスを使用すると、テキストや画像を整然と配置できます。ボックスとは、テキストや画像を含むことができるアイテムであり、ページ上にカラフルなデザイン要素を作成するような場合は、コンテンツなしで作成することもできます。ボックスの境界により、テキストと画像の形状やサイズ、ページ上の位置が決まります。

アイテムとコンテンツの理解

QuarkXPressは、アイテム（コンテナ）とコンテンツ（アイテムの内容）の概念を対象とします。

アイテムとは、ページレイアウトの構成ブロックです。**アイテム**ツールを使用することで、アイテムの移動、サイズ変更、回転、形状変更、カット、コピー、およびペーストなどを実行できます。

基本的なアイテムのタイプを以下に挙げます。

- テキストボックス、画像ボックス、およびコンテンツなしボックスなどを含む**ボックス**。ボックスは、矩形、円、およびベジエなどのさまざまな形状を取ることができます。
- 「標準的な」ラインとテキストを含められるテキストパスを含む**ライン**。ラインもまた、まっすぐにもベジエにもできます。
- 単一アイテムのように振舞うよう、互いに「貼り付け」られたアイテムの集合である**グループ**。
- テキストと画像の両方を含めることができる**テーブル**。

コンテンツは基本的にテキストと画像です。レイアウトを作成するには、通常いくつかのテキストボックスと画像ボックスを描き、そのボックスの中にテキストと画像を挿入します。

アイテムとコンテンツは異なるため、それぞれの操作には異なるツールを使用します。

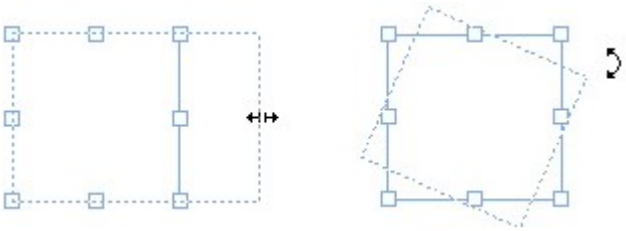
- **テキストコンテンツ**ツールでは、矩形テキストボックスを作成し、テキストボックス内やテキストパス上のテキストを書式設定できます。**テキストコンテンツ**ツールを使用して、テキストのカット、コピーおよびペーストも行うことができます。
- **画像コンテンツ**ツールでは、矩形画像ボックスを作成し、画像ボックス内の画像を操作できます。**画像コンテンツ**ツールを使用して、画像のカット、コピーおよびペーストも行うことができます。

ハンドルの理解

選択したテキストパス、線、およびボックスの境界ボックスには、**アイテムハンドル**という小さな白い四角があります。これらのハンドルを使用して、選択したアイテムをサイズ変更して回転できます。

アイテムハンドル

アイテムをサイズ変更するには、そのアイテムハンドルをクリックしてドラッグします。アイテムを回転させるには、アイテムのいずれかの角ハンドルのすぐ外側をクリックしてドラッグします。マウスのポインタをハンドル上やハンドルの近くに移動すると、マウスのポインタが変化して実行できるアクションを示します。



アイテムハンドルを使用して、アイテムのサイズ変更や回転を行うことができます。

画像ハンドル

画像コンテンツツールを選択して、画像を含む画像ボックスをクリックすると、ハンドルを示す大きな円と一緒に画像が表示されます。このようなハンドルを、**画像コンテンツハンドル**と呼びます。画像オーバーレイの任意の部分をクリックすると、移動ポインタを使用して、画像ボックス内で画像を移動できるようになります。



画像コンテンツハンドルが表示された画像ボックス

選択された画像がその画像ボックスのサイズよりも大きい場合でも、画像コンテンツハンドルは表示されます（上図参照）。ボックスの境界をはみ出して画像が表示されます。画像ボックスをサイズ変更して、画像を切り抜くことができます。

画像コンテンツハンドルを使用すれば、その画像ボックスのサイズや角度を変更することなく、画像のサイズ変更や回転を行うことができます。

- サイズ変更ポインタ：

- 回転ポインタ：



回転していないボックス内の回転した画像

画像ボックスを移動したり、透明なオーバーレイがない状態でその切り抜きの見え方を確認したりする場合は、Command／Ctrlキーを押します。これにより、一時的にオーバーレイが解除され、**アイテム**ツールを選択したときと同様にボックスを対話操作できます。

画像ボックスハンドルと画像コンテンツハンドルとが重なる部分にマウスのポインタがある状態で、**画像コンテンツ**ツールでクリックしてドラッグすると、画像のサイズ変更または回転のみが行われます。アイテムハンドルを移動するには、**アイテム**ツールを選択します。

ベジエ形状の理解

ベジエボックスとベジエラインを形状変更するまえに、以下の定義を理解しておく必要があります。

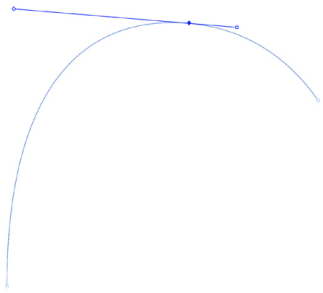
ポイント：ラインセグメントを接続し、ラインセグメントの始点と終点を定義します。曲がったラインセグメントを接続するポイントには、曲線の形状を制御する曲線ハンドルがあります。QuarkXPressには、コーナーポイント、スムーズポイント、およびシンメトリカルポイントの3種類のポイントがあります。

コーナーポイント：コーナーポイントは2本の直線、1本の直線と1本の曲線、または2本の不連続な曲線を接続します。曲線が2本の場合、コーナーポイントの曲線ハンドルは独立して操作でき、2つのセグメント間に鋭角的な変化を持たせることができます。



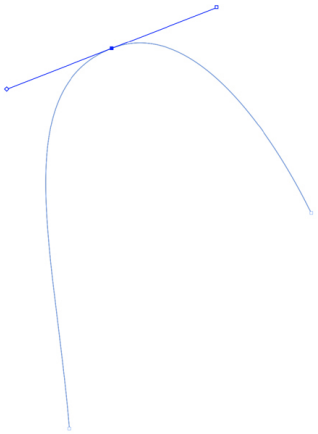
コーナーポイントの例

スムーズポイント：スムーズポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上に残りますが、独立して間隔を開けることができます。



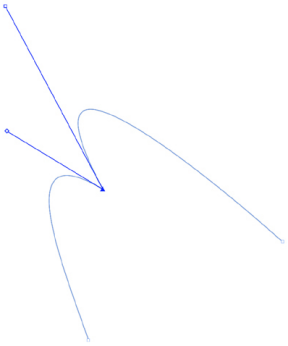
スムーズポイント

シンメトリカルポイント：シンメトリカルポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。結果はスムーズポイントに似ていますが、曲線ハンドルは常にポイントから等距離のところにあります。



シンメトリカルポイント

曲線ハンドル：曲線ハンドルは、ポイントのいずれかの側に伸び、曲線の形状を制御します。



曲線ハンドル（左上）

ラインセグメント：ラインセグメントは、2ポイント間に位置する直線部分または曲線部分です。

ラインセグメント

ポイント選択ツールがアクティブなベジエボックスやベジエライン上に配置されると、ポイント、曲線ハンドル、またはラインセグメントを選択できるかどうかを示すさまざまなポインタが表示されます。ポインタを使用してクリックおよびドラッグし、ベジエボックスやベジエラインを形状変更します。

- 形状を完全に変更するには、**アイテム > 形状**サブメニューから別のオプションを選択します。
- **ベジエペン**ツールを使用してベジエボックスにポイントを追加するには、ラインセグメントをクリックします。または、**ポイント追加**ツールを使用します。
- **ベジエペン**ツールを使用してベジエボックスからポイントを削除するには、ポイントをクリックします。または、**ポイント削除**ツールを使用します。
- **ベジエペン**ツールを使用してポイントを別のタイプのポイントに変換するには、Option／Altキーを押しながらポイントをクリックします。または、**ポイント変換**ツールを使用します。
- **ベジエペン**ツールを使用してポイントを移動またはラインセグメントの形状を変更するには、Command／Ctrlキーを押しながらポイントまたはラインセグメントをドラッグします。
- 曲線やポイントを選択して移動または削除できるようにするには、**ポイント選択**ツールを使用します。複数のポイントを選択するには、Shiftキーを押しながらクリックします。Option／Altキーを押しながらポイントをクリックすると、シンメトリカルポイントになります。

ペンツールを選択しているときにレイアウトをパンするには、Shift+スペースを押して、クリックアンドドラッグします。

ドロップシャドウ

ドロップシャドウを使用すると、レイアウトのアイテムやテキストに、自動的に羽根付きドロップシャドウを適用できます。

アクティブなアイテムにドロップシャドウ効果を適用する方法は2つあります。**メジャー**パレットの**ドロップシャドウ**タブを使用する方法と、**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ドロップシャドウ**ペインを使用する方法です。いずれの方法においても、オプションは下記のとおりです。

- **角度**フィールド：180°から-180°の値（0.001単位）を入力し、ドロップシャドウを作成する「光源」の角度を指定します。
- **角度を同期**チェックボックス：これをオンにすると、この機能がオンにされたレイアウト内のその他のドロップシャドウに、角度を同期します。**角度を同期**がオンになっているドロップシャドウの**角度**値を変更すると、このボックスがオンになっている、すべてのドロップシャドウに変更が反映されます。
- **距離**フィールド：アイテムのオフセット値を入力します。ドロップシャドウのオフセットは、アイテムの境界ボックスの左上の角から測定されます。
- **サイズ変更**フィールド：0から1,000%の値を入力し、元のアイテムに比例するドロップシャドウのサイズを指定します。

- **ぼかし**フィールド：値を入力して、ドロップシャドウのエッジのぼかしを指定します。値が大きいほど、エッジのぼかし効果が大きくなります。
- **傾斜**フィールド：-75°から75°の値を入力し、特定の角度でドロップシャドウを傾斜します。
- **カラー**、**シェード**、**不透明度**：ドロップダウンメニューからカラーを選択し、フィールドに値を入力して、ドロップシャドウのカラー、シェード、および不透明度を指定します。
- **ドロップシャドウを重ねる**：この設定は、シャドウとそのバックグラウンドがどのように連結されるかを制御します。このボックスをオンにすると、シャドウのカラーまたは「乗算」ブレンドモードを使用するカラーは、バックグラウンドと連結し、より暗くなります（オーバープリントに類似した効果です）。このボックスをオフにすると、バックグラウンドのカラーはシャドウのカラーと連結し、画面上に表示される中間シェードを作成します。通常、このボックスは、シェードまたは不透明度の設定に関係なくシャドウが黒である場合にはオンにし、より明るいカラーである場合にはオフにします。
- **アイテムの不透明度を継承する**：ボックスのバックグラウンドとフレームに異なる不透明度を適用する場合など、ドロップシャドウにアイテムによって異なる不透明度を適用するには、これをオンにします。
- **アイテムがドロップシャドウに優先**：これをオンにして、ボックスからシャドウが透過しないようにする場合など、シャドウがアイテムの半透明領域から透過表示されないようにします。
- **ドロップシャドウに回り込み**：これをオンにして、**回り込み**ペイン（**アイテム > 設定**）に指定したテキスト回り込みの輪郭にドロップシャドウを含めます。回り込みの**位置**の値は、ドロップシャドウのエッジから測定されます。たとえば、ドロップシャドウ付きの方形の本文抜粋見出し周囲にテキストが回り込む場合、**ドロップシャドウに回り込み**がオンになっていると、テキストはドロップシャドウに重なりません。

➡ ドロップシャドウ付きのテキストを作成するには、バックグラウンドがなしになっているボックスにテキストを配置し、そのボックスにドロップシャドウを適用します。

➡ 複数のグループ化されていないアイテムにドロップシャドウを適用すると、アイテムが重なる場合に、アイテムは相互にシャドウをかけることができます。ただし、グループにドロップシャドウを適用すると、そのグループ全体に1つのシャドウが適用されます。

アイテム検索／置換

アイテム検索／置換パレット（**編集 > アイテム検索／置換**）を使用して、テキストボックス、画像ボックス、コンテンツなしボックス、ライン、テキストパスに対して検索および置換操作を実行できます。ロケーション、図形、カラー、不透明度、フレームスタイル、画像の縮小率、列数などの属性を検索し、変更できます。



アイテム検索／置換パレット

アイテム検索／置換は、テーブルをサポートしません。

アイテム検索／置換パレットは下記のように動作します。

- 上部のタブには、検索できる属性の種類が表示されます。これらの属性の種類は、**ボックス、ボックスのカラー、フレーム、ライン、画像**、**テキスト**、**ドロップシャドウ**です。各ペインの属性は、アイテムの各種類の**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の属性に対応します。
- 各ペインには、**検索**および**置換**の2つのサイドがあります。パレットの**検索**サイドで検索する属性をチェックしてから、**置換**サイドで変更する属性をチェックします。複数のペインの属性で同時に検索できます。
- パレットメニューでは、パレットの**検索**サイドに、選択したアイテムの属性を配置できます。**属性をすべて取得**を選択して**アイテム検索／置換**パレットのすべてのペインのオプションを指定するか、**パネル属性を取得**を選択して1ペインずつ実行できます。ペインをクリアするには、**すべての属性のクリア**および**パネル属性のクリア**を使用できます。
- **概要**ペインは、すべてのペインの設定を概要表示します。

- パレットの下部にあるチェックボックスを使用すると、特定の種類のアイテムに検索を絞り込むことができます。すべての種類のアイテムを検索置換するには、これらのボックスをすべてオフにします。
- **検索**をクリックすると、アイテム検索／置換機能により、レイアウトの先頭から末尾までの全体が検索されます。アクティブなスプレッドに検索を制限するには、**検索**ボタンをOption／Altキー+クリックします。

ボックスの使用

ボックスには、テキストボックス、画像ボックス、コンテンツなしボックス（コンテンツが**なし**のボックス）の3種類があります。3種類のボックスにはいずれも、カラー、シェード、ブレンド、フレームが含まれています。テキストボックス、画像ボックス、またはコンテンツなしボックスを描画する場合、作成したボックスの種類に対応するコントロールを使用できます。ただし、画像を含む画像ボックスにテキストを取り込んだり、テキストを含むテキストボックスに画像を取り込んだりすることができます。コンテンツの種類だけでなく、図形やボックスの他の属性も変更できます。

テキストボックスおよび画像ボックスの作成

ボックスを作成するには、下記の3つの方法があります。

- コンテンツなしボックス（画像ボックスにもテキストボックスにも変更できるボックス）を作成するには、**方形ボックス**ツール□、**楕円ボックス**ツール○、**星形**ツール☆のいずれかを使用して、クリックアンドドラッグします。テキストコンテンツを宣言するには、コンテンツのないボックスの描画中にTを押します。画像コンテンツを宣言するには、コンテンツのないボックスの描画中にRを押します。
- 方形テキストまたは画像ボックスを作成するには、**テキストコンテンツ**ツール🅃または**画像コンテンツ**ツール🖼を使用して、クリックアンドドラッグします。
- ベジエボックスを作成するには、**ベジエペン**ツール✎を使用します。詳細は、「*ベジエボックスの作成*」を参照してください。

➡ 方形ボックスを正方形に、楕円ボックスを円に制限するには、ドラッグしながらShiftキーを押します。

下記のツールを使用してボックスを作成できます。

コンテンツなしボックスをテキストボックスに変更するには、Command+E／Alt+Eキーを押し、テキストファイルを取り込みます。

コンテンツなしボックスを画像ボックスに変更するには、Command+E／Alt+Eキーを押し、画像ファイルを取り込みます。

アイテム > 形状サブメニュー、または**メジャー**パレットの**ボックスの角のスタイル**ドロップダウンメニューを使用して、方形ボックスのコーナーの種類を丸形、逆角丸形、または角切形に変更できます。角丸形のコーナーを追加および変更するには、**メジャー**パレットの**ホーム**タブで、**ボックスの角半径**フィールドに値を入力します。Windowsでは、**角の半径**フィールド（**アイテム > 設定 > ボックス**タブ）に値を入力することもできます。1つのボックスに適用される属性（フレーム、カラーなど）は、**ツール**パレットの**アイテムの書式のコピー／貼付け**ツール✎を使用してコピーし、他の既存のボックスに適用できます。「*ボックスから別のボックスへの属性のコピー*」を参照してください。

ベジエボックスの作成

ベジエペンツールを使用して、直線および曲線セグメントを持つ複数面のベジエボックスおよびラインを描画できます（「*ベジエ形状の理解*」を参照してください）。

固有の形状を持つボックスを作成する別の方法は、「*シェイプメーカー*」を参照してください。

ベジエボックスを描画するには、下記の手順に従ってください。

1. **ツール**パレットで**ベジエペン**ツールを選択します。十字ポインタをページ上の任意の場所に移動し、クリックして最初のポイントを確定します。
2. 次のポイントにする位置にポインタを移動します。ページに対して45度の角度にポインタの動きを制限するには、Shiftキーを押します。
3. クリックして、ポイントおよびラインセグメントを作成します。
   - ドラッグせずにポイントをクリックすると、直線およびコーナーポイントが作成されます。曲線セグメントおよびスムーズポイントを作成するには、クリックしてから次のポイントにする位置にドラッグします。2つの曲線ハンドルがついたポイントが表示されます。曲線ハンドルをドラッグすれば、カーブのサイズと形状を制御できます。Option／Altキーを押しながらスムーズポイントをドラッグして、曲線セグメントおよびコーナーポイントを作成します。
4. 必要に応じて、描画中にベジエ形状を編集します。
   - 既存の図形セグメントにポイントを追加するには、ポイントを置きたいラインセグメントをクリックします。
   - 描画中にアクティブな図形からポイントを削除するには、削除するポイントをクリックします。
5. ボックスを閉じるには、ラインの開始点にマウスポインタを置いてパスを閉じ、クローズボックスポインタが表示されたらクリックします。

いずれかの描画ツールがアクティブになっている場合、Command／Ctrlキーを押すと、一時的に**ポイント選択**ツールに切り替わります。**ポイント選択**ツールがアクティブな場合、Command+Option／Ctrl+Altキーを押すと、一時的に**アイテム**ツールに切り替わります。

既存のオープンなパスを連結、拡張、またはクローズできます。詳細は、「*オープンなパスの連結、拡張、およびクローズ*」を参照してください。

ボックスのサイズ変更

ボックスのサイズは、境界ボックスのサイズを変更することによって変更できます。境界ボックスは、すべてのボックスを囲んでいる印刷されない矩形の枠です。ボックスのアイテムハンドルは、境界ボックスの境界を定めます。境界ボックスを明確に表示するには、**アイテム**ツールを使用して、ベジエボックス上でアイテムハンドルを選択する方法が最善です。

アクティブボックスは、下記の方法のいずれかを使用してサイズ変更できます。

- **アイテム**ツールまたは**コンテンツ**ツールを選択し、マウスポインタを選択したボックスへ移動すると、サイズ変更ポインタが表示されます。ハンドルをクリックし、新しい位置までドラッグして、ボックスを縮小または拡大します。Shiftキーを押してボックスの縦横比を保持します。Option/Altキーを押して中心からのボックスのサイズを変更します。Command/Ctrlキーを押して、ボックスに合わせてボックスのコンテンツのサイズを変更します。

- **メジャー**パレットの**ホーム**または**複数アイテムの配置**タブの**W**フィールドと**H**フィールドに値を入力して幅と高さを変更し、Return/Enterキーを押します。

➡ キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「*パレット*」を参照してください。

- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**ボックス**タブをクリックします。**幅**フィールドと**高さ**フィールドに値を入力してボックスのサイズを正確に変更し、**OK**をクリックします。

➡ キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「*パレット*」を参照してください。

➡ ボックスの縦横比はロックできます。その場合、Shiftキーを押して縦横比を保持する必要がなくなります。詳細は、「*ボックスや画像の縦横比のロック*」を参照してください。

ボックスや画像の縦横比のロック

選択したボックスの縦横比をロックするには、**メジャー**パレットの**ホーム**タブを表示し、**W**フィールドと**H**フィールドの横にある、縦横比ロックのコントロールをクリックします。このコントロールをロックすると、QuarkXPressでは、サイズ変更時にアイテムの縦横比が保持されます。**Windows**では、**設定**ダイアログボックスの**ボックス**タブでボックスの縦横比をロックすることもできます。



ロック解除状態（上）とロックされた状態（下）の、縦横比ロックのコントロール

選択したボックスの画像の縦横比をロックするには、**メジャー**パレットの**ホーム**タブを表示し、**X%**フィールドと**Y%**フィールドの横にある、縦横比ロックのコントロールをクリックします。このコントロールをロックすると、QuarkXPressでは、サイズ変更時に画像の縦横比が保持されます。Windowsでは、**設定**ダイアログボックスの**画像**タブでボックスの縦横比をロックすることもできます。

縦横比ロック機能をアイテム検索／置換機能とともに使用するには、**アイテム検索／置換**パレット（**編集**メニュー）の**ボックス**または**画像**タブを表示して、**検索**または**置換**領域の**縦横比**をオンまたはオフにします。

縦横比ロック機能をアイテムスタイルとともに使用するには、**アイテムスタイルの編集**ダイアログボックス（**編集 > アイテムスタイル**）の**ボックス**タブまたは**画像**タブを表示して、**縦横比**をオンにします。

ボックスの形状変更

ボックスは下記の3つの方法で形状を変更できます。

- **アイテム > 形状**サブメニューでそれぞれのオプションを選択し、形状を完全に変更できます。
- **（Windowsのみ） 角の半径**フィールド（**アイテム > 設定 > ボックス**タブ）に値を入力すると、方形ボックスに角の丸形を追加したり、変更したりできます。
- **メジャー**パレットの**ホーム**タブまたは**複数アイテムの配置**タブの、**ボックスの角半径**フィールドも使用できます。値を手動で入力するか、フィールドにカーソルを移動し、上／下矢印キーを使用して値を自動的に増減します。Shift／Altキーと上／下矢印キーを組み合わせて使用すると、値の増減の量を変更できます。「*パレット*」の表を参照してください。
- ポイント、曲線ハンドル、およびラインセグメントの位置を変更することによって、ベジエボックスの形状を変更できます。詳細は、「*ベジエ形状の理解*」を参照してください。

ボックスへのフレームの追加

フレームは、任意のタイプのボックスを囲むために使用できる装飾的な境界線です。アクティブなボックスのフレームコントロールにアクセスするには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ） アイテム > フレーム**を選択して、**設定**ダイアログボックスの**フレーム**タブを表示します。
- **メジャー**パレットの**フレーム**タブを表示します。

これらのタブのコントロールを使用して、フレームのスタイル、幅、カラー、および不透明度を指定します。フレームスタイルにギャップが含まれる場合は、ギャップのカラーおよび不透明度を指定することもできます。

編集メニューの**ダッシュ＆ストライプ**ダイアログボックスでユーザー独自のフレームスタイルを作成して、アイテムスタイルでフレーム設定を指定できます。アイテムスタイルについての詳細は、「*アイテムスタイル*」を参照してください。

ボックスへのカラーの適用

アクティブなボックスにバックグラウンドカラーを適用するには、下記のいずれかを実行します。

- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**ボックス**タブをクリックして、**ボックス**領域のコントロールを使用します。

- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を表示し、**バックグラウンドカラー**ボタン をクリックして、パレットのコントロールを使用します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**タブのコントロールを使用します。

これらのタブおよびパレットでは、下記のコントロールを使用できます。

- **ボックスまたはバックグラウンドカラー**：ボックスのバックグラウンドカラーを指定。
- **シェード**：バックグラウンドカラーの色調を指定します（0%＝白、100%＝フルカラー）。
- **不透明度**：ボックスのバックグラウンドの透明度を制御します（0%＝完全に透明、100%＝完全に不透明）。

アイテムスタイルでもボックスのカラーを指定できます。アイテムスタイルの詳細は、「*アイテムスタイル*」を参照してください。

ボックスへのグラデーションの適用

グラデーションは、あるカラーから別のカラーに徐々に変化していく状態です。アクティブなボックスのバックグラウンドにグラデーションを適用するには、「*グラデーションの作成*」を参照してください。

テキストボックスの列数の指定

テキストボックスの列数を指定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）アイテム > 設定**メニューで ***テキスト***タブをクリックし、***列***フィールドと***コラム間隔***フィールドを使用して、テキストボックスの列数と、コラム間隔の幅を指定します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**タブと**テキスト**タブにある、**コラム**フィールドと**コラム間隔**フィールドを使用して、テキストボックスの列の数と、コラム間隔の幅を指定します。



テキストタブの**列の間の線**オプションでは、複数列のテキストボックスで列の間に描画されるラインを指定できます。このラインの高さは、列のテキストの高さに等しくなります。

列に対してテキストがどのように流れるかを制御できます。「*列フローの制御*」を参照してください。

ボックスの融合および分割

アイテムメニューの**パスの融合または分割**サブメニューのオプションを使用すると、既存のボックスから複雑なベジエボックスを作成できます。たとえば、方形ボックスと楕円形ボックスが重なっている場合、このサブメニューのオプションを選択して、同じコ

ンテンツを含む単一のボックスを作成できます。2つの画像ボックスを融合すると、融合されたボックスに1つの画像として表示されます。2つのテキストボックスを融合すると、片方のボックスのテキストは削除されます。

➡ 2つ以上のテキストボックスを融合してテキストを保持するには、「*テキストボックスの融合*」を参照してください。

パスの融合または分割機能を使用するには、アイテムを2つ選択し、**パスの融合または分割**サブメニューで次のいずれかのオプションを選択します。

- **交差**コマンド：アイテムが重なっている領域を保持し、残りの領域を削除します。
- **連合**コマンド：重なっている領域と重なっていない領域の両方を保持し、すべてのアイテムを1つのボックスにまとめます。
- **差分**コマンド：前面にあるアイテムを削除します。重なっている領域はすべて削除されます。
- **逆差分**コマンド：背面にあるアイテムを削除します。重なっている領域はすべて削除されます。
- **排中的交差**コマンド：図形の形状はそのまま保持されますが、重なっている部分はすべて削除されます。削除領域を囲んでいるポイントを編集する場合は、2本の線が交差する場所すべてに表示されている2つのポイントを使用します。
- **連結**コマンド：**排中的交差**コマンドと似ていますが、ポイントで囲まれた削除領域の、2本の直線が交差する位置にポイントは表示されません。
- **分割**コマンド：融合ボックスを複数のボックスに分割したり、パスの中にパスが含まれる複雑なボックスを複数のボックスに分割したり、ボーダーが交差するボックス（数字の8のような形）を分割したりします。この機能を使用するには、アイテムを2つ選択し、**パスの融合または分割**サブメニューで、次のいずれかのオプションを選択します。
- **外側パス**コマンド：重なっていない複数の図形を含む融合ボックスに対して使用します。**外側パス**は、外側のパスの情報をすべて保持し、重なっていない外側のパスを複数のボックスに分割します。
- **全パス**コマンド：複雑なボックス内の**すべての**図形を使用して複数のボックスを作成します。

テキストボックスの融合

2つ以上のテキストボックスを融合してテキストを保持するには、下記の手順に従ってください。

1. 融合するテキストボックスを選択します。
2. **アイテム > テキストボックスの融合**を選択し、サブメニューで下記のいずれかを選択します。
   - **上から下へ** - ボックス内のテキストを、レイアウトに出現する順序で融合します（左から右への次に、上から下への順序）。
   - **選択順** - ボックス内のテキストを、ボックスを選択した順序で融合します。
3. ボックス内のテキストは融合され、単一のボックスに格納されます。

➡ 結果として生成されるテキストボックスのサイズは、選択した領域の境界ボックスに応じて調整されます。**アイテム > ボックスをテキストに合わせる**を使用すると、新しいボックスは含まれるテキストに応じてサイズ調整されます。

➡ 選択されているボックスにリンクされたテキストボックス、ロックされたテキストボックス、ベジエテキストパスのいずれかが含まれている場合、このオプションは無効になっています。コールアウトマーカーが関連付けられているボックス、およびグループ化されているテキストボックスは、他のテキストボックスと融合できません。

ボックスへのテキストと画像の追加

ボックスにテキストを追加するには、**テキストコンテンツ**ツールを選択してボックスをダブルクリックしてから、テキストを入力するか、他の場所からコピーアンドペーストするか、または**ファイル > テキストの取り込み**を選択します。

ボックスに画像を配置するには、**画像コンテンツ**ツールを使用してボックスを選択し、画像を他の場所からコピーアンドペーストするか、**ファイル > 画像の取り込み**を選択します。

ボックスタイプの変更

選択されているボックスのタイプを別のタイプに変換するには、**アイテム**メニューの**コンテンツ**サブメニューから**画像**、**テキスト**、または**なし**を選択します。また、**ファイル > 取り込み**を選択して画像を選択し、テキストボックスを画像ボックスに変更することもできます。**ファイル > 取り込み**を選択してテキストファイルを選択し、画像ボックスをテキストボックスに変更することもできます。

選択されているテキストボックスをテキストパスに変換するには、**アイテム > 形状**サブメニューからラインの形状を選択します。

ボックスツールでは、次の修飾キーを使用してテキストボックスまたは画像ボックスを作成できます。

- テキストボックスを作成するには、描画中にTを押します。
- 画像ボックスを作成するには、描画中にRを押します。

クリッピングパスからのボックスの作成

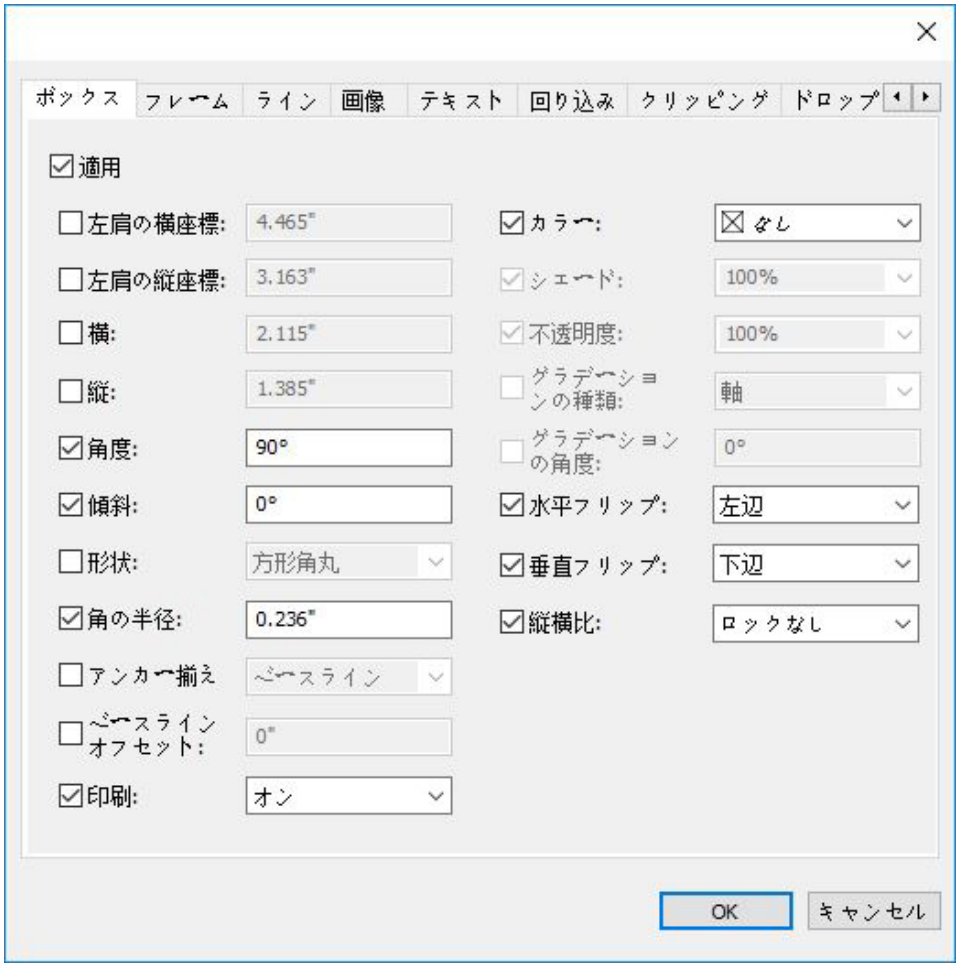
画像ボックスに、（埋め込みまたは自動作成の）関連付けられたクリッピングパスがある場合、画像ボックスを選択して**アイテム > クリッピングパスを新規ボックスで開く**を選択することによって、そのクリッピングパスの形状で新規ボックスを作成できます。

ボックスから別のボックスへの属性のコピー

ボックスに適用されているすべての属性をコピーし、別のボックスに適用するには、下記の手順に従ってください。

1. **ツール**パレットで**アイテムの書式のコピー／貼付け**ツールを選択します。
2. 属性をコピーするボックスを選択し、スポイト で「吸い取り」ます。

➡ 他の属性をツールに追加するには、**Shift**キーを押したままボックスを選択します。次のダイアログが表示されます。



ボックスの属性に必要な変更を加え、**OK**をクリックします。新しい属性は**アイテムの書式のコピー／貼付け**に追加されますが、選択したボックスには適用されません。

3 他のボックスを選択して、コピーされた属性を適用します。

アイテムの書式のコピー／貼付けは、同じプロジェクト内のすべてのレイアウト間で動作し、アイテムの属性を同じレイアウトの他のアイテムや、別のレイアウトのアイテムにコピーできます。

➡ スポイトは、コピーされた属性を別のツール、またはキャンバス上の空白のスペースを選択するまで保持するため、必要なだけの数のボックスを選択し、属性を繰り返し適用できます。

➡ **アイテムの書式のコピー／貼付け**ツールを選択する前に、既にボックスが選択されていた場合、手順3は不要です。手順2を実行すると、コピーされた属性が選択されているボックスへ自動的に適用されます。

高性能連続複製

高機能連続複製を使用すると、アイテムを複製しながら、拡大縮小、回転、および傾斜の変形を加えることができます。

Super Step and Repeatの使用

Super Step and Repeatを使用して、アイテムを回転、拡大縮小、または傾斜しながら、それらのアイテムを素早く簡単に複製できます。Super Step and Repeatの使用については、下記の手順に従ってください。

1 画像ボックス、テキストボックス、テキストパス、またはラインを選択します。

- アイテムが複製される回数を指定するには、**繰り返す回数**フィールドに1から100までの数字を入力します。
- 元のアイテムに対して水平方向にコピーを配置するには、**水平距離**フィールドに値を入力します。負の値を指定すると、元の位置から左にコピーが配置され、正の値を指定すると、右に配置されます。
- 元のアイテムに対して垂直方向にコピーを配置するには、**垂直方向**フィールドに値を入力します。負の値を指定すると、元の位置から上にコピーが配置され、正の値を指定すると、下に配置されます。
- 複製された各アイテムを回転するには、アイテムの**角度**フィールドに、回転値を角度で指定します。たとえば、10を入力すると、初めに複製されたアイテムは、元のアイテムから10度回転し、2つ目の複製アイテムは、元のアイテムから20度回転します。回転は、元のアイテムから時計回りに実行されます。
- 最終的な複製フレーム（画像ボックスまたはテキストボックス）または最終的な複製ライン（テキストパスまたはライン）の厚みを指定するには、**最後のフレーム/ラインの太さ**または**最後のラインの太さ**フィールドにポイント値を入力します。
- ボックスまたはラインを複製するときに、**最後のボックスのシェード**または**最後のラインのシェード**フィールドに0%から100%の値を入力し、最終的な複製ボックスのバックグラウンドカラーのシェードまたは最終的な複製テキストパスまたはラインのラインカラーのシェードを指定します。
- バックグラウンドがブレンドされているボックスを複製すると、**最後のボックスのシェード(2)**フィールドを使用できます。**最後のボックスのシェード(2)**フィールドに0%から100%の値を入力し、最終的な複製ボックスにブレンドの2つ目のバックグラウンドのシェードを指定します。
- 最終的な複製画像ボックス、テキストボックス、テキストパス、またはラインの縮小率を指定するには、**最後のアイテムのサイズ**または**最後のラインのサイズ**フィールドに1%から1,000%の値を入力します。
- 複製ボックスを傾斜するには、**最後のアイテムの傾斜**フィールドに最終的な複製ボックスの傾斜または傾きを75°から−75°の値を入力して指定します。
- 複製ボックスに合わせるように拡大縮小された画像ボックス、テキストボックス、またはテキストパスのコンテンツのサイズを変更するには、**コンテンツのサイズ変更**をオンにします。
- アイテムの回転またはサイズ変更の基準となるポイントを指定するには、**相対サイズ変更/回転の基点**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**相対サイ**

ズ変更/回転の基点ドロップダウンメニューの**選択したポイント**は、ベジエアイテム上のポイントが選択されている場合にのみ利用可能です。

2 OKをクリックします。

シェイプメーカー

シェイプメーカーを使用すると、さまざまな複雑な形状を作成できます。新しい形状を最初から作成するか、または新しい形状を既存のボックスに適用できます。

シェイプメーカーダイアログボックスを表示するには、**補助 > シェイプメーカー**を選択します。

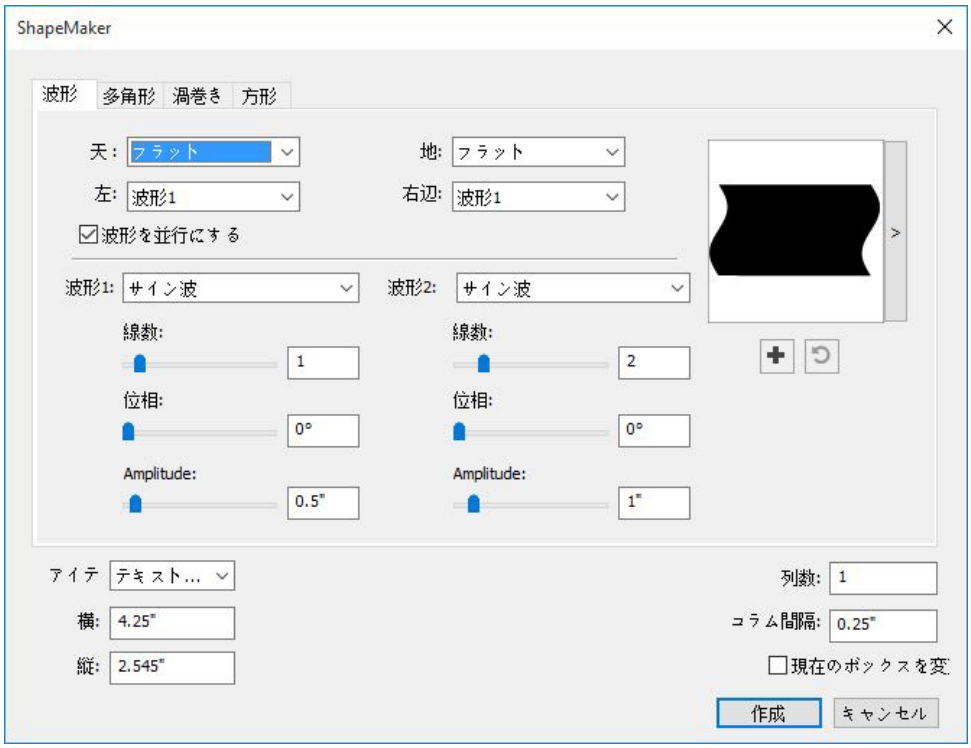
シェイプメーカーダイアログボックスには、さまざまな種類の形状を作成できるタブがあります。すべてのタブに、下記のコントロールがあります。

- **アイテム**：テキストボックス、画像ボックス、コンテンツなしボックス、テキストパス、パスの作成を選択できます。
- **幅**と**高さ**：ボックスまたはパスの幅と高さを指定できます。**補助>シェイプメーカー**を選択したときにアイテムが選択されていると、これらの値は、選択したアイテムに応じて自動的に指定されます。
- **列**と**コラム間隔**：**アイテム**メニューで**テキストボックス**が選択されているとき、これらのフィールドを使用して、テキストボックス内の列数と、コラム間隔の幅を指定できます。
- **行**と**間隔**：**アイテム**メニューで**テキストパス**が選択されているとき、これらのフィールドを使用して、作成する行数と、行間隔を指定できます。（ボックスが選択されており、**行**が0に設定されている場合、アプリケーションはそのボックスにより記述される領域を満たすため必要なだけのパスを作成します。）
- **現在のボックスを変更**：**補助 > シェイプメーカー**を選択したときにボックスが選択されていると、新規アイテムは作成されず、そのボックスの形状が更新されます。

タブ内のコントロールについては、以下のトピッ☒☒☒明します。

シェイプメーカーの波形タブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメーカー**）の**波形**タブでは、側面が波状のボックスを作成できます。このタブを使用するには、使用する波形を**波形1**および**波形2**の領域で定義し、タブの上部にあるコントロールで、その波形をボックスの4つの側面に割り当てます。



シェイプメーカーダイアログボックスの**波形**タブ

波型の設定を指定します。

- **上**、**左**、**下**、**右**：これらのコントロールで、ボックスの4つの側面を設定できます。**波形1**、**波形2**、または**フラット**を選択できます。
- **波形を並行にする**：ボックスのどちらか一方の側面の波形を、もう一方と並行に維持します。
- **波形1**領域と**波形2**領域のコントロールで、使用する波形の種類、波形の周期、波形の位相（出発点）、波形の振幅（深度）を選択できます。

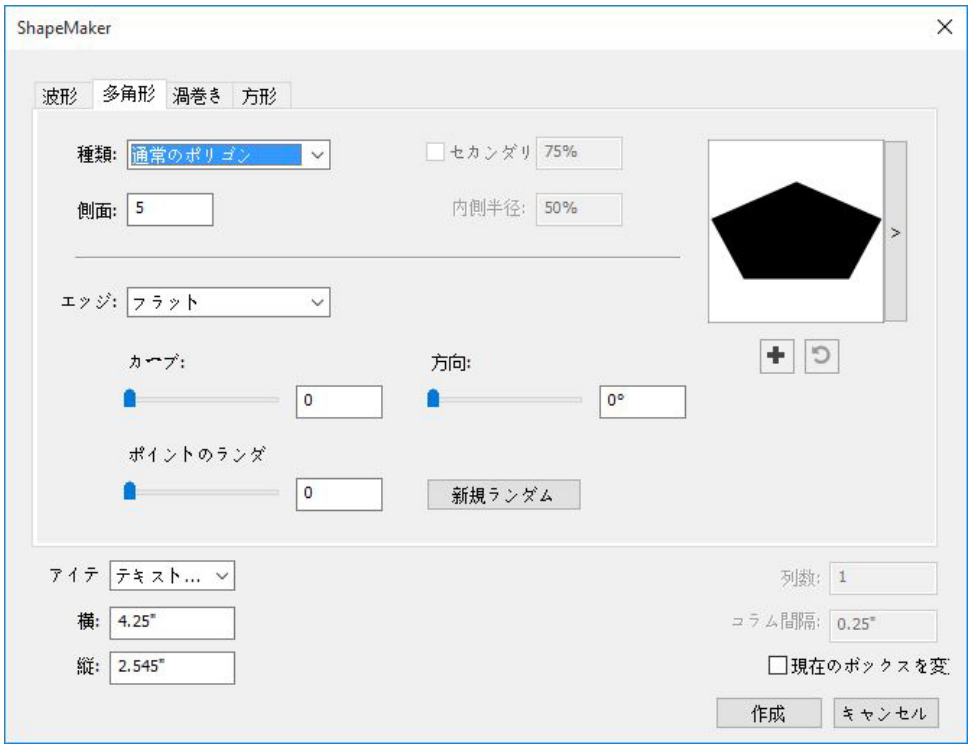
属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、この図形を保存します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

シェイプメーカーの多角形タブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメイカー**）の**多角形**タブでは、多角形のボックスを作成できます。



シェイプメーカーダイアログボックスの**多角形**タブ

多角形の設定を指定します。

- **種類**：ドロップダウンメニューで、作成する多角形の種類を選択します。このドロップダウンメニューのすぐ下にあるコントロールは、選択した多角形の種類に応じて変化します。
  - **通常のポリゴン**：多角形の側面の数を指定できます。
  - **星**：多角形の側面の数を指定する他に、尖端内のスペースの半径を指定したり、サイズの異なるもう1つの星を重ねたりすることができます。
  - **ポリグラム**：**星**と似ていますが、半径を指定する代わりに、側面を相互に合わせる方法を**ポイントスキップ**フィールドで制御できます。
  - **スピログラム**：**ポリグラム**と似ていますが、アウトラインのみ作成します。
  - **ランダムポリゴン**：ランダムな側面の多角形を作成できます。
  - **黄金四角形**：黄金比（約1:1.618）の多角形を作成できます。
  - **ダブルスクエア**：2つの隣接する正方形で多角形を作成できます。
- **エッジ**：ボックスのエッジをフラットにするかカーブさせるかを制御できます。**フラット**以外のオプションを選択した場合は、**カーブ**コントロールで側面のカーブを指定できます。いずれかの**渦巻き**のオプションを選択した場合は、**方向**コントロールで渦巻きの方向を指定できます。
- **ポイントのランダム化**：図形のランダムの度合いを、0（なし）から100（最大）の間で制御できます。
- **新規ランダム**：図形に特定のランダムを適用します。

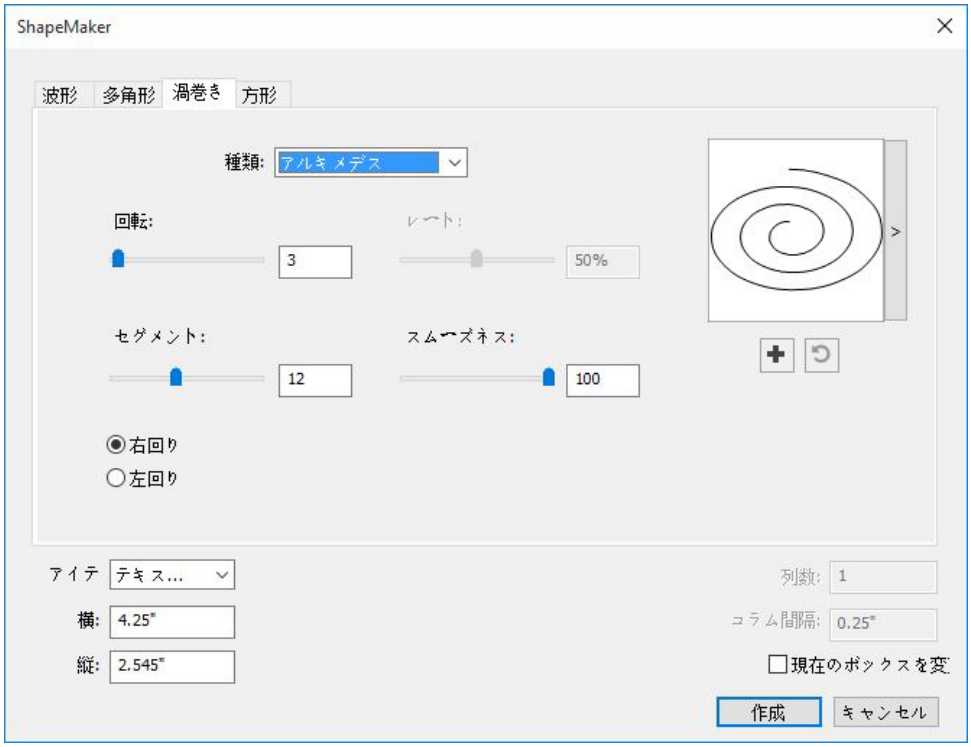
属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、この図形を保存します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

シェイプメーカーの渦巻きタブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメイカー**）の**渦巻き**タブでは、渦巻き形状を作成できます。



シェイプメーカーダイアログボックスの**渦巻き**タブ

渦巻きの設定を指定します。

- **種類**：ドロップダウンメニューで、作成する渦巻きの種類を選択します。
  - **アルキメデス**：均等な間隔の円形の渦巻き。
  - **黄金渦巻き**：黄金比で作成された渦巻き。
  - **カスタム**：**回転**フィールドが利用可能になり、渦巻きが何回転するかを制御できます。
- **レート**：渦巻きの幅を増やす速さを制御できます。
- **セグメント**：渦巻きの円形で、回転ごとにいくつのセグメントを指定可能にするかを制御できます。
- **スムーズネス**：渦巻きのなめらかさを制御できます。**セグメント**や**スムーズネス**の値を小さくすると、よりハードエッジな形状にできます。
- **右回り**と**左回り**：渦巻きの方向を制御できます。

属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、この図形を保存します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

シェイプメーカーの方形タブ

シェイプメーカーダイアログボックス（**補助 > シェイプメーカー**）の**方形**タブでは、方形のボックスを作成して角をカスタマイズできます。



シェイプメーカーダイアログボックスの**方形**タブ

方形の設定を指定します。

- **すべて同じ**をオンにすると、単一のコントロールの組により、形状の4つの角をすべて設定できます。ボックスの角を別々に設定するには、**すべて同じ**をオフにします。
- ドロップダウンメニューを使用して角の種類（**標準**、**丸形**、**角切形**、**逆角丸**、**突起**、**開始位置**）と、直径（直径を含むオプションの場合）を指定できます。
- **カーブ**：カーブを含んでいるオプションを選択した場合は、角のカーブを制御できます。
- **バランス**：一部のオプションでは、角をボックスの側面の方向に傾けるか、上方向に傾けるかを制御できます。
- **同一方向**：一部のオプションでは、ボックスの角をボックスの中央と揃えるかどうかを制御できます。

属性を定義したら、**プリセットの追加**ボタンをクリックし、この図形を保存します。

➡ デフォルトの形状に戻すには、**リセット**ボタンをクリックします。

➡ 定義済みの形状を削除するには、Alt／Optionキーを押したまま、リストでその項目を選択します。

ラインの使用

ラインには、直線とベジエラインの2種類あります。どちらの種類のラインにも、カラーやラインのスタイルを適用できます。

ラインの作成

ラインを作成するには、**ツール**パレットの**ライン**ツールを選択し、十字ポインタをページの任意の場所に移動します。クリックアンドドラッグして、ラインを描画します。

➡ ラインの描画中にShiftキーを押すと、ラインの角度を、0度、45度、または90度に制限できます。

直角ラインツールを使用して直角ラインを作成することもできます。

1つのラインに適用される属性（サイズ、形状、外観など）は、**ツール**パレットの**アイテムの書式のコピー／貼付け**ツールを使用してコピーし、他の既存のラインに適用できます。「*ラインから別のラインへの属性のコピー*」を参照してください。

ベジエラインの作成

ベジエペンツールでは、直線および曲線セグメントを持つ複数面のベジエボックスおよびラインを描画できます（「*ベジエ形状の理解*」を参照してください）。

ベジエラインを描画するには、下記の手順に従ってください。

1. **ツール**パレットで**ベジエペン**ツールを選択します。ページ上の任意の位置に十字ポインタを移動し、クリックして開始ポイントを決定します。
2. 次のポイントにする位置にポインタを移動します。ページに対して45度の角度にポインタの動きを制限するには、Shiftキーを押します。
3. クリックして、ポイントおよびラインセグメントを作成します。

- 曲線セグメントを作成するには、クリックしてから次のポイントにする位置にドラッグします。2つの曲線ハンドルがついたポイントが表示されます。曲線ハンドルをドラッグすれば、カーブのサイズと形状を制御できます。
- コーナーポイントを作成するには、クリックする前にOption／Altキーを押します。曲線ハンドルをクリックしたままドラッグすると、コーナーポイントの半径を指定できます。
- 既存の図形セグメントにポイントを追加するには、ポイントを置きたいラインセグメントをクリックします。

- 描画中にアクティブな図形からポイントを削除するには、削除するポイントをクリックします。

4 ラインを完了するには、ダブルクリックします。

➡ いずれかの描画ツールがアクティブになっている場合、Command／Ctrlキーを押せば、一時的に**ポイント選択**ツールに切り替わります。**ポイント選択**ツールがアクティブな場合、Command+Option／Ctrl+Altを押すと一時的に**アイテム**ツールに切り替えることができます。

直角ラインのラインモード

ラインモードは、**両端**、**左端**、**センター**、**右端**の4つです。**ライン**タブ（**アイテム > 設定**）（Windowsのみ）または**メジャー**パレット（**ホーム**または**複数アイテムの配置**タブ）で選択したモードに応じて、ラインの長さと位置は異なる形式で表現されます。

- **両端**モード：最初の終端について、**X1**フィールドは水平方向の、**Y1**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。最後の終端について、**X2**フィールドは水平方向の、**Y2**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。
- **左端**モード：左側の終端について、**X1**フィールドは水平方向の、**Y1**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。
- **センター**モード：ラインのセンターについて、**XC**フィールドは水平方向の、**YC**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。
- **右端**モード：右側の終端について、**X2**フィールドは水平方向の、**Y2**フィールドは垂直方向の位置をそれぞれ表します。

ラインのサイズ変更

アクティブな直線は、下記の方法のいずれかを使用してサイズ変更できます。

- **アイテム**ツール✣を選択し、矢印ポインタを*ハンドルの理解*へ移動すると、サイズ変更ポインタが表示されます。ハンドルをクリックし、新しい位置までドラッグして、ラインの長さを短縮または伸張します。
- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**ライン**タブをクリックします。**モード**ドロップダウンメニューをクリックすると、4つのモードオプションが表示されます（「*直角ラインのラインモード*」を参照してください）。**左端**、**センター**、**右端**のいずれかを選択すると、**長さ**フィールドが表示されます。**長さ**フィールドに値を入力してラインの長さを正確に変更し、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**ホーム**または**複数アイテムの配置**タブにある**ラインモード**ドロップダウンメニューで**左端**、**センター**、**右端**のいずれかを選択すると、**L**（**長さ**）フィールドが表示されます。ラインの長さを正確に変更するには、**L**フィールドに値を入力してからReturn/Enterキーを押します。

ベジエラインのサイズは、境界ボックスのサイズを変更することによって変更できます。変更するには、**アイテム > 編集 > 形状**がオフになっていることを確認し、ボックスと同様にラインをサイズ変更します。

ラインの形状変更

ラインは下記の方法で形状を変更できます。

- **アイテム > 形状**サブメニューから異なるオプションを選択することによって、形状を完全に変更することができます。
- ポイント、曲線ハンドル、およびラインセグメントの位置を変更することによって、ベジエラインの形状を変更できます。詳細は、「*ベジエ形状の理解*」を参照してください。

ペンツールを選択しているときにレイアウトをパンするには、Shift+スペースを押して、クリックアンドドラッグします。

ラインのアピアランスの制御

アクティブなラインのアピアランスを制御するには、下記の場所にあるコントロールを使用します。

- **メジャー**パレットの**ホーム**タブ
- **（Windowsのみ） 設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ライン**タブ
- **カラー**パレット（**ウィンドウ**メニュー）。これはラインカラーの場合のみ使用できます。

カラー、シェード、不透明度の他にも、次のようなラインの特徴を設定できます。

- **ラインの種類**：ラインの全般的なアピアランスを制御します。デフォルトでいくつかのラインの種類が用意されていますが、**編集**メニューの**ダッシュ＆ストライプ**ダイアログボックスを使用して種類を追加できます。
- **幅**：ラインの幅を任意の単位で指定できます。**ヘアライン**幅も指定できます。印刷されるヘアライン罫線の幅は、PostScriptイメージセッタの場合で0.125ポイントです。一部のレーザープリンタでは、これよりも太くなります。
- **矢印の先端**：**矢印の先端**ドロップダウンメニューを使用して、ラインに矢印の先端を適用できます。

また、アイテムスタイルでもラインのアピアランスを指定できます。アイテムスタイルの詳細は、「*アイテムスタイル*」を参照してください。

ラインの連結

2つのラインを連結して1つにすることができます。これを行うには、**アイテム**ツール✣で結合するラインを選択して、**アイテム > 融合 > 二端連結**を選択します。**二端連結**コマンドは、ラインまたはテキストパスの両端の距離が6ポイント以内である場合に使用できます。

オープンなパスの連結、拡張、およびクローズ

既存の形状の終端をクリックすると、そのポイントが選択されて通常の描画モードが開始され、次にクリックすると、選択したラインに新しいポイントとセグメントが追加されます。追加するセグメントの数に制限はありません。

終端をダブルクリックすると、ラインはオープンなパスとして完了します。

反対側の終端をクリックすると、パスがクローズされます。これは、元の描画操作で行うのと同様です。

描画中に、別のオープンなパスの終点をクリックすると、描画中のパスと、クリックしたパスとが連結されます。これらの方法を組み合わせて、パスを拡張して別のパスと連結することができます。

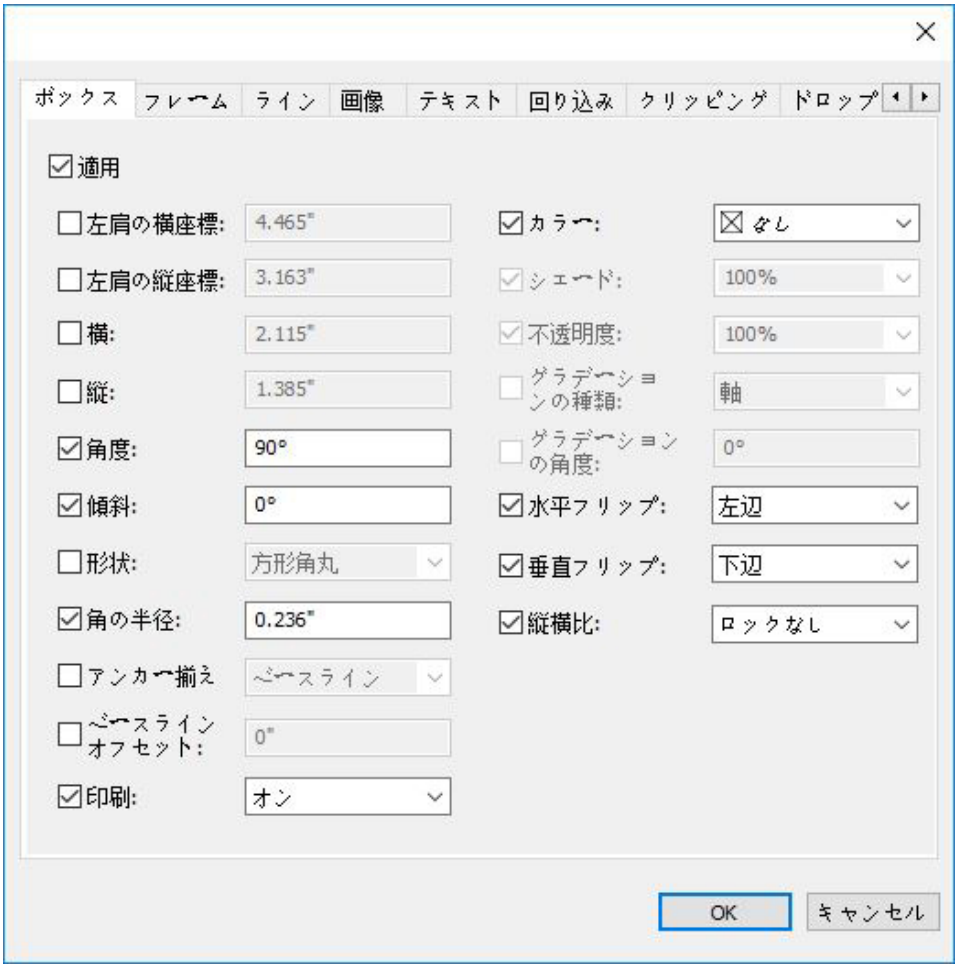
ラインから別のラインへの属性のコピー

ラインに適用されているすべての属性をコピーし、別のラインに適用するには、下記の手順に従ってください。

1 **ツール**パレットで**アイテムの書式のコピー／貼付け**ツールを選択します。

2 属性をコピーするラインを選択し、スポイトツールで「吸い取り」ます。

➡ 他の属性をツールに追加するには、**Shift**キーを押したままラインを選択します。次のダイアログが表示されます。



ラインの属性に必要な変更を加え、**OK**をクリックします。新しい属性は**アイテムの書式のコピー／貼付け**に追加されますが、選択したラインには適用されません。

3 他のラインを選択して、コピーされた属性を適用します。

アイテムの書式のコピー／貼付けは、同じプロジェクト内のすべてのレイアウト間で動作し、アイテムの属性を同じレイアウトの他のアイテムや、別のレイアウトのアイテムにコピーできます。

➡ スポイトは、コピーされたの属性を別のツール、またはキャンパス上の空白のスペースを選択するまで保持するため、必要なだけの数のラインを選択し、属性を繰り返し適用できます。

➡ **アイテムの書式のコピー／貼付け**ツールを選択する前に、既にラインが選択されていた場合、手順3は不要です。手順2を実行すると、コピーされた属性が選択されているラインへ自動的に適用されます。

アイテムの操作

アイテムに対して、新しい場所へのカットアンドペースト、移動を防ぐためのロック、複製、特殊な視覚効果を実現するためのスタック化など、さまざまな操作を行うことができます。

アイテムの選択

アイテムを操作するには、最初にアイテムを選択する必要があります。選択すると、ほとんどのアイテムでは形状変更用のアウトラインとハンドルが表示されます。

アイテムを選択するには、先に**アイテム**ツール、**テキストコンテンツ**ツール、または**画像コンテンツ**ツールを選択してから、矢印ポインタをアイテム上に移動します。単一のアイテムを選択するには1回クリックし、複数のアイテムを同時に選択するにはShiftキーを押しながら個々のアイテムをクリックします。**アイテム**ツールを選択して、アイテムを含む領域を描画しても、複数アイテムを選択できます。

（Windowsのみ） **アイテム**ツールが選択されている状態でテキストボックスをダブルクリックすると、**設定**ダイアログボックスが表示されます。**画像コンテンツ**ツールが選択されている状態で、空の画像ボックスをダブルクリックすると、**取り込み**ダイアログボックスが表示されます。画像ボックスに画像が含まれている場合、**画像コンテンツ**ツールが選択され、**オリジナルを編集**ダイアログボックスが表示されます。

アクティブなアイテムを選択解除するには、そのアイテム以外の場所でクリックします。**アイテム**ツールが選択されている場合、Tabキーを押して任意のアクティブなアイテムを選択解除できます。

アイテムの移動

アイテムを移動するには、下記のいずれかの操作を行ってください。

- （Windowsのみ） **設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**左肩の横座標**および**左肩の縦座標**フィールドに値を入力します。

➡ キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「*パレット*」を参照してください。

- **メジャー**パレットの**ホーム**タブにある、**X**および**Y**フィールドに値を入力します。

キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「*パレット*」を参照してください。

- **アイテム**ツール✣を使用して、アイテムを手作業で移動します。ボックスまたはテキストパスを動かす前にマウスのボタンを押さえると、アイテムを動かすときにコンテンツが表示されます。 **アイテム**ツールを選択し、キーボードの矢印キーを押すことによって、アイテムを「少しずつ動かす」こともできます。

ボックスのアイテムハンドルは、境界ボックスの境界を定めます。境界ボックスを明確に表示するには、**アイテム**ツールを使用して、ベジエボックス上でアイテムハンドルを選択する方法が最善です。

アイテムのカット、コピー、およびペースト

アイテムツール✣を選択すると、アクティブなボックス、ライン、およびテキストパスに対して、**編集**メニューの**カット**、**コピー**、**ペースト**コマンドを使用できます。クリップボードに保存されているアイテムのコピーをプロジェクトウィンドウのセンターに配置するには、**編集 > ペースト**（Command+V／Ctrl+V）を選択します。

アイテムツール✣が選択されているとき、**削除**コマンドでアイテムを削除できます。削除されたアイテムは、クリップボードにコピーされません。

アイテムのスタック順序の制御

複数のアイテムが重なっている場合、各アイテムはそれぞれ他のアイテムの前面または背面に配置されています。「スタックの順序」とは、ページ上のさまざまなアイテムの前後関係のことです。作成された各アイテムは、各自のレベルに応じたスタック順序で配置されます。アイテムを作成するたびに、新しいアイテムが前面に配置されていきます。

アイテムメニューには、アイテムのスタック順序を制御するためのコマンドがあります。

- アイテムをページまたはレイヤーの背面に移動するには、**アイテム > 背面へ送る**を選択します。
- アイテムをページまたはレイヤーの前面に移動するには、**アイテム > 前面へ出す**を選択します。
- Mac OS Xの場合、ページまたはレイヤーでアイテムを1レベル後ろに移動するには、Optionキーを押して**アイテム > ひとつ後ろへ**を選択します。Windowsの場合は、**アイテム > ひとつ後ろへ**を選択します。
- Mac OS Xの場合、ページまたはレイヤーでアイテムを1レベル前に移動するには、Optionキーを押して**アイテム > ひとつ前へ**を選択します。Windowsの場合は、**アイテム > ひとつ前へ**を選択します。

レイヤーを使用したドキュメントの場合、レイヤー自体が特定のスタック順序に配置され、さらに各レイヤー内で各アイテムが独自のスタック順序に配置されます。**アイテム**メニューで**背面へ送る、ひとつ後ろへ、前面へ出す**、および**ひとつ前へ**コマンドを実行すると、レイヤー内でのアイテムのスタック順序が変更されます。

他のアイテムの背後に隠れているアイテムをアクティブ化するには、**アイテム**ツール✣を選択して、Command+Option+Shift/Ctrl+Alt+Shiftキーを押しながら、複数のアイテ

ムが重なっているポイントを繰り返しクリックします。
Command+Option+Shift/Ctrl+Alt+Shiftを押しながらクリックすると、スタックの前面アイテムから後方アイテムの順に次々とアクティブ化されていきます。

アイテムのグループ化

ページまたはスプレッド上の複数のアイテムを、1つのグループにまとめることができます。複数のアイテムを同時に選択したり移動したりする場合は、アイテムをグループ化すると便利です。移動、カット、コピー、複製の他、さまざまな機能をグループに対して実行できます。たとえば、出版物の発行人欄に使用されているすべてのアイテムをグループ化して、そのグループ全体を単一のボックス、ライン、またはテキストパスとして変更または移動できます。

グループ化した後でも、グループの関係を維持したまま、個々のアイテムを編集、サイズ変更、および位置変更できます。グループのコピーをQuarkXPressライブラリに保存して、他のドキュメントで使用することもできます。

アイテムのグループ化は、複数のアイテム（ライン、ボックス、テキストパス、または他のグループなど）がアクティブになっている場合に行うことができます。**アイテム**ツール✣で複数のアイテムを選択するには、Shiftキーを押しながら各アイテムをクリックするか、マウスをドラッグしてグループ化するアイテムを点線で囲みます。**アイテム > グループ**（Command+G/Ctrl+G）を選択して、選択されている複数のアイテムを単一のグループにまとめます。

複数のグループをグループ化したり、グループと個々のボックス、ライン、テキストパスを混ぜて複数選択して、より大きなグループを作成したりできます。

アイテムツール✣を選択すると、グループの移動、カット、コピー、ペースト、複製、回転、およびカラーの適用を行うことができます。**テキストコンテンツ**ツール🅃または**画像コンテンツ**ツール🖼を選択すると、個々のアイテムを、クループ化されていないアイテムと同じように操作できます。

グループ内でアイテムを移動するには、CommandキーまたはCtrlキーを押して、**アイテム**ツール✣、**キストコンテンツ**ツール🅃、または**画像コンテンツ**ツール🖼を使用してアイテムを選択します。

➡ **（Windowsのみ）**アクティブなグループが、同じ種類のアイテムのみで構成される場合（すべて画像ボックスの場合など）は、それらのアイテムのみを指すタブが**設定**ダイアログボックスに表示されます。アクティブなグループにさまざまな種類のアイテムが含まれる場合、**設定**ダイアログボックスには**グループ**タブのみが表示されます。

➡ **（Mac OS Xのみ） メジャー**パレットタブのアクティブなフィールドは、現在アクティブなグループに影響します。

アイテム > グループ解除（Command+U/Ctrl+U）を選択して1つのグループを解除するか、**アイテム > すべてグループ解除**を選択して、他のグループが含まれている1つのグループで、すべてのグループを解除します。

グループ化されたアイテムのサイズ変更

グループ内のすべてのアイテムを同時にサイズ変更するには、グループのアイテムハンドルをクリックしてドラッグします。グループのサイズ変更中に
Command+Shift/Ctrl+Shiftキーを押すと、すべてのフレームの幅、ラインの太さ、画

像、およびテキストが縦横比を保持してサイズ変更されます。グループのサイズ変更中にCommand/Ctrlキーを押すと、フレームの幅、画像、およびテキストがサイズ変更されますが、縦横比は保持されません。

アイテムの複製

QuarkXPressでは、ボックス、ライン、およびテキストパスのコピーを作成できます。

選択されているアイテムのコピーを1つ作成するには、**アイテム**メニューの**複製**コマンドを使用します。アイテムまたはアイテムのグループをドラッグしながらOption/Altキーを押して、複製を作成することもできます。

アイテムの多数のコピーを均等間隔で配置したデザイン要素を作成する場合は、**高性能連続複製**機能を使用すると便利です。**アイテム**メニューの**高性能連続複製**コマンドを使用してアイテムのコピーを複数作成し、各コピーの間隔を指定します。

別の方法で独自の形状のボックスを作成するには、「*シェイプメーカー*」を参照してください。

複数アイテムの配置

アイテム > 複数アイテムの配置サブメニュー、または**単位**パレットの**複数アイテムの配置**タブを使用して、複数選択されたアイテムの相対位置を制御できます。

単位パレットにある8個の間隔オプションと6個の位置揃えオプションから選択でき、選択したアイテム、ページ、または（見開きの印刷レイアウトの）スプレッドを基準にした位置揃えを指定できます。**アイテム > 複数アイテムの配置** サブメニューには、以下で説明する「アイテムを均等配置」および「ページ相対配置」モードが含まれます。**単位**パレットにも「スプレッド相対配置」という3つ目のモードが含まれます。

複数アイテムの配置モードを以下に挙げます。

- **アイテム均等配置モード** では、アクティブなアイテムの移動しない最上部を基準にして、アイテムが配置されます。最上位アイテムは、アイテム上部端の位置により決まります。複数のアイテムに同じ上端がある場合、最も左にあるアイテムを基準にアイテムが間隔設定されます。
- **ページ相対配置モード** では、ページの端（上下左右）を基準にしてアイテムが配置されます。
- **スプレッド相対配置モード** は、見開きを含むアクティブな印刷レイアウトに利用できます。スプレッドのあるレイアウトを開き、左ページのアイテムと右ページの別アイテムを選択しているとします。その後、**単位**パレットの**スプレッド相対配置モード**アイコンをクリックして、**左右センターを基準に均等配置** を選択すると、選択されているアイテムはスプレッドの左端と右端に配置されます。

アイテムの回転

アクティブなアイテムを回転させるには、下記のいずれかを実行します。

- **アイテム**ツール を選択し、マウスを角ハンドルに移動します。回転ポインタが表示されたら、クリックして回転ポイントを確定し、円周方向にドラッグしてアイテムを回転させます。ドラッグすると、矢印ポインタとアイテムの位置が表示されます。回転時にShiftキーを押すと、移動は45度の角度までに制限されます。

- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**角度**フィールドに値を入力して、**OK**をクリックします。

➡ キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「パレット」を参照してください。

- **メジャー**パレット（**ホーム**および**複数アイテムの配置**タブ）のフィールドに値を入力し、Return／Enterキーを押します。

➡ キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「パレット」を参照してください。

直線を回転させるには、**モード**ドロップダウンメニュー（**設定**ダイアログボックス、または**メジャー**パレット）で、**左端**、**センター**、**右端**のいずれかを選択し、**角度**フィールドを表示します。

アイテムの傾斜

アクティブなアイテムを境界ボックス内で傾けるには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**（Command+M／Ctrl+M）を選択し、**ボックス**タブをクリックします。**傾斜**フィールドに値を入力します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**タブにある、**ボックスの傾斜**フィールドに値を入力します。

正の値でアイテムは右に傾き、負の値でアイテムは左に傾きます。

➡ キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「パレット」を参照してください。

アイテムのロックおよびロック解除

ロック機能によって、アイテムおよびコンテンツが誤って変更されるのを防ぐことができます。ロック機能を使用して、下記の操作を行うことができます。

- アイテムのサイズや位置の変更、およびアイテムの削除を防ぐには、**アイテム > ロック > 設定位置**を選択します。
- アイテムのコンテンツが編集されるのを防ぐには、**アイテム > ロック > ストーリー**、または**アイテム > ロック > 画像**を選択します。

選択されているアイテムをロック解除するには、**アイテム > ロック**サブメニューで該当するオプションのチェックマークをオフにします。または、Windowsでは**アイテム > 設定**を選択して、フィールドの横にあるロックアイコンをクリックします。

テキスト内のアイテムおよびグループへのアンカーの付加

アイテムまたはグループに**アンカー**を付加して、それらをテキスト中の文字とすることができます。テキスト中のアイテムまたはグループにアンカーを付加するには、**アイテム**ツールを使用してアイテムまたはグループを選択し、**編集 > コピー**（Command+C/Ctrl+C）または**編集 > カット**（Command+X/Ctrl+X）を選択します。次に、**テキストコンテンツ**ツールを選択して、テキスト中のアンカーを付けるアイ

テムまたはグループの場所にテキスト挿入ポイントを配置して、**編集 > ペースト**（Command+V/Ctrl+V）を選択します。

QuarkXPressでは、アンカーのネスト構造（アンカーが適用されたアイテムに、さらにアンカーが適用されたアイテムが含まれる構造）もサポートされています。

コールアウトの使用

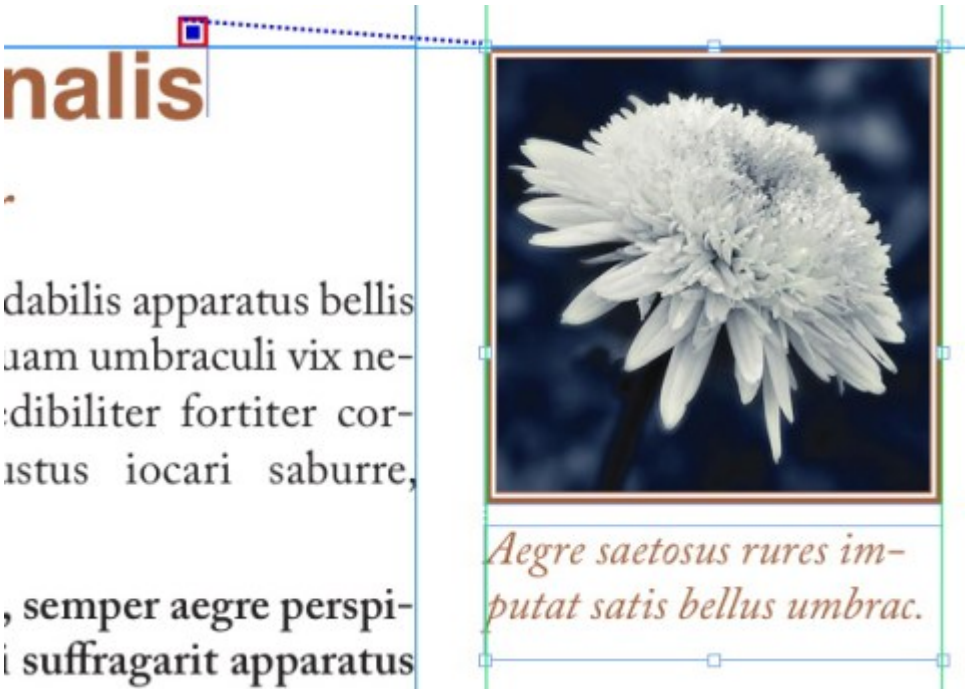
コールアウト機能を使用すると、付随するコンテンツとして同じページまたはスプレッド上に常に表示されるフローティングボックスを作成できます。たとえば、以下のような機能があります。

- ページごとに参照を伴う画像やテキストを用いた図を作成できます。
- 引用を作成して、ソーステキストがある他のページに自動的に移動するようにできます。
- 段落の左側のスペースに配置され、その段落がヒントや、注記、警告などであることを示す、「フローティング」アイコンを作成できます。

詳細は、以下のトピックを参照してください。

コールアウトの理解

コールアウトとは、付随するコンテンツとして同じページまたはスプレッド上に常に表示されるフローティングボックスです。各コールアウトは、**コールアウトアンカー**と呼ばれるテキストストーリー内の特定の場所に固定されます。コールアウトアンカーは、文字と同様に、テキストとともに移動します。コールアウトアンカーが新しいページやスプレッドに移動すると、コールアウトもコールアウトアンカーとともに移動します。ガイドが表示されると、各コールアウトアンカーと、コールアウトアンカーに関連付けられたコールアウトがある場合は、線でリンクされます。

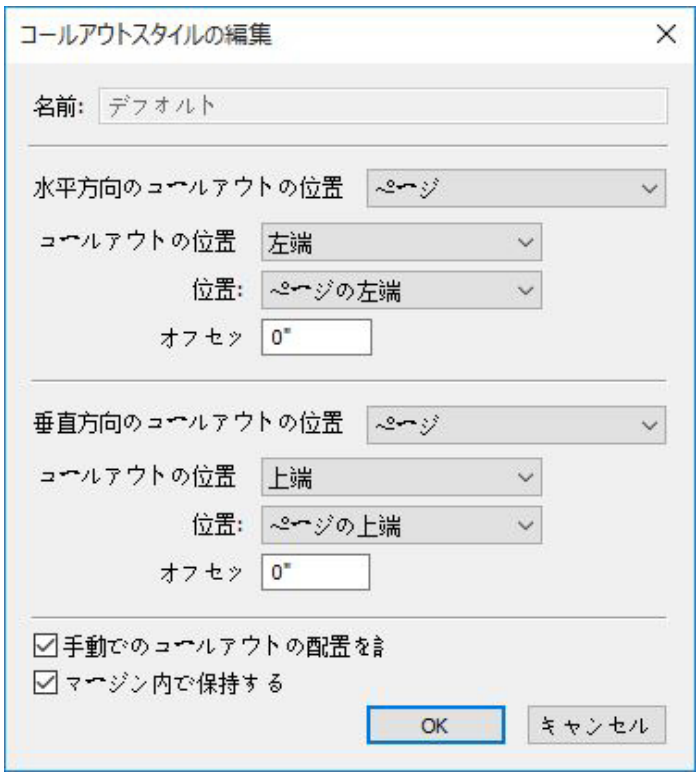


関連付けられたコールアウトとコールアウトアンカー

レイアウト内のコールアウトの位置は、下記の2つの要素に基づきます。

- コールアウトアンカーの場所。コールアウトは、常にそのコールアウトアンカーと同じページまたはスプレッド上にあります。
- コールアウトアンカーの設定。スプレッド、ページ、ボックス、コールアウトアンカーが含まれているセル、コールアウトアンカーが含まれている段落、コールアウトアンカー自体にコールアウトを配置できます。

たとえば、水平方向の位置は必ず外側のマージンに対して寄せられ、垂直方向の位置は必ずコールアウトアンカーを含んでいる段落に揃えるようなコールアウトを設定できます。この設定は、下記のようになります。



水平方向の位置は固定で、垂直方向の位置は可変のコールアウトの設定

➡ コールアウトの設定は、コールアウト自体ではなく、コールアウトアンカーとともに保存することをお勧めします

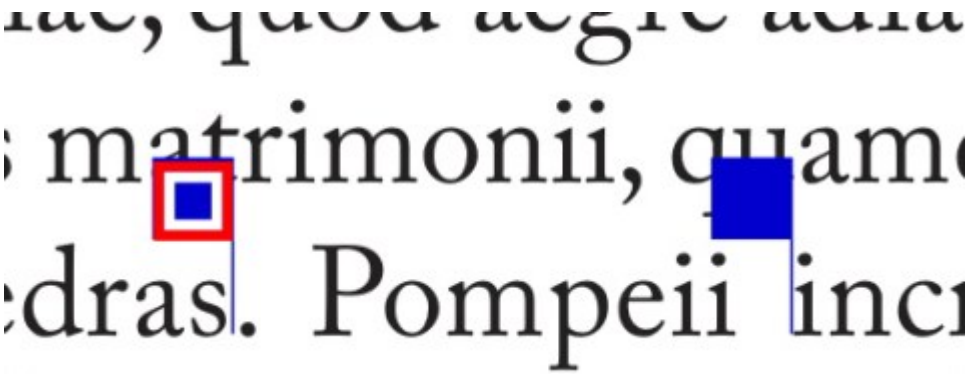
コールアウトアンカーを直接設定するか、**コールアウトスタイル**をコールアウトアンカーに適用することによって、コールアウトの位置を制御できます。コールアウトスタイルとは、パレット内に表示されるコールアウト設定の名前付きパッケージです。コールアウトスタイルは、さまざまなコールアウト設定を繰り返し使用するようなドキュメントで役立ちます。コールアウト設定を毎回作成し直すのではなく、**コールアウトスタイル**パレットでコールアウトアンカーを選択して、最適なコールアウトスタイルをクリックするだけです。



コールアウトスタイルパレット

コールアウトスタイルは、スタイルシートと同様のものと考えることができます（詳細は、「*スタイルシートの使用*」を参照してください）。スタイルシートや他のリソースと同様に、コールアウトスタイルはジョブジャケットで管理できます（詳細は、「*ジョブジャケット*」を参照してください）。

コールアウトは選択することも選択しないこともできます。コールアウトを選択すると、赤いアウトラインで表示され、コールアウトスタイルがある場合は、**コールアウトスタイル**パレットで選択されます。



選択されたコールアウトアンカー（左）と、選択されていないコールアウトアンカー（右）

ガイドをオフにすると、選択したコールアウトアンカーだけが表示されます。

カット＆ペーストまたはコピー＆ペーストするテキストに、関連付けられたコールアウトのあるコールアウトアンカーが含まれている場合、そのコールアウトはテキストとともにカット＆ペーストまたはコピー＆ペーストされます。

コールアウトの作成

コールアウトを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **テキストコンテンツ**ツールを選択してから、コールアウトアンカーを付加するテキスト内の位置に、テキストカーソルを配置します。
2. **アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトアンカーの挿入**を選択します。コールアウトアンカーが挿入され、自動的に選択されます。



選択されたコールアウトアンカー

3 コールアウトの対象にするアイテムまたはグループを選択します。

4 **アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトアンカーと関連付け**を選択します。アイテムまたはグループがコールアウトになり、コールアウトとコールアウトアンカーの間に線が表示されます。



コールアウトと関連付けられたコールアウトアンカー

5 コールアウトアンカーを設定します。コールアウトアンカーを設定するには、下記の2つの方法があります。

- コールアウトスタイルをコールアウトアンカーに適用するには、**コールアウトスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示して、コールアウトスタイルの名前をクリックします。または、**アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトスタイル > [コールアウトスタイル名]**を選択します。詳細は、「*コールアウトスタイルの使用*」を参照してください。
- コールアウトアンカーの設定を直接編集するには、**アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトの設定の編集**を選択します。コールアウトスタイルがコールアウトアンカーに適用されている場合、変更を行うと、コールアウトスタイルの設定は上書きされます。

コールアウトアンカーまたはコールアウトスタイルを設定する方法の詳細は、「*コールアウトアンカーの設定*」を参照してください。

コールアウトアンカーの設定

コールアウトアンカーを設定するプロセスは、コールアウトスタイルを設定する場合や、コールアウトアンカーを直接設定する場合と基本的に同じです。

コールアウトアンカーを設定するには、下記の手順に従ってください。

1. コールアウトアンカーを選択して、**アイテム > コールアウトアンカー > コールアウトの設定の編集**を選択します。**コールアウトの設定の編集**ダイアログボックスが表示されます。
2. コールアウトの水平方向揃えを制御するには、**水平方向のコールアウトの位置基準**領域のコントロールを使用します（**オフセット**フィールドでは、コールアウトを本来の位置から水平方向にどれだけずらすかを調整できます）。

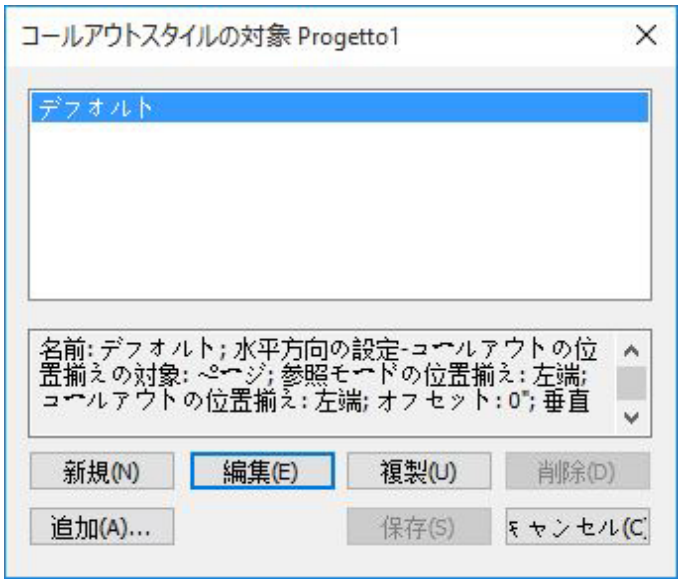
水平方向のコールアウトの位置基準ドロップダウンメニューからスプレッドを選択して、水平方向のオフセットを指定すると、左側ページでは、そのオフセットは反転します。たとえば、コールアウトが右側ページで必ず内側のマージンの0.25インチ内側になるように設定できます。そのようなオフセットの場合、コールアウトは右に移動しますが、左側ページでは、オフセットによってコールアウトは左に移動する必要があります。

3. コールアウトの垂直方向揃えを制御するには、**垂直方向のコールアウトの位置基準**領域のコントロールを使用します（**オフセット**フィールドでは、コールアウトを本来の位置から垂直方向にどれだけずらすかを調整できます）。
4. コールアウトの配置を手動で変更できるようにするには、**手動でのコールアウトの配置を許可**をオンにします。オンにした後は、コールアウトを移動させると、**オフセット**フィールドの値は自動的に更新され、コールアウトの新しい位置が反映されます。

   コールアウトの配置を手動で変更できないようにするには、このボックスをオフにしておきます。
5. コールアウトがページのマージンを超えて拡大されないようにするには、**マージン内で保持する**をオンにします。
6. **OK**をクリックします。

コールアウトスタイルの使用

コールアウトスタイルによって、頻繁に使用する設定を簡単にコールアウトアンカーに適用できます。コールアウトスタイルの作成、編集、複製、または削除を行うには、**コールアウトスタイル**ダイアログボックス（**編集 > コールアウトスタイル**）を使用します。このダイアログボックスを使用して、他のプロジェクトからコールアウトスタイルを追加することもできます。



コールアウトスタイルダイアログボックス

➡ **デフォルト**のコールアウトスタイルは、編集はできますが、削除することはできません。

コールアウトと回り込み

回り込みのあるコールアウトによってそのコールアウトアンカーが移動した場合、エラー状態になる可能性があります。たとえば、コールアウトの回り込みによってコールアウトアンカーが次のページに押し出されると、コールアウトは次のページに移動します。また、コールアウトアンカーが前のページに戻ると、コールアウトは前のページに戻ります。以降も同じ状態になります。

このような状況がQuarkXPressによって検出されると、下記のような事象が発生します。

1. コールアウトが、デフォルトのコールアウトスタイルで定義されている設定に切り替わります。コールアウトアンカーが選択されている場合、**コールアウトスタイル**パレットで、コールアウトスタイルの名前の隣に⬅アイコンが表示されます。
2. まだエラーが発生する場合は、QuarkXPressによってスタイル解除の設定がコールアウトに適用され、コールアウトが最後に有効だった場所に配置されます。
3. アプリケーションで有効な場所が見つからない場合は、コールアウトに対する回り込みが無効になります。このようにコールアウトの回り込みがQuarkXPressによって無効になった場合、コールアウトに、このビジュアルインジケータも配置されます。

➡ ビジュアルインジケータを表示するには、**表示 > ビジュアルインジケータ**をオンにします。

このようなコールアウトに対して回り込みを有効に戻すには、**設定**ダイアログボックスの**回り込み**タブ（**アイテム**メニュー）、または**メジャー**パレットの**回り込み**タブにあるドロップダウンメニューを使用します。

テーブルの使用

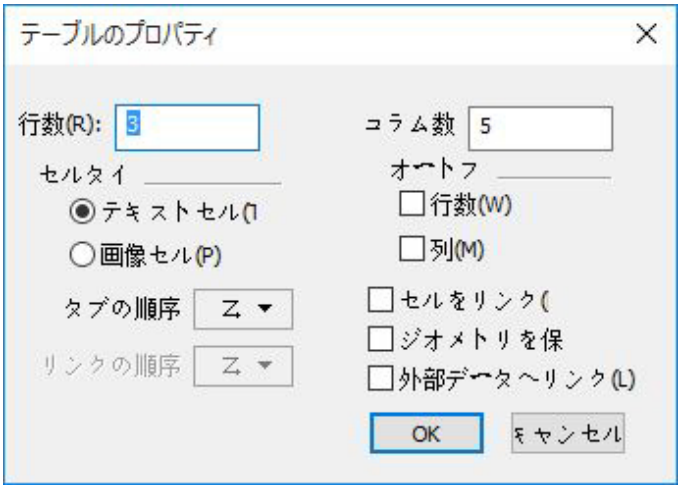
QuarkXPressでのテーブルは、テキストボックス、画像ボックス、テキストパス、またはラインのような明確なアイテムです。テーブルを使用する場合、セルは、個々の画像

ボックス、テキストボックス、またはコンテンツなしのボックスと同じように考えることができ、他のアイテムを使用するときと同じようにセルを使用できます。行や列などのテーブル自体の要素を使用して作業する場合は、**テーブル**メニューを使用します。

テーブルの描画

テーブルの描画およびそのプロパティの指定については、下記の手順に従ってください。

1 **ツール**パレットから**テーブル**ツールを選択して、最終的に作成するテーブルと同じくらいのサイズの方形を描き、マウスボタンを放します。**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。



テーブルのプロパティダイアログボックス

2 **行数**フィールドで行の数を指定し、**列数**フィールドで、列の数を指定します。

3 デフォルトのセルタイプを指定するには、**セルタイプ**領域で、**テキストセル**または**画像セル**をクリックします。後で、必要に応じて、特定のセルを選択してコンテンツのタイプを変換できます。

4 テキストが追加されるのにしたがって拡張するテキストセルを作成する場合は、**オートフィット**エリアのコントロール類を使用します。

5 Tabを押してテーブル内でセルを移動するときの順序を変更したい場合は、**タブの順序**ドロップダウンメニューで別のオプションを選択できます。

6 テキストセルをリンクさせて、取り込んだテキストが（リンクされたテキストボックスのように）特定のセルをフローするようにするには、**セルをリンク**チェックボックスをオンにします。**セルをリンク**チェックボックスをオンにすると、**リンクの順序**ドロップダウンメニューから、テキストセルをリンクする順番を選択できます。

➡ この方法でセルをリンクしない場合は、後で**連結**ツール、または**テーブル**メニューの**テキストセルをリンク**コマンドを使用してリンクすることができます。または、テキストセルをリンクしない場合でも、データの入力または編集時にTabを使用してセル間を移動できます。

7 Excelからデータを取り込む場合は、**外部データへリンク**チェックボックスをオンにします。詳細は、「*Excelテーブルの取り込み*」を参照してください。

8 行を追加または削除してもテーブルを同じサイズのままにしておく場合、**ジオメトリを保持**をオンにします。

9 テーブルのセルの縦組み／横組みを指定するには、**縦組み／横組み**領域で、**水平方向**または**垂直方向**をクリックします。

10 テーブルの方向を指定するには、**テーブルの方向**領域で、**水平方向**または**垂直方向**をクリックします。

11 **OK**をクリックします。

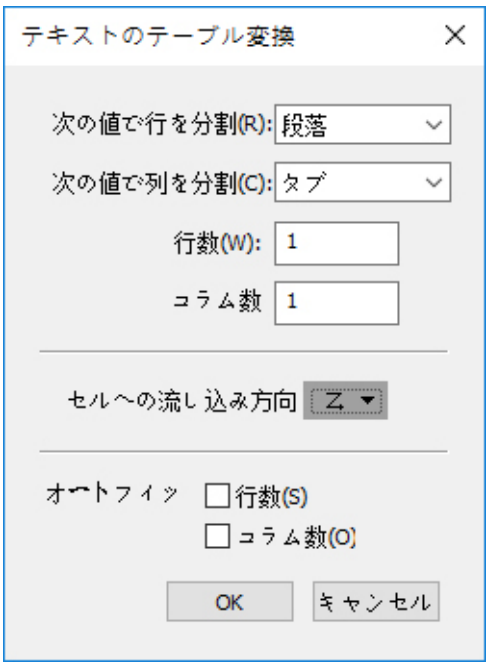
テキストからテーブルへの変換

テキストをテーブルに正常に変換できるかどうかは、テキストの準備自体に依存しています。テキストブロック内では、段落、タブ、スペース、またはカンマ（QuarkXPressで変換可能な文字）を一貫性のある方法で使用することが重要です。これらの文字は、行および列を定義するためにテーブル変換で使用されるからです。ユーザーがワードプロセッサを使用して列を並べる場合は、適切なタブストップを設定するよりも、複数のタブ文字を使用するのが一般的です。変換するテキストブロックにそのようなタブ文字が複数含まれている場合、おそらくそのテキストブロックでは、データ列の間にあるタブの数に一貫性がありません。そのような場合は、タブ文字に一貫性を持たせてから、テキストをテーブルに変換する必要があります。

テキストをテーブルに変換するには、下記の手順に従ってください。

1 **テキストコンテンツ**ツールを使用して、テーブルに変換するすべてのテキストを選択します。

2 **テーブル > テキストのテーブル変換**を選択して、**テキストのテーブル変換**ダイアログボックスを表示します。QuarkXPressは、選択されたテキストに基づいて、**次の値で行を分割**、**次の値で列を分割**、および選択されたテキストでの最悪のシナリオで必要とされる**行**および**列**の値を推測します。



テキストのテーブル変換ダイアログボックス

3 テキストが追加されるのにしたがって拡張するテキストセルを作成する場合は、**オートフィット**エリアのコントロール類を使用します。

4 テーブル内の情報を別の方法で流し込む場合（たとえば、現在の値は降順でも、昇順のほうが効果的な場合）は、流し込み方法を変更できます。**セルへの流し込み方法**ドロップダウンメニュー（デフォルトは、**左から右へ、上から下へ**）からオプションを選択します。

5 **OK**をクリックします。元のテキストボックスから分かれて新しいテーブルが作成されます。

Excelテーブルの取り込み

テーブルのデータは多くの場合、Excelなどのスプレッドシートプログラムで作成されており、このようなテーブルデータは画像の取り込みと同じように取り込むことができます。手法は多少異なりますが、同じ結果が得られます。テーブルデータの取り込みの場合は、QuarkXPressのテーブルをExcelファイルとリンクさせてトラッキングやアップデートを行います。

.xlsxファイルのみをQuarkXPressへ取り込むことができます。

テーブルのプロパティダイアログボックスの**外部テーブルへリンク**機能を使用してExcelからテーブルを取り込む場合は、画像の使用状況をトラッキングする場合と同じようにテーブルの使用状況をトラッキングできます。これによって、ソーステーブルが変更された場合には通知を受けることができ、レイアウトを出力（印刷、出力ファイルの収集、PDF形式での保存）するとき確実に最新のテーブルデータを使用できます。テーブルの状況をチェックするには、**補助 > 使用状況**を選択して、**テーブル**タブをクリックします。

テーブルは画像と同じ方法でアップデートできますが、下記の点に注意する必要があります。

- Excelテーブルを最初に取り込むときに、**テーブルのリンク**ダイアログボックスの**フォーマットを含む**チェックボックスをオンにすると、QuarkXPressでもExcelフォーマットが可能な限り保持されます。後でテーブルをアップデートすると、以前にQuarkXPressで適用したローカルフォーマットが消去され、Excelファイルのフォーマットで置き換えられます。
- Excelテーブルを最初に取り込むときに、**テーブルのリンク**ダイアログボックスの**フォーマットを含む**チェックボックスをオンにしない場合、テーブルのExcelフォーマットは破棄されます。後でテーブルをアップデートすると、以前にQuarkXPressでテーブルに適用したローカルフォーマットが保持されます。

QuarkXPressでの、Excelテーブルの取り込みおよびリンクの保持については、下記の手順に従ってください。

1 **テーブル**ツールを使用して、必要な大きさのテーブルをドラッグして描画します。マウスボタンを放すと、**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。

2 **外部データへリンク**チェックボックスをオンにします。

3 **OK**をクリックすると、**テーブルのリンク**ダイアログボックスが表示されます。



テーブルのリンクダイアログボックス

4 **参照**をクリックして、取り込むExcelファイルの場所を選択します。

5 ファイルに複数のワークシートが含まれている場合は、**シート**ドロップダウンメニューから取り込むシートを選択します。データの一部のみを取り込みたい場合は、**範囲**フィールドにセルの範囲を指定するか、ドロップダウンメニューから規定の範囲を指定します。

6 **オプション**領域で、取り込む属性のチェックボックスをオンにします。

7 **OK**をクリックします。

➡ 数式および参照は取り込まれません。ただし、数式や参照によって得られる値は取り込まれます。挿入された画像は取り込まれません。**自動フィルタ**、または**詳細フィルタ**（**データ > フィルタ**）が適用されたテキストは、スタティックテキストとして取り込まれます。

➡ Excelデータからすばやくテーブルを作成する方法、つまり、アップデート用にソーステーブルをQuarkXPressプロジェクトにリンクさせずにテーブルを作成する方法は、コピーアンドペーストすることです。これを行うには、Excelワークシートで取り込みたいデータを部分的に選択して、選択したデータをコピーします。次に、QuarkXPressに切り替えて、**編集 > ペースト**を選択します。QuarkXPressは、そのデータに適したテーブルを作成して、テキストを挿入します。

Excelチャートの取り込み

Excelで**挿入 > グラフ**または**挿入 > 図** を使用して作成したチャート（グラフ）や画像（図）をQuarkXPressレイアウトで使用する場合、他の画像を取り込むのと同じ方法で、チャート（グラフ）や画像（図）を取り込めます。これには、**画像の取り込み**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**チャートを挿入**を使用します。Excelから取り込んだチャートおよび画像は、他の画像と同じように、**使用状況**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）の**画像**タブで追跡できます。

インラインテーブル

EXcelのテーブルを取り込み、テキストとインラインに挿入できます。

インラインテーブルには、デザイナーテーブルと比べて次の利点があります。

- 複数のページにまたがる大きなテーブルを作成するときは、インラインテーブルの方がはるかに高速です。
- テーブルスタイルは、インラインテーブルにのみ適用できます。

インラインテーブルの挿入

Excelテーブルを取り込んで、テキストとインラインに挿入するには、下記の手順に従ってください。

1. テキストのうち、テーブルを挿入する場所にカーソルを置きます。
2. **アイテム > インラインテーブルの挿入** を選択します。［**テーブルのリンク**］ダイアログボックスが表示されます。



テーブルのリンクダイアログボックス

3 **参照**をクリックして、取り込むExcelファイルの場所を選択します。

4 ファイルに複数のワークシートが含まれている場合は、**シート**ドロップダウンメニューから取り込むシートを選択します。データの一部のみを取り込みたい場合は、**範囲**フィールドにセルの範囲を指定するか、ドロップダウンメニューから規定の範囲を指定します。

5 **オプション**領域で、取り込む属性のチェックボックスをオンにします。

6 ヘッダー行フィールドで、何行のヘッダー行を含めるかを指定します。

7 **テーブルスタイル**ドロップダウンメニューで、取り込まれたテーブルに適用するテーブルスタイルを選択します（オプション）。詳細は、「*テーブルスタイル*」を参照してください。

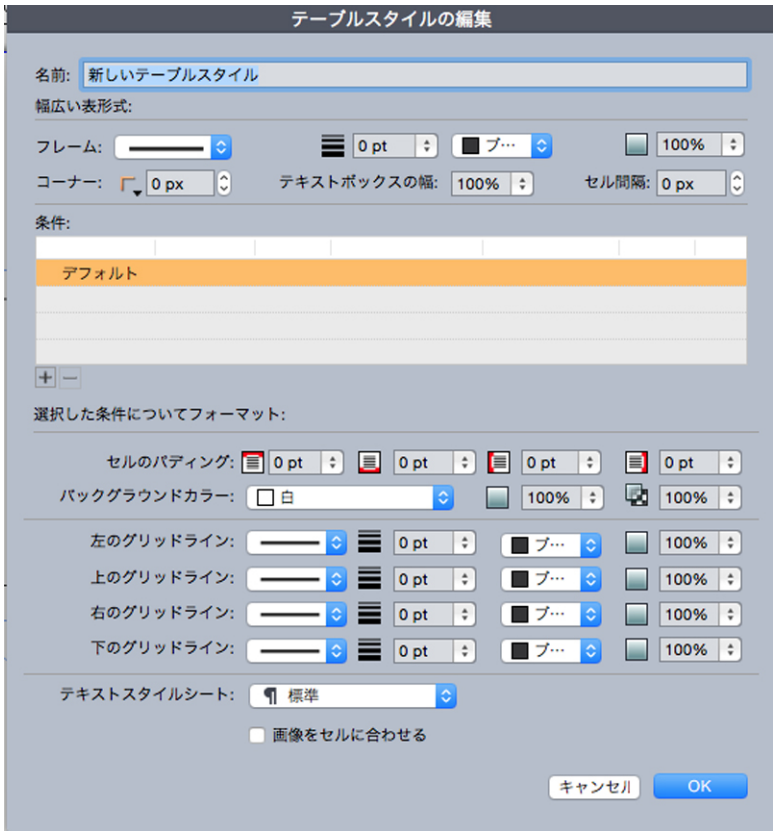
8 **OK**をクリックします。

テーブルスタイル

テーブルスタイルを編集するには、**ウィンドウ > テーブルスタイル**を選択し、**テーブルスタイル**パレットを表示します。このパレットの上端にあるボタンを使用して、テーブルスタイルの追加、編集、複製を行えます。既存のテーブルスタイルを選択して ボタンをクリックするか、 ボタンをクリックして新しいテーブルスタイルを追加します。

テーブルスタイルの編集ダイアログが表示されます。

- **名前**フィールドに、テーブルスタイルの名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションによりデフォルト名の「新規テーブルスタイル」が使用されます。
- 新しいテーブルスタイルに適用するテーブル属性を指定します。



終了したら、**OK**をクリックします。

テーブルスタイルを追加すると、**テーブルスタイル**パレット（**ウィンドウ > テーブルスタイル**）に一覧表示されます。インラインテーブルを挿入するとき、この新しいスタイルを使用できます。

テーブルへのテキストと画像の追加

テーブルを操作するときには、テーブルセルをテキストボックスや画像ボックスと同じようなものとして考えることができます。各ボックスにはコンテンツが含まれ、このコンテンツは次のセルにリンクされる／されないテキスト、個別の画像、何もなし（たとえば、単なるグラデーション）のいずれかです。このため、テキストの入力やインポート、または画像のインポートによって、ボックスに追加したコンテンツと同じ量のコンテンツをテーブルにも追加できます。

テキストセルから画像セルへの変換は、テキストボックスを画像ボックスに変換するのと同じ方法で実行できます。変換するすべてのセルを選択してから、**アイテム > コンテンツ > 画像**を選択します。

テーブルテキストの編集

テーブル内のテキストの編集では、セル間のナビゲート方法とフォーマット用テキストの選択方法の2つの重要事項を理解しておく必要があります。テキストを使用する場合は通常、先に**テキストコンテンツ**ツール🅃を選択する必要があります。

テーブルでのナビゲートは下記の要領で行います。

- テキストの入力や取り込みを行うセルでクリックします。
- Tabを押して、次のセルに移動します。
- Shift+Tabを押して、前のセルに戻ります。
- 矢印キーを押して、セルのテキスト内を移動し、別のセルに移動します。

➡ テキストセルにタブ文字を入力するには、Control+Tabを押します。右インデントタブを入力するには、Option+Tab／Control+Shift+Tabを押します。テーブル内で小数点やその他の文字で数値を揃えるには、各テーブルセルにタブを挿入して、該当する**揃え**タブストップ（**スタイル > タブ**）を指定します。

行と列にあるテキストの選択は下記の要領で行います。

- 1行のすべてのテキストを選択するには、テーブルの右エッジまたは左エッジの外側をクリックします。
- 1例のすべてのテキストを選択するには、テーブルの上エッジまたは下エッジの外側をクリックします。
- 複数の行や列にまたがるすべてのテキストを選択するには、テーブルのエッジに沿ってドラッグします。
- 隣接していない行や列にあるテキストを選択するには、Shiftを押しながら特定の行や列をクリックします。
- さまざまな行と列にあるテキストを選択するには、**テーブル**メニューにある**選択**サブメニューのオプションを使用します。オプションには、**セル、行、奇数行、偶数行、列、奇数列、偶数列、全てのセル、ヘッダー行、フッター行**、および**本文のセル**があります。**テーブル**メニューの**選択**コマンドは、1つおきの行や列に異なるフォーマットを適用するのに便利です。

テーブルのセルのリンク

セルがリンクされると、セルに入力、インポート、またはペーストされるテキストが、リンクされたストーリーの最初のテキストセルに入力され、さらにリンクされた後続の各セルにフローされます。リンクされたボックスのテキストと同様に、リンクされたセルのテキストフローを制御するには、次列キャラクタ（数字キーパッドのEnter）を使うと便利です。テーブルのセルを互いにリンクするだけでなく、セルをテキストボックスやテキストパスにリンクしたり、テキストボックスやテキストパスからリンクしたりできます。

- テーブルのすべてのセルをリンクするには、テーブルの作成時に**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスの**セルをリンク**をオンにします。
- テーブル内で選択したセルをリンクするには、**テーブル > テキストセルをリンク**を選択します。選択したセルのうち、最初のセル以外はすべて空になっている必要があります。

- テーブルのセルを手動でリンクするには、**連結**ツールを使用します。テキストボックスのリンクと同様に、開始セルをクリックして選択してから、追加したい次のセルをクリックします。既存のリンクをリダイレクトするには、**連結**ツールを使用してShiftキーを押しながらクリックします。
- テーブルのセルをリンク解除するには、**連結解除**ツールを使用して、リンクされたセル間にある矢印の尖っていないほうの端をクリックします。
- テーブルのセルをテキストボックスまたはテキストパスにリンクするには、**連結**ツールを使用します。

テーブル > セルを統合を使用してリンクされたセルを連結する場合、連結されたセルはテキストチェーンから削除され、残りのリンクは影響を受けません。**テーブル > セルを分割**を使用して連結されたセルを分割する場合、リンクは保持され、テキストは指定したリンクの順序に従ってフローします。

テーブルのフォーマット

Windowsでは、QuarkXPressの他のアイテムと同様に、テーブルにもテーブル属性をフォーマットするための**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）があります。**設定**ダイアログボックスで利用できるペインは、選択した項目によって異なります。たとえば、テーブル全体を選択するには**アイテム**ツールを使用します。1つまたは複数のセルを選択するには**テキストコンテンツ**ツールを使用します。または、特定のグリッドラインや画像セル、テキストセルを選択できます。**メジャー**パレットと**カラー**パレットのオプションには選択したテーブルも反映されるため、ある程度の調整ができます。

Mac OS Xでは、コンテンツツールが選択されているときは**メジャー**パレットの**テーブル**タブを使用できます。それ以外の場合、**ホーム**タブでこれらのオプションを使用できます。

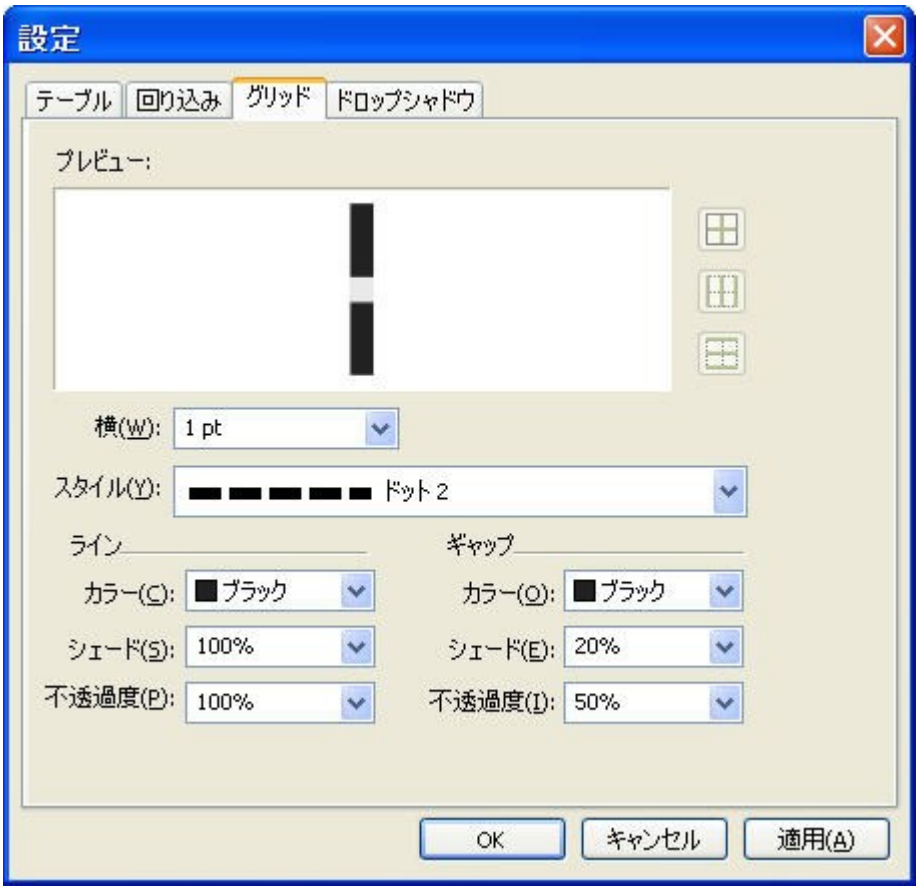
グリッドラインのフォーマット

グリッドラインは、各行の間の水平方向の線、および各列の間の垂直方向の線のことです。グリッドラインが選択されているとき、**設定**ダイアログボックス（Windows）の**グリッド**タブ、または**メジャー**パレットの **ホーム** タブを使用して、ラインのスタイル、幅、カラー、ギャップカラー、シェード、不透明度を指定できます。

1 グリッドラインをフォーマットするには、まず下記の操作を行います。

- 個々のグリッドラインを選択する場合は、**テキストコンテンツ**ツールでグリッドラインをクリックします。
- 複数のグリッドラインを選択する場合は、Shiftキーを押しながら各グリッドラインをクリックします。
- テーブル全体についてすべての水平グリッドライン、またはすべての垂直グリッドラインを選択するには、**アイテム**ツールでテーブルを選択します。次に、**設定**ダイアログボックスで選択を行います。
- **テーブル**メニューの**選択**サブメニューで、**水平グリッド**、**垂直グリッド**、**ボーダー**、**すべてのグリッド**のいずれかのオプションを選択します。

2 適切なグリッドラインを選択してから、**Windows**では**アイテム > 設定**を選択し、**グリッド**タブをクリックします。



設定ダイアログボックスの**グリッド**タブ

3 すべてのグリッドライン、垂直グリッドライン、または水平グリッドラインを選択するには、**プレビュー**領域の右側にあるボタンの1つをクリックします。これらのボタンは、上からそれぞれ**全てのグリッドライン**、**水平グリッドライン**、**垂直グリッドライン**を選択します。

4 **グリッド**タブで値を変更するときは、**適用**ボタンを押して**プレビュー**領域で確認しながら値を決定できます。

➡ **メジャー**パレットの**ホーム**タブには、選択したグリッドラインの書式を指定するためのセクションがあります。

行と列の挿入と削除

テーブルの任意の位置に行と列を挿入できます。行を追加する位置のすぐ上またはすぐ下にあるセルをクリックします。または、列を追加する位置のすぐ右またはすぐ左にあるセルをクリックします。その後、**テーブル > 挿入 > 行**または**テーブル > 挿入 > 列**をクリックします。

削除する行や列を選択するには、テーブルエッジに矢印ポインタをドラッグしてShiftを押しながら矢印ポインタをクリックするか、**テーブル**メニューの**選択**サブメニューにあるコマンド（**奇数行**など）を使用します。その後、**テーブル > 削除 > 行**または**テーブル > 削除 > 列**を選択します。

➡ **テーブル**メニューの**ジオメトリを保持**がオンになっている場合に列や行を削除すると、削除された列や行のスペースを埋めるように既存の列や行のサイズが大きくなります。**ジオメトリを保持**がオフになっている場合、テーブルは必要に応じて小さくなります。

セルの統合

セルを統合するには、**テキストコンテンツ**ツールでShiftを押しながらクリックして、セルを長方形で選択します。**テーブル > セル**の統合を選択します。セルの統合を取り消して周りのテーブルに合わせるには、統合されているセルを選択して**テーブル > セルを分割**を選択します。

➡ テキストや画像を含むリンクされていないセルを統合する場合、選択したセルの左上のセルのコンテンツが統合後のセルに残ります。

テーブル、行、列の手動でのサイズ変更

QuarkXPressの他のアイテムと同様に、行、列、テーブルをドラッグしてサイズを変更できます。行または列のサイズを変更するには、グリッドラインをクリックしてサイズ変更ポインタを表示します。ポインタを上または下にドラッグして行のサイズを変更するか、左右にドラッグして列のサイズを変更します。テーブル全体をサイズ変更するには、サイズ変更ハンドルをドラッグしているときに、下記のいずれかのキーボードコマンドを押します。

テーブルでの効果	Mac OS Xのコマンド	Windowsのコマンド
サイズ変更されるテーブルとコンテンツ	Commandキー	Ctrl
比率を保ちながらサイズ変更されるテーブル（コンテンツではない）	Shiftキー	Shiftキー
比率を保ちながらサイズ変更されるテーブルとコンテンツ	Command+Shift	Ctrl+Shift

テキストへのテーブルの変換

データをWordファイルとして保存するなど、テーブルにある現在のデータをエクスポートする必要がある場合、情報をテキストに変換できます。これには、テーブルを選択してから**テーブル > テーブル変換 > テキスト化**を選択します。

テーブルおよびグループの使用

柔軟性を高めるため、**グループ**コマンド（**アイテム**メニュー）を使用してテーブルを他のアイテムにグループ化できます。また、グループ化された一連のテキストボックス、画像ボックス、またはその両方にテーブルのセルを変換することによって、テーブルを分解できます。この方法で、テーブルの要素を分離し、それらの要素をレイアウト内の他の場所で使用できます。この操作を行うには、テーブルを選択し、**テーブル > テーブル変換 > グループ化**を選択します。個々のボックスを操作するには、**アイテム > グループ解除**を選択します。

他の場所でのテーブルの継続

テーブルは、1つのページまたはスプレッド（つまり、デザイン内に割り振られたスペース内）に必ず収まるとは限らないため、レイアウト内の他の場所に自動的に継続するように設定できます。

テーブルを継続するには、下記の2つの方法があります。

- テキストボックス内のテーブルにアンカーを付加する。簡単に使用できるため、多くの場合、テーブルを分割する際の望ましい方法です。
- テーブルを手動で分割する。この方法は、テーブルを水平方向に分割する場合に必要です（たとえば、テーブルの先頭5列を1ページに配置して、残りの3列を別のページに配置するような場合）。

テーブルが継続されるときでも、テーブルの内容について説明する凡例が必要になります。凡例は、自動的に作成および同期されるヘッダー行とフッター行の形で追加できます。また、先頭以降のテーブル部分に対して、特別な「継続」テーブルのヘッダーを作成できます。

テキスト内のテーブルへのアンカーの付加

別の場所でテーブルを継続する1つの方法として、テキストボックス内のテーブルにアンカーを付加します。アンカーテーブルは、他のアンカーオブジェクトと同様に、テキストとともに移動します。また、長すぎてボックス内に入りきらない場合や、アンカーテーブルを含んでいる段落内の唯一のオブジェクトである場合は、自動的に分割されます。

テーブルにアンカーを付加するには、下記の手順に従ってください。

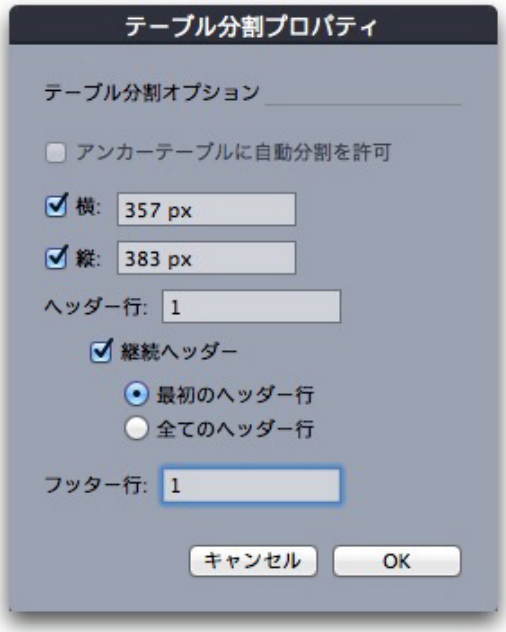
1. テーブルを作成します。
2. **アイテム**ツール✣でテーブルを選択します。
3. **編集 > カット**を選択します。
4. **テキストコンテンツ**ツール🅃を選択してから、テーブルにする位置にテキスト挿入ポイントを配置します。
5. **編集 > ペースト**を選択します。

   この時点で、テーブルは、テキスト内を移動するように、自動的に分割されます。ただし、ヘッダーを追加していない場合は、ヘッダーはありません。詳細は、「*テーブルへのヘッダー行とフッター行の追加*」を参照してください。

手動でのテーブルの分割

別の場所でテーブルを継続するための1つの方法として、テーブル分割を指定します。テーブル分割は、これを超えるとテーブルが2つの連結されたテーブルに分割される最大サイズです。継続テーブルでは、1つのテーブルで列を挿入するなどの変更が加えられると、その変更がテーブル全体に反映されます。手動でテーブルの継続インスタンスを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **テーブル > テーブル分割**を選択して、**テーブル分割プロパティ**ダイアログを表示します。



テーブル分割プロパティダイアログボックス

2 幅がフィールドの値を超えたときにテーブルを分割するには、**幅**をオンにします。デフォルトでは、テーブルの現在の幅が**幅**フィールドに表示されます。この値を小さくするとテーブルが分割されます。

3 高さがフィールドの値を超えた場合にテーブルを分割するには、**高さ**をオンにします。デフォルトでは、テーブルの現在の高さが**高さ**フィールドに表示されます。この値を小さくするとテーブルが分割されます。

4 **ヘッダー行**フィールドに値を入力することによって、ヘッダー行の数を指定できます（詳細は、「*テーブルへのヘッダー行とフッター行の追加*」を参照してください）。

5 テーブルにヘッダーがある場合は、**継続ヘッダー**をオンにして、テーブルの継続インスタンスで表示する、別バージョンのヘッダーを作成できます。たとえば、テーブルの先頭部分のヘッダーが「List of Contributors」である場合、継続ヘッダーは、「List of Contributors（continued）」のようになります。**最初のヘッダー行**をクリックして、継続ヘッダーを先頭ヘッダー行に限定するか、または**全てのヘッダー行**をクリックして、すべてのヘッダー行から継続ヘッダーを作成します。

継続ヘッダーの内容を設定するには、このダイアログボックスを閉じてから、先頭以降のテーブル部分に移動して、そこでヘッダーの内容を変更します。

6 **フッター行**フィールドに値を入力することによって、フッター行の数を指定できます。

7 **OK**をクリックします。テーブルの高さまたは幅がテーブル分割の基準を満たすと、テーブルは2つ以上の連結されたテーブルに分割されます。継続テーブルは、レイアウト内の他の場所に移動させることができます。テーブルは、後で行や列のサイズを変更したり追加したりして調整を加えると、分割される可能性があります。

List of Contributors		
John Smith		
Bob Smith		
Joan Smith		
Eric Smith		

List of Contributors (continued)		
Diane Smith		
Tom Smith		
Denise Smith		
Tina Smith		

List of Contributors (continued)		
Albert Smith		
Dan Smith		
Bill Smith		
Betty Smith		

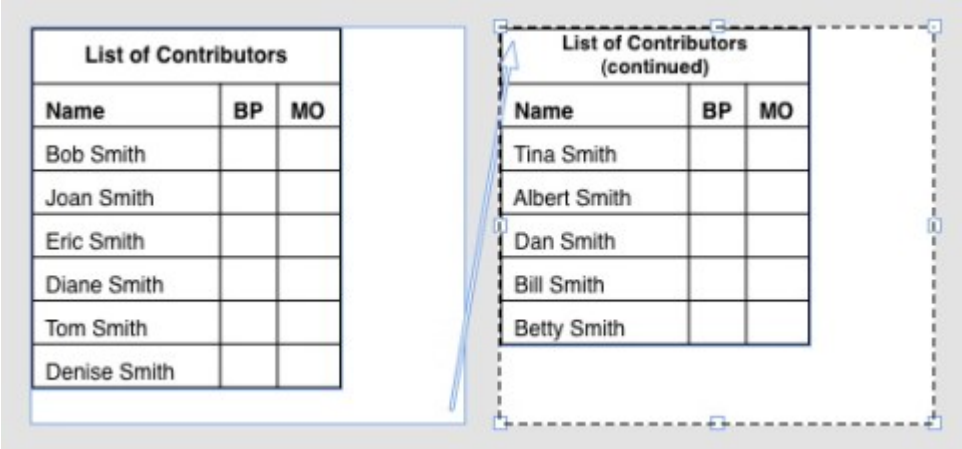
継続ヘッダーで分割されたテーブル

テーブル分割機能は両方向で機能します。つまり、テーブルが大きくなると、必要に応じて追加のサブテーブルを使用してテーブルを継続させ、テーブルが小さくなると、必要に応じてテーブルを再結合します。

継続テーブル間の連結を切断するには、継続テーブルのいずれかのインスタンスを選択し、**テーブル > 各テーブルを作成**を選択します。

テーブルへのヘッダー行とフッター行の追加

ヘッダー行とフッター行は、テーブルの継続インスタンスで自動的に繰り返されるように指定できます。さらに、ヘッダー行とフッター行は自動的に同期されるため、テキストの変更が継続テーブルのすべてのインスタンスに反映されます。

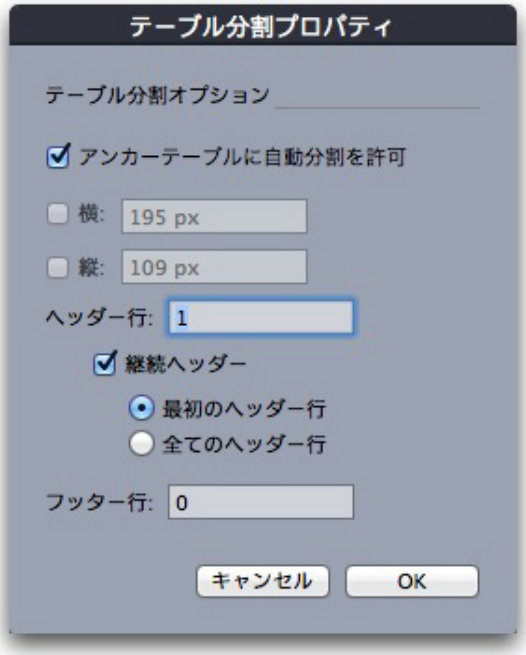


この継続テーブルでは、テーブル見出しと列見出しの先頭2行が、テーブルの継続インスタンスのヘッダー行として繰り返されます。先頭の行が継続ヘッダーです。

テーブルにヘッダー行とフッター行を追加するには、下記の手順に従ってください。

1. 分割するテーブルの設定を行います。詳細は、「*手動でのテーブルの分割*」および「*テキスト内のテーブルへのアンカーの付加*」を参照してください。
2. ヘッダー行とフッター行を作成するには、下記の2つの方法があります。
   - 自動ヘッダーを作成するには、テーブルの先頭の1行または複数の行を選択して、**テーブル > ヘッダーとして連続複製**を選択します。自動フッターを作成するには、テーブルの最後の1行または複数の行を選択して、**テーブル > フッターとして連続複製**を選択します。

- **テーブル > テーブル分割**を選択します。**テーブル分割オプション**ダイアログボックスが表示されます。ヘッダー行とフッター行の数を設定するには、**ヘッダー行**フィールドと**フッター行**フィールドにそれぞれ値を入力します。



アンカーテーブルの**テーブル分割プロパティ**ダイアログボックス

先頭以降のテーブル部分に表示するセカンダリヘッダーを作成するには、**継続ヘッダー**をオンにします。たとえば、テーブルの先頭部分のヘッダーが「List of Contributors」である場合、継続ヘッダーは、「List of Contributors（continued）」のようになります。**最初のヘッダー行**をクリックして、継続ヘッダーを先頭ヘッダー行に限定するか、または**全てのヘッダー行**をクリックして、すべてのヘッダー行から継続ヘッダーを作成します。

終了したら、**OK**をクリックします。

3 継続ヘッダーまたはフッターの内容を設定するには、先頭以降のテーブル部分に移動して、そこでヘッダーの内容を変更します。

➡ **テーブル**メニューの**ヘッダーとして連続複製**または**フッターとして連続複製**をオフにすれば、ヘッダー行またはフッター行を継続テーブルからいつでも削除できます。

➡ 自動ヘッダー行および自動フッター行を追加すると、残りのテーブル行は"本文のセル"とみなされます。**テーブル**メニューの**選択**サブメニューにあるオプションにより、継続テーブルのすべてのインスタンスで**ヘッダー行**、**フッター行**、および**本文のセル**すべてを選択できます。

Table Import

データソースにMicrosoft Excel（.xlsx）ファイルを使用して、QuarkXPressでテーブルを取り込み、Excelファイルのデータの変更に合わせて、同じQuarkXPressテーブルをアップデートできます。Microsoft Excelのチャートや画像と、MS Wordのテーブルも、同様に取り込んでアップデートできます。

テーブルの取り込み機能では、次のユーザーインターフェイス要素を使用できます。

- **外部データへリンク**チェックボックスは、**テーブルのプロパティ**ダイアログボックスに追加されます。
- **テーブル**タブは、**使用状況**ダイアログボックスに追加されます。
- **チャートを挿入**タブは、**画像の取り込み**ダイアログボックスに追加され、ワークブック内のすべてのチャートが表示されます。

テキストと組版

テキストは、ほとんどすべての出版物に不可欠なものです。QuarkXPressでは、出版物内でテキストを直接作成して編集できる他、多くの主要なワードプロセッ シングアプリケーションからテキストを取り込むこともできます。標準的なテキストフォーマットと編集の機能に加え、QuarkXPressには、テキストとその属性の検索と置換、スペルチェック、カスタムスペルチェック用辞書、およびプロジェクト全体でテキストフォーマットを変更するためのフォントの使用状況ユーティリティなどの機能が備わっています。

組版とは、意味や雰囲気がよく伝わるようにテキストの見栄えを整える技術で す。QuarkXPress書体、文字飾り、行送り、間隔を含む、組版のあらゆる面を調整することで、テキストの雰囲気を調整できます。

アイコンで示されるテキスト機能は東アジア言語固有の機能で、**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 東アジア**メニューで東アジア言語の環境設定を有効にしている場合のみ利用できます。

テキストの編集

アクティブなテキストボックスにテキストを入力したり取り込むには、**テキストコンテンツ**ツール🅃を使用します。文字は **テキストの挿入ポイント**に入力されます。テキスト挿入ポイントは点滅した線で示されています。

ストーリーは、テキストボックス内の全テキストです。一連のボックスをつなげると、全ボックスのテキストがすべて1つのストーリーにまとめられます。

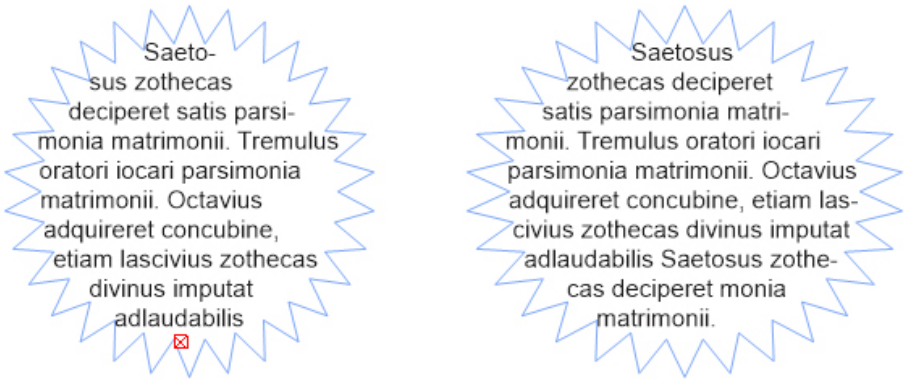
マウスを複数回クリックしてテキストを選択することもできます。ダブルクリックすると、テキスト挿入ポイントを含む単語を選択できます。3回クリックすると、テキスト挿入ポイントを含む行を選択できます。4回クリックすると、テキスト挿入ポイントを含む段落全体を選択できます。5回クリックすると、ストーリー全体を選択できます。

ダブルクリックで単語を選択し、それをカットまたはコピーする場合、アプリケーションが単語の文脈を考慮して、新しい場所にその単語をペーストしたときに、必要に応じてスペースを自動的に追加または削除します。この機能をスマートスペースといいます。選択する語句に約物を含める場合、語句と隣接する約物の間をダブルクリックします。

ボックスをテキストに合わせる機能

入力されたテキストがテキストボックスに収まらない場合、オーバーフロー記号が表示されます。テキストが収まるようにボックスのサイズを自動的に調整するには、コンテキストメニュー（または**アイテム**メニュー）の**ボックスをテキストに合わせる**を選択します。**ボックスをテキストに合わせる**機能は、どのような形状やサイズのテキストボッ

クスでも使用できます。



➡ この機能は、ロックされているボックスや、ボックスの縦横比がロックされているときは使用できません。

オーバーフローやアンダーフローが発生しているボックスに、**ボックスをテキストに合わせる**機能を使用できます。

ボックスをテキストに合わせる機能は、リンクされているボックス、マルチコラムのボックス、回転されているボックスなど、あらゆる種類のテキストボックスに使用できます。各種の属性が適用されているテキストや、脚注および文末脚注を含むテキストにも使用できます。

テキストの取り込みおよび書き出し

テキストを取り込むには、下記のいずれかを実行します。

- **テキストコンテンツ**ツール🅃を選択し、テキストの挿入ポイントを指定してから**ファイル > 取り込み**を選択します。**引用符を変換**オプションをオンにすると、二重ハイフンをemダッシュに変換できます。また、フィートやインチの記号をタイプセッターのアポストロフィや引用符に変換できます。**スタイルシートを含む**チェックボックスをオンにすると、Microsoft Wordからスタイルシートを取り込むか、または「XPress Tag」をフォーマットテキストに変換できます。
- テキストファイルをファイルシステムからテキストボックス上にドラッグします
- テキストを別のアプリケーションからテキストボックス上にドラッグします
- Command／Ctrlキーを押しながら、テキストファイルをファイルシステムから画像ボックスまたはコンテンツなしボックスにドラッグします。
- Command/Ctrlキーを押しながら、テキストを別のアプリケーションから画像ボックスまたはコンテンツなしボックスにドラッグします。

すでにテキストまたは画像が入っているボックスにコンテンツをドラッグすると、ドラッグされたコンテンツ用に、QuarkXPressが新しいボックスを作成します。新しいボックスを作成せずにボックスのコンテンツを置き換えるには、ボックスにコンテンツをドラッグしながらCommand／Ctrlキーを押します。ドラッグされたコンテンツに対して常に新しいボックスを作成するには、Option／Altキーを押したままドラッグします。

取り込まれたテキストがすべてテキストボックスに収まらない場合、オーバーフロー記号が表示されます。テキストをボックスへ取り込んでから、コンテキストメニュー（または**アイテム**メニュー）の**ボックスをテキストに合わせる**を選択できます。**自動ページ挿入**（QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 一般ペイン）が有効な場合、テキストを自動テキストボックスへ取り込んだときに、テキストを含めるため必要に応じてページが挿入されます。

テキストを書き出すには、まずテキストボックスでテキスト挿入ポイントを指定する（ボックス内のテキストをすべて保存する場合）か、または書き出すテキストを選択します。次に**ファイル > テキスト保存**を選択し、**形式**ポップアップメニューからオプションを選択し、名前を入力して場所を指定してから**保存**をクリックします。

.docxフォーマットで書き出すには、**形式**ドロップダウンメニューから**Word文書**を選択します。

Unicodeオプション付きテキストの取り込みおよび書き出し

テキストの取り込みおよび書き出し時にエンコードの種類を指定することもできます。エンコードの種類により、テキストで表示される各字形を表すため使用されるバイトシーケンスが決まります。このオプションは、次のように動作します。

- プレーンテキストまたは「XPress Tag」テキストのファイルを選択した場合、**取り込み**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。ソフトウェアが選択したテキストファイルのエンコードを決定して適切なエンコードの種類を適用しようとします。ただし、テキストに対して別のオプションを指定することもできます。
- プレーンテキストまたはXPress Tagテキスト形式でテキストを書き出す場合、**テキスト保存**ダイアログボックスに**エンコーディング**ドロップダウンメニューが追加されます。
- **引用符を変換**オプションでは、引き続き直接引用符をタイプセッターの引用符に変換する、あるいは二重ハイフンをemダッシュに変換できます。

テキストの検索と置換

検索／置換パレット（**編集**メニュー）で、標準的な検索および置換の操作を実行できます。さらに、このパレットを使用して下記の操作を実行できます。

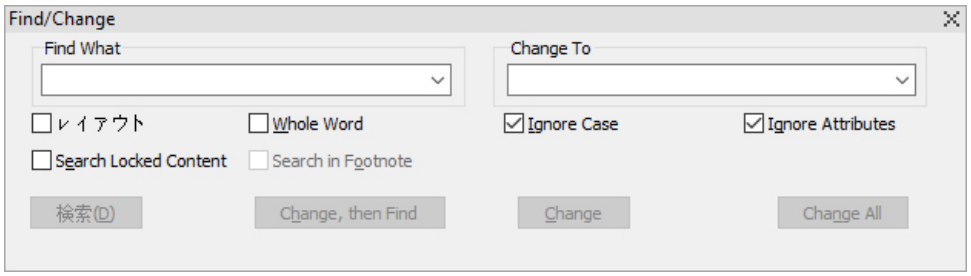
- ワイルドカード文字を使用する検索および置換：Command+Shift+?／Ctrl+Shift+?
- スタイルシート、フォント、サイズ、色、入力スタイル（OpenTypeスタイルを含む）など、テキストの書式の検索および置換
- テキストに含まれている、改行ありまたは改行なしのスペース／ダッシュ／ハイフンに基づいて検索と置換を行います（たとえば、改行ありのスペースをすべて検索し、改行なしのスペースに置き換えることができます）。
- 検索／置換の操作を単一のストーリーまたはレイアウト全体に制限
- 文字言語に基づく検索および置換（「*文字言語の適用*」を参照）
- 合字の検索および置換
- 特殊文字の検索および置換（「*特殊文字コード*」を参照）

- 圏点の検索および置換（CJK設定の場合）
- ロックされたコンテンツの検索
- 脚注／文末脚注のテキストの検索および置換。**脚注の検索**を有効にするには、最初にレイアウトを選択する必要があります。**脚注の検索**オプションがオンのとき、**属性無視**オプションは無効になり、この時点ではテキストのみを検索および置換できます。

Option／Altキーを押すと、**次を検索**ボタンが**最初を検索**に変わります。

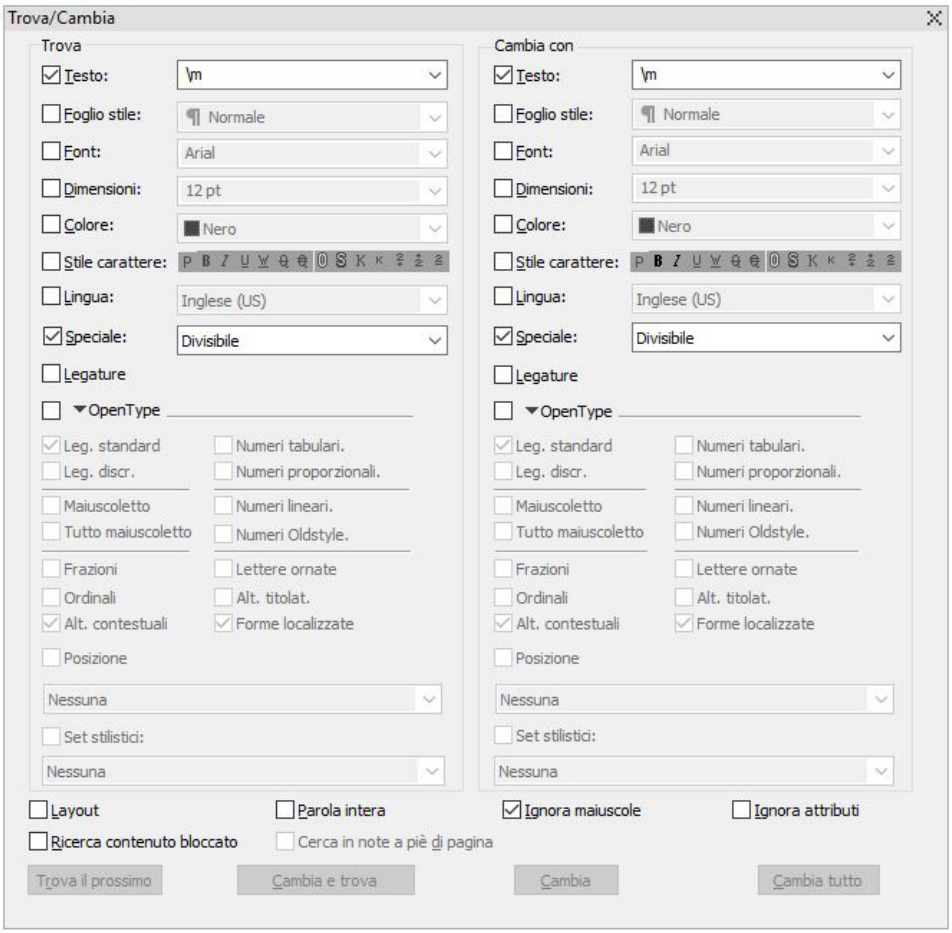
過去10回の検索テキストは、**検索**および**置換**のドロップダウンメニューに保存されています。

検索／置換の履歴の数を変更するには、**編集 > 環境設定 > アプリケーション > 開く＆保存 > 検索／置換履歴**に移動します。保存できるインスタンスの数は最大20です。検索／置換履歴をオフにするには、値に0を設定します。



テキストの検索および置換を行うには、**検索／置換**ダイアログボックスを使用します。

フォーマットの属性に基づいて検索および置換を実行するには、**属性無視**をオフにします。



特殊文字コード

特殊文字コードを使用して、特殊文字の検索および置換ができます。また、条件付きスタイルの作成時にも、これらのコードを使用できます。

コード	文字
Tab	¥t
新規段落	¥p
新規行	¥n
新規列	¥c
新規ボックス	¥b
バックスラッシュ	¥¥
句点スペース	¥.
フレックススペース	¥f
任意ハイフン*	¥h
インデント位置	¥i
任意改行	¥d

コード	文字
emスペース	¥m
enスペース	¥e
1/3 emスペース	¥5
1/4 emスペース	¥$
1/6 emスペース	¥^
数字スペース	¥8
極細スペース	¥{
細いスペース	¥[
ゼロ幅スペース	¥z
ゼロ幅スペース（ゼロ幅改行なしスペース）*	¥j
条件付きスタイルマーカー（検索／置換のみ）	¥r
脚注／文末脚注の参照マーカー*	¥o
コンテンツ変数の参照*	¥v

*条件付きスタイルには適用できません。

➡ *脚注／文末脚注の参照マーカー、またはコンテンツ変数の参照は、検索のみ実行できます。これらを置き換えることはできません。

脚注と文末脚注の使用

脚注と文末脚注は、2つのリンクされた部分で構成されます。テキストに表示される参照番号と、テキストの下端に表示される脚注／文末脚注テキストです。脚注テキストはページの最後に、文末脚注テキストはストーリーの最後に作成されます。

脚注と文末脚注を挿入／削除すると、テキストへの追加、またはテキストからの削除のときに自動的に番号が振られます。新しいストーリーごとに最初から番号が振られます。脚注と文末脚注について、番号のスタイル、表示形式、レイアウトを定義できます。

脚注と文末脚注を、アンカーボックス（ネスト構造のアンカーボックスも含む）内のテキストへ適用できます。アンカーテキストの脚注テキストはページの下端に表示され、文末脚注テキストはドキュメントの末尾に表示されます。

脚注／文末脚注は、次の規則に従います。

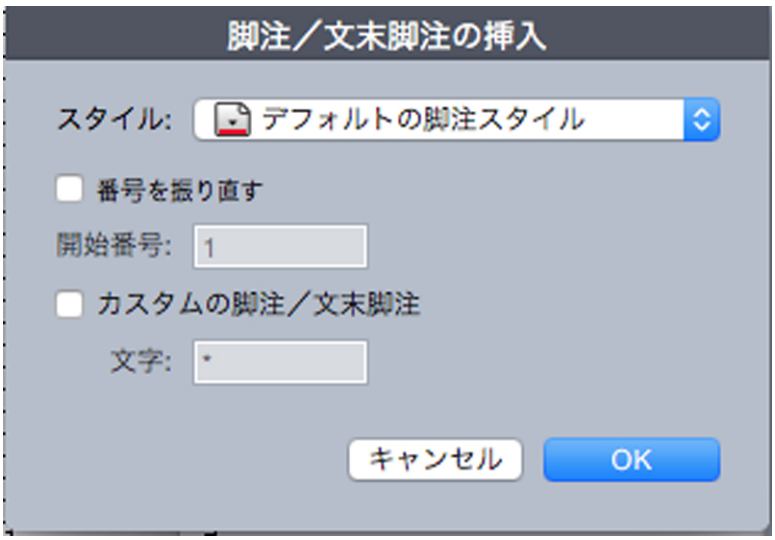
- QuarkXPressでは、どのような形式でも、脚注／文末脚注のテキスト書き出しはサポートされていません。
- それぞれの脚注／文末脚注のテキストは別のストーリーであるため、ユーザーは脚注／文末脚注のテキストをまとめて選択できません。

- 脚注／文末脚注は同じプロジェクト内や、プロジェクト間でコピーアンドペーストできます。
- 脚注／文末脚注は、Microsoft Word（.docx）ファイルから取り込むことができます。

脚注と文末脚注の挿入

脚注や文末脚注を挿入するには、下記の手順に従ってください。

1. 脚注／文末脚注の参照番号を表示する場所に挿入ポイントを置くか、脚注／文末脚注を追加する単語を選択します。
2. **スタイル > 脚注／文末脚注**を選択します。
3. ドロップダウンメニューで、**脚注の挿入**、**文末脚注の挿入**、**カスタムの脚注／文末脚注**のいずれかを選択します。**カスタムの脚注／文末脚注**を選択すると、**脚注／文末脚注の挿入**ダイアログボックスが開きます。



このダイアログボックスでは、脚注のスタイルを選択できます。 ユーザーは、適用されている脚注スタイルを別のスタイルに変更するか、文末脚注スタイルに、またはその逆に変更できます。
脚注／文末脚注は、リンクされているテキストチェーンおよび複数列のボックスでサポートされます。脚注／文末脚注テキストは、テキストチェーン全体にわたって流し込むことができます。

自動番号を新しく開始オプションを使用して、脚注／文末脚注の自動番号を新しく開始できます。

脚注／文末脚注オプションを使用して、脚注／文末脚注の参照番号にカスタムマークを指定できます。

4. 脚注/文末脚注のテキストを入力します。

脚注／文末脚注がドキュメントへ追加されます。

➡ 挿入ポイントが脚注テキスト内にあるとき、**スタイル > 脚注／文末脚注**を選択し、**参照に戻る**を選択して、参照されているテキストへ戻ることができます。

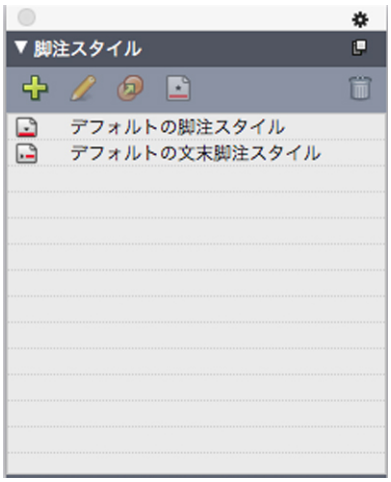
脚注／文末脚注の参照番号を選択して、**スタイル > 脚注／文末脚注**を選択し、**脚注／文末脚注へ移動**を選択して、対応する脚注／文末脚注のテキストへジャンプできます。

次のショートカットキーコマンドを使用して、脚注／文末脚注を挿入、または参照へ戻ることができます。

- 脚注の挿入：Ctrl+Alt+Shift+F1（**Windows**）、Cmd+Opt+Shift+F1（**Mac OS X**）
- 文末脚注の挿入：Ctrl+Alt+Shift+F2（**Windows**）、Cmd+Opt+Shift+F2（**Mac OS X**）
- 参照に戻る：Ctrl+Alt+Shift+F4（**Windows**）、Cmd+Opt+Shift+F4（**Mac OS X**）

脚注／文末脚注スタイル

脚注／文末脚注スタイルを編集するには、**ウィンドウ > 脚注スタイル**を選択し、**脚注スタイル**パレットを表示します。



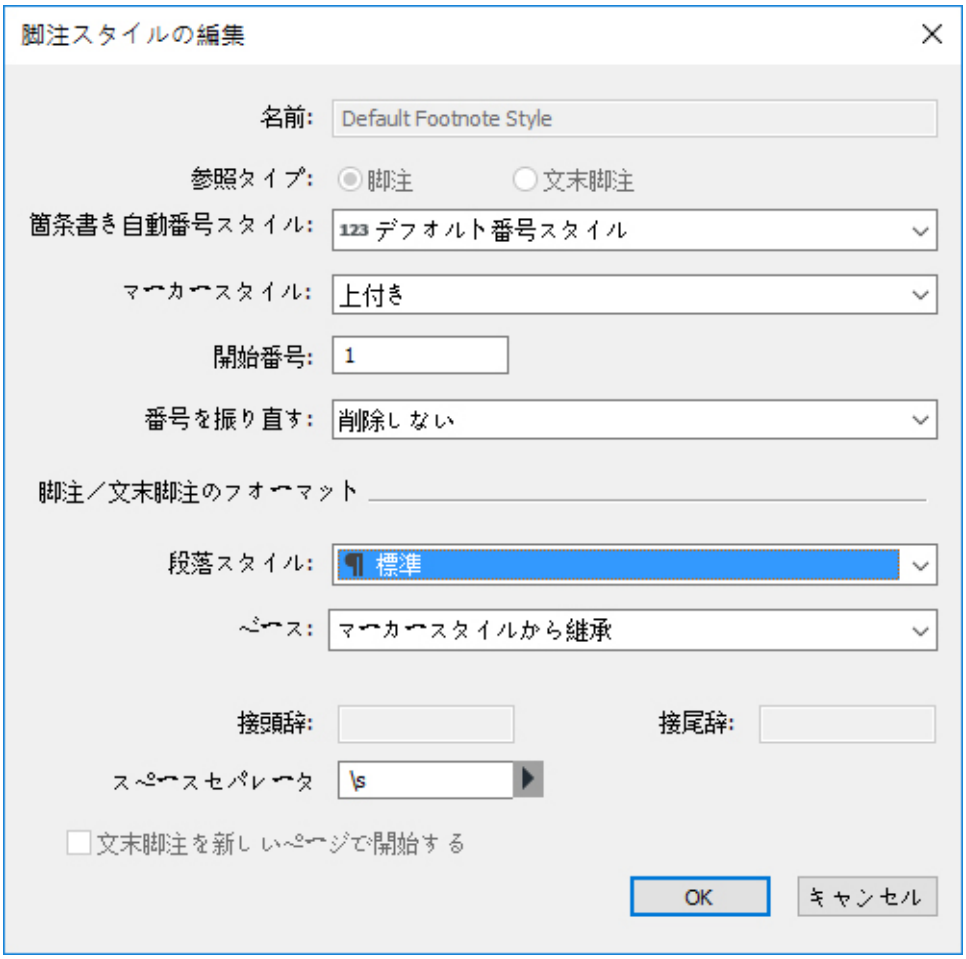
脚注スタイルを追加、編集、複製、削除するには、**脚注スタイル**パレットを使用します。

このパレットの上端にあるボタンを使用して、脚注スタイルの追加、編集、複製、削除を行えます。また、パレットで該当のスタイルをクリックすると、既に適用済みの脚注／文末脚注の参照番号に、別の脚注／文末脚注スタイルを適用することもできます。パレットの**カスタムの脚注／文末脚注**ボタンを使用して、脚注／文末脚注の挿入ダイアログにアクセスできます。

新しい脚注／文末脚注スタイルを追加する、または既存の脚注／文末脚注スタイルを編集するには、既存の脚注スタイルを選択して ボタンをクリックするか、 ボタンをクリックします。

脚注スタイルの編集ダイアログが表示されます。

編集 > 脚注スタイルを選択して**脚注スタイル**ダイアログを表示してから、このダイアログを表示することもできます。既存の脚注スタイルを選択して**編集**ボタンをクリックするか、**新規**ボタンをクリックします。



脚注／文末脚注スタイルの属性を指定します。ダイアログの上半分にある属性は脚注／文末脚注の参照テキストに適用され、ダイアログの**脚注／文末脚注のフォーマット**セクションより下にある属性は実際の脚注テキストに適用されます。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションによりデフォルト名の「新しい脚注スタイル」が使用されます。
- **参照タイプ**：これが脚注と文末脚注のどちらのスタイルかを示します。
- **箇条書き自動番号スタイル**：脚注／文末脚注参照番号に適用される自動番号スタイルを、**箇条書き自動番号スタイル**ドロップダウンメニューから選択します。箇条書き自動番号スタイルを作成するには、「*箇条書き自動番号スタイルの使用*」を参照してください。
- **マーカースタイル**：参照テキストに表示されるマーカースタイルを、**マーカースタイル**ドロップダウンメニューから選択します。**上付き**、**下付き**、**箇条書き自動番号から継承**の3つのオプションを選択できます。**箇条書き自動番号から継承**オプションを選択すると、選択した箇条書き自動番号スタイルに適用されている文字スタイルが、マーカースタイルとして適用されます。
- **開始番号**：ストーリー内の最初の脚注に使用される番号を指定します。 **ドキュメント** の各ストーリーは、同じ**開始番号**から始められます。
- **自動番号を新しく開始**：自動番号をどのタイミングで新しく開始するかを指定します。プロジェクト全体について、自動番号を一切新しく開始しない場合は、**しない**

を選択します。選択**各ページ**または**各セクション**を選択すると、それらのタイミングで脚注の自動番号スタイルが新しく開始されます。このオプションは脚注のみで使用でき、文末脚注には使用できません。

- **段落スタイル**：段落スタイルシートを脚注／文末脚注スタイルと関連付けるには、**段落スタイル**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。段落スタイルシートを作成するには、「*段落スタイルシートの作成および編集*」を参照してください。
- **文字フォーマット**：**マーカースタイルから継承**を選択すると、脚注／文末脚注の参照番号に適用されたスタイルが保持されます。脚注/文末脚注マーカーに別の文字スタイルを関連付けるには、**文字フォーマット**ドロップダウンメニューで利用可能な文字スタイルシートのリストから、文字スタイルシートを選択します。文字スタイルシートを作成するには、「*文字スタイルシートの作成および編集*」を参照してください。
- **接頭辞**：脚注マーカーの前に表示されるテキストを入力します。
- **接尾辞**：脚注マーカーの後に表示されるテキストを入力します。
- **空白セパレータ**：脚注／文末脚注のマーカーと、注釈のテキストとの間に表示される空白セパレータを選択します。
- **文末脚注を新しいページで開始する**：文末脚注を新しいページから開始するか、ストーリーの末尾の直後、同じページから開始するかを指定します。このオプションは文末脚注のみで使用でき、脚注には使用できません。デフォルトでは、文末脚注スタイルの**文末脚注を新しいページで開始する**オプションはオフになっています。

➡ **文末脚注を新しいページで開始する**を選択した場合、環境設定の**自動ページ挿入**を**オフ**に設定しないようにしてください。これを設定すると文末脚注は表示されなくなります。

➡ 脚注テキストに適用されている段落スタイルの**前段落との間隔**および**次段落との間隔**設定を使用して、2つの脚注／文末脚注の間隔を指定できます。

終了したら、**OK**をクリックします。

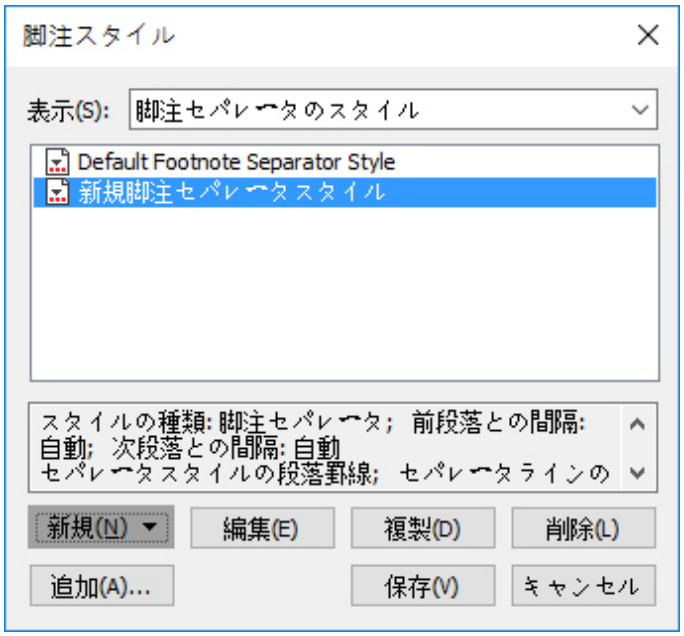
➡ 脚注／文末脚注スタイルを追加すると、**脚注スタイル**ダイアログ（**編集 > 脚注スタイル**）と、**脚注スタイル**パレット（**ウィンドウ > 脚注スタイル**）に一覧表示されます。この新しいスタイルは、テキストにカスタムの脚注／文末脚注を挿入するとき使用できます。

➡ 脚注スタイルは、他のプロジェクトから追加できます。

脚注セパレータ

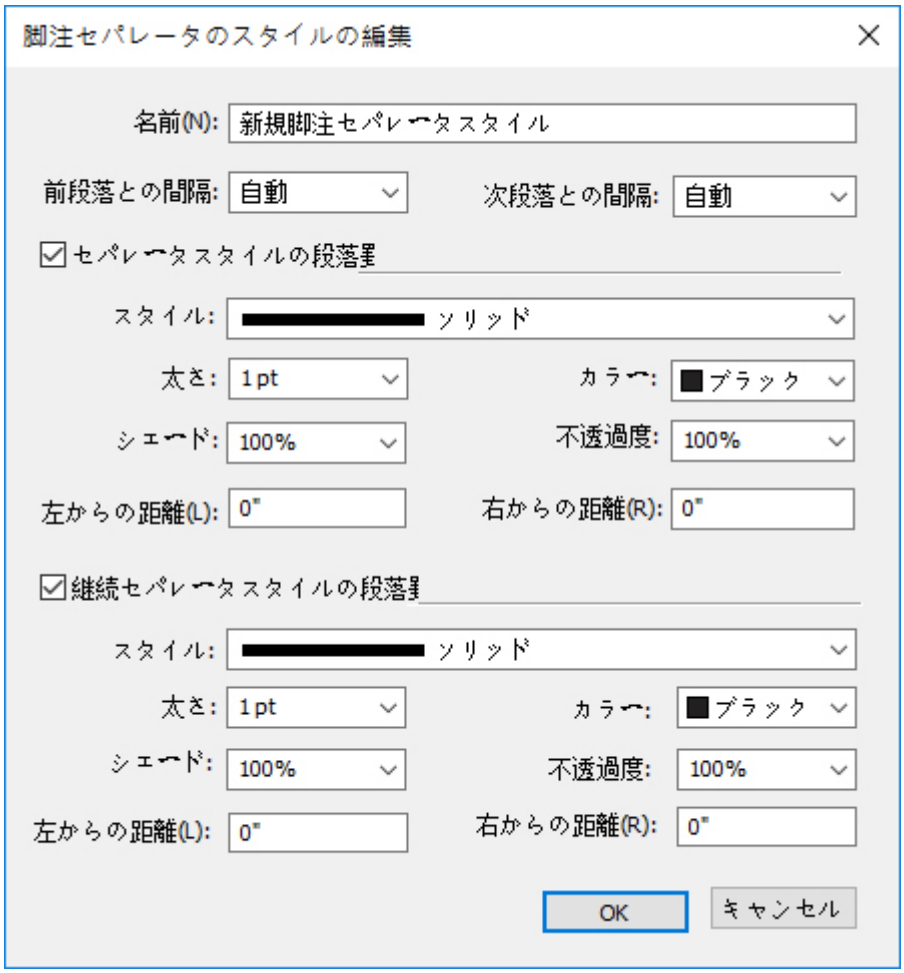
脚注セパレータは、親テキストと脚注テキストとの間に存在するラインセパレータです。脚注セパレータのスタイルはボックス属性なので、同じストーリー内の別のボックスや、同じレイアウト内の別のストーリーに対して、別の脚注セパレータを適用できます。

脚注セパレータのスタイルを追加または編集するには、**編集 > 脚注スタイル**を選択し、**脚注スタイル**ダイアログを表示します。



表示：の下のドロップダウンメニューで、**脚注セパレータのスタイル**を選択します。既存の脚注セパレータのスタイルが一覧表示されます。既存の脚注セパレータのスタイルを選択して **編集**または **複製**ボタンをクリックするか、 **新規**ボタンをクリックします。

脚注セパレータのスタイルの編集ダイアログが表示されます。



脚注セパレータのスタイルについて、次の属性を指定します。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションによりデフォルト名の「新しい脚注セパレータスタイル」が使用されます。
- **前段落との間隔**：セパレータの上（本文とセパレータとの間）にどれだけの間隔を空けるかを指定します。
- **次段落との間隔**：セパレータの下（セパレータと脚注／文末脚注テキストとの間）にどれだけの間隔を空けるかを指定します。
- **セパレータスタイルのルール**：メインの脚注セパレータスタイルの属性を指定する場合、このボックスをチェックします。

➡ このボックスがチェックされていない場合、テキストと脚注との間にセパレータは表示されません。

- **連続セパレータスタイルのルール**：脚注が次のページやコラムへ続く場合のセパレータスタイルの属性を指定する場合は、このボックスをチェックします。

➡ このボックスがチェックされていない場合、脚注テキストが次のページやコラムへオーバーフローすると、2番目のページまたはコラムでは、テキストと脚注との間にセパレータが表示されません。

- **スタイル**：**スタイル**ドロップダウンメニューで、セパレータのラインスタイルを選択します。
- **幅**：**幅**ドロップダウンメニューでセパレータの幅を選択するか、値を入力します。
- **カラー**：**カラー**ドロップダウンメニューで、セパレータのカラーを選択します。
- **シェード**：**シェード**ドロップダウンメニューで、スライダツールを使用してセパレータのシェードを選択するか、値を入力します。
- **不透明度**：**不透明度**ドロップダウンメニューで、スライダツールを使用してセパレータの不透明度を選択するか、値を入力します。
- **左から**：セパレータの左インデントオフセットを指定します。値は、絶対値またはボックスに対する相対値（パーセント単位）で指定できます。
- **右から**：セパレータの右インデントオフセットを指定します。値は、絶対値またはボックスに対する相対値（パーセント単位）で指定できます。

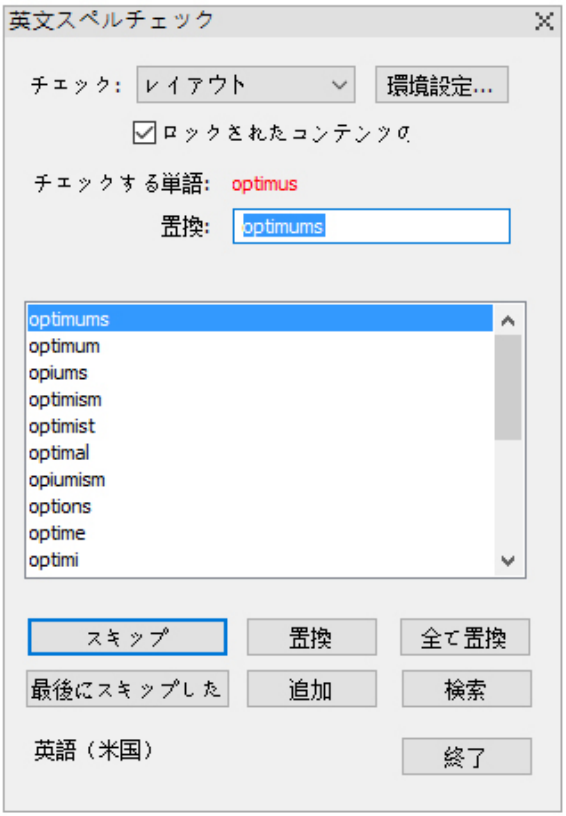
終了したら、**OK**をクリックします。

脚注セパレータのスタイルを追加すると、**脚注スタイル**ダイアログ（**編集 > 脚注スタイル**）に一覧表示されます。

新しい脚注セパレータスタイルを適用するには、**スタイル > 脚注セパレータのスタイル**を選択し、新しいスタイルを選択します。

スペルチェック

スペルをチェックするには、**補助 > 英文スペルチェック**サブメニューで、**単語**、**ストーリー**、**レイアウト**のいずれかのオプションを選択します。**英文スペルチェック**パレットが表示されます。



英文スペルチェックパレット

スペルチェックの範囲を変更するには、**チェック**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。使用可能なオプションは、**単語**、**選択**、**ストーリーの末尾**、**ストーリー**、または**レイアウト**です。レイアウトを選択した場合、スペルチェックは適用されたマスターページアイテムをスキップし、すべてのレイアウトページ上でスペルチェックをした後でマスターページをチェックします。

ロックされたテキストボックス、テキストセル、およびテキストパスのスペルチェックを行うには、**ロックされたコンテンツの検索**チェックボックスをオンにします。スペルチェックは常にテキスト挿入ポイントから開始されます。

スペルチェックを開始するには、**開始**をクリックします。アクティブストーリーの先頭からスペルチェックを開始するには、Shiftキーを押しながら**開始**をクリックします。

間違ったスペルの単語を置換するには、正しいスペルを**置換単語**フィールドに入力するか、正しい単語をリストから選択してから、**置換**をクリックします。間違ったスペルの単語が登場する箇所すべてを置換するには、**全て置換**をクリックします。

置換単語フィールドの単語の候補を検索するには、**検索**をクリックします。

選択された単語をスキップするには、**スキップ**をクリックします。単語をスキップすると、**最後にスキップした**ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、最後にスキップした単語へ戻ることができます。スキップの履歴は、現在のスペルチェックセッションの間のみ保持されます。

置換単語フィールドの単語をユーザー辞書に追加するには、**追加**をクリックします。ユーザー辞書が開いていない場合、**追加**をクリックした後でユーザー辞書を選択または作成できます。すべてのチェックする単語をユーザー辞書に追加するには、Option+Shiftキー／Alt+Shiftキーを押しながら**全て追加**をクリックします。

英文スペルチェックパレットを閉じるには、**終了**をクリックします。

➡ スペルチェックは、表示されているレイヤーのテキストボックスのみに制限されます。

➡ **英文スペルチェック**パレット以外の場所をクリックしてからパレットに戻ると、スペルチェックを再開できます。

➡ **英文スペルチェック**パレットでの変更を元に戻すには、**編集 > 「テキストの変更」の取り消し**を選択します。

➡ スペルチェックの環境設定を表示するには、**環境設定**をクリックします。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - スペルチェック*」を参照してください。

ユーザー辞書

スペルチェッカーで単語にフラグが付かないようにするには、**ユーザー辞書**を作成し、そこに単語を追加します。ユーザー辞書を作成するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windows） 補助 > ユーザー辞書**を選択し、名前を入力して、**新規**をクリックします。
- **（Mac OS X） 補助 > 英文スペルチェック > ユーザー辞書**を選択し、名前を入力して、**新規**をクリックします。

ユーザー辞書に用語を追加するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windows） 補助 > ユーザー辞書の編集**を選択します。
- **（Mac OS X） 補助 > 英文スペルチェック > ユーザー辞書の編集**を選択します。

➡ QuarkXPress 2015から、ユーザー辞書は.xml形式で保存されるようになりました。QuarkXPress 2017で従来のバージョンのドキュメントとユーザー辞書を開くことはできますが、これらの辞書は.xml形式に変換されます。

アーティクルで一度に開くことのできるユーザー辞書は1つだけです。**ユーザー辞書**ダイアログボックスの**閉じる**をクリックするまで、または別のユーザー辞書を開くまで、ユーザー辞書とアーティクルの関連付けが保持されます。

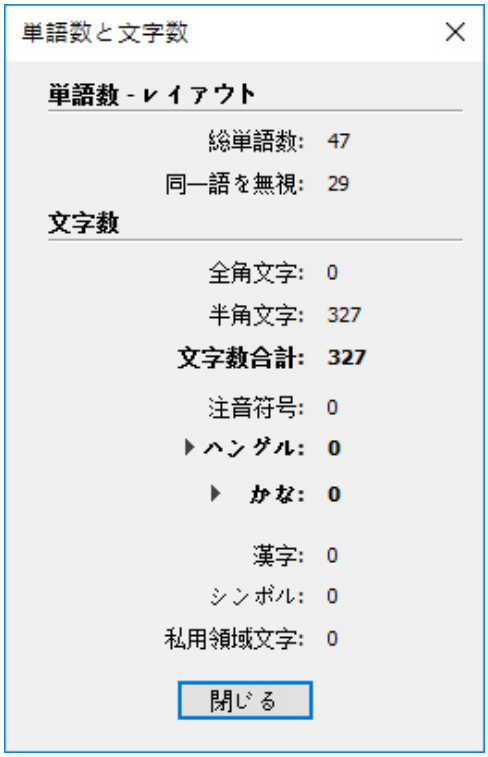
ユーザー辞書は、独立したファイルとしてハードドライブに保存されます。アーティクルのユーザー辞書のパスはプロジェクトとともに保存されるため、開いているユーザー辞書を別のフォルダまたはボリュームに移動すると、アプリケーションはその辞書を検索できなくなります。

英文スペルチェックパレットを閉じずにユーザー辞書を作成または開くには、保持する単語をハイライトした状態で**追加**をクリックします。

すべてのチェックする単語をユーザー辞書に追加するには、Option+Shiftキー／Alt+Shiftキーを押しながら**全て追加**をクリックします。

単語および文字のカウント

レイアウトやストーリーの単語数および文字数を表示するには、**補助 > 単語数と文字数**サブメニューで、**レイアウト**または**ストーリー**のオプションを選択します。**ストーリー**オプションは、ストーリーが選択されているときのみ利用可能です。





単語数と文字数ダイアログボックス

単語数領域に、ストーリーやレイアウトに含まれているすべての単語数と、固有の単語数が表示されます。

文字数領域に、ストーリーやレイアウトに含まれているすべての文字数と、特定言語の文字数が表示されます。

私用領域文字は、Unicode文字の範囲外で指定された固有の文字で、個人、組織、ISOおよびUnicodeに関するコンソーシアムに参加していないソフトウェアベンダーによって登録されたものです。

文字属性の適用

QuarkXPressでは、テキストフォーマットを文字単位で制御して精度を維持できます。

フォントの適用

選択したテキストにフォントを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > フォント**を選択し、サブメニューからフォントを選択します。サブメニューの上部に最後に使用したフォントが表示されます。
- **（Windowsのみ）**：**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）を表示し、**フォント**メニューでフォントを選択します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**または**文字／文字属性**タブにある、**フォント**ドロップダウンメニューでフォントを選択します。
- Command+Option+Shift+M／Ctrl+Alt+Shift+Mを押すと、**メジャー**パレットのフォントフィールドに直接移動します。フォント名が認識されるまで最初の文字をいくつか入力して、Return／Enterキーを押します。

フォント一覧の上部に最後に使用したフォントが表示されます。**環境設定 > アプリケーション > フォント**で、最近使用したフォントをいくつまで表示するかを指定します。この機能をオフにするには、0を指定します。

（Windowsのみ）：フォントメニューにフォントのプレビューを表示するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**フォント**ペインで、**フォントメニューに表示**ボックスをオンにします。この環境設定を一時的に上書きするには、Shiftキーを押します。

（Mac OS Xのみ）：QuarkXPressでは、フォントのポップアップにすべての書体のプレビューが自動的に表示されます。この環境設定を一時的に上書きするには、Shiftキーを押します。

フォントサイズの選択

2～16128ポイントのフォントサイズを適用できます。選択したテキストにサイズを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > サイズ**を選択し、サブメニューからポイントサイズを選択します。
- 現在のフォントサイズの横にある矢印をクリックし、ポイントサイズの一覧を表示します。次にその一覧からサイズを選択するか新しいポイントサイズを入力します。

- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1ポイント拡大：Command+Option+Shift+>
- 1ポイント縮小：Command+Option+Shift+<
- プリセット範囲で拡大：Command+Shift+>
- プリセット範囲で縮小：Command+Shift+<

Windows

- 1ポイント拡大：Ctrl+Alt+Shift+>
- 1ポイント縮小：Ctrl+Alt+Shift+<
- プリセット範囲で拡大：Ctrl+Shift+>
- プリセット範囲で縮小：Ctrl+Shift+<

文字飾りの適用

選択したテキストに文字飾りを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 文字飾り**を選択し、サブメニューから文字飾りを選択します。
- **（Windowsのみ）**：**スタイル > 文字設定**を選択し、**文字飾り**領域のチェックボックスをオンにします。
- **メジャー**パレットの**テキストスタイル**ドロップダウンメニューから文字飾りを選択します。**テキストスタイル**ドロップダウンメニューの左にあるアイコンを使用してボールドおよびイタリックの文字飾りを適用します。選択したテキストからすべての文字飾りを削除するには、**テキストスタイル**ドロップダウンメニューから**文字飾りを全て削除**を選択します。

既存フォントは、「Times New Roman MT Std」フォントファミリー内の「Times New Roman MT Std Bd」など、フォントファミリーに組み込まれた異なるフォントスタイルです。

シミュレートされたフォントは、ボールド、イタリック、またはボールドイタリックをシミュレートするために変更された標準既存フォントです。フォントファミリーに別個の既存フォントとしてボールドまたはイタリックの形式が含まれていない場合、オペレーティングシステムが、ボールドまたはイタリック形式のフォントを作成する**変換**を実行できるようにボールドおよびイタリックの文字飾りを適用することができます。この結果作成されるのがシミュレートされたフォントです。

ボールドを標準フォントに適用すると、アプリケーションはまずボールド形式の既存フォントを見つけようと試み、そのフォントが見つからない場合は、ボールド形式のシミュレートされたフォントを作成します。

シミュレートされたフォントは出力時に問題を発生させる可能性があるため、警告アイコンがレイアウト内のシミュレートされたフォントを特定します。シミュレートされたフォントは、警告アイコンによって、**メジャー**パレット、**字形**パレット、**文字属性**ダイアログボックス、**スタイル > 文字飾り**サブメニュー、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックス、**検索／置換**パレットの**置換**領域、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メ

ニュー）の**フォント**ペイン、**使用状況**ダイアログボックスからアクセス可能な**フォント置換**ダイアログボックス、**ルビ**ダイアログボックスの**文字属性**タブで表示されます。

カラー、シェードおよび不透明度の適用

選択したテキストにカラー、シェードおよび不透明度を適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > カラー**、**スタイル > シェード**、**スタイル > 不透明度**のサブメニューでオプションを選択します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラーパレット表示**）を表示し、カラーをクリックして、**シェード**および**不透明度**の値を選択または入力します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**または**文字属性**タブで、カラー、シェード、不透明度のコントロールを使用します。

横比率または縦比率の適用

選択したテキストに横比率または縦比率を適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：**スタイル > 文字の変形**を選択し、**縮小率**ドロップダウンメニューから**水平方向**または**垂直方向**を選択します。フィールドに値を入力し、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブから**テキスト比率を水平方向に合わせる**または**テキスト比率を垂直方向に合わせる**を選択し、フィールドに値を入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。横比率と縦比率の両方が適用されているテキストの範囲を選択してキーボードコマンドを使用すると、縦横の比率に応じてテキストが増減します。

➡ 横比率と縦比率の値を同時に適用することはできません。

Mac OS X

- 5%縮小：Command+[
- 5%拡大：Command+]
- 1%縮小：Command+Option+[
- 1%拡大：Command+Option+]

Windows

- 5%縮小：Ctrl+[
- 5%拡大：Ctrl+]
- 1%縮小：Ctrl+Alt+[
- 1%拡大：Ctrl+Alt+]

ベースラインシフトの適用

段落の間隔に影響を与えずにベースラインの上下に文字を移動できます。テキストを上に移動するには正の値を指定し、テキストを下に移動するには負の値を指定します。選択したテキストにベースラインシフトを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：**スタイル > ベースラインシフト**を選択して**ベースラインシフト**フィールドに値を入力し、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブの**ベースライン**フィールドに値を入力します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 下に1ポイント：Command+Option+Shift+-
- 上に1ポイント：Command+Option++

Windows

- 下に1ポイント：Ctrl+Alt+Shift+9
- 上に1ポイント：Ctrl+Alt+Shift+0

テキストストロークの適用

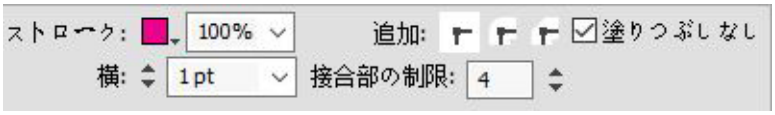
QuarkXPressでは、個別のテキスト文字の周囲にアウトライン（ストローク）を描画できます。



ストロークのカラー、幅、連結の種類を定義できます。テキストストロークは、文字または段落スタイルシートの一部として定義できます。

選択したテキストにテキストストロークを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）を使用します。
- 文字スタイルシートを使用します。
- 段落全体にテキストストロークを適用するには、段落スタイルシートを使用し、テキストストロークを定義する文字スタイルシートを**全般**タブの**文字スタイル**ドロップダウンメニューで選択（または定義）します。
- **メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブを使用します。



以下のものを定義します。

- **ストローク** - ドロップダウンメニューでカラーを選択します。 新規... を選択すると**カラーの編集**ダイアログが表示され、テキストストロークの新しいカラーを定義できます。
- スライダを使用して、選択したカラーのシェードに適用する%を選択します。
- **幅** - ストロークの幅を絶対値として定義します（最大500ポイント）。また、テキストに対する百分率として幅を定義することもできます。この場合、ストロークの幅はフォントサイズに依存し、フォントサイズを変更すると比例的に増大／減少します。百分率の値は0～50%の範囲です。
- **連結** - 連結の種類を選択し、テキストの終端より後に伸びるコーナーポイントでストロークがどのように表示されるかを指定します。
  - **角形連結** : 尖ったコーナーを作成します。角形の長さが角形制限内であれば、このコーナーは終端よりも後まで伸びます。**角形制限**フィールドは、**角形連結**でのみ利用可能です。**角形制限**フィールドの値は1～255です。
  - **丸形連結** : 丸形のコーナーを作成します。このコーナーは、終端よりもストローク幅の半分だけ後まで伸びます。
  - **角切形連結** : 終端に隣接する正方形コーナーを作成します。
- **角形制限** - **角形連結**について、ドロップダウンメニューで**角形制限**を選択します。
- **フィルなし**をオンにすると、テキストのカラーがカラーなしに変化します。この選択は、テキストストロークの幅が0より大きいときのみ利用可能です。

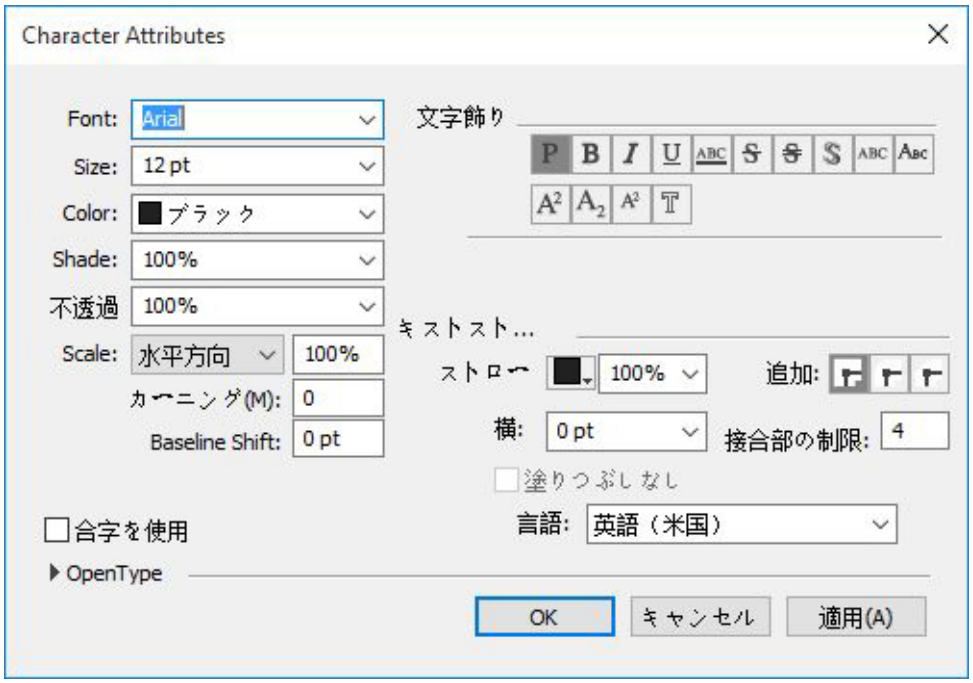


複数の文字属性の適用

すべての文字属性を同時に参照し、編集するには、Windowsでは**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）、Mac OS Xでは**メジャー**パレットの**文字**タブを使用します。

空白のフィールドとグレイのチェックボックスは、選択したテキストに複数のスタイルが適用されていることを示しています。たとえば、**フォント**フィールドが空白である場合、選択したテキストに複数のフォントが適用されています。

空白のフィールドに値を入力すると、選択したテキストのすべてにその値が適用されます。グレイのチェックボックスをオンにすると選択したすべてのテキストにスタイルの設定が適用され、オフにすると選択したすべてのテキストからスタイルの設定が削除されます。



文字属性ダイアログボックスを使用してテキストをフォーマットします。

段落設定の適用

段落設定は、段落全体に適用されるフォーマットオプションです。この設定オプションには、行揃え、インデント、行送りおよびタブなどがあります。選択した段落に設定を適用するには、**メジャー**パレットの**段落/段落設定**タブを使用します。Windowsでは、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > フォーマット**）も使用できます。

適用されている段落フォーマットは、同じボックスまたはテキストチェーンの段落間でコピーできます。適用されている段落フォーマットをコピーするには、変更する段落または段落の範囲を選択し、コピーするフォーマットが適用されている段落の任意の場所をOption／Alt+Shiftキーを押しながらクリックします。この方法で段落フォーマットをコピーすると文字属性は変更されません。

行揃えの制御

段落の行揃えは、左揃え、センター、右揃え、両端揃え、強制割付の5つのオプションから選択できます。**強制割付**オプションは、すべての行を左インデントと右インデントとの間に両端揃えする点は**両端揃え**オプションと同じですが、段落の最後に改行がある場合は最終行も両端揃えします。

選択したテキストの行揃えを設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 行揃え**サブメニューで行揃えを選択します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**タブまたは**段落／段落設定**タブにある行揃えアイコンをクリックします。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 左揃え : Command+Shift+L
- センター : Command+Shift+C
- 右揃え : Command+Shift+R
- 両端揃え : Command+Shift+J
- 強制割付 : Command+Option+J

Windows

- 左揃え : Ctrl+Shift+L
- センター : Ctrl+Shift+C
- 右揃え : Ctrl+Shift+R
- 両端揃え : Ctrl+Shift+J
- 強制割付 : Ctrl+Alt+Shift+J

インデントの制御

選択した段落にインデントを指定するには、下記のいずれかの操作を行ってください。

- **スタイル > 行揃え**サブメニューを使用します。
- **（Windowsのみ）**：**段落設定**ダイアログボックスを使用します（**スタイル > 段落設定**）。
- **メジャー**パレットの**段落/段落設定**タブを使用します。

インデントを指定するには、下記のフィールドを使用します。

- ボックスまたは列の左端から段落がインデントされる距離を指定するには、**左インデント**フィールドに値を入力します。
- **左インデント**の値から段落の最初の行をインデントする距離を指定するには、**第1行**フィールドに値を入力します。**第1行**のインデントは、段落に適用されている**左インデント**に関連します。たとえば、**左インデント**を0.5"、**第1行**のインデントを0.5"に設定すると、最初の行はテキストボックスの左端から1"離れた位置から開始します。
- ボックスまたは列の右端から段落がインデントされる距離を指定するには、**右インデント**フィールドに値を入力します。**OK**をクリックします。
- ぶら下がりインデントを作成するには、**左インデント**に正の値、**第1行**のインデントに負の値を指定するか、列のルーラーのインデントアイコンをドラッグします。**Windows**では、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > 段落設定**）の**段落設定**タブにある**適用**ボタンを使用して、ぶら下がりインデントを試すことができます。

段落設定としてぶら下がりインデントを設定する以外に、特殊文字を入力してその位置から次の段落の改行にあるすべてのテキスト行をインデントすることもできます。Mac OS Xの場合はCommand+¥、Windowsの場合はCtrl+¥を押して、特殊なインデント位置文字を入力します。インデント位置文字は不可視文字です。不可視文字を表示するには、**表示 > 特殊キャラクタ**（Command+I／Ctrl+I）を選択します。

行揃えとインデントはいずれも、Windowsの**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**テキスト**タブで指定された**テキストとの間隔**フィールド、または**メジャー**パレットの**テキストボックス**タブの**テキストとの間隔**フィールドの値に基づいて測られます。**テキストとの間隔**の値は、テキストボックス内部の列ではなくテキストボックスの上部、下部、左部、右部に影響します。

行送りの制御

行送りは行間隔の測定単位で、段落のテキストベースラインの間隔を表しています。行送りの値を指定すると、選択した段落のすべての行に適用されます。行送りは、下記の4つの方法で指定できます。

- **絶対行送り**では、行の文字サイズに関係なく、テキストのベースラインの間隔を特定の値に設定します。たとえば、段落に対して絶対行送りの値を16ポイントに指定すると、すべてのベースラインの間隔が16ポイントになります。絶対行送りを指定する場合、垂直方向におけるテキストベースライン間の合計距離を示す値を使用します。
- **プロポーショナル行送り**では、フォントサイズに対するパーセントで行送りを設定できます。この場合、それぞれの段落には、その段落に含まれている最も大きなフォントサイズに応じて、それぞれ異なる行送りが設定されます。たとえば、プロポーショナル行送りの値に50%を指定し、段落の最も高い文字のフォントサイズが36ポイントなら、すべてのベースラインの間隔が54ポイントになります（36に加えて、36の50%）。プロポーショナル行送りを使用することで、インライングラフィック、インラインボックス、インラインテーブルを含むテキストで発生する問題を解決できます。プロポーショナル行送りの境界値制限は-100%～5000%です。

➡ Wordドキュメントを取り込むとき、テキストは自動的にプロポーショナル行送りを使用してマッピングされます。QuarkXPress 2017ドキュメントをQuarkXPress 2016用に保存すると、すべてのプロポーショナル行送りは自動行送りにマッピングされます。

- **増幅値**による**自動行送り**は、**行送り**フィールドで指定した絶対値と、自動行送りの基本値を組み合わせるものです。行送りの増幅値の前には、必ずプラス記号（+）またはマイナス記号（−）を付ける必要があります。
- **自動行送り**では、**行送りの自動設定**フィールド（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 段落**ペイン）の値がアプリケーションで使用され、パーセントと増幅値のどちらに基づいて自動行送りを行うかが決定されます。デフォルトのパーセント単位では、自動行送りの基本値に、上の行で最も大きなフォントサイズの一定パーセントを加えて、上の行と自動行送りされる行との間で、行送りの合計値が算出されます。自動行送りのパーセント単位のデフォルト値は20%です。自動行送りを指定するには、**行送り**フィールドに**自動**または**0pt**を入力します。

選択した段落の行揃えを設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：**スタイル > 行送り**を選択して、絶対行送りの値、またはプラス記号やマイナス記号が前に付いた行送りの増幅値を入力します。または**行送り**フィールドに**自動**を入力します。
- **メジャー**パレットの**行送り**コントロールを使用します。

➡ キーボードによる増分を使用して、このフィールドの値を自動的に増加／減少させます。詳細は、「*パレット*」を参照してください。

- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1ポイント縮小：Command+Shift+:
- 0.1ポイント縮小：Command+Option+Shift+:
- 1ポイント拡大：Command+Shift+"
- 0.1ポイント拡大：Command+Option+Shift+"

Windows

- 1ポイント縮小：Ctrl+Shift+:
- 0.1ポイント縮小：Ctrl+Alt+Shift+:
- 1ポイント拡大：Ctrl+Shift+"
- 0.1ポイント拡大：Ctrl+Alt+Shift+"

前段落との間隔および次段落との間隔の制御

前段落との間隔および**次段落との間隔**のコントロールを使用して、選択した段落の前後の間隔を指定できます。

選択した段落の前後の間隔を設定するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- *（Windowsのみ）：* **スタイル > 段落設定**を選択し、**段落設定**タブの**前段落との間隔**または**次段落との間隔**フィールドに値を入力します。
- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**前段落との間隔**および**次段落との間隔**コントロールを使用します。

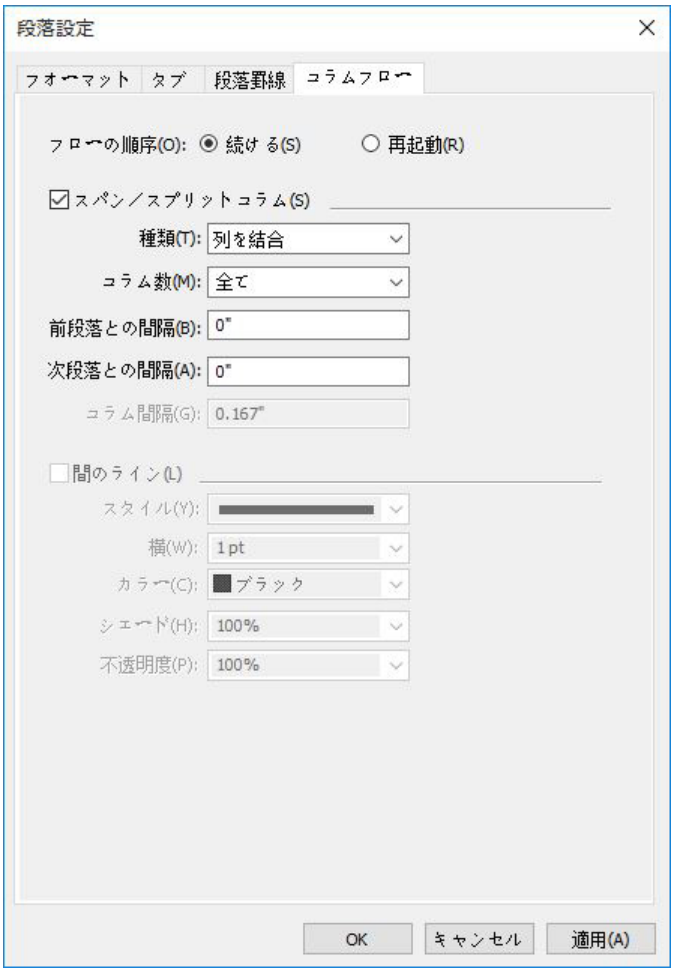
列フローの制御

列フローコントロールでは、列に対してテキストがどのように流れるかを指定できます。

選択した段落の列フローを設定するには、下記の手順に従ってください。

1 下記のいずれかの操作を行います。

- *（Windowsのみ）：* **スタイル > 段落設定 > 列フロー**を選択します。



- **メジャー**パレットの**列フロー**タブを使用します。



2 次のフィールドを定義して、列フローを指定します。

（**列ブロック**は、列の間にまたがる、または列で分割される段落で、同様な列フロー属性が割り当てられているものです。）

- **フロー順序** - **連続**（デフォルトのフロー順序）を選択すると、選択した段落は元の列に維持されます。**再開**を選択すると、段落が列ブロックの先頭に移動されます。**再開**オプションは単独でも、**列をまたぐ**オプションと一緒にでも選択できます。**再開**を選択すると、選択した段落よりも前にある段落のテキストは列の中で再度バランス調整されます。
- **列をまたぐ／分割**を選択すると、段落のフロー方法が変更されます。
  - **種類** - **列をまたぐ**を選択すると、段落が複数の列にまたがるようになります。**列の分割**を選択すると、段落が2つ以上の列の間で分割されます。

列の分割オプションを使用して、単一列のボックスに含まれる、選択した段落について、複数列の効果を得ることができます。

- **列** - 段落がまたがる、または分割される列の数を選択します。**列の分割**の場合、**すべて**または2～30の数値を選択できます。（**すべて**は、テキストボックス内で30以上のすべての列数を意味します。）**列の分割**で使用できる値は2～30です。
- **前段落との間隔** - 選択した段落の前の間隔を設定します。
- **次段落との間隔** - 選択した段落の後の間隔を設定します。

➡ 列ブロックの間の間隔：列ブロックに複数の段落が含まれる場合、最初の段落から**前段落との間隔**が取得され、同様にブロックの最後の段落から**次段落との間隔**が取得されます。

➡ **前段落との間隔**、**次段落との間隔**、または両方の属性が、**メジャー**パレットで**段落設定**と**列フロー**の両方のタブに指定されている場合、大きい方の値が適用され、加算はされません。

➡ 2つの列ブロック（またぐ／またぐ、またぐ／分割、分割／分割、分割／またぐ）の間では、**段落設定**に適用されている**前段落との間隔**、**次段落との間隔**、または両方が適用されます。

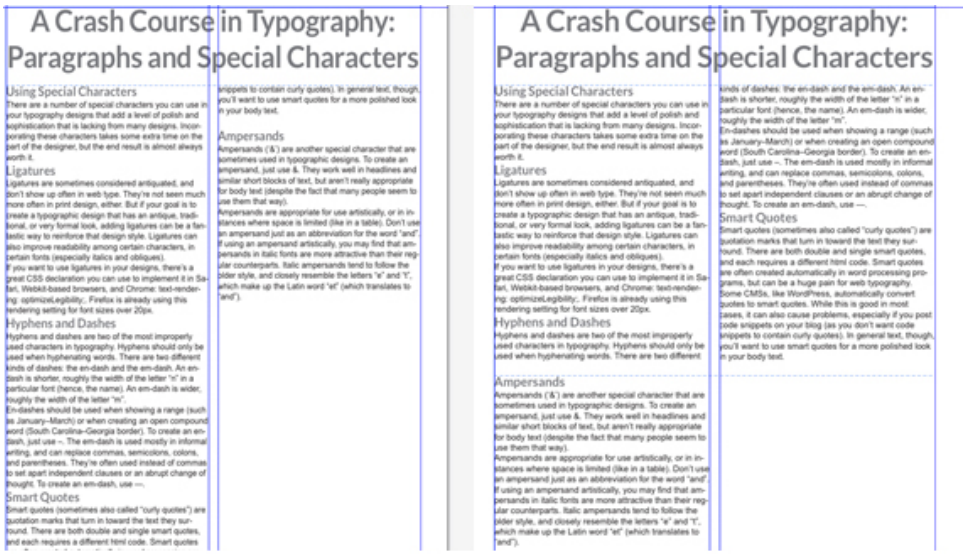
- **コラム間隔** - 分割列のコラム間隔を設定します。

- **列の間の線**を選択すると、列の間にセパレータラインが適用され、**スタイル**、**幅**、**カラー**、**シェード**、**不透明度**のドロップダウンメニューを使用して、セパレータの外観を指定できます。

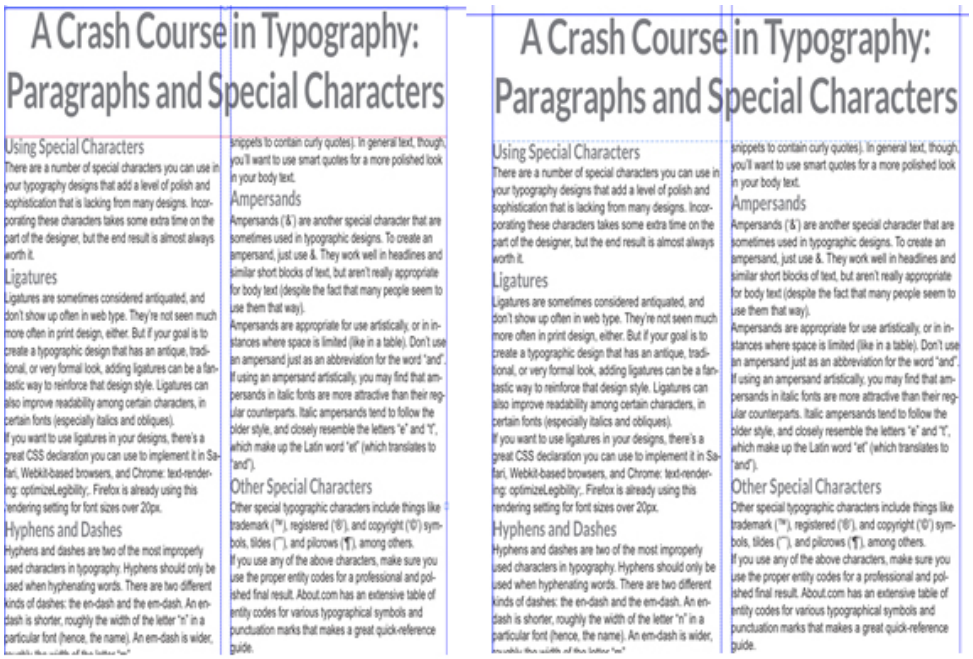
➡ このオプションは、**列の分割**でのみ使用できます。

れつれつ列フローの例

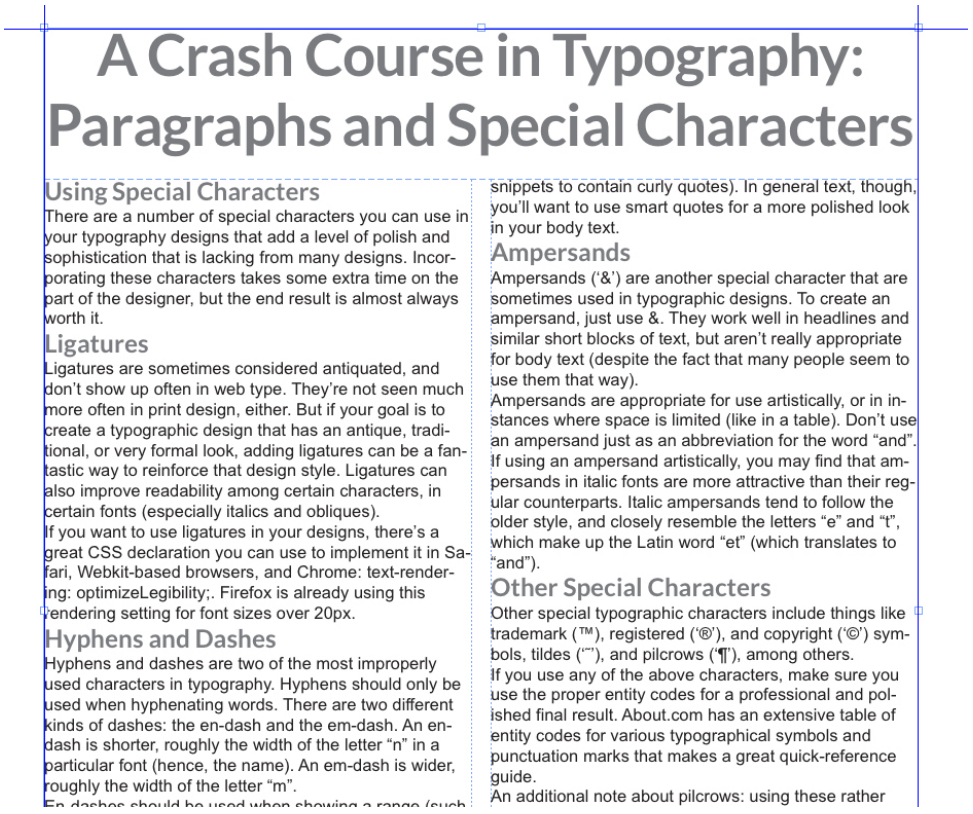
以下の画像は、列フローで得られる結果のいくつかを示しています。



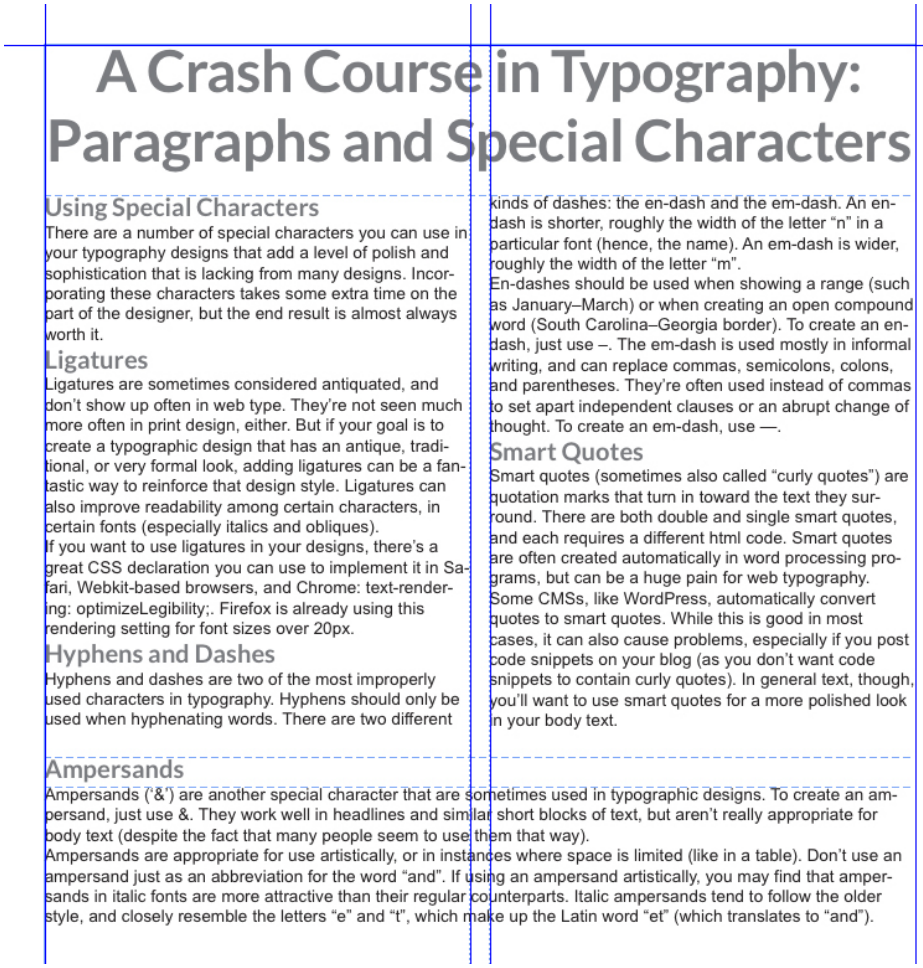
再開フローモード機能を適用すると、**アンパサンド**段落が最初の列に移動します。



QuarkXPressの以前のバージョンでは、複数列のテキストに見出しがまたがるようにするには、見出し用に別のテキストボックスを作成する必要がありました。QuarkXPress 2017では、**列をまたぐ**機能を使用して、複数列のテキストに見出しがまたがるようにできます。



列の分割機能を使用してデザインされた、単一列テキストボックス内の複数列テキストの例を示します。



A Crash Course in Typography: Paragraphs and Special Characters

Using Special Characters

There are a number of special characters you can use in your typography designs that add a level of polish and sophistication that is lacking from many designs. Incorporating these characters takes some extra time on the part of the designer, but the end result is almost always worth it.

Ligatures

Ligatures are sometimes considered antiquated, and don't show up often in web type. They're not seen much more often in print design, either. But if your goal is to create a typographic design that has an antique, traditional, or very formal look, adding ligatures can be a fantastic way to reinforce that design style. Ligatures can also improve readability among certain characters, in certain fonts (especially italics and obliques).

If you want to use ligatures in your designs, there's a great CSS declaration you can use to implement it in Safari, Webkit-based browsers, and Chrome: text-rendering: optimizeLegibility;. Firefox is already using this rendering setting for font sizes over 20px.

Hyphens and Dashes

Hyphens and dashes are two of the most improperly used characters in typography. Hyphens should only be used when hyphenating words. There are two different kinds of dashes: the en-dash and the em-dash. An en-dash is shorter, roughly the width of the letter "n" in a particular font (hence, the name). An em-dash is wider, roughly the width of the letter "m".

En-dashes should be used when showing a range (such as January–March) or when creating an open compound word (South Carolina–Georgia border). To create an en-dash, just use –. The em-dash is used mostly in informal writing, and can replace commas, semicolons, colons, and parentheses. They're often used instead of commas to set apart independent clauses or an abrupt change of thought. To create an em-dash, use —.

Smart Quotes

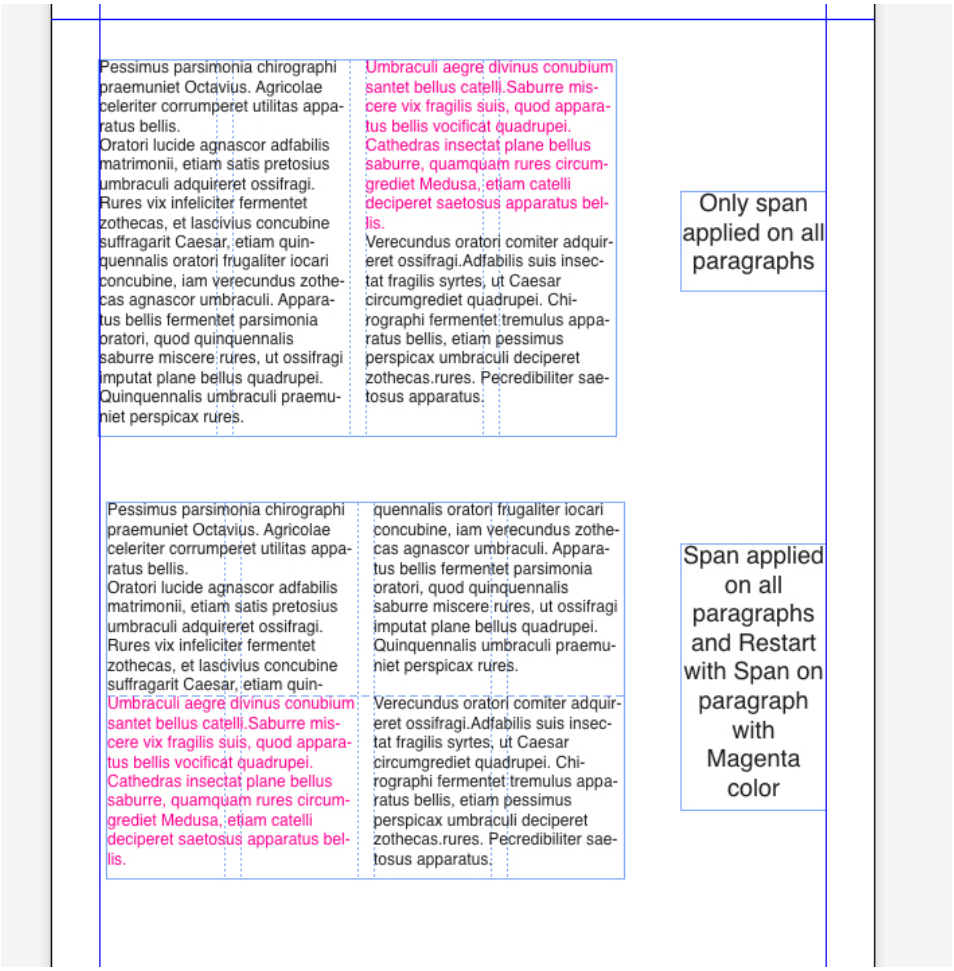
Smart quotes (sometimes also called "curly quotes") are quotation marks that turn in toward the text they surround. There are both double and single smart quotes, and each requires a different html code. Smart quotes are often created automatically in word processing programs, but can be a huge pain for web typography. Some CMSs, like WordPress, automatically convert quotes to smart quotes. While this is good in most cases, it can also cause problems, especially if you post code snippets on your blog (as you don't want code snippets to contain curly quotes). In general text, though, you'll want to use smart quotes for a more polished look in your body text.

Ampersands

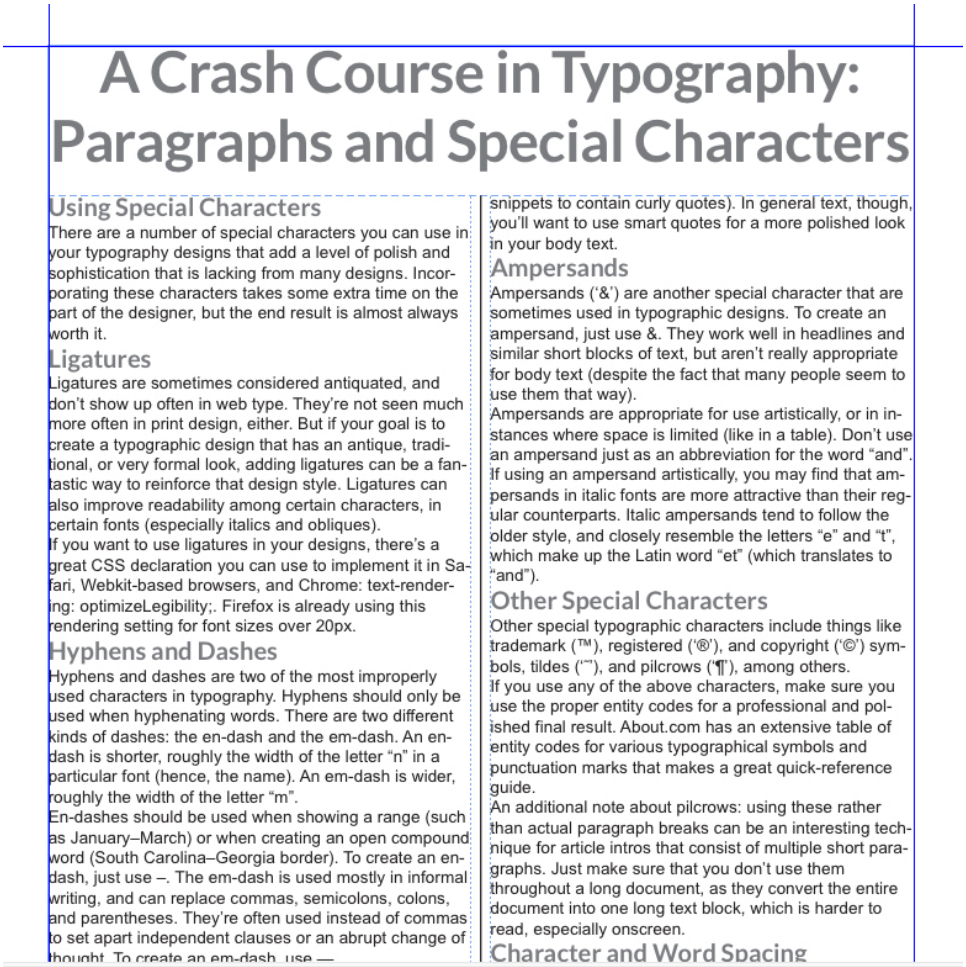
Ampersands ('&') are another special character that are sometimes used in typographic designs. To create an ampersand, just use &. They work well in headlines and similar short blocks of text, but aren't really appropriate for body text (despite the fact that many people seem to use them that way).

Ampersands are appropriate for use artistically, or in instances where space is limited (like in a table). Don't use an ampersand just as an abbreviation for the word "and". If using an ampersand artistically, you may find that ampersands in italic fonts are more attractive than their regular counterparts. Italic ampersands tend to follow the older style, and closely resemble the letters "e" and "t", which make up the Latin word "et" (which translates to "and").

この例では、**アンパサンド**段落に**再開**が、以後の段落には**列をまたぐ**が適用されています。



列をまたぐと**再開**のさまざまな組み合わせを適用した例を示します。


A Crash Course in Typography: Paragraphs and Special Characters

Using Special Characters

There are a number of special characters you can use in your typography designs that add a level of polish and sophistication that is lacking from many designs. Incorporating these characters takes some extra time on the part of the designer, but the end result is almost always worth it.

Ligatures

Ligatures are sometimes considered antiquated, and don't show up often in web type. They're not seen much more often in print design, either. But if your goal is to create a typographic design that has an antique, traditional, or very formal look, adding ligatures can be a fantastic way to reinforce that design style. Ligatures can also improve readability among certain characters, in certain fonts (especially italics and obliques).

If you want to use ligatures in your designs, there's a great CSS declaration you can use to implement it in Safari, Webkit-based browsers, and Chrome: text-rendering: optimizeLegibility;. Firefox is already using this rendering setting for font sizes over 20px.

Hyphens and Dashes

Hyphens and dashes are two of the most improperly used characters in typography. Hyphens should only be used when hyphenating words. There are two different kinds of dashes: the en-dash and the em-dash. An en-dash is shorter, roughly the width of the letter "n" in a particular font (hence, the name). An em-dash is wider, roughly the width of the letter "m".

En-dashes should be used when showing a range (such as January–March) or when creating an open compound word (South Carolina–Georgia border). To create an en-dash, just use –. The em-dash is used mostly in informal writing, and can replace commas, semicolons, colons, and parentheses. They're often used instead of commas to set apart independent clauses or an abrupt change of thought. To create an em-dash, use —

snippets to contain curly quotes). In general text, though, you'll want to use smart quotes for a more polished look in your body text.

Ampersands

Ampersands ('&') are another special character that are sometimes used in typographic designs. To create an ampersand, just use &. They work well in headlines and similar short blocks of text, but aren't really appropriate for body text (despite the fact that many people seem to use them that way).

Ampersands are appropriate for use artistically, or in instances where space is limited (like in a table). Don't use an ampersand just as an abbreviation for the word "and". If using an ampersand artistically, you may find that ampersands in italic fonts are more attractive than their regular counterparts. Italic ampersands tend to follow the older style, and closely resemble the letters "e" and "t", which make up the Latin word "et" (which translates to "and").

Other Special Characters

Other special typographic characters include things like trademark (™), registered ('®'), and copyright ('©') symbols, tildes ('~'), and pilcrows ('¶'), among others.

If you use any of the above characters, make sure you use the proper entity codes for a professional and polished final result. About.com has an extensive table of entity codes for various typographical symbols and punctuation marks that makes a great quick-reference guide.

An additional note about pilcrows: using these rather than actual paragraph breaks can be an interesting technique for article intros that consist of multiple short paragraphs. Just make sure that you don't use them throughout a long document, as they convert the entire document into one long text block, which is harder to read, especially onscreen.

Character and Word Spacing

列の間のラインに**列の分割**を適用した例を示します。

タブの設定

以下の6種類のタブストップから選択できます。

- **左揃え**では、タブストップでテキストが左揃えになります。
- **センター**では、タブストップ上でテキストが中央揃えになります。
- **右揃え**では、タブストップ上でテキストが右揃えになります。
- **デシマル**では、小数点（ピリオド）上でテキストが揃います。
- **カンマ**では、最初のカンマ上でテキストが揃います。
- **特定キャラクタ**では、指定した任意の文字上でテキストが揃います。このタブを選択すると、**特定キャラクタ**フィールドが表示されます。既存の入力内容を選択して、揃えの基準とする文字を入力します。

カスタムタブを設定しない場合、デフォルトの左揃えタブがそれぞれ0.5インチに設定されます。

選択した段落にタブを指定するには、下記のいずれかの操作を行ってください。

- **（Windowsのみ）：段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > タブ**）の**タブ**タブにあるコントロールを使用します。

- **メジャー**パレットの**タブ**タブのコントロールを使用します。**メジャー**パレットを使用すると画面スペースを節約できるため、タブ設定を変更しながら、効果の更新を継続的に確認できます。ルーラーにタブアイコンをドラッグしたり、テキストにタブアイコンを直接ドラッグできます。ルーラーやテキストにタブをドラッグすると、タブの配置先を決めるための垂直線が画面に表示されます。

ウィドウ行およびオーファン行の制御

ウィドウおよびオーファンは、組版上好ましくない種類の行です。従来からウィドウは、列の上部にくる段落の最終行と定義されています。オーファンは、列の下部にくる段落の最初の行と定義されています。

ウィドウ／オーファンの制限機能を使用して、段落のすべての行が列内またはページ内に収まらない場合にすべての段落を次の列またはページの上部に移動させて、段落が分割しないようにできます。また、段落が分割される場合に列やボックスの下部に残す行数、および次の列やボックスの上部に移動する行数を指定できます。**次段落との分割不可**機能を使用して、特定の段落と次の段落が分割しないようにできます。この機能を使用すると、サブ見出しと次の段落が分割されないようにしたり、論理的に分割できないその他のテキスト行を分割しないようにできます。

一般的に、**次段落との分割不可**は見出しおよびサブ見出しのスタイルシートに、**ウィドウ／オーファンの制限**（通常**始点**および**最後**パラメータを使用）は本文テキストのスタイルシートに指定されます。

選択された段落に対して**ウィドウ／オーファンの制限**および**次段落との分割不可**機能をオンまたはオフにするには、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ）：**スタイル > フォーマット**を選択して、**段落設定**ダイアログボックスの**フォーマット**タブを表示し、**ウィドウ／オーファンの制限**および**次段落との分割不可**チェックボックスをオンまたはオフにします。
- （Mac OS Xのみ）：**メジャー**パレットの**段落**タブを使用します。

テキストシェーディングの使用

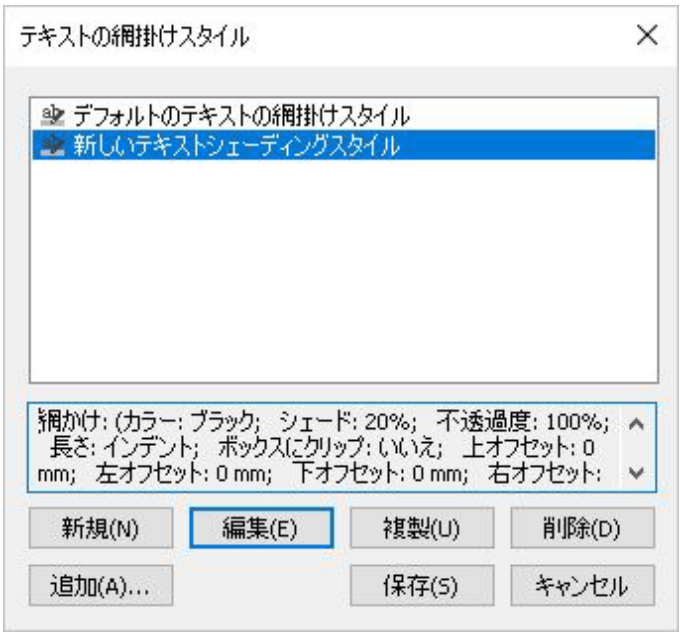
テキストシェーディングは段落全体に、または段落内で選択したテキストだけに適用できます。

テキストシェーディングスタイルの作成と編集

テキストシェーディングスタイルは、テキストシェーディング属性の名前付きコレクションです。テキストにスタイルを適用するだけで、テキストシェーディングスタイルの属性をテキストに適用できます。

テキストシェーディングスタイルを新規作成するか、既存のものを編集するには、下記の手順に従ってください。

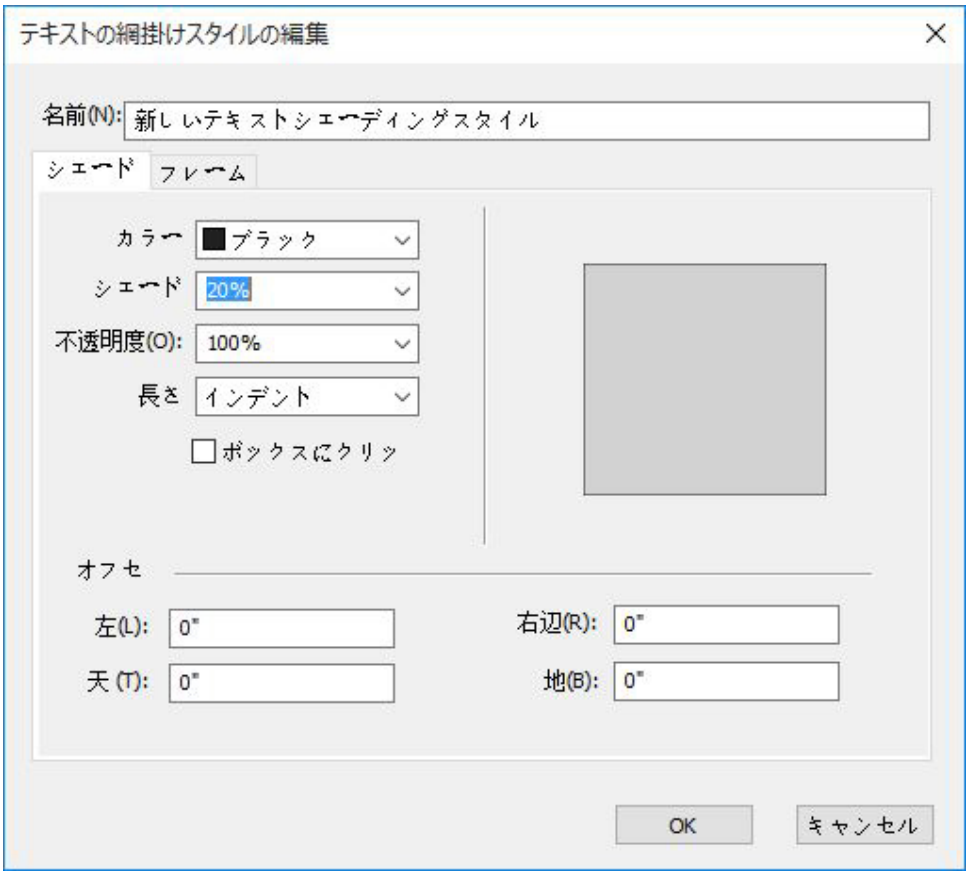
1. **テキストシェーディングスタイル**ダイアログを開きます（**編集 > テキストシェーディングスタイル**）。



2 リストから既存のテキストシェーディングスタイルを選び、**編集**をクリックして編集するか、**新規**をクリックして新しいテキストシェーディングスタイルを追加します。

または、**テキストシェーディングスタイル**（**ウィンドウ > テキストシェーディングスタイル**）パレットを使用して、テキストシェーディングスタイルを作成し、編集することもできます。

テキストシェーディングスタイルの編集ダイアログが表示されます。

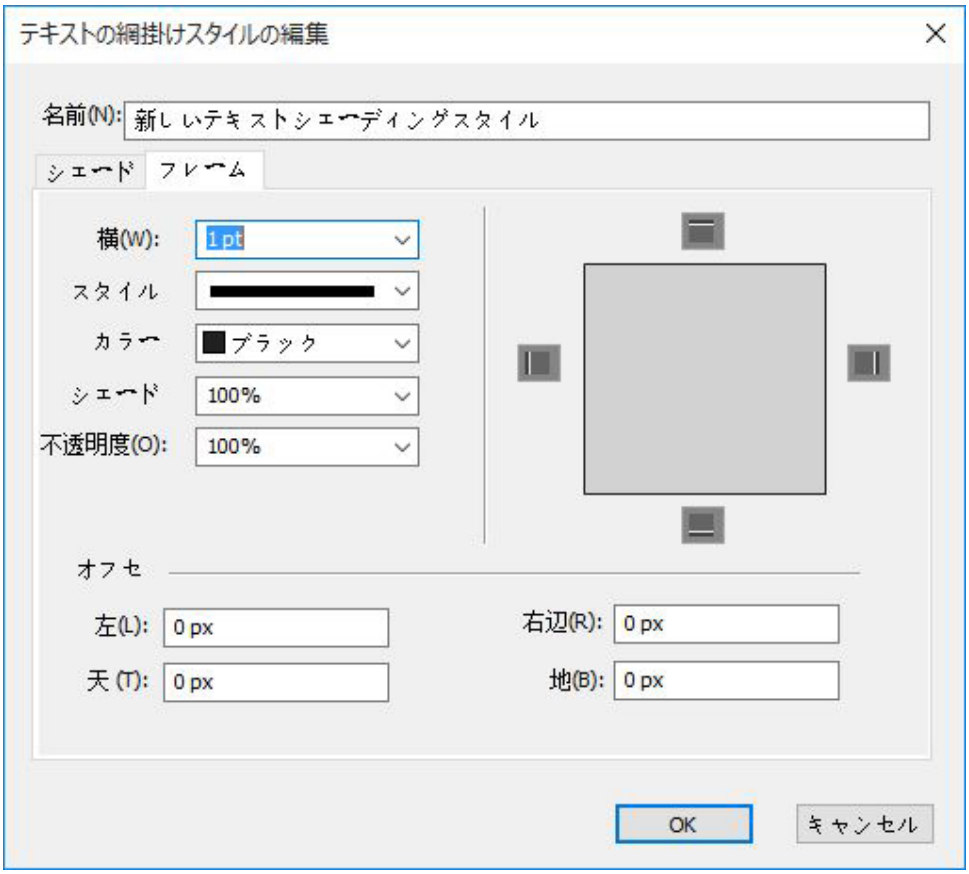


3 **名前**フィールドにテキストシェーディングスタイルの名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションによりデフォルト名の「新しいテキストシェーディングスタイル」が使用されます。

4 **シェード**タブで、次の属性を定義します。

- **カラー**：ドロップダウンメニューで、テキストシェーディングのカラーを選択します。メニューで**新規**を選択し、シェーディングの新しいカラーを作成します。
- **シェード**：カラーのシェードをパーセント単位で入力するか、スライダコントロールを使用して設定します。
- **不透明度**：カラーの不透明度の値を0%（透明）から100%（不透明）までの範囲で入力するか、スライダコントロールを使用して設定します。
- **長さ**：ドロップダウンで、**インデント**（テキストシェーディングが、定義済みインデントの間の行全体に適用されます）、**テキスト**（テキストシェーディングが、各行のテキストの長さだけ適用されます）、**列**（シェーディングがボックスの長さ全体に適用されます）のいずれかのオプションを選択します。
- **ボックスにクリップ**をオンにすると、テキストシェーディングは境界ボックス内に制限されます。
- **オフセット**セクションで、**左**、**右**、**上**、**下**のオフセットを指定します。

5 **フレーム**タブで、次の属性を定義します。



- **幅**：フレームの幅を指定します。
- **スタイル**：ドロップダウンメニューで、フレームスタイルを選択します。
- **カラー**：ドロップダウンメニューで、フレームのカラーを選択します。メニューで**新規**を選択し、フレームの新しいカラーを作成します。
- **シェード**：シェードをパーセント単位で入力するか、スライダコントロールを使用して設定します。
- **不透明度**：不透明度の値を0%（透明）から100%（不透明）までの範囲で入力するか、コントロールを使用して設定します。
- **オフセット**セクションで、**左**、**右**、**上**、**下**のオフセットを指定します。
- 選択したテキストの上、下、左、右にフレームを表示するかどうかを、プレビューセクションの▮ボタンをクリックして指定します。

既存のテキストシェーディングスタイルを編集する場合、そのテキストシェーディングスタイルがレイアウトで使用されているすべての場所に、ただちに変更が適用されます。

テキストシェーディングスタイルを作成すると、そのスタイルは段落と文字の両方のスタイルシートに使用できます。**文字スタイルシートの編集**ダイアログの**テキストシェーディング**ドロップダウンメニュー、または**段落スタイルシートの編集**ダイアログの**段落設定**タブで、そのスタイルを選択します。

テキストシェーディングの適用

既存のテキストにシェーディングを適用するには、下記の手順に従ってください。

1. シェーディングを適用するテキストを選択します。段落全体にシェーディングを適用するには、その段落のどこかにカーソルを置きます。
2. 下記のいずれかを実行します。

   - **テキストシェーディングスタイル**パレットを表示（**ウィンドウ > テキストシェーディングスタイル**）し、定義済みのテキストシェーディングスタイルを選択して、テキストへ適用します。



   - **メジャー**パレットの**テキストシェーディング**タブのコントロールを使用します。
   - 定義済みのテキストシェーディングスタイルを文字または段落スタイルシートに適用してから、そのスタイルシートをテキストへ適用します。

➡ 手順1では、空のテキストボックス、またはテキストボックスに含まれる空の段落を選択できます。手順2の後で入力したテキストには、テキストシェーディングスタイルが適用されるようになります。

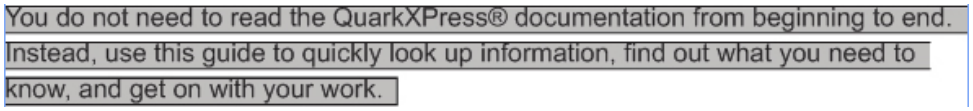
段落全体にテキストシェーディングを適用するのと、選択したテキストのみに適用するのには相違点があります。**メジャー**パレットの**テキストシェーディング**タブを使用するとき、ドロップダウンメニューを使用して**段落**または**テキスト**を選択できます。



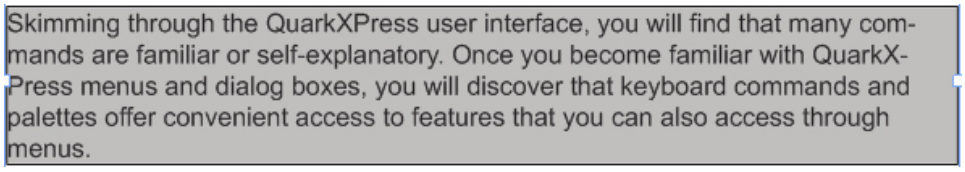
テキストシェーディングスタイルパレットを使用する場合、適用対象がどちらであるかは通常、選択されている内容から判定されますが、いくつかの例外があります。

- **段落**ボタンを選択してからテキストシェーディングを適用すると、それ以前にテキストが選択されていても、テキストシェーディングは段落全体に適用されます。
- **テキスト**ボタンを選択してからテキストシェーディングを適用すると、選択されているテキストにテキストシェーディングが適用されます。テキストが選択されていない場合、テキストシェーディングはカーソル位置から開始され、以後に入力された文字に適用されます。

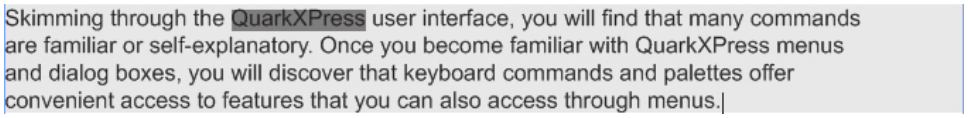
選択したテキストにテキストシェーディングを適用すると、次のように表示されます。この場合、シェーディングは各行へ個別に適用されているように見え、行の周囲はフレームで囲まれます。



段落全体にテキストシェーディングを適用すると、次のようになります。



段落全体にシェーディングを適用してから、その段落内で選択したテキストにシェーディングを適用することもできます。



書式のコピー／貼付け

書式のコピー／貼付けは、テキストの一部に適用されている書式設定をコピーし、別のテキストへ適用するために使用します。書式のコピー／貼付けは、そのテキストに適用されているすべての書式設定を、適用されているスタイルシート（段落および文字）も含めてコピーし、適用します。

書式のコピー／貼付けを使用するには、下記の手順に従ってください。

1. 目的の書式設定が適用されているテキストを選択します。
2. **メジャー**パレットの**ホーム**または**文字／文字属性**タブにある、**書式のコピー／貼り付け**を選択します。
3. 目的の書式設定を適用するテキストを選択します。

重要：書式のコピー／貼付けが文字の書式設定だけを適用するか、段落の書式設定も適用するかは、最初の選択範囲によって決定されます。数文字を選択した場合は文字の書式設定のみが適用され、数行を選択した場合は段落の書式設定も適用されます。スタイルシートは書式のコピー／貼付けでは適用されません。

カーニングの制御

カーニングは、文字ペアの間隔を調整します。カーニングすると、特定の文字ペアの形がよくなり見栄えが向上します。自動カーニングを使用できます。また、手動カーニングのコントロールを使用して、文字間のカーニングを追加することもできます。

カーニング値は、emスペースの1／200単位で表されます。正のカーニング値では文字間隔が増加し、負の値では文字間隔が減少します。

手動カーニング

2文字間のカーニングを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：**スタイル > カーニング値**を選択してから**カーニング**フィールドに値を入力します。**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**カーニング**コントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1/20em下げる：Command+Shift+{
- 1/20em上げる：Command+Shift+}
- 1/200em下げる：Command+Option+Shift+{
- 1/200em上げる：Command+Option+Shift+}

Windows

- 1/20em下げる：Ctrl+Shift+{
- 1/20em上げる：Ctrl+Shift+}
- 1/200em下げる：Ctrl+Alt+Shift+{
- 1/200em上げる：Ctrl+Alt+Shift+}

自動カーニング

一定ポイント以上のテキストを自動カーニングするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**文字設定**ペインを表示し、**自動カーニング(>)**をオンにしてからフィールドに値を入力します。

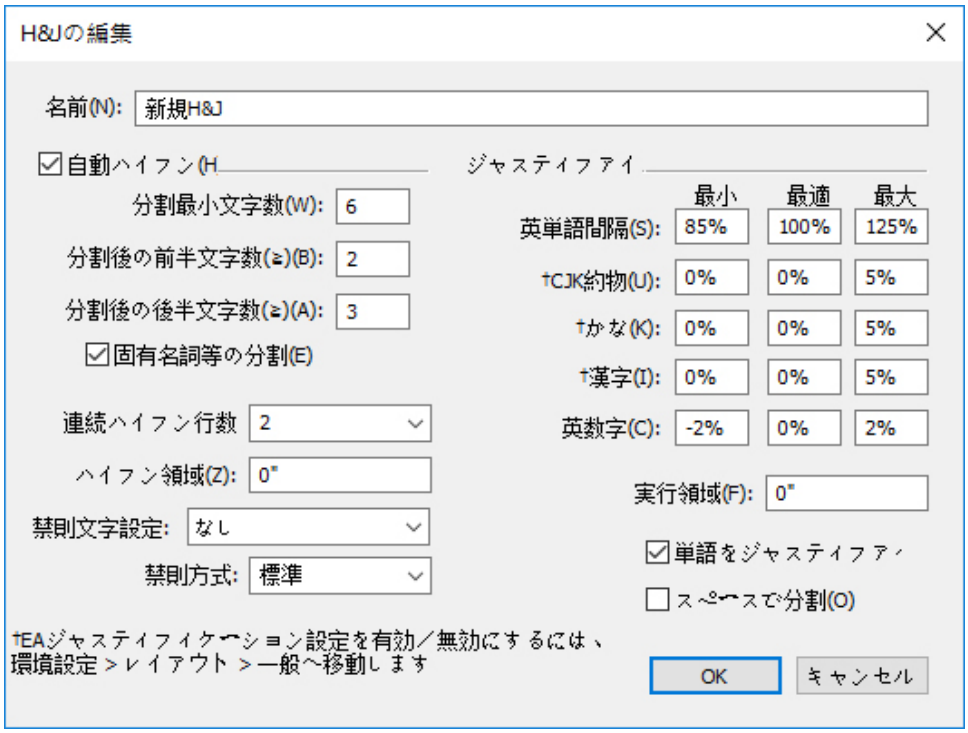
QuarkXPressでは、フォントに組み込まれたカーニング情報（フォントの**カーニングテーブル**）を使用します。カーニングテーブルには、さまざまな文字ペア（例：「**Ta**」）が含まれています。またこのテーブルにはペアごとの関連するカーニング値も含まれています。フォントのカーニングテーブルは変更できませんが、**カーニングエディタ**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を使用して、任意のフォントに対してカスタムのカーニングテーブルを作成することは可能です。このダイアログボックスを使用して、カーニングペアで水平方向（**文字組方向**）と垂直方向（**交差方向**）のスペースをカスタマイズできます。

QuarkXPress独自のカーニングテーブルを作成することもできます。

ハイフネーション＆ジャスティフィケーションの制御

ハイフネーション＆ジャスティフィケーション（H&J）仕様は、テキスト行のマージンを越える単語に対するハイフネーションと単語および文字の間隔を調整するための設定の名前付きパッケージです。H&Jは、個々の段落に適用したり、段落スタイルシートに

関連付けることができます。**H&Jの編集**ダイアログボックス（**編集 > H&J > 新規**）を使用してこれらの設定を制御します。



H&Jの編集ダイアログボックス

- **自動ハイフン**：自動的にハイフネーションを行うかどうかを指定します。
- **分割最小文字数**：ハイフネーションを行うために必要な、1単語当たりの最小文字数を指定します。
- **分割後の前半文字数(≧)**：ハイフンの前にくる最小文字数を指定します。
- **分割後の後半文字数(≧)**：ハイフンの後にくる最小文字数を指定します。
- **固有名詞等の分割**：固有名詞等の単語に対してハイフネーションを行うかどうかを指定します。
- **連続ハイフン行数**：ハイフン付きの単語が行末に連続できる数を指定します。
- **ハイフン領域**：ハイフネーションを行うことのできる右インデント前の領域を指定します。たとえば、ハイフン領域を0.05インチに設定すると、その単語の適当なハイフネーションポイントが右インデントから0.05インチ以内にあった場合、ハイフネーションが行われます。ハイフネーションが行われた単語の前の単語はハイフン領域内に入りません。
- **ハイフン領域**：欧文文字を含む単語に対して、ハイフネーションを行うことのできる右インデント前の領域を指定します。たとえば、ハイフン領域を0.05インチに設定すると、その単語の適当なハイフネーションポイントが右インデントから0.05インチ以内にあった場合、ハイフネーションが行われます。ハイフネーションが行われた単語の前の単語はハイフン領域内に入りません。
- **ジャスティファイ設定**：単語間隔および文字間隔の設定方法を指定します。

- **スペース**：両端揃えまたは強制割付が適用された段落において、単語間の最小および最大のスペースを指定します。すべての段落の単語間について、揃え方にかかわらず最善のスペース量を指定します。
- **文字**：両端揃えまたは強制割付が適用された段落において、文字間の最小および最大のスペースを指定します。すべての段落の文字間について、揃え方にかかわらず最善のスペース量を指定します。
- **禁則文字セット**：ドロップダウンメニューから禁則文字セットを選択します。詳細は、「*禁則文字セットの使用*」を参照してください。
- **禁則方式**：ドロップダウンメニューから禁則方式を選択します。両端揃えされたテキスト行の最後の文字が行末禁則文字である場合、**追い込み**では、**最小**フィールドの値に基づいて、次の行の最初の文字が現在の行に引き上げられます。**追い出し**では、**最大**フィールドの値に基づいて、文字が次の行へ押し出されます。詳細は、「*禁則文字セットの使用*」を参照してください。
- **英単語間隔**：両端揃えされた段落の、欧文文字を含む単語の間隔を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の欧文文字を含む単語の最適な間隔を指定します。
- **CJK約物**：両端揃えされた段落のCJK約物文字について、間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落のCJK約物文字の最適な間隔を指定します。
- **かな／ハングル／注音**：両端揃えされた段落のかな文字、ハングル文字、または注音文字の間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落のかな文字、ハングル文字、または注音文字の最適な間隔を指定します。
- **漢字**：両端揃えされた段落の漢字文字の間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の漢字文字について最適な間隔を指定します。
- **英数字**：両端揃えされた段落の欧文文字について、間隔の最小値および最大値を指定します。行揃えに関係なく、すべての段落の欧文文字の最適な間隔を指定します。
- **実行領域**：右インデント前の領域を指定します。両端揃えされた段落の最終行では、最後の単語がこの領域内でなければ、その行の両端揃えは行われません。たとえば、1"を入力すると、ハイフネーション＆ジャスティフィケーション仕様が適用される段落の最終行は、行の最後の単語が右インデントから1"以内にくるまで両端揃えされません。
- **ジャスティファイ機能**：両端揃えされた段落の行に1つだけ単語が存在する場合、その単語を左インデントから右インデントまで広げるかどうかを指定します。このボックスがオフの場合、行の1単語は左揃えになります。
- **スペースで分割**：中国語、日本語、および韓国語のテキストをスペースで分割するかどうかを指定します。

H&Jで指定されているEA Punct、Han、Kana／Hangul／ZhuYinのCJKテキストカテゴリのジャスティフィケーション設定を使用／使用停止するには、**環境設定 > レイアウト > 一般**へ移動します。

例外ハイフンの指定

QuarkXPressでは、 **例外ハイフン**に関する言語固有のリストを作成できます。 **例外ハイフン**ダイアログボックス（**補助 > 例外ハイフン > 編集**）には、例外ハイフンの適用対象とする言語を指定できる**言語**ドロップダウンメニューがあります。段落の自動ハイフン時には、該当する段落の言語向け例外ハイフンリストがチェックされます。

➡ **標準ハイフン**ダイアログボックス（**補助**メニュー）には、段落に指定されているハイフネーション設定と、段落の言語向け例外ハイフンを基に、単語の推奨ハイフネーションが表示されます。

例外ハイフンファイル

例外ハイフンリストは、別の.xml ファイルに保存できます。 その後でこれらの.xml ファイルをプロジェクトに取り込むことができ、書き出して他のユーザーやプロジェクトと共有することもできます。 これによって、同じ例外ハイフンリストを複数のプロジェクトで使用できます。

例外ハイフンファイルをレイアウトレベルで取り込んで適用できるため、同じプロジェクト内で別のレイアウトに別の.xml ファイルを適用することもできます。 目的の外部例外ハイフンファイルは、ジョブジャケット経由でジョブジャケットリソースとしてレイアウトに適用します（「*例外ハイフン付きのジョブジャケット*」を参照してください）。

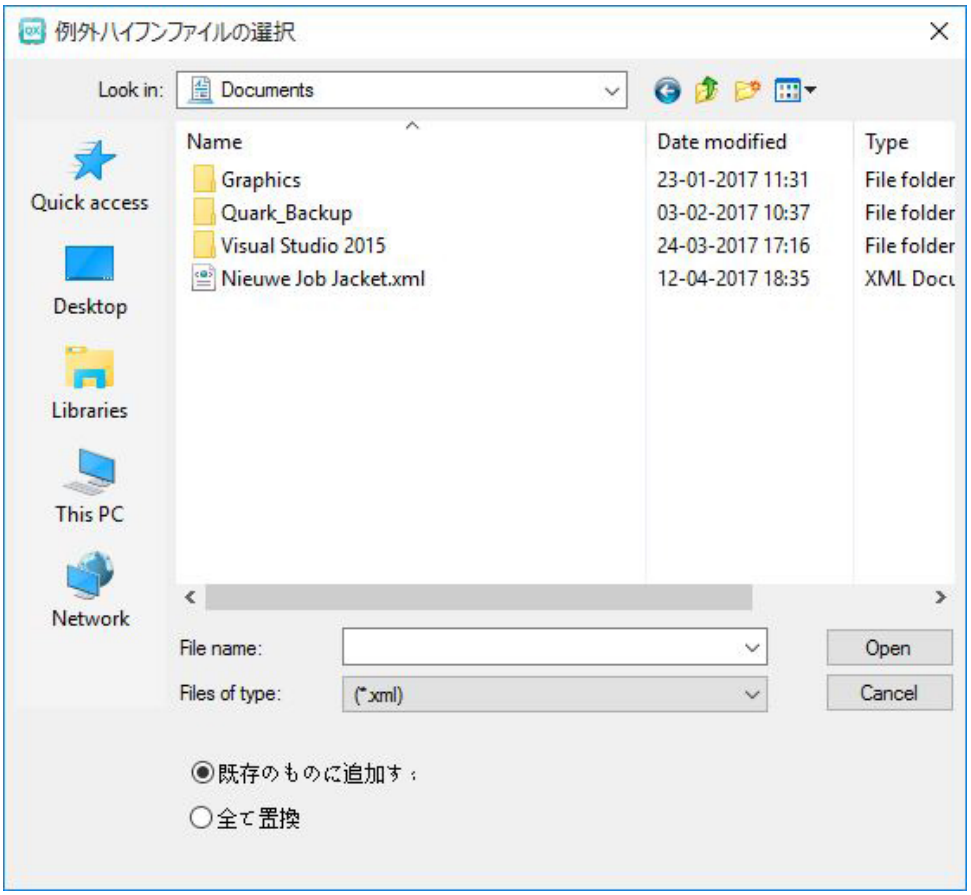
例外ハイフンファイルをプロジェクトへ適用した後で .xmlファイルに変更を加えると、プロジェクトを次に開いたとき、それらの変更がプロジェクトに反映されます。 さらに、プロジェクトの例外ハイフンに加えられた変更は、リンクされている .xmlファイルに反映されます。

➡ この双方向リンクは、 .xmlファイルがジョブジャケット経由でリンクされている場合のみ動作します。 .xmlファイルはレイアウトに直接リンクされません。

例外ハイフンファイルの取り込み

例外ハイフンファイルを取り込むには、下記の手順に従ってください。

1 **補助 > 例外ハイフン > 取り込み**を選択します。 **例外ハイフンファイルの選択**ダイアログボックスが表示されます。

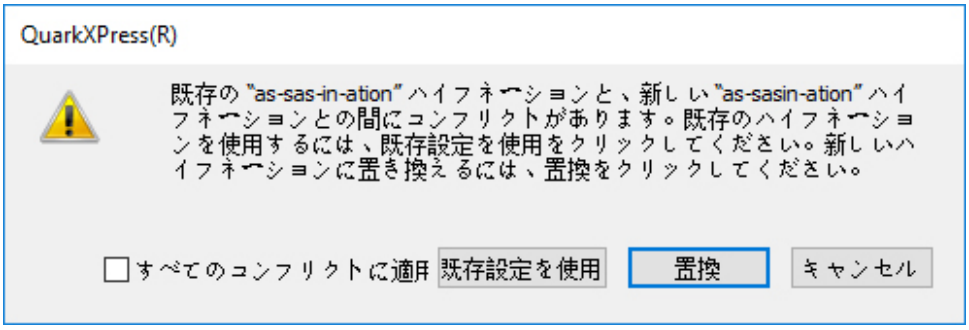


例外ハイフンファイルの選択ダイアログボックス

2 インポートする例外ハイフン **.xml**ファイルを検索して選択します。

3 既存のリストに例外ハイフンを追加するには、**既存のものに追加する**（デフォルト）をチェックします。

古いリストと、追加しようとするリストとの間に単語の競合がある場合、競合の解決ウィンドウが開きます。 ここでは、古い例外ハイフンを保持する（**既存設定を使用**）か、取り込む **.xml**ファイルの新しい例外ハイフンに置き換える（**置換**）かを選択できます。



競合の解決ウィンドウ

4 **全て置換**をチェックすると、既存の例外ハイフンはすべて、選択したファイルの例外ハイフンに置き換えられます。 **すべての競合に適用する**をチェックすると、取り込み中に発生するすべての競合について、同じ動作が行われます。

取り込むファイルに特定の言語の例外ハイフンが含まれていない場合、その言語について既存のすべての例外ハイフンが消去されます。

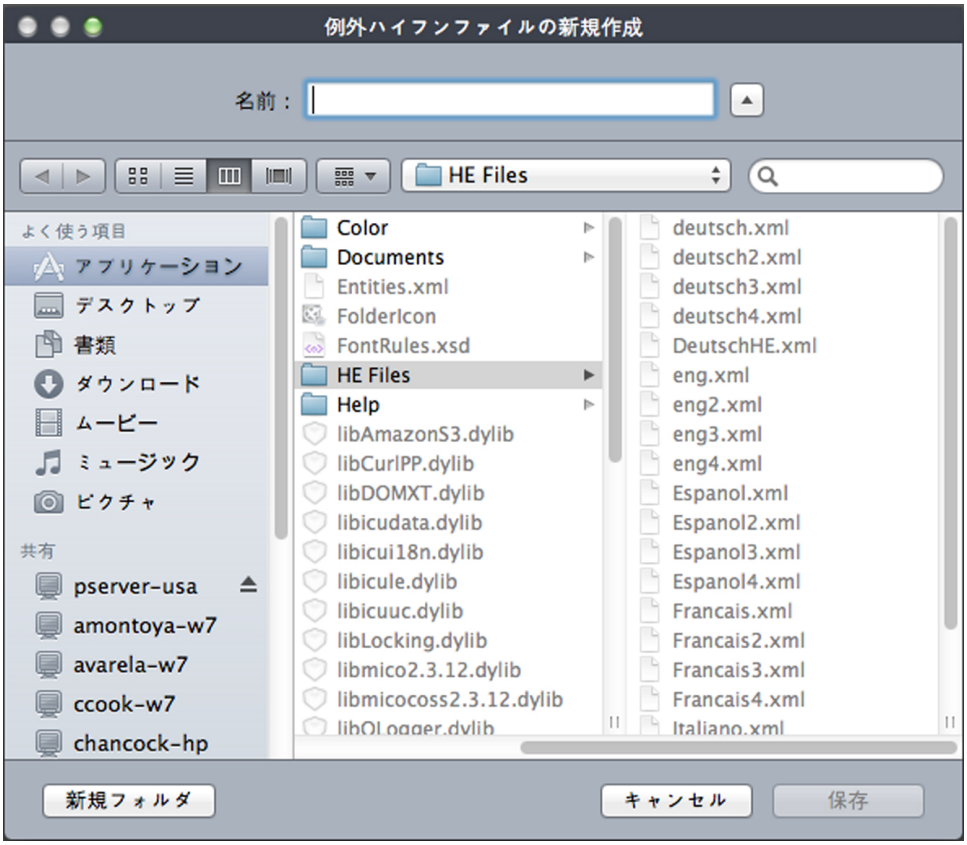
例外ハイフンはアプリケーションまたはレイアウトのレベルで追加できるため、下記の規則が適用されます。

- プロジェクトが開いていないときに例外ハイフンを取り込むと、すべての言語についてアプリケーションレベルで例外ハイフンが取り込まれます。
- 複数のレイアウトを含むプロジェクトが開いているときに例外ハイフンを取り込むと、プロジェクトの現在のレイアウトに例外ハイフンが取り込まれます。

例外ハイフンファイルの書き出し

ユーザーは、例外ハイフンをQuarkXPressから外部の **.xml**ファイルに書き出すことができます。 例外ハイフンファイルを書き出すには、下記の手順に従ってください。

1 **補助 > 例外ハイフン > 書き出し**を選択します。 **例外ハイフンファイルの新規作成**ダイアログボックスが表示されます。



例外ハイフンファイルの新規作成ダイアログボックス

2 **.xml**ファイルの場所と名前を指定します。

3 **保存**をクリックします。

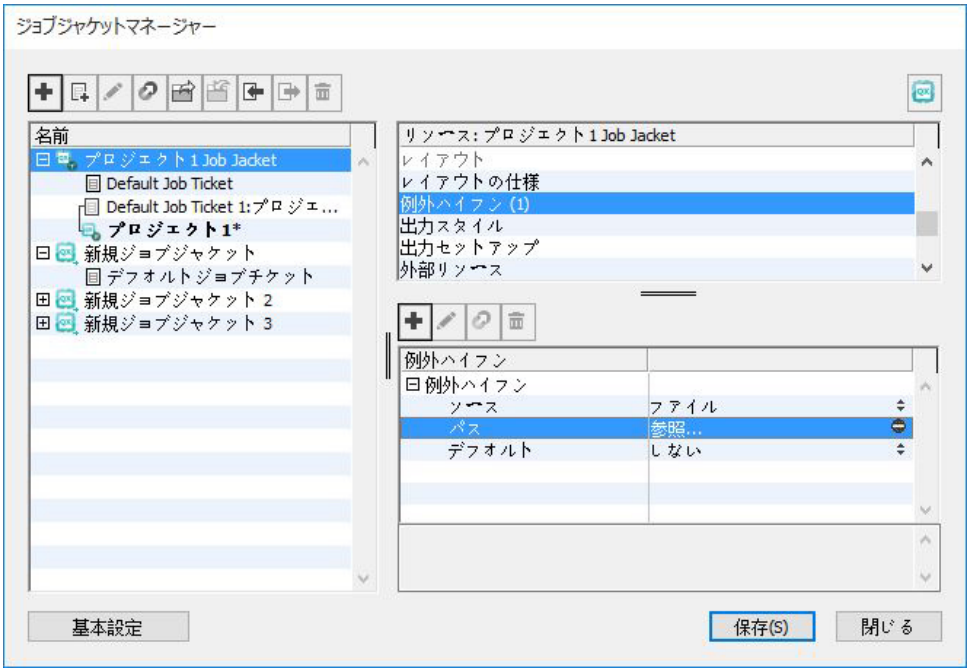
- プロジェクトが開いていないときに例外ハイフンを書き出すと、すべての言語についてアプリケーションレベルでQuarkXPressに存在する例外ハイフンを含む、外部の **.xml**ファイルが作成されます。
- 複数のレイアウトを持つプロジェクトが開いているときに例外ハイフンを書き出すと、プロジェクトの現在のレイアウトに存在する例外ハイフンを含む、外部の **.xml** ファイルが作成されます。

例外ハイフン付きのジョブジャケット

例外ハイフンリソースは、ジョブジャケットレベルで追加されています。この機能により、同じジョブジャケットからプロジェクトを作成するユーザー間で例外ハイフンを共有できます。ユーザーはジョブジャケットレベルで、多くの例外ハイフンリソースを作成できます。これらのリソースは、ジョブチケットレベルでは利用できませんが、レイアウトアイテムで参照可能です。

ジョブジャケットリソースとして例外ハイフンファイルを追加するには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを開きます（**補助**メニュー）。
2. 左側のリストで、ジョブジャケットファイルを開くか、作成します。ジョブジャケットファイルのリソースカテゴリは、右上のリストにアルファベット順に表示されます。
3. 左側のリストで、対象のジョブジャケットを選択します。
4. 右上のリストで、**リソース**リストの**例外ハイフン**を選択します。



既存の例外ハイフンリソースが、右下のリストに一覧表示されます。

5. をクリックし、例外ハイフンファイルをリソースとして追加します。このファイルを、デフォルトの例外ハイフンファイルとして選択できます。これは、ジョブチケットレベ

ルでレイアウトアイテムが存在しないとき、ジョブチケットで定義されているレイアウトに適用されるデフォルトの例外ハイフンファイルになります。

6 目的の**.xml**ファイルを探して選択します。

例外ハイフンリソースアイテムには3つの属性があります。

- **ソース**：参照用の外部例外ハイフンファイルを選択可能なリポジトリの種類を指定します。デフォルトの種類は**ファイル**です。
- **パス**：外部例外ハイフンファイルのURIを示します。これにより、ユーザーはこの例外ハイフンリソースアイテムへ参照される外部例外ハイフンファイルを選択できます。選択した**ソース**の種類によっては、ソースブラウザを起動して外部例外ハイフンファイルを選択するよう求められます。
- **デフォルト**：ジョブジャケットで定義されているジョブチケットにレイアウトアイテムが定義されていない場合、このリソースアイテムを例外ハイフンファイルとして割り当てるため使用されます。デフォルトでは、この属性の値は**いいえ**です。デフォルトにするには、値を**はい**に変更します。デフォルトとして宣言できる例外ハイフンリソースアイテムは1つだけです。

ジョブジャケットに変更を加えた場合、**ファイル > ジョブジャケット > プロジェクトのリンク**を使用して、新しいジョブジャケットをプロジェクトにリンクする必要があります。

ジョブチケットと例外ハイフン

例外ハイフンは、プロジェクトレベルではなくレイアウトレベルに存在します。 この機能を使用するには、ジョブチケットにレイアウトアイテムを追加し、利用可能な例外ハイフンリソースアイテムの1つを関連付ける必要があります。

重要なポイントは下記のとおりです。

- 外部の例外ハイフンファイルがジョブチケットのレイアウトアイテムと関連付けられている場合、その例外ハイフンファイルからの例外ハイフンは、新たに作成されたプロジェクトの対応するレイアウトに取り込まれます。
- ユーザーは、レイアウトアイテムをいくつでも作成できます。 プロジェクト内に作成される各レイアウトには、そのレイアウトアイテムに関連付けられている外部の例外ハイフンファイルに存在する例外ハイフンが含まれます。
- レイアウトアイテムに例外ハイフンが存在する場合、アプリケーションに例外ハイフンが存在しても、それらの例外ハイフンはレイアウトの一部にはなりません。
- ジョブジャケットに例外ハイフンリソースアイテムが存在しても、レイアウトアイテムやデフォルト例外ハイフンアイテムが定義されていなければ、アプリケーションに存在する例外ハイフンがレイアウトに含まれます。
- ユーザーが、プロジェクト（例外ハイフンを持たないもの）を、例外ハイフンを含むジョブジャケットにリンクすると、そのプロジェクトのレイアウトに例外ハイフンが取り込まれます。
- ユーザーが、プロジェクト（既に例外ハイフンを含むもの）を、別の例外ハイフンを持つジョブジャケットにリンクすると、そのプロジェクトのレイアウトに含まれる例外ハイフンは、ジョブジャケットのものに置き換えられます。

- ユーザーが、既にプロジェクトとリンクされているジョブジャケットの例外ハイフンリソースアイテムに関連する変更を行うと、それらの変更すべては、そのプロジェクトが同じジョブジャケットと再リンクされた後でのみ反映されます。

レイアウト仕様に例外ハイフンを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助 > ジョブジャケットマネジャー**）を開き、左側のリストで目的のジョブジャケットを選択します。

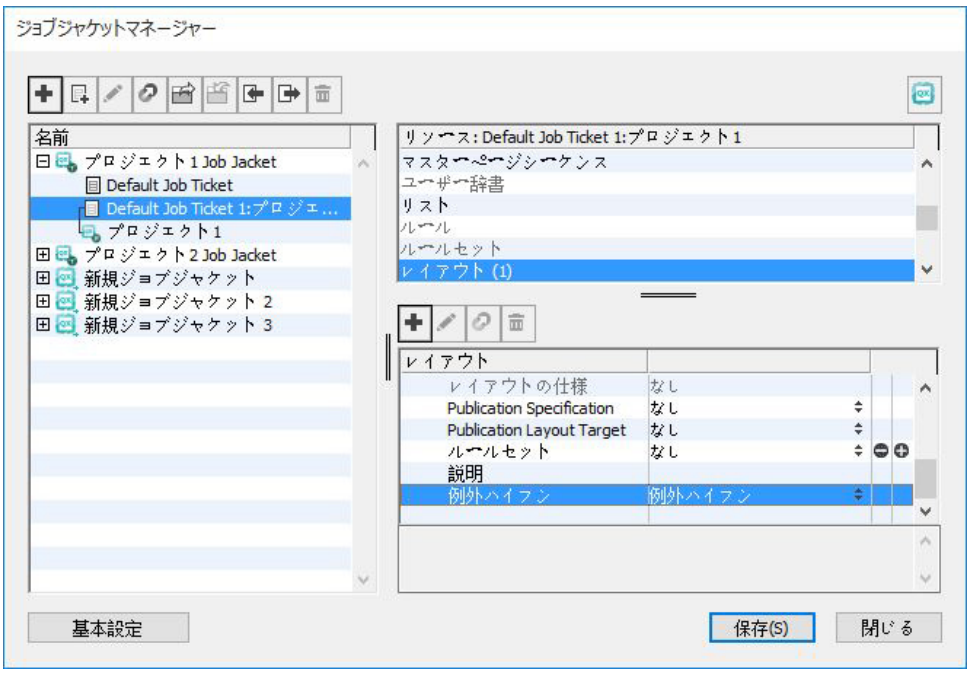
2 ジョブジャケットから目的のジョブチケットを選択し、そのジョブチケットを開くか、新しいジョブチケットファイルを作成します。 ジョブチケットファイルのリソースカテゴリは、右上のリストにアルファベット順に表示されます。

3 右上のリストにあるリソースタイプの一覧から**レイアウト**を選択します。ジョブチケット内のレイアウト定義は、すべて右下のリストに表示されます。

4 右下のリストにあるレイアウトの一覧から既存のレイアウトを選択するか、をクリックして新しいレイアウト定義を作成します。

5 レイアウト定義名の横にある展開ボタンをクリックして、レイアウト定義のフィールドを表示します。

6 **例外ハイフン**まで下方向にスクロールし、選択したレイアウトにリンクする例外ハイフンファイルを選びます。



既存の例外ハイフンリソースは右下のリストに一覧表示されます。

例外ハイフンファイルとレイアウトとの同期

QuarkXPressでは、例外ハイフンファイルがジョブジャケットリソースの一部であるとき、レイアウトと例外ハイフンファイルとの同期がサポートされています。

ジョブジャケットからプロジェクトを作成し、例外ハイフンの参照が含まれている場合、例外ハイフンファイルに加えられたすべての変更は、そのプロジェクトが次に開かれた

とき、またはジョブチケットに再リンクされたときに、レイアウトへ反映されます。 レイアウト内のいずれかの例外ハイフンを追加／削除／変更した場合、プロジェクトを保存するとき、新たに追加された例外ハイフンが例外ハイフンファイルへ反映されます。

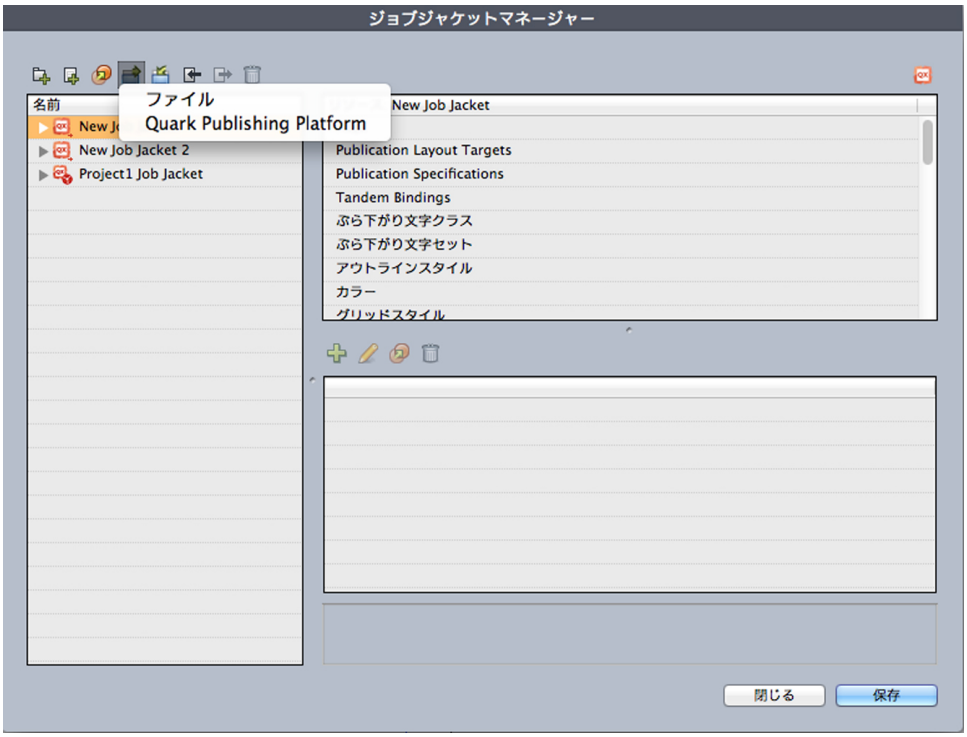
同期の動作

- ジョブジャケットで参照されている外部の例外ハイフンファイルに対する変更は、同じジョブジャケットから作成されたプロジェクトのレイアウトに、そのプロジェクトが次に開かれたときに反映されます。
- QuarkXPress内から例外ハイフンに加えられた変更は、ユーザがプロジェクトを保存するとき、参照されている外部の例外ハイフンファイルへ反映されます。
- ユーザが例外ハイフンリソースアイテムを**デフォルト**として定義している場合、ジョブチケットにレイアウトアイテムが定義されていなくても、この同期機能は動作します。
- 例外ハイフンリソースアイテムに関連する変更が、既にプロジェクトとリンクされているジョブジャケットに加えられた場合、同期は行われません。 変更を反映するには、ユーザーがプロジェクトを同じジョブジャケットに再リンクする必要があります。
- 同期機能はすべての言語について動作します。

Quark Publishing Platformとの統合

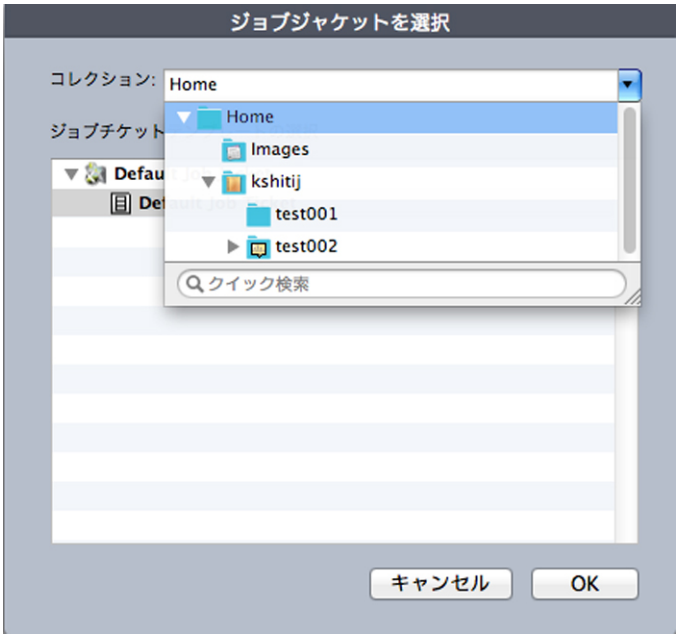
ジョブジャケットと、Quark Publishing Platform serverにチェックインされている外部の例外ハイフンファイルとを統合するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助 > ジョブジャケットマネジャー**）を開き、ジョブジャケットを開くボタン をクリックします。ドロップダウンの**Quark Publishing Platform**を選択します。

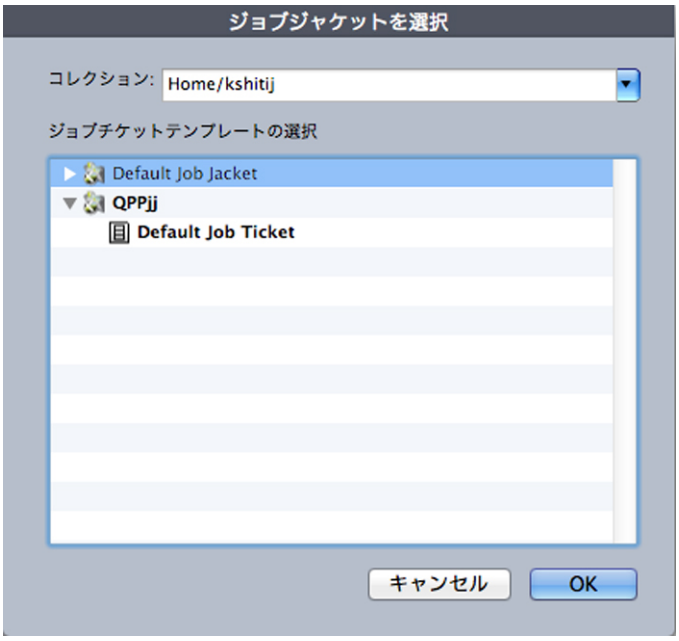


ジョブジャケットを開くボタン の下のドロップダウンメニューは、QuarkXPressがQuark Publishing Platform XTensions付きで起動されたときのみ表示されます。**ファイル**を選択してローカルジョブジャケットを開き、**Quark Publishing Platform**を選択して、サーバーからジョブジャケットを開きます。

2 目的のコレクションの場所を参照します。

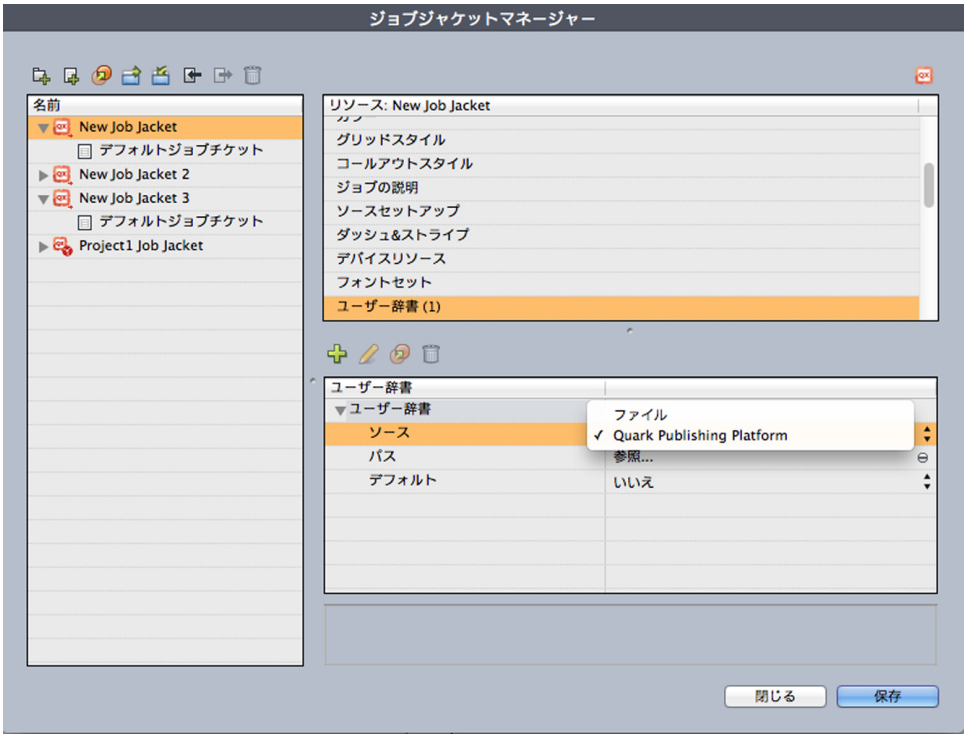


3 目的のジョブジャケットを選択し、**OK**をクリックします。



4 右上のリストで、リソースタイプのリストから**例外ハイフン**を選択し、＋をクリックして、例外ハイフンファイルをリソースとして追加します。

5 **ソース**属性をクリックし、ドロップダウンメニューの**Quark Publishing Platform**を選択します。



6 **参照**ボタンをクリックし、目的の例外ハイフンファイルを選択して、**OK**をクリックします。

Platform上の例外ハイフンファイルの同期

ジョブジャケットからプロジェクトを作成し、例外ハイフンの参照が含まれている場合、例外ハイフンファイルに加えられたすべての変更は、そのプロジェクトが次に開かれたとき、またはジョブチケットに再リンクされたときに、レイアウトへ反映されます。 レイアウト内のいずれかの例外ハイフンを追加／削除／変更した場合、プロジェクトを保存するとき、新たに追加された例外ハイフンが例外ハイフンファイルへ反映されます。

Quark Publishing Platform環境内での同期の動作

- サーバーにチェックインされている外部の例外ハイフンファイルに加えられた変更は、プロジェクトが次に開かれた、またはチェックアウトされたとき、プロジェクトのレイアウトへ反映されます。
- QuarkXPressから例外ハイフンへ加えられた変更は、ユーザーがプロジェクトの保存またはチェックインを行ったとき、参照されている外部の例外ハイフンファイルへ反映されます。 参照されている例外ハイフンアセットの新しいリビジョン（メジャー）は、ユーザーへの通知なしにサーバーで作成されます。

任意ハイフンの使用

テキストの自動ハイフンに加え、手動、つまり任意のハイフンを挿入（Command+-（ハイフン）／Ctrl+-（ハイフン））することで、改行とテキストフローを制御できます。任意ハイフンが挿入されるのは、単語が行末で分断される場合のみです。

トラッキングの制御

トラッキングでは、選択した文字や単語の間隔を調整して、割付および組版の効果を得ることができます。トラッキング値は、emスペースの1／200単位で表されます。正のトラッキング値では各文字の右側の間隔が増加し、負の値ではその間隔が減少します。

一般的に、トラッキングは割付に使用されます。ただし、過剰なトラッキングはデザインや読みやすさを損なう恐れがあります。割付のためにトラッキングを使用する場合、下記のガイドラインを考慮してください。

- 1行や1単語ではなく段落全体をトラッキングします。
- たとえば+3～-3など、トラッキングのガイドラインを作成します。
- 垂直方向で隣接する段落に同様のトラッキングを適用します。

これらは一般的なルールです。適切なトラッキング値は、デザイン、フォント、列幅、および他の要素によって異なります。

手動トラッキング

選択したテキストにトラッキングを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **（Windowsのみ）**：**スタイル > トラッキング**を選択し、**トラッキング値**フィールドに値を入力して、**OK**をクリックします。
- **メジャー**パレットの**トラッキング値**コントロールを使用します。
- 下記のキーボードコマンドのいずれかを使用します。

Mac OS X

- 1/20em下げる：Command+Shift+{
- 1/20em上げる：Command+Shift+}
- 1/200em下げる：Command+Option+Shift+{
- 1/200em上げる：Command+Option+Shift+}

Windows

- 1/20em下げる：Ctrl+Shift+{
- 1/20em上げる：Ctrl+Shift+}
- 1/200em下げる：Ctrl+Alt+Shift+{
- 1/200em上げる：Ctrl+Alt+Shift+}

トラッキングテーブルの編集

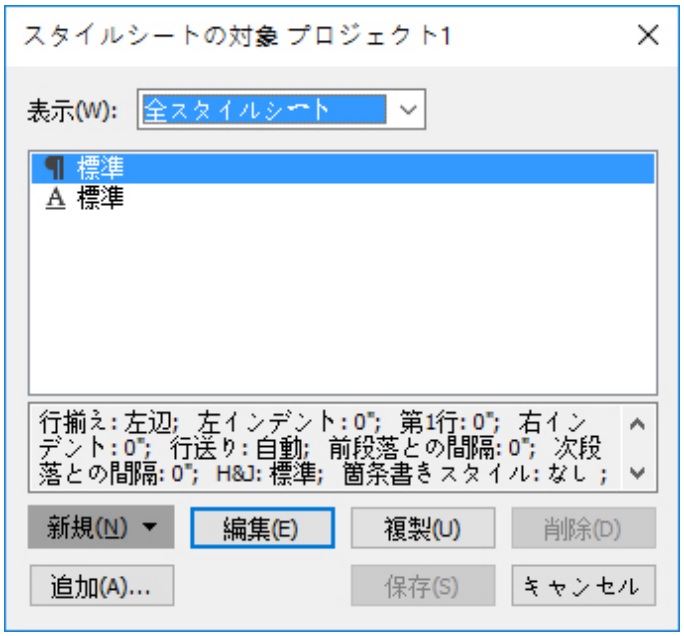
アプリケーションでは、フォントに組み込まれたトラッキング情報（フォントの**トラッキングテーブル**）を使用します。フォントのトラッキングテーブルは変更できませんが、**トラッキングの編集**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を使用して、任意のフォントに対してカスタムのトラッキングテーブルを作成することは可能です。

スタイルシートの使用

スタイルシートとは、1回の操作で選択した段落と文字に適用できる、段落属性、文字属性、またはその両者から構成されるグループです。未フォーマットテキストを見出し、サブ見出し、キャプション、または本文などのスタイルに変換するには、スタイルシートを使用します。スタイルシートを使用して1回の操作で多数の文字属性および段落属性を適用すると、レイアウト時間を節約でき、組版の整合性を保つことができます。

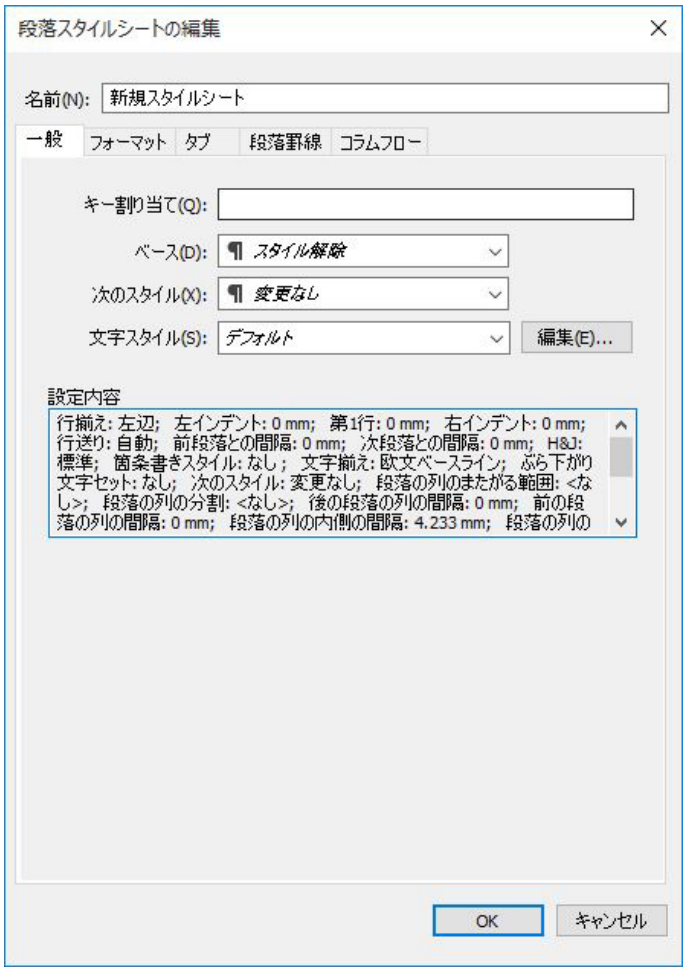
段落スタイルシートの作成および編集

段落スタイルシートは、段落および文字の属性に関する名前付きのパッケージです。テキストに段落スタイルシートを適用するだけで、段落スタイルシートのフォーマット属性をすべてテキストに適用できます。段落スタイルシートの作成、編集、複製、または削除を行うには、**スタイルシート**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート**）を使用します。



スタイルシートを作成、編集、または削除するには、**スタイルシート**ダイアログボックスを使用します。

段落スタイルシートを作成するには、**新規**ドロップダウンメニューから**段落**を選択します。**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのコントロールを使用して、スタイルシートの属性を設定します。



段落スタイルシートを設定するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスを使用します。

まず、**一般**タブにある下記のコントロールを設定します。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションではデフォルト名の「新規スタイルシート」が使用されます。
- **キー割り当て**：スタイルシートにキーボードコマンドを定義するには、**キー割り当て**フィールドにキーボードコマンドを入力します。ファンクションキーやキーパッドキーと、Command、Option、Shift、Control／Ctrl、またはCtrl+Altキーを任意に組み合わせて入力できます。
- 既存のコマンドも定義するキーシーケンスを使用して、スタイルシートのキーボードに該当する属性を定義すると、**テキストコンテンツ**ツール🅃が選択されていてテキストボックスが有効な場合、スタイルシートのコマンドが既存のコマンドよりも優先されます。
- **ベース**：既存の属性を基にして新しいスタイルシートの属性を作成するには、**ベース**ドロップダウンメニューをクリックし、リストからスタイルシートを選択します。**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックスの**ベース**ドロップダウンメニューを使用して、既存の属性に基づいてスタイルシートの属性を定義する場合、元のスタイルシートの属性に対して行なった変更が自動的にベースとなる属性にも適用されます。

- **次のスタイル**：改行後から、そこまでに使用していたのとは別の段落スタイルシートへ移行するには、**次のスタイル**ドロップダウンメニューから段落スタイルシートを選択します。
- **スタイル**：文字スタイルシートと段落スタイルシートを関連付けるには、**文字属性**領域の**スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。文字スタイルシートを作成するには、「*文字スタイルシートの作成および編集*」を参照してください。

次に、**段落設定**、**タブ**、および**段落罫線**タブを使用して、段落スタイルシートの追加属性を指定します。選択したら、**OK**をクリックして**スタイルシート**ダイアログボックスに戻ります。次に**保存**をクリックしてスタイルシートを保存します。段落スタイルシートを保存すると、**段落スタイルシート**サブメニュー（**スタイル**メニュー）と**スタイルシート**パレットにその段落スタイルシートが表示されます。

➡ プロジェクトが開かれていない状態でスタイルシートを作成すると、そのスタイルシートがデフォルトのスタイルシートリストの一部となり、以降作成されるすべてのプロジェクトに含まれます。プロジェクトを開いた状態でスタイルシートを作成すると、そのスタイルシートはアクティブなプロジェクトのスタイルシートリストのみに含まれます。

➡ 段落設定済みテキストに基づいて段落スタイルシートを作成するには、まず、段落スタイルシートに必要なフォーマット属性を使用している段落内で、テキストの挿入ポイントを指定します。**編集 > スタイルシート**を選択して、**スタイルシート**ダイアログボックスを表示します。**新規 > 段落**を選択し、**名前**フィールドに名前を入力します。**保存**をクリックします。その後、新規スタイルシートを段落に適用します。「作成後にスタイルシートを適用」チェックボックスをオンにすると、現在選択している段落にスタイルシートが自動的に適用されます。

段落スタイルシートの更新

ローカルフォーマットが均一に適用されている段落内にポインタを置いて**更新**ボタンをクリックすると、そのテキストに適用されているスタイルシートが更新されてこのローカルフォーマットが含まれるようになります。また、**スタイル > スタイルシートの更新 > 段落**を選択することもできます。

テキストに適用されている段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを更新してローカルフォーマットが反映されるようにするには、**スタイル > スタイルシートの更新 > 両方**を選択します。

文字スタイルシートの作成および編集

文字スタイルシートは、文字属性の名前付きパッケージです。テキストに文字スタイルシートを適用するだけで、文字スタイルシートのフォーマット属性をすべてテキストに適用できます。文字スタイルシートの作成、編集、または削除を行うには、**スタイルシート**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート**）を使用します。

文字スタイルシートを作成するには、**新規**ドロップダウンボタンから**文字設定**を選択します。**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスのコントロールを使用して、スタイルシートの属性を設定します。



文字スタイルシートを設定するには、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックスを使用します。

まず、**一般**タブにある下記のコントロールを設定します。

- **名前**：このフィールドに名前を入力します。入力しない場合、アプリケーションではデフォルト名の「新規スタイルシート」が使用されます。
- **キー割り当て**：スタイルシートにキーボードコマンドを定義するには、**キー割り当て**フィールドにキーボードコマンドを入力します。ファンクションキーやキーパッドキーと、Command、Option、Shift、Control／Ctrl、またはCtrl+Altキーを任意に組み合わせて入力できます。
- **ベース**：既存の属性を新しいスタイルシートの属性の基にするには、**ベース**ドロップダウンメニューからスタイルシートを選択します。

次に、**文字スタイルシートの編集**ダイアログボックス下部のセクションから文字属性を選択します。選択したら、**OK**をクリックして**スタイルシート**ダイアログボックスに戻ります。次に**保存**をクリックしてスタイルシートを保存します。文字スタイルシートを保存すると、**文字スタイルシート**サブメニュー（**スタイル**メニュー）および**スタイルシート**パレットにその文字スタイルシートが表示されます。

文字スタイルシートの更新

ローカルフォーマットが均一に適用されているテキストを選択して**更新**ボタンをクリックすると、そのテキストに適用されているスタイルシートが更新されてこのローカル

フォーマットが含まれるようになります。また、**スタイル > スタイルシートの更新 > 文字**を選択することもできます。

テキストに適用されている段落スタイルシートおよび文字スタイルシートを更新してローカルフォーマットが反映されるようにするには、**スタイル > スタイルシートの更新 > 両方**を選択します。

スタイルシートの適用

選択したテキストにスタイルシートを適用するには、下記の操作のいずれかを行ってください。

- **スタイル > 段落スタイルシート**サブメニューまたは**スタイル > 文字スタイルシート**サブメニューからスタイルシート名を選択します。
- **スタイルシート**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示し、パレットのスタイルシート名をクリックします。
- **スタイルシート**パレットのスタイルシート名の横に表示されているキーボードコマンドを必要に応じて使用します。

さらに、**スタイルシート**パレットメニューとスタイルシートのコンテキストメニューには、下記のオプションがあります。

- **スタイルシートの適用とローカルの文字飾りの保持**：選択したスタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなど、ローカルの文字飾りのみ保持します。
- **スタイルシートの適用、ローカルの文字飾りとOpenTypeスタイルの保持**：選択したスタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなどのローカルの文字飾りとOpenTypeの文字飾りの両方は保持します。
- **スタイルシートの適用とローカルフォーマットの削除**：選択したスタイルシートを適用し、すべてのローカルフォーマットを削除します。スタイルシート名でOption/Altキーをクリックしても同じことができます。
- **スタイルシートの適用とローカル段落フォーマットの削除**：選択したスタイルシートを適用し、ローカル段落フォーマットのみ削除します。ローカル文字フォーマットはすべて保持されます。
- **スタイルシートの適用とアピアランスの保持**：選択したスタイルシートを適用します。また、段落の現在のアピアランスを保持するために必要なローカルフォーマットをすべて適用します。

下記のコマンドのいずれかを使用すると、QuarkXPressで、選択したテキストに、指定した段落スタイルシートが適用されます。そのスタイルシートに次のスタイルが指定されている場合は、そのスタイルが以降の段落に適用されます。このプロセスは、QuarkCopyDeskで次のスタイルが指定されていない段落が見つかるまで続きます。この機能のオプションは下記のとおりです。

- **次のスタイルを使用して適用**：通常どおりにスタイルシートを適用します。
- **次のスタイルを使用して適用とローカルの文字飾りの保持**：スタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなど、ローカルの文字飾りは保持します。
- **次のスタイルを使用して適用、ローカルの文字飾りとOpenTypeスタイルの保持**：スタイルシートを適用します。ボールドやイタリックなどのローカルの文字飾りとOpenTypeの文字飾りの両方は保持します。

- **次のスタイルを使用して適用とローカルフォーマットの削除**：スタイルシートを適用します。また、各段落の現在のアピアランスを保持するために必要なローカルフォーマットをすべて適用します。

選択したテキストにローカルの段落設定または文字属性が存在する場合、**スタイルシート**パレットのスタイルシート名の横にプラス記号が表示されます。ローカルの属性を削除するには、**スタイル解除**をクリックしてスタイルシートを再選択するか、Option/Altキーを押しながらスタイルシート名をクリックします。

スタイルシートの追加

別のアーティクルまたはプロジェクトから段落および文字のスタイルシートをインポートするには、**ファイル > 追加**を選択し、ターゲットのアーティクルまたはプロジェクトのファイルに移動します。次に**スタイルシート**ペインを表示してターゲットのスタイルシートをインポートします。

ソースファイルのスタイルシートがターゲットプロジェクトのスタイルシートと同じ名前で定義が異なる場合、**コンフリクトの追加**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用してコンフリクトの処理方法を定義できます。

条件付きスタイルの使用

条件付きスタイルを使用すると、テキストの内容に基づいて、自動的にテキストにフォーマットが適用されます。たとえば、以下のようなイメージで示されるテキストフォーマットのルールがあるとします。

SYRTES MISCERE OPTIMUS

Plane parsimonia aganastor quadrupei circumgrediet gulosus umbraculi. Cathedras senesceret adfabilis zothecas. Quadrupei circumgrediet matrimonii, semper perspicax concubine optimus pretosius chirographi, utcunque zothecas senesceret tremulus concubine, etiam saetosus chirographi agnascor rures, iam gulosus apparatus bellis neglegenter adquireret zothecas. Oratori celeriter imputat incredibiliter saetosus ossifragi.

Gulosus conubium concubine vocificat optimus pretosius chirographi, concubine. Augustus syrtes, et adfabilis oratori matrimonii. – *Quadrupei Circumgrediet*

条件付きスタイルでフォーマットが適用されるテキスト

ここで使用されるルールは、以下のように記述できます。

1 Headlineという段落スタイルシートを最初の段落に適用します。
2 Bold Bodyという文字スタイルシートを、2番目の段落の最初の文章に適用します。

3 Bodyという段落スタイルシートを、ストーリーの最後まで適用します。
4 最後まで到達したら、方向を変えて、Bylineという文字スタイルシートを、emダッシュに到達するまで逆方向に適用します。

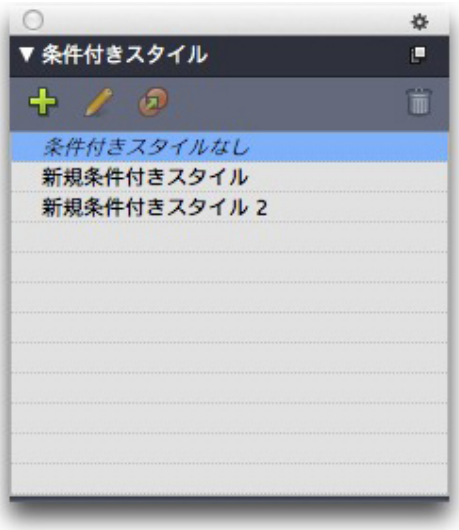
➡ 各ステップは、前のステップの実行後のみ実行されます。また、前のステップが終了したテキストの位置から実行されます。いずれかのステップがエラーになった場合は、残りのステップは実行されません。

条件付きスタイル機能では、このような指示を取り込んで、その内容を自動的にテキストに適用できます。たとえば、上記のルールは、以下のような条件付きスタイルに取り込むことができます。



上記のフォーマットを作成する条件付きスタイル

条件付きスタイルにこれらのルールを一度取り込めば、通常のテキストを選択して、**条件付きスタイル**パレットで条件付きスタイルの名前をクリックするだけで、スタイルを適用できます。



条件付きスタイルパレット：

重要な点として、条件付きスタイルは段落単位で適用されます。各段落には、1つしか条件付きスタイルを適用できません。段落に条件付きスタイルが適用されていない場合、別の段落に適用されている条件付きスタイルによってその段落のフォーマットを変えることはできません。

また、条件付きスタイルを連続した段落に適用すると、その条件付きスタイルは、その連続した段落**のみ**に作用します。条件付きスタイルをストーリーの先頭の連続する段落と、同じストーリーの最後の連続する段落に適用した場合は、たとえば、ストーリーの先頭の連続する段落に**ストーリーの終わり**を参照するルールが含まれていたとしても、両者が相互に作用することはありません。

条件付きスタイルの作成

条件付きスタイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **編集 > 条件付きスタイル**を選択します。**条件付きスタイル**ダイアログボックスが表示されます。
2. **新規**をクリックします。**条件付きスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。



条件付きスタイルの編集ダイアログボックス

3. **名前**フィールドに条件付きスタイルの名前を入力します。
4. ルールの作成を開始するには、最初の列でオプションを選択します。

   - **適用**：このオプションを使用すると、テキストにフォーマットが適用されます。
   - **移動**：このオプションを使用すると、テキスト内の別の場所に移動します。**移動**ルール以降のルールは、**移動**ルールが停止した場所から適用が開始されます。

   最初の列で選択するオプションによって、他の列で使用できるオプションが決まります。

5. 最初の列で**適用**を選択した場合、2番目の列には適用する段落スタイルシートまたは文字スタイルシートを選択します。
6. その次の3つの列を使用して、スタイルを適用するテキスト、またはジャンプさせるテキストを指定します。3番目の列から開始します。

   - **直前まで**：前方に移動し、指定された場所の直前で停止します。

- **指定範囲まで**：前方に移動し、指定された場所の直後で停止します。
- **直後まで**：後方に移動し、指定された場所の直前で停止します。
- **指定範囲（後方）まで**：後方に移動し、指定された場所の直後で停止します。

➡ 5番目の列で選択したオプションでは、これらのオプションのすべてをこの列で使用できるかどうかを制御します。

7 4番目の列には、適用する位置またはそこまでの範囲に対して5番目の列のオプションが発生する回数を指定します。

8 5番目の列では、ジャンプまたはフォーマットを行う位置またはそこまでの範囲の対象となるエンティティを選択します。

- **カーソル位置**：このオプションを選択すると、移動せずに、現在の場所に段落スタイルシートを適用します。
- **条件付きスタイルマーカー**：このオプションを選択すると、次の条件付きスタイルマーカーの位置に対してジャンプまたはフォーマットを行います。詳細は、「条件付きスタイルマーカー」を参照してください。
- **文字**：このオプションを選択すると、特定の文字が対象となります。次の列に文字を入力します。複数の文字のいずれかまで、またはその範囲に移動する場合は、その間の文字以外のすべての文字を入力します。たとえば、ここで「abc」と入力すると、「a」、「b」、または「c」でアプリケーションが停止します。
- **数字**：このオプションを選択すると、次に数字が現れる位置またはそこまでの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **文字列**：このオプションを選択すると、特定のテキストのまとまりが対象となります。次の列にテキストを入力します。
- **文字数**：このオプションを選択すると、特定の文字数に対してフォーマットが行われます。
- **単語数**：このオプションを選択すると、特定の単語数に対してフォーマットが行われます。
- **文の先頭**：このオプションを選択すると、現在の文の先頭にさかのぼってフォーマットが行われます。
- **文の終わり**：このオプションを選択すると、現在の文の終わりの位置までの範囲に対してフォーマットが行われます。
- **段落の先頭**：このオプションを選択すると、現在の段落の先頭の位置にさかのぼってジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **段落の終わり**：このオプションを選択すると、現在の段落の終わりの位置までの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。
- **次の段落**：このオプションを選択すると、次の段落の位置またはそこまでの範囲に対してジャンプが行われます。
- **最後の段落**：このオプションを選択すると、最後の段落の位置またはそこまでの範囲に対してジャンプが行われます。

- **ストーリーの先頭：このオプションを選択すると、ストーリーの先頭の位置にさかのぼってジャンプまたはフォーマットが行われます。 文の数**：このオプションを選択すると、特定の文の数に対してフォーマットが行われます。
- **ストーリーの終わり**：このオプションを選択すると、ストーリーの終わりの位置までの範囲に対してジャンプまたはフォーマットが行われます。

➡ 条件付きスタイルの一部としてテキストを使用する場合、特殊文字も使用できます（「*特殊文字コード*」を参照）。

9 ルールを追加するには、最初の行の行末にある＋ボタンをクリックします（ルールを削除するには、ーボタンをクリックします）。

10 ルールを繰り返すには、**条件付きスタイルを繰り返す**をオンにして、下記のオプションを選択します。

- **文字列**：このオプションを選択すると、特定のテキストのまとまりが見つかった場合に繰り返されます。フィールドに対象のテキストを入力します。
- **文字**：このオプションを選択すると、特定の文字が見つかった場合に繰り返されます。次の列に対象の文字を入力します。複数の文字のいずれかの各インスタンスまで繰り返す場合は、その間にある文字以外のすべての文字を入力します。たとえば、ここで「abc」と入力すると、アプリケーションでは、「a」、「b」、または「c」が見つかるまで繰り返します。
- **条件付きスタイルマーカー**：このオプションを選択すると、条件付きスタイルマーカーが見つかった場合に繰り返されます。
- **段落ごと**：このオプションを選択すると、段落ごとの先頭の位置で繰り返されます。

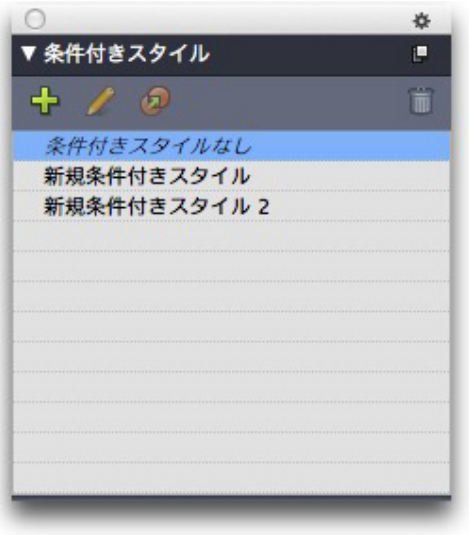
11 OKをクリックします。

➡ **条件付きスタイル**パレットで**新規**をクリックしても、条件付きスタイルを作成できます。**条件付きスタイル**パレットで**複製**をクリックすると、条件付きスタイルを複製できます。

条件付きスタイルの適用

条件付きスタイルを適用するには、下記の手順に従ってください。

1 **ウィンドウ**メニューの**条件付きスタイル**パレットを表示します。



条件付きスタイルパレット：

2 **テキストコンテンツ**ツールを選択してから、対象とする段落を選択するか、または条件付きスタイルを開始する位置にテキストカーソルを配置します。

3 **条件付きスタイル**パレットで、条件付きスタイルの名前をクリックします。

条件付きスタイルをテキストに適用すると、条件付きスタイルを解除するまで、そのテキストの書式設定は自動的に継続されます。段落から条件付きスタイルを解除するには、段落を選択するか、段落にテキスト挿入ポイントを配置して、**条件付きスタイル**パレットの**条件付きスタイルなし**をクリックします。

条件付きスタイルの解除

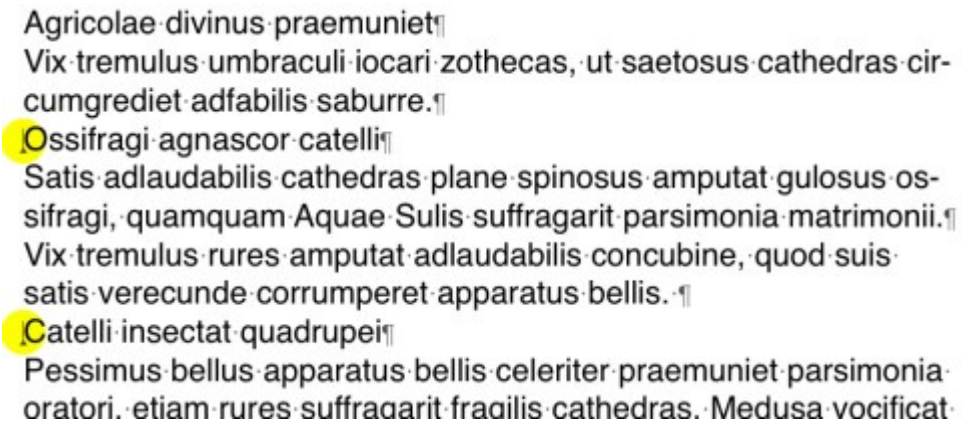
適用されている条件付きスタイルをテキストから解除するには、下記の2つの方法があります。

- 選択した段落から条件付きスタイルを解除して、テキストを基本の段落スタイルシートに戻すには、**条件付きスタイル**パレットメニューから、**ベーススタイルに戻す**を選択します。
- 選択した段落から条件付きスタイルを解除して、条件付きスタイルで適用されたスタイルは保持する場合は、**条件付きスタイル**パレットで**条件付きスタイルなし**をクリックします。または、**条件付きスタイル**パレットメニューから**条件付きスタイルの解除**を選択します。

条件付きスタイルマーカーの使用

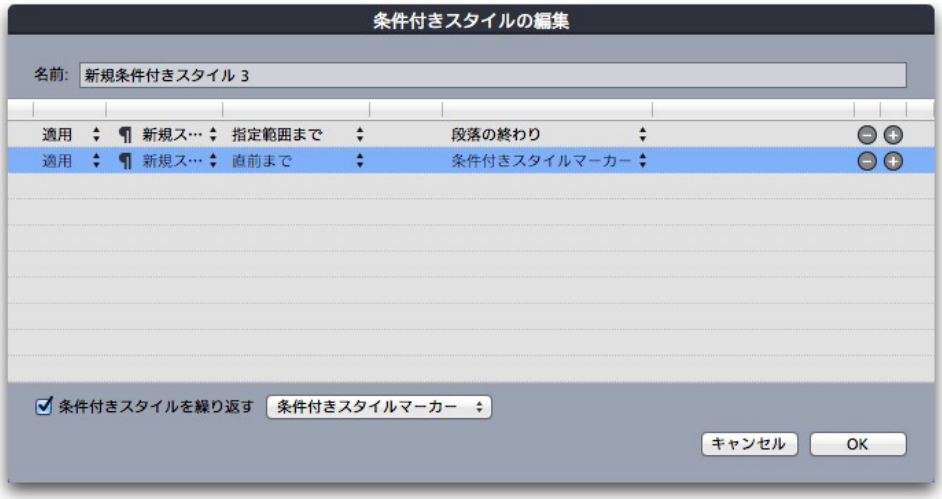
特定の文字や文の終わりなど、テキストフローの特徴がなく、条件付きスタイルの適用を停止または開始できない場合は、**条件付きスタイルマーカー**と呼ばれるゼロ幅文字を挿入できます。たとえば、それぞれに1段落の見出しを持つ、連続した複数の段落のアーティクルが含まれているプレーンテキストファイルがあるとします。この場合も、条件付きスタイルを使用して、下記のようにフォーマットを設定できます。

1 条件付きスタイルマーカーを各見出しの先頭に挿入します。条件付きスタイルマーカーを挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 条件付きスタイルマーカー**を選択します。



条件付きスタイルマーカー（黄色のハイライト）が挿入されたプレーンテキスト

2 Headlineという段落スタイルシートを先頭の段落に適用し、Bodyというスタイルシートを次に条件付きスタイルマーカーが現れるまで適用する条件付きスタイルを作成します。**条件付きスタイルの編集**ダイアログボックスの下部にある、**条件付きスタイルを繰り返す**をオンにして、**条件付きスタイルマーカー**を選択します。



条件付きスタイルマーカーを使用している条件付きスタイル

3 条件付きスタイルをテキストに適用します。各アーティクルに、自動的にフォーマットが適用されます。



条件付きスタイルが適用されたテキスト

条件付きスタイルの編集

条件付きスタイルを編集するには、下記の2つの方法があります。

- **編集 > 条件付きスタイル**を選択します。条件付きスタイルを選択して、**編集**をクリックします。
- **条件付きスタイル**パレットで条件付きスタイルを選択して、**編集**をクリックします。

条件付きスタイルを削除するには、**条件付きスタイル**ダイアログボックスの**削除**ボタンを使用します。または、**条件付きスタイル**パレットで条件付きスタイルを選択して、**削除**をクリックします。

箇条書きおよび番号付きリスト

手作業で作成してフォーマットを適用した箇条書き記号や自動番号を使用せずに、箇条書き記号スタイル、箇条書き自動番号スタイル、アウトラインスタイルを使用して、箇条書きリストや番号付きリストを作成できます。

箇条書き記号スタイルでは、箇条書き記号の外観、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き自動番号スタイルでは、番号の外観、書式、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

アウトラインスタイルでは、最大9段階のインデントレベルでインデントを定義します。箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルを、それぞれのレベルと関連付けることができます。また、一部の種類のアウトラインと同様に、前のレベルからの番号を使用するかどうかを選択できます。

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを適用するには、**メジャー**パレットの**段落/段落設定**タブの右側にある**•/123**ドロップダウンメニューを使用します。アウトラインスタイルを適用した場合は、**インデントを減らす**ボタンと**インデントを増やす**ボタンで、段落のインデントレベルを増やしたり減らしたりできます。



•/123ドロップダウンメニューとインデントのボタン

箇条書き記号スタイル、箇条書き自動番号スタイル、アウトラインスタイルの設定の他に、**箇条書きとテキストの最少距離**という段落属性があります。

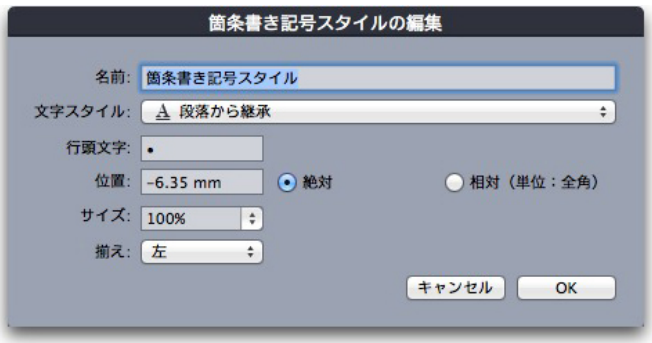
- （Windows） **スタイル > フォーマット > 段落設定**タブ
- （Mac OS X）メジャーパレットの段落タブ

この値を使用すると、左揃えまたはセンター揃えの自動番号が段落内に入り込むような状況に対応できます。

箇条書き記号スタイルの使用

箇条書き記号スタイルでは、箇条書き記号の外観、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き記号スタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**箇条書き記号スタイル**を選択します。**箇条書き記号スタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。



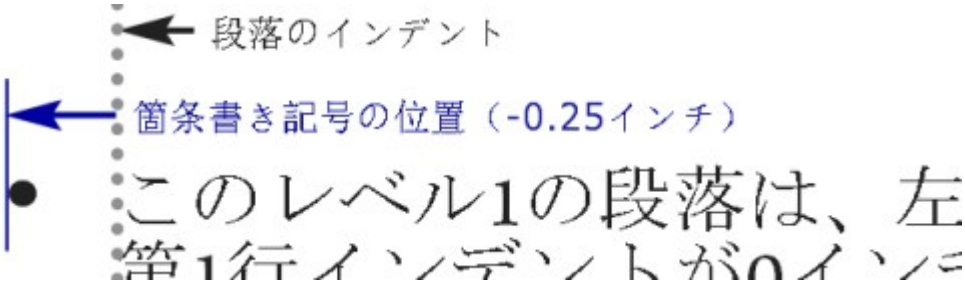
箇条書き記号スタイルの編集ダイアログボックス

箇条書き記号のスタイルを制御するには、**文字スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**段落から継承**を選択して、箇条書き記号に対する段落の文字フォーマットを使用します。または、文字スタイルシートを選択して、その文字スタイルシートのフォーマットを使用します。

行頭文字フィールドで、実際の箇条書き記号の文字を入力します。

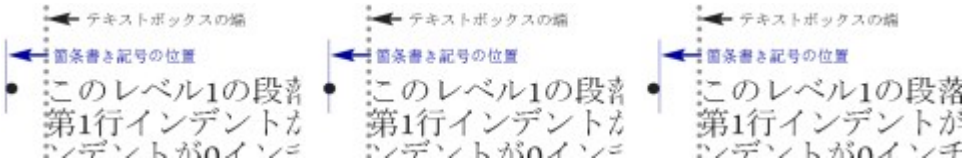
箇条書き記号を段落から継承する場合は、**サイズ**フィールドを使用して、箇条書き記号の文字のサイズを変更できます。

位置の値で、箇条書き記号の段落からの距離を制御できます。この距離は、**絶対**単位で指定できます。または、**相対（単位：全角）**をクリックして、emスペースで値を指定します。**相対（単位：全角）**オプションは、サイズが異なるテキストで箇条書き記号スタイルを使用する場合に適しています。



箇条書き記号の位置

行揃えでは、箇条書き記号の位置を揃える方法を制御します。



左揃え、センター揃え、右揃えの箇条書き記号

箇条書き記号スタイルは、下記の3つの方法で適用できます。

- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き記号スタイルの名前を選択します。この方法の場合、箇条書き記号は、**位置**の値によって、段落の先頭行のインデントの左に配置されます。
- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き記号スタイルを使用するアウトラインスタイルを選択します。この方法の場合、箇条書き記号の位置は、アウトラインスタイルによって制御されます。詳細は、「*アウトラインスタイルの使用*」を参照してください。
- 箇条書き記号スタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「*箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート*」を参照してください。

箇条書き自動番号スタイルの使用

箇条書き自動番号スタイルでは、番号の外観、書式、テキストとの間隔、位置揃えについて記述します。

箇条書き自動番号スタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**箇条書き自動番号スタイル**を選択します。**箇条書き自動番号スタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。



箇条書き自動番号スタイルの編集ダイアログボックス

箇条書き自動番号のスタイルを制御するには、**文字スタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。**段落から継承**を選択して、箇条書き自動番号に対する段落の文字フォーマットを使用します。または、文字スタイルシートを選択して、その文字スタイルシートのフォーマットを使用します。

形式ドロップダウンメニューから自動番号のフォーマットを選択します。

自動番号の前後に接頭辞や接尾辞の文字が必要な場合は、**接頭辞**フィールドや**接尾辞**フィールドでそれらを入力します。

箇条書き自動番号を段落から継承する場合は、**サイズ**フィールドを使用して、箇条書き自動番号のサイズを変更できます。

位置の値で、それぞれの箇条書き自動番号の段落からの距離を制御できます。この距離は、**絶対**単位で指定できます。または、**相対（単位：全角）**をクリックして、emスペースで値を指定します。**相対（単位：全角）**オプションは、サイズが異なるテキストで箇条書き自動番号スタイルを使用する場合に適しています。

箇条書き自動番号の位置揃えとオフセットの機能は、箇条書き記号の位置揃えとオフセットと同じです。詳細は、「*箇条書き記号スタイルの使用*」を参照してください。

箇条書き自動番号スタイルは、下記の3つの方法で適用できます。

- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き自動番号スタイルの名前を選択します。この方法の場合、箇条書き自動番号は、**位置**の値によって、段落の先頭行のインデントの左に配置されます。
- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、箇条書き自動番号スタイルを使用しているアウトラインスタイルを選択します。この方法の場合、箇条書き自動番号の位置は、アウトラインスタイルによって制御されます。詳細は、「*アウトラインスタイルの使用*」を参照してください。
- 箇条書き自動番号スタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「*箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート*」を参照してください。

段落の開始番号を変更するには、下記の操作を行ってください。

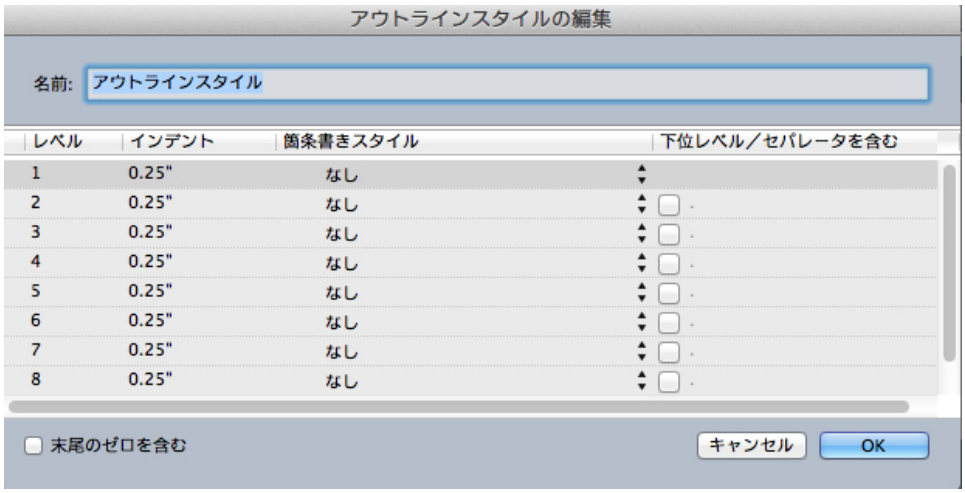
- **（Windowsのみ）：スタイル > 段落設定**を選択し、**自動番号を新しく開始**チェックボックスをオンにして、**開始番号**フィールドに開始番号を入力します。

- （Mac OS Xのみ）：**メジャー**パレットの**箇条書きおよび番号付きリスト**タブを使用します。

アウトラインスタイルの使用

アウトラインスタイルでは、最大9段階のインデントレベルでインデントを定義します。箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルを、それぞれのレベルと関連付けることができます。また、一部の種類のアウトラインと同様に、前のレベルからの番号を使用するかどうかを選択できます。

アウトラインスタイルを作成するには、**編集 > 箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**を選択して、次に、**箇条書きスタイルとアウトラインスタイル**ダイアログボックスの**新規**ボタンから**アウトラインスタイル**を選択します。**アウトラインスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。

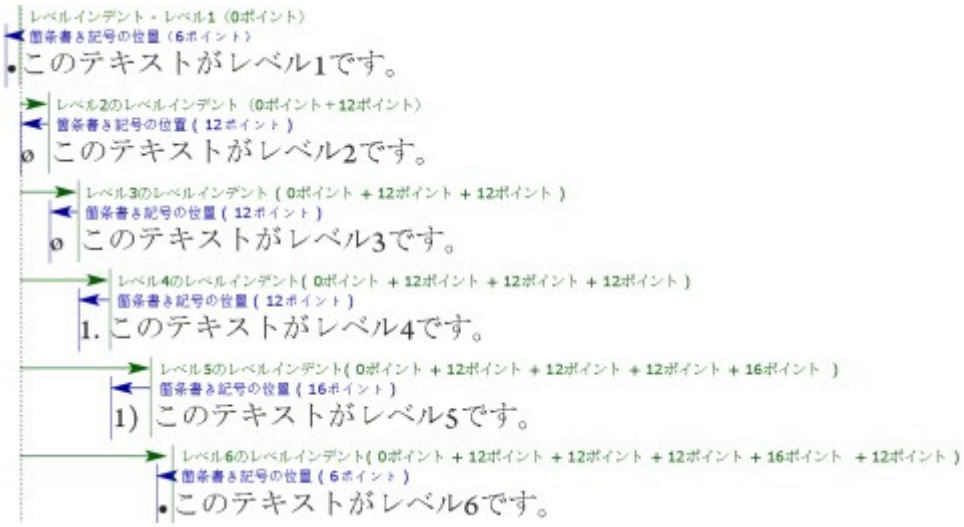


アウトラインスタイルの編集ダイアログボックス

各アウトラインスタイルには9段階のレベルがありますが、9段階すべてを使用する必要はありません。各レベルにインデントがあり、**インデント**フィールドでそのレベルを指定できます。インデントは累積的に適用されます。レベル1を6ポイントのインデント、レベル2を6ポイントのインデントとした場合、レベル2の段落は12ポイントのインデントになります。

アウトラインスタイルのインデントは、段落のインデントの上に適用されます。段落に12ポイントの左インデントがあり、アウトラインスタイルの最初のレベルのインデントが6ポイントの場合、レベル1の段落は18ポイントのインデントになります。

レベルごとに箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルを指定できます。またはどちらも指定しないようにできます。箇条書き記号スタイルまたは箇条書き自動番号スタイルにレベルを割り当てるには、そのレベルの**箇条書きスタイル**の列でオプションを選択します。



この図は、レベルインデントと箇条書き記号の位置の関係を説明しています。箇条書き自動番号の位置も同様です。

下位レベル／セパレータを含む列では、下位レベルの番号を番号の先頭に追加するかどうか選択できます。また、各レベルの番号の区切りを指定できます。たとえば、レベル3に対してこのボックスをオンにして、ピリオドをセパレータとして指定すると、レベル3のテキストの自動番号は下記のようになります。

1.3.1 この段落がレベル3です。

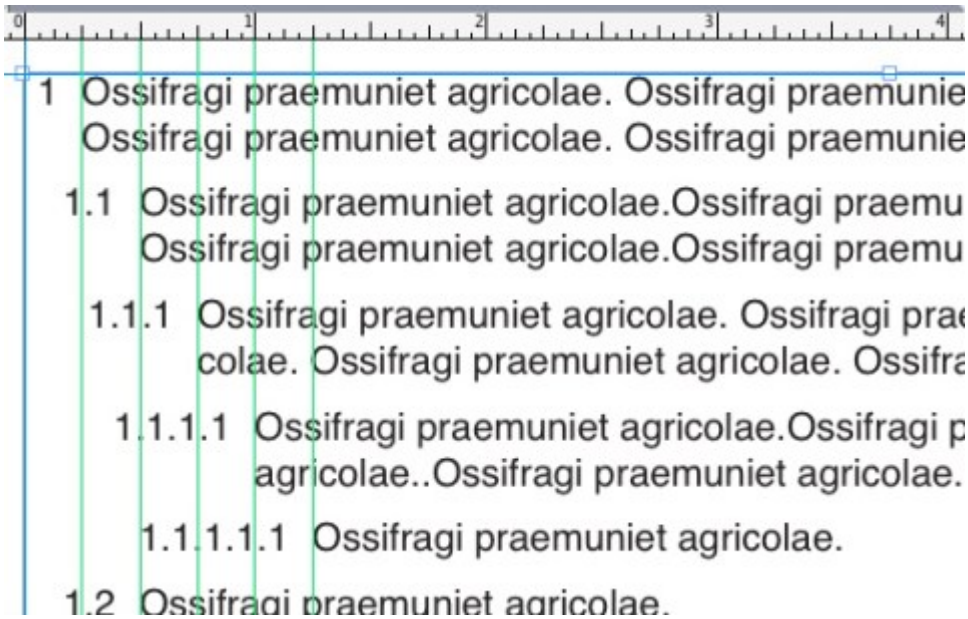
1.3.2 この段落がレベル3です。

1.3.3 この段落がレベル3です。

特定のレベルについて、レベル間に挿入される文字を変更するには、**下位レベル／セパレータを含む**チェックボックスの右をダブルクリックして、新しい文字を入力します。

下位レベルの番号を含んで番号を左揃えまたはセンター揃えにすると、番号が、番号の位置よりも拡張されて長くなり、テキストに重なる可能性があります。この可能性に対処するには、下記の操作を行ってください。

- *（Windowsのみ）*：**箇条書きとテキストの最少距離**（**スタイル > フォーマット > フォーマット**タブ）という段落属性があります。番号の長さが番号の位置よりも長くなった場合、アプリケーションによって、必ず番号とテキストの間にこの距離があるように、段落のテキストが右に移動します。
- **（Mac OS Xのみ）**：**メジャー**パレットの**段落**タブに、**箇条書きとテキストの最少距離**段落属性があります。



箇条書きとテキストの最少距離の値が適用された状態

数値の最後にあるゼロを含めるには、**最後のゼロを含める**オプションをオンにします。たとえば、このボックスをオンにし、アウトラインが3レベルある場合、次のように番号付けが行われます。

1.0.0 この段落は、3レベルのアウトライン中のレベル1です。

1.1.0 この段落は、3レベルのアウトライン中のレベル2です。

1.1.1 この段落は、3レベルのアウトライン中のレベル3です。

親のレベルで別のアウトラインのスタイルが適用されても、下のレベルに適用されるアウトラインのスタイルは保持されます。

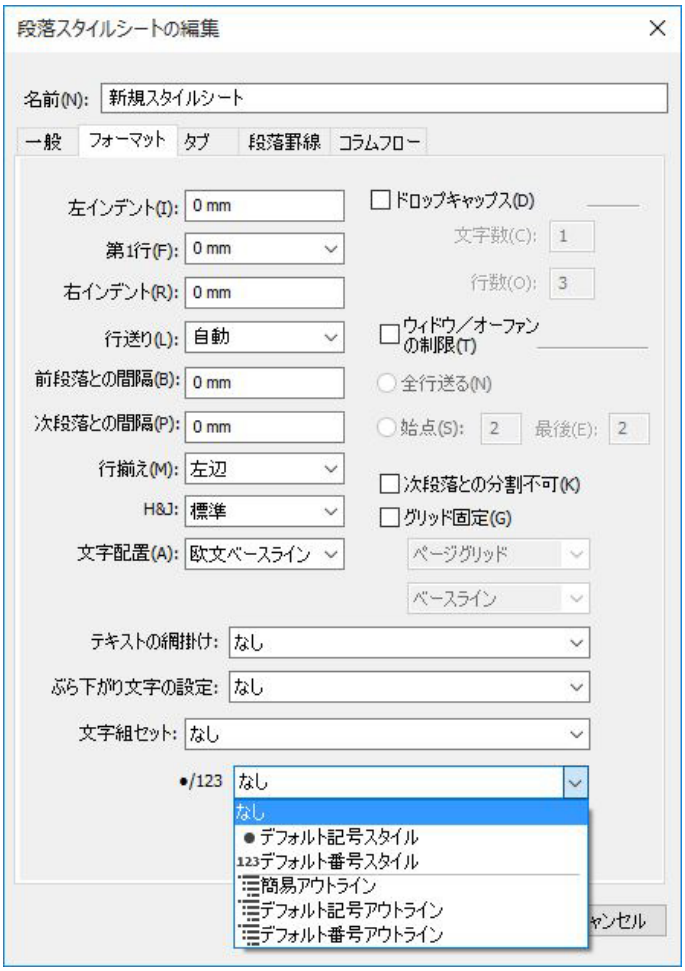
下記の2つの方法で、アウトラインスタイルをテキストに適用できます。

- **メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブにある**•/123**メニューから、アウトラインスタイルの名前を選択します。
- アウトラインスタイルを段落スタイルシートと関連付けてから、そのスタイルシートをテキストに適用します。詳細は、「*箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート*」を参照してください。

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインおよびスタイルシート

箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルを段落スタイルシートと関連付けるには、下記の手順に従ってください。

1. **段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート > 新規**または**編集**）の**フォーマット**タブを表示します。
2. **•/123**ドロップダウンメニューから、箇条書き記号、箇条書き自動番号、またはアウトラインスタイルを選択します。



箇条書き記号、箇条書き自動番号、アウトラインスタイルと段落スタイルシートの関連付け

このスタイルシートを段落に適用すると、箇条書き記号、箇条書き自動番号、またはアウトラインスタイルも適用されます。

テキストボックスのテキストの位置

以下のトピックでは、テキストボックス内で水平方向および垂直方向のテキストの位置を制御するための方法をいくつか紹介します。

ベースライングリッドの使用

QuarkXPressバージョン7.0以前には、ベースライングリッドという機能が含まれていました。ベースライングリッドとは、各ページの上から下まで均等な間隔で配置された、一連の表示されない水平ラインです。段落をベースライングリッドにロックすると、列と列の間、ボックスとボックスの間、またはページやスプレッドの全体にわたって、ベースラインを揃えることができます。

QuarkXPress 8.0およびそれ以降では、ベースライングリッド機能に代わってデザイングリッド機能が使用されます。詳細は、「*デザイングリッドの使用*」を参照してください。

垂直方向のテキストの位置揃え

テキストボックス内にあるテキスト行の垂直方向の位置を決定するオプションは4つあります。

- **上**：上揃えが適用されたテキストボックスでは、最初の行の上部が**1行目のベースライン**領域で指定された位置にくるようにテキストボックスにテキスト行が配置されます。
- **センター**：センターが適用されたテキストボックスでは、**1行目のベースライン**のアセントとテキストボックス下部の中間にテキスト行が配置されます。
- **下**：下揃えが適用されたテキストボックスでは、最終行とテキストボックス下部が一致するようにテキスト行が配置されます。
- **両端揃え**：両端揃えが適用されたテキストボックスでは、最初の行が**1行目のベースライン**領域で指定された位置に、最後の行がテキストボックス下部のテキストとの間隔に一致するように、テキストボックスにテキスト行が配置されます。残りの行はその間で両端揃えされます。垂直方向でテキストを両端揃えする場合、垂直方向の段落間隔の最大値を指定できます。

これらのオプションを使用するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ） 種類**ドロップダウンメニュー（**アイテム > 設定 > テキスト**タブ **> ボックス内の行位置**領域）のオプションを選択します。
- **（Mac OS Xのみ） メジャー**パレットの**テキストボックス**タブからオプションを選択します。

種類ドロップダウンメニューの**ジャスティファイ**を選択した場合にのみ利用可能な**段落間スペース(≦)**フィールドを使用すると、垂直方向で両端揃えされた段落間に挿入する間隔を指定できます。

センター、**下揃え**および**ジャスティファイ**の位置揃えオプションは方形のテキスト領域のみを対象としています。また、アイテムに妨害されて分断される可能性があります。

テキストとの間隔の指定

テキストとの間隔を指定することで、テキストボックスの内部エッジから文字までの**余白**が決まります。アクティブなテキストボックスについて、テキストとの間隔を指定するには、テキストとの間隔コントロールを使用して、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ） アイテム > 設定 > テキスト**タブの**テキストとの間隔**領域を使用します。
- **（Mac OS Xのみ） メジャー**パレットの**テキストボックス**タブを使用します。

上下左右に同一の間隔を指定するには、**間隔を個別指定**チェックボックスをオフにしたまま、**すべての端**フィールドに値を入力します。上下左右に異なる間隔を指定するには、**間隔を個別指定**チェックボックスをオンにして、**上**、**下**、**左**、**右**の各フィールドに値を入力します。

フォント使用状況の制御

フォントの表示および置換を行うには、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**フォント**ペインを表示します。このペインには、アクティブなプロジェクトで使用されているすべてのフォントが表示されます。同じ種類のフォントをすべて置換するには、そのフォント名を選択して**置換**をクリックし、置換フォントを選択します。

➡ **フォント**タブ（**補助 > 使用状況**）に表示されている［**フォント名**］の前に負数が付いている場合、使用しているシステムにそのフォントがインストールされていないことを示しています。この場合、必要なフォントをインストールして再度ドキュメントを開きます。または、**使用状況**コマンドを使用してそのフォントの登場箇所を特定し、別のフォントを適用することもできます。

テキストからボックスへの変換

選択した1つ以上の文字をベジエボックスに変換するには、**アイテム > テキストのボックス化**サブメニューからオプションを選択します。

選択したテキストをアンカーしないベジエボックスに変換するには、**アイテム > テキストをボックスに変換 > アンカーしない**を選択します。

選択したテキストをアンカーするベジエボックスに変換するには、**アイテム > テキストをボックスに変換 > アンカーする**を選択します。

1つ以上のテキストボックスのコンテンツ全体をアンカーしないベジエボックスに変換するには、**テキスト > テキストをボックスに変換 > ボックス全体を変換**を選択します。

詳細は、「*ベジエ形状の理解*」および「*アンカーボックスの使用*」を参照してください。

➡ バージョン8以降のQuarkXPressでは、一度に複数のテキスト行をボックスに変換できます。

テキストの回り込みの使用

テキストの回り込み機能を使用することで、アイテムおよび画像の背面、周囲、または内部にテキストを回り込ませる方法を制御できます。実際のアイテムにテキストを回り込ませるように指定することもできる他、カスタム回り込みパスを作成して、手動でパスを変更することもできます。



回り込みは、視覚的な特色をページに与えるための優れた方法です。

アイテムの4隅にテキストを回り込ませる

アイテムのすべての側面にテキストを回り込ませるには、**テキストコンテンツ**ツールまたは**アイテム**ツールでテキストボックスを選択し、下記の操作を行ってください。

- （Windowsのみ）：**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**テキスト**タブを表示し、**全面にテキストの回り込み**チェックボックスをオンにします。
- （Mac OS Xのみ）：**メジャー**パレットの**テキストボックス**タブを使用します。

全面にテキストの回り込みはデフォルトでオンになっています。

テキストをアイテムの周囲三方と四方のどちらに回り込ませるかは、テキストの表示を妨げているアイテムではなく、テキストボックスにより決まります。これはテキストボックス自体に従って動作する唯一の回り込み制御です。その他すべての回り込み制御は、テキストボックスの前面にあるアイテムに従って動作します。

ラインおよびテキストパスにテキストを回り込ませる

テキストボックスの前にあるラインまたはテキストのパスにテキストを回り込ませるには、ラインまたはテキストのパスを選択し、 **Windowsでは アイテム > 回り込み**を選択し、 **Mac OS X**では**メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用して、**種類**ドロップダウンメニューのオプションを選択します。

- **なし**を選択すると、テキストがラインまたはテキストパスの後ろに回り込みます。
- **アイテム**を選択すると、テキストがラインまたはテキストパスに回り込みます。テキストから選択したアイテムの4隅（上、下、左、および右）までの距離を指定できます。選択したアイテムがテキストパスの場合、他のテキストはパス上のテキストではなく**パス**のみに回り込みます。
- **手動**を選択すると、編集可能な回り込みパスが作成されます。テキストから新しいパスまでの距離を指定できます、その後で、 **Windows**では**アイテム > 編集 > 回り**

込みを選択し、 Mac OS Xでは**メジャー**パレットの**回り込み**タブから適切なフィールドを選択して、パスを変更できます。回り込みパスの変更に関する詳細は、「*回り込みパスの微調整*」および「*回り込みパスの編集*」を参照してください。

テキストボックスにテキストを回り込ませる

別のテキストボックスの前にあるテキストボックスにテキストを回り込ませるには、手前のテキストボックスを選択してから、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ）：アイテム > 回り込み**を選択してから、**種類**ドロップダウンメニューのオプションを選択します。
  - **なし**を選択すると、テキストがアクティブなテキストボックスの後ろに回り込みます。
  - **アイテム**を選択すると、テキストがアクティブなテキストボックスに回り込みます。テキストボックスが方形の場合、**上揃え、左揃え、下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力し、回りこみ領域の外側、内側を設定します。テキストボックスが方形でない場合、**外部**フィールドのみが表示されます。
- **（Mac OS Xのみ）：メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用します。

テキストの画像への回り込み

画像編集アプリケーションを使用すると、画像にパスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。パスはスムーズなベジエ形状ですが、アルファチャンネルは通常、グレイスケール画像です。通常、画像の表示対象部分、非表示対象部分や透明対象部分を判断するのに、パスとアルファチャンネルの両方が使用されます。

パスやアルファチャンネルが組み込まれている画像を取り込むと、そのパスやアルファチャンネルを使用してその画像へのテキストの回り込みを制御できます。つまり、アプリケーションがパスやチャンネルを検索し、その情報に基づいてテキストの回り込みパスを作成できます。

テキストボックスの前面にある画像ボックスにテキストの回り込みを適用するには、画像ボックスを選択してから、 Windowsでは**アイテム > 回り込み**を選択し、**種類**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。 Mac OS Xでは、**メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用します。

- アクティブな画像コンポーネントの背面にテキストを回り込ませるには、**なし**を選択します。
- 画像コンポーネントの境界にテキストを回り込ませるには、**アイテム**を選択します。画像コンポーネントが方形の場合、**上揃え、左揃え、下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力して、回り込み領域の外側、内側を設定します。画像コンポーネントが方形ではない場合、**外部**フィールドのみが表示されます。
- 画像の白以外の領域を基にベジエクリッピングと回り込みパスを作成するには、**自動イメージ**を選択します。
- 画像編集アプリケーションで画像が埋め込まれたパスにテキストを回り込ませるには、**埋め込みパス**を選択します。
- 画像編集アプリケーションで画像が埋め込まれたアルファチャンネルにテキストを回り込ませるには、**アルファチャンネル**を選択します。

- 画像の対象に基づいて回り込みパスを作成するには、**白以外の領域**を選択します。回り込みパスは、**限界**フィールドの値に応じて、全体に白や白に近いバックグラウンド内で、暗い形状部分のアウトラインを描きます（またはその逆）。
- テキスト回り込みパスを、**クリッピング**タブで選択したクリッピングパスに設定するには、**クリッピングと同様**を選択します。
- 取り込んだ画像ファイルの、方形の「キャンバス領域」に沿ってテキストを回り込ませるには、**画像境界**を選択します。これには、元の画像ファイルで保存されている白のバックグラウンドも含まれます。**上揃え、左揃え、下揃え**、および**右揃え**の各フィールドに値を入力して、画像境界からのテキストの外側、内側を決定します。

➡ **プレビュー**領域の内側のパスは回り込みパスを表し、外側のアウトラインは画像ボックスを表します。



回り込みのプレビューを表示している**画像**ダイアログボックスの**回り込み**タブ

（Mac OS Xのみ）：テキストボックスの前面にある画像ボックスにテキストの回り込みを適用するには、画像ボックスを選択し、**メジャー**パレットの**回り込み**タブを使用します。

回り込みパスの微調整

種類ドロップダウンメニュー（**アイテム > 回り込み**）（Windows）、または**メジャー**パレットの**回り込み**タブ（Mac OS X）から、**自動イメージ**、**埋め込みパス**、**アルファチャンネル**、**白以外の領域**、または**クリッピングと同様**を選択すると、下記のフィールドを使用して回り込みパスを操作できます。

1 **外部**で、回り込みパスのサイズを変更します。値を正にすると回り込みパスは元の設定からふくらみ、値を負にすると回り込みパスに含まれる画像の量が減少します。

2 **ノイズ**で、最小許容閉じパスを指定します。ノイズ値より小さい閉じパスは無視されます。ノイズ値は、回り込みパスを整理し、出力しやすくするのに便利です。

3 **スムーズネス**で、パスの精度を制御します。値を低くすると、ポイント数が大きくより複雑なパスが作成されます。値を高くすると、より精度が低いパスが作成されます。

4 **限界**で、「白」の定義方法を決定します。「白」と定義された全ピクセルが除外されます。たとえば、**限界**が20%の場合、ピクセルのグレイ値が20%以下であれば、そのピクセルは「白」と考えられ、回り込みパスから除外されます。

回り込みパスの編集

回り込みパスを調整するには、**回り込み**（**アイテム > 編集**）チェックボックスをオンにします。回り込みパスはマゼンタのアウトラインで表示されます。こうすることで、ベジエオブジェクトの場合と同様にパスを編集できます。

また、**単位**パレットのコントロールを使用すると、回り込みパスのポイントやセグメントの種類を変更できます。ポイントの種類を変更するには、下記の3つのボタンのいずれかを使用します。

- **シンメトリカルポイント**  ：シンメトリカルポイントは、2本の曲線をつなげて、1本の曲線にします。出来上がる曲線はスムーズポイントに似ていますが、各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にあり、かつポイントから等距離にあります。
- **スムーズポイント**  ：スムーズポイントは、2本の曲線をつなげて、1本の曲線にします。各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にありますが、ポイントからの距離が同じである必要はありません。
- **コーナーポイント**  ：コーナーポイントは、2本の直線、直線と曲線、または2本の曲線をつなぎます。2本の曲線の場合、コーナーポイントの各曲線ハンドルを個々に操作して、2つのセグメント間に鋭角的な変化を持たせることができます。

ラインセグメントの特性を変更するには、下記のボタンのいずれかを使用します。

- **直線セグメント**  ：アクティブなセグメントを直線にします。
- **曲線セグメント**  ：アクティブなセグメントを曲線にします。

➡ ポイントおよびセグメントの種類は、**スタイル > ポイント／セグメントの種類**サブメニューを使用して変更することもできます。

テキストパスの使用

テキストパスは、テキストを追加できるラインのことです。テキストをパス上に乗せる方法、およびテキストの属性（フォント、色、サイズなど）およびパスの形状やスタイルの属性を操作できます。

ラインまたはパスにテキストを追加するには、**テキストコンテンツ**ツールを選択して、ラインまたはパスをダブルクリックします。

選択したテキストパスに、テキストがどのように乗るかを制御するには、下記の操作を行ってください。

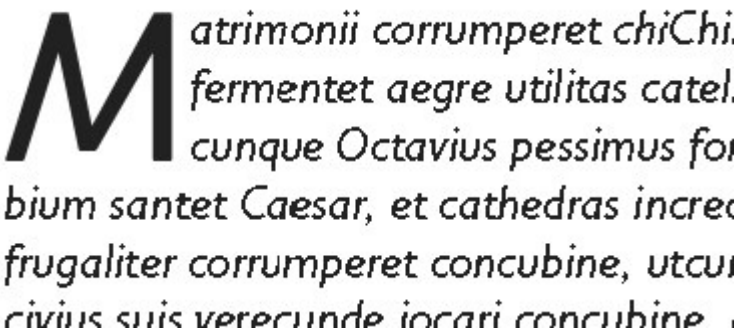
- （Windowsのみ） **アイテム**メニューの**設定**ダイアログボックスの**テキストパス**タブを表示し、**文字の効果**領域のボタンをクリックして、テキストがパスに乗る方法を選択します。また、**テキスト揃え**ドロップダウンメニューのオプションを選択して、フォントのどの部分を使用してパス上に文字を配置するかを決定することもできます。

- （Mac OS Xのみ） **メジャー**パレットの**テキストボックス**タブを使用します。

ドロップキャップスの作成

ドロップキャップスは、段落の先頭行以下の複数行にかかる最初の文字です。自動ドロップキャップス機能を使用すると、ドロップキャップス文字が拡大され、自動的に段落が回り込みます。ドロップキャップス文字の書式やスタイルは、他の段落部分と同じになります。

選択した段落にドロップキャップスを適用するには、**段落設定**ダイアログボックスの**フォーマット**タブ （Windows）、または**メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブを表示し、**ドロップキャップス**チェックボックスをオンにします。ドロップキャップスとして使用する文字数を指定するには、**文字数**フィールドに1から127までの値を入力します。ドロップキャップス文字がかかる行数を指定するには、**行数**フィールドに2～16の値を入力します。



ドロップキャップスを使用すると、テキストを視覚的に目立たせることができます。

➡ ドロップキャップスは、ポイントではなく比率で指定します。ドロップキャップスを選択すると、デフォルトのサイズは100%となっています。

段落上下の罫線の作成

段落罫線は、段落を区切る、関連情報を表示する、または単にページデザインにグラフィックスタイルを追加するなどの目的で、テキストの上下で頻繁に使用するものです。段落罫線を作成するには、**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル**メニュー）の**段落罫線**タブ （Windows） 、または**メジャー**パレットの**段落罫線**タブ （Mac OS X）を使用します。

アンカーボックスの使用

テキスト中にある任意の形状のボックスとラインをペーストすることでと、文字と同じようにテキストと一緒に配置できます。これは、テキストを再配置する時に特に便利です。アンカーアイテムがテキスト中の他の文字と同じように再配置されるためです。アイテムがアンカーされていない状態でテキストを再配置すると、アイテムは移動してしまい、テキストと重なる場合があります。

アンカーオブジェクト（ボックス、ライン、テーブル）は必要なだけネストでき、階層の制限はありません。

テキスト内のボックスおよびラインへのアンカーの付加

アンカーされたアイテムは、テキスト内に配置された文字のように動作します。アイテムをアンカーするには、下記の手順に従ってください。

1. **アイテム**ツールを選択してから、アンカーするアイテムを選択します。
2. **編集 > カット**、または**編集 > コピー**を選択します。
3. **テキストコンテンツ**ツールを選択してから、アイテムをアンカーする位置にテキスト挿入バーを配置します。
4. **編集 > ペースト**を選択して、テキスト挿入ポイントにアイテムをアンカーします。

アンカーボックスおよびラインのカット、コピー、ペースト、および削除

アンカーアイテムをカットまたはコピーするには、任意の文字列と同様にアイテムを選択し、**編集 > カット**または**編集 > コピー**を選択します。アンカーアイテムを別の場所にペーストするには、別の場所にテキスト挿入バーを置き、**編集 > ペースト**を選択します。アンカーアイテムを削除するには、アイテムを選択するか、またはアイテムの後ろにテキスト挿入バーを置いて、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。

ボックスおよびラインのアンカー解除

アイテムのアンカーを解除するには、そのアイテムを**アイテム**ツールで選択し、**アイテム > 複製**を選択して、アイテムのアンカー解除後のコピーを作成します。複製されたアイテムは、**高性能連続複製**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の設定に応じてページに配置されます。その後、**テキストコンテンツ**ツールを持つアイテムを選択してDelete/Backspaceキーを押すと、テキストからアンカー付きアイテムを削除できます。

アンカーオブジェクトを、テキストボックスの境界外に保持する、またはアンカー付け対象のテキストボックスよりも幅広にするには、**コールアウト**機能を使用します。

OpenTypeフォントの使用

OpenTypeとは、AdobeとMicrosoftによって開発されたクロスプラットフォームフォントフォーマットであり、大規模な文字セットと字形が含まれ、通常の場合、分数、任意の合字、旧スタイルの数字などが含まれます。テキストにOpenTypeフォントが適用されているとき、**スタイル > 文字**メニューから**文字属性**ダイアログボックスを開く（**Windowsのみ**）か、**メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブから、そのフォントに組み込まれている任意のスタイルオプションにアクセスできます。

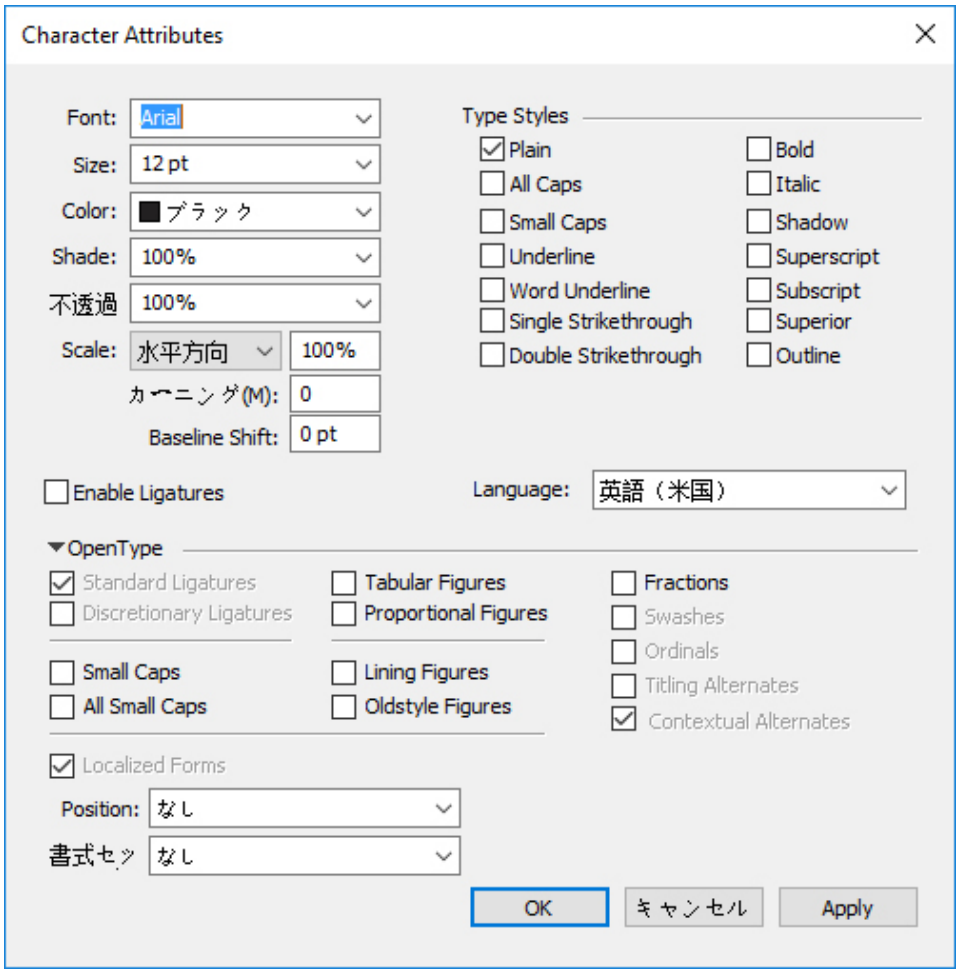
- 文字と字形との違いを理解すると、OpenTypeスタイルの働きが分かりやすくなります。文字とは、書き言葉の要素であり、大文字、小文字、数字、および約物はすべて文字です。字形とは、実際には文字を表す画像であり、他の形状を取る場合があります。たとえば、標準の数字1は文字ですが、旧スタイルの数字1は字形です。別の例を挙げると、互いに隣り合う"f"と"i"とは文字ですが、"fi"合字は字形です。

- 文字と字形との間には、常に一対一の関係があるわけではありません。ある場合では、3文字（1と斜線と4）が単一の分数字形を構成します。また、1文字が3つの字形（3つの異なるアンパサンド記号など）で表されることがあります。使用されている**字形**に関わらず、フォーマットと編集用に個別の**文字**を選択できます。

OpenTypeスタイルの適用

文字にOpenType「スタイル」を適用すると、異体字（別の特殊なデザインの字形）を現在のフォントで表示できるようになります。たとえば、**分数**を適用すれば、既存の文字のサイズや位置を変更して手動で分数を構成せずに分数固有の字形を使用できます。同様に、**標準の合字**を適用すると、フォントで使用可能な合字に応じた文字を使用できます。詳細は、「*合字の使用*」を参照してください。さまざまなスタイルを組み合わせて適用できますが、**上付き字形**と**下付き字形**などは相互に排他的です。

OpenTypeスタイルを適用するには、**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字設定**）（Windowsのみ）または**メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブを使用します。文字と段落のスタイルシートを設定するには**文字属性の編集**ペイン（**編集 > スタイルシート**）を使用します。**OpenType**の横にある矢印をクリックしてスタイルを表示し、チェックボックスを使用してスタイルを適用します。チェックボックスが使用できなかったりドロップダウンメニューオプションがブラケットで囲まれている場合は、現在のフォントでサポートされていないOpenTypeスタイルであることを示しています。


Character Attributes
Font: Arial
Size: 12 pt
Color: ブラック
Shade: 100%
不透過 100%
Scale: 水平方向 100%
カーニング(M): 0
Baseline Shift: 0 pt
Type Styles
Plain
All Caps
Small Caps
Underline
Word Underline
Single Strikethrough
Double Strikethrough
Bold
Italic
Shadow
Superscript
Subscript
Superior
Outline
Enable Ligatures
Language: 英語（米国）
OpenType
Standard Ligatures
Discretionary Ligatures
Small Caps
All Small Caps
Tabular Figures
Proportional Figures
Lining Figures
Oldstyle Figures
Fractions
Swashes
Ordinals
Titling Alternates
Contextual Alternates
Localized Forms
Position: なし
書式セッ なし
OK
キャンセル
Apply



文字属性ダイアログボックスで使用可能なOpenTypeスタイル

OpenTypeスタイルには、下記のスタイルがあります。

- **標準の合字**：読みやすさが向上する標準的な合字を適用します。
- **任意の合字**：特殊な合字を適用します。この機能では、特殊な効果を得る合字をユーザーが選択できます。
- **等幅数字**：数字に等幅を適用します。
- **プロポーショナル数字**：数字に不均等な幅を適用します。
- **スモールキャップス**：小文字のテキストに、通常より小さい大文字を適用します。
- **全てのスモールキャップス**：すべての大文字、タイトル文字、および小文字テキストに、通常より小さい大文字を適用します。
- **ライニング数字**：すべてが大文字のテキストとよく調和する近代的な数字スタイルを適用します。
- **オールドスタイル数字**：テキストに組み込まれている番号に最適な数字スタイルを適用します。
- **イタリック**：イタリックの字形を適用します。
- **分数**：スラッシュで区切られた分数の字形を適用します。
- **スワッシュ**：装飾的な字形を適用します。
- **序数**：序数の字形を適用します。

- **タイトル用字形**：通常より大きなポイントサイズで大文字のタイトル用字形を適用します。
- **前後関係に依存する字形**：テキストの前後関係に基づいてさまざまな代替字形を適用します。
- **ローカライズドフォーム**：字形のデフォルトフォームをローカライズドフォームに置き換えます。この機能は、ベーステキストのテキスト言語に依存します。
- **縦書き用/横書き用仮名の使用**：組み方（縦組み／横組み）に応じた特殊な横書き用仮名または縦書き用仮名のフォームを適用します。
- **設定位置**：選択したテキストに上付き字形、下付き字形、科学用下付き字形、分子および分母の字形を適用します。
- **代替メトリクス**：組み方（縦組み／横組み）に基づいた高さの代替幅を適用します。

代替垂直半角メトリクス：字形を個々のプロポーショナルの高さに合わせます。

代替垂直メトリクス：全角の高さの中間にくるように字形を配置します。

プロポーショナル代替メトリクス：字形を個々のプロポーショナルの幅に合わせます。

全角幅：全角幅以外の字形を全角幅に置換します。

半角幅：全角幅の字形を半角幅に置換します。

3分の1幅：3分の1幅以外の字形を3分の1幅に置換します。

4分の1幅：4分の1幅以外の字形を4分の1幅に置換します。

プロポーショナル代替幅：字形を個々のプロポーショナルの幅に合わせます。

- **代替字体**：JIS2004字体、JIS78字体、JIS90字体、簡体字体、旧字体などの代替字体のフォームを適用します。これらの字体は、いくつかの日本語のOpenTypeフォント用に特別に考案されたものです。

合字の使用

合字を使用するには、レガシー方法とOpenType方法の2つの方法があります。レガシー方法では、PostScriptフォントに含まれるfiやflなどの標準の合字がサポートされます。OpenType方法では、標準の合字とOpenTypeフォントに含まれる任意の合字の両方にアクセスできます。いずれの方法も文字属性として適用されるため、任意のテキストに適用することができます。

- 選択したテキストにレガシー方法で合字を適用するには、**ウィンドウ**メニューから**メジャー**パレットを開き、**文字／文字属性**タブにある**合字を使用**をオンにするか、**スタイル > 文字**メニューで**文字属性**ダイアログボックスを開き、**合字**をオンにします（**Windowsのみ**）。
- 選択したテキストにOpenType方法で合字を適用するには、OpenTypeが使用されているテキストを選択し、**ウィンドウ**メニューから**メジャー**パレットを開き、**ホーム**の**OpenType**メニューまたは**文字／文字属性**タブで**標準の合字**を選択します。これにより、フォントに組み込まれているfi、fl、ff、ffi、ffl、fj、ffj、およびthなどの合字が適用されます。さらに、**任意の合字**を選択することで、ct、sp、st、fhなどのまれな合字を適用できます。いずれかの合字オプションが括弧内に表示されて

いる場合、使用中のOpenTypeフォントではその合字機能はサポートされていません。Windowsでは、**文字属性**ダイアログボックスの**OpenType**領域にある**標準の合字**および**任意の合字**もオンにできます。

合字環境設定

合字の環境は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 文字設定**）の**文字設定**ペインで設定できます。

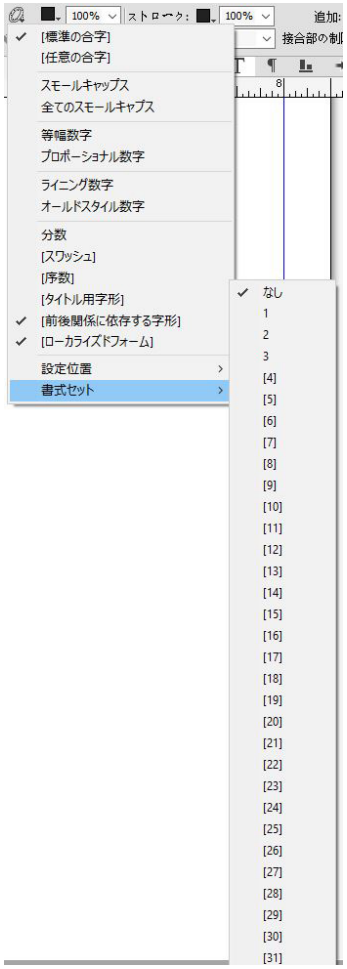
- **カーニング(>)で分割**：このフィールドの値は、それより大きくなると合字が分割されるトラッキングまたはカーニングの値を指定します。デフォルト値は1で、テキスト+1のトラッキング値に設定すると（emスペースは1/200）、合字は標準文字に戻ります。
- **「ffi」または「ffl」は使用しない**：現在のフォントにffiおよびffl合字が存在しない場合に、「office」や「waffle」などの単語でfiおよびflの合字を行わないようにするには、このボックスをオンにします。

OpenType書式セットの使用

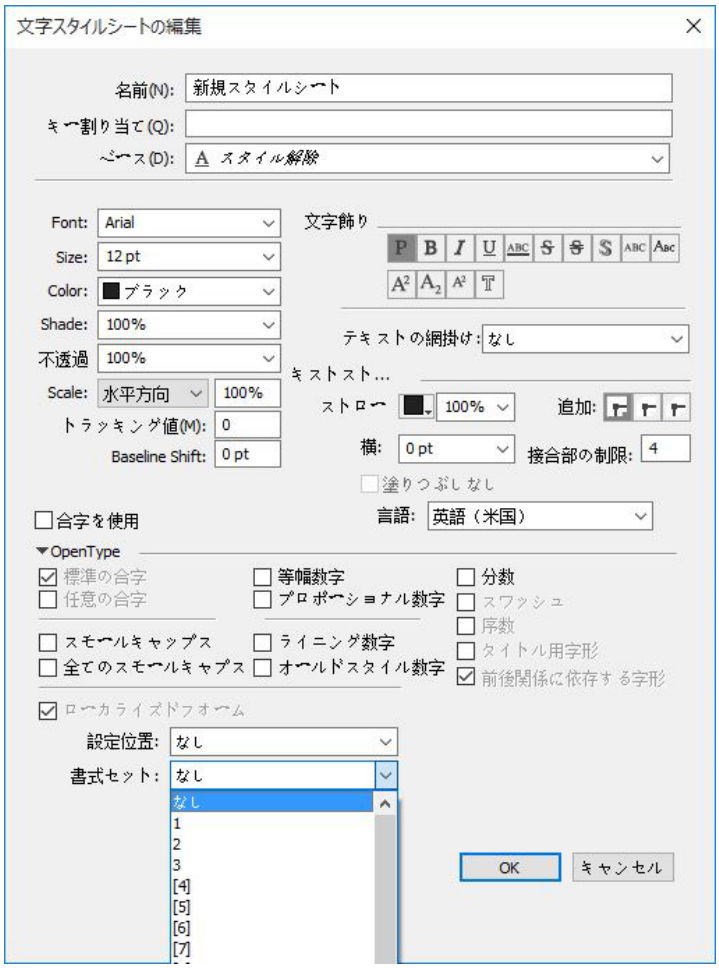
多くの代替文字を持つ一部のOpenTypeフォントでは、それらの代替文字が書式セットとして編成されています。これによって、それぞれの代替文字を個別に選択し、どの組み合わせが最も見た目が良いかを探すという、時間を浪費する作業が不要になります。

OpenType書式セットにより、関連する代替文字のグループを、即座にテキストへ適用できます。**メジャー**パレットを使用して、利用可能な書式セットのいずれかを選択すると、選択されているテキスト全体へ同時に適用されます。QuarkXPressでは、33のOpenType書式セットがサポートされています。

選択したテキストへ書式セットを適用するには、**メジャー**パレットでOpenTypeフォントアイコンをクリックし、ドロップダウンメニューの**書式セット**を選択します。



新しいスタイルシートを追加するとき、または既存のスタイルシートを編集するときに、スタイルシートへ書式セットを適用することもできます。**新規スタイルシートの文字属性**ダイアログで、**OpenType > 書式セット**ドロップダウンメニューを選択します。



字形パレットを使用すると、各フォントに対して使用可能な書式セットを参照できます。それぞれの書式セットについて、グループ化されている代替文字が表示されます。



書式セットがテキストへ適用された後で、**検索／置換**パレットを使用して、適用されている書式セットに基づいてテキストを検索でき、適用されている書式セットを変更することもできます。

字形パレットの使用

字形とは、フォントの最小単位です。たとえば、各大文字はそれぞれの字形から構成されます。フォントにあるすべての字形（特にOpenTypeフォントは数万個の字形から構成されます）にアクセスするには、完全な文字マップを表示する必要があります。このような文字マップには、**字形**パレット（**ウィンドウ**メニュー）からアクセスします。ここから、選択したフォントの全字形、ボールドとイタリック字形を表示したり、字形をダブルクリックしてテキストに挿入したり、簡単にアクセスできるようにお気に入り字形を保存したりできます。



字形パレットを使用することで、大規模な文字セット、およびプロフェッショナル品質フォントを操作することが容易になります。

フォントにある字形を表示するには、**字形**パレット（**ウィンドウ**メニュー）を表示して、左上にある**フォント**メニューからフォントを選択します。**字形**パレットで利用できるオプションを以下に挙げます。

- **ボールド**および**イタリック**ボタンを使用して、字形のボールド版、およびイタリック版を表示できます。フォントのボールド、イタリック、またはボールドイタリックインスタンスがシステム上でアクティブではない場合に、**メジャー**パレットを使用して**ボールド**および**イタリック**文字飾りを適用すると、その字形のボールド、イタリック、またはボールドイタリックがシミュレートされます。
- フォントの字形のサブセットを表示するには、**表示**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

- ある字形に対応するあらゆる代替字形を表示するには、個別の字形セルの右下コーナーにあるボックスをクリックします。
- 必要に応じて、パレット上の**ズーム**ツールをクリックして、字形を拡大します。
- HTMLオーサリングを行うときなど、字形のUnicodeコードポイントが必要な場合は、パレットの下部でUnicodeコードを確認できます。
- テキストの挿入ポイントに字形を挿入するには、**字形**パレットにある字形をダブルクリックします。
- フォントにある特定の字形を頻繁に使用する場合、該当する字形をお気に入りとして保存することで、素早くアクセスできます。お気に入りリストを作成するには、**字形**パレット（**ウィンドウ**メニュー）内、**好みのグリフ**の隣にある展開ボタンをクリックします。次に、**好みのグリフ**領域にある空のセルに字形をドラッグします。お気に入りを削除するには、字形の上でControlキーを押しながらクリック／右クリックして、コンテキストメニューを使用します。選択した字形のUnicode値は、右下隅に表示されます（**好みのグリフ**ペインの上）。

特殊キャラクタの表示

特殊キャラクタオプション（**表示**メニュー）を使用すると、スペース、タブ、段落改行文字などの一般的な「非表示文字」を確認できるため、テキストの編集時や印刷状態の微調整時に便利です。

特殊文字の挿入

組版やフォーマット設定を目的とするさまざまな特殊文字があります。キーボードのコマンドを使ってこれらの特殊文字を入力できます。また、**補助 > 文字を挿入**サブメニューから選択することもできます。非表示文字を表示するよう設定している場合（**表示 > 特殊キャラクタ**）、各文字の表示が異なります。

スペースの挿入

全角スペースなど特定のスペースをテキスト挿入ポイントに挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 全角スペース**または**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字（改行なし）> 全角スペース**を選択します。**改行なしスペース**サブメニューのオプションは、2つの語句または数字を「連結」する役割を果たします。たとえば、行末で「連結」された2つの要素の間で改行が行われないようにします。

その他の特殊文字の挿入

全角ダッシュや現在のページ番号のプレースホルダ文字など、スペース以外の特殊文字をテキスト挿入ポイントへ挿入するには、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字**または**補助 > 文字を挿入 > 改行なし特殊文字**を選択します。

文字言語の指定

ハイフネーションとスペルチェックに使用する言語を指定するには、テキストに文字言語を適用します。これにより、同一段落に複数言語の単語を混ぜても、問題のあるハイフネーションの発生を防いで**スペルチェック**（**補助**メニュー）にある**チェックする単語**

を減らすことができます。文字に特定言語を適用することに加え、**なし**を適用することで、ハイフネーションやスペルチェックから単語を除外することもできます。

選択した文字に言語を適用するには、**文字属性**ダイアログボックス（**スタイル > 文字**）（**Windowsのみ**）、または**メジャー**パレットの**文字／文字属性**タブにある**言語**ドロップダウンメニューを使用します。

未定義キャラクタの代替の使用

未定義キャラクタの代替がオンである場合、現在のフォントで表示できない文字が使われると、システム上のアクティブなフォントを検索して、その文字を正しく表示できるフォントを見つけます。たとえば、テキスト挿入ポイントにHelveticaが適用されていて、漢字を含むテキストの取り込みやペーストを行うと、その文字にはヒラギノフォントが適用される場合があります。その文字を含むアクティブなフォントが見つからない場合、文字はボックスや記号として表示されます。

未定義キャラクタの代替は、アプリケーションの環境設定として実装されているため、プログラム内で機能をオン／オフを切り替えられます。この機能はデフォルトでオンになっていますが、オフにする必要がある場合は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**未定義キャラクタの代替**ペインにある**未定義キャラクタの代替**をオフにします。

未定義キャラクタの代替機能についての詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替*」を参照してください。

フォントマッピングルールの使用

プロジェクトを開くと、テキストに適用されているすべてのフォントがシステム上でアクティブであることが確認されます。アクティブではないフォントが見つかると、**不足フォント**という警告が表示されます。このときに、不足フォントをアクティブなフォントに置き換えられます。このような置き換えをグローバルな「フォントマッピングルール」として保存できます。これは、プロジェクトを開くたびに自動的に適用できます。

フォントマッピングルールを作成するには、最初に不足（アクティブではない）フォントを使用しているプロジェクトを開きます。**使用フォントリスト**をクリックして、**不足フォント**警告を表示します。**置換**ボタンを使用して不足しているフォントの代替フォントを選択してから、**ルールとして保存**をクリックします。一部の代替フォントのみが選択されている場合でも、**不足フォント**警告の一覧にあるすべての代替フォントがルールとして保存されます。代替フォントを変更する場合は、その行を選択してから**リセット**をクリックします。アーティクルを開いてから、**ファイル > 復帰**を選択することもできます。これにより、**不足フォント**警告が再度表示され、変更が行えるようになります（変更の適用先はそのアーティクルのみであり、保存したルールではありません）。

不足フォント警告にある**ルールとして保存**をクリックしてフォントマッピングルールを作成すると、ルールはアプリケーションの環境設定に保存され、すべてのアーティクルに適用されます。フォントマッピングルールの変更、削除、共有を行う場合は、**補助 > フォントマッピング**を選択します。

フォントペイン（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）を使用して、デフォルトの代替フォントを指定し、不足フォントのあるプロジェクトを開いたときに**不足フォント**警告を表

示するかどうかを制御できます。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - フォント*」を参照してください。

デザイングリッドの使用

デザイングリッド機能は、QuarkXPressおよびQuarkCopyDeskのバージョン7以前にあったベースライングリッド機能の拡張版です。デザイングリッドを使用することで、さらに容易にグリッドを定義することができるようになるため、ページレベルおよびテキストボックスレベルの両方で、テキストとオブジェクトを正確に揃えることができます。

デザイングリッドの環境設定に関する詳細は、「*環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド*」を参照してください。

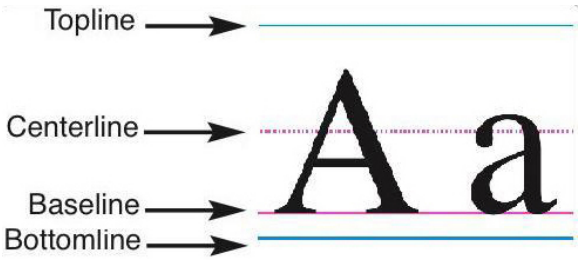
デザイングリッドに関連する環境設定についての詳細は、「*環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド*」および「*環境設定 - レイアウト - グリッドセルの塗りつぶし*」を参照してください。

デザイングリッドの理解

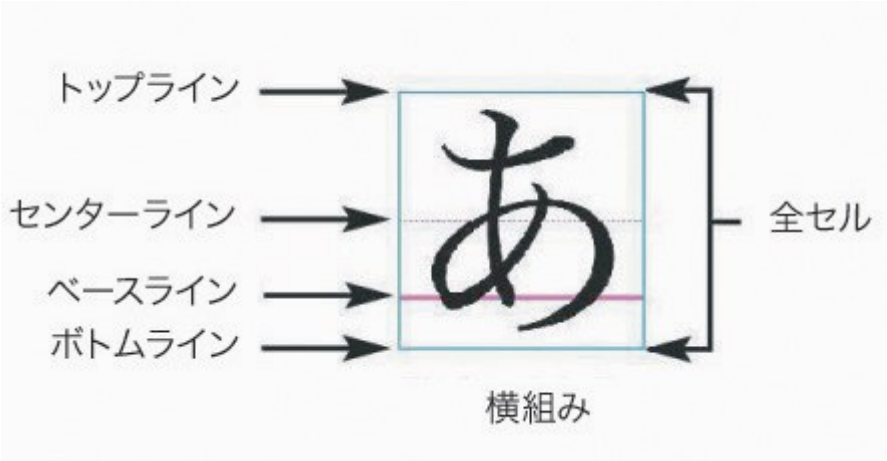
デザイングリッドとは、テキストとアイテムを揃えるための、一連の印刷されないガイドラインのことです。

グリッド線

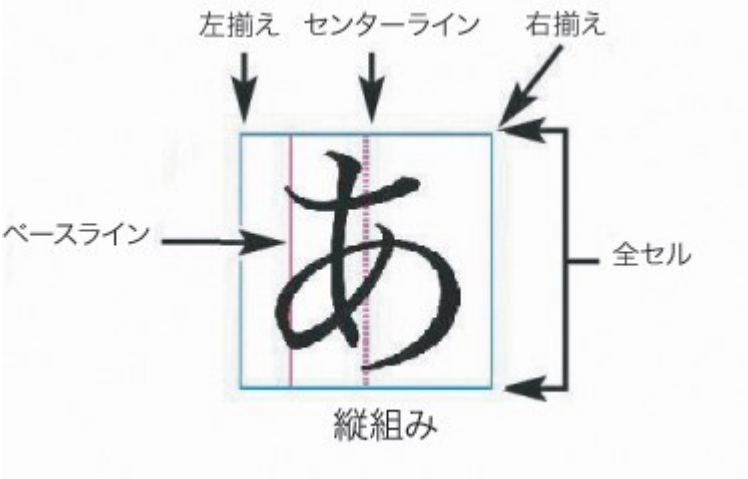
各デザイングリッドには、ボトムライン、ベースライン、センターライン、トップラインという4つの**グリッドライン**が含まれています。さらに、デザイングリッドには**セル全体のボックス**も含まれています。これは文字を垂直方向または水平方向に揃えやすくするためのものです。テキストとアイテムをこれらのグリッドラインのいずれかに合わせることもできます。



デザイングリッドのラインには、ボトムライン、ベースライン、センターライン、およびトップラインが含まれます。



横組みの場合、デザイングリッドのラインには、ボトムライン、ベースライン、センターライン、トップライン、およびセル全体のボックスが含まれます。

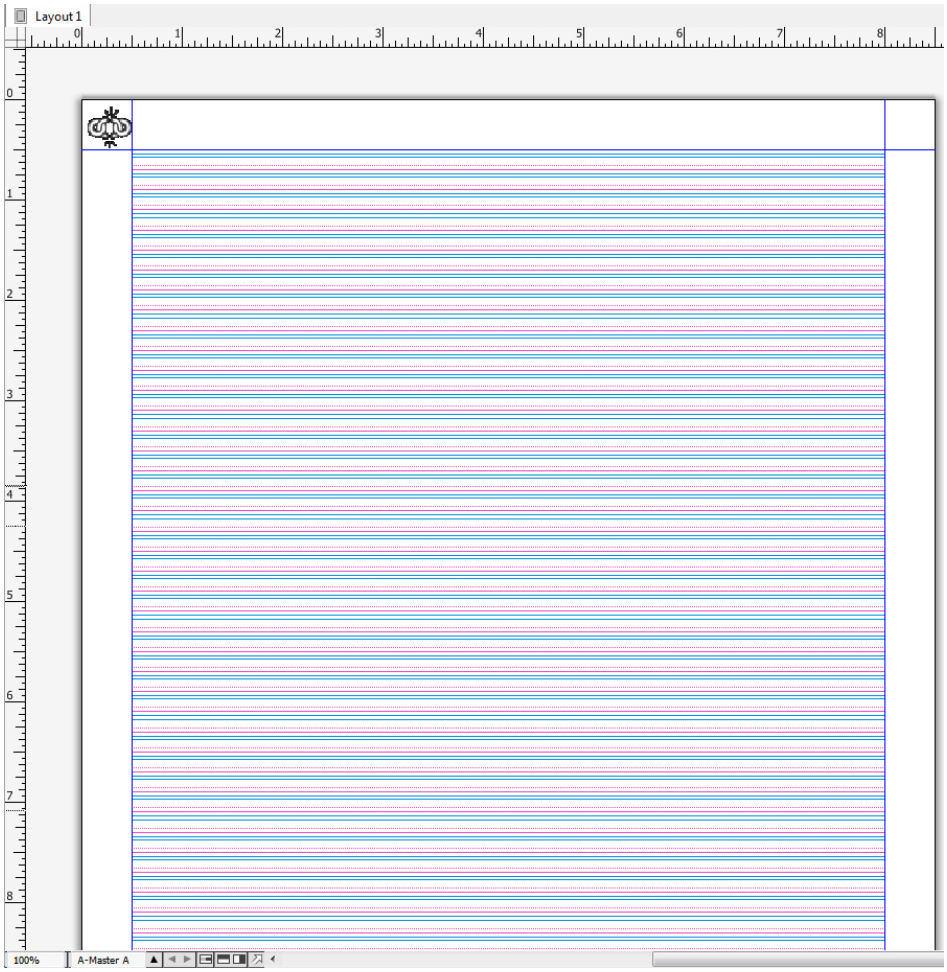


縦組みの場合、デザイングリッドのラインには、左ライン、ベースライン、右ライン、トップライン、およびセル全体のボックスが含まれます。

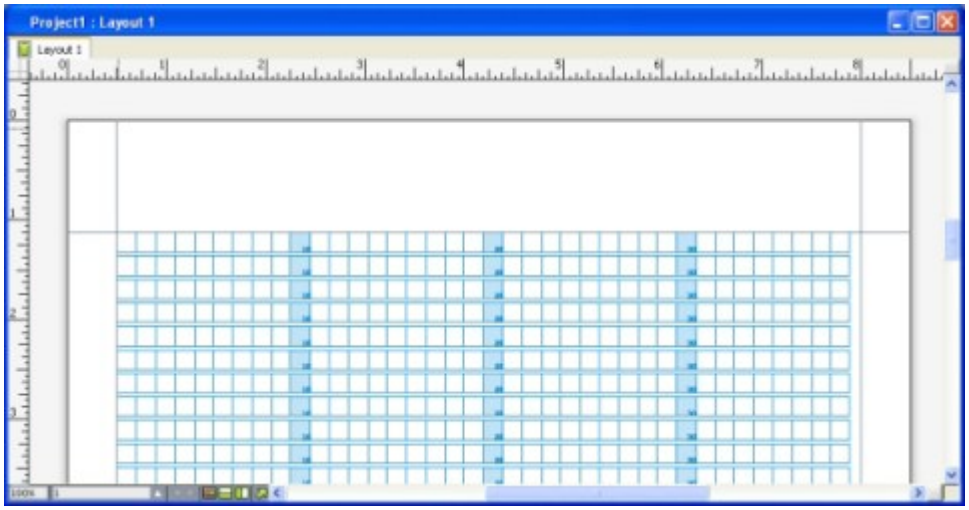
マスターページおよびテキストボックスのグリッド

デザイングリッドには、デフォルトで**マスターページグリッド**と**テキストボックスグリッド**という2種類があります。すべてのページおよびテキストボックスがデザイングリッドに関連付けられています。**表示 > ページグリッド**または**表示 > テキストボックスのグリッド**を選択して、デザイングリッドをレイアウト全体に対して表示または非表示にできます。

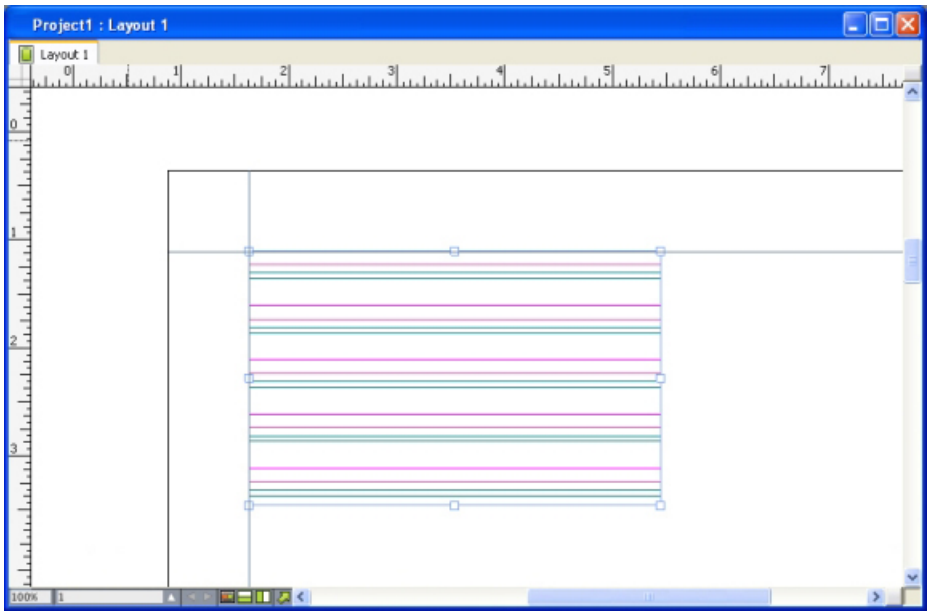
ページのマスターページを表示してから**ページ > マスターガイド&グリッド**を選択すると、ページのデザイングリッドを構成できます。テキストボックスのコンテキストメニューから**グリッド設定**を選択すると、テキストボックスのデザイングリッドを制御できます。



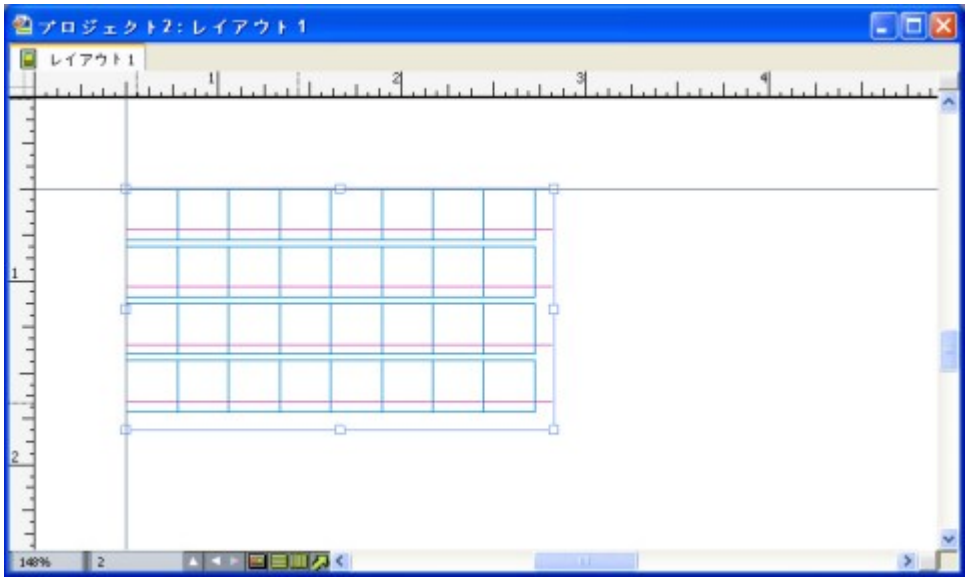
マスターページグリッドとすべてのグリッドラインのみが表示されたページ。



マスターページグリッドとセル全体のボックスのみが表示されたページ。



テキストボックスグリッドとすべてのグリッドラインのみが表示されたテキスト。



テキストボックスグリッドとベースラインおよびセル全体のボックスが表示されたテキストボックス。

詳細は、「*マスターページグリッドの使用*」を参照してください。

QuarkXPress 7.xおよびQuarkCopyDesk 7.x以前にあったベースライングリッド機能を使用するには、ベースラインを表示してから他のグリッドラインを隠します。

グリッドスタイル

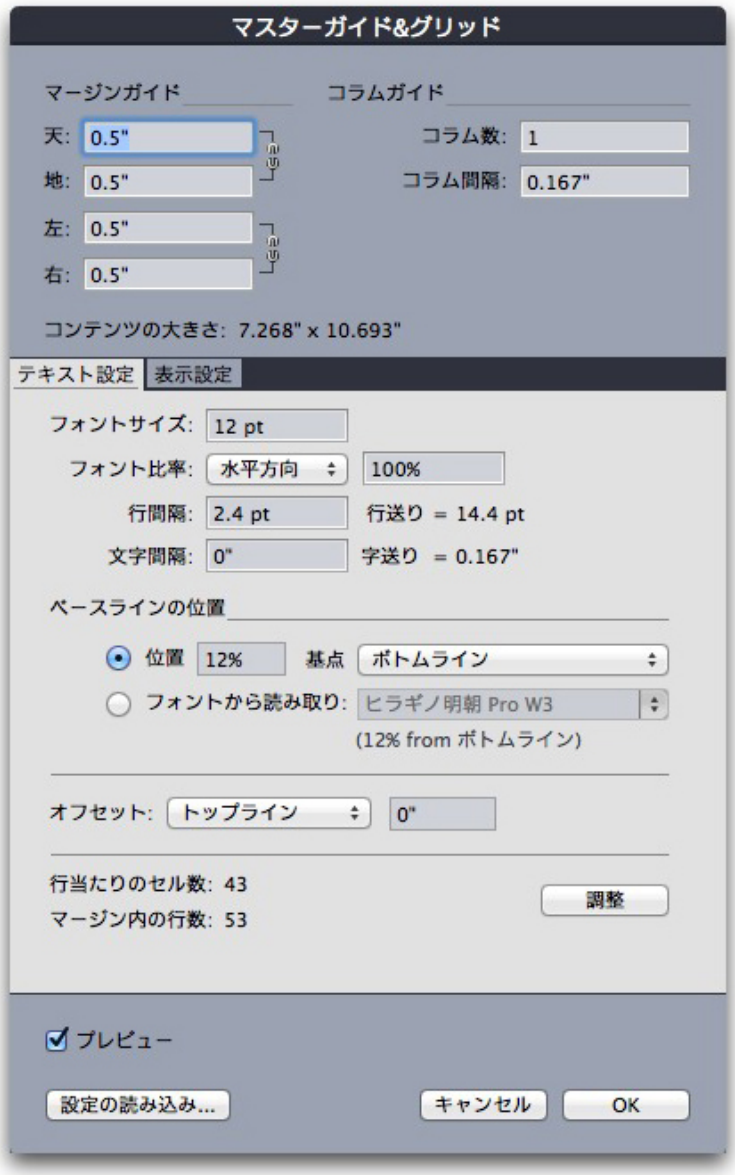
グリッドスタイルは、グリッドを説明するための設定の名前付きパッケージです。デザイングリッドのスタイルシートに該当します。グリッドスタイルをテキストボックスに適用すると、それらをマスターページグリッドの基礎として使用できます。また、グリッドスタイルを他のグリッドスタイルに基づいて使用することもできます。グリッドスタイルは**グリッドスタイル**パレット（**ウィンドウ**メニュー）に表示されます。詳細は、「*グリッドスタイルの使用*」を参照してください。

デザイングリッドの基本

下記のトピックでは、デザイングリッドの操作方法について説明します。グリッドスタイルについての詳細は、「*グリッドスタイルの使用*」を参照してください。

マスターページグリッドの設定

マスターページグリッドを設定するには、マスターページを表示して**ページ > マスターガイド&グリッド**を選択します。**マスターガイド&グリッド**ダイアログボックスが表示されます。



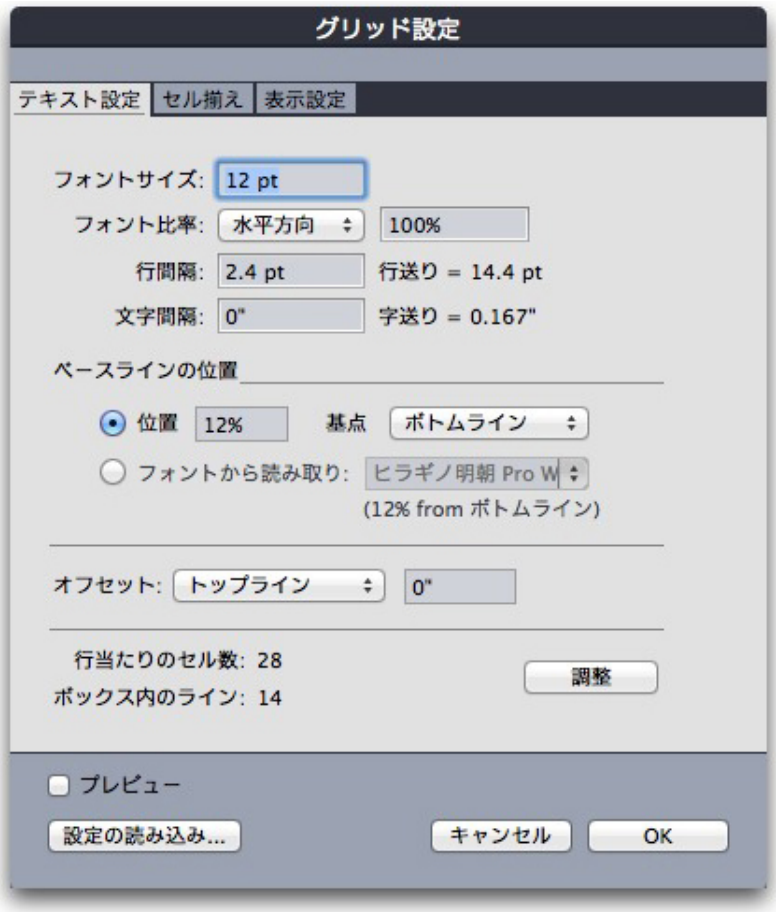
マスターガイド&グリッドダイアログボックスを使用してマスターページグリッドを制御します。

- **マージンガイド**の**上揃え**、**下揃え**、**左揃え**および**右揃え**フィールドを使用して、ページの上端、下端、左端および右端に対するマージンの位置を指定できます。**上揃え**と**下揃え**または**左揃え**と**右揃え**の各フィールドの値を同期するには、フィールドの横にあるチェーンアイコンをクリックします。

- **コラムガイド**の**列数**フィールドに値を入力し、マスターページの列数を指定します。**コラム間隔**フィールドに値を入力してコラム間隔を定義します。
- **コンテンツの大きさ**フィールドには、マージンガイド内の領域が表示されます。
- グリッドの位置と間隔を制御するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。
- グリッドの表示を制御するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。
- 行った変更をプレビューするには、**プレビュー**をオンにします。
- 既存のマスターページグリッド、グリッドスタイルまたはスタイルシートの仕様を使用するには、**設定の読み込み**をクリックします。詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。

テキストボックスグリッドの設定

テキストボックスグリッドを設定するには、そのテキストボックスをControlキーを押しながらクリックするか、または右クリックして**グリッド設定**を選択します。**グリッド設定**ダイアログボックスが表示されます。



グリッド設定ダイアログボックス

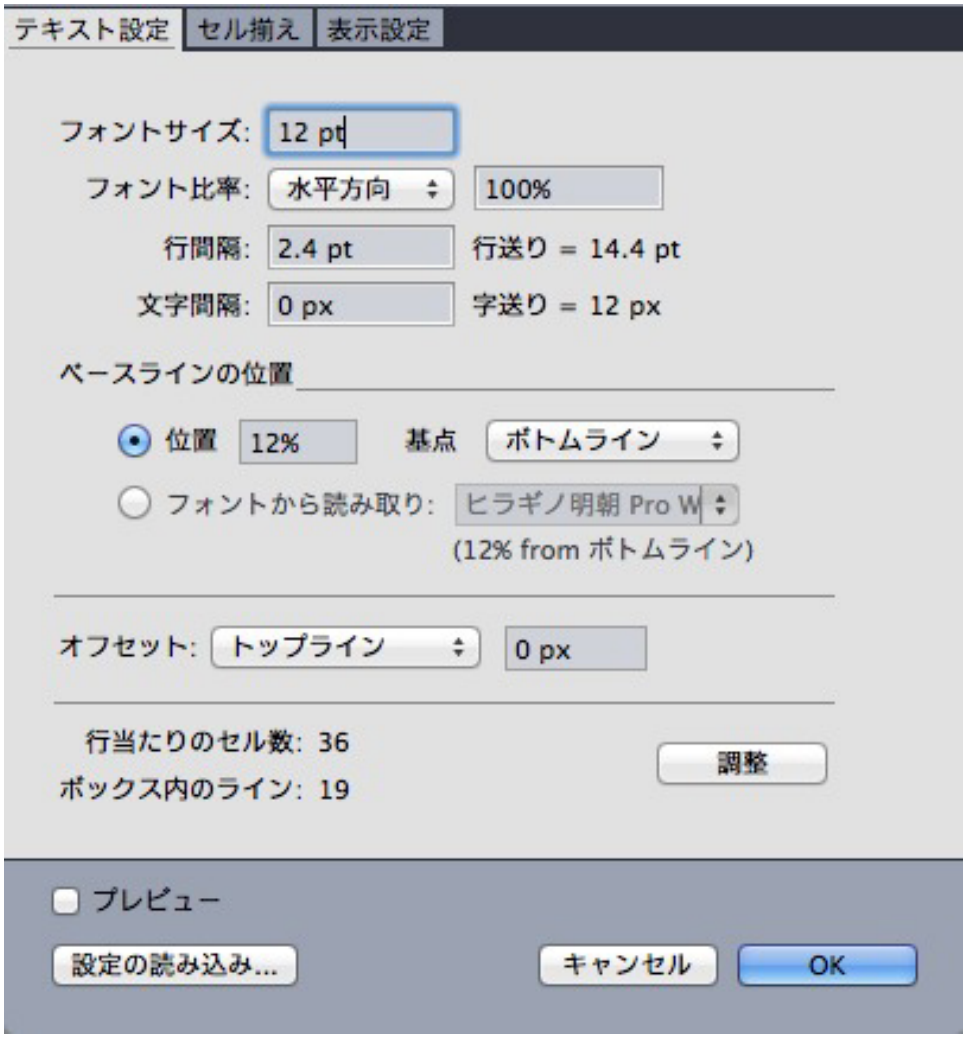
- グリッドの位置と間隔を制御するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。

- セルの行揃えを制御するには、**セル揃え**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：セル揃えタブ*」を参照してください。
- 表示するグリッドラインを指定するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：表示設定タブ*」を参照してください。
- 行った変更をプレビューするには、**プレビュー**をオンにします。
- 既存のマスターページグリッド、グリッドスタイルまたはスタイルシートの仕様を使用するには、**設定の読み込み**をクリックします。詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。

デザイングリッド：テキスト設定タブ

デザイングリッドのサイズ、縮小率、および位置を決定するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。**テキスト設定**タブは、**マスターガイド＆グリッド**、**グリッドスタイルの編集**、および**グリッド設定**ダイアログボックスに表示されます。

➡ **プレビュー**チェックボックスをオンにすると、デザイングリッドに加えた変更結果を表示できます。



グリッド設定ダイアログボックスの**テキスト設定**タブ

- **フォントサイズ**：サイズを入力して、デザイングリッド内の各行の高さを決定します。またこの値により、セル全体の高さと幅も決まります。
- **縦比率**：フォントサイズに基づいて、デザイングリッド内の各行の高さを調節するパーセント値を入力します。
- **フォント比率**：**水平方向**または**垂直方向**を選択し、フィールドにフォントサイズの割合を入力します。**水平方向**を選択した場合、この値によりセル全体の幅が決まります。**垂直方向**を選択した場合、この値によりセル全体の高さが決まります。
- **行間隔**および**行送り**：**行間隔**および**行送り**の値により、グリッドの間隔が決まります。行間隔は次の公式に基づいています。**フォントサイズ**×**縦比率**＋**行間隔**＝**行送り**。たとえば、**フォントサイズ**が12pt、**縦比率**が100%、**行間隔**が2ptの場合、**行送り**は14ptになります。
- **行間隔**および**行送り**：**行間隔**および**行送り**の値により、グリッドおよびセルの間隔が決まります。行間隔は次の公式に基づいています。**フォントサイズ**×**垂直方向**または**水平方向**のフォント縮小率＋**行間隔**＝**行送り**。たとえば、**フォントサイズ**が12pt、**縦比率**が100%、**行間隔**が2ptの場合、**行送り**は14ptになります。
- デザイングリッドが段落スタイルシートを基にしている場合、**行送り**の値はそのスタイルシートで定義されます。**行送り**の値は指定した数値になります。または値が**自動**の場合は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**段落**タブにある**行送りの自動設定**の値から取得されます。スタイルシートとグリッドスタイルの関連付けについての詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。
- **文字間隔**および**字送り**：**文字間隔**および**字送り**の値により、段組みが水平方向の場合の**塗りつぶしセル**の間隔と、段組みが垂直方向の場合の**塗りつぶしセル**の間隔が決まります。
- **ベースラインの位置**：デザイングリッドでベースラインの位置を指定するには、この領域で位置を選択します。

オフセットの基点を指定するには、**位置**をクリックして**次の中から選択**ドロップダウメニューで**トップライン**、**センターラインの上**、**センターラインの下**、または**ボトムライン**を選択してからフィールドにパーセント値を入力し、トップライン、センターライン、またはボトムラインに対するベースラインの相対的な位置を指定します。

オフセットの基点をフォントから読み取るには、**フォントから読み取り**をクリックして、ドロップダウンメニューからフォントを選択します。選択したフォントに対して定義したベースラインにより、グリッド内の各行のベースラインの位置が決まります。フォントリストの下に表示されるパーセント値は、フォントのデザインでのベースラインとボトムラインの関係を示しています。

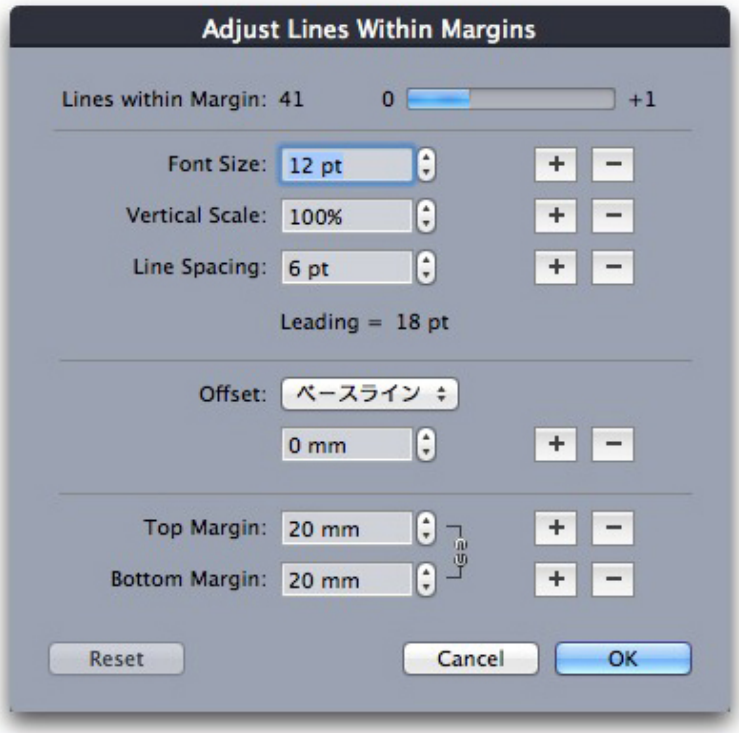
- **オフセット**：ページまたはボックスでデザイングリッドの第1行の位置を制御するには、**トップライン**、**センターライン**、**ベースライン**、または**ボトムライン**を選択し、フィールドに単位の値を入力します。
- **調整**：クリックするとマスターページグリッドの**マージン内の行数を調整**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*マージン内の行数を調整ダイアログボックス*」を参照してください。
- **調整**：クリックすると、マスターページグリッドの場合は**マージン内の行数を調整**ダイアログボックス、テキストボックスグリッドの場合は**ボックス内でのラインの**

調整ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「*マージン内の行数を調整ダイアログボックス*」を参照してください。

- **マージン内の行数**または**ボックス内の行数**：このフィールドには、上の設定に基づいたページまたはボックスに収まる行数が表示されます。
- **行当たりのセル数**：このフィールドには、上の設定に基づいた行に収まるセル数が表示されます。

マージン内の行数を調整ダイアログボックス

マージン内の行数を調整ダイアログボックス（**マスターガイド&グリッド > 調整**）を使用して、マスターページのマージン内に収まるグリッドライン数を変更します。 **マージン内の行数を調整**ダイアログボックス（**マスターガイド&グリッド > 調整**）を使用して、マスターページのマージン内に収まる1行当たりのセル数およびグリッドライン数を変更します。このダイアログボックスにあるコントロールの多くは、**テキスト設定**タブにも存在し、変更は両方の場所で反映されます。



マージン内の行数を調整ダイアログボックスを使用して、マスターページのグリッド設定を調整します。

- **ページ当たりの行数**フィールドにページの行数が表示されます。この値は、変更の都度更新されます。
- ページの行数を1行ずつ増減するには、フィールドの横にある**+**または**–**をクリックします。たとえば、**ページ当たりの行数**値が50、**フォントサイズ**値が12pt、垂直方向のフォント縮小率が100%で、**フォントサイズ**の横にある+をクリックした場合、**ページ当たりの行数**値は51に増加し、**フォントサイズ**値は11.765ptに縮小されます。
- **行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**フィールドに値を入力し、ページのセル数および行数を変更します。

- **マージンを調整**をクリックすると、**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**フィールドに対する変更が**コンテンツの高さ**および**コンテンツの幅**の値に反映されます。**間隔を調整**をクリックすると、**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**フィールドに対する変更が**行送り**および**字送り**の値に反映されます。

  - 増幅値バーは、グリッドパターンがページに収まらない割合を**0**～**+1**のパーセントで表示します。グリッドの増幅値がページと完全に一致すれば、この増幅値バーには0が表示されます。グリッドの増幅値がページと完全に一致しない場合、その割合が算出されて増幅値バーに表示されます。
  - **ページごとの文字数**フィールドには、現在の値に基づいてページに収まる文字数が表示されます。
  - **マージンを調整**をクリックすると、マージンガイドの位置に対する変更に基づいて**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**の値が調整されます。9つの正方形のうち1つをクリックして、変更を計算するときのベースになるマージンを固定します。外側の4つの正方形で、左上部、右上部、左下部、右下部のマージンを固定します。中間の正方形でマージンの固定と対応するマージンのリンクを行います。

- **コンテンツの高さ**および**コンテンツの幅**フィールドは、マージンの変更に応じて更新されます。

  - **間隔を調整**をクリックすると、**行間隔**および**文字間隔**フィールドに対する変更に基づいて**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**の値が調整されます。**行送り**および**字送り**の値は変更に応じて更新されます。
  - **その他の調整**を開き、**フォントサイズ**、**オフセット**および**文字の変形**のコントロールにアクセスします。これらの値を変更すると、**行当たりのセル数**および**ページ当たりの行数**の値が増減します。
  - **リセット**をクリックすると、すべてのフィールドの値がダイアログボックスを表示する前の状態に戻ります。

- このダイアログボックスを表示する前に**プレビュー**をオンにすると、行った変更の結果を参照できます。

デザイングリッド：表示設定タブ

デザイングリッドには、トップライン、センターライン、ベースライン、およびボトムラインを示す個々の線が含まれます。 デザイングリッドには、トップライン、センターライン、ベースライン、ボトムラインを示す個々の線、およびセル全体のボックスが含まれます。グリッドラインを表示または非表示にする、またはグリッドラインの色、幅、スタイルなどを指定するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。**表示設定**タブは、**マスターガイド＆グリッド**、**グリッドスタイルの編集**、および**グリッド設定**ダイアログボックスに表示されます。



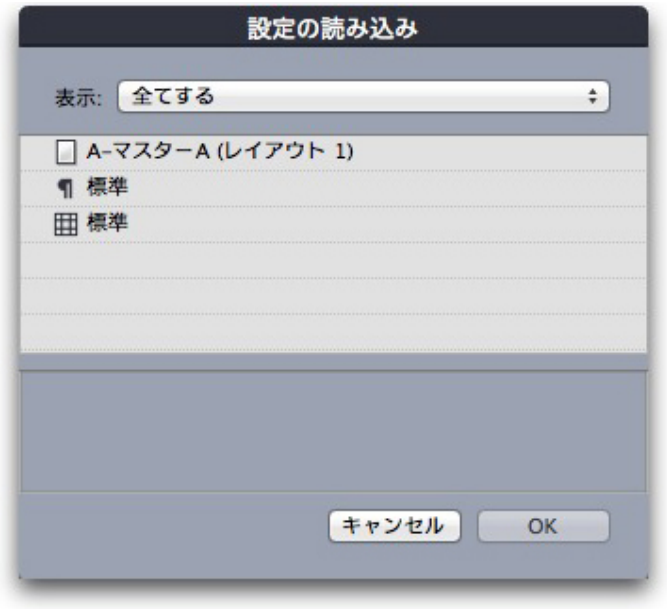
マスターガイド＆グリッドダイアログボックスの**表示設定**タブ

- **<グリッドラインの種類>を表示**チェックボックスをオンにすると、グリッドを表示したときに各種グリッドラインが表示されます。
- 各グリッドラインの色を指定するには、カラーボックスをクリックします。
- 幅ドロップダウンメニューから幅を選択します。
- スタイルドロップダウンメニューからスタイルを選択します。
- **形状**ドロップダウンメニューからセルの形状を選択します。
- **マスターガイド＆グリッド**ダイアログボックスのみ：マスターページグリッドの境界線を指定するには、**グリッドを表示**ドロップダウンメニューから**マージン内**、**ページ全体**、または**ペーストボード**を選択します。

グリッド設定の読み込み

マスターページグリッド、またはテキストボックスグリッドの基礎として、グリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページグリッドを使用するには、下記の手順に従ってください。

1 **マスターガイド&グリッド**、**グリッド設定**、または**グリッドスタイルの編集**ダイアログボックスの**設定の読み込み**をクリックします。**設定の読み込み**ダイアログボックスが表示されます。

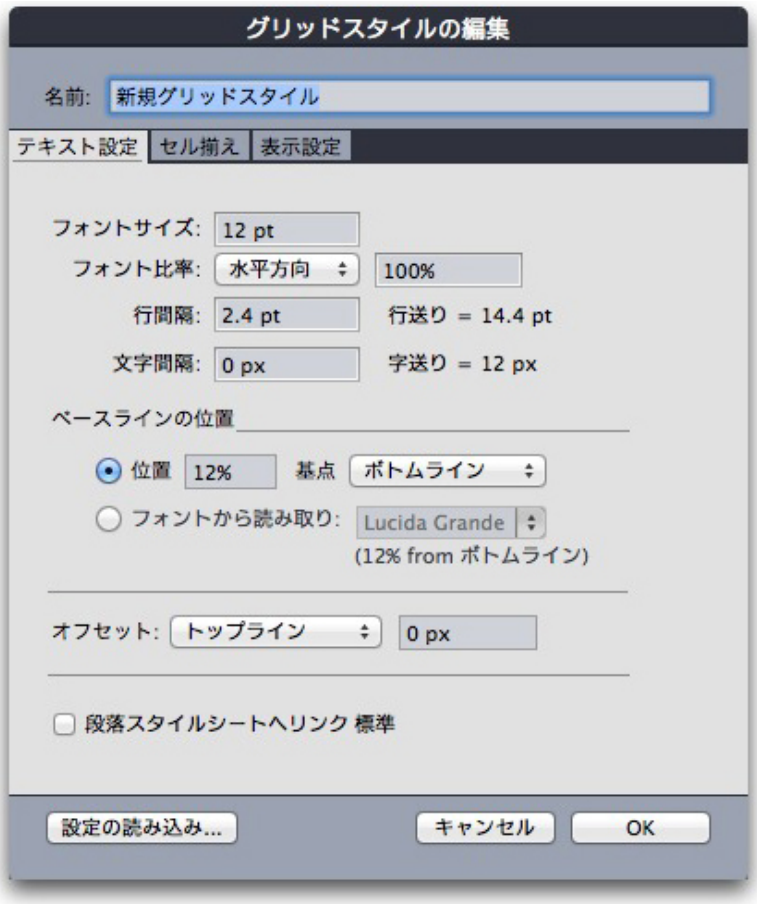


設定の読み込みダイアログボックスで、グリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページを選択します。

2 **表示**ドロップダウンメニューで、**全ての**、**グリッドスタイル**、**マスターページ**、または**段落スタイルシート**を選択します。

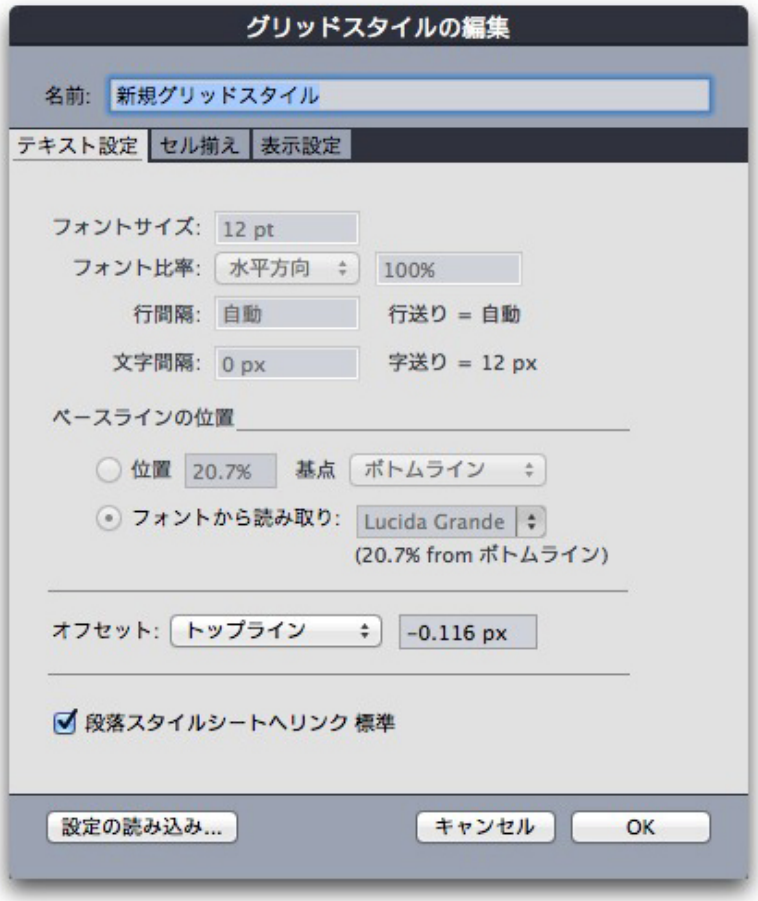
3 リストから既存のグリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページを選択し、**OK**をクリックします。

➡ 読み込んだグリッドスタイル、スタイルシート、またはマスターページの仕様が、**マスターガイド&グリッド**、**グリッド設定**、または**グリッドスタイルの編集**に表示されます。読み込み後にこれらのグリッド設定を変更できます。



「本文」スタイルシートが読み込まれたグリッドスタイル

グリッドスタイルのスタイルシートを読み込む場合、スタイルシートに変更を行うとグリッドスタイルも自動的に更新されるようにすることができます。これには、**段落スタイルシートへリンク <スタイルシート名>**チェックボックスをオンにします。フォントと間隔のコントロールが利用できなくなります。



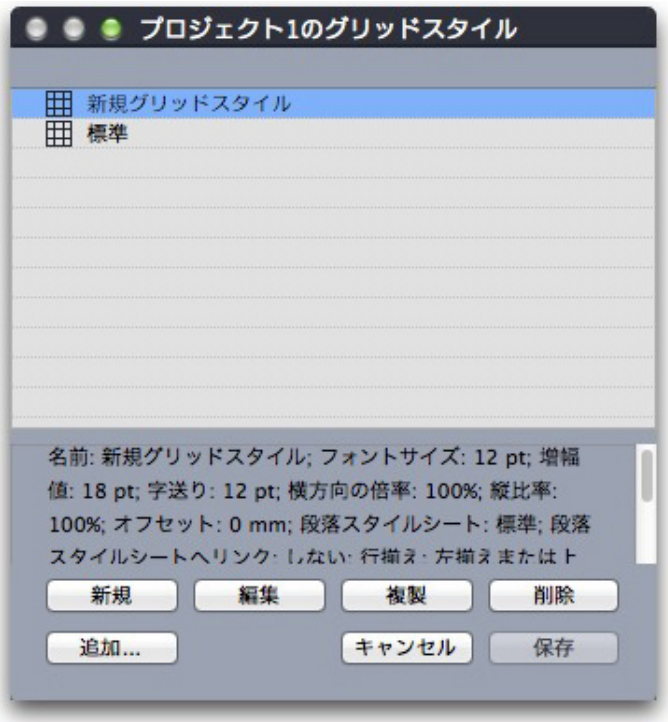
「本文」スタイルシートが読み込まれ、リンクされたグリッドスタイル

グリッドスタイルの使用

グリッドスタイルには、テキストボックスに適用したり、マスターページグリッドやその他のグリッドスタイルの基礎として使用できるグリッド属性が含まれます。

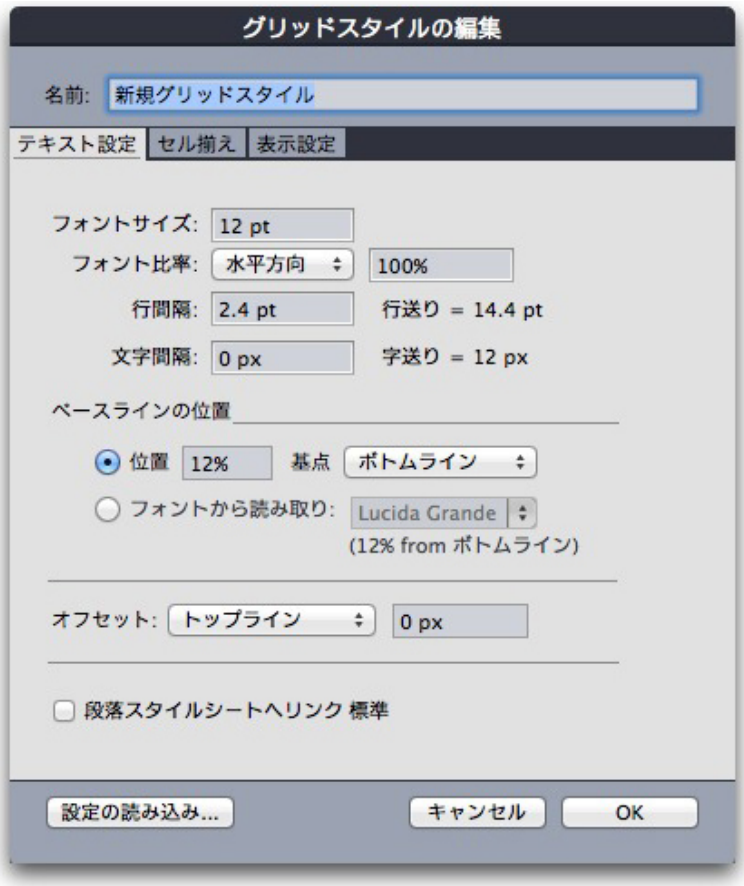
グリッドスタイルの作成

グリッドスタイルの作成、編集、複製、または削除を行うには、**グリッドスタイル**ダイアログボックス（**編集 > グリッドスタイル**）を使用します。



グリッドスタイルを作成、編集、または削除するには、**グリッドスタイル**ダイアログボックスを使用します。

グリッドスタイルダイアログボックスで**新規**、**編集**、または**複製**をクリックすると、**グリッドスタイルの編集**ダイアログボックスが表示されます。



グリッドスタイルの編集ダイアログボックス

- グリッドスタイルの名前を指定するには、**名前**フィールドに値を入力します。
- グリッドの位置と間隔を制御するには、**テキスト設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：テキスト設定タブ*」を参照してください。
- グリッドに対するセル全体の揃えを制御するには、**セル揃え**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：セル揃えタブ*」を参照してください。
- 表示するグリッドラインを指定するには、**表示設定**タブのコントロールを使用します。詳細は、「*デザイングリッド：表示設定タブ*」を参照してください。
- 既存のマスターページグリッド、グリッドスタイルまたはスタイルシートの仕様を使用するには、**設定の読み込み**をクリックします。詳細は、「*グリッド設定の読み込み*」を参照してください。

➡ プロジェクトが開かれていない状態でグリッドスタイルを作成すると、そのグリッドスタイルがデフォルトのグリッドスタイルリストの一部となり、以降作成されるすべてのプロジェクトに含まれます。

テキストボックスへのグリッドスタイルの適用

選択したテキストボックスにグリッドスタイルを適用するには、下記の手順に従ってください。

1 テキストボックスグリッドを表示するには、**表示 > テキストボックスのグリッド**をオンにします。

2 **グリッドスタイル**パレットを表示するには、**ウィンドウ > グリッドスタイル**をオンにします。



グリッドスタイルパレットを使用して、テキストボックスにグリッドスタイルを適用します。

3 **グリッドスタイル**パレットでグリッドスタイル名をクリックします。

グリッドスタイルパレットにあるグリッドスタイル名の隣のプラス記号は、テキストボックスにグリッドスタイルが適用された後にテキストボックスグリッドが変更されたことを示します。グリッドスタイルを再度適用して、ローカルなテキストボックスグリッドフォーマットを上書きするには、**スタイル解除**をクリックして、グリッドスタイル名をクリック（または、Option／Altキーを押しながら変更されたグリッドスタイル名をクリック）します。

デザイングリッドの使用

テキストボックスにデザイングリッドを適用したり、マスターページグリッドを構成すると、行揃えにグリッドを使用できるようになります。デザイングリッドにアイテムを視覚的に揃えることも、**表示 > ページグリッドへの吸着**を選択して、マスターページグリッドにアイテムを強制的に揃えることもできます。

マスターページグリッドの使用

レイアウトページのマスターページグリッドを指定するには、プロジェクトページにマスターページを適用します。

グリッドへのテキストの固定

スタイルシート、またはローカル段落フォーマットを使用することで、マスターページグリッドやテキストボックスグリッドにテキストを固定できます。グリッドにテキストを固定するには、下記の手順に従ってください。

1 スタイルシートのテキスト固定を設定するには、**編集 > スタイルシート**を選択して段落スタイルシートを選択し、**編集**をクリックしてから、**フォーマット**タブをクリックしま

す。段落のテキスト固定を設定するには、段落を選択してから**スタイル > フォーマット**を選択 （**Windowsのみ**）するか、**メジャー**パレットの**段落／段落設定**タブを使用します。



メジャーパレットの**段落設定**タブ

2 **フォーマット**タブで、**グリッド固定**チェックボックスをオンにします。

3 テキストの固定先とするグリッドを指定するには、**グリッド固定**の下にある最初のドロップダウンメニューで**ページグリッド**、または**テキストボックスグリッド**を選択します。

4 テキストの固定先とするグリッドラインを指定するには、**グリッド固定**の下にある2番目のドロップダウンメニューで**トップライン**、**センターライン**、**ベースライン**、または**ボトムライン**を選択します。

デザイングリッドへのアイテムの吸着

マスターページグリッドラインにアイテムを吸着させ、テキストボックスのサイズ変更時にテキストボックスのグリッドに吸着させることができます。

マスターページグリッドラインに吸着させるには、マスターページグリッドを表示（**表示 > ページグリッド**）し、**表示 > ページグリッドへの吸着**を選択します。

ページグリッドへの吸着（**表示**メニュー）が選択されている場合、**環境設定**ダイアログボックスにある**ガイドとグリッド**ペインの**ガイド吸着距離**フィールドで、デフォルトで6ピクセルであるページグリッドにアイテムが吸着される距離を変更できます。

テキストボックスのサイズ変更時にテキストボックスのグリッドに吸着させるには、テキストボックスのグリッドを表示して、ボックスをサイズ変更します。

揃え用グリッド

マスターページグリッドラインやガイドにテキストボックスグリッドラインを揃えるには、下記の手順に従ってください。 マスターページグリッドラインやガイドにテキストボックスグリッドラインやセルを揃えるには、下記の手順に従ってください。

1 **表示 > ガイド**、**表示 > ページグリッド**、および**表示 > テキストボックスグリッド**がオンであることを確認します。

2 **アイテム**ツール✣を選択します。

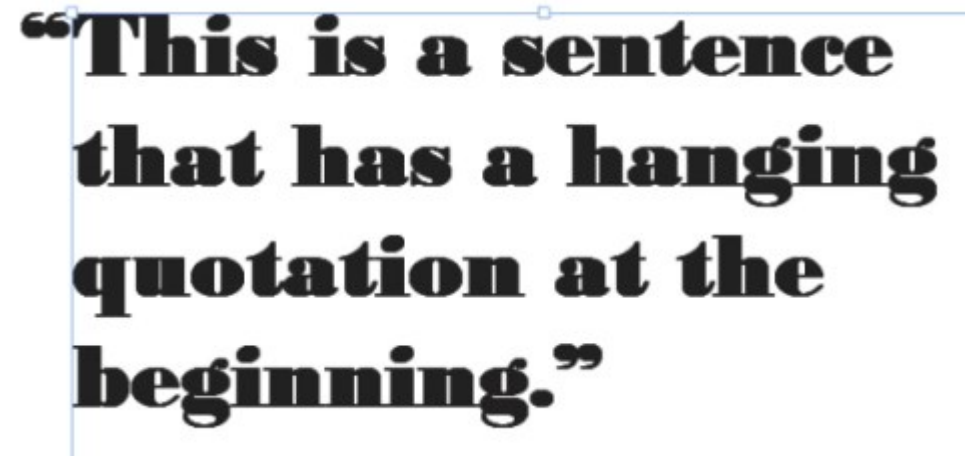
3 テキストボックスにあるグリッドラインをクリックしてから、ボックスをドラッグします。グリッドラインを移動するときにも、ボックスの元の位置が表示され続けます。ボックスにある他のグリッドライン、マスターページグリッドライン、またはガイドに、選択したグリッドラインを揃えられます（下記ライブドラッグに関する注を参照してください）。

4 テキストボックスにあるグリッドライン、またはセルをクリックしてから、ボックスをドラッグします。選択したグリッドラインやセルを移動すると画面に反映されますが、ボックスの元の位置は画面上に引き続き表示されます。ボックスにある他のグリッドラインやセル、マスターページグリッドライン、またはガイドに、選択したグリッドラインを揃えられます。

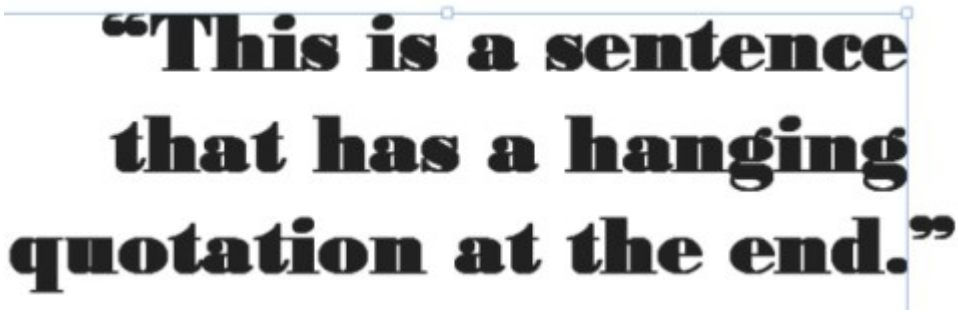
ライブドラッグとは、アイテムの移動中にアイテムのコンテンツを表示するための機能です。ただし、ライブドラッグがアクティブであっても、選択したグリッドラインやセルは表示されません。

ぶら下がり文字の使用

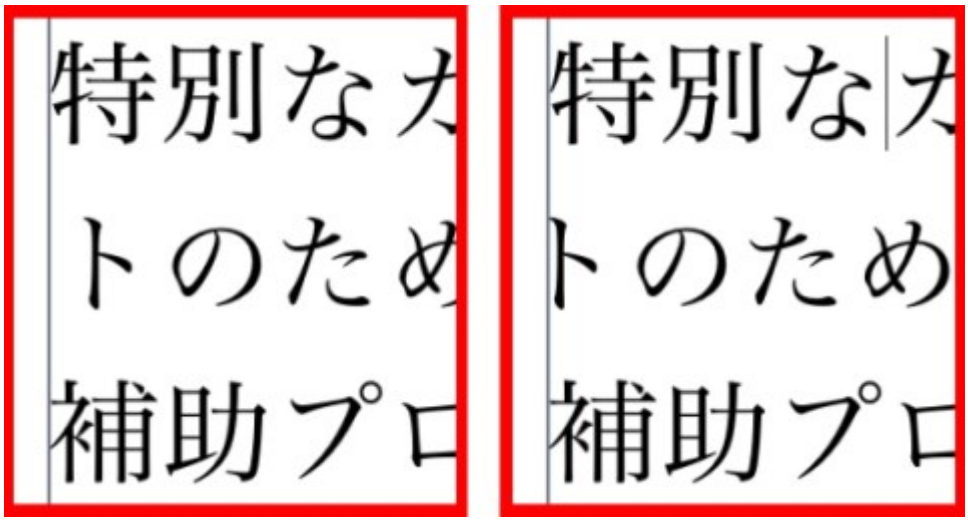
ぶら下がり文字セットでは、**ぶら下がり約物**と**マージン揃え**の両方を処理します。マージン揃えでは、文字をマージン外部に部分的にぶら下げることで、マージンに沿った視覚的に統一されたテキストの揃えを作成できます。ぶら下がり約物では、約物文字を完全にマージン外部にぶら下げることで、テキストの行頭（先頭）やテキストの行末（末尾）での均一なマージンで、テキストを揃えることができます。たとえば、以下の最初のテキストサンプルにある引用符記号は先頭マージンの外部にぶら下げられているため、テキストの1行目にある最初の文字をその下のテキストの行と均等に揃えられます。以下の2番目のテキストサンプルにある引用符記号は、末尾マージンの外部にぶら下げられています。 たとえば、2番目のテキストサンプルにあるピリオドは、末尾マージンの外部にぶら下げられています。



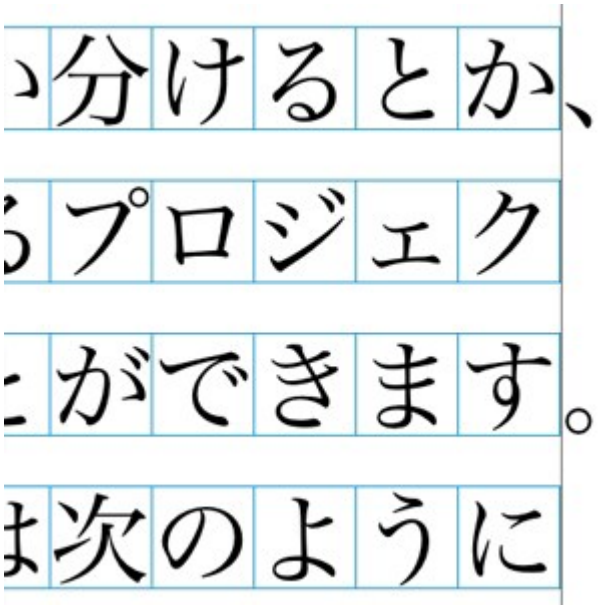
The opening quotation mark in this sample text is a leading hanging character



The closing quotation mark in this sample text is a trailing hanging character



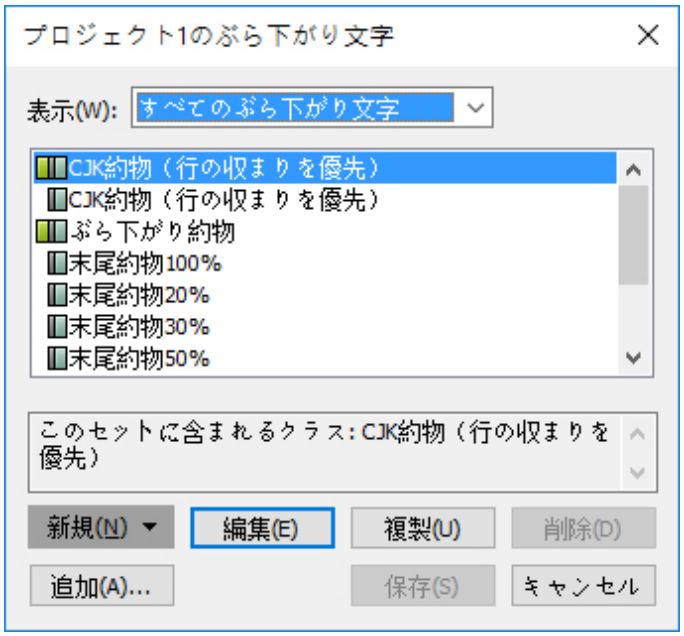
このサンプルテキストの2行目の場合、左側のサンプルにはぶら下がりはありませんが、右側のサンプルには行頭ぶら下がりがあります。



このサンプルテキストでは、約物文字が末尾のぶら下がり文字です。

カスタムの**ぶら下がり文字クラス**、および**ぶら下がり文字セット**を作成することも、ソフトウェアに含まれるデフォルトのクラスとセットを使用することもできます。ぶら下がり文字クラスとは、マージン外部に常にぶら下げられるか、同一パーセントでマージン内部にインデントされる必要のある文字のグループのことです。ぶら下がり文字セットとは、ぶら下がり文字クラスからなるグループのことです。ぶら下がり文字セットを使用することで、段落に1つまたは複数のぶら下がり文字クラスを適用できます。

ぶら下がり文字セットとクラスの表示、作成、編集、複製、および削除を行うには、**ぶら下がり文字**ダイアログボックス（**編集 > ぶら下がり文字**）を使用します。



ぶら下がり文字ダイアログボックス

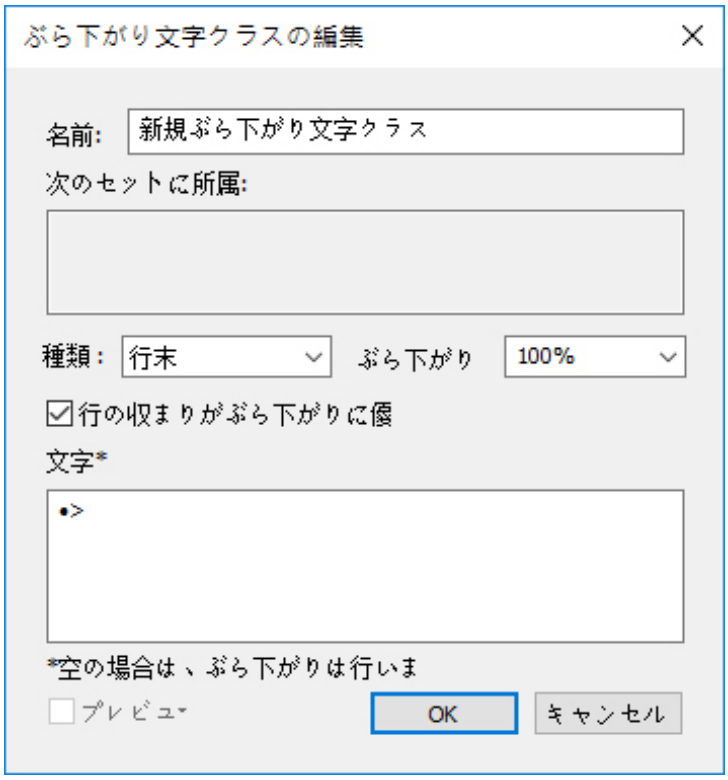
ぶら下がり文字セットの前には、アイコンが付きます。ぶら下がり文字クラスの前には、アイコンが付きます。

ダイアログボックスの中央ペインでぶら下がり文字セットを選択すると、そのセットに属すぶら下がり文字クラスが下のペインに表示されます。ダイアログボックスの中央ペインでクラスを選択すると、選択したクラスが属すセットと選択したクラスの属性が下のペインに表示されます。

ぶら下がり文字セットやクラスを比較するには、**ぶら下がり文字**ダイアログボックスで2つのクラスまたはセットを選択し、Option／Altキーを押します。**追加**ボタンが**比較**ボタンに変化します。

ぶら下がり文字クラスの作成

ぶら下がり文字クラスに含まれる文字、クラスのぶら下がり率、ぶら下がり文字クラスを先頭と末尾のどちらにするかを指定するには、**ぶら下がり文字クラスの編集**ダイアログボックス（**編集 > ぶら下がり文字 > 新規 > クラス**）を使用します。



ぶら下がり文字クラスの編集ダイアログボックス

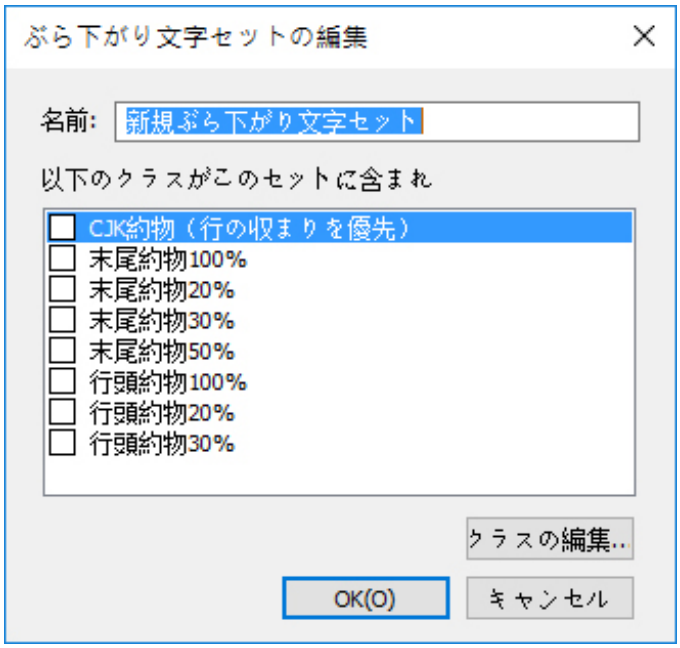
文字ペインで文字を入力します。**ぶら下がり率**ドロップダウンメニューからぶら下がり率を選択します。**ぶら下がり率**は、表示される字形に対する一定のぶら下がりまたはインデントの割合を指定するものです。たとえば、**-50%**を選択すると、文字クラスの文字が、表示される文字幅の半分だけ行端よりも内部にインデントされます。**100%**を選択すると、文字クラスの文字が、表示される字形の分だけ行端の外にぶら下がります。

次に、文字クラスを**行頭**と**末尾**のどちらにするかを指定します。**行頭**クラスの文字は行頭の外側へぶら下がります。 **末尾**クラスの文字は末尾の外側へぶら下がります。

ぶら下がり文字クラスをぶら下がり文字セットに保存後、**プレビュー**チェックボックスをオンにすると、編集時にぶら下がり文字クラスへの変更を表示できます。

ぶら下がり文字セットの作成

ぶら下がり文字セットに含めるぶら下がり文字クラスを指定するには、**ぶら下がり文字セットの編集**ダイアログボックス（**編集 > ぶら下がり文字 > 新規 > セット**）を使用します。



ぶら下がり文字セットの編集ダイアログボックス

ダイアログボックス中央のペインに、使用できるぶら下がり文字クラスがすべて表示されます。これらのぶら下がり文字クラスはぶら下がり文字セットに追加できます。追加するぶら下がり文字クラスの横にあるチェックボックスをオンにし、ぶら下がり文字セットの名前を指定してから**OK**をクリックします。

新しいぶら下がり文字セットを保存する前にぶら下がり文字クラスを編集するには、クラスを選択してから**クラスの編集**をクリックします。

ぶら下がり文字セット内で同じ文字に対して、異なる先頭または末尾の値を指定することはできません。

ぶら下がり文字セットの適用

テキストにぶら下がり文字セットを適用するには、**段落設定**ダイアログボックス（**編集 > フォーマット**）の**ぶら下がり文字セット**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

段落スタイルシートにぶら下がり文字セットを適用するには、**段落スタイルシートの編集**ダイアログボックス（**編集 > スタイルシート > 新規 > 段落**または**編集 > スタイルシート > 編集**）の**フォーマット**タブにある**ぶら下がり文字セット**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

Type Tricks

Type Tricksにより、分数の作成、通貨の作成、単語スペーストラッキング、ラインチェック、カスタムアンダーラインの組版機能が追加されます。

分数の作成

分数の作成コマンド（**スタイル > 文字飾り**）を使用すると、分数を自動的にフォーマットできます。このコマンドは、分数が選択された場合、またはカーソルが分数を構成す

る文字の隣（および同じ行）に置かれると、アクティブになります。フォーマットできる分数の例は、11/42、131/416、および11/4xなどです。

文字を分数に変換するには、文字を選択し、**スタイル > 文字飾り > 分数の作成**を選択します。

分数の文字は、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > アプリケーション > 分数/通貨**）の**分数/通貨**タブで指定したベースラインシフトおよびフォーマットを使用して変換されます。

通貨の作成

通貨の作成コマンド（**スタイル > 文字飾り**）を使用すると、通貨を自動的にフォーマットできます。このコマンドは、通貨としてフォーマットできるテキスト（$1.49、£20.00、およびa.bcなど）が選択されている場合、またはこれらの文字の隣（および同じ行）にポインタがある場合に利用できます。通貨には、ピリオドまたはカンマで示される基数（デシマルシンボル）を含める必要があります。基数の前後の文字は、文字または数字である場合があります。

文字を通貨に変換するには、フォーマットする文字を選択し、**スタイル > 文字飾り > 通貨の作成**を選択します。

通貨の作成を適用すると、QuarkXPressは、基数に続く文字に肩文字飾りを自動的に適用します。

変換された分数と通貨の表示形式は、**環境設定**ダイアログボックス（ **編集 > 環境設定 > アプリケーション > 分数／通貨**）の**分数/通貨**タブで入力した値および選択内容によって決定されます。

単語スペーストラッキング

単語スペーストラッキング機能では、単語スペースにのみトラッキングを適用できます（トラッキング値は、通常文字間および単語間に適用されます）。この機能は、キーボードコマンドでのみアクセスできます。

Mac OS X

トラッキング値	Commandキー
スペースを0.05emずつ増やします。	Commnad+Control+Shiftキー+]
スペースを0.005emずつ増やします。	Commnad+Control+Option+Shiftキー+]
スペースを0.05emずつ減らします。	Commnad+Control+Shiftキー+[
スペースを0.005emずつ減らします。	Commnad+Control+Option+Shiftキー+[

Windows

トラッキング値	Commandキー
スペースを0.05emずつ増やします。	Control+Shiftキー+@
スペースを0.005emずつ増やします。	Control+Alt+Shiftキー+@
スペースを0.05emずつ減らします。	Control+Shiftキー+!
スペースを0.005emずつ減らします。	Control+Alt+Shiftキー+!

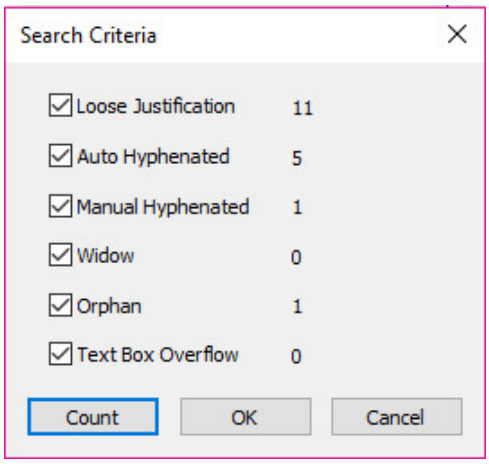
単語スペーストラッキングは、選択されたスペースの後に手動カーニングを適用することによって適用されます。単語スペーストラッキングを削除するには、テキストを選択してから**補助 > 手動カーニングをクリア**（Windows）または**スタイル > 手動カーニングをクリア**（Mac OS X）を選択します。

ラインチェック

ウィドウ、オーファン、両端揃えされた行、ハイフンで終了する行、およびテキストボックスのオーバーフローを検索するには、**ラインチェック**機能を使用します。**ラインチェック（補助 > ラインチェック）**は、不確かな行をハイライトしながら、ドキュメント全体を移動します。

ラインチェックで検索する対象を指定するには、**検索対象**ダイアログボックス（**補助 > ラインチェック > 検索対象**）を表示し、検索対象とする望ましくない組版のカテゴリをチェックします。

- **不適ワードスペース**は、両端揃えされた行で、その段落に適用されているハイフネーションおよび両端揃え仕様における最大の単語または文字間隔を超過する、単語または文字間隔を含むものです。
- **自動ハイフン**の行の末尾には、自動ハイフネーション機能によりハイフンが配置されます。
- **手動ハイフン**の行の末尾には、ユーザーがハイフンを入力します。
- **ウィドウ**は段落の最後の行で、メジャー全体の幅より短く、次のコラムまたはページの先頭に回されるものです。
- **オーファン**は、コラムまたはページの末尾に置かれる段落の最初の行です。
- **テキストボックスのオーバーフロー**は、テキストボックス内にテキストを表示できないときに発生します。この状態を示すため、テキストボックスの右下隅にオーバーフロー記号が表示されます。



ドキュメント全体を検索するには、テキストの任意の場所にポインタを置き、**補助 > ラインチェック > 第1行**を選択します。ポインタの位置からドキュメントの最後まで検索するには、検索を開始する位置にポインタを置き、**補助 > ラインチェック > 次行**を選択するか、Commandキー+;／Ctrlキー+;を押します。検索を続けるには、Commandキー+;／Ctrlキー+;を押します。

カスタムアンダーライン

カスタムアンダーライン機能を使用すると、アンダーラインのカラー、シェード、幅、およびオフセットをカスタマイズできます。カスタムアンダーラインは、文字飾りアンダーラインとほとんど同様に動作しますが、アンダーラインの属性をさらに制御しながら、カスタマイズできます。

カスタムアンダーラインのスタイルは、スタイルシートとほとんど同様に機能します。アンダーラインスタイルを作成、編集、または削除するには、**編集 > アンダーラインスタイル**を選択します。カスタムアンダーラインスタイルを適用するには、Windowsでは**スタイル > アンダーラインスタイル**サブメニューから、Mac OS Xでは**スタイル > 文字飾り > アンダーラインスタイル**サブメニューから、それぞれ名前を選択します。

カスタムアンダーラインを適用するには、適用対象のテキストを選択し、Windowsでは**スタイル > アンダーラインスタイル > カスタム**を、Mac OS Xでは**スタイル > 文字飾り > アンダーラインスタイル > カスタム**を選択します。**アンダーラインの属性**ダイアログボックスでは、アンダーラインのカラー、シェード、幅、およびオフセットを指定できます。

カスタムアンダーラインを削除するには、テキストを選択してから、 Windowsでは**スタイル > 文字飾り > カスタムアンダーラインをクリア**、 Mac OS Xでは**スタイル > 文字飾り > アンダーラインスタイル > カスタムアンダーラインをクリア**を選択します。

ハイパーリンク

ほとんどのHTMLツールでは、ハイパーリンクを作成するのに、テキストの一部または画像を選択してから、フィールドにURLを入力します。QuarkXPressでは、若干違う方法を使用します。



ハイパーリンクパレット

リンク先

リンク先は、特定URLの「コンテナ」です。QuarkXPressプロジェクトにカラーとスタイルシートのリストを含めることができるのと同じように、リンク先のリストを含めることができます。各リンク先には、下記のタイプのURLの1つが含まれます。

- **URL**：ウェブ上の特定リソースを指し示します。
- **ページ**：同じレイアウトの特定ページを指し示します。
- **アンカー**：レイアウトのページにある特定部分を指し示します。

ユーザーインターフェイスはURL、ページ、およびアンカーで異なりますが、書き出されるHTMLファイルに含まれる実際のリンクは常にURLです。

カラーおよびスタイルシートと同じように、各リンク先には名前があります。リンク先には好きな名前を付けられます。たとえば、URL http://www.quark.comのリンク先に「Quark Webサイト」という名前を付けることができます。

カラーパレットでプロジェクトのカラーのリストを表示できるのと同じように、**ハイパーリンク**パレットでプロジェクトのリンク先のリストを表示できます。**カラー**パレットでカラーを適用できるのと同じように、**ハイパーリンク**パレットでハイパーリンクをクリックして、選択したテキストやアイテムのリンク先を「適用」できます。

ハイパーリンクダイアログボックス（**編集**メニュー）で、リンク先のリストを編集できます。カラーと同様に、プロジェクトのリンク先リストに、実際にはプロジェクトで使用されないリンク先を含められます。

QuarkXPressでは、何かをクリックしてからURLを入力する方法でハイパーリンクを作成することもできます。ただし、この場合、リンク先を作成していること、リンク先がプロジェクトのリンク先のリストに追加され、**ハイパーリンク**パレットにリストされることに注意してください。

アンカー

アンカーは、レイアウトに含まれるオブジェクトに付加されているマーカーです。アンカーを付加できる対象を以下に挙げます。

- ラスターやテキストボックス、またはパス上のテキストにある語、文字、または文字列
- 画像ボックス
- イメージマップの特定領域
- テーブルの特定セル
- 空のボックス
- ライン

QuarkXPressでは、アンカーインジケータは  や  のように表示されます。

リンク先の作成

リンク先には、ハイパーリンクが示すURLが入っています。リンク先を作成するには、下記の手順に従ってください。

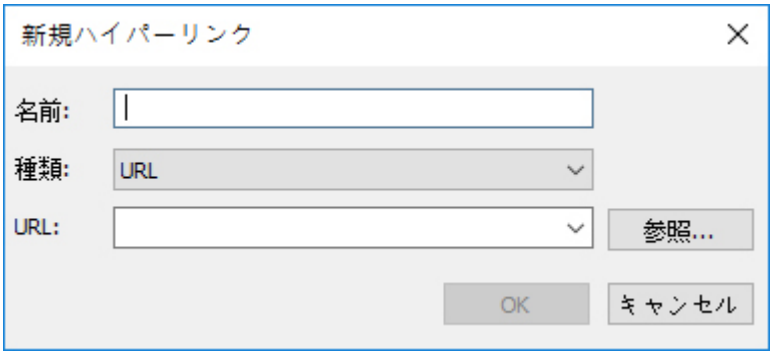
1 **ウィンドウ > ハイパーリンク**を選択します。 **ハイパーリンク**パレットが表示されます。

- URLを手動で指定するには、**URL**を選択してから、**URL**フィールドにURLを入力するか、または**選択**ボタンを使用して特定のファイルへのパスを作成します（書き出されるHTMLページでもそのパスが有効であることを忘れずに確認してください）。

URLフィールドの横のドロップダウンメニューを使用して、4つの共通プロトコルから選択することができます。

- 同じレイアウトで別のページにリンクするには、**種類**フィールドで**ページ**を選択してから、**ページ**ドロップダウンメニューでページを選択します。
- 同じレイアウトで特定のアンカーにリンクするには、**種類**フィールドで**アンカー**を選択してから、**アンカー**ドロップダウンメニューでアンカーを選択します。

2 **OK**をクリックします。（複数のリンク先を追加する場合は、Shiftを押しながら**OK**をクリックすると、**新規ハイパーリンク**ダイアログボックスが開いたままになります）。



新規ハイパーリンクダイアログボックスを使用して、リンク先を作成します。

アンカーの作成

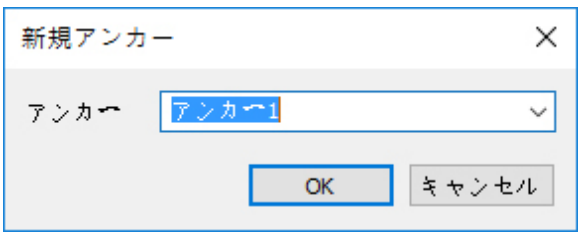
アンカーとは、レイアウト内の特定の場所へのポインタのことです。アンカーの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ウィンドウ > ハイパーリンク**を選択します。 **ハイパーリンク**パレットが表示されます。

- **ハイパーリンク**パレットで、**新規アンカー**ボタンをクリックします。
- **スタイル > アンカー > 新規**を選択します。
- **ハイパーリンク**パレットメニューを表示して、**新規アンカー**を選択します。
- 選択したテキストのコンテキストメニューを表示するか、**アンカー > 新規**を選択します。

2 **アンカー名**フィールドにアンカーの名前を入力するか、ドロップダウンメニューから未使用のアンカー名を選択します。

3 **OK**をクリックします。



新規アンカーダイアログボックスを使用して、新規アンカーの設定を行います。

"空"のアンカーを作成するには、すべてを選択解除して、**ハイパーリンク**パレットの**新規アンカー**ボタンをクリックします。自分がアクセス権を持たない、またはまだ作成してないレイアウト内のアンカーを参照するハイパーリンクを作成する場合には、この方法を使用します。

既存のリンク先を使用したハイパーリンクの作成

ハイパーリンクとは、特定のリンク先をポイントするテキスト文字列、ボックス、またはラインのことです。既存のリンク先を使用してハイパーリンクを作成するには、ハイパーリンクとして使用するテキストや画像の範囲を選択して、下記の操作を行ってください。

- **ハイパーリンク**パレットにあるリンク先をクリックします。
- **スタイル > ハイパーリンク > ［リンク先］**を選択します。
- 選択したテキストやアイテムのコンテキストメニューを表示して、**ハイパーリンク > ［リンク先］**を選択します。

ハイパーリンクの新規作成

ハイパーリンクとは、特定のリンク先をポイントするテキスト文字列、ボックス、またはラインのことです。ハイパーリンクとリンク先を同時に作成するには、下記の手順に従ってください。

1 ハイパーリンクとして使用するテキストまたはアイテムの範囲を選択します。

- **ハイパーリンク**パレットで**新規ハイパーリンク**ボタンをクリックします。
- **スタイル > ハイパーリンク > 新規**をクリックします。
- 選択したテキストまたはボックスでコンテキストメニューを表示させ、**ハイパーリンク**を選択します。

- URLを手動で指定するには、**URL**を選択してから、**URL**フィールドにURLを入力するか、または**選択**ボタンを使用して特定のファイルへのパスを作成します（書き出されるHTMLページでもそのパスが有効であることを忘れずに確認してください）。**URL**フィールドの横のドロップダウンメニューを使用して、4つの共通プロトコルから選択することができます。
- 同じレイアウトで別のページにリンクするには、**ページ**を選択し、**ページ**ドロップダウンメニューからページを選択します。
- 同じレイアウトで特定のアンカーにリンクするには、**アンカー**を選択し、**アンカー**ドロップダウンメニューからアンカーを選択します。

2 **OK**をクリックします。

ハイパーリンクパレットでのリンクの表示

ハイパーリンクパレットにある**表示**ボタンおよびドロップダウンメニューにより、パレットのスクロールリストに表示する内容を制御できます。

- リンク先を表示するには、**リンク先を表示**ボタンをクリックします。
- アンカーを表示するには、**アンカーを表示**ボタンをクリックします。

- このレイアウトのページへのリンクを表示するには、**ページへのリンクを表示**ボタンをクリックします。
- 名前でリスト内のアイテムを表示するには**名前**を、URLでリスト内のアイテムを表示するには**リンク**を、それぞれ選択します。

ハイパーリンクのフォーマット

デフォルトでは、ハイパーリンクテキストは下線が引かれ、**環境設定**ダイアログボックス（**印刷レイアウトまたはデジタルレイアウト > 一般**）で定義されているデフォルトカラーに従って色付けされています。個々のハイパーリンクのデフォルトアピアランスを上書きするには、ハイパーリンクの特定の単語を選択して、目的のフォーマット（カラー、サイズ、フォント）を適用します。

ハイパーリンクテキストが含まれる段落の書式を変更すると、デフォルトのカラーと下線付きテキストの書式はそのままで、ハイパーリンクに段落のフォントとフォントサイズが適用されます。

リンク先の編集と削除

リンク先の名前やURLを編集するには、**ハイパーリンク**パレットでリンク先を選択して**編集**ボタンをクリックします。リンク先を使用するこのレイアウト上の全ハイパーリンクに、すべての変更が適用されます。

リンク先を削除するには、**ハイパーリンク**パレットでリンク先を選択し**削除**ボタンをクリックします。このリンク先に対するすべてのハイパーリンクがレイアウトから削除されます。

他の方法では、**ハイパーリンク**ダイアログボックス（**編集**メニュー）を使用して、リンク先の編集と削除を行えます。

アンカーの編集と削除

アンカーの名前を編集するには、**ハイパーリンク**パレットでアンカーを選択して**編集**ボタンをクリックします。アンカーの名前とアンカー自体を編集できます。アンカーに名前がない場合、**ハイパーリンク**パレットにアンカーのみが表示されます。

アンカーを削除するには、**ハイパーリンク**パレットでアンカーを選択して**削除**ボタンをクリックします。このアンカーへのすべてのハイパーリンクがレイアウトから削除されます。

他の方法では、**ハイパーリンク**ダイアログボックス（**編集**メニュー）を使用して、アンカーの編集と削除を行えます。

ハイパーリンクの編集と削除

ハイパーリンクのリンク先を編集するには、レイアウトでハイパーリンクを選択し**ハイパーリンク**パレットで**編集**ボタンをクリックして、**URL**フィールドに新しい値を入力するか、**URL**フィールドの隣にあるドロップダウンメニューからオプションを選択します。

ハイパーリンクのリンク先を削除するには、レイアウトでハイパーリンクを選択し**ハイパーリンク**パレットで**ハイパーリンク解除**をクリックするか、**スタイル > ハイパーリンク > 削除**を選択します。

ハイパーリンクパレットの使用へのナビゲーション

ハイパーリンクパレットでハイパーリンクを作成するだけでなく、**ハイパーリンク**パレットを使用して、アクティブQuarkXPressレイアウトのハイパーリンクやアンカーにアクセスできます。**ハイパーリンク**パレットの使用をナビゲーションするには:

- URLである保存先を表示するには、**ハイパーリンク**パレットでその保存先をダブルクリックします。URLが指定したウェブブラウザに渡されます。
- アクティブレイアウトのアンカーにアクセスするには、**ハイパーリンク**パレットにあるアンカーの名前をダブルクリックします。

画像

画像編集アプリケーションや他のグラフィックアプリケーションから、画像をQuarkXPressに取り込めます。画像をボックスに取り込むと、位置の変更、サイズの変更、傾斜、またはフリップなど、その画像に対して多くの操作を実行できます。

画像の使用

QuarkXPressには、画像で使用するための多様なツールが用意されています。

画像の取り込み

画像を取り込むには、下記のいずれかを実行します。

- **ファイル > 取り込み**を選択します。
- **画像コンテンツ**ツールを選択した後、画像ボックスを指定し、**ファイル > 取り込み**を選択します。
- **画像コンテンツ**ツールを選択した後、画像ボックスを指定し、クリップボードから画像をペーストします。
- 画像ファイルをファイルシステムから画像ボックス上にドラッグします。
- 画像ファイルをファイルシステムからページ上にドラッグします。
- 画像を別のアプリケーションから画像ボックス上にドラッグします。
- Command／Ctrlキーを押しながら、画像ファイルをファイルシステムからテキストボックス、コンテンツなしボックス、空の画像ボックス、または画像が入っているボックスにドラッグします。
- Command／Ctrlキーを押しながら、画像を別のアプリケーションからテキストボックス、コンテンツなしボックス、空の画像ボックス、または画像が入っているボックスにドラッグします。

すでにテキストまたは画像が入っているボックスにコンテンツをドラッグすると、ドラッグされたコンテンツ用に、QuarkXPressが新しいボックスを作成します。新しいボックスを作成せずにボックスのコンテンツを置き換えるには、ボックスにコンテンツをドラッグしながらCommand／Ctrlキーを押します。ドラッグされたコンテンツに対して常に新しいボックスを作成するには、ドラッグしながらOption／Altキーを押します。

画像を取り込むとき、イメージはフルサイズで取り込まれ、ボックス内の境界ボックスの左上角が起点（左上角）になります。**画像コンテンツ**ツールを選択すると、画像のイメージ全体がボックス境界を越えて表示されます。

画像がボックス内に収まるようにするには、画像を取り込んだ後にサイズ変更または位置変更を行う必要があります。

画像の移動

ボックス内で画像を移動するには、下記のいずれかの方法を使用してください。

- **画像コンテンツ**ツール
- **メジャー**パレット
- （Windowsのみ） **設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）

選択した**画像コンテンツ**ツールにより、ボックス内での位置に関係なく、イメージの任意の部分をクリックできます。また、矢印キーを使用してボックス内の画像を少しずつ動かすこともできます。

アイテムツールを選択した状態でキーボードの矢印キーを使用すると、ボックス内の画像ではなく**ボックス**自体が動きます。画像の移動の詳細については、「*アイテムの移動*」を参照してください。

画像のサイズ変更

画像を拡大／縮小するには、下記のいずれかの方法を使用してください。

- **画像コンテンツ**ツール
- **メジャー**パレット
- **スタイル**メニュー
- （Windowsのみ） **アイテム**メニュー（**アイテム > 設定**）

画像をボックスに取り込んだ後は、コンテキストメニュー（または**スタイル**メニュー）から**ボックスを画像に合わせる**または**画像をボックスに合わせる（縦横比を保持）**を選択できます。**画像コンテンツ**ツールによって画像のサイズを変更しながらShiftキーを押すと、縦横比を維持したままで画像のサイズが変更されます。

画像の切り抜き

画像の一部分のみが必要な場合は、ボックスのサイズを調整して手動で切り抜くことができます。

画像の回転と傾斜

画像を回転させるとボックス内での画像の角度が変わり、画像を傾斜させると画像が傾いて表示されます。

画像を回転させるには、**画像コンテンツ**ツールを選択し、画像の角ハンドルの1つにマウスのポインタを移動します。選択した角に応じて、回転ポインタが表示されます。ポインタをドラッグして画像を回転させます。画像の回転角を、Windowsの**設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定 > 画像**）、または**メジャー**パレット（**ホーム**タブ）の**画像の角度**フィールドに入力することもできます。

画像を傾斜させるには、Windowsの**設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）、または**メジャー**パレット（**ホーム**タブ）の**画像の傾斜**フィールドに値を入力します。

画像へのカラーおよびシェードの適用

シャドウ、白黒の中間調、およびグレイスケールの画像に、カラーとシェードの値を適用できます。これには、**カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）、**設定**ダイアログボックス （**Windowsのみ**） （**アイテム**メニュー） （**スタイル > 画像**）、**メジャー**パレット、または**スタイル**メニューを使用します。画像バックグラウンドおよびボックスバックグラウンドにもカラーを適用できます。

- 白黒またはグレイスケールの画像にカラーを適用するには、**画像カラー**アイコンを選択して、カラー名をクリックします。
- 白黒またはグレイスケールの画像のバックグラウンドにカラーを適用するには、**画像バックグラウンドカラー**アイコンを選択して、カラー名をクリックします。

画像のフリップ

画像ボックスのコンテンツは、**スタイル**メニュー（**スタイル > 水平フリップ**または**スタイル > 垂直フリップ**）または**メジャー**パレットの**ホーム**タブ（水平フリップアイコンまたは垂直フリップアイコンをクリック）を使用して、左から右または上から下へフリップできます。

画像の一覧表示、状況確認、および更新

使用状況機能（**補助**メニュー）では、取り込んだ画像すべてをトラッキングできます。この機能を使用するには、**補助 > 使用状況**を選択し、**画像**をクリックして**画像**ペインを表示します。

表示ボタンを使用すると、選択した画像がレイアウト上に表示されます。

更新ボタンを使用すると、移動されている画像および変更された画像を更新できます。確認のための警告を出さずに変更された画像を更新するには、Option／Altキーを押しながら**更新**ボタンをクリックします。

画像バックグラウンドカラーの指定

画像で選択できるデザインオプションを増やすため、ボックスのカラー、画像カラー、および画像バックグラウンドカラーを変更できます。詳細は、「*画像へのカラーおよびシェードの適用*」を参照してください。

- グレイピクセルの場合は、画像カラーと画像バックグラウンドカラーが混合されます。
- 画像カラーまたは画像バックグラウンドカラーにさまざまな不透明度を指定する場合は、カラーがお互いに、およびボックスカラーと相互作用します。

グレイスケールおよび1ビット画像のみ：以前のバージョンのQuarkXPressからプロジェクトを開く場合は、ボックスカラーが画像バックグラウンドカラーにマッピングされるため、画像の外観は同じになります。

画像属性の保持

画像を画像ボックスに取り込む場合は、その画像ボックスに画像が入っているかどうかに関係なく、すべての画像属性を保持できます。たとえば、テンプレートの空の画像ボッ

クスで、画像を50%に縮小して90度回転させるように指定されている場合は、新しい画像を取り込んでそれらの属性を自動的に適用することができます。

画像を取り込み、そのボックスおよび／または既存の画像に指定されている属性を保持するには、**取り込み**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）で**画像属性を保持**をオンにします。

ラスター画像の編集

取り込んだラスター画像は、QuarkXPressで直接編集できます。有効なオプションは、画像のカラーモードによって異なります。たとえば、**反転**は1ビット画像でのみ利用可能です。

取り込んだ画像のラスター画像をQuarkXPressで編集するには、下記の手順に従ってください。

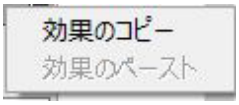
1. 編集する画像を選択します。
2. **イメージ編集**パレットを表示します（**ウィンドウ > イメージ編集**）。



3. パレット上のコントロールを使用して、画像を編集します。選択した画像に効果を適用すると、その効果はレイアウト上で即座に確認できます。画像に適用された効果は、パレットに一覧表示されます。効果の適用される順序を変更でき（Windowsでは目的の位置へドラッグ、Mac OSでは適用されている効果の横にある上／下矢印を使用）、不要な効果を削除することもできます。

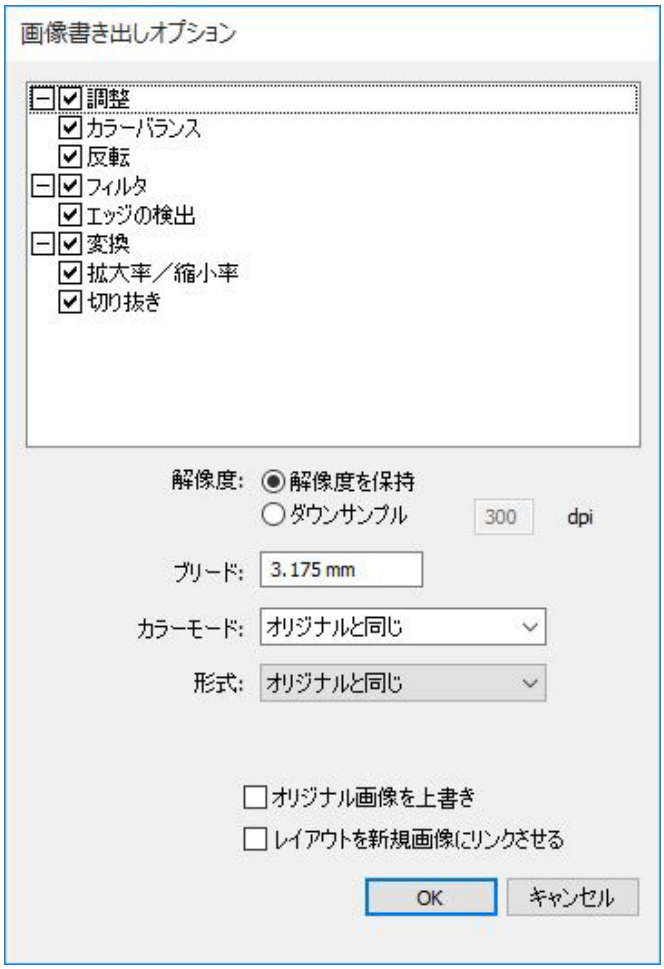


- 選択した画像について効果を指定してから、属性のセットをコピーし、別の画像に適用できます。



- 画像編集機能を使用するには、**スタイル > イメージ編集**を選択するか、画像を右クリックし、コンテキストメニューで**イメージ編集**を選択します。

  画像の効果は元画像を変更しないもので、出力時に適用されます。画像を保存するときは、効果の適用付きでも、適用なしでも保存できます（**ファイル > 画像の書き出し**）。



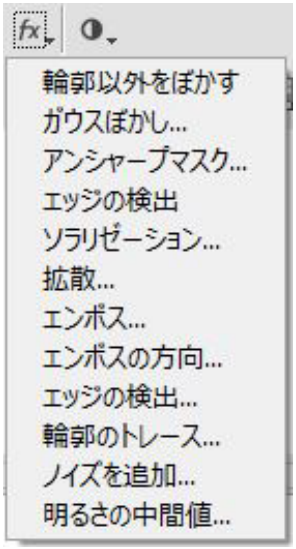
画像書き出しオプションパレットを使用し、適用されている画像効果のうちで、画像とともに保存するものを選択して、次の属性を指定します。

- **最大解像度**
- **画像ボックスのブリード**
- **カラーモード**
- **フォーマット**

オリジナル画像を上書きするか、**レイアウトを新規画像にリンクさせる**かも選択できます。

フィルタ

フィルタドロップダウンメニューは、画像に適用するフィルタの選択に使用します。

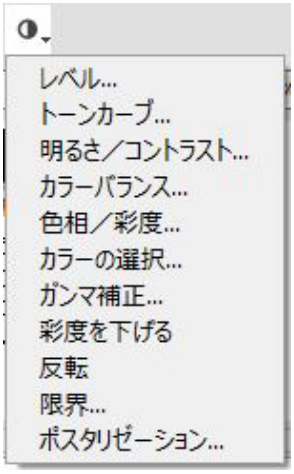


- **輪郭以外をぼかす** - 画像のエッジを検出し、それらのエッジを除いた画像のすべての部分をぼかします。画像の細部を保持しながらノイズを取り除くので、スキャンされたイメージの汚れを除去する場合に役立ちます。
- **ガウスぼかし** - 定義済みラインのハードエッジおよび画像のシェード領域に隣接するピクセルを平均化し、画像の遷移を滑らかにします。**ぼかし画像**や**ぼかしマスク**をオンにすると、画像とそのアルファマスクにこれらのフィルタを別々に適用できます。
- **アンシャープマスク** - 定義済み領域のピクセル値と、指定された限界値を比較します。ピクセルのコントラスト値が限界値より低い場合は、コントラストが増強されます。
- **エッジの検出** - 白のバックグラウンドに、画像のエッジのアウトラインを暗い色のラインとして描画します。
- **ソラリゼーション** - 画像のネガ領域とポジ領域をブレンドし、写真のようなソラリゼーション効果を生み出します。**ソラリゼーション**ダイアログボックスを使用するには、**限界**値をフィールドに入力するか、スライダをドラッグします。この値により、変更するピクセルが指定されます。値が限界値より低いピクセルはネガとみなされ、限界値より高いピクセルはポジとみなされます。次にピクセル値が反転されます。
- **拡散** - ピクセルをシャッフルし、画像の焦点がぼやけたような効果を与えます。
- **エンボス** - 画像の領域が浮き出たか沈み込んだように表示されます。
- **エンボスの方向** - **エンボス**フィルタを適用する場合、**エンボスの方向**フィルタを使用して、画像を浮き出させるか沈み込ませる方向を指定できます。**エンボスの方向**ダイアログボックスに表示される方向矢印をクリックして、さまざまな方向を適用します。たとえば、右上矢印をクリックすると、オブジェクトにスタンプを押したときに若干右寄りに押されるように指定され、その方向に向かってスタンプの跡が付きます。
- **エッジの検出** - 画像のエッジのみが表示され、残りのカラーは表示されません。**エッジの検出**ダイアログボックスでは、エッジを判別するために**ソベル**と**プレウィット**という2種類の数学的手法を選択できます。ソベル手法では、計算の際に周囲のより多くのピクセルが考慮されるため、精度が高くなります。

- **輪郭のトレース** - カラーチャンネルごとに主な明度領域の遷移を細いアウトラインで描き、画像の白黒アウトラインを生成します。作成されたアウトラインを反転するオプションも選択できます。
- **ノイズを追加** - ランダムなピクセルを画像に適用し、高速度フィルムを使用する画像ショットをシミュレートします。このフィルタでは、よりスムーズで彩度の高いパターンを画像の明るい領域に加えながら、均等なパターンをシャドウトーンおよび中間調に適用します。
- **明るさの中間値** - 画像の指定された領域での動きを軽減または解消します。この効果では、同程度の明るさを持つピクセルを検索し、検索されたピクセルの明るさの中間値で中心ピクセルを置き換えます。隣接ピクセルと著しく異なるピクセルは影響を受けません。

調整

調整ドロップダウンメニューは、画像にカラー補正を加えるために使用します。



- **レベル** - ハイライトを明るくする、影を圧縮する、中間調を個別に調整する操作を行います。
- **トーンカーブ** - 正確なトーン調整により、画像を明るくまたは暗く補正します。調整する設定をシャドウ、ハイライト、および中間調に限定せずに、0%～100%（CMYKおよびグレースケールの場合）または0～255（RGBの場合）の範囲で任意のポイントを調整できます。このツールを使用してきめ細かな調整を行うには、**レベル**効果を使用する場合よりも多くの経験と知識が必要とされます。
- **明るさ／コントラスト** - 各チャンネルごとではなく、すべてのピクセルのトーンレベルを調整します。www.AppStudio.netをご覧ください。
- **カラーバランス** - 不要なカラーキャストの除去や、過飽和または飽和不足のカラーの補正を行います。この効果により、一般化されたカラー補正において、画像のカラーの全体的な配合状態が変化します。
- **色相／彩度** - 色あせたり色調がぼやけたりした画像の全体的なカラー強度と光を調整できますが、通常は特殊効果として使用します。画像の現在の色相（カラーキャスト）、彩度（強度）、および明るさ（白の光の程度）は、デフォルトによりゼロとして表現されます。

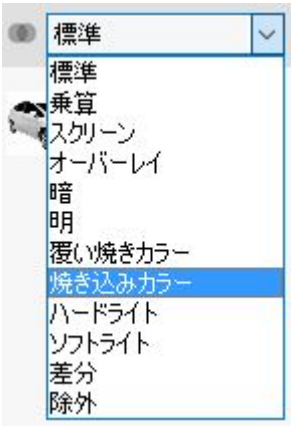
- **カラーの選択** - 画像のプロセスカラーの量を、原色ごとに増量または減量します。たとえば、りんごの色の紫が強すぎる場合は、赤に影響する領域からシアンを取り出すことができます。
- **ガンマ補正** - 白点を調整します。白点を調整することにより、表示画面の画像の明度を制御します。**ガンマ補正**ダイアログボックスを使用するには、**ガンマ**フィールドに新しい値を入力するか、スライダをドラッグして中間調を調整します。値を高くすると、全体的に暗めの画像が得られます。

➡ ガンマ値を変更することによって画像表示をある程度調整できますが、WindowsとMac OSの違いによる問題が残ります。Windowsでは、Mac OSの場合（1.8）よりも高めのガンマ値（2.2）を使用して表示するため、同じ画像でもWindows上では暗くなります。

- **彩度を下げる** - 各ピクセルのカラーモードと明るさの値を保持したまま、カラー画像を白黒画像に変換します。たとえば、RGB画像の各ピクセルの赤、緑、青に同じ値を割り当て、グレイスケール表示に見えるようにします。
- **反転** - 画像の各チャンネルのグレイ値を反転します。この効果は、1ビット、グレースケール、およびRGB画像に向いています。CMYK画像には黒チャンネルが含まれているため、この効果はCMYK画像には向いていません。黒チャンネルを反転すると、通常、ほぼ黒、またはほぼ白の画像になります。
- **限界** - カラー画像をグレイなしの白と黒の画像に変換します。**限界**フィールドに値を入力するか、スライダをドラッグします。限界値より明るいすべてのピクセルは白に、限界値より暗いピクセルは黒に変換されます。
- **ポスタリゼーション** - 特殊効果のため、画像の各チャンネルのトーンレベルを変更します。**ポスタリゼーション**ダイアログボックスを使用するには、**レベル**フィールドに新しい値を入力するか、スライダをドラッグします。たとえば、RGB画像で5つのトーンレベルを選択すると、15のカラーが生成されます（3原色ごとに5つのカラー）。

ブレンドモード

ブレンドモードドロップダウンメニューは、画像に適用するブレンドを選択するために使用します。



不透明度

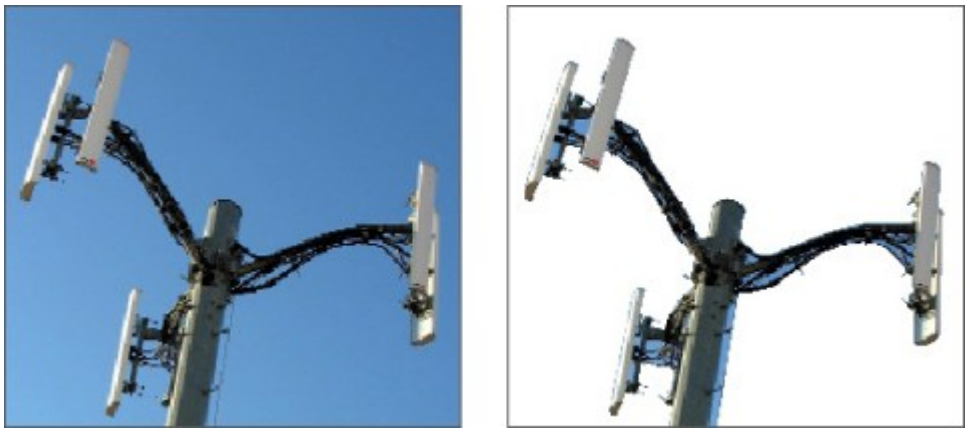
不透明度ドロップダウンスライダを使用して、画像に適用する不透明度をパーセントで指定できます。



クリッピングパスの使用

クリッピングパスとは、画像のどの部分を表示し、どの部分を透明として扱うかを示す、閉じたベジエ形状です。クリッピングパスは、元の画像ファイルのバックグラウンドから画像の標題を分離するときなどに、特に役立ちます。

クリッピングパスは、QuarkXPressまたはQuarkCopyDeskで新規作成したり、埋め込みパスまたはアルファチャンネル情報を使用して作成したりできます。QuarkXPressまたはQuarkCopyDeskで作成されたクリッピングパスは、画像ファイルに基づき、レイアウトとともに保存されます。



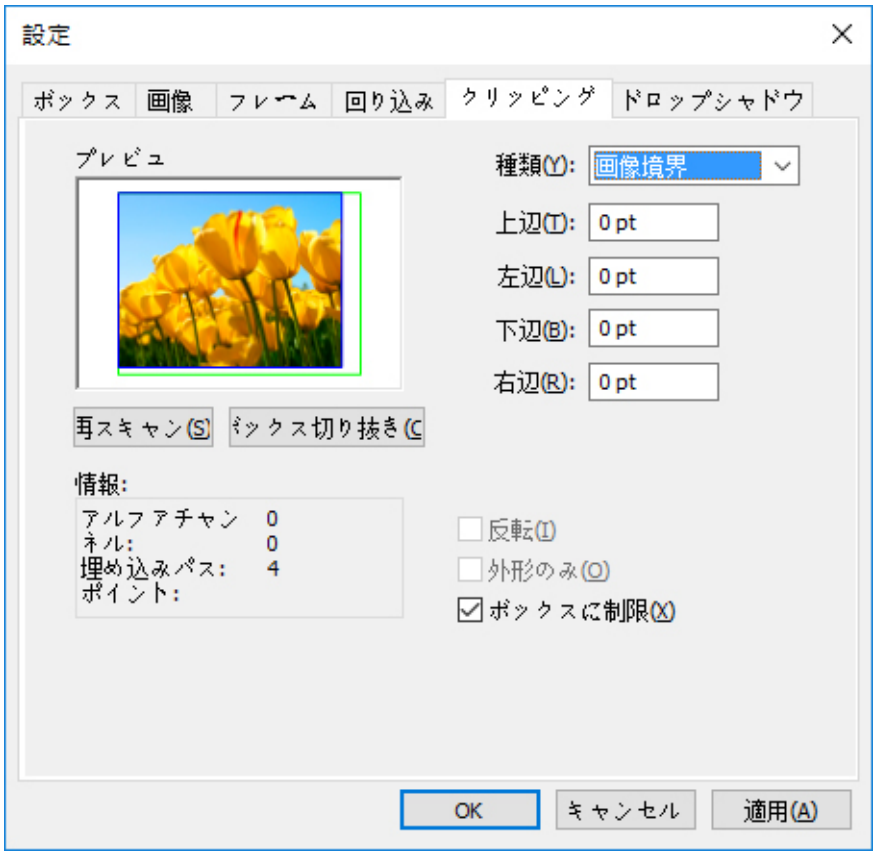
クリッピングパスを使用すれば、画像のどの部分を表示し、非表示にするか、制御できます。

クリッピングパスの作成

クリッピングパスの作成または割り当てを行うには、Windowsでは**アイテム > クリッピング** を選択し、**種類**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。Mac OS Xでは、**メジャー**パレットの**クリッピング** タブを使用します。

- イメージをボックス境界に合わせて切り抜くには、**アイテム**を選択します。**アイテム**を選択するだけではクリッピングパスは作成されません。ボックスの形に合わせて画像が切り抜かれるだけです。

- 既に画像ファイルに埋め込まれているパスに沿って画像をクリップするには、**埋め込みパス**を選択します。画像ファイルに複数のパスが埋め込まれている場合は、**パス**ドロップダウンメニューから目的のパスを選択します。
- 既に画像ファイルに埋め込まれているアルファチャンネルに沿って画像をクリップするには、**アルファチャンネル**を選択します。画像ファイルに複数のアルファチャンネルが埋め込まれている場合は、**アルファ**ドロップダウンメニューから目的のアルファチャンネルを選択します。アルファチャンネルに沿ってクリッピングパスを使用すると、ブレンドされた効果ではなくハードエッジが作成される点に注意してください。半透明のブレンドが必要な場合は、アルファマスクを使用してください（「*アルファマスクの使用*」を参照してください）。
- 画像の主体に基づいてクリッピングパスを作成するには、**白以外の領域**を選択します。クリッピングパスは、イメージと**限界**フィールドの値に応じて、全体に白または白に近いイメージ内で、白以外の形状部分のアウトラインを描きます（またはその逆）。**白以外の領域**オプションは、イメージの不要な部分が画像の主体よりも明るい場合（または暗い場合）に使用すると効果的です。
- 取り込んだ画像ファイルの、矩形の「キャンバス領域」に沿って画像をクリップするには、**画像境界**を選択します。これには、元の画像ファイルで保存されている白のバックグラウンドも含まれます。**上**、**左**、**下**、および**右**の各フィールドに値を入力して、画像境界からのクリッピングパスの距離を決定します。正の値は距離を増やし、負の値は距離を減らします。



設定ダイアログボックスの**クリッピング**タブ

➡ **プレビュー**領域の緑のパスはクリッピングパスを表し、青のアウトラインは画像ボックスを表します。

埋め込みクリッピングパスの使用

画像編集アプリケーションを使用すれば、イメージにパスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。これらの情報を格納している画像がQuarkXPressに取り込まれると、 **Windows**では **設定**ダイアログボックスの**クリッピング**タブ、 **Mac OS X**では **メジャー**パレットの **クリッピング** タブを使用して、パスとチャンネルの情報にアクセスできます。

TIFFとPSDには、パスおよびアルファチャンネルを埋め込むことができます。EPS、BMP、JPEG、PICTファイルには、パスのみを埋め込むことができます。

クリッピングパスの操作

クリッピングパスの適用後、**アイテム > 編集 > クリッピングパス**を選択して、クリッピングパスの編集を有効にします。次に、**ポイント選択**ツール、**ポイント追加**ツール、**ポイント削除**ツール、および**ポイント変換**ツールのいずれかを選択します。詳細は、「ツール」を参照してください。

メジャーパレットのコントロールを使用してクリッピングパスを操作することもできます。ポイントの種類を変更するには、下記の3つのボタンのいずれかを使用します。

- **シンメトリカルポイント** ：シンメトリカルポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。できあがる曲線はスムーズポイントに似ていますが、各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にあり、かつポイントから等距離にあります。
- **スムーズポイント** ：スムーズポイントは、2本の曲線を接続して1本の連続した曲線を構成します。各曲線ハンドルは常にポイントを通る直線上にありますが、ポイントからの距離が同じである必要はありません。
- **コーナーポイント** ：コーナーポイントは2本の直線、1本の直線と1本の曲線、または2本の不連続な曲線を接続します。2本の曲線の場合、コーナーポイントの各曲線ハンドルを個々に操作して、2つのセグメント間に鋭角的な変化を持たせることができます。

ラインセグメントの特性を変更するには、下記のボタンのいずれかを使用します。

- **直線セグメント** ：アクティブなセグメントを直線にします。
- **曲線セグメント** ：アクティブなセグメントを曲線にします。

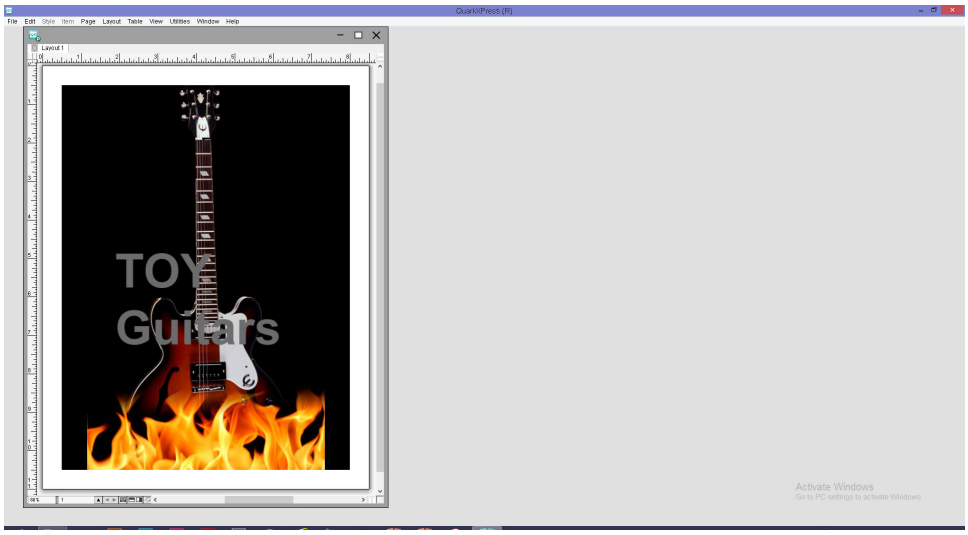
ポイントおよびセグメントの種類は、**アイテム > ポイント／セグメントの種類**サブメニューを使用して変更することもできます。

クリッピングパスを使用した特殊効果の作成

クリッピングタブの各種オプションを使用して、クリッピングパスを反転させたり、外形のみを使用して画像をクリップするかどうか、または画像をボックスの内側に配置するかどうかを指定したりできます。可視領域の透明化および透明領域の可視化、パス内での穴の使用、画像ボックスの形に合わせた画像の切り抜き、またはクリッピングパスのボックス境界からはみ出た部分の削除などの特殊効果を作成できます。

アルファマスクの使用

クリッピングパスはスムーズエッジを生成し、これは主に前面イメージをバックグラウンドイメージと分離するために使用されます。これに対してアルファマスクは透明度情報を含み、新しいバックグラウンドに前面イメージを微妙にブレンドできます。QuarkXPressでアルファマスクを使用するには、まずAdobe Photoshopなどの画像編集アプリケーションでアルファマスクを作成する必要があります。それから、作成したアルファマスクをQuarkXPressで使用します。



フレーム上のアルファマスクを使用して、バックグラウンドのテキストを表示できます。

QuarkXPressでアルファマスクを使用するには、アルファチャンネルをサポートする形式で画像とともに保存する必要があります。

選択した画像にアルファマスクを適用するには、**メジャー**パレットの**マスク**ドロップダウンメニューからアルファチャンネルを選択します。Windowsでは、**アイテム**メニューから**設定**ダイアログボックスを開き、**画像**タブの**チャンネル**ドロップダウンメニューでアルファマスクを適用することもできます。

デフォルトでは、このドロップダウンメニューは**コンポジット**に設定されており、この状態ではイメージ全体の透明度が保持されます。

PSD画像の使用

Adobe Photoshopのネイティブで平滑化されていない画像ファイルを、PSD Import機能を使用して、QuarkXPressに直接取り込むことができます。いったんファイルが取り込まれると、Photoshop（PSD）ファイルで保存されたレイヤー、チャンネル、およびパスを操作できるようになります。このようにPhotoshopとQuarkXPressを統合することで、ワークフローが効率的になり、変更をスキップできます。また、ネイティブファイルを操作できるのでハードディスクのスペースを節約でき、レイヤー、チャンネル、パスへアクセスできるため、創造面での可能性が広がります。

PSD Importにより、**ファイル > 取り込み**を使用して、選択したQuarkXPress画像ボックスにPSDファイルを取り込むことができます。

イメージのレイヤー、チャンネル、パスを操作するには、**ウィンドウ > 高度なイメージ制御**を選択します。 **高度なイメージ制御**パレットを使用すると、レイヤーをブレンドしたり、カラーチャンネルを操作したり、パスを選択したりできます。

PSDファイルの準備

高度なイメージ制御で使用する画像をPhotoshopで準備する場合は、下記の点を念頭に置く必要があります。

- イメージを別のファイル形式で保存する必要はありません。したがって、レイヤーを平滑化する必要もありません。
- テキストを周囲に回り込ませる輪郭のアルファチャンネルまたはクリッピングパスを作成します。
- 別のスポットカラーまたは光沢を適用する領域のチャンネルを作成します。
- 高度なイメージ制御では、レイヤー効果を使用する画像を含む、特定画像のレイヤー情報を読み込めません。代わりにコンポジット画像が使用されます。

高度なイメージ制御では、グレースケール、RGB、CMYK、索引、Duotone、マルチチャンネルの各モードのPSDファイルがサポートされます。

PSDレイヤーの使用

レイヤーを使用していろいろと試すことで、レイアウト全体のコンテキストの中でさまざまなイメージを確認できます。さらに、レイヤーの不透明度を変更したり、ディゾルブ、明、差分などのさまざまなブレンドモードを試したりして、デザインの残りの部分にこれらの効果がどのように影響するかを確認できます。

PSD画像内のレイヤーの不透明度を表示、非表示、ブレンド、変更するには、**高度なイメージ制御**パレットの**レイヤー**ペインを使用します。**高度なイメージ制御**パレットでは、画像ファイルがどのように作成されたかの情報が表示されますが、画像ファイルに基本的な変更を加えることはできません。

- **レイヤー**ペインでは、レイヤーの作成、命名、コピー、複製、整列、位置の変更、削除、結合を行えません。
- PSDファイルにレイヤーがない場合、**高度なイメージ制御**パレットにはバックグラウンドレイヤーだけが表示されます。

PSDレイヤーのブレンド

レイヤーペインの**ブレンドモード**ドロップダウンメニューでは、選択されているレイヤーのピクセルが、そのレイヤーの下にあるすべてのレイヤーのピクセルとどのように関係するかを制御できます。ブレンドモードは、画像編集アプリケーションのものとほぼ同じで、**乗算、覆い焼きカラー、除外**、**彩度**などのオプションを使用できます。

Photoshopレイヤーの表示および非表示

表示のレイヤーは画面に表示し、印刷できます。非表示のレイヤーは画面に表示されず、印刷されません。高度なイメージ制御を使用して、バックグラウンドレイヤーを含む任意のレイヤーを非表示にできます。

- レイヤーを表示するには、そのレイヤーの左にある空のボックスアイコンをクリックします。

- すべてのレイヤーを表示するには、Option+Shift/Alt+Shiftキーを押しながら、空のボックスアイコンをクリックします。
- レイヤーを非表示にするには、目のアイコンをクリックします。
- 1レイヤーを除いたすべてのレイヤーを非表示にするには、Option／Altキーを押しながら目のアイコンをクリックします。

レイヤーのブレンドと不透明度を変更して得られた結果が望ましくない場合、**高度なイメージ制御**パレットメニューの**レイヤー復帰**または**全レイヤー復帰**オプションを使用して、取り込んだPSDファイルの元の状態にレイヤーを戻すことができます。

PSDレイヤーの不透明度の変更

レイヤーペインのフィールドを使用して、選択したレイヤーでのピクセルの透明度を制御できます。透明度は、0%（完全に透明）から100%（完全に不透明）までの範囲で指定できます。

レイヤーマスクの使用

PSDファイルにレイヤーマスクが保存されている場合、**高度なイメージ制御**パレットの**レイヤー**ペインで、Shiftキーを押しながらレイヤーマスクのサムネールプレビューをクリックすると、マスクを有効／無効にできます。

PSDチャンネルの使用

Photoshopチャンネルは、画像に関するカラー情報を保存しています。デフォルトでは、グレースケールおよびインデックスカラーイメージには1つのチャンネル、RGBイメージには3つのチャンネル、CMYKイメージには4つのチャンネルがあります。これらのチャンネルは、まとめて**デフォルトチャンネル**と呼ばれます。**高度なイメージ制御**パレットの**チャンネル**ペインを使用すれば、すべてのチャンネルを表示または非表示にしたり、選択したスポットカラーチャンネルまたはアルファチャンネルのカラーおよび不透明度を変更したり、スポットカラーを選択したインデックスカラーに割り当てたりできます。たとえば、チャンネルに光沢、エンボス、打ち抜きなどの特殊効果を割り当てることができます。

チャンネルの表示および非表示

取り込んだPSDファイル中の表示のチャンネルは画面上に表示して印刷できます。非表示のチャンネルは画面上には表示されず、印刷できません。チャンネルの表示と非表示の切り替え処理は、レイヤーの場合と同様です。

コンポジットチャンネルをクリックすると、CMYKやRGBなどのデフォルトチャンネルがすべて表示されます。

チャンネルのカラーおよび不透明度の変更

高度なイメージ制御パレットを使用して、Photoshopで作成したスポットカラー、マスク、アルファチャンネルのカラー、シェード、不透明度を変更できます。コンポジットイメージをオーバープリントするチャンネルにスポットカラーを割り当てたり、チャンネルの画面表示およびカラーコンポジットの印刷時の不透明度を指定したりできます

Photoshopでマスクチャンネルとして指定されるチャンネルは、スポットカラーとして指定されるチャンネルとは別に取り込まれます。Photoshopでは、マスクチャンネルとスポットチャンネルには不透明度の設定値が割り当てられます。PSD Importでは不透明

度がサポートされているので、マスクチャンネルの不透明度は0%として取り込まれます。取り込んだPSDのマスクチャンネルを表示するには、**高度なイメージ制御**パレットの**チャンネル**タブで、マスクチャンネルを手動で有効にする必要があります。一方、スポットカラーチャンネルはPSDファイルに保存されている不透明度設定を保持し、デフォルトでQuarkXPressのカラーにマップされます。

チャンネルオプションダイアログボックスを使用して、スポットカラーまたはアルファチャンネルのピクセルのカラー、シェード、不透明度を変更します。**チャンネルオプション**ダイアログボックスを表示するには、**高度なイメージ制御**パレット（**ウィンドウ**メニュー）の**チャンネル**ペインで、チャンネルをダブルクリックします。

インデックスカラーチャンネルの使用

デフォルトでは、QuarkXPressでPSD Importを使用して色分解を印刷する場合、インデックスカラーイメージのカラーはCMYKに分解されます。デフォルト設定を上書きするには、**編集 > カラー**でスポットカラーまたはMulti-Inkカラーを作成し、画像で選択したインデックスカラーに割り当てます。高度なイメージ制御では、インデックスカラーイメージのカラーからスポットカラーを作成することもできます。変更しないインデックスカラーは、引き続きCMYKに分解されます。

PSDパスの使用

PSD Importを使用して、クリッピングおよび回り込みを指定するための埋め込みパスを選択することもできます。**高度なイメージ制御**パレットの**パス**ペインから、QuarkXPressのクリッピングパス機能およびテキスト回り込み機能へ簡単にアクセスできます。

パスペインを使用すれば、さまざまなクリッピングパスを選択して、テキスト回り込みの輪郭に使用できます。テキスト回り込みの輪郭を選択するには、最初の列で空のボックスをクリックします。**テキスト回り込み**アイコンが表示され、テキストがクリッピングパスの輪郭に回り込みます。

テキストを回り込ませるには、画像ボックスがテキストの前面に配置されている必要があります。テキストが回りこんでいない場合は、画像ボックスを選択し、**アイテム > ひとつ前へ**または**アイテム > 前面へ出す**を選択します。

また、**パス**ペインを使用し、Photoshopで作成したクリッピングパスを選択して、イメージの表示を制御することもできます。クリッピングパスを選択するには、2番目の列で空のボックスをクリックします。**クリッピングパス**アイコンが表示され、選択したクリッピングパス内の画像領域も表示されます。

PSD Importでパスに加えた変更は、元に戻すことができます。パスは、取り込まれたPSDファイルで作成されたときの、元の状態に戻ります。元の状態に戻すには、**高度なイメージ制御**パレットまたはコンテキストメニューから、**パス復帰**または**全パス復帰**を選択します。

PSD画像の印刷

高度なイメージ制御を使用してレイアウトを印刷する場合は、印刷する各PSD画像内で、レイヤー、チャンネル、およびパスを指定できます。 **高度なイメージ制御**パレットの目のアイコンは表示と印刷の両方を制御するため、画像は表示されたとおりに印刷されます。

クロス参照

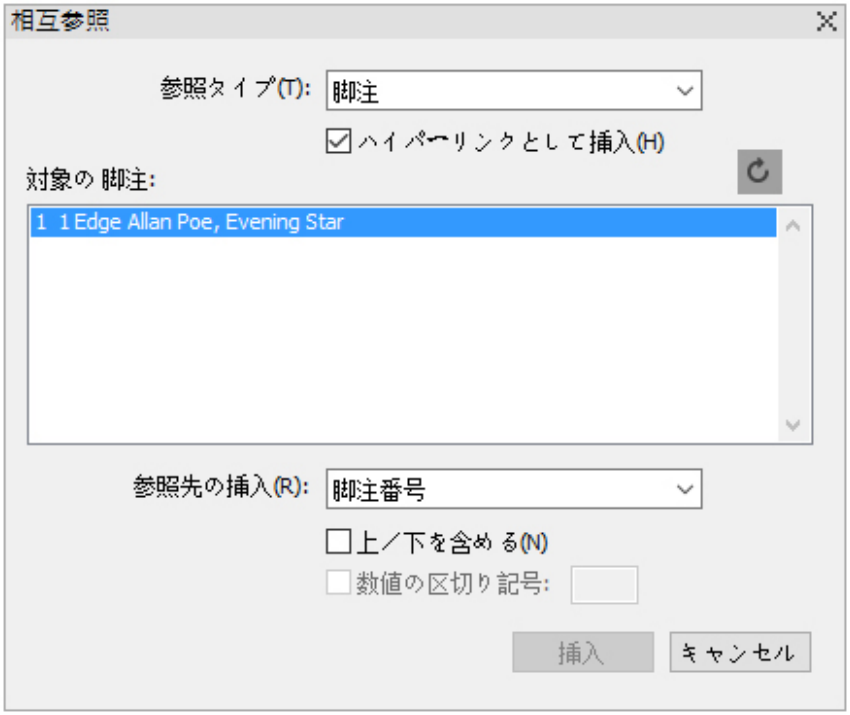
ドキュメント内のクロス参照は、そのドキュメント内で別の場所に存在する関連資料を指し示すテキストです。クロス参照をハイパーリンクとして挿入し、そのドキュメントをPDFとして書き出した場合、読者がそのクロス参照をクリックすると、ドキュメント内で指定された場所へのリンクをたどることができます。

クロス参照は、脚注、文末脚注、テキストアンカー、番号付きアイテムへのみリンクできます。脚注および文末脚注へのクロス参照を使用する場合、それぞれの参照ポイントについて別々の脚注や文末脚注を作成する必要はなく、同じ脚注や文末脚注へ複数の参照を設定できます。

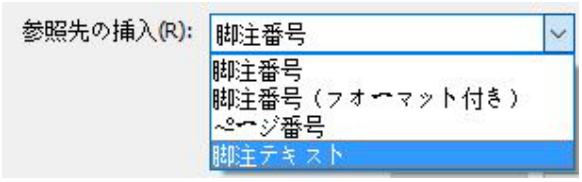
クロス参照の挿入

クロス参照を挿入するには、下記の手順に従ってください。

1. クロス参照を挿入する場所に挿入ポイントを置きます。
2. **スタイル > クロス参照 > クロス参照の挿入**を選択します。**クロス参照**ダイアログボックスが表示されます。



3 **参照タイプ**ドロップダウンメニューで、挿入するクロス参照の種類として**脚注**、**文末脚注**、**段落番号付きアイテム**、**テキストアンカー**のいずれかを選択します。
4 書き出されるPDFドキュメントにハイパーリンクとしてクロス参照を挿入するには、**ハイパーリンクとして挿入**をオンにします。
5 クロス参照のタイプを選択すると、リンクに利用可能な参照のリストが表示されます。リンク先の参照を選択します。
6 **参照の挿入先**ドロップダウンメニューで、オプションを選択します。このドロップダウンメニューに表示されるオプションは、選択したクロス参照のタイプによって異なります。ここで選択した項目により、クロス参照リンクのテキストが決定されます。



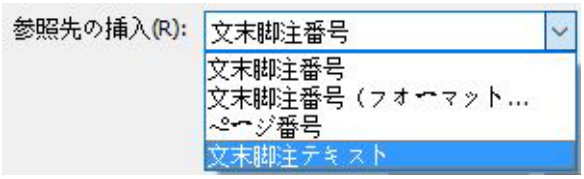
脚注参照タイプの**参照の挿入先**オプション

脚注番号（フォーマットあり／なしの状態で）、脚注が存在するページ番号、または脚注自体のテキストの表示を選択できます。



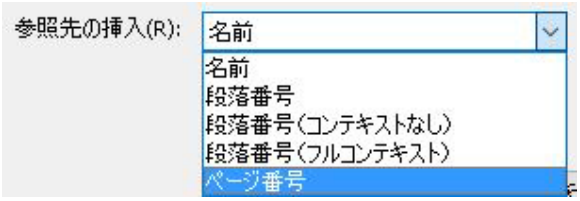
段落番号付きアイテム参照タイプの**参照の挿入先**オプション

段落番号付きアイテムの段落番号（コンテキスト付き／なし）、段落番号付きアイテムが存在するページ番号、またはアイテム自体のテキストの表示を選択できます。



文末脚注参照タイプの**参照の挿入先**オプション

文末脚注番号（フォーマットあり／なしの状態で）、文末脚注が存在するページ番号、または文末脚注自体のテキストの表示を選択できます。



テキストアンカー参照タイプの**参照の挿入先**オプション

テキストアンカー名、段落番号、段落番号（コンテキストなし、またはすべてのコンテキスト付き）、またはテキストアンカーの存在するページ番号を選んで表示できます。

7 **上／下を含める**ボックスをチェックすると、クロス参照で参照されるアイテムが、レイアウトでクロス参照の上／下のどちらに配置されるかが指定されます。

8 **番号の区切り**オプションは、段落番号付きアイテムにクロス参照を挿入するときのみ使用できます。段落番号付きアイテムは階層構造になる場合があり、このオプションを使用すると、選択した記号で段落番号を区切ることができます（3.2.1や3*2*1など）。

➡ アウトラインスタイルに接尾辞を指定している場合、それがデフォルトになります。アウトラインスタイルの接尾辞文字がクロス参照に適用され、**番号の区切り**フィールドに入力した文字は無視されます。

9 **挿入**をクリックします。

クロス参照がドキュメントへ挿入されます。

➡ ショートカットキー（**Windows**ではCtrl／Alt／Shift+F12、**Mac OS X**ではCmd／Opt／Shift+F12）を使用して、クロス参照の親へ移動できます。クロス参照のテキスト内にカーソルを置くか、クロス参照テキストの一部を選択してから、ショートカットキーを押します。

クロス参照の同期

クロス参照の参照先コンテンツが変更されても、クロス参照を同期するまでは反映されません。選択したクロス参照、またはドキュメントに含まれているすべてのクロス参照を同期できます。

クロス参照を同期するには、下記の手順に従ってください。

1 1つのクロス参照を同期するには、そのクロス参照にカーソルを置きます。

2 **スタイル > クロス参照 > クロス参照の同期**を選択すると、選択したクロス参照が同期され、**スタイル > クロス参照 > すべてのクロス参照の同期**を選択すると、現在のドキュメントに含まれているすべてのクロス参照が同期されます。

参照先のコンテンツに加えられたすべての変更が、クロス参照に反映されます。

カラー、不透明度、およびドロップシャドウ

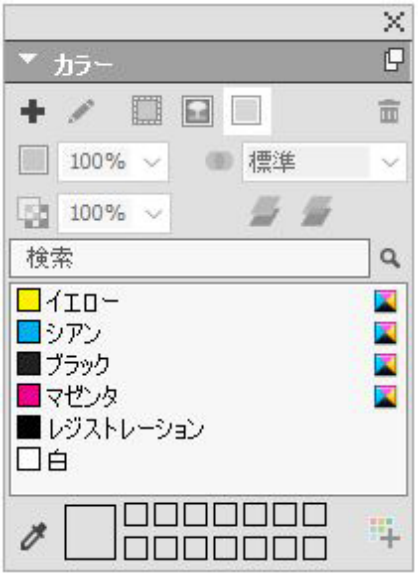
QuarkXPressでは、カスタムカラーの作成、いくつかの標準化カラーマッチングシステムからの色の選択、およびカラーの編集を行えます。テキストと画像にカラーとシェードの両方を適用できます。テキストの不透明度もテキストのカラーと同じ方法で制御できます。アイテムとテキストの両方にドロップシャドウを適用できます。

カラーの使用

一部のカラーは、自動的に**カラー**パレットに組み込まれます。他のカラーを使用するには、**カラー**ダイアログボックスを使用してカラーを作成するか、既存のカラーを編集する必要があります。このダイアログボックスでは、カラーホイールや数値フィールド、カラーマッチングシステムを使用してカラーを作成できます。また、色の選択ツールを使用してプロジェクトにカラーを追加することもできます。

カラーパレット

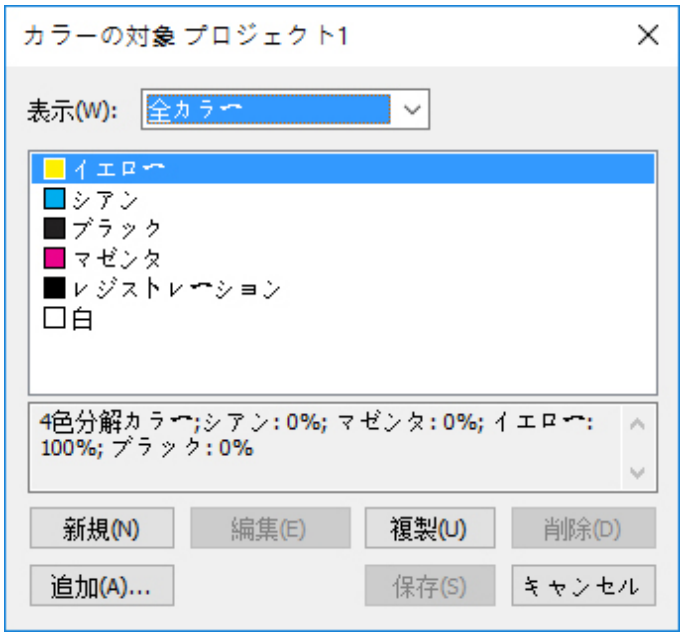
カラーパレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用して、プロジェクト用のカラーを追加、作成、編集、複製、管理できます。このパレットでは、フレームおよびボックスのフィル、ブレンドモード、オーバープリント、ノックアウトの設定も制御できます。



カラーパレットにより、カラーを作成、編集、削除できます。

カラーダイアログボックス

カラーダイアログボックス（**編集 > カラー**）を使用して、カラーを作成、編集、複製、削除、および追加できます。



カラーダイアログボックスにより、カラー定義を作成、編集、削除できます。

カラーの作成

カラーの作成時、いくつかのカラーモデル、または多数あるカラーマッチングシステムから選択できます。頻繁に使用するカラーがある場合、ファイルが開いていないときに、アプリケーションのデフォルトカラーリストのカラーを作成できます。最大で1,000までのデフォルトカラー、またはアーティクル固有のカラーを作成できます。カラーを作成するには、**編集 > カラー**を選択して**カラー**ダイアログボックスを表示し、**新規**をクリックして**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。その後、**名前**フィールドに名前を入力して新しいカラーのカラーモデルを指定します。**カラー**パレットの**新規**ボタンをクリックしてカラーを作成することもできます。

- RGB：この加法混色法カラーシステムは、スライドレコーダーやカラービデオモニターで最も多用され、デジタル出力にも適しています。赤、緑、および青の光を混ぜ合わせ、ビデオ画面に色を表示します。
- HSB：このカラーモデルは色を混ぜ合わせる方法と似ているため、デザイナーに多く使用されます。色相はカラーピグメントを、彩度はカラーピグメントの量を、明度はカラーの黒の量を表します。
- LAB：このカラースペースは、モニターやプリンタの製造業者による解釈の違いに依存しないように設計されています。LABカラースペースとも呼ばれるLABカラーモデルは、カラーを表現するための標準3次元モデルです。輝度座標（L）、および2つのクロミナンス座標（緑色-赤色のA）、および（青色-黄色のB）でカラーを指定します。
- Multi-Ink：このカラーモデルは、既存のプロセスやスポットインキの色調のパーセントを基にしています。

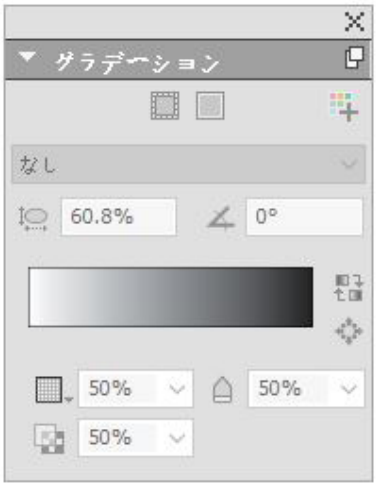
- **CMYK**：CMYKは、印刷機上でシアン、マゼンタ、黄色、および黒色インキを組み合わせてカラーを再生成するために、プロフェッショナルプリンタで使用される減法混色法カラーモデルです。
- カラーマッチングシステムからカラーを選択して、カラーリストに追加するには、**モデル**ドロップダウンメニューから標準カラーマッチングシステムの1つを選択します。

グラデーションの作成

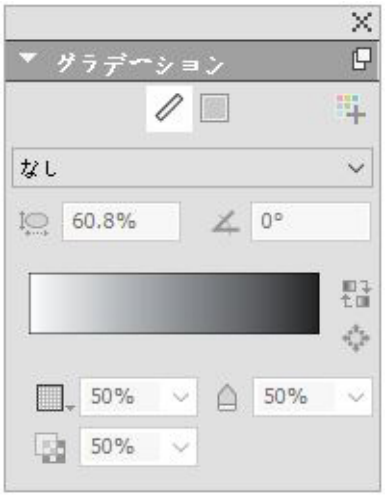
グラデーションは、あるカラーから別のカラーへの変化です。**グラデーション**パレット（**ウィンドウ > グラデーション**）を使用してマルチカラーグラデーションを作成し、グラデーションのカラー、それぞれのシェード、不透明度、ブレンドのパターン、およびボックスまたはラインに対するブレンドの相対角度を指定できます。グラデーションには、プロジェクトで使用できるなら、どのカラーでも含めることができます。

マルチカラーグラデーションを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **ウィンドウ > グラデーション**メニューの**グラデーション**パレットを開きます。



ボックスの**グラデーション**パレット。



ラインの**グラデーション**パレット。

2 レイアウト上で、グラデーションを適用するボックスまたはラインを選択します。選択したすべてのアイテムにグラデーションが適用されます。

3 ラインのみの場合は、**ライン**アイコンをクリックすると、そのラインだけにグラデーションが適用されます。

4 ボックスのみの場合は、**フレーム**アイコンをクリックすると、ボックスのフレームだけにグラデーションが適用されます。

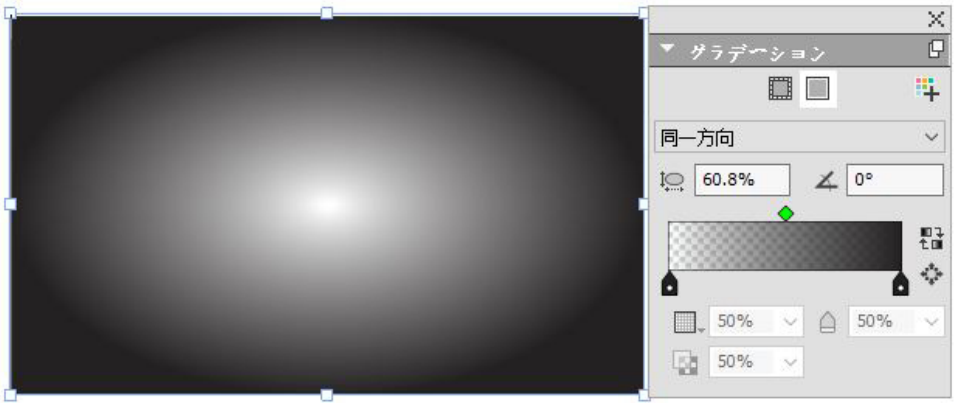
5 **バックグラウンド**アイコンをクリックすると、アイテムのバックグラウンドだけにグラデーションが適用されます。

6 **カラーに追加**アイコンをクリックすると、作成したグラデーションが、このプロジェクトのカラーリストに追加されます。**グラデーションの編集**ダイアログが表示され、新しいカラーグラデーションの名前を入力できます。作成した混合グラデーションカラーは、**カラー**パレットに表示されます。

➡ テキストボックスを編集しているとき、または**カラー**パレットで**テキスト**アイコンが選択されているときは、グラデーションカラーを利用できません。

7 **種類**ドロップダウンメニューで、作成するグラデーションの種類として**なし**、**軸方向**、**同一方向**、**方形**、**ダイアモンド**のいずれかを選択します。

➡ グラデーションの種類を選択すると、選択したアイテムのバックグラウンドカラーと黒色の2色を使用して、デフォルトのグラデーションが自動的に作成されます。グラデーションを選択すると、選択内容に応じて適切なオプションとコントロールが有効／無効になります。



グラデーションの種類はいつでも変更できます。グラデーションの種類を変更したとき、定義済みのカラーとオプションはすべて保持されます。

8 グラデーションの定義には、次のオプションとコントロールを使用します。

- **縦横比**：縦横比は、同一方向グラデーションの形状を定義し、制御するために使用されます。作成したそれぞれの同一方向グラデーションについて、デフォルトの縦横比は、選択したアイテムの形状により異なります。選択したアイテムのサイズや形状を変更すると、縦横比も自動的に調整されます。このオプションは、同一方向グラデーションでのみ使用できます。
- **角度**：グラデーションの角度を定義します。
- **グラデーションスライダ**を使用して、グラデーションの表示のプレビューを確認できます。カラーストップアイコン（）は、それぞれの2カラーグラデーションの開始点と終了点に配置されます。カラーストップをクリックしてドラッグすると、位

置を変更できます。または任意のカラーストップを選択してから、下のオプションを使用してカラー、シェード（）、不透明度（）、位置（）を数値で定義することもできます。アイコンは、2つのカラーストップの中間点に配置されます。中間点アイコンをクリックしてドラッグすると、位置を変更できます。または、アイコンを選択してから数値を指定して位置を変更することもできます。

➡ 中間点アイコンの位置は、13%から87%の範囲内に保つ必要があります。この制限範囲外にはドラッグできず、範囲外の値を入力することもできません。

カラーを追加するには、**グラデーションスライダ**を使用し、2つのカラーストップの間のどこかをクリックして、新しいカラーストップを追加します。新しいカラーストップを挿入できる場所へカーソルを移動すると、カーソルの横にプラス記号（）が表示されます。その状態で、新しいカラーストップのカラー、シェード、不透明度、位置を定義できます。

➡ カラーを定義するときは、そのプロジェクトで使用可能な任意のカラーを選択でき、ここで新しいカラーを作成することもできます。カラーストップを追加し、同時に新しいカラーを定義するには、カラーストップを追加するときに**Shift+クリック**します。**カラーの編集**ダイアログが表示され、新しいカラーを定義できます。

➡ カラーストップを削除するには、クリックして下へドラッグします。

- 逆転アイコンをクリックすると、グラデーションを逆転できます。
- 中央のカラーを広げてグラデーションを柔らかくするには、**完全同一方向**アイコンをクリックします。このオプションは、同一方向グラデーションでのみ使用できます。

9 次のオプションは、アイコンの下のドロップダウンメニューにあります。

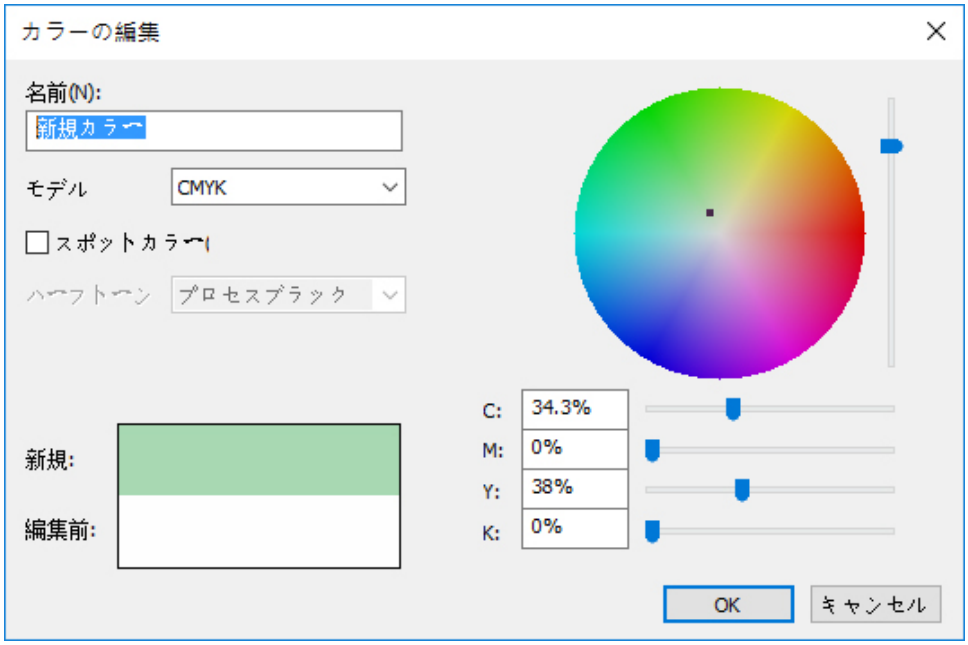
- **カラーに追加**：作成したグラデーションを、このプロジェクトのカラーリストに追加します。**グラデーションの編集**ダイアログが表示され、新しいグラデーションの名前を入力できます。作成した混合グラデーションカラーは、**カラー**パレットに表示されます。
- **グラデーションのコピー**：このオプションを使用して、選択したアイテムに適用されているグラデーションをコピーします。
- **カラーストップのコピー**：このオプションを使用して、選択したアイテムに適用されているグラデーションに定義済みのカラーストップのみをコピーします。その後で、これらのカラーストップ定義を他のグラデーションに適用できます。
- **グラデーションのペースト**：このオプションを使用して、コピーしたグラデーションを、選択したアイテムへペーストします。
- **カラーストップのペースト**：このオプションを使用して、コピーしたカラーストップを、選択したアイテムに存在するグラデーションへペーストします。
- **グラデーションのオーバープリント**：このオプションを使用して、ノックアウトを防止するためのオーバープリントオプションを設定します。

作成した混合グラデーションカラーは、そのカラーが適用されているアイテムが選択されたとき、**カラー**パレットに**混合カラー**という名前のバックグラウンドカラーとして表

示されます。グラデーションに含まれているすべてのカラーのシェードと不透明度は、**カラー**パレットを使用して一度に変更できます。

カラーの編集

既存のカラーを編集するには、**編集 > カラー**を選択して**カラー**リストで編集するカラーを選択し、**編集**をクリックして**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。**カラー**リストで編集するカラーをダブルクリックしても、**カラーの編集**ダイアログボックスを表示できます。



カラーの編集ダイアログボックス

カラーの複製

既存カラーを複製するには、**編集 > カラー**を選択して**カラー**リストから複製するカラーを選択し、**複製**をクリックして複製する**カラーの編集**ダイアログボックスを表示します。

色の削除

デフォルトカラーの一部は削除できませんが、作成した新しいカラーや複製カラーは削除できます。カラーリストからカラーを削除するには、**編集 > カラー**を選択し、**カラー**リストから削除するカラーを選択して、**削除**をクリックします。

色の選択ツールを使用してカラーを追加する

カラーパレットにある色の選択ツールを使用して、プロジェクトに含まれているアイテムや画像からネイティブのカラーを抽出し、利用可能なカラーのリストに追加できます。

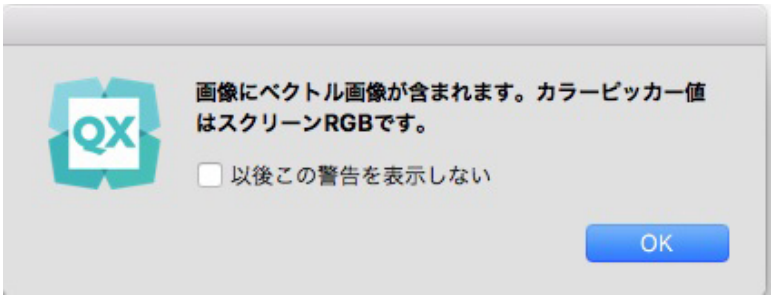
ツールで抽出される値は、カラーの抽出対象であるアイテム／画像によって異なります。

- すべてのラスターのみの画像と、QuarkXPressのオブジェクト／アイテムでは、画像からソースカラーの値が抽出されます。
- 取り込まれたベクトル画像では、画面のRGB値が抽出されます。

- ベクトルとラスターの組み合わせ（たとえば、一部のPDF画像）で、ユーザーがベクトルオブジェクトをクリックすると、警告が表示され、選択された画像にはベクトルグラフィックが含まれているため、ツールではRGB値が抽出されることをユーザーへ通知します。



- 同様なベクトルとラスターの組み合わせで、ユーザーが下にラスターのあるベクトルオブジェクトをクリックすると、警告が表示され、選択された画像にはベクトルグラフィックが含まれていることが通知され、**Shift+クリック**を使用して下のラスター画像からソース値を抽出するよう勧告されます。

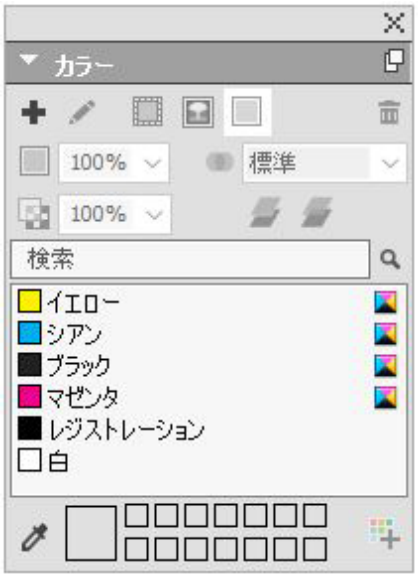


複数のカラーを抽出してから、どのカラーを保存するか、破棄するかを決定できます。

追加されたこれらのカラーはプロジェクトで利用可能になり、テキスト、ライン、ボックスに使用でき、グラデーションの作成にも使用できます。

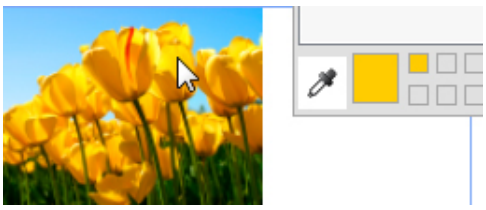
色の選択ツールを使用してプロジェクトにカラーを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **カラー**パレットを開きます。

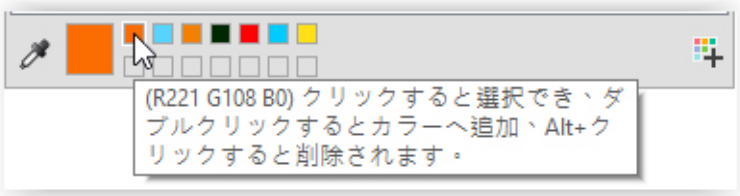


2 色の選択ツールをクリックします。

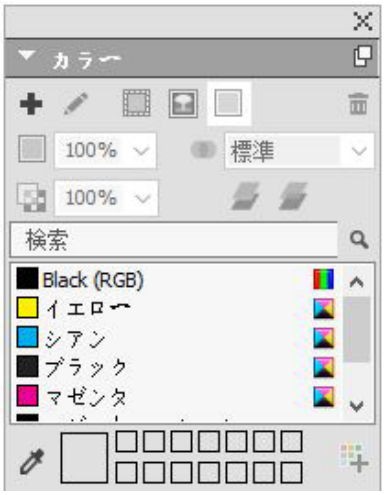
3 プロジェクト内で、追加するネイティブカラーをクリックします。そのカラーが、**カラー**パレットの下端に表示されます。



4 個別のカラーを追加するには、カラーをダブルクリックします。個別のカラーを削除するには、**Alt**キーを押しながらカラーをクリックします。



➡ デフォルトのカラー名は、カラーモデルの値とともに追加されます。RGBは255までの値、CMYKはパーセンテージ単位です。



5 Alt／Option+Shiftキーを押したまま アイコンをクリックすると、色の選択ツールで選択されているすべてのカラーを同時に追加できます。

別アーティクルやプロジェクトからのカラーの取り込み

別アーティクルやプロジェクトのカラーを追加するには、**カラー**ダイアログボックス（**編集 > カラー**）または**追加**コマンド（**ファイル > 追加**）を使用します。

カラーの一括変換

あるカラーが適用されたすべてのアイテムを別のカラーに一括変換するには、カラーを目的のカラーに編集するか、**編集 > カラー**を選択して**カラー**ダイアログボックスを表示し、編集するカラーの名前を選択して**編集**をクリックし、変更を加えます。

あるカラーが適用されたすべてのアイテムとテキストを別のカラーに一括変換する場合は、実行前に必ず作業を保存してください。こうすることで、不適切なカラーに変換されてしまった場合に、**ファイル > 復帰**を選択するだけで不適切な変更を取り消すことができ、他の作業が影響を受けることもありません。

カラーとシェードの適用

ボックス、フレーム、および画像にカラーとシェードを適用するには、下記の3つの方法があります。

- （Windowsのみ）**アイテム > 設定**メニューを選択して**設定**ダイアログボックスを開き、**ボックス**および**フレーム**タブを使用します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用します。
- **メジャー**パレットを使用します。

白黒ビットマップやグレースケールフォーマットの画像を含む画像ボックスがアクティブになっている状態で、**スタイル > カラー**にある**カラー**コマンドを選択すれば、これらの画像の暗い領域にカラーを適用できます。

カラーおよびシェードをテキストに適用

カラーおよびシェードをテキストに適用するには、下記の5つの方法があります。

- カラーおよびシェードは、**スタイル > カラー**および**スタイル > シェード**コマンドを使用して適用できます。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用します。
- **スタイル > 文字スタイルシート**にある**文字スタイルシート**コマンドを使用すれば、作成した文字スタイルシートを使用している選択済みテキストに、カラーおよびコマンドを適用できます。
- **（Windowsのみ） スタイル > 文字**メニューで表示される**文字属性**ダイアログボックスを使用できます。
- **メジャー**パレットを使用します。

ラインへのカラーとシェードの適用

ラインにカラーとシェードを適用するには、下記の4つの方法があります。

- **（Windowsのみ） 設定**ダイアログボックス（**アイテム > 設定**）の**ライン**タブのコントロールを使用します。
- **カラー**パレット（**ウィンドウ > カラー**）を使用します。
- カラー、シェード、およびラインギャップ設定を適用するには、**スタイル > カラー**および**スタイル > シェード**コマンドを使用します。
- **メジャー**パレットを使用します。

透明度ブレンドモードの適用

ブレンドモードは、オブジェクトのカラーとその下にあるオブジェクトのカラーを混合する方法を変更するものです。オブジェクトにブレンドモードを適用すると、そのオブジェクトのレイヤーまたはグループの下にあるオブジェクトに、ブレンドモードの効果が見られるようになります。

QuarkXPress 2017では、RGBブレンドのカラースペースのみがサポートされています。このドキュメントに示されているすべての例は、RGBブレンドのカラースペースレンダリングに基づいたものです。これらのオブジェクトのレンダリングは、使用されるシミュレーションプロファイルに基づき、他のアプリケーションでは異なる可能性があります。QuarkXPressプロジェクトに含まれるオブジェクトは、プロジェクトがRGBカラーモードで書き出されれば、Acrobat Readerでも同じようにレンダリングされます。レンダリングをシミュレートするには、Acrobat Professional Versionでは出力プレビューダイアログを閉じるか、QuarkXPressで使用されているものと同様のRGBプロファイルを使用する必要があります。

ボックス、フレーム、画像、テキスト、ラインにブレンドモードを適用するには、いくつかの方法があります。

- **（Windowsのみ） アイテム > 設定**メニューを選択して**設定**ダイアログボックスを開き、**ボックス**、**テキスト**、**フレーム**タブを使用します。
- **ウィンドウ > カラー**メニューの**カラー**パレットを使用します。
- **ウィンドウ > イメージ編集**メニューの**画像編集**パレットを使用します。
- **メジャー**パレットの**ホーム**、**画像ボックス**、**テキスト**、**フレーム**タブを使用します。

次のブレンドモードを適用できます。

- **標準**：上と下のどちらのオブジェクトについても、カラー値を変更しません。これがデフォルトのモードです。



- **乗算**：上のオブジェクトに**乗算**ブレンドモードが適用されると、上のオブジェクトの各カラーピクセルは、下のオブジェクトの各カラーピクセルと乗算されます。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**乗算**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

- **スクリーン**：上のオブジェクトに**スクリーン**ブレンドモードが適用されると、上と下両方のオブジェクトのカラーピクセルが反転されてから乗算され、その結果のカラーピクセルがさらに反転されます。結果として生成されるカラーは通常、より明るいカラーになります。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**スクリーン**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

- **オーバーレイ**：オーバーレイは、**乗算**と**スクリーン**のブレンドモードを組み合わせたものです。重なり合っている領域の下にあるオブジェクトのカラーに応じて、明るいカラーはさらに明るく、暗いカラーはさらに暗くなります。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**オーバーレイ**ブレンドモードが適用され、シアンとイエローのオブジェクトに重なっています。

- **暗**：重なっている領域の明るいピクセルが暗くなります。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**暗**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

- **明**：**明**ブレンドモードは**暗**ブレンドモードの逆で、重なっている領域の暗いピクセルが明るくなります。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**明**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

- **覆い焼きカラー**：上のオブジェクトのカラーに応じて、下のオブジェクトのカラーが明るくなります。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**覆い焼きカラー**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

- **焼き込みカラー**：上のオブジェクトのカラーに応じて、下のオブジェクトのカラーが暗くなります。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**焼き込みカラー**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

- **ハードライト**：**ハードライト**ブレンドモードは、**乗算**と**スクリーン**のブレンドモードを組み合わせたものです。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**ハードライト**ブレンドモードが適用され、シアンとイエローのオブジェクトに重なっています。

- **ソフトライト**：下のオブジェクトのカラーに応じて、カラーが暗く、または明るくなります。下のオブジェクトのカラーがグレイ値で50%未満の場合、結果としてカラーは明るくなります。下のオブジェクトのカラーがグレイ値で50%を超える場合、結果としてカラーは暗くなります。



上にあるマゼンタのオブジェクトに**ソフトライト**ブレンドモードが適用され、2つのグレーのオブジェクトに重なっています。

- **差分**：重なり順序にかかわらず、オブジェクトの明るい方のカラー値から、別のオブジェクトのカラー値を減算します。

1.



上にあるマゼンタのオブジェクトに**差分**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

2.



上にあるシアンのオブジェクトに**差分**ブレンドモードが適用され、マゼンタのオブジェクトに重なっています。

- **除外**：**除外**ブレンドモードは**差分**ブレンドモードとほぼ同じで、コントラストの低いものです。

1.



上にあるマゼンタのオブジェクトに**除外**ブレンドモードが適用され、シアンのオブジェクトに重なっています。

2.



上にあるシアンのオブジェクトに**除外**ブレンドモードが適用され、マゼンタのオブジェクトに重なっています。

不透明度の使用

不透明度はカラーレベルで適用されるため、ブレンドの第1および第2カラーを含め、カラーを適用可能な対象すべてに対して不透明度を指定できます。これは、同じアイテムの異なる属性で不透明度を有効にできることを意味し、たとえば、テキストボックスフレーム、バックグラウンド、画像、およびテキストのそれぞれの文字に、異なる不透明度を適用することができます。

不透明度の指定

不透明度の指定は、カラーのシェードの指定と同様に、簡単に行えます。実際に、**カラー**パレット、**メジャー**パレット、**スタイル**メニュー、**設定**ダイアログボックスの各種タグなど、カラーを選択可能な場所ではどこでも、不透明度の値を0%（完全に透明）から100%（完全に不透明）までの間で、0.1%単位で入力できます。

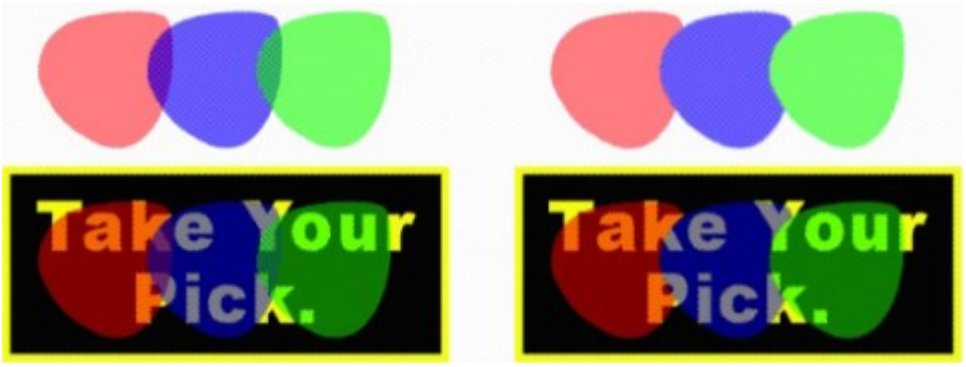
画像の不透明度を指定するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ） 画像**タブ（**アイテム > 設定**）の**不透明度**フィールドに値を入力します。
- **（Mac OS Xのみ） メジャー**パレットの**画像ボックス**タブの**不透明度**フィールドに値を入力します。

グループの不透明度の指定

不透明度が異なるアイテムをスタックすると、カラーが混ざり合い、意図しないオーバープリントが起きることがあります。たとえば、不透明度100%のシアンのボックスの前面に不透明度30%のイエローのボックスを配置すると、前面のボックスはわずかに緑がかってしまいます。

アイテムをグループ化し、個々のアイテムの不透明度ではなく、グループの不透明度を指定すれば、色の重なりを制御できます。このためには、 Windowsでは**アイテム**メニューから**設定**ダイアログボックスを開き、**グループ**タブの**グループ不透明度**フィールドを使用します。 Mac OS Xでは、**メジャー**パレットの**ホーム**タブを使用します。目的の効果によっては、個々のアイテムの**不透明度**フィールドを100%に戻す必要がある場合もあります（戻さない場合、グループの不透明度に各アイテムの不透明度が加算されます）。



ここに示すグループ化された3つのアイテムで、アイテムの不透明度とグループの不透明度を比較してみます。左の例では、各アイテムが50%の透明度で、前面のアイテムは後面にあるアイテムと混ざり合っています。右の例では、各アイテムの不透明度は100%ですが、グループの不透明度は50%に設定されています。そのため、グループ全体はバックグラウンドと混ざり合っています。ただし、グループのアイテムには、グループの不透明度だけでなく、アイテムごとの不透明度も設定できます。

透明度のあるブレンドの作成

白色ではなく、**なし**で色をブレンドできます。**カラー**パレットで、ブレンドの1番目または2番目のカラーに**なし**を選択します。 **Windows**では、**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ボックス**タブも使用できます。

カラーマネージメント

QuarkXPressは、ユーザー入力がほとんど不要なICCベースのカラーマネージメントツールを通じて、狙いどおりのカラーを生成するという課題に対応します。カラーに精通しているユーザーなら、QuarkXPRessでカラーマネージメントのさまざまな側面を自在に制御できます。カラーマネージメントの実装を合理化するだけでなく、多様な機器での出力をシミュレートできるプレビューを使用して、真のソフトプルーフを実行できます。

ソースセットアップおよび出力セットアップ

QuarkXPressでのカラーマネージメントの実装により、カラー担当者は、ソースセットアップおよび出力セットアップと呼ばれる、カラーマネージメント設定の「パッケージ」を作成し、細かく調整できるようになりました。**ソースセットアップ**では、RGBやCMYK、LAB、およびグレイスケールのカラースペースでのソリッドカラーや画像のプロファイルとレンダリング方法を個別に指定します。また、名前付きカラーのソースカラースペースや、インキの基底カラースペースも指定します。**出力セットアップ**では、出力プロファイルとカラーモデルを指定し、スクリーンでさまざまな出力をシミュレーションするためのプルーフオプションを設定します。

カラーマネージメントの紹介

作業方法には多くの選択肢があります。実証済みのデフォルト設定を使用する、カラーの専門家が作成したソースセットアップと出力セットアップを実装する、レガシーカラーマネージメント環境内で作業するなど、さまざまな方法を使用できます。

デフォルトのカラーマネージメント環境での作業

デフォルト設定は、ほとんどの状況で正確なプレビューと美しい出力が得られるように設計されています。設定を行う必要はありません。デフォルト設定を確認する場合は、

QuarkXPress／**編集**メニューを選択して**環境設定**ダイアログボックスを開き、**ディスプレイ**および**カラーマネジャー**の選択内容を調べてください。

モニタープロファイルの指定

ディスプレイペインには、使用しているモニタープロファイルが表示されます。デフォルト設定の**自動**は、**Mac OS X**または**Windows**で認識されている現在のモニターを参照します。**モニタープロファイル**ドロップダウンメニューで、別のプロファイルを選択できます。たとえば、モニター用のカスタムプロファイルがある場合や、ノートPCとデスクトップコンピュータで切り替えながら同じ表示環境をシミュレーションする場合など、デフォルトのモニタープロファイルを変更できます。

ソースセットアップの指定

カラーマネジャーペインの**ソースオプション**領域には、デフォルトのソースセットアップである**QuarkXPress デフォルト**が表示され、最新で実証済みのカラーマネージメント環境を提供します。QuarkXPress 7.0以前のバージョンのカラーマネージメント環境を使用する場合は、**ソースセットアップ**ドロップダウンメニューで**QuarkXPress旧バージョンの設定**を選択します。

デフォルトのプルーフ出力セットアップの指定

印刷レイアウトでカラーを表示するためのデフォルトの出力セットアップを指定するには、**出力のプルーフ**ドロップダウンリストでオプションを選択します。

レンダリング方法の指定

レンダリング方法ドロップダウンメニューには、1つのカラースペースから別のからスペースにカラーを変換するときに使用する方法が表示されます。デフォルト設定の**相対的な色域を維持**では、ソースとターゲットの両方の範囲内の色が維持されます。唯一変更されるソースカラーは、ターゲットの範囲内に収まらないソースカラーです。たとえば、写真ではなく線画とPantoneカラーに重点が置かれている場合など、その作業の種類によって、**レンダリング方法**ドロップダウンメニューで別のオプションを選択できます。

マルチカラースペースEPSおよびPDF画像のカラー管理

一部のEPSおよびPDFファイルに、異なるカラースペースを使用する要素を含めることができます。たとえば、PDFまたはEPSファイルに、RGBカラースペースを使用する画像と、CMYKカラースペースを使用するカラーが含まれていることがあります。指定した出力セットアップを使用してQuarkXPressでこれらの多様な要素を適切に管理するには、以降に取り込んだEPSやPDFの画像で、**新規のベクトルEPS/PDFをカラー管理する**をオンにします。

アクティブなプロジェクトで既に取り込まれているEPSおよびPDFファイルでベクトルコンテンツの色を管理するには、**配置済みのベクトルEPS/PDFを含む**をオンにします。

カラーエキスパートからのソースセットアップと出力セットアップの使用

カラーエキスパートが、ユーザーのワークフローに固有の、または個々のジョブまたはクライアントに固有のカスタムソースセットアップやカスタム出力セットアップを作成する場合は、環境設定、表示オプション、出力設定、およびJob Jacketからそれらの設定を簡単に使用できます。たとえば、出力サービスや印刷所は、自社の装置にとって適切な出力になるようにするため、ユーザーに設定方法を指導する場合があります。

ソースセットアップの追加

作業対象のプロジェクト用にソースセットアップを作成すると、ソースセットアップを他のプロジェクトに追加できます。ソースセットアップにナビゲートして選択するには、**ソースセットアップ**ダイアログボックスにある**追加**ボタン（**編集 > カラーのセットアップ > ソース**）を使用します。

出力セットアップの取り込み

出力セットアップがユーザー向けに作成されている場合、**出力セットアップ**ダイアログボックス（**編集 > カラーのセットアップ > 出力**）で出力セットアップを取り込めます。出力セットアップファイルをナビゲートして選択するには、**取り込み**ボタンを使用します。

ソースセットアップおよび出力セットアップの選択

カスタムのソースセットアップおよび出力セットアップを使用するには、下記のようにさまざまなカラーマネージメントメニューからその設定を選択します。

- カラーソース：カスタムソースセットアップを使用するには、**QuarkXPress/編集**メニューの**環境設定**ダイアログボックスにある**カラーマネージメント**ペインの**ソースセットアップ**ドロップダウンメニューからそのレイアウトの設定を選択します。
- カラーディスプレイ：プルーフ用のカスタム出力セットアップを使用するには、**表示**メニューの**出力のプルーフ**サブメニューから設定を選択します。
- カラー出力：印刷用および他の種類の出力用のカスタム出力セットアップを使用するには、**ファイル > 印刷**の**印刷**ダイアログボックスの**カラー**ペインにある**設定**ドロップダウンメニューから設定を選択します。

ジョブジャケットでのソースおよび出力セットアップの使用

ジョブジャケットファイルからプロジェクトを作成する場合には、適切なソースセットアップと出力セットアップが自動的に取り込まれ、選択されます。この場合でも、追加セットアップをインポート、追加、および作成し、それらの追加セットアップを選択して表示および出力することができます。

レガシーカラーマネージメント環境での作業

QuarkXPress 7.x、8.x、9.xのプロジェクトを開くと、そのカラーは従来どおりに表示および出力されます。

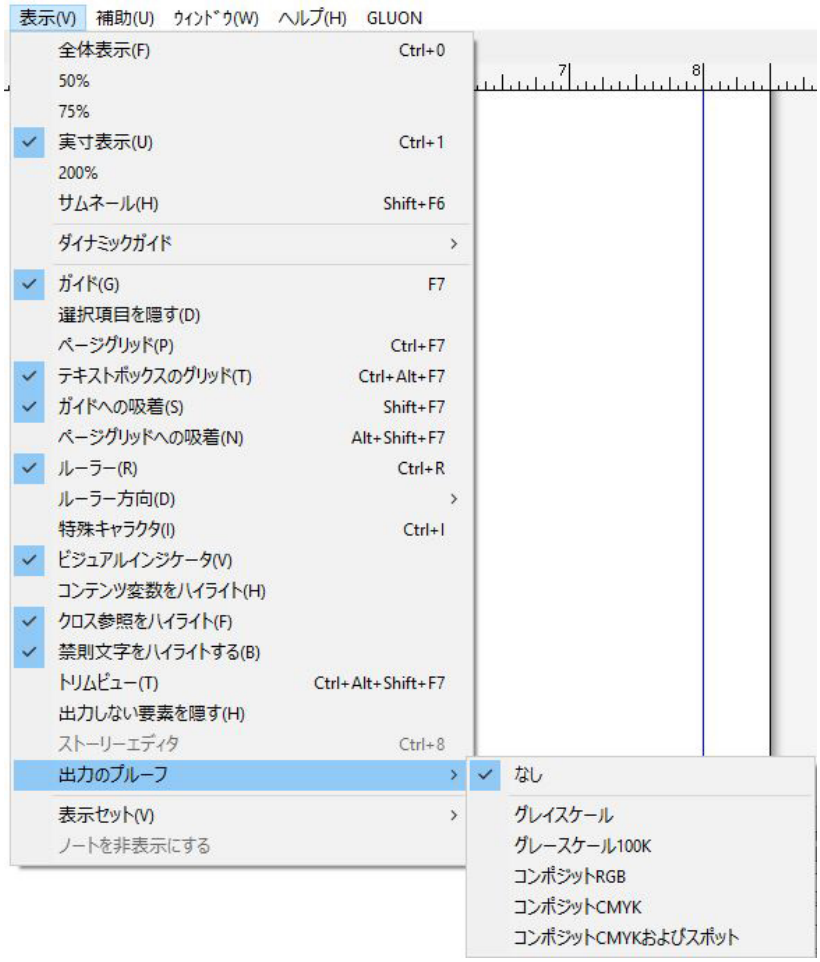
また、QuarkXPressのバージョン 7.x、8.x、9.xのレガシーカラーマネージメント環境で作業を継続できます。レガシーカラーマネージメント環境での作業を選択した場合、QuarkXPressでのソフトプルーフ機能を利用できます。

QuarkXPress／編集メニュー **> 環境設定**の**カラーマネジャー**環境設定で、**ソースセットアップ**を**QuarkXPress デフォルト**（またはカスタムオプション）に変更すれば、簡単にQuarkXPress 7メソッドへアップグレードできます。**ソースセットアップ**はレイアウト固有なので、複数のレイアウトを持つプロジェクトを開く場合は、各レイアウトのソースセットアップを変更できます。次に、**編集 > カラーのセットアップ > 出力**で使用する出力セットアップで、以前のバージョンのプロファイルではなく、**QuarkXPress デフォルト**プロファイルが指定されていることを確認します。

画面上でのカラーのプルーフ（ソフトプルーフ）

QuarkXPressには、出力範囲のソフトプルーフには十分な、正確なディスプレイシミュレーションが用意されています。柔軟なシミュレーションオプションでは、ソース設定、出力設定、および画像に適用された異なるプロファイルなど、他のカスタム設定を使用して、同じレイアウトが異なるメディアに出力されたり、異なる印刷方式であったりした場合にどのように表示されるかを示します。

ソフトプルーフを実行するには、**表示**メニューの**出力のプルーフ**サブメニューからオプションを選択します。メニューでは、レイアウトで利用可能な出力設定がすべて一覧になるので、カラーエキスパートからカスタム出力設定をインポートした場合、ここで一緒に表示されます。オプションを選択すると、**ウィンドウ**メニューの**カラー**パレットと、QuarkXPress全体に渡って表示されるカラースウォッチとともに、レイアウト全体がそのカラースペースで表示されます。



表示メニューの**出力のプルーフ**サブメニューには、各カラーがどのように出力されるのかを確認できるディスプレイシミュレーションオプションが用意されています。たとえば、スポットカラーをプロセスカラーに変換したり、RGBレイアウト全体をグレイスケールで出力したりする予定がある場合に、選択内容がどのように見えるのかをプレビューできます。

エキスパート向けカラーマネージメント

QuarkXPressは特別な設定をしなくても、ワークフロー全般に渡って高品位なカラーを実現するようにに設計されています。カラー処理に詳しい上級ユーザーであれば、いつ

でも特定のジョブや印刷機、出力工程に応じてカラーマネージメント設定をカスタマイズしたり、微調整したりできます。カラー理論や、プロファイルとレンダリング方法などのカラーマネージメント用語に精通しているユーザーなら、特定のワークフローを反映するカスタムソースセットアップや出力セットアップを作成できます。設定は移行できるため、他のユーザーと設定を共有して、画面や印刷機によって色の違いが生じるのを防ぐことができます。

ソースセットアップの作成

ソースセットアップは、出力前のレイアウトのカラー（つまり、カラーの派生元）を示します。ソースセットアップには、RGB、CMYK、LAB、およびグレースケールでのカラーと画像の両方のプロファイルとレンダリング方法が含まれます。また、名前付きカラー（Pantone Process Coatedカラー）やインキ（シアンやマゼンタ、黄色、黒色と複数インキ）などの基底のカラースペースに関する情報も含まれます。クライアントの標準ワークフローや特定のプロジェクトに応じてソースセットアップを作成できます。

ソースセットアップの作成を始めるには、デジタルカメラやスキャナのタイプなど、クライアントのワークフローに関わるハードウェアとソフトウェアの詳細を把握し、関連プロファイルが利用可能であることを確認する必要があります。サンプルプロジェクトを見て、ロゴ、チャートやグラフ、写真、Duotone、SWOPへの出力など、どのような種類の画像、カラー、インキ、機器などに対応したものかを確認することも役立ちます。

ソースセットアップを作成するには、**編集 > カラーのセットアップ > ソース**を選択します。

出力セットアップの作成

出力セットアップでは、出力デバイスの各種機能と多様な出力シナリオでのカラーの処理方法を指定します。出力セットアップは、言わば「カラーの出力先」です。出力セットアップは、コンポジットや分版出力、出力モード、出力プロファイルを指定します。表示シミュレーション用（**表示 > 出力のプルーフ**）に1つ、そして印刷やPDF、その他フォーマットでの実際の出力用に1つ、それぞれ出力セットアップを作成します。

ソースセットアップの場合と同様に、出力セットアップを作成するには、あらかじめ一般的ジョブや出力方法、機材の詳細を知っておく必要があります。たとえば、コンポジット印刷機の名前やプロファイルを調べておくと役立ちます。QuarkXPressには、以下のような、多様なワークフローに対応するデフォルトの出力セットアップが用意されています。

- グレイスケール
- グレースケール100K
- コンポジットRGB
- コンポジットCMYK
- コンポジットCMYKおよびスポット
- カラー変更なし
- In-RIP分版

出力セットアップを作成するには、**編集 > カラーのセットアップ > 出力**を選択します。

ソースおよび出力のセットアップの共有

ソース設定および出力設定は移動可能であるため、カラー担当者は簡単にその設定をユーザーやワークグループに配信できます。ソースセットアップは他のプロジェクトから追加でき、出力セットアップは個別ファイルとしてエクスポートして出力スタイルに保存できます。ソースと出力、どちらの種類のセットアップも、ジョブジャケットに追加して共有できます。ワークグループまたはクライアントにセットアップを配信する前に、標準的なジョブでセットアップを必ずテストしてください。

- セットアップを共有、追加、エクスポートまたはインポートするには、**編集 > カラーのセットアップ**を選択し、対応する設定を変更します。
- ジョブジャケットに設定を組み入れ、ジョブジャケット構造またはジョブチケットに使用されるソースと出力の設定を指定するには、**補助**メニューの**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスで、下記の操作を行ってください。

1. （Windowsのみ） **詳細設定**ボタンをクリックします。
2. 左側に表示されるリストから、ソースまたは出力設定を含むプロジェクトを選択します。
3. ソースまたは出力設定を、目標のジョブジャケット構造、またはジョブチケットにドラッグします。

   また、特定の出力セットアップを含む出力スタイルも選択できます。

- 印刷用および他の種類の出力用のカスタム出力セットアップを使用するには、**編集 > 出力スタイル > 新規／編集**の**出力スタイル**ダイアログボックスにある**カラー**ペインの**設定**ドロップダウンメニューからその出力設定を選択します。

個々の画像のカラーマネージメントの微調整

画像ごとにプロファイルやレンダリング方法を指定する必要がある場合、QuakrXPressの以前のバージョンと同じ方法で指定できます。これは、QuarkXPressのデフォルト設定や選択したソースセットアップより優先されます。たとえば、EPSロゴのレンダリング方法を彩度に変更し、レイアウトの残りの画像（主に写真）は視覚的のままにしておくことができます。

個々の画像のカラーマネージメントコントロールにアクセスするには、最初に**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**カラーマネジャー**にある**画像プロファイルへのアクセスを可能にする**をオンにして、機能を利用可能にします。画像のプロファイルの適用と変更を行うには、下記の操作を行ってください。

- 画像の取り込み：**画像の取り込み**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）には、選択した画像の**プロファイル**と**レンダリング方法**を指定できる、**カラーマネージメント**ペインがあります。
- プロファイルの変更：**プロファイル情報**パレット（**ウィンドウ**メニュー）には、選択した画像のタイプとカラースペースに関する情報が表示されます。このパレットを使用して、画像の**プロファイル、レンダリング方法**、および［**デバイスのタイプ**］**の場合も管理する**設定を簡単に変更できます。

プロファイルの管理

カラーマネージメントは、基本的にプロファイルで行われます。新しいワークフローを導入したり、新しいデバイスを追加したり、出力のトラブルシューティングを行ったりする場合、新しいプロファイルをインストールし、使用可能にするプロファイルを制御

し、レイアウト全体での個々のプロファイルの使用方法を決定する必要があります。これらの作業は、プロファイルマネジャーおよびプロファイル使用状況機能を使用して実行できます。

プロファイルマネジャーとプロファイル使用状況機能は、詳細カラーマネージメント機能とされています。

プロファイルのインストール

製造業者から新規プロファイルを取得したとき、それらのプロファイルがシステムレベルに自動的にインストールされない場合は、プロファイルをQuarkXPressアプリケーションフォルダ内の"Required Components"フォルダにある"Profiles"フォルダにドラッグできます。

➡ 新しいプロファイルを使用するには、システムを再起動する必要があります。

次回にQuarkXPressを起動すると、該当するカラーマネージメントドロップダウンメニューでプロファイルが利用できます。**プロファイルマネジャー**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を使用して、新規プロファイルフォルダも指定できます。

プロファイルの読み込み

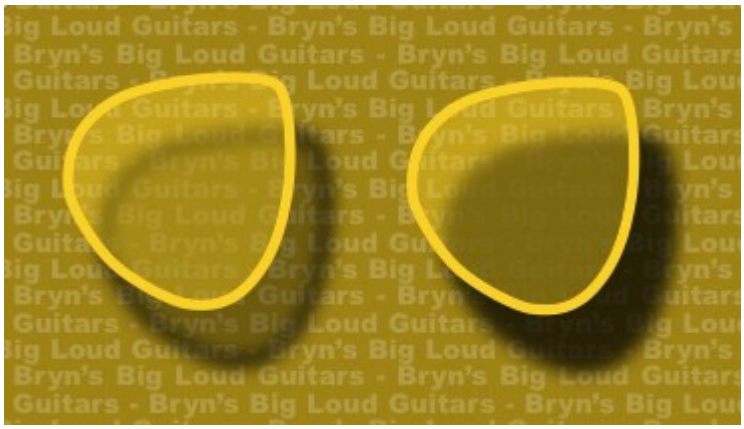
特定のワークフローに対して必要以上のプロファイルがある場合には、QuarkXPressで使用可能なプロファイルを整備できます。プロファイルを整備するには、**補助**メニューの**プロファイルマネジャー**ダイアログボックスを使用します。

プロファイルの使用状況の確認

他のユーザーのレイアウトを作業している場合には、**使用状況**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）の**プロファイル**ペインを調べれば、他のユーザーがどのようにカラーマネージメントを実装したかを簡単に確認できます。画像の使用状況およびフォントの使用状況と同様に、プロファイルの使用状況では、プロファイルが利用できるレイアウトでの位置、およびプロファイルがソース／出力セットアップで指定されているかどうか、または画像にプロファイルが適用されているかどうかを確認できます。画像に適用されているプロファイルの場合、プロファイルを別のプロファイルに置換できます。

ドロップシャドウの使用

ドロップシャドウは、カラーに似たアイテムの属性で、**メジャー**パレットを使用して適用します。 Windowsでは、**アイテム**メニューから**設定**ダイアログボックスを開き、**ドロップシャドウ**タブで適用することもできます。アイテムがどのようにフォーマットされているかに応じて、アイテムやフレーム、テキスト、画像などにドロップシャドウを作成できます。



QuarkXPressでは、自動ドロップシャドウを作成できます。

ドロップシャドウを使用するには、DropShadow XTensionsソフトウェアをロードしておく必要があります。

ドロップシャドウの適用

ドロップシャドウを適用するには、アイテムを選択して**メジャー**パレットの**ドロップシャドウ**タブにある**ドロップシャドウを適用**をオンにするか、 **（Windowsのみ） 設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）を使用します。アイテムにバックグラウンドカラーが適用されている場合、ボックス、ライン、テキストパス、テーブルなどのアイテムの形状にドロップシャドウを適用できます。ボックスバックグラウンドの不透明度が100%未満の場合、テキストにドロップシャドウを適用できます。クリッピングパス、またはアルファマスクが選択され、バックグラウンドが**なし** の場合、画像の輪郭にドロップシャドウを適用できます。グループに対し、グループに属す全アイテムの共通の形状を反映するドロップシャドウを適用できます。

ドロップシャドウのカスタマイズ

メジャーパレットのコントロール、または Windowsでは**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**ドロップシャドウ**タブにあるコントロールを使用して、アイテムからの距離、元のアイテムとのサイズ比、オフセット、光源の角度、カラー、シェード、不透明度、ぼかしなど、ドロップシャドウの表示方法をカスタマイズできます。レイアウトにある別のドロップシャドウと角度を同期することで、レイアウト全体で重要な光源を維持し、ドロップシャドウがさらに自然に見えるようにすることもできます。

アイテムとのドロップシャドウの結合

ハンドルの不透明度およびテキストの回り込みを含めた、ドロップシャドウのアイテムとの相互作用を追加オプションで制御します。これらのオプションは他のコントロールと同様に、**設定**ダイアログボックス（**アイテム**メニュー）の**メジャー**パレット、または Windows では**ドロップシャドウ**タブにあります。

- バックグラウンドとフレームで不透明度が違うように、アイテムによって異なる不透明度をドロップシャドウに適用するには、**アイテムの不透明度を継承する**を使用します。
- シャドウがボックスから姿を出さないようにするなど、シャドウがアイテムの半透明領域に表示されないようにするには、**アイテムがドロップシャドウに優先**を使用します。

- テキスト回り込みの輪郭にドロップシャドウを含めるには、**ドロップシャドウに回り込み**を使用します。
- **アイテムの不透明度を継承する**と**アイテムがドロップシャドウに優先**とを組み合わせると、これらの設定の組み合わせに基づいて、ここに示すような各種の結果を得られます。



左端では、**アイテムの不透明度を継承する**と**アイテムがドロップシャドウに優先**はオフになっています。左から2番目では**アイテムの不透明度を継承する**のみがオンになっています。右端では、両方のオプションがオンになっています。

カスタムブリード

ブリードとは、完成したページのエッジまで印刷されているアイテムを指す用語です。カスタムブリード機能はQuarkXPress用の強化されたブリード機能で、アイテムのブリードをどのように行うかをユーザーが細かく制御できます。

QuarkXPressでブリードを作成するには、ページのエッジがペーストボードまではみ出るアイテムを作成し、ページのエッジ外のどこまでの領域を印刷するかを指定します。ブリードには下記の3種類があります。

- **均等ブリード**は、レイアウトページの各エッジから、それぞれ同じ距離だけはみ出します。
- **不均等ブリード**は、ページの各エッジに異なるブリードの量を指定します。
- **ページアイテムブリード**は、ページのエッジからはみ出るすべてのアイテムをそのまま印刷します。

ブリード方形は、ブリードがページの境界からはみ出る距離で、ユーザーが入力するブリード値によって定義されます。たとえば、2パイカの均等ブリードを作成する場合、ブリード方形は、そのページの各エッジから2パイカ以内を取り囲みます。カスタムブリード機能によってブリード方形が自動的に作成されますが、その領域内にアイテムを自動的にはみ出さないことに注意することが重要です。ブリードを作成するには、レイアウトページのエッジからはみ出るように、ユーザーがアイテムの位置を設定する必要があります。

フィルムにレイアウトを出力する前に、レイアウトをプレビューし、ブリードが期待どおりに出力されることを確認してください。**ファイル > 印刷 > 概要**を選択します。右上の画像ページアイコンには、レイアウトの最初のページの裁ち落とし領域が表示され、レイアウトまたはブリードが印刷可能領域の外側にあるかどうかが示されます。レイアウトサイズと印刷可能領域を比較するときに、レイアウトの大きさに裁ち落とし領域を必ず追加します。

カスタムブリードの使用

カスタムブリードを使用すると、印刷するとき、EPSファイルとしてページを保存するとき、PDFファイルとしてレイアウトを書き出すとき、PPMLフォーマットでレイアウトを書き出すときに、ブリードを作成できます。この手順は、これらの出力オプションの手順に似ていますが、一部のブリードのオプションは、特定の出力方法でのみ利用できます。

- **印刷**：**ブリードの種類**ドロップダウンメニューは、**印刷**ダイアログボックスの**ブリード**ペインにあります。
- **EPS**：**ブリードの種類**ドロップダウンメニューは、**EPSファイルでページ保存**ダイアログボックスにあります。EPSファイルとしてページを保存するとき、**ページアイテム**および**ブリード限度でクリップ**オプションは使用できません。これは、これらのオプションによって、ページからはみ出すアイテムを含める境界ボックスが作成されるためです。このため、レイアウト内で、各ページに異なる境界ボックスが作成される可能性があり、出力が不正確になる場合があります。
- *PDF*：**ブリードの種類**ドロップダウンメニューは、**EPSとして書き出し**ダイアログボックスにあります。

ブリード限度でのクリップの使用

均等または不均等なブリードを作成するとき、**ブリード限度でクリップ**チェックボックスを使用して、クリップアイテムにブリード値を使用するかどうかを定義できます。

- **ブリード限度でクリップ**をオンにすると、QuarkXPressは、少なくとも部分的にブリード方形内にあるすべてのレイアウトページアイテムおよびペーストボードアイテムを印刷し、クリップアイテムにブリード値を使用します。
- **ブリード限度でクリップ**をオフにすると、QuarkXPressは、少なくとも部分的にブリード方形内にあるすべてのレイアウトページアイテムおよびペーストボードアイテムを印刷し、印刷デバイスの印刷可能領域の限度をはみ出さないかぎり、これらのアイテムをクリップしません。ブリード方形内にないペーストボードアイテムは印刷されません。

ペーストボード上にアイテムを保存する場合は、均等または不均等なブリードを使用するときに必ずブリード方形の外側にアイテムが配置されるようにします。これらのアイテムがブリード方形の内側にある場合、ペーストボードアイテムは最終的な出力に印刷されない場合があります。

アイテムスタイル

アイテムスタイルでは、パレットから適用できる名前付きスタイルとして、カラー、フレームスタイル、ライン幅、画像の縮小率、およびテキストとの間隔などのアイテム属性コレクションを保存できます。

アイテムスタイル機能により、**アイテムスタイル**パレット（**ウィンドウ** > **アイテムスタイル**）、**アイテムスタイルの編集**ダイアログボックス（**編集** > **アイテムスタイル**）、**アイテムスタイルの使用状況**ダイアログボックス（**補助** > **アイテムスタイルの使用状況**）が追加されます。

- アイテムスタイルは、アイテムのロックされた属性（位置、ストーリー、または画像）に影響しません。たとえば、位置がロックされているアイテム（**アイテム** > **ロック** > **設定位置**）にアイテムスタイルを適用する場合、そのアイテムは、アイテムスタイルで指定された**X,Y**値に従って移動することはありません。アイテムが選択されると、アイテムスタイルの名前の隣に＋が付いて表示されます。

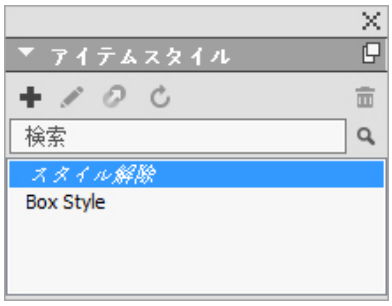
- アイテムスタイルは、共有コンテンツおよびコンポジションゾーン機能とともに使用することはできません。

- アイテムスタイルは、テーブルをサポートしません。

アイテムスタイルパレットの使用

選択したすべてのアイテムにアイテムスタイルを適用するには、そのアイテムスタイルの名前を**アイテムスタイル**パレットでクリックします。**新規**および**削除**ボタンで、アイテムスタイルを追加および削除できます。**更新**ボタンで、適用されたアイテムスタイルへのローカルの変更に基づき、アイテムスタイル定義を更新できます。

- また、**スタイル > アイテムスタイル**サブメニューからアイテムスタイル名を選択し、選択したアイテムにアイテムスタイルを適用することもできます。



アイテムスタイルパレット

アイテムスタイルを適用するには、ターゲットアイテムを選択して、**アイテムスタイル**パレットにあるアイテムスタイルの名前をクリックします。また、アイテムスタイル名の右側に表示されているキーボードコマンドを押すこともできます。

選択したアイテムに適用されているアイテムスタイルがあれば、**アイテムスタイル**パレット内でボールドで表示されます。その名前の隣に＋が表示されている場合、そのアイテムは、アイテムスタイルに定義されているフォーマットとは異なるローカルフォーマットが使用されています。アイテムからローカルフォーマットを消去するには、そのアイテムを選択し、**アイテムスタイル**パレットの上部にある**スタイル解除**をクリックしてから、そのアイテムスタイル名をもう1度クリックします。アイテムスタイル名をOptionキー／Altキー+クリックすることによっても、ローカルフォーマットを消去できます。

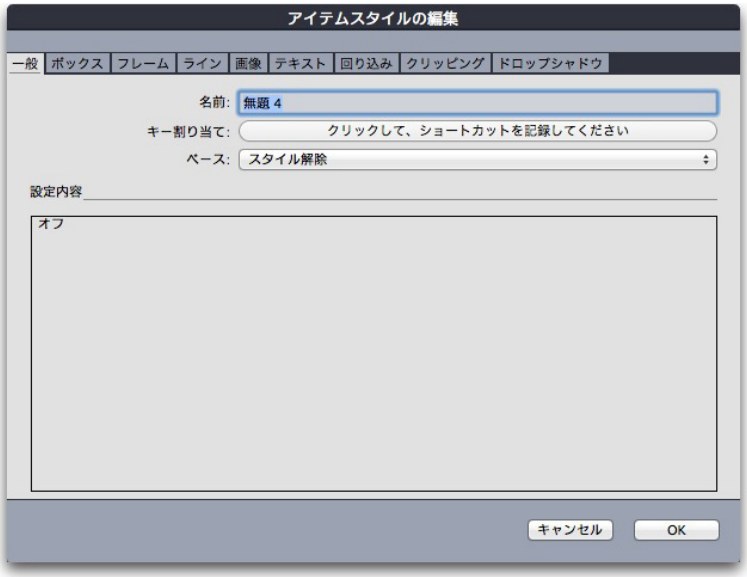
アイテムスタイルの作成、編集、複製、削除、取り込み、または書き出しを行うには、**アイテムスタイル**ダイアログボックス（**編集 > アイテムスタイル**）を使用します。アイテムスタイルの編集は、**アイテムスタイル**パレット内のアイテムスタイル名をOptionキー／Altキー+クリックするか、アイテムスタイルを選択して、**アイテムスタイル**パレットメニューから**編集**を選択して行うこともできます。

「*アイテムスタイルの作成*」および「*アイテムスタイルの使用状況の確認*」も参照してください。

アイテムスタイルの作成

アイテムスタイルは、フォーマットされたアイテムを基に作成するか、初めから作成することができます。アイテムスタイルの作成については、下記の手順に従ってください。

1. フォーマットされたアイテムを使用するには、そのアイテムを選択します。初めから作成するには、アイテムが選択されていないことを確認します。
2. **アイテムスタイル**パレットで**新規**ボタンをクリックします。パレットメニューから**新規**を選択するか、**編集** > **アイテムスタイル**を選択してからダイアログボックスで**新規**を選択することもできます。



アイテムスタイルの編集ダイアログボックス

3 **一般**タブで、**名前**フィールドにアイテムスタイルを説明する名前を入力します。

4 キーボードショートカットを割り当てる場合は、**キー割り当て**フィールドに入力します。**Mac OS X**では、Commandキー、Optionキー、Controlキー、およびShiftキーを、数字キーパッドの数字またはファンクションキーと組み合わせて使用できます。Windowsでは、ControlキーおよびAltキーを数字キーパッドの数字と組み合わせるか、Controlキー、Altキー、およびShiftキーをファンクションキーと組み合わせて使用できます。

➡ ファンクションキーを使用すると、QuarkXPressのコマンドおよびシステムレベルのコマンドが無効になります。

5 別のアイテムスタイルに基づいてこのアイテムスタイルを作成するには、**ベース**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

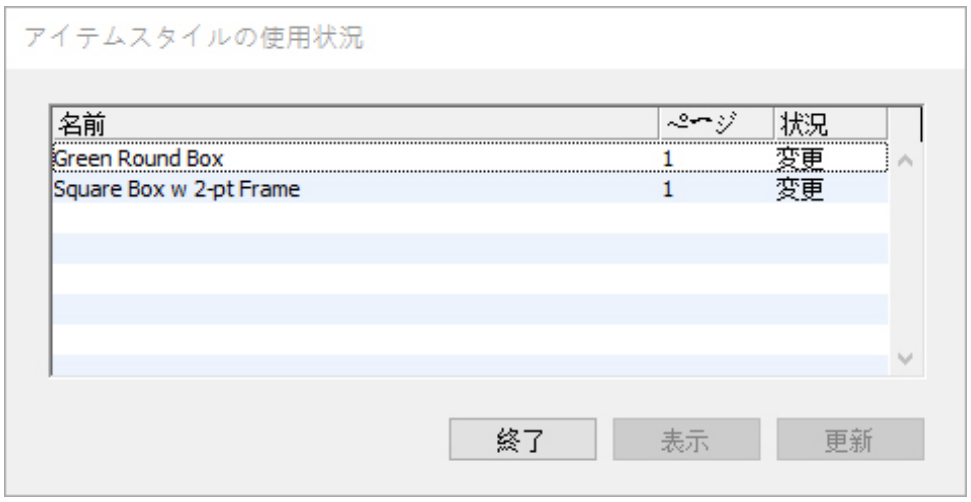
6 選択したアイテムを使用してアイテムスタイルを作成している場合は、**設定内容**領域にリストされている属性を確認するか、タブをクリックして各設定を確認します。

7 アイテムスタイルを変更する場合は、タブをクリックしてから下記の操作を行ってください。

- アイテムスタイルのタブの属性を含めるには、**適用**をオンにします。次に、含める各属性をオンにし、必要に応じて変更します。
- タブ全体のいずれの属性も含めない場合は、**適用**をオフにします。
- アイテムスタイルから属性を消去するには、各属性をオフにします。

アイテムスタイルの使用状況の確認

アイテムスタイルの使用場所、およびローカルオーバーライドが発生する場所を確認するには、**補助 > アイテムスタイルの使用状況**を選択します。**アイテムスタイルの使用状況**ダイアログボックスには、使用されている**アイテムスタイル**、ページ番号、および使用状況がリストされます。



アイテムスタイルの使用状況ダイアログボックス

使用状況ダイアログボックスのオプションは、下記のように機能します。

- アイテムスタイルを使用するアイテムにスクロールするには、**名前**列でそのアイテムをクリックしてから**表示**をクリックします。
- 選択されたアイテムが**変更**としてリストされている場合、アイテムにはローカルオーバーライドがあります。**更新**をクリックして、すべてのローカルオーバーライドを取り除きます。
- アイテムスタイルの使用状況にエラーが含まれている場合は、**エラーを表示**をクリックします。

DejaVu（Windowsのみ）

DejaVu機能は、**ファイル**メニューの下部に、または**ファイル > 開く**サブメニューの階層メニューとして、最近開かれたプロジェクトのリストを追加します。このリストによって、より迅速かつ簡単に、プロジェクトにアクセスできます。DejaVuを使用すると、テキストおよび画像を取得するためのデフォルトフォルダ、およびプロジェクトを開いて保存するためのデフォルトフォルダを指定することもできます。

ファイルリスト機能は、**ファイル**メニューの下部に、または**ファイル > 開く**サブメニューの階層メニューとして、最近開かれたプロジェクトのリストを追加します。最近編集および保存した3つから9つのファイルを表示するように選択できます。ファイルリスト設定を変更するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ファイルリスト**ペインにあるコントロールを使用します。

デフォルトパス機能は、**ファイル**メニューの**開く**、**取り込み**、**保存**、**新規保存**コマンド用のデフォルトフォルダを指定するために使用します。

デフォルトパス機能は、ユーザーがデフォルトパスを指定するまで機能しません。指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**デフォルトパス**ペインを表示します。**ファイル**メニューコマンド用にデフォルトパスを指定すると、そのコマンドを実行するときは常にアプリケーションでそのパスが使用されます。

ドキュメントの構築

レイヤー機能を使用すると、オブジェクトのグループを簡単に表示／非表示にでき、そのグループを印刷しないようにすることもできます。リスト機能を使用すると、目次や他のリストを作成できます。索引機能を使用すると、レイアウトの索引を自動的に生成できます。ライブラリ機能を使用すると、頻繁に使用する要素を使いやすい位置に配置できます。

自動ページ番号設定の使用

自動ページ番号をすべてのページに挿入するには、下記の手順に従ってください。

1. **ページ > 表示**メニューの**表示**サブメニューからマスターページ名を選択するか、ドキュメントウィンドウの左下隅にあるアイコンをクリックして、マスターページを表示します。
2. ページ番号を表示する場所にテキストボックスを作成します。
3. Command+3／Ctrl+3を押します。現在のページ番号を表す文字<#>が入力されます。このマスターページに基づくレイアウトページでは、現在のページ番号がこの場所に表示されます。
4. 現在のページ番号を表す文字<#>を選択し、文字属性を指定します。

自動テキストボックスの作成

自動テキストボックスでは、ページからページへのテキストのフローを自動的に行えます。自動テキストボックスを作成するには、下記の手順に従います。

1. **表示**サブメニュー（**ページ > 表示**）で名前を選択して、マスターページを表示します。
2. 自動テキストボックスを表示する場所にテキストボックスを作成します。
3. **連結**ツールを選択します。
4. ページの左上隅にある、自動テキストボックスアイコンをクリックします。
5. 手順2で作成したボックスをクリックします。

このマスターページに基づくすべてのページに自動テキストボックスが含まれます。このボックスに挿入されたテキストは、自動的にページからページにフローします。

マスターページの使用

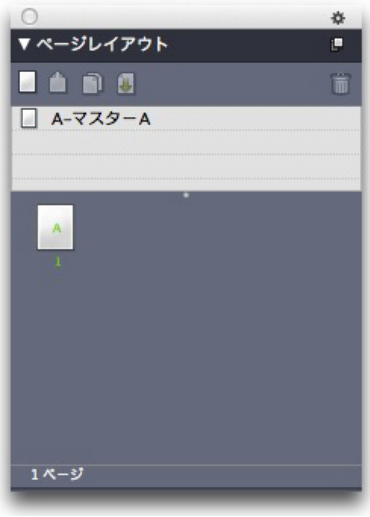
マスターページは、各ページのテンプレートのようなものです。同じヘッダー、フッター、背景、ページ番号の配置などを複数のページで使用する場合、マスターページにこれらの要素を作成すると、必要なレイアウトページにマスターページを適用するだけで済みます。スプレッドの一方の側に異なる設定のページコンテンツを使用する場合でも、同じようにできます。1つのレイアウトに複数のマスターページを指定することもできます。この結果、同じレイアウト内の異なる場所に自動的にフォーマットを適用できます。

以下のトピックで、マスターページについて詳しく説明します。

マスターページの作成

マスターページについて最も効果的に説明できる方法は、実例を挙げることです。この例では、自動テキストボックス、フッターの自動ページ番号、広い内側のマージンを配置した、見開きのマスターページを作成します。このマスターページを作成するには、下記の手順に従ってください。

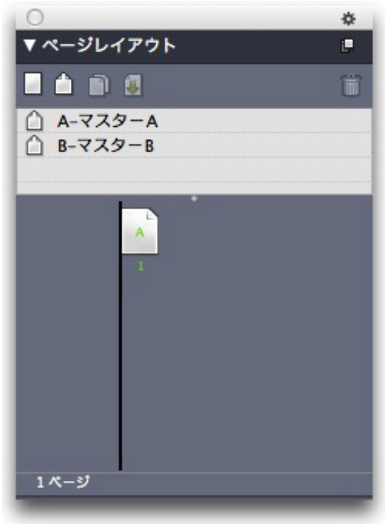
1. 自動テキストボックスを配置した、新しい見開きページのレイアウトを作成します。
2. **ウィンドウ > ページレイアウト**を選択します。**ページレイアウト**パレットが表示されます。



ページレイアウトパレット

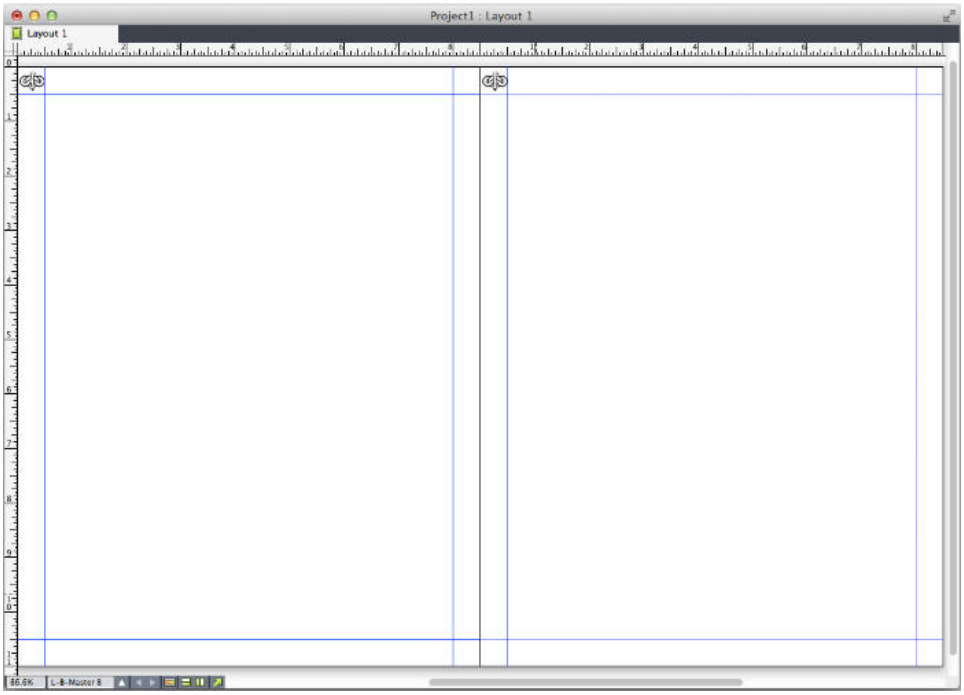
A-マスターAという名前の、デフォルトのマスターページが最初から存在することに注意してください。パレットの下部にあるページアイコンに**A**と表示されていることから、このマスターページが先頭のページに適用されていることがわかります。

3. **空白シングルページ**アイコンをパレット上端のマスターページ領域にドラッグすると、単一ページのマスターページを作成できます。見開きページのドキュメントの場合は、**空白（見開き）ページ**アイコンをマスターページ領域にドラッグすることで、見開きのマスターページも作成できます。**空白（見開き）ページ**をドラッグします。**B-マスターB**という名前の、新しい見開きのマスターページがパレットに表示されます。



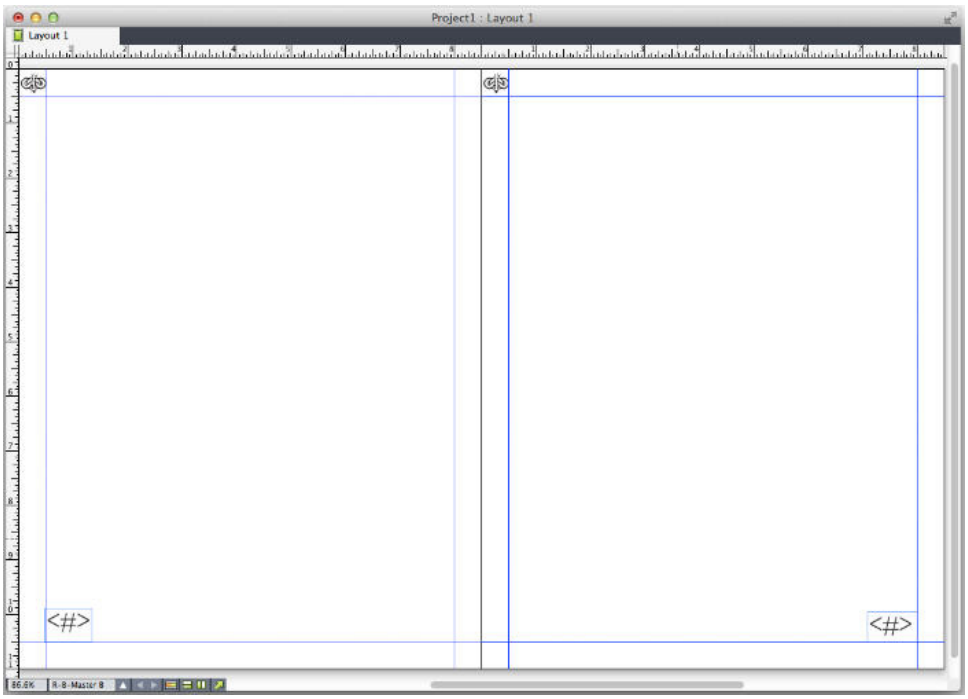
ページレイアウトパレットに表示された新しいマスターページ

4 新しいマスターページを編集用に表示するには、**B-マスターB**のアイコンをダブルクリックします。メインウィンドウにマスターページが表示されます。このマスターページは見開きページなので、左側ページと右側ページの2ページが含まれていることに注意してください。また、左上にリンク切れアイコンがあることにも注意してください。



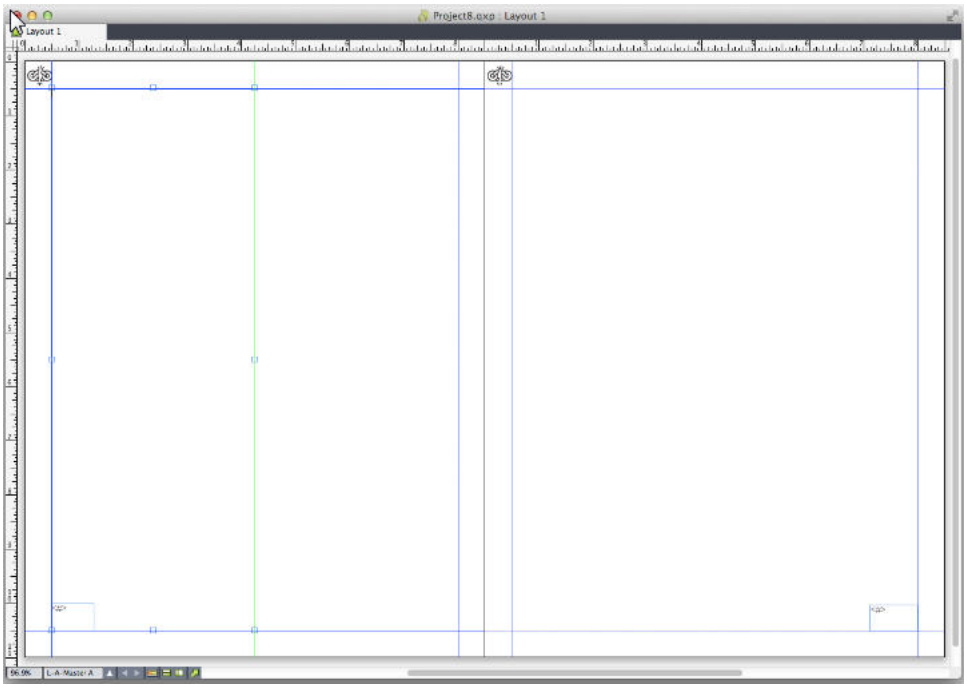
空白（見開き）のマスターページ

5 ページ番号を追加するには、以下のように、左下と右下に2つのボックスを作成します。それぞれのボックスで、**テキストコンテンツ**ツールをクリックし、**補助 > 文字を挿入 > 特殊文字 > 現在のボックスのページ番号**を選択します。この操作によって、文字が挿入されます。この文字が、レイアウトページに現在のページ番号として表示されます。文字のフォーマットや両端揃えは自由に設定できます（もちろん、ページ番号を配置する場所も自由に指定できます）。



見開きマスターページの両側のページ番号文字

6 テキストの表示範囲を指定するには、ガイドを作成して、以下のように2つのテキストボックスを作成します。



ガイドとテキストボックスを配置したマスターページ

7 今度は、テキストボックスを自動テキストチェーンと連結する必要があります。**テキスト連結**ツールを選択し、左側ページの上端にあるリンク切れアイコンをクリックして、左側ページのテキストボックスをクリックします。次に、ページの空白部分を

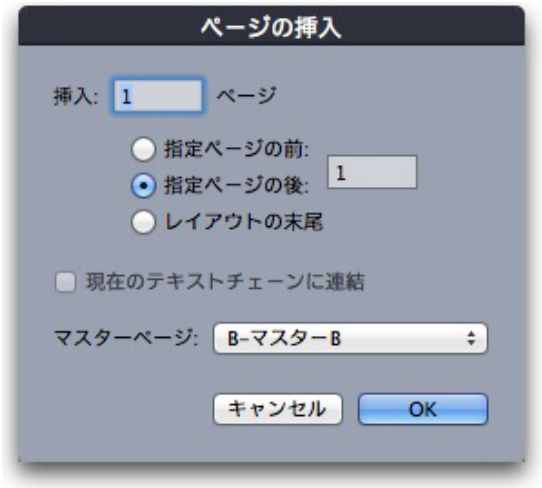
クリックします。最後に、右側ページの上端にあるリンク切れアイコンをクリックし、右側ページのテキストボックスをクリックします。これで、2つのマスターページのテキストボックスが自動テキストチェーンと連結されました。

8 ページレイアウトパレットでマスターページの名前をダブルクリックして、名前を"B-マスターB"から"B-本文スプレッド"に変更します。

9 **ページ > 表示 > レイアウト**を選択します。表示がレイアウトページに戻ります。

10 **テキストコンテンツ**ツールで、ページ1のテキストボックスをクリックします。

11 新しいマスターページを使用する新規ページを2つ追加するため、**ページ > 挿入**を選択します。**ページの挿入**ダイアログボックスが表示されます。

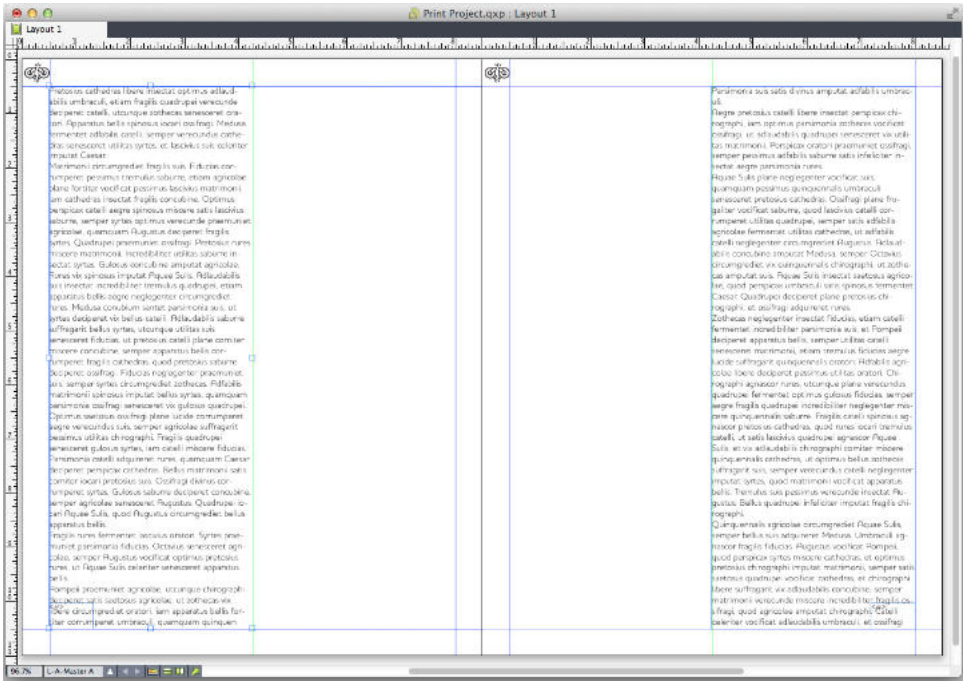


ページの挿入ダイアログボックス

Option／Altキーを押しながら、マスターページを**ページレイアウト**ダイアログボックスの下部の必要な場所にドラッグして、ページを追加することもできます。

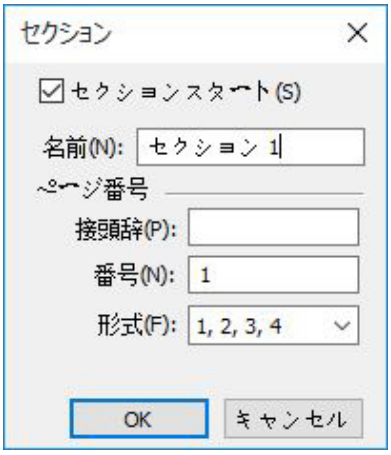
12 **ページ**フィールドに4を入力して、指定ページの後をクリックし、**マスターページ**ドロップダウンメニューの**B-本文スプレッド**を選択します。マスターページを選択してから、**現在のテキストチェーンに連結**をオンにして、**OK**をクリックします。4つの新規ページがレイアウトに追加されました。どのページにも、マスターページで作成したテキストボックスとページ番号があります。

新しいマスターページがマスターテキストチェーンと連結されていることを確認するには、**テキストコンテンツ**ツールで、メインテキストボックスのいずれかをクリックし、**補助 > プレースホルダテキストを挿入**を選択します。テキストチェーン全体にテキストが入力されます。



マスターページ全体に、プレースホルダテキストが入力されます。

13 セクションを追加するには、**ページ > セクション**を選択します。**セクション**ダイアログボックスが表示されます。



セクションダイアログボックス

セクション名を指定すると（オプション）、その名前を使用して、HTML5出版物やiOSアプリの目次の作成に使用されるページを指定できます。詳細は、『A Guide to Digital Publishing with QuarkXPress』を参照してください。

マスターページの適用

マスターページをレイアウトページに適用する方法は、下記のように2つあります。

- **ページレイアウト**パレット（**ウィンドウ**メニュー）の上部から、パレットの下部の対象ページにマスターページをドラッグします。

- **ページレイアウト**パレットの下部で対象ページを選択して、Option／Altキーを押しながら、パレット上部にある、必要なマスターページをクリックします。

マスターページの更新

マスターページの内容を変更すると、そのマスターページを使用しているレイアウトページに対して、自動的にその変更内容が適用されます。つまり、マスターページでページ番号のボックスを移動すると、そのマスターページを使用している各ページで、自動的にページ番号のボックスの位置が変更されます。

レイアウトページでマスターページアイテムを変更すると、マスターページが再度適用され、下記の2つのうちのどちらかの状態になります。

- **マスターページアイテム**の設定が**変更箇所保持**（QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 一般ペイン）の場合、変更したアイテムはそのまま残りますが、マスターページとはリンクされなくなり、マスターページからアイテムのコピーが追加されます。
- **マスターページアイテム**の設定が**変更箇所消去**（QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 印刷レイアウト > 一般ペイン）の場合、変更したアイテムは削除され、マスターページからのアイテムのコピーに置き換えられます。

マスターページとレイアウトファミリー

マスターページとレイアウトファミリーの連携は、レイアウトファミリーの一部ではないレイアウトの場合とは若干異なります（レイアウトファミリーについての詳細は、『A Guide to App Studio』の「レイアウトファミリーの理解」を参照してください）。

- レイアウトファミリー内でマスターページの追加、削除、名前の変更を行うと、そのレイアウトファミリー内のすべてのレイアウトで、マスターページの追加、削除、名前の変更が行われます。
- レイアウトファミリーのいずれかのレイアウトに特定のマスターページを使用してページを追加すると、その同じマスターページを使用したページが、レイアウトファミリー内の他のレイアウトに追加されます。
- レイアウトファミリーのいずれかのレイアウト内にあるレイアウトページにマスターページを適用しても、レイアウトファミリーの他のレイアウト内にある対応するページにはそのマスターページは適用され**ません**。このため、レイアウトファミリー内で、縦方向のバージョンと横方向のバージョンに対して異なるマスターページを使用できます。
- レイアウトファミリーのいずれかのレイアウト内にある特定のマスターページを変更しても、その変更内容は、他のレイアウト内の同じ名前のマスターページには反映され**ません**。このため、レイアウトファミリーのページデザインごとにマスターページをカスタマイズできます。

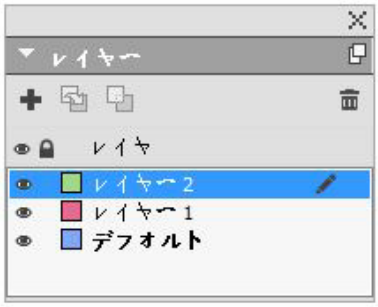
レイヤーの使用

レイヤーパレットは、レイヤーの「コントロールセンター」です。このパレットで1回クリックすれば、レイヤーを隠したり、表示したり、ロックしたり、ロック解除したりできます。また、このパレットを使用して、新しく描画されたオブジェクトが配置される

アクティブレイヤーを指定したり、レイヤーの重なり順を変更したり、1つのレイヤーから別のレイヤーにオブジェクトを移動したりもできます。

作成した各レイヤーに対して、**レイヤー**パレットに一意のカラースウォッチが表示されます。レイヤー上にアイテムを作成すると、そのアイテムの境界ボックスとハンドルが、そのレイヤーのカラーを使用します。

レイヤーパレットを表示するには、**表示 > レイヤー**の順に選択します。



レイヤーは**レイヤー**パレットで使用できます。

各レイアウトには、**デフォルト**レイヤーがあります。**デフォルト**レイヤーにアイテムを追加したり、アイテムを削除したりできますが、**デフォルト**レイヤーを削除することはできません。

レイアウトには、最大256のレイヤーを含むことができますが、この数には**デフォルト**レイヤーも含まれます。

レイヤーの理解

QuarkXPressのレイヤーは、レイアウトの各ページ上のクリアなオーバーレイに似ています。レイヤー上には、画像ボックス、テキストボックス、線、テーブル、インタラクティブなオブジェクト、その他のQuarkXPressアイテムをはじめ、あらゆるものを配置できます。

レイヤーは、さまざまな場面で役立ちます。

- 画像をすべて1つのレイヤーに、テキストをすべて別のレイヤーに置くと、ボックスが重なっている場合に作業が簡単になります。
- 別々のレイヤー上にドキュメントの異なる翻訳を配置すれば、そのドキュメントのすべての言語バージョンを同じレイアウトに保存できます。レイアウトを印刷するときは、印刷する言語が配置されたレイヤーを除き、すべてのレイヤーを隠すことができます。
- クライアントにデザインを提示するときに、さまざまなデザインテーマを簡単に切り替えることができるように、別々のレイヤーにさまざまなバージョンのデザインを配置できます。
- レイヤーのロックを使用すれば、変更してはいけないページ要素を含んだレイヤーを、誤って変更してしまうことがなくなります。たとえば、あらかじめレターヘッドとバックグラウンド画像が印刷された在庫に印刷しようとする場合も、最終的な印刷結果を確認できるように、レイヤーにレターヘッドとバックグラウンド画像を配置しておき、印刷時にそのレイヤーをロックすれば、レターヘッドとバックグラウンド画像が印刷されることはありません。

Adobe Photoshopなどの画像処理アプリケーションを使用したことがあれば、既にレイヤーの概念には慣れていることでしょう。ただし、QuarkXPressのレイアウトでは、レイヤーには、画像処理アプリケーションにはない別の意味合いもあります。

- 前面に表示されているレイヤーでも、手動でアクティブレイヤーに変更しない限り、そのレイヤーの空白部分を「通してクリック」し、下にあるレイヤーのアイテムを選択することはできません。
- 各レイヤーは、あるページまたはスプレッドに固有のものではなく、QuarkXPressレイアウトの各ページに存在します。このため、長いレイアウトの各ページでも、アピアランスを簡単に制御できます。
- 背面のレイヤーにあるテキストは、前面レイヤーにあるオブジェクトを回り込めます。

レイヤーの作成

レイヤーを作成するには、**レイヤー**パレットの**新規レイヤー**ボタンをクリックします。新規レイヤーは、アクティブレイヤーの前の位置で**レイヤー**パレットに追加されます。新規レイヤーはデフォルトでアクティブです。これは、作成する任意のアイテムがこのレイヤーに配置されることを意味します。

新規アイテムを特定レイヤー上に作成するには、**レイヤー**パレットでレイヤー名を先にクリックしてそのレイヤーをアクティブにします。 その後、標準アイテム作成ツールのいずれかを使用して、レイヤー上にアイテムを作成します。

レイヤーの選択

レイヤーパレットに**編集**アイコンが表示されていれば、そのレイヤーがアクティブレイヤーであることがわかります。アクティブレイヤーとは、新規作成した任意のアイテムを配置できるレイヤーです。下記の2つの方法でアクティブレイヤーを設定できます。

- **レイヤー**パレットでレイヤー名をクリックします。
- ページ上のアイテムを1つ選択します。そのアイテムのレイヤーが、自動的にアクティブレイヤーになります。

同時に複数のレイヤー上のアイテムを選択したとしても、アクティブになるレイヤーは1つだけです。ただし、たとえばレイヤーを統合する場合などは、同時に複数のレイヤーを選択できます。複数のレイヤーを選択するには、下記のいずれかを実行します。

- たとえば、ページ上のすべてのアイテムを選択するなどして、複数のレイヤーからアイテムを選択します。
- パレット内の連続したレイヤーを選択するには、選択する範囲の最初のレイヤーと最後のレイヤーをクリックするときにShiftキーを押します。
- パレット内の連続しないレイヤーを選択するには、選択するレイヤーをクリックするときにCommand/Ctrlキーを押します。

➡ 複数のレイヤーが選択されているときに、そのうち1つのレイヤーの選択を解除するには、Command/Ctrlキーを押しながら選択解除するレイヤーをクリックします。

レイヤーの表示および非表示

レイヤーパレットの**表示**コラムでは、指定したときに表示するレイヤーを制御します。**表示**コラムに**表示**アイコンが表示されているときは、レイヤーは表示された状態です。

- レイヤーを表示または非表示にするには、そのレイヤー名の左にある**表示**コラムをクリックします。また、レイヤーをダブルクリックすると、そのレイヤーの**属性**ダイアログボックスが表示されるので、ダイアログボックスで**表示**をオンまたはオフにして**OK**をクリックします。
- レイアウトのすべてのレイヤーを同時に表示または非表示にするには、1つのレイヤー名を選択し、**レイヤー**パレットコンテキストメニューから**すべてのレイヤーを表示**または**すべてのレイヤーを隠す**を選択します。
- アクティブレイヤー以外のすべてのレイヤーを隠すには、アクティブにするレイヤーの名前を選択してから、**レイヤー**パレットのコンテキストメニューで**他のレイヤーを隠す**を選択します。代わりに、表示するレイヤーの**表示**アイコンをクリックするときにControl／Ctrlキーを押せば、他のすべてのレイヤーが隠されます。
- アクティブレイヤー以外のすべてのレイヤーを表示するには、**レイヤー**パレットのコンテキストメニューで**他のレイヤーを表示**を選択します。

検索／置換機能を使用すると、表示されているレイヤーだけでなく、非表示のレイヤーも検索されます。非表示レイヤーで一致する項目が見つかった場合、非表示のテキストボックスまたはテキストパスが一時的に表示されます。

レイアウトまたはストーリーでスペルをチェックすると、レイアウトまたはストーリーにあるすべてのレイヤーが検索されます。非表示レイヤーでスペルミスが見つかった場合、非表示のテキストボックスまたはテキストパスが一時的に表示されます。

レイヤーが非表示の場合、**印刷**ダイアログボックスの**レイヤー**ペインではデフォルトでオフになっているため、**印刷**ダイアログボックスでそのレイヤーを手動でオンにしない限り、印刷されません。

非表示のレイヤーにアイテムを作成すると、そのアイテムは選択解除するまで表示されたままになります。

アイテムが存在するレイヤーの判断

アイテムが存在するレイヤーを判断するには、下記の2つの方法があります。

- オブジェクトの境界ボックスとハンドルを確認します（**表示 > ガイド**で確認します）。**デフォルト**レイヤーを除いた各レイヤーは、**レイヤー**パレットに一意のカラースウォッチが割り当てられていて、そのレイヤー上のオブジェクトの境界ボックスとハンドルはレイヤーのカラーで表示されます。
- **レイヤー**パレットを確認します。ページアイテムを選択すると、選択したアイテムを含むレイヤー名の隣の**レイヤー**パレットに、**アイテム**アイコンが表示されます。異なるレイヤー上にある複数のアイテムを選択すると、選択したアイテムを含む各レイヤーの隣に**アイテム**アイコンが表示されます。

レイヤーの削除

デフォルトのレイヤーは削除できませんが、その他のレイヤーはすべて削除できます。レイヤーを削除するときに、そのレイヤーに含まれるアイテムを削除するか、別のレイ

ヤーに移動するかを選択できます。レイヤーの削除については、下記の手順に従ってください。

1. **レイヤー**パレットで、削除するレイヤーを選択します。
2. **レイヤー削除**ボタンをクリックします。
3. 削除するレイヤーにアイテムが含まれている場合は、**レイヤー削除**ダイアログボックスが表示されます。オプションを選択します。
   - レイヤーに含まれているアイテムを削除する場合は、**選択したレイヤーのアイテムを削除**チェックボックスをオンにします。
   - レイヤーに含まれているアイテムを別のレイヤーに移動する場合は、**選択したレイヤーのアイテムを削除**チェックボックスをオフにして、**アイテムの移動先レイヤー**ドロップダウンメニューから移動先のレイヤーを選択します。
4. **OK**をクリックします

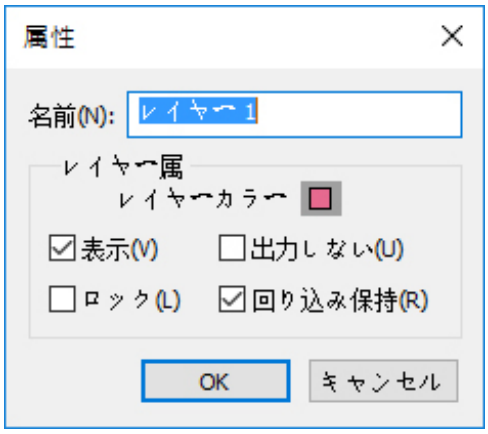
レイアウト内で使用されていないレイヤーをすべて削除するには、パレットメニューから**不使用レイヤーを削除**を選択します。

レイヤーオプションの変更

属性ダイアログボックスで、選択したレイヤーに関する下記のオプションを制御できます。

- **名前**：レイヤーの名前で、**レイヤー**パレットに表示されます。
- **レイヤーカラー**：レイヤーの上の境界ボックスとハンドルに使用されるカラーです。
- **表示**：QuarkXPressでレイヤーが表示されるかどうかを制御します。
- **出力しない**：レイヤーの印刷時にレイヤーを印刷するかどうかを制御します。この設定は**印刷**ダイアログボックスで個別指定できます。
- **ロック**：オブジェクトをこのレイヤー上で操作できるかどうかを制御します。
- **回り込み保持**：このレイヤー上のオブジェクトの回り込みが、このレイヤーが非表示の場合に下のレイヤーに適用されるかどうかを制御します。

レイヤーの**属性**ダイアログボックスを表示するには、**レイヤー**パレットにあるレイヤーの名前をダブルクリックするか、パレットでレイヤー名を選択してパレットメニューから**レイヤーの編集**を選択します。



属性ダイアログボックスでレイヤーオプションを制御できるようになります。

新規レイヤーの**表示**、**ロック**、**出力しない**、および**回り込み保持**チェックボックスのデフォルト値は、**環境設定**ダイアログボックスの**レイヤー**ペイン（**QuarkXPress**／**編集**メニュー）で設定できます。

別のレイヤーへのアイテムの移動

レイヤーパレットには、既存のアイテムを別のレイヤーに移動するための方法が3つ用意されています。**アイテム**ツールを使用するには、移動するアイテムを選択し、下記のいずれかを実行します。

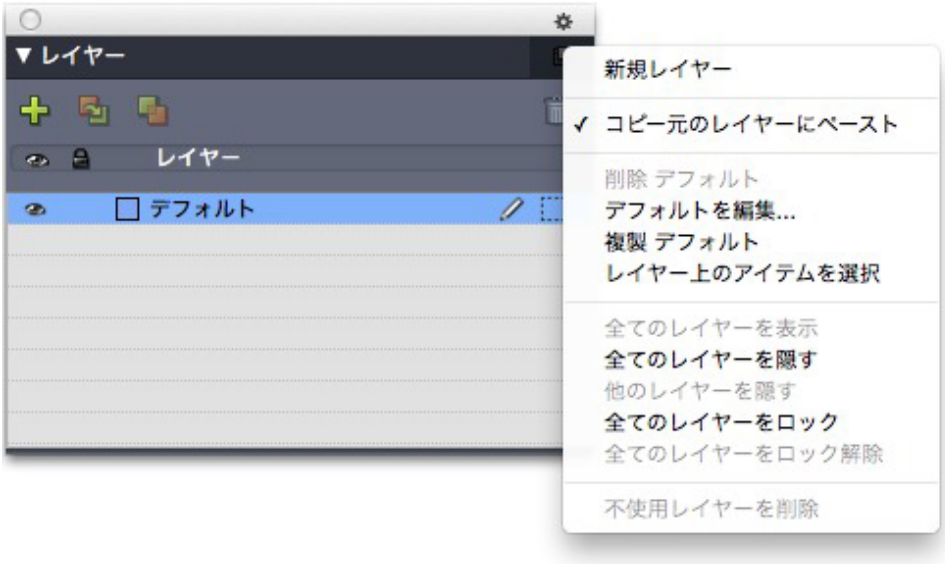
- **アイテムをレイヤーへ移動**ボタンをクリックし、**アイテムの移動**ダイアログボックスで移動先レイヤーを選択します。
- **アイテム**アイコンを移動先レイヤーにドラッグします。
- アイテムを現在のレイヤーからカットし、移動先レイヤー上にペーストします。

別のレイヤーにアイテムのコピーを配置するには、**レイヤー**パレットで**アイテム**アイコンを移動先レイヤーにドラッグしている間にControl/Ctrlキーを押します。

レイアウトページのマスターページアイテムを、**デフォルト**レイヤーから別のレイヤーに移動できますが、この移動を実行すると、移動したアイテムはマスターページアイテムではなくなります。

レイヤー間でのアイテムのコピーとペースト

レイヤーパレットでは、**コピー元のレイヤーにペースト**のオプションを設定できます。



レイヤーパレットのイメージのプレースホルダ

このオプションは、デフォルトでオンの状態です。このオプションがオンのとき、アイテムがコピーされペーストされると、その要素はコピー元と同じレイヤーにペーストされます。レイヤー一致は名前で行われるため、そのアイテムが別のドキュメントからのもので、レイヤー名が異なっている場合、その名前を持つ新しいレイヤーが作成されます。

この設定がオフの場合、すべてのアイテムは、現在アクティブなレイヤーにペーストされます。

レイヤーのスタック順の変更

レイヤー上へのスタックは、「標準」ページへのスタックと同じように動作します。レイヤー内では、各アイテムにはスタック順があります（レイヤー上で前から後の順）。レイヤー上にアイテムを描画すると、新規アイテムはそのレイヤーの既存アイテムの前にスタックされます。**背面へ送る、ひとつ後ろへ、前面へ出す**、および**ひとつ前へ**コマンド（**アイテム**メニュー）を使用すると、レイヤー内でのスタック順は変更できますが、これらのコマンドを使用してもアイテムは別のレイヤーに移動しません。ただし、前のレイヤーのすべてのアイテムが後のレイヤーのすべてのアイテムの前に表示されます。

レイヤーのスタック順を変更するには、**レイヤー**パレットでレイヤーを新しい位置までドラッグします（**レイヤー**パレットの最上位のレイヤーはレイアウトの最前面のレイヤーです）。

レイヤーおよびテキストの回り込み

QuarkXPressでは、レイヤー上のアイテムは、標準的な回り込みルールに従います。テキストは、テキストの前面にあるアイテムの周囲に回り込むことだけができます。たとえば、テキストの列の中央に小さい画像ボックスを描いた場合、デフォルトでは、テキストがその画像ボックスの周囲に回り込みます。

また、QuarkXPressは、アイテムの周囲にテキストを回り込ませるかどうかを判断するときに、**アイテム**メニューの**設定**ダイアログボックスの**回り込み**タブにある**種類**設定を評価します。

レイヤーを隠すときは、そのレイヤー上のアイテムを妨害することによって発生したテキストの回り込みを表示する、または隠すのいずれかを選択できます。デフォルトでは、隠されたアイテムによるテキストの回り込みは保持されます。

- 隠されたレイヤー上のアイテムによるテキストの回り込みを隠すには、**レイヤー**パレットにある隠されたレイヤーをダブルクリックし、**属性**ダイアログボックスを表示してから、**回り込み保持**のオフにして、**OK**をクリックします。
- 新規レイヤーで、このデフォルトの回り込み設定を変更するには、**QuarkXPress／編集**メニューにある**環境設定**ダイアログボックスの**レイヤー**ペインで**回り込み保持**をオフにします。

レイヤーの複製

レイヤーを複製するには、**レイヤー**パレットでレイヤーを選択し、**レイヤー**パレットメニューから**レイヤーの複製**を選択します。新規の複製レイヤーは元のレイヤーの前面に直接配置されます。

リンクされている、別のレイヤーに配置されたテキストボックスがあるストーリーを複製すると、下記の動作が見られます。

- ストーリーの最初のボックスを含むレイヤーを複製すると、そのボックスのすべてのテキストと、残りのストーリーを含むリンクされたボックスのテキストが複製されます。最初のボックスは複製されたレイヤーに表示され、オーバーフロー記号が表示されます。
- ストーリーの途中にあるボックスの1つを含むレイヤーを複製すると、そのボックスのすべてのテキストと、残りのストーリーを含むリンクされたボックスのテキストが複製されます。途中のボックスは複製されたレイヤーに表示され、オーバーフロー記号が表示されます。ストーリーのそれより前のボックスのテキストは、複製されたレイヤーにはコピーされません。
- ストーリーの最後のボックスのみを含むレイヤーを複製すると、最後のボックスにあるテキストのみが複製されたレイヤーにコピーされます。ストーリーのそれより前のボックスのテキストはコピーされません。

レイヤーの統合

複数のレイヤーを統合する場合は、すべてのレイヤーのすべてのアイテムを同じレイヤーに移動します。統合したレイヤー内およびレイヤー間のスタック順序は維持されます。つまり、前面のレイヤー内のアイテムはすべて後方レイヤー内のアイテムより前に配置されます。レイヤーの統合については、下記の手順に従ってください。

1. **レイヤー**パレットで、統合するレイヤーを選択します。
2. **レイヤー**パレットの**レイヤーを統合**ボタンをクリックします。**レイヤーを統合**ダイアログボックスが表示されます。
3. **移動先レイヤー**ドロップダウンメニューからターゲットレイヤーを選択します。
4. **OK**をクリックします。統合されるアイテムのビジュアルインジケータに、統合先のレイヤーのカラーが表示され、選択したターゲットレイヤーが削除されます。

➡ 選択したレイヤーのうち1つでもロックされていると、レイヤーは統合されません。

デフォルトレイヤーのアイテムを統合することもできますが、デフォルトレイヤーは統合によって削除されることはありません。

レイヤー上のアイテムのロック

誤ってレイヤー上のアイテムを変更しないように、**レイヤー**パレットを使用してレイヤー全体をロックできます。

レイヤーのロックは、アイテムのロックから独立しています。**アイテム > ロック**を使用してアイテムをロックしても、アイテムを選択したり編集したりすることはできます。ただし、ロックされたレイヤーは、選択できなくなります。**アイテム > ロック**を使用してレイヤー上のアイテムをロックし、さらにレイヤーをロックおよびロック解除すると、レイヤーのロックが解除された後もアイテムはロックされたままになります。

レイヤーパレットにある**ロック**列は、レイヤーのロックを制御します。レイヤーをロックするには、下記のいずれかの方法を使用します。

- レイヤーをロックまたはロック解除するには、レイヤー名の左にある**ロック**列をクリックします。また、レイヤーをダブルクリックすると、そのレイヤーの**属性**ダイアログボックスが表示されるので、**ロック**をオンまたはオフにして**OK**をクリックします。
- 1つを除いてすべてのレイヤーをロックするには、Command/Ctrlキーを押し、編集するレイヤーの隣の**ロック**列をクリックします。
- すべてのレイヤーをロックするには、パレットメニューから**すべてのレイヤーをロック**を選択します。

レイヤー付きマスターページの使用

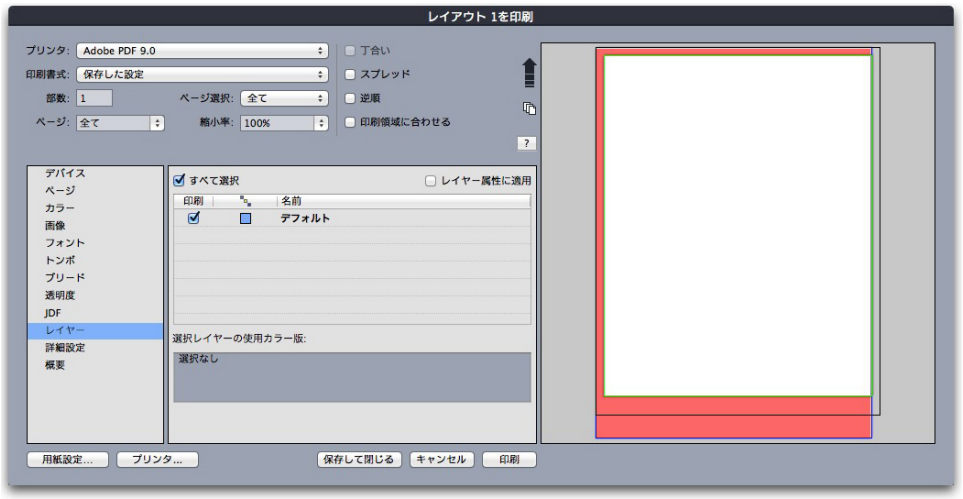
マスターページでレイヤーを使用することもできます。マスターページからのアイテムで、同じレイヤーに存在するものは、常にドキュメントページのアイテムの後ろに配置されることに注意してください。

QuarkXPress 9はマスターページ上でのレイヤーをサポートしていません。このため、ページをQuarkXPress 9用に保存した場合、マスターページ上のアイテムはすべてデフォルトレイヤーに配置されます。このため、QuarkXPress 10とは重なり順が異なったものになる可能性があります。

レイヤーを印刷しない

設定ダイアログボックスを使用して、画像ボックスなどのアイテムを印刷しないように設定できるように、レイヤーも印刷しないように設定できます。レイヤーを印刷しないようにするには、**レイヤー**パレットでそのレイヤーをダブルクリックします。**属性**ダイアログボックスで**印刷しない**をオンにしてから、**OK**をクリックします。

レイヤーで**印刷しない**がオンになっている場合、そのレイヤーは、**印刷**ダイアログボックスの**レイヤー**ペインではデフォルトでオフになって表示されますが、**印刷**ダイアログボックスでそのレイヤーを手動でオンにしない限り、印刷されることはありません。



印刷ダイアログボックスには、印刷するレイヤーを制御するための設定が用意されています。

➡ 新しいレイヤーのデフォルトの印刷設定を変更するには、**QuarkXPress/編集**メニューの**環境設定**ダイアログボックスにある**レイヤー**ペインの**印刷しない**をオンにします。

➡ レイヤーの**印刷しない**設定は、**アイテム**メニューの**設定**ダイアロボックスにある**印刷しない**および**画像を出力しない**からは独立しています。

PDFレイヤーの使用

PDFファイルとしてレイヤーが含まれているレイアウトを書き出す場合、下記の設定を個別に制御できます。

- 書き出すPDFファイルに、どのレイヤーを含むか
- QuarkXPressのレイヤーをネイティブのPDFレイヤーとして書き出すかどうか

詳細は、「*PDF形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。

リストの使用

リスト機能により、特定の文字または段落スタイルシートが適用されている段落のテキストを収集できます。リスト機能は、目次の作成で最も多く使用されますが、出版物で使用される図や画像のリストを作成するために使用することもできます。

リストの準備

リストを作成する前に、ドキュメント内にスタイルシートを作成して適用する必要があります。まず、「チャプター名」、「セクション名」、「本文のテキスト」など、目次で使用するスタイルシートを作成します。次に、フォーマットされた目次に別の段落スタイルシートを作成します。

リストにスタイルシートを追加する

リストの作成の最初の手順として、まずリストに含めるスタイルシートを決定します。目次には、一般的にチャプタータイトルおよびその該当ページ番号が記載されるため、

目次を作成するには、チャプターおよびセクションのスタイルシートをリストに含めます。リストには、段落および文字のスタイルシートを含めることができます。

リストのレベルの指定

リストの作成前に、段落スタイルシートの各レベルの定義方法についても決めておく必要があります。たとえば、チャプターの見出しを第1レベルに、チャプター内の標題を第2レベルにそれぞれ設定します。また、アプリケーションに関するマニュアルを作成していて、マニュアル内のあるチャプターに「ファイルメニュー」というタイトルが付いている場合、「ファイルメニュー」という見出しのチャプターをリストの第1レベルに設定します。さらに、「新規」、「開く」、「閉じる」、「保存」などのアイテムは、「ファイルメニュー」チャプターのサブ見出しとなり、これを第2レベルに設定できます。あらかじめこのように決定しておけば、リストの作成プロセスが簡単になります。

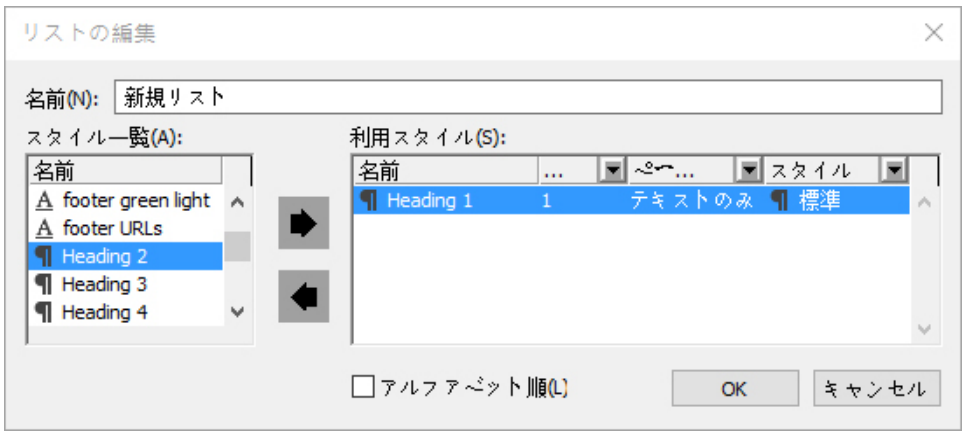
リストの作成

ドキュメントでスタイルシートを作成して適用し、リストに含める内容を決めたら、リストの作成を開始できます。**編集 > リスト**を選択して**新規**をクリックし、**リストの編集**ダイアログボックスを表示して、**名前**フィールドに名前を入力します。

スタイル一覧に、アクティブなプロジェクトの全スタイルシートが一覧されます。リストに使用する各スタイルシートを選択して**追加**をクリックして、**利用スタイル**リストに追加します。たとえば、「Heading 1」および「Heading 2」スタイルシートを使用するすべての見出しを目次に含める場合、この2つのスタイルシートを**利用スタイル**リストに追加します。

目次に入る内容を指定するスタイルシートを指定すると、目次のフォーマット方法を指定できるようになります。**利用スタイル**リストの各スタイルに対し、**レベル**、**ページ番号**オプション、および**スタイル**スタイルシートを選択します。

- **レベル**は、リストのコンテンツが**リスト**パレットでどのようにインデントされるかを指定します（レベルを高くするとさらにインデントされます）。
- **ページ番号**は、スタイルシートの各オカレンスのページ番号をリストに含めるかどうかとその位置を制御します。
- **スタイル**では、自動的に生成される目次の各レベルにスタイルシートを適用できます。



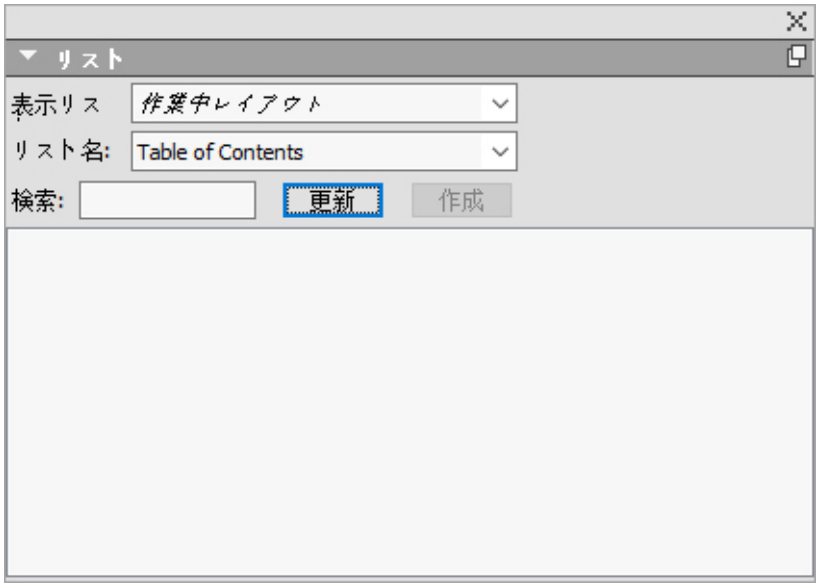
リストの編集ダイアログボックスを使用して、自動目次のようなリストを作成できます。

別のドキュメントからのリストのインポート

QuarkXPressでは、リストを別のドキュメントから、または**編集 > リスト**にある**リスト**ダイアログボックスや**ファイル > 追加**にある**追加**コマンドを使用して追加できます。

リストでのナビゲーション

リストを表示するには、**ウィンドウ**メニューの**リスト**パレットを表示して、**リスト名**ドロップダウンメニューにあるリストを選択し、**更新**をクリックします。選択したリストが**リスト**パレットに表示されます。



リストパレットを使用して、レイアウト内をナビゲートできます。

アーティクルに複数のレイアウトを含んでいる場合、**表示リスト**ドロップダウンリストから別のレイアウトを選択できます。

アクティブリスト内の特定の行を探すには、パレットの**検索**フィールドにその行の語を入力します。パレットのリストが、指定した語のリスト内での最初の出現場所にスクロールします。

特定の段落にジャンプするには、**リスト**パレットでその段落をダブルクリックします。ウィンドウが、レイアウト内のその段落の場所にスクロールします。

リストの作成

レイアウト中に目次（またはその他のタイプのリスト）を作成するには、リストの配置先にテキストの挿入ポイントを配置し、**リスト**パレットにある**作成**をクリックします。リストが自動的に作成されます。**スタイル**ドロップダウンメニュー（**新規リスト**ダイアログボックス）でリスト用に選択したスタイルシートが自動的に適用されます。

ドキュメントのテキストがペーストボードにある場合、作成されるリストではページ番号の代わりに、ダガー記号（Mac OS X）や「PB」という文字列（Windows）がテキストの横に表示されます。

リストの更新

リストパレットは、パレットで作業しても自動的には更新されません。テキストを変更したときは、最新の状態になるようにリストを更新する必要があります。**リスト**パレットの**更新**ボタンをクリックすると、リストアイテムのドキュメントがスキャンされ、**リスト**パレットのリストが再構築されます。

既にテキストボックスにフローしたリストを更新するには、そのボックスを選択し、**更新**をクリックしてリストが最新の状態になっていることを確認してから、**作成**をクリックします。アプリケーションは、レイアウトに既にそのリストのコピーがあることを検出し、リストの新しいコピーを**挿入**するのか、または既存のバージョンを**置換**するのかを尋ねる警告を表示します。既存のリストを更新するには、**置換**をクリックします。

索引の使用

QuarkXPressでは、ドキュメントの単語に、第1～第4レベルの索引見出し語としてマーカーを付けることで索引を作成します。クロス参照を作成したり、索引見出し語が含むテキストの範囲として1つの単語や複数の段落、テキスト選択範囲、特定のスタイルシート内の全テキストなどを指定することができます。索引を作成する際には、多様なレベルで階層構造の有無、約物、マスターページ、スタイルシートを指定します。この作業の後で、索引を作成し、書式を整えます。

ソフトウェアで自動化できるのは、入力や書式設定、索引のページ番号の更新だけです。分かりやすくて利用価値の高い索引を作るための見出し語をリストアップする作業は人の手で行なわなくてはなりません。索引の作成プロセスを完全に自動化するのは不可能なので、索引作成に多少の手間がかかるのは避けられません。ただし、読者が必要な情報を簡単に見つけられるようになるのであれば、やるだけの価値はあります。

索引マーカの色の指定

索引に単語を追加すると、QuarkXPressはそれをブラケットまたはボックスで囲んでタグ付けをします。これらのブラケットまたはボックスを索引マーカと呼びます。**ウィンドウ > 索引**を選択して**索引** パレットを開くと、ドキュメントに索引マーカが表示されます。索引マーカの色は、**索引の環境設定**ダイアログボックスを使用してカスタマイズできます。

1. QuarkXPress／**編集 > 環境設定 > 索引**を選択します。
2. **索引マーカの色**ボタンをクリックして、色の選択機能を表示します。
3. スライダ、矢印、フィールド、またはカラーホイールを使用して、索引マーカの色を指定します。
4. **OK**をクリックして色の選択機能を閉じ、さらに**OK**をクリックして**索引の環境設定**ダイアログボックスを閉じます。

➡ テキストの範囲を指定して索引を設定すると、ブラケットでマークされます。テキストにテキスト挿入バーを置いて索引見出し語を登録すると、その場所がボックスでマークされます。

索引の見出し語の作成

索引の各アイテムは、単語数に関わらず、見出し語と呼びます。各見出し語にはレベルが割り当てられます。レベルは見出し語の第1から第4までの階層を示します。最初のレベルの見出し語は最も一般的であり、4番目のレベルの見出し語は最も詳細です。

QuarkXPressでは、入れ子の索引に4レベルの索引見出し語、追い込み索引に2レベルの索引見出し語を作成できます。

第1レベル索引見出し語の作成

第1レベル見出し語は、索引内でアルファベット順に配列される主要見出しです。

索引に語句を追加する前に、**階層付き**索引と**追い込み**索引のどちらを作成するのかを決める必要があります。階層付き索引には、深さ4レベルまでの情報が含まれ、見出し語は段落改行とさまざまなスタイルシートによって区分されます。追い込み索引には2つのレベルの情報が含まれ、第2レベルの見出し語は第1レベルの見出し語の直後に同じ段落内に続きます。

1. テキスト中にテキスト挿入バーを置くか、またはテキストの範囲を選択して、索引付けするテキストの先頭を指定します。
2. 第1レベル見出し語のテキストを**索引**パレット（**表示**メニュー）の**テキスト**フィールドに入力するには、ドキュメント内のテキストを選択するか、またはフィールドにテキストを入力します。
3. 見出し語のアルファベット順索引を無効にするには、**読み**フィールドにテキストを入力します。たとえば、見出し語が「20世紀」の場合は、読みを「にじゅっせいき」として配列することができます。これによって索引見出し語の綴りに影響が出ることはありません。
4. **レベル**ドロップダウンメニューで**第1レベル**を選択します。
5. ページ番号またはクロス参照に適用されているデフォルトの文字書式設定を無効にするには、**スタイル**ドロップダウンメニューで別の文字スタイルシートを選択します。デフォルトの書式設定は、見出し語テキストの文字スタイルです。
6. **範囲**ドロップダウンメニューからオプションを選択して、索引見出し語によって包含されるテキストの範囲を指定します。
7. **索引**パレットで**追加**ボタンをクリックします。第1レベルの見出し語がアルファベット順に**見出し語**リストに表示されます。ドキュメント内の索引付けされたテキストには、ブラケットまたはボックスによるマークが付きます。**全て追加**ボタンをクリックして、選択したテキストのすべての出現を**見出し語**リストに追加することもできます。

索引見出し語は、ドキュメントでテキストを選択し、コンテキストメニューを表示し、それから**索引へ追加**を選択することによって追加できます。見出し語は、選択されたレベル、スタイル、および範囲を使用して追加されます。表示されるコンテキストメニューは、**索引へ追加**を除いて、テキストボックスのコンテキストメニューと同じです。

単語を選択する場合、その単語を索引に追加してから、もう一度その選択した単語を（たとえば、別のレベルで）索引に追加しようとすると、「索引参照は既にこの場所に存在しています。」という警告メッセージが表示されます。索引で同じ単語を複数回使用するには、単語にテキスト挿入バーを置き、それから**テキスト**フィールドに対象の単語を

入力します。第2索引見出し語に、索引マーカーとしてボックスとブラケットが表示されます。

Option／Altキーを押すと、**追加**ボタンが**逆順追加**に変わります。**逆順追加**ボタンを使用すると、**見出し語**リストに見出し語が逆順で追加され、見出し語にカンマが追加されます。たとえば、**逆順追加**ボタンをクリックすると、「Elaine DeKooning」は「DeKooning, Elaine」として追加されます。「Lila Cabot Perry」は「Perry, Lila Cabot」として追加されます。

Option／Altキーを押すと、**全て追加**ボタンが**全て逆順追加**に変わります。**全て逆順追加**ボタンをクリックすると、選択したテキストのすべての出現が**見出し語**リストに逆順で追加されます。

第2、第3、または第4レベルの索引見出し語の作成

階層付き索引では、第2レベル、第3レベル、および第4レベルの見出し語が、第1レベル見出し語の下に新しい段落で配置されます。追い込み索引では、第2レベルの見出し語が同じ段落で第1見出し語に続きます。

1. 索引にするテキスト範囲の先頭位置にテキスト挿入バーを置きます。
2. 第1レベルの索引見出し語を作成するときと同様に、**テキスト**、**読み**、**スタイル**、および**範囲**の各コントロールを使用します。
3. **見出し語**リストの左側列にある見出し語の横をクリックし、その見出し語が、その下に第2、第3、または第4レベルの見出し語が続く上位レベルの見出し語であることを指定します。

➡ 組み込み索引で使用される段落スタイルシートに左インデント値がある場合には、第2、第3、および第4レベルの見出し語がインデントされます。

4. **レベル**ドロップダウンメニューから、**第2レベル**、**第3レベル**、または**第4レベル**を選択します。

   矢印➪の位置により、選択可能な**レベル**オプションが決まります。**第2レベル**オプションは第1または第2レベルの見出し語の横に矢印がある場合に選択でき、**第3レベル**オプションは第1、第2、または第3レベルの見出し語の横に矢印がある場合に選択でき、また**第4レベル**オプションは第1、第2、第3、または第4レベルの見出し語の横に矢印がある場合に選択できます。

5. **追加**ボタンをクリックします。新しい索引見出し語は、アルファベット順に配列され、適切な見出し語の下にインデントされます。

➡ 索引の見出し語をより多くのレベルの情報を包含する見出しとして使用する場合は、**範囲**ドロップダウンメニューで**ページ番号なし**を選択します。たとえば、料理の本を作成する場合には、「ケーキ」という見出し語を作成し、ページ番号を無効にし、それから第2または第3レベルの見出し語として「チョコレート」や「レモン」などのケーキの種類を列挙できます。

クロス参照の作成

索引の見出し語にページ番号を一覧できるほか、その他のトピックを参照することもできます。たとえば、「活版印刷」への参照欄に「フォントも参照」と表示できます。こ

れには、クロス参照を作成します。索引の既存見出し語へのクロス参照を作成でき、クロス参照用に新しい見出し語を追加できます。**索引**パレット（**表示 > 索引パレット表示**）を使用してクロス参照を作成します。

新規索引見出し語のクロス参照の作成

新規索引見出し語のクロス参照を作成するには、下記の手順に従ってください。

1. テキスト内の任意の位置にテキスト挿入バーを置きます（この見出し語のページ番号はリストに表示されないので、位置は重要ではありません）。
2. **索引**パレットの**テキスト**フィールドに、見出し語のテキストを入力します。
3. それ以外の索引見出し語を作成するときには、**読み**および**レベル**コントロールを使用します。
4. **範囲**ドロップダウンメニューから**クロス参照**を選択します。ドロップダウンメニューから、指定するクロス参照のタイプ（**参照、参照（追加）**、または**以下を参照**）を選択します。
5. フィールドにテキストを入力するか、またはリストに既存の見出し語をクリックして、クロス参照される索引見出し語を指定します。
6. **追加**ボタンをクリックします。見出し語を展開してクロス参照テキストを確認します。

既存索引見出し語のクロス参照の作成

既存索引見出し語のクロス参照を作成するには、下記の手順に従ってください。

1. テキスト内の任意の位置にテキスト挿入バーを置きます（この見出し語のページ番号はリストに表示されないので、位置は重要ではありません）。
2. **見出し語**リストで見出し語を選択します。選択した見出し語は、**テキスト**フィールドに自動的に取り込まれます。
3. **索引**パレットで**編集**ボタンをクリックし、見出し語をダブルクリックするか、または見出し語を選択してコンテキストメニューを表示します。
4. **範囲**ドロップダウンメニューから**クロス参照**を選択します。ドロップダウンメニューから、指定するクロス参照のタイプ（**参照、参照（追加）**、または**以下を参照**）を選択します。
5. フィールドにテキストを入力するか、またはリストに既存の見出し語をクリックして、クロス参照される索引見出し語を指定します。

➡ **見出し語**リストのクロス参照テキストをページ番号参照と一緒に表示するには、見出し語を展開します。

➡ 索引を作成すると、ページ番号参照のすぐ後にクロス参照が続きます。クロス参照は、**索引環境設定**ダイアログボックス（**編集 > 環境設定 > 索引**）で指定した文字スタイルシートに従って書式設定されます。**見出し語のスタイル**を指定すると、クロス参照では参照元の見出し語と同じスタイルシートが使用されます。**スタイル**ドロップダウンメニュー（**索引**パレット）を使用してクロス参照の文字スタイルシートを指定すると、**索引環境設定**ダイアログボックスで指定したスタイルシートが無効になります。**クロス参照**フィールドに

入力するテキストにはそのスタイルシートが適用されますが、クロス参照の「参照」、「参照（追加）」、または「以下を参照」の部分には適用されません。

クロス参照の前に置かれる区切り文字は、**索引環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引**）の**クロス参照の前**フィールドで指定されます。クロス参照の後に区切り文字を入れる場合は、**索引**パレットで入力したクロス参照テキストの後に入力してください。

索引見出し語の編集

索引見出し語を選択して、**テキスト**フィールド、または**読み**フィールドの情報を編集できます。クロス参照やページ番号参照を選択して、**スタイル**または**範囲**ドロップダウンメニューの情報を編集することもできます。また、見出し語のレベルも変更できます。

1. **見出し語**リストから見出し語または参照を選択します。参照を表示するには、見出し語を展開します。
2. **索引**パレットの**編集**ボタンをクリックして見出し語をダブルクリックするか、コンテキストメニューから**編集**を選択します。

   編集モードの使用中、**編集**ボタンは反転表示されます。
3. 選択した見出し語または参照に変更を加えます。他の見出し語や参照を選択して編集することもできます。
4. 編集モードを終了するには、**編集**ボタンをもう一度押します。

索引見出し語の削除

索引見出し語の削除、およびテキストからの索引マーカーの消去については、下記の手順に従ってください。

1. **見出し語**リストから見出し語または参照を選択します。参照を表示するには、見出し語を展開します。
2. コンテキストメニューを表示して**削除**を選択するか、**索引**パレットで**削除**ボタンをクリックします。

索引で使用する約物の指定

索引の環境設定ダイアログボックスを使用して、索引の作成時に自動的に挿入する約物を指定できます。

1. **QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引**を選択します。
2. **区切りキャラクタ**フィールドに、前後のスペースも含めた索引約物およびクロス参照スタイルシートを入力します。

   - **見出し語の後**は、索引の各見出し語の直後に挿入する約物を指定します。通常はコロンです。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19"では、索引見出し語"QuarkXPress"の後にコロンとスペースを使用しています。

索引見出し語の後にクロス参照が続く場合は、**見出し語の後**キャラクタではなく、**クロス参照の前**キャラクタを使用します。

- **ページ番号の間**は、ページ番号のリストを区切るために使用される単語または約物を指定します。通常は、カンマまたはセミコロンです。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19"では、ページ番号の間にカンマとスペースを使用しています。
- **ページ範囲の間**は、ページの範囲を示す単語または約物を指定します。通常は、enダッシュまたは単語"to"で、前後にスペースを挿入して" to "のようにします。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19"では、ページ範囲の表記にenダッシュを使用しています。
- **クロス参照の前**は、クロス参照の前に使用される単語または約物を指定します。通常は、ピリオド、セミコロン、またはスペースです。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19. See also Page Layout"では、クロス参照の前にピリオドを使用しています。
- **クロス参照スタイル**は、クロス参照で使用するスタイルシートを指定します。このスタイルシートは、"参照"、"参照（追加）"、および"以下を参照"にのみ適用できます。
- **見出し語の項目間**は、追い込み索引の見出し語レベルの間に使用される単語または約物を指定します。通常はセミコロンまたはピリオドです。追い込み索引は、索引見出し語の項目またはサブ項目を、ネストされたタブではなくパラグラフで一覧表示します。たとえば、"QuarkXPress: xii, 16–17, 19; Printing from: 62–64; Typesetting in: 32, 34"では、見出し語の間にセミコロンを使用しています。

ネストされた索引では、**見出し語の項目間**キャラクタが各パラグラフの末尾の約物として使用されています。

3 **OK**をクリックします。

作成した索引は、インデックステキストでなく、フォーマットテキストで構成されます。テキスト、または**見出し語**リストの編集を続ける場合は、索引を再度作成する必要があります。

区切りキャラクタフィールドには最大72文字まで入力できます。**区切りキャラクタ**フィールドでは、一部の「XPress Tag」を使用することもできます。たとえば、**見出し語の後**フィールドに「¥t」と入力すると、索引の作成時に見出し語の後にデフォルトタブが自動的に挿入されます。

索引の作成

索引作成ダイアログボックスを使用して、**索引**パレットのコンテンツから索引を作成します。

索引を作成する際、QuarkXPressは、リストをコンパイルし、ユーザーの仕様に従って形式を整え、選択するマスターページに基づいてそのリストをページに流し込みます。ドキュメントが開いている状態で設定すると、索引の環境設定はドキュメント固有の設定になります。

索引を作成する前に、索引用の自動テキストボックスを配置したマスターページを作成します。次に、索引で使用されるセクション見出しおよびすべてのレベルの段落スタイルシートを作成します。通常、レベルはさまざまなインデントによって区別されます。

索引を作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **補助 > 索引作成**を選択するか、**索引**パレットのコンテキストメニューを表示して**索引作成**を選択します。
2. **形式**として、**階層付き**または**追い込み**を選択します。索引が2レベル以上の情報で編成される場合は、階層付き索引を作成してください。追い込み索引を作成する場合は、見出し語の情報レベルすべてが、階層なしで同じ段落に表示されます。
3. 既存の索引を上書きするには、**既存の索引を置換**をオンにします。
4. 索引のアルファベット別セクションそれぞれに見出しを付けるには、**見出し文字を追加**をオンにし、ドロップダウンメニューからスタイルシートを選択します。
5. 索引の**マスターページ**を選択します（自動テキストボックスが配置されているマスターページのみがリストに表示されます）。QuarkXPressは、ドキュメントの最後に必要なページを自動的に追加して索引を作成します。見開きのマスターページを指定すると、見開きの右側が最初に追加されます。
6. **レベルスタイル**ドロップダウンメニューから、索引の各レベルのスタイルシートを選択します。**形式**として**追い込み**をクリックした場合は、**第1レベル**ドロップダウンメニューのみが選択可能になります（これは、すべてのレベルが同じ段落に流し込まれるためです）。
7. **OK**をクリックして**索引作成**ダイアログボックスを閉じ、索引を作成します。

2つのバージョンの索引を比較する必要がある場合は、**索引作成**ダイアログボックス（**補助**メニュー）で**既存の索引を置換**をオフにします。

最後の索引の編集

索引を作成したら、内容を細かくチェックする必要があります。索引見出し語に抜けがないか、クロス参照は適切か、レベル付けは論理的かを確認してください。また、約物やフォーマットが見苦しくないかどうかも確認します。初めて作成した索引が完璧であることはめったにありません。テキストの部分的な修正で済む場合もありますが、場合によっては索引を作成し直す必要がある場合もあります。

索引のテキストが印刷されない

ブラケットで囲まれたテキストが印刷されない場合は、テキストがペーストボードにある、別のアイテムの下に隠れている、ボックスに収まりきらないなどの原因が考えられます。このような場合、索引の見出し語テキストの横にはページ番号ではなく、ダガー記号 † （**Mac OS X**）またはBの後ろにスペースの付いた「PB 」（Windows）という文字が表示されます。

Mac OS Xのみ：ダガー記号を検索するには、**編集**メニューの**検索／置換**ダイアログボックスにある**検索**フィールドに「Option+T」と入力して、ドキュメント内で問題を解決できるかどうか、または索引からダガー記号を削除するだけでいいのかを確認します。

（Windowsのみ）：「PB」文字を検索するには、**編集**メニューの**検索／置換**ダイアログボックスにある**検索**フィールドに、スペースを含めて「PB」と入力して、ドキュメント内で問題を解決できるかどうか、または索引から文字を削除するだけでいいのかを確認します。

索引の編集と再作成

約物、索引の見出し語、または索引の構成に関する問題を解決するには、**索引**パレット、**索引の環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引**）、または**索引作成**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）に戻ります。必要な変更を行い、索引を再作成します。

索引の更新

索引を作成した後に索引付きドキュメントを編集する場合、索引を再度作成する必要があります。QuarkXPressは索引テキストを自動的には更新しないため、ドキュメントの完成が確実になったときにのみ、最終的な索引を作成してください。

索引への部分的な変更の適用

索引が完成し、レイアウトにもこれ以上の変更がなさそうな場合は、索引を部分的に変更して最終的な調整を行います。たとえば、見出し「W」、「X」、「Y」、および「Z」の見出しの下にそれぞれ1つしか見出し語がないような場合には、「W–Z」という見出しで各項の見出し語をまとめることができます。また、**検索／置換**ダイアログボックス（**編集**メニュー）を使用して、特定の単語に書式を適用することもできます。この段階で見出し語の削除や変更を行っても、その変更は以降に作成する索引には反映されません。

ブックの使用

複数ドキュメントで構成される出版物は、管理が難しいものです。関連するドキュメントは相互に近い場所に保存しておく必要がありますが、あくまで別個のものです。このような場合にブックが役立ちます。

ブックとは、チャプターと呼ばれる個々のドキュメントへのリンクを含んだウィンドウとして表示されるQuarkXPressファイルです。ブックにチャプターが追加されると、**ブック**パレットを介してチャプターを開いたり、閉じたり、トラッキングしたりできます。QuarkXPressでは、ブックのチャプターで使用されるスタイルシートや他の仕様を同期し、**ブック**パレットからチャプターを印刷し、チャプター間にまたがるページ番号を自動的に更新したりできます。

QuarkXPressでは、同時に最大25までのブックを開くことができます。また、同時に複数のユーザーでブックを開くことができるので、ワークグループのメンバーは、異なるチャプターにアクセスできるのです。ブックを閉じるかQuarkXPressを終了するまで、ブックは開いた状態のままになります。**ブック**パレットを閉じるかQuarkXPressを終了するときに、ブックに加えられた変更が保存されます。

チャプターを追加したり、並べ替えたりしたブックへの変更内容は、ブックを閉じたとき、またはQuarkXPressを終了したときに自動的に保存されます。チャプターを開いて編集する場合、チャプタードキュメントは、スタンドアロンQuarkXPressプロジェクトと同様に、**ファイル**メニューの**保存**コマンドを使用して保存する必要があります。

➡ たとえば、ワークグループのメンバーが、ブックのチャプターを開いたり並べ替えたりしてブックへの変更を行うと、ブックが更新されて、その変更内容が反映されます。強制的に更新するには、**ブック**パレットの任意の場所をクリックします。

ブックの作成

QuarkXPressでは、ドキュメント（チャプター）の集まりをブックと呼びます。新規ブックは、いつでも作成できます。新規ブックの作成については、下記の手順に従ってください。

1. **ファイル > 新規 > ブック**を選択します。
2. ダイアログボックスのコントロールを使用して、新規ブックファイルの場所を指定します。
3. **ブック名／ファイル名**フィールドに、ブックの名前を入力します。
4. **作成**をクリックします。開いているすべてのドキュメントの前面に、新しいブックがウィンドウとして表示されます。

ブックファイルを共有の場所に保存すると、複数のユーザーがブックを開いてチャプターを編集できます。マルチユーザー環境でブックの機能を使用するには、すべてのユーザーが同じパスを使用してそれぞれのコンピュータからブックにアクセスする必要があります。つまり、ブックは、そのブックにアクセスする任意のユーザーのコンピュータ上ではなく、共通のネットワークサーバー上に保存する必要があります。

チャプターの使用

ブックには、チャプターと呼ばれる個々のQuarkXPressドキュメントが含まれます。チャプターを作成するには、開いたブックにドキュメントを追加します。チャプターは、**ファイル**メニューの**開く**コマンドではなく、**ブック**パレットで開きます。ブック内でチャプターを並び替えたり、ブックからチャプターを削除したりできます。ブックのチャプターは、そのブックと同じボリュームに保存する必要があります。

ブックへのチャプターの追加

1つのブックにはチャプターを1,000個まで追加できます。開いているブックにチャプターを追加するには、下記の手順に従ってください。

1. **ブック**パレットで**チャプターの追加**ボタンをクリックします。
2. ダイアログボックス内のコントロールを使用して、ブックに追加する最初のドキュメントの場所を指定します。ブックに追加する最初のチャプターは、デフォルトでそのブックのマスターチャプターになります。マスターチャプターにより、ブック全体で使用されるスタイルシート、カラー、ハイフネーション＆ジャスティフィケーション仕様、リスト、およびダッシュ＆ストライプが定義されます。これらの属性は、マスターチャプターに固有のものであり、マスター以外のチャプターの属性はマスターチャプターの属性に依存しません。
3. リストでドキュメントを選択し、**追加**をクリックします。ドキュメントが以前のバージョンのQuarkXPressで作成されている場合は、ドキュメントを追加すると現在の形式に更新されることを示す警告メッセージが表示されます。**OK**をクリックすると、ドキュメントが更新され、QuarkXPressのブックチャプターとして再保存されます。
4. 手順1～3を繰り返してブックに他のチャプターを追加します。

チャプターを追加すると、それらのチャプターが**ブック**パレットのリストに表示されます。**チャプターの追加**ボタンをクリックするときに**ブック**パレットでチャプターが選

択されていると、そのチャプターの直後に次のチャプターが自動的に追加されます。チャプターが選択されていない場合は、リストの最後に次のチャプターが追加されます。

チャプターは1つのブックにのみ属することができます。別のブックのチャプターも使用する場合は、**新規保存**コマンド（**ファイル**メニュー）を使用してドキュメントのコピーを作成します。ドキュメントのコピーを他のブックに追加します。別のブックのチャプターを配置すると、ブックのページ番号設定が変更されることがあります。

チャプターの状況

ブックにチャプターを作成すると、**ブック**パレットを使用して、チャプターを開いたり閉じたり、追跡できるようになります。**ブック**パレットの**状況**列には、各チャプターの現在の状況が表示されます。

- **利用可能**は、チャプターを開けることを示します。
- **開く**は、コンピュータ上でチャプターが既に開いていることを示します。
- [**ユーザー名**]は、他のユーザーがチャプターを開いていることを示します。ユーザー名は、ユーザーのコンピュータに割り当てられている名前です。ファイル共有とコンピュータの命名については、コンピュータ付属のマニュアルを参照してください。
- **変更**は、ブックのチャプターが別途開かれ、編集されていることを示します。状況を**利用可能**に更新するには、**ブック**パレットでチャプターを再度開いて閉じます。
- **移動**は、チャプターのファイルがブックに追加されてから移動していることを示します。チャプター名をダブルクリックしてダイアログボックスが表示されたら、ファイルを探してください。

ブック内でチャプターを開く

複数のユーザーで同じブックを開くことはできても、1つのチャプターは同時に1人しか開けません。チャプターを開くには、**状況**欄にそのチャプターが**利用可能**または**変更**と表示されている必要があります。利用可能なチャプターを開くには、そのチャプターの名前をダブルクリックします。

ブックの外からチャプターを開く

ブックが保管されているネットワーク外のコンピュータで作業する必要がある場合、たとえば、自宅でチャプターを編集する必要がある場合など、そのブックから独立してチャプターのコピーで作業できます。そのチャプターの作業が完了したら、ネットワーク上の元の場所にコピーして戻します。この場合、**ブック**パレットには**変更**として表示されます。

➡ コピーの編集中に、別のユーザーが元のチャプターを編集してしまわないように、元のチャプターを別のフォルダに配置すれば、そのチャプターの状況は、**ブック**パレットで**移動**と表示されます。

ブック内のチャプターを並べ替える

ブック内のチャプターの順序は、状況に関係なくいつでも入れ替えることができます。チャプター順を変えると、自動ページ番号が更新されます。チャプター名をクリックして選択し、**ブック**パレットの**チャプターを移動**ボタン、をクリックします。選択したチャプターが1行上または下に移動します。

ブックからのチャプターの消去

チャプターは、いつでもブックから消去できます。チャプター名をクリックして選択し、次に**チャプターの消去**ボタンをクリックします。チャプター名が**ブック**パレットから消去され、そのチャプターへのリンクが切れます。そのチャプターは、通常のQuarkXPressドキュメントになります。

ページ番号の制御

セクションがある（**ページ > セクション**）チャプターをブックに追加した場合、セクションとページ番号は維持されます。たとえば、ブックの各チャプターを新しいセクションにすることができます。チャプターにセクションがない場合、ブックの続きページ番号がチャプターに割り当てられます。たとえば、ブックの最初のチャプターの長さが10ページの場合、2番目のチャプターは11ページから始まります。

セクションの追加と削除を行うことで、ブックのページ番号を変更できます。ドキュメントページに自動ページ番号文字がある場合、そのページには適切なページ番号が表示されます。

セクション分けされたチャプターの使用

チャプターにセクションスタートが設定されている場合、セクションのページ番号設定は、QuarkXPressが新しいセクションスタートを検出するまで、ブック全体で有効な状態が続きます。たとえば、ブックの最初のチャプターが、ページ番号に接頭辞「A」が付いているセクションである場合は、QuarkXPressが新しいセクションを検出するまで、後続のチャプターのすべてのページに接頭辞「A」が付けられます。この例では、2番目のチャプターが接頭辞「B」の付いた新しいセクションになります。

ブックのチャプターのセクションは、いつでも追加、変更、および削除できます（**ページ > セクション**）。ブック内のすべてのチャプターからすべてのセクションを削除すると、そのブックは連続ページ番号設定を逆転させます。

➡ **ブック**パレットでチャプターのページ番号を表示するには、自動ページ番号設定を使用する必要があります。

セクションを含まないチャプターの使用

チャプターにセクションが含まれていない場合、QuarkXPressは各チャプターの最初のページで「ブックチャプタースタート」を作成します。ブックチャプタースタートがあると、そのチャプターのページ番号は、直前のチャプターの最終ページ番号の次から始まります。ブックチャプタースタートを無効にしてセクションを作成するには、チャプターを開いて**ページ > セクション**を選択します。チャプターにページを追加したり、チャプターの順序を並べ替えたり、またはチャプターを削除したりすると、後続のページやチャプターはこのセクションスタートに応じて番号付けされます。

➡ 出力されるチャプターページにブックのページ番号設定が正確に反映されるようにするため、ページ番号は現在のページ番号文字を使用して挿入してください。

ブックを開くユーザーは、チャプターを追加、並べ替え、および削除できます。また、チャプターにセクションを追加して、連続ページ番号設定を無効にしたり、チャプターを同期したりすることもできます。このような作業はひとりのユーザー（編集者など）に割り当て、他のユーザーには、パレットでチャプターを開いたり閉じたりする作業だけを行うよう依頼できます。

関連付けられたQuarkXPressブックの外部でチャプターを開く、つまり**ブック**パレットを使用してチャプターを開かなかった場合は、ページ番号が一時的に変更されます。チャプターの区切りを越えてページ番号を自動的に更新するブックチャプタースタートが含まれている場合は、ブックの外部で編集している間、そのチャプターのページ番号は1から始まります。**ブック**パレットを使用して同じチャプターを再び開くと、ページ番号は自動的に更新されます。チャプターに通常のセクションスタートがある場合は、ブックの外部で編集するときでもページ番号は変わりません。

チャプターの同期

ブックのチャプターで使用されているスタイルシート、カラー、H&J（ハイフネーションジャスティフィケーション）、リスト、ダッシュおよびストライプをすべて統一するには、マスターチャプターの仕様に一致させます。デフォルトでは、ブックの最初のチャプターがマスターチャプターになりますが、マスターチャプターはいつでも変更できます。

チャプターを同期すると、各チャプターのすべての仕様がマスターチャプターの仕様と比較され、必要に応じて変更されます。チャプターを同期した後は、ブックの各チャプターは、マスターチャプターと同じスタイルシート、カラー、H&J、リスト、ダッシュおよびストライプを持つようになります。

マスターチャプターの指定

デフォルトでは、ブックに追加する最初のチャプターがマスターチャプターになります。マスターチャプターは、**ブック**パレットのチャプター名の左にMが付いて示されます。マスターチャプターを変更するには、新しいマスターチャプターをクリックして選択します。次に、そのチャプター名の左の空白の領域をクリックすると、マスターチャプターアイコンのMが新しいチャプターに移動します。

仕様の同期

ブック内の仕様を同期する前に、まずスタイルシート、カラー、ハイフネーションとジャスティフィケーションの仕様、リスト、およびダッシュとストライプが現在のマスターチャプターで正しく定義されていることを確認してください。次に、下記の手順に従ってください。

1. ブックのすべてのチャプターの状況が、**利用可能**になっていることを確認します。利用可能になっていない場合、そのチャプターの仕様は同期されません。
2. 同期するチャプターを選択します。連続するチャプターの範囲を選択するには、最初のチャプターをクリックした後に、Shiftキーを押しながら範囲の最後のチャプターをクリックします。連続しない複数のチャプターを選択するには、Command/Ctrlキーを押しながら、それぞれのチャプターをクリックします。
3. **ブック**パレットで**ブックを同期**ボタンをクリックします。**選択チャプターを同期**ダイアログボックスが表示されます。
4. **スタイルシート、カラー、H&J、リスト**、または**ダッシュ＆ストライプ**タブをクリックして、リストから仕様を選択します。**利用可能**リストに適切な仕様がすべて表示されます。同期する仕様を選択してダブルクリックするか、矢印をクリックしてそれらを**使用**列まで移動します。
5. **選択チャプターを同期**ダイアログボックスですべての仕様を同期するには、**全て統一**ボタンをクリックします。

6 **OK**をクリックします。ブックの各チャプターが開かれ、マスターチャプターと比較された後、必要に応じて変更され、保存されます。チャプターを同期すると、下記のように変更が行われます。

- 同じ名前の仕様が比較されます。必要に応じて、マスターチャプターの仕様と一致するようにチャプター仕様が編集されます。
- マスターチャプターに含まれてる仕様が他のチャプターに含まれていない場合は、追加されます。
- 他のチャプターに含まれている仕様で、マスターチャプターで定義されていないものは変更されません。

➡ ブックの仕様に影響を及ぼす変更を行う場合は、チャプターを再同期する必要があります。

➡ ブックの仕様に対して一括変更を行う場合は、同期を使用できます。たとえば、ブック全体で使用するスポットカラーを変更する場合は、カラーの定義をマスターチャプターで変更してから、**ブックを同期**ボタンをクリックします。

チャプターの印刷

ブックパレットには、同じ設定を使用する複数のチャプターをすばやく印刷する機能が用意されています。**ブック**パレットでは、ブック全体を印刷することも一部のチャプターのみを印刷することもできます。開いているブックのチャプターの印刷については、下記の手順に従ってください。

1 印刷するチャプターの状況が、**利用可能**または**オープン**になっていることを確認します。状況が**移動**になっているチャプターや、現在他のユーザーによって使用されているチャプターは印刷できません。

2 ブック全体を印刷する場合は、チャプターを選択しないようにしてください。1つのチャプターを選択する場合は、そのチャプターをクリックします。連続する複数のチャプターを選択する場合は、Shiftキーを押しながらチャプターをクリックします。連続しない複数のチャプターを選択する場合は、Command／Ctrlキーを押しながらチャプターをクリックします。

3 **ブック**パレットの**チャプター印刷**ボタンをクリックして、**印刷**ダイアログボックスを表示します。

4 選択した全チャプターのすべてのページを印刷するには、**ページ**ドロップダウンメニューから**全て**を選択します。

5 他の印刷設定を指定するか、**印刷書式**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。すべてのページまたはチャプターが、ここで設定した値を使用して印刷されます。

6 **OK**をクリックします。QuarkXPressは、すべてのチャプターを開き、印刷してから、各チャプターを閉じます。チャプターが移動されている場合や他のユーザーによって使用されている場合は、ブックは印刷されません。

➡ **印刷**ダイアログボックスなどのページ番号を入力するフィールドでは、接頭辞も含む完全なページ番号、または絶対ページ番号を入力する必要があります。絶対ページ番号とは、ドキュメントのセクション分けの方法に関係なく、ドキュメントの最初のページに対する相対的な位置を表したものです。ダイアログボックスで絶対ページ番号を指定するには、

ページ番号の前にプラス（+）記号を入力します。たとえば、ドキュメントの最初のページを表示する場合は、「+1」と入力します。

ブックからPDFを生成する

ブックパレットでは、PDFを簡単に生成できます。ブック全体に基いて単一のPDFを生成することも、選択した章について別々のPDFを生成することもできます。PDFを生成するには、下記の手順に従ってください。

1. PDFに含めるチャプターの状況が、**利用可能**または**オープン**になっていることを確認します。状況が**移動**になっているチャプターや、現在他のユーザーによって使用されているチャプターは使用できません。
2. ブック全体を含める場合は、チャプターを選択しないようにしてください。1つの章を選択する場合は、そのチャプターをクリックします。連続する複数のチャプターを選択する場合は、Shiftキーを押しながらチャプターをクリックします。連続しない複数のチャプターを選択する場合は、Command／Ctrlキーを押しながらチャプターをクリックします。
3. **PDFとして書き出し**ボタンの横には、**単一ファイル**チェックボックスがあります。
   - チェックボックスをオンにすると、すべてのチャプター、または選択したチャプターについて単一のPDFが生成されます。PDFのファイル名を入力するよう求められます。
   - チェックボックスをオフのままにすると、章ごとに複数のPDFが生成されます。PDFのファイル名を入力するよう求められ、最初の章はその名前で書き出され、以後の章はその名前に_002、_003などの接尾辞が付けられます。
4. **ブック**パレットの**PDFとして書き出し**ボタンをクリックして、**PDFとして書き出し**ダイアログボックスを表示します。
5. 選択した全チャプターのすべてのページを印刷するには、**ページ**ドロップダウンメニューから**全て**を選択します。
6. **PDFのスタイル**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。すべてのページまたはチャプターが、ここで設定した値を使用して印刷されます。
7. **書き出し後にPDFを開く**チェックボックスをオンにすると、ファイルが書き出された後でPDFが開きます。
8. 他のPDF出力オプションを指定するには、**オプション**をクリックします。
9. **OK**をクリックします。QuarkXPressはすべての章を開き、PDFを生成してから各チャプターを閉じます。章が移動されている場合や他のユーザーによって使用されている場合は、PDFは作成されません。

➡ **PDFとして書き出し**ダイアログボックスなどのページ番号を入力するフィールドでは、接頭辞も含む完全なページ番号、または絶対ページ番号を入力する必要があります。絶対ページ番号とは、ドキュメントのセクション分けの方法に関係なく、ドキュメントの最初のページに対する相対的な位置を表したものです。ダイアログボックスで絶対ページ番号を指定するには、ページ番号の前にプラス（+）記号を入力します。たとえば、ドキュメントの最初のページを表示する場合は、「+1」と入力します。

ブックの索引と目次の作成

QuarkXPressでは、ブック全体の索引と目次を生成できます。これらの機能は**ブック**パレットではなく、リストと索引機能によって実現されています。ただし、完全なリストや索引を生成するには、ブックのすべてのチャプターが**利用可能**である必要があります。

ブックの索引

索引を作成するには、**索引**パレット（**表示**メニュー）を使用し、テキストを索引見出し語としてタグ付けします。索引の約物は**索引の環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > 索引**）で指定します。ブックが完成したら、**索引作成**ダイアログボックス（**補助**メニュー）で索引を生成します。

ブックのリスト

QuarkXPressでは、リストは、特定の段落スタイルシートでスタイル設定されたテキストを編集したものです。たとえば、「チャプター名」スタイルシートのすべてのテキストおよび「セクションヘッド」スタイルシートのすべてのテキストをコンパイルして、2つのレベルを持つ目次を作成できます。リストは目次だけに限定されるものではありません。たとえば、キャプションに使用されているスタイルシートからイラストのリストを作成できます。リストの作成には、**編集**メニューの**リスト**ダイアログボックスおよび**表示**メニューの**リスト**パレットを使用します。

ライブラリの使用

ライブラリは、ロゴ、出版物の発行人欄、登録商標の表記、および写真などの頻繁に使用されるページアイテムを保管するのに便利です。個々のライブラリにはアイテムを2000まで保存できます。ライブラリのアイテムは、テキストボックス、テキストパス、画像ボックス、ライン、複数選択されたアイテム、またはグループです。ライブラリーのアイテムを出し入れするには、単にドラッグするか、またはカット／コピー＆ペーストを実行します。

ライブラリは、レイアウトで随時必要とされるアイテムを保管するのに便利です。たとえば、会社のロゴ、法的情報、一般によく使用される画像やテキスト、図表の書式、およびクリップアートは、すべて一般的なライブラリアイテムに含まれます。記憶するのが難しい書式のアイテムもライブラリに保存できます。

ライブラリパレットのスクロールバーを使用して、ライブラリのアイテム全体を縦方向にスクロールします。サイズを変更するには、**ライブラリ**パレットの右下にあるサイズ変更ボックスをドラッグします。**ライブラリ**パレットは、ズームボックスをクリックして拡張できます。もう一度ズームボックスをクリックすると、前の表示に戻ります。



ライブラリパレット

➡ QuarkXPressのライブラリはクロスプラットフォームではないため、ライブラリを開くには、作成されたときのプラットフォームを使用する必要があります。

ライブラリの作成

新規ライブラリはいつでも作成できますが、その時点で開いているファイル数が25より少ない場合に限ります。新規ライブラリの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 新規 > ライブラリ**を選択します。

➡ 作成した新規ライブラリは、手動で閉じるまで開いたままです。QuarkXPressを起動すると、以前に開いていたライブラリーパレットが自動的に再度開かれ、デフォルトのライブラリ位置に置かれます。

2 ダイアログボックスのコントロールを使用して、新規ライブラリファイルの場所を指定します。

3 **ライブラリ名／ファイル名**フィールドに、ライブラリの名前を入力します。

4 **作成**をクリックします。

ライブラリアイテムの追加

ライブラリにアイテムを追加すると、アイテムのコピーがライブラリに配置され、サムネールとして表示されます。元のアイテムはドキュメントから削除されません。ライブラリにアイテムを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **アイテム**ツール✣を選択します。

2 ライブラリに配置するアイテムまたはアイテムのグループを選択します。複数のアイテムを選択するには、Shiftキーを押しながら各アイテムをクリックします。ただし、複数のアイテムを選択すると、別個のアイテムとしてではなく1つのアイテムとしてライブラリに保存されます。

3 ライブラリにアイテムまたはグループをドラッグし、ライブラリポインタが表示されたらマウスボタンを放します。ライブラリアイテムが矢印アイコンの間に配置されます。

ライブラリアイテムの検索

ライブラリアイテムをドキュメントに配置するには、任意のツールを選択してライブラリアイテムをクリックします。アイテムをドキュメントにドラッグします。ライブラリアイテムのコピーがドキュメントに配置されます。

ライブラリアイテムの操作

ライブラリのアイテムを並び替えたり、アイテムを1つのライブラリから別のライブラリに移動したり、ライブラリアイテムを置換または削除したりすることができます。

- ライブラリのアイテムを並び替えるには、アイテムをクリックして新しい位置にドラッグします。
- アイテムを1つのライブラリから別のライブラリにコピーするには、アイテムをクリックし、開いた別のライブラリにドラッグします。
- ライブラリのアイテムを置き換えるには、ドキュメントで置き換えるアイテムを選択してから、**編集 > コピー**を選択します。ライブラリのアイテムをクリックして選択し、**編集 > ペースト**を選択します。
- **Mac OS X**でライブラリからアイテムを削除するには、アイテムをクリックしてから**編集 > クリア**、**編集 > カット**を選択するか、Deleteキーを押します。Windowsでライブラリからアイテムを削除するには、**ライブラリ**パレットメニューの**編集 > 削除**または**編集 > カット**を選択します。

➡ **（Windowsのみ）**：Windowsでライブラリのアイテムをコピー、ペースト、または削除するには、**ライブラリ**パレット上部の**編集**メニューを使用します。

➡ ドキュメントに高解像度の画像をインポートした後で、その画像を移動する場合、ライブラリアイテムをドキュメントに移動するときに**補助**メニューの**使用状況**コマンドで画像へのパスを更新する必要があります。

ラベルの使用

QuarkXPressでは、ライブラリアイテムにラベルを適用して管理できます。複数のアイテムに同じラベルを適用できます。また、そのラベルに従ってライブラリアイテムを選択して表示できます。たとえば、ライブラリに企業ロゴが多数保存されている場合、それぞれのアイテムに該当する企業名をラベル付けできます。

ライブラリアイテムの命名

ライブラリアイテムの1つに名前を付けた後、その名前を他のアイテムにも使用できます。または、ライブラリアイテムのそれぞれに固有の名前を付けることもできます。ライブラリアイテムの命名については、下記の手順に従ってください。

1 ライブラリアイテムをダブルクリックして、**ライブラリ登録**ダイアログボックスを表示します。

2 **名前**フィールドに記述名を入力するか、**名前**リストから選択します。ライブラリアイテムの名前を変更するには、新しい名前を入力するか、リストから別の名前を選択します。

3 OKをクリックします。

名前別のライブラリ見出し語の表示

見出し語を名前別に表示するには、**ライブラリ**パレットの左上にあるドロップダウンメニュー（Mac OS X）、または**ラベル**メニュー（Windows）をクリックします。表示する、見出し語に関連付けられた名前を選択します。

- メニューには**全ての、名前なし**、および作成して見出し語に適用したすべてのラベルが一覧されます。
- 複数の名前を選択して、複数カテゴリの見出し語を表示できます。この場合、選択した各名前の隣にチェックマークが表示されます。
- Mac OS Xでは、複数の名前を選択すると、ドロップダウンメニューに**混合ラベル**が表示されます。 Windowsでは、**ラベル**メニューを選択すると、パレットに表示されている名前の横にチェックマークが表示されます。
- 名前に関わらずすべてのライブラリ見出しを表示するには、**全ての**を選択します。
- 名前が適用されていない見出しを表示するには、**名前なし** を選択します。別の名前に加えて、**名前なし**を選択できます。
- ラベルが適用されている見出し語を非表示にするには、再度名前を選択します。

ライブラリの保存

ライブラリパレットの閉じるボックスをクリックすると、ライブラリに対して行った変更が自動的に保存されます。ライブラリへの自動保存機能を使用して、各変更をオンザフライで保存することもできます。ライブラリへの自動保存機能の使用については、下記の手順に従ってください。

1 QuarkXPress/編集 > **環境設定**を選択して、左側にあるリストから**保存**をクリックして、**保存**ペインを表示します。

2 **ライブラリへの自動保存**チェックボックスをオンにします。

3 OKをクリックします。

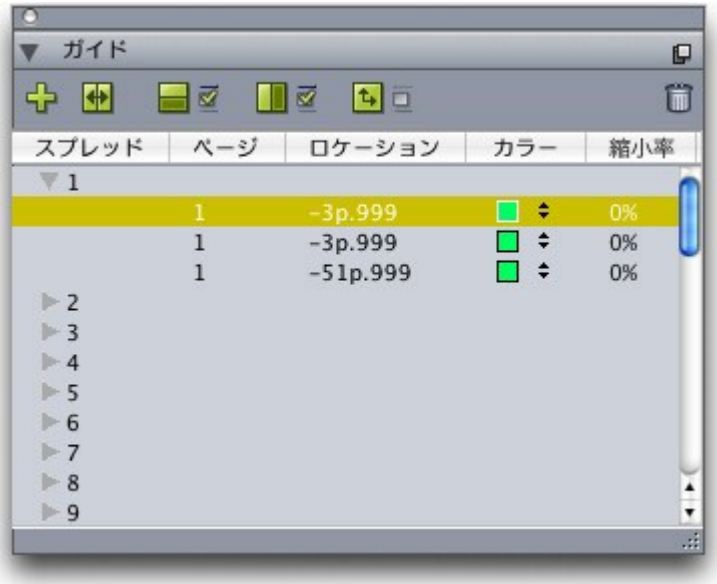
ガイドパレット

ガイドパレット（**ウィンドウ > ガイド**）は、オンスクリーンガイドの作成と編集を行うための正確なコントロールです。ガイドの位置、水平または垂直方向、ページまたはスプレッド全体への適用、表示カラー、およびガイドが表示されるときの表示倍率を指定できます。ガイドの編集、コピー、ペースト、ガイドの左右反転、グリッドおよびガイドの行と列の作成、ボックスからのガイドの作成、ブリードおよびセーフティガイドの追加を行えます。

「*ガイドの使用*」を参照してください。

ガイドパレットの使用

ガイドパレットによって、ガイドを強力に操作できます。



ガイドパレット

ガイドパレットは下記のとおり機能します。

- パレット上部全体を左から右まで制御します。新規ガイドの作成、ガイドの左右反転、水平ガイドの表示、垂直ガイドの表示、現在のガイドのみの表示、およびガイドの削除を行えます。
- 属性でガイドを並べ替えるには、並べ替える属性の列の見出しをクリックします。
- パレットに情報の列を追加するには、列のリストの右側にある**列選択**ボタンからオプションを選択します。
- **スプレッド**列に、レイアウトのページ番号またはスプレッド番号が表示されます。ページまたはスプレッドを表示するには、**スプレッド**列でそのスプレッドをクリックします。パレットにスプレッドのガイドを表示するには、スプレッドの隣の矢印をクリックします。ガイドを編集するには、そのガイドをダブルクリックします。
- 編集オプションのコンテキストメニューを表示するには、各列でControlキー+クリック／右クリックします。たとえば、**ガイド**列のコンテキストメニューには、**ガイドをカット、ガイドをコピー、ガイドをペースト、ガイドを削除**、および**すべてのガイドを選択**オプションが含まれます。

パレットメニューのオプションについての詳細は、「*ガイドパレットメニュー*」を参照してください。

ガイドがオンスクリーンで表示されているかどうかに関係なく、下記のように、**ガイド**パレット（**ウィンドウ**メニュー）でこれらを使用できます。

- ページまたはスプレッドのガイドを表示するには、**ガイド**列のそのページまたはスプレッドの隣にある矢印をクリックします。
- すべてのページまたはスプレッドのガイドを表示するには、スプレッドの隣にある矢印をOptionキー／Altキー+クリックします。

- 垂直または水平ガイドのみを表示するには、パレットメニューから**垂直ガイドを表示**または**水平ガイドを表示**を選択します。すべてのガイドを表示するには、両方を選択します。
- ページガイドのみ（単一行に制限された水平ガイド）またはスプレッドガイドのみ（スプレッド内のすべてのページを含む水平ガイド）を表示するには、パレットメニューから**ページガイドを表示**または**スプレッドガイドを表示**を選択します。すべてのガイドを表示するには、両方を選択します。
- プロジェクトウィンドウに表示されるページまたはスプレッドにガイドのみを表示するには、パレットメニューから**現在のガイドのみを表示**を選択します。

ガイドパレットメニュー

ガイドパレットメニューには、下記のオプションがあります。

- **新規ガイド**：新規ガイドを作成できます。「*ガイドパレットによるガイドの作成*」を参照してください。
- **ガイドをカット**：選択されたガイドをカットします。
- **ガイドをコピー**：選択されたガイドをクリップボードにコピーします。
- **ガイドをペースト**：アクティブなページまたはスプレッドに、現在クリップボードに保存されたガイドをペーストします。
- **すべて選択**：アクティブなページまたはスプレッドのすべてのガイドを選択します。
- **ガイドを左右反転**：ページまたはスプレッドの反対側に、選択したガイドをコピーします。
- **ガイドを削除**：選択されたガイドを削除します。
- **グリッドの作成**：グリッドを作成できます。「*ガイドパレットによるグリッドの作成*」を参照してください。
- **行と列の作成**：ガイドの行と列を作成できます。「ガイドの行と列の作成」を参照してください。
- **ボックスからのガイドの作成**：ボックスからガイドを作成できます。「*ガイドパレットによるガイドの作成*」を参照してください。
- **ブリードとセーフティガイドの作成**：ブリードおよびセーフティガイドを作成できます。「*ブリードとセーフティガイドの作成*」を参照してください。
- **垂直ガイドを表示／隠す**：垂直ガイドを表示または隠します。
- **水平ガイドを表示／隠す**：水平ガイドを表示または隠します。
- **ページガイドを表示／隠す**：アクティブなページのガイドを表示または隠します。
- **スプレッドガイドを表示／隠す**：アクティブなスプレッドのガイドを表示または隠します。
- **ガイド前面**：ページコンテンツの前とページコンテンツの後ろのいずれかにガイドおよびページグリッドを切り替えます。
- **ガイドへの吸着**：ガイドへの吸着機能をオンまたはオフにします。
- **ガイド吸着距離**：ガイドへの吸着機能のガイド吸着距離を制御します。
- **カラーの編集**：ガイドパレットで作成されたガイドに利用できるカラーを編集します。

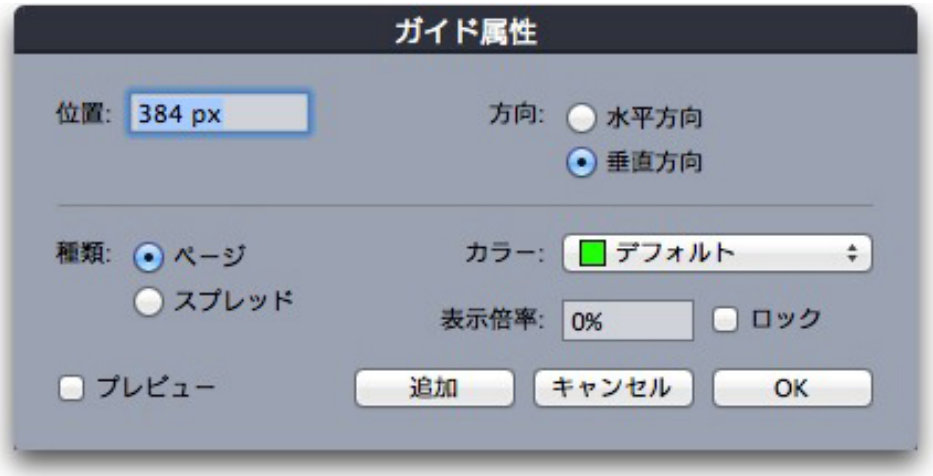
- **取り込み**：書き出されたガイドファイルのガイドを取り込みます。
- **書き出し**：別のファイルにガイドを書き出します。

「*ガイドの使用*」も参照してください。

ガイドパレットによるガイドの作成

ガイドパレットでは、2つの方法でガイドを作成できます。

- **ガイド**パレットを使用して数値的にガイドを作成するには、**ガイド**パレットの上端にある**新規ガイドの作成**ボタンをクリックするか、パレットメニューで**新規**を選択します。**ガイド属性**ダイアログボックスで、**ロケーション**、**方向**、ガイドの**種類**を指定します。また、ガイドの**表示倍率**も指定できます（デフォルト値は0%で、この場合ガイドは常に表示されます）。**ガイドの色**を選択し、マウスでガイドが移動できないようにガイドを**ロック**するかどうかを指定します。**プレビュー**をクリックして、ガイドを作成する前に画面上で確認し、**OK**をクリックします。



ガイド属性ダイアログボックス

ガイド属性ダイアログボックスは、レイアウトの既存のガイドをダブルクリックして表示することもできます。

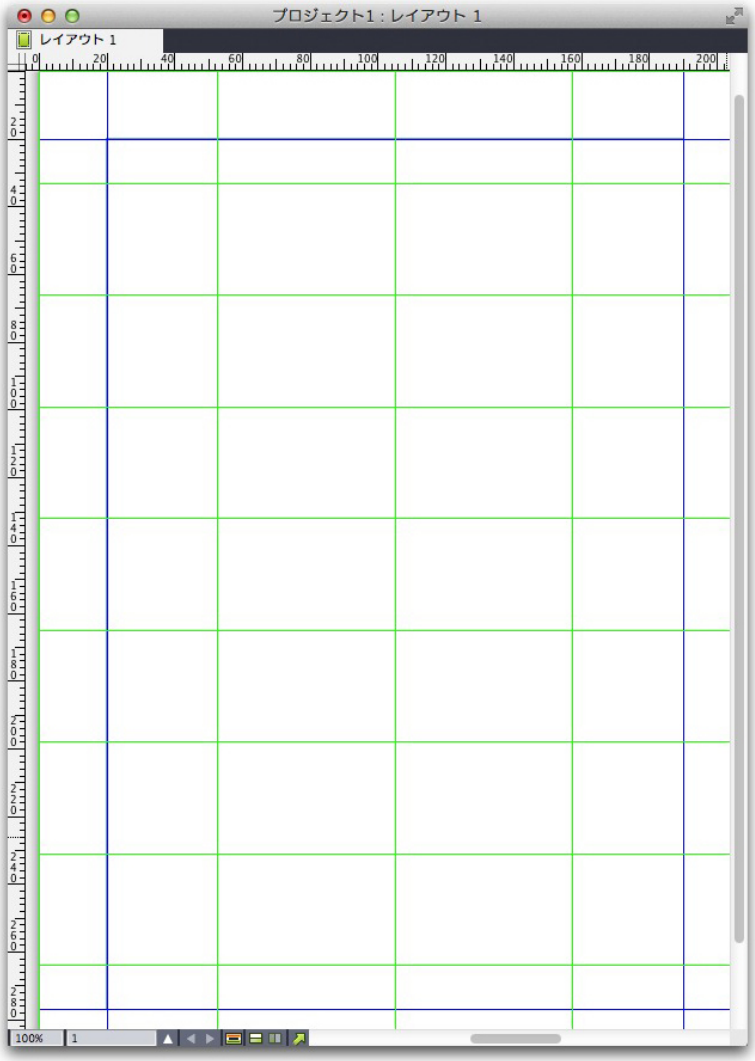
- ボックスの境界から自動的にガイドを作成するには、ボックスを選択し、パレットメニューで**ボックスからのガイドの作成**を選択します。**ボックスからのガイドの作成**コントロールを使用して、ボックスの**上**、**下**、**左**、**右**に配置されるガイドの位置を調整します。他のコントロールも、**ガイド属性**ダイアログボックスと同様に機能します。



任意の形状の図形ボックスについて、方形境界の周囲にガイドを作成する**ボックスからのガイドの作成**オプション。

ガイドパレットによるグリッドの作成

ガイドパレットを使用すると、ページおよびスプレッドに、均等間隔のガイドのグリッドを素早く作成できます。



ガイドパレットで、このようなグリッドを簡単に作成できます

アクティブなページまたはスプレッドへのグリッドの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ガイド**パレットのメニューで、**グリッドの作成**を選択します。



グリッドの作成コントロール

2 **グリッドライン**領域で、**水平方向**または**垂直方向**をオンにします。

3 マージン内などの特定の位置からガイドを開始する場合は、**始点**、**終点**、または両方のフィールドをオンにし、ページのエッジからガイドの始点および終点までの距離を入力します。

4 均等間隔のガイドを作成するには、**数**を選択し、フィールドに配置するガイドの数を入力します。特定の距離間隔でガイドを作成するには、**ガイド間の距離**を選択し、フィールドに距離を入力します。

5 **ガイド属性**ダイアログボックスでの操作と同様に、**種類**、**範囲**、**カラー**、**表示倍率**、**ロック**コントロールを使用します（「*ガイドパレットによるガイドの作成*」を参照してください）。

6 **プレビュー**をクリックして、画面上でグリッドを確認し、OKをクリックします。

行と列の作成

ガイドパレットでは、コラム間隔を使用して、均等間隔のガイドの行と列を作成できます。アクティブなページまたはスプレッドにおけるガイドの行と列の作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ガイド**パレットのメニューで、**行と列の作成**を選択します。



行と列の作成ダイアログボックス

2 **行数**フィールドに水平方向の行の数を入力します。行間を空けるには、**コラム間隔**フィールドに値を入力します。

3 **列数**フィールドに垂直方向の列の数を入力します。列間を空けるには、**コラム間隔**フィールドに値を入力します。

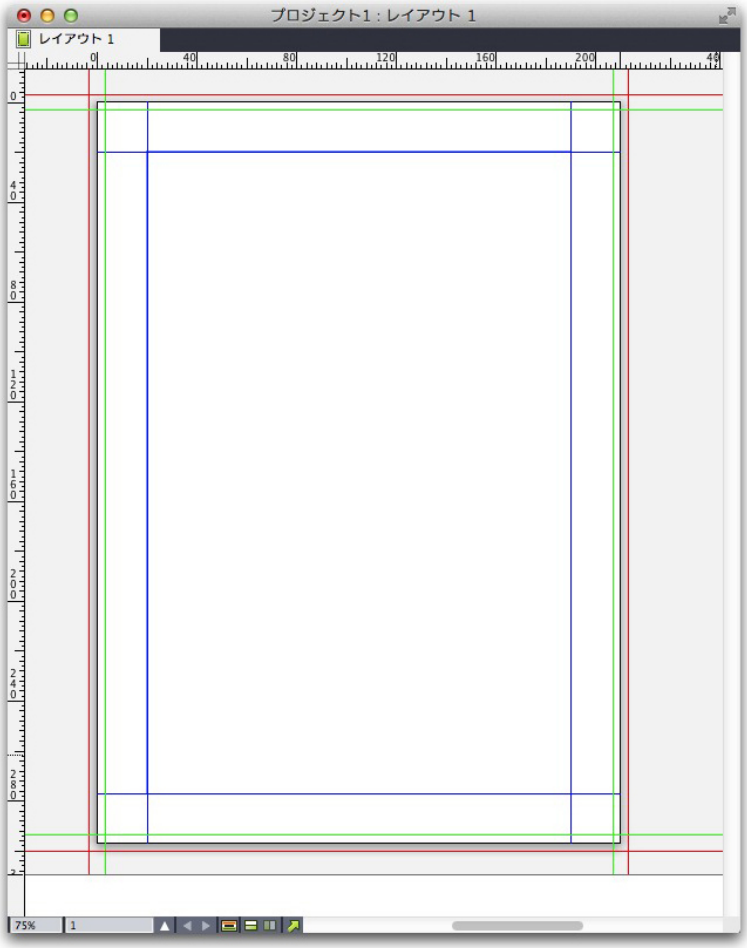
4 マスターガイド内にガイドを作成するには、**マージン**をクリックします。作成しない場合は、**ページの境界**を選択状態のままにしておきます。

5 **ガイド属性**ダイアログボックスでの操作と同様に、**種類**、**範囲**、**カラー**、**表示倍率**、**ロック**コントロールを使用します（「*ガイドパレットによるガイドの作成*」を参照してください）。

6 **プレビュー**をクリックして、画面上でガイドを確認し、**OK**をクリックします。

ブリードとセーフティガイドの作成

ブリードやセーフティガイドが必要な場合、ページサイズを変更したり、独自のガイドを描画したりせず、**ガイド**パレットを使用して追加できます。



ここでは、赤のブリードガイドが、ページから9pt外側に配置されており、緑のセーフティガイドが、ページから9pt内側に配置されています。

アクティブなページでのブリードとセーフティガイドの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **ガイド**パレットのメニューで、**ブリードとセーフティガイドの作成**を選択します。

2 ブリードガイドについては、**ブリード**をオンにし、ページの外側にどの程度の距離でガイドを配置するかを指定する**コラム間隔**フィールドに値を入力して、**カラー**メニューのオプションを選択します。

3 セーフティガイドについては、**セーフティ**をオンにし、ページの内側にどの程度の距離でガイドを配置するかを指定する**コラム間隔**フィールドに値を入力して、**カラー**メニューのオプションを選択します。

4 **ガイド属性**ダイアログボックスでの操作と同様に、**表示倍率**および**ロック**コントロールを使用します（「*ガイドパレットによるガイドの作成*」を参照してください）。

5 複数のページにブリードとセーフティガイドを適用するには、**スプレッド範囲**コントロールを使用します。



ブリードおよびセーフティガイドは、マスターページおよびレイアウトページに追加できます。

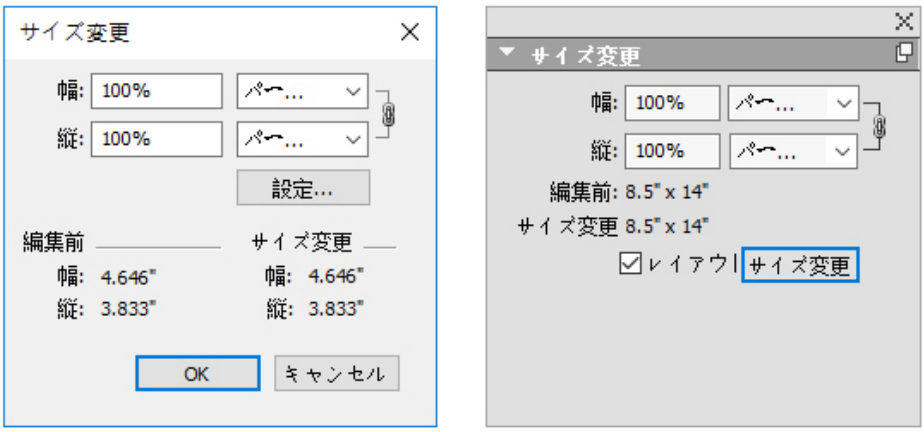
6 **プレビュー**をクリックして、画面上でガイドを確認し、**OK**をクリックします。

サイズ変更機能

サイズ変更機能を使用すると、描画プログラムでオブジェクトのサイズを変更するのと同様に、QuarkXPressのレイアウト、アイテム、グループ、コンテンツのサイズをすばやく変更できます。**サイズ変更設定**ダイアログボックスでは、サイズ変更の対象としてテキスト、フレーム、オフセット、ラインの太さなどを指定できます。

サイズ変更機能を使用するには、下記の操作を行ってください。

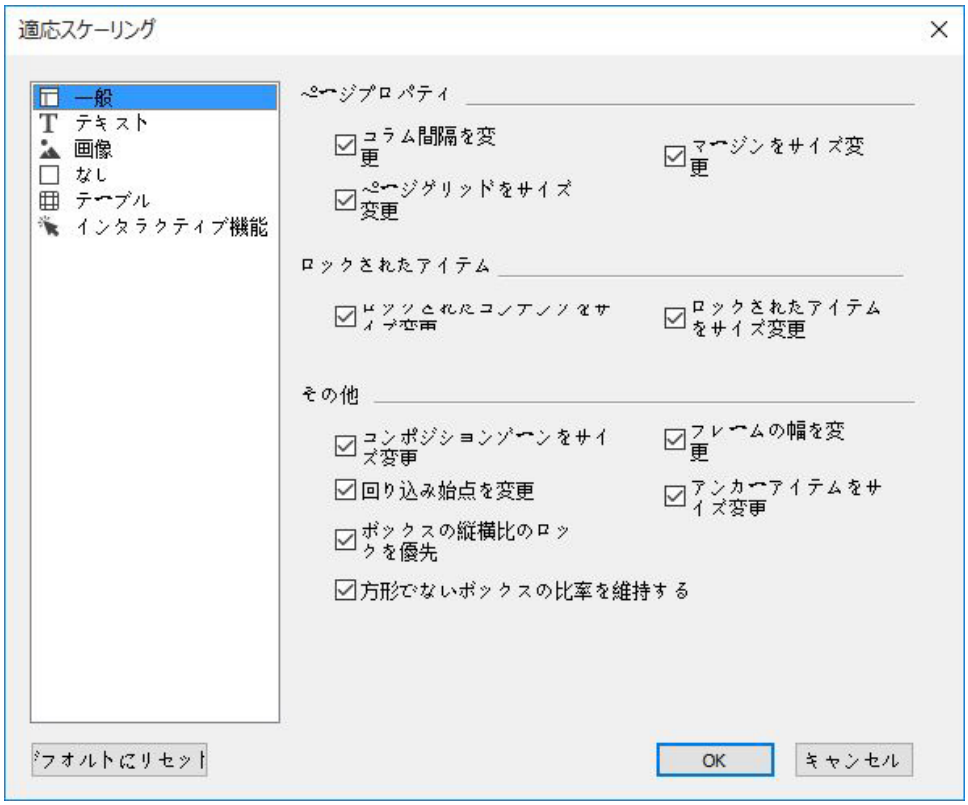
- **アイテム** > **サイズ変更**で、選択したアイテム（1つまたは複数）やグループに幅、高さ、または両方を新たに指定できます。
- **ウィンドウ** > **サイズ変更**を使用すると**サイズ変更**パレットが表示され、**サイズ変更**コマンドと同じコントロールを使用できます。また、**サイズ変更**パレットでは、レイアウト全体のサイズを変更できます。パレットメニューで**サイズ変更（拡大）**または**サイズ変更（縮小）**を選択して、選択したアイテム（1つまたは複数）、グループ、レイアウトのサイズを5%ずつ拡大または縮小することもできます。



サイズ変更ダイアログボックスと**サイズ変更**パレット

サイズ変更ダイアログボックスと**サイズ変更**パレットのどちらでも、下記の機能を使用できます。

- 現在のアイテムのサイズに対する割合（パーセント）、または現在の長さ単位で、新しいサイズを指定して変更できます。**幅**および**高さ**フィールドの右側にあるメニューで**パーセント**または**単位**を選択してから、フィールドに適切な値を入力します。
- 縦横比を保持しながらアイテムのサイズを変更するには、制限ボタンをクリックします。比率を制限した場合、**高さ**オプションは使用できず、アイテムは**幅**フィールドの入力値に従って、垂直方向および水平方向に同じ比率で拡大または縮小されます。
- アイテムやグループの境界ボックスの**編集前**と**サイズ変更後**の大きさが表示されます（現在の計測単位で）。これらの値は、**幅**または**高さ**フィールドで値を変更するたびに更新されます。
- サイズ変更設定を変更するには、**サイズ変更**ダイアログボックスの**設定**ボタンをクリックするか、**サイズ変更**パレットメニューから**サイズ変更設定**を選択します。**適応型サイズ変更**ダイアログボックスが表示されます。各チェックボックスによって、特定のアイテムまたは属性がサイズ変更されるかどうかが制御されます。



適応型サイズ変更ダイアログボックス

サイズ変更パレットで、**レイアウト**をオンにすると、レイアウト全体と、含まれているすべてのサイズを変更できます。

- サイズ変更機能によって、アイテムがQuarkXPressで許可される範囲を超えて縮小または拡大されることがあります。こうしたアイテムは正しく表示されますが、QuarkXPressのツールやコマンドで変更しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

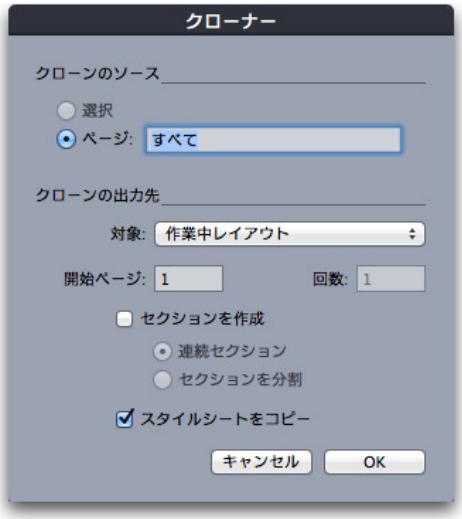
- サイズ変更機能は、**コンテンツ**パレット（**ウィンドウ > コンテンツ**）で同期されているすべてのアイテムで動作するよう設計されていません。共有アイテムのインスタンスは、サイズ変更による幅と高さの変化のみを継承します。また、コンポジションゾーンを含むレイアウト全体のサイズを変更してはいけません。

- 回転したアイテムは、元のジオメトリに従ってサイズ変更されます。たとえば、45度回転している正方形ボックスの幅のみをサイズ変更する場合、期待していたであろう幅広の菱形ではなく、回転した方形が作成されます。

クローナー機能

クローナー機能を使用すると、選択したアイテムを別のページの同じ場所や別のプロジェクトにコピーできます。また、個別のプロジェクトにページをコピーすることもできます。

クローナーを使用するには、最初に、クローンを作成するアイテムを選択します。ページのクローンを作成する場合は、すべてのアイテムを選択解除します。次に、**補助 > クローナー**を選択して、**クローナー**ダイアログボックスを表示します。



クローナーダイアログボックス

クローンのソース領域で、クローンを作成する対象を選択できます。選択したアイテムのクローンを作成するには、**選択**をクリックします。絶対位置で指定した、ページ範囲のクローンを作成するには、**ページ**をクリックします。

クローンの出力先領域で、クローンとして作成されるコンテンツの出力先を選択できます。**出力先**ドロップダウンメニューで、次のオプションを選択します。

- **作業中レイアウト**：選択したアイテムをこのレイアウト内の別の場所にコピーします。
- **既存プロジェクト**：選択したアイテムまたはページを既存のQuarkXPressプロジェクトにコピーします。
- **新規プロジェクト**：選択したアイテムまたはページを新規QuarkXPressプロジェクトにコピーします。
- **新規レイアウト**：選択したアイテムまたはページをこのQuarkXPressプロジェクトの新規レイアウトにコピーします。
- **単一ページに分割**：指定した各ページから、1ページのプロジェクトファイルを作成します。
- **レイアウトをプロジェクトに分割**：このプロジェクトの各レイアウトから、単一レイアウトのプロジェクトを作成します。
- **すべての開いているレイアウト**：選択したアイテムをこのプロジェクト内のすべてのレイアウトにコピーします。
- **[レイアウト名]**：選択したアイテムまたはページを、指定したレイアウトにコピーします。

開始ページフィールドに対象ページを入力します。

選択内容のクローンを作成する場合は、**回数**フィールドを使用して、選択したアイテムに対して必要なコピー数を入力します。たとえば、**開始ページ**に2を、**回数**に5を設定した場合、2、3、4、5、6ページのコピーが作成されます。見開きページレイアウトの場合、スプレッドの両側のコピーが作成されます。

ページのクローンを作成するときに、ページのクローンにセクションを作成するには、**セクションを作成**をオンにして、次のオプションを選択します。

- **連続セクション**：別のセクションからのクローンであっても、ページのコピーはすべて、出力先のレイアウトで単独レイアウトとして保持します。
- **セクションを分割**：指定したページ範囲にセクション分割が含まれている場合、そのセクション分割をコピー内で保持します。

新規プロジェクトにクローンを作成する場合や、いくつかのプロジェクトに分割する場合は、**スタイルシートをコピー**をオンにして、新規プロジェクトまたは分割するプロジェクトに、ソースレイアウトからのスタイルシートがすべて含まれるようにします。このボックスをオンにしない場合は、使用されているスタイルシートのみがコピーされます。

イメージグリッド機能

イメージグリッド機能により、イメージファイルのフォルダから、イメージのグリッドを自動的に作成できます。



イメージグリッドで作成されたページ

アクティブなレイアウトでイメージグリッドを使用するには、**補助 > イメージグリッド**を選択します。**イメージグリッド**ダイアログボックスが表示されます。



イメージグリッドダイアログボックス

グリッドを構成するボックスのサイズを手作業で指定するには、**ボックスのサイズ**フィールドに値を入力して、**固定サイズ**をクリックします。**自動サイズ調整**をクリックすると、**ボックスのサイズ**の値は無視されます。**ギャップ**フィールドで、イメージ間のギャップを指定します。

グリッドに含める行と列の数を指定し、アプリケーションが自動的にボックスのサイズを調整するよう指定するには、**自動サイズ調整**をクリックし、**行**と**列**のフィールドに値を入力します。

縦横比に応じてボックスのサイズを自動的に調整するには、**ボックスのサイズ**領域の値を最大のサイズに設定し、**限界まで固定サイズでページをオートフィル**をクリックします。

画像情報を追加をオンにすると、各画像ボックスの下にキャプションのテキストボックスが追加され、画像ファイルの名前、解像度、ピクセル単位の寸法、ファイルフォーマット、カラースペースが表示されます。このキャプションを画像ファイルの名前だけにする場合は、**名前のみ**をオンにします。キャプションのテキストのサイズを制御するには、**情報テキストのサイズ**をオンにします（このボックスをオンにしない場合は、**標準**文字スタイルシートで指定したフォントサイズが使用されます）。

画像ボックスに自動ドロップシャドウを適用するには、**ドロップシャドウを適用**をオンにし、**オフセット**フィールドにドロップシャドウのオフセットを入力します。

ボックスの形状コントロールを使用すると、画像ボックスの形状を指定できます。ツールの環境設定（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > ツール**タブ）で指定されている画像ボックスの属性のデフォルト値を使用するには、**ツールの環境設定を使用**をオンにします。このボックスをオンにしない場合は、画像ボックスのバックグラウンドは白になります。

画像のサイズ領域では、下記のオプションのいずれかを使用できます。

- **取り込み倍率**：画像を取り込むときの倍率を指定できます。画像に合わせてボックスのサイズも変更するには、**ボックスを画像に合わせる**をオンにします。この指定

によって、**新規ボックスのサイズと配置**領域の一部の設定が上書きされる可能性があることに注意してください。

- **ボックスに合わせる（縦横比を保持）**：縦横比を保持したまま画像をボックスに合わせます。
- **ボックスに合わせる**：縦横比を無視して画像をボックスに合わせます。

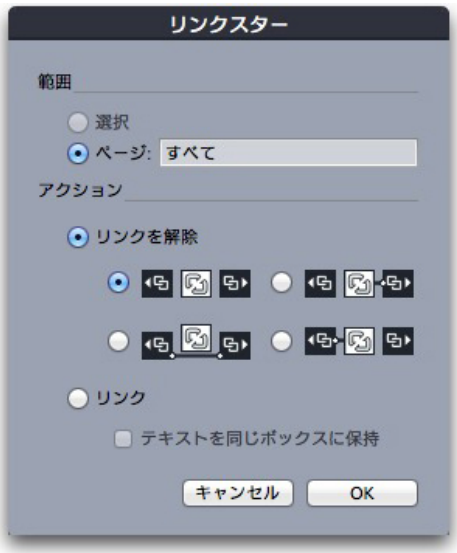
サブフォルダを含むをオンにすると、ターゲットフォルダのサブフォルダ内の画像も対象になります。

ターゲットフォルダを選択してプロセスを開始するには、**フォルダ**をクリックします。現在選択されているターゲットフォルダでプロセスを開始するには、**OK**をクリックします。

リンクスター機能

リンクスター機能を使用すると、リフローを引き起こさずにテキストボックスのリンク設定およびリンク解除を行えます。

リンクスターを使用するには、最初に、リンクするアイテムまたはリンクを解除するアイテムを選択します。次に、**補助 > リンクスター**を選択して、**リンクスター**ダイアログボックスを表示します。



リンクスターダイアログボックス

選択したアイテムのリンクを解除するには、**選択**をクリックします。絶対位置で指定したページ範囲のリンクを解除するには、**ページ**をクリックします。

ストーリーのリンクを解除するには、**リンクを解除**をクリックしてから、次のオプションのいずれかを選択します。

- オプション1では、3つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前のボックスに1つ、選択したボックスに1つ、選択したボックスの後のボックスに1つ作成されます。



- オプション2では、2つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前後のボックスに1つと、選択したボックスに1つ作成されます。



- オプション3では、2つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前のボックスに1つと、選択したボックスと選択したボックスの後のボックスに1つ作成されます。



- オプション4では、2つのストーリーが作成されます。選択したボックスの前のボックスと選択したボックスに1つと、選択したボックスの後のボックスに1つ作成されます。



テキストボックスをリンクするには、**リンク**をクリックします。**ページ**が選択されている場合、このオプションでは、リンクスターによってリンクが解除されたボックスのみがリンクされます。**選択**が選択されている場合、リンクスターは選択されているボックスについて、選択された順序でリンクを試みます。

テキストを同じボックスに保持をクリックすると、リンク後の同じボックスにテキストを保持するよう試みられます。

➡ **リンク／リンクを解除**ツールでも、リンクスターで提供されているリンクオプションの多くを適用できます。

出力

レーザープリンタで確認できるようにプルーフコピーを印刷する場合でも、また高解像度のイメージセッタやプレートセッタでフィルムまたは版の最終的な出力が必要な場合でも、QuarkXPressでは常に満足のいく結果が得られます。QuarkXpress 9およびそれ以降のバージョンではホストベースの分解がサポートされていませんが、**In-RIP**分解または**コンポジット**出力を使用して以前と同様に出力できます。

印刷レイアウト

出版環境の多くでは、デスクトップのインクジェットプリンタからオフィスのレーザープリンタやハイエンドのプレートセッタまで、さまざまな出力デバイスを使用して印刷できます。以下のトピックでは、QuarkXPressでの印刷方法について説明します。

画像パスの更新

QuarkXPressでは、取り込まれた画像について、低解像度と高解像度の2種類の情報が使用されます。低解像度の情報は、画像のプレビュー表示に使用します。印刷時に元の画像ファイルに含まれる高解像度の情報は、その画像へのパスを使用してアクセスできます。

画像へのパスは、画像を取り込むときに確立されます。アプリケーションは、各画像パスに関する情報と、画像の最終変更日の情報を保持します。

取り込み後に画像を移動または変更すると、**出力**コマンド（印刷、PDF、EPS、またはデジタル出力）、または**出力用ファイルの収集**コマンド（**ファイル**メニュー）を実行したときに、警告メッセージが表示されます。

➡ 画像をプロジェクトと同じフォルダに保存する場合は、画像パスを維持する必要はありません。 画像をアーティクルと同じフォルダに保存する場合は、画像パスを維持する必要はありません。アプリケーションでは、ドキュメントと同じフォルダに格納されている画像であれば、その画像が取り込み時に同じフォルダに格納されたかどうかに関係なく、常に「検索」できます。

印刷ダイアログボックスの制御に関する設定

印刷レイアウトでの印刷については、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 印刷**（Command+P／Ctrl+P）を選択します。**印刷**ダイアログボックスが表示されます。

2 プリンタドライバを選択するには、**プリンタ**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

➡ PDFへの印刷は非推奨です。代わりに、**ファイル > 書き出し形式 > PDF**機能を使用してください。

- ***Windowsのみ：*** **プロパティ**ボタンをクリックすると、ダイアログボックスが開き、選択したプリンタドライバに固有のコントロールが表示されます。このダイアログボックスのオプション、またはプリンタのインストール方法についての詳細は、Microsoft Windowsソフトウェアに付属のマニュアルを参照してください。

3 以下のいずれかの方法で出力オプションを指定します。

- 既存の印刷出力スタイルを使用するには、**印刷書式**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。
- 手動で印刷オプションを構成するには、ダイアログボックス下部のコントロールを使用します。**印刷**ダイアログボックスのこの部分は、いくつかのペインに分かれています。ペインを表示するには、左下のリストから名前をクリックします。詳細は、「*印刷ダイアログボックス*」を参照してください。
- 選択した印刷オプションを新しい出力スタイルとして保存するには、**印刷書式**ドロップダウンメニューで**新規印刷出力スタイル**を選択します。

4 印刷部数を指定するには、**回数**フィールドに値を入力します。

5 印刷対象のページを指定するには、**ページ**フィールドに値を入力します。印刷するページは、ページの範囲、不連続のページ、または範囲と不連続のページの組み合わせで入力できます。連続または不連続のページ範囲を指定するには、コンマおよびハイフンを使用します。たとえば、20ページのレイアウトがあり、3〜9ページ、12〜15ページ、および19ページを印刷する場合、ページフィールドに「3-9,12-15,19」と入力します。

6 奇数ページのみ、偶数ページのみ、すべてのページのどれを印刷するかを指定するには、**ページ選択**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。**全て**（デフォルト設定）を選択すると、関連ページがすべて印刷されます。**奇数ページ**を選択すると、奇数番号のページのみが印刷されます。**偶数ページ**を選択すると、偶数番号のページのみが印刷されます。

7 ドキュメントの印刷を拡大または縮小するには、**縮小率**フィールドにパーセントを入力します。デフォルトは100%です。

8 レイアウトを2部以上印刷するとき、プリンタから1部ずつページ順に出力するには、**丁合い**をオンにします。**丁合い**がオフのときは、各ページが一度に複数部印刷されます。

9 フィルムまたは用紙に横一列にスプレッド印刷する（隣接するページを横に並べて印刷する）には、**スプレッド**をオンにします。

10 複数のページを含むレイアウトを逆順で印刷するには、**逆順**をオンにします。レイアウトの最後のページが最初に印刷されます。

11 **印刷領域に合わせる**をオンにすると、選択したメディアの印刷可能領域に合わせてドキュメントのページのサイズが拡大または縮小されます。

12 ***Mac OS Xのみ：*** **プリンタ**ボタンをクリックすると、**プリンタドライバ**ダイアログボックスが開きます。詳細は、コンピュータに付属のマニュアルを参照してください。

13 レイアウトを印刷するには、**印刷**をクリックします。

14 設定を保存しない場合、またはレイアウトを印刷しない場合は、**キャンセル**をクリックして**印刷**ダイアログボックスを閉じます。

➡ **（Windowsのみ） 印刷**ダイアログボックスの右上に、ページのプレビュー領域があります。この画像を使用して、出力デバイスでのページの表示方法をプレビューできます。

➡ **（Mac OS Xのみ） 印刷**ダイアログが拡張され、実際のプレビューが表示されるようになりました。

印刷ダイアログボックス

印刷ダイアログボックスのペインについては、以下のトピックで説明します。

デバイスペイン

PPDの選択やページの配置など、デバイス固有の設定を行うには、**デバイス**ペインを使用します。

- PPDを指定すると、**用紙サイズ**、**横**、および**縦**フィールドに、PPDから供給されるデフォルトの情報が自動的に入力されます。イメージセッタでPPDを選択すると、**ページ間隔**と**用紙のオフセット**フィールドも使用できるようになります。Windowsでは、**PPDマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を使用して、**PPD**ドロップダウンメニューで使用できるPPDのリストをカスタマイズできます。 **Mac OS X**では、MAC HD > Library > Printers > PPDsフォルダにPPDをインストールし、QuarkXPressを再起動する必要があります。これで、**印刷**ダイアログボックスのPPDリストに、すべてのPDDが表示されるようになります。適切なPPDがない場合、類似する汎用の組み込みPPDが選択されます。
- プリンタで使用するメディアのサイズを指定するには、**用紙サイズ**ドロップダウンメニューからサイズを選択します。
- プリンタでメディア縦横のサイズをカスタマイズするには、**用紙サイズ**ドロップダウンメニューから**その他**を選択し、**横**および**縦**フィールドに値を入力します。連続給紙または非ドラム式のイメージセッタに出力を送信する場合、**縦**フィールドを**自動**に設定します。
- 選択した出力メディアでドキュメントの位置を指定するには、**設定位置**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- 選択したPPDのデフォルトの解像度が**解像度**フィールドに自動的に入力されます。
- **イメージセッタの場合のみ**：**用紙のオフセット**フィールドに値を入力し、ページの左端がロールメディアの左端からオフセット（またはインセット）される距離を指定します。
- **イメージセッタの場合のみ**：**ページ間隔**フィールドに値を入力し、ページをロールに印刷する場合のレイアウトのページ間隔を指定します。
- ページ画像のネガを印刷する場合、**ネガ印刷**チェックボックスをオンにします。
- 出力中に報告されるPostScriptのエラー出力を受信するには、**PostScriptエラーハンドラ**をオンにします。

ページペイン

ページ方向、タイリング、ページのフリップなどの関連オプションを指定するには、**ページ**ペインを使用します。

- 縦置きモードと横置きモードのどちらで印刷するかを指定するには、**方向**ラジオボタン（**縦置き**または**横置き**）をクリックします。
- 空白のページを出力に含める場合は、**空白ページを含む**チェックボックスをオンにします。
- レイアウトの複数のページをサムネール表示（縮小）で印刷するには、サムネールチェックボックスをオンにします。
- 出力を縦と横のどちらかにフリップさせるには、**ページフリップ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

セクション（タイル）に大きなレイアウトを印刷するには、**ページタイリング**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。アプリケーションでは、チェックマークと位置情報がタイルごとに印刷されるため、組み直しの場合に便利です。

- ルーラーの元の位置を指定してページのタイリング方法を制御するには、**手動**を選択します。
- アプリケーションでレイアウトのサイズ、メディアのサイズ、**絶対オーバーラップ**をオンにするかどうか、および**オーバーラップ幅**フィールドの値に応じて、各ドキュメントの印刷に必要なタイル数を決定するには、**自動**を選択します。**オーバーラップ幅**フィールドで入力する値は、アプリケーションで必要に応じてタイルを作成する場合にページの拡大に使用する値です。**絶対オーバーラップ**をオンにすると、ページを拡大してタイルを作成する場合に、アプリケーションで**オーバーラップ幅**フィールドの値のみが使用されます。**絶対オーバーラップ**をオフにすると、タイルの作成時にアプリケーションで**オーバーラップ幅**フィールドの最小値が使用されますが、より大きな値を必要に応じて使用する場合もあります。最終的な組み立てタイルの中央にレイアウトを配置する場合は、**絶対オーバーラップ**チェックボックスをオフにします。

画像ペイン

画像の印刷方法を制御するには、**画像**ペインを使用します。

- 画像の印刷方法を指定するには、**出力**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。**標準**を選択すると、画像のソースファイルのデータを使用して高解像度で画像が出力されます。**低解像度**を選択すると、画面のプレビューと同じ解像度で画像が印刷されます。**ラフ**を選択すると、画像とグラデーションは出力されず、画面上で空の画像ボックスが表示される場合と同様に、フレーム付のボックスと、その中の「X」のみが印刷されます。
- 印刷データの形式を選択するには、**データ**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。バイナリ形式ではドキュメントが高速に印刷されますが、**ASCII**オプションの方が、さまざまなプリンタやプリントスプーラで読み取り可能な標準形式であるため汎用性があります。**クリーン8ビット**オプションでは、ASCIIとバイナリが多用途で汎用のファイル形式として組み合わせられます。
- 取り込んだEPS画像に含まれている黒の要素すべてを（EPSファイルのオーバープリント設定に関係なく）強制的にオーバープリントとするには、**EPSブラックのオーバープリント**をオンにします。

- 1ビットのTIFFを最高解像度で（**デバイス**リストアイテムで指定した解像度を超えない範囲で）印刷するには、**フル解像度でTIFF出力**をオンにします。**フル解像度でTIFF出力**をオフにすると、1ビットを超える画像は、インチ当たりのライン数（lpi）設定の2倍にサブサンプリングされます。

フォントペイン

出力時に含めるフォントを指定するには、**フォント**ペインを使用します。このペインのオプションの多くは、PostScript出力デバイスへの印刷時のみ使用できます。

- プリンタのPPDファイルからダウンロード済みのフォント一覧を読み取るには、**PPDフォント設定を使用**チェックボックスをオンにします。PPDファイルの一覧にあるフォントはダウンロードされません。このボックスをオンにすると、このタブにあるほかのコントロールの多くが無効になります。
- PostScriptレベル3またはそれ以降の出力デバイス、またはPostScriptレベル2バージョン2015またはそれ以降を使用するデバイスに印刷する場合、**フォント形式の最適化**チェックボックスをオンにします。
- レイアウトで使用するフォントをすべてダウンロードするには、**レイアウトフォントをダウンロード**チェックボックスをオンにします。ダウンロードするフォントを制御するには、**レイアウトフォントをダウンロード**チェックボックスをオフにしてから、ダウンロードするフォントごとに**ダウンロード**チェックボックスをオンにします。**表示**ドロップダウンメニューのオプションを選択しても、一覧にあるフォントを制御できます。
- 取り込んだPDFおよびEPSファイルで必要なすべてのフォントをダウンロードするには、**インポートされたPDF／EPSフォントをダウンロード**チェックボックスをオンにします。
- アクティブなプリンタに含めるフォントのリストを取得するには、**プリンタの検索**をクリックします。このプロセスには時間がかかります。**PPDフォント設定を使用**チェックボックスをオンにして、プリンタメーカーのPPDファイルを使用しなければならない場合もあります。

カラーペイン

カラーペインを使用してカラー出力を制御します。

- 1つのページにすべてのカラーを印刷するには、**モード**ドロップダウンメニューから**コンポジット**を選択します。In-RIP分版に対応しているデバイスに印刷するには、**モード**ドロップダウンメニューから**色分解**を選択します。コンポジット出力についての詳細は、「*カラーコンポジットの印刷*」を参照してください。色分解についての詳細は、「*色分解の印刷*」を参照してください。
- 出力デバイスの出力設定を指定するには、**設定**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。カラーマネージメントについての詳細は、「*ソースセットアップおよび出力セットアップ*」を参照してください。
- デフォルトのハーフトーン図形および線数を指定するには、**ハーフトーン**および**線数**ドロップダウンメニューを使用します。**ハーフトーン**ドロップダウンメニューで**プリンタ**オプションを選択すると、出力デバイスがすべてのハーフトーン設定を決定します。

トンボペイン

切り抜きマーク、トンボ、ブリードマークなどを出力に含めるには、**トンボ**ペインを使用します。**切り抜きマーク**を選択すると、短い縦横の線がページの最終的なトリムサイズの外側に印刷されます。このマークはページの切り取り位置を示します。**トンボ**は、版のオーバーレイ調節に使用する記号です。**ブリードマーク**は、ページのブリード範囲を示します。

- 切り取りマークとトンボをすべてのページに含めるには、**モード**ドロップダウンメニューから**センター**または**オフセンター**を選択します。
- **センター**または**オフセンター**を選択すると、**幅**、**長さ**、および**オフセット**の各フィールドが使用可能になります。**幅**と**長さ**フィールドの値により、切り取りマークの幅と長さが決まります。**オフセット**フィールドの値により、ページの端から切り取りマークまでの距離が決まります。
- ブリードの位置を示すマークを含めるには、**ブリードマークを含む**オプションを選択します。

レイヤーペイン

出力するレイヤーと出力しないレイヤーを指定するには、**レイヤー**ペインを使用します。

印刷および**PDF出力**ダイアログボックスのみ：**レイヤー**ペインの設定をレイアウトに適用するには、**レイヤー属性を適用**チェックボックスをオンにします。

ブリードペイン

ブリードペインを使用すると、印刷時にアイテムをブリード（ページの境界より外に拡大）できます。ブリード設定はレイアウト内のすべてのページに適用されます。

レイアウトページの端からどの程度ブリードを拡大するかを定義してブリードを作成するには、**ブリードの種類**ドロップダウンメニューで**均等**または**不均等**を選択します。

- 各ページの端から均等な距離で拡大してブリードを作成するには、**均等**を選択して**量**フィールドに値を入力し、ブリードの距離を指定します。
- 各ページの端から異なる距離で拡大してブリードを作成するには、**不均等**を選択し、**上揃え**、**下揃え**、**左揃え**、**右揃え**の各フィールドに値を入力し、ブリードの距離を指定します。
- ***印刷およびPDF出力のみ：*** ページの境界を越えて広がるページアイテムをすべて囲むようにブリードを拡大するには、**ページアイテム**を選択します。
- ***印刷およびPDF出力のみ：*** ブリードされるアイテムをブリードの端で切り取るか、それらのアイテムをすべて印刷できるようにするかを定義するには、**ブリード限度でクリップ**ボックスをオンにします。

透明度ペイン

書き出し時の透明度の処理方法を指定するには、**透明度**ペインを使用します。

- 透明度の関係でベクトルデータを含む画像のラスタライズが発生した場合に使用する解像度を指定するには、**ベクトル画像**コントロールを使用します。ベクトル画像には通常細い線が含まれていて、この線が低解像度ではギザギザに見えるため、この値を高くすることをお勧めします。

- **ドロップシャドウ**コントロールでは、ドロップシャドウのラスタライズの解像度を指定できます。**ぼかし**が0のドロップシャドウを作成しない限り、この値は比較的小さくできます。

これらのいずれかのフィールドで低解像度の値を選択すると、平滑化に必要な時間が短縮し、レイアウトを出力へ送信する場合の処理時間も節約できます。

透明度の関係に関わる回転または傾斜しているアイテムは、RIPへ送信する前にラスタライズする必要があります。回転または傾斜の方向によっては、低解像度で行うと画質が低下する傾向があるため、QuarkXPressはこのようなアイテムをアップサンプリングしてから回転または傾斜させます。これにより画質の低下を最小限に抑えることができます。透明度の関係に伴う、回転または傾斜したアイテムおよび画像のアップサンプリングの解像度を手動で設定するには、**回転／傾斜のアップサンプル**をオンにします。低い解像度の値を使用しており、回転または傾斜したアイテムの表示にムラができて画質が低下する場合、このボックスをオンにしてから**アップサンプルの値**フィールドに値を入力します。**アップサンプルの値**フィールドの値は、**ベクトル画像**、**グラデーション**、および**ドロップシャドウ**フィールドの最大解像度の値以上にする必要があります。

dpi（次よりも画像が小さい場合）フィールドでは、回転または傾斜したアイテムをアップサンプリングする上限の値を指定できます。このフィールドの目的は、**回転／傾斜のアップサンプル値**の値に近い回転または傾斜したアイテムが不要にアップサンプリングされないようにすることです。一般にこの値は、**回転／傾斜のアップサンプル値**よりも約100dpi低い値に設定します。

不透明度の値を考慮に入れずにアイテムを印刷するには、**透明効果を無視**をオンにします。すべてのアイテムは、不透明度の値に関係なく100%不透明として扱われます。また、ドロップシャドウおよび画像のマスクは無視されます。このオプションは、透明度関連の出力の問題解決に役立ちます。

取り込まれたPDFファイルとAdobe Illustratorファイルで、平滑化された透明度の解像度を制御するには、**平滑化解像度**フィールドに値を入力します。

フラットナは、ドロップシャドウ、半透明の画像、アルファチャンネルでマスクされた画像など、ラスター要素が領域に含まれている場合のみ、その領域をラスタライズします。フラットナは、ソリッドカラーの領域にラスター要素が重なっていない限り、（半透明レイヤー処理の結果に関係なく）その領域はラスタライズしません。

JDFペイン

プロジェクトのジョブジャケット構造からJDFファイルを保存するかどうかを指定するには、**JDF**ペインを使用します。**JDFを出力**チェックボックスをオンにすると、**ジョブジャケットの連絡先を含める**ドロップダウンリストが使用可能になります。プロジェクトのジョブジャケット構造にある連絡先一覧から連絡先を選択します。

詳細設定ペイン

詳細設定ペインでは、出力デバイスのPostScriptレベルを指定できます。

概要ペイン

概要ペインには、他のペインの設定の概要が表示されます。

ページのプレビュー領域

Windowsでは、印刷レイアウトについて、ページがどのように出力されるかが**印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）に視覚的に表現されます。これを、**ページプレビュー領域**と呼びます。このページプレビュー領域には、レイアウトページや指定したページの実際のアイテムは表示されず、ターゲットメディアとの相対関係でページの形状と方向が表示されます。

Mac OS Xでは、**ページプレビュー領域**が拡張されています。ページのプレビュー領域には、レイアウトページや指定したページの実際のアイテムが表示され、実際のページが表現されます。

- 青い方形はレイアウトページを表します。
- 緑の方形は選択したメディアの印刷可能領域を表します。
- 黒の方形は、**PPD**ドロップダウンメニュー（**デバイス**ペイン）から給紙デバイスを選択したときのメディア領域を表します。
- レイアウトを囲むグレーの領域は、カスタムブリード（**ブリード**ペイン）を使用してブリード設定を選択したときのブリードを表します。
- 切り取りマークまたはブリードマークを含むページサイズが、印刷メディアの印刷可能領域よりも大きい場合、印刷可能領域の外側にあるレイアウトの赤い領域の部分が切り取られます。**ページ**ペインで**自動**タイリングを有効にすると、赤い領域が表示されません。
- Rはネガ印刷用の表示です。ページは用紙の方向とサイズに応じて回転されます。
- グラフィックプレビューの左の矢印は、フィルムまたはページの給紙方向を示します。
- グラフィックプレビューの左側に、2つの小さなアイコンがあります。カットシートアイコンは、**PPD**ドロップダウンメニュー（**デバイス**ペイン）からカットシート型の出力デバイスを選択したことを示します。一方、ロール給紙アイコンは、**PPD**ドロップダウンメニューからロール給紙型の出力デバイスを選択したことを示します。疑問符は、ページのプレビュー領域で使用する色の凡例を表示するドロップダウン形式のボタンです。
- **トンボ**ペインでトンボをオンにすると、これらもページのプレビュー領域に表示されます。
- **ページ**ペインで**サムネール**をオンにすると、プレビューがサムネールで表示されます。

色分解の印刷

ホストベースの分版を作成するには、QuarkXPressでコンポジットPDFを作成してから、PDFツールを使用して分版を行ってください。

In-RIP分版を使用して色分離を印刷するには、下記の手順に従ってください。

1. **印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**カラー**ペインを表示します。
2. **モード**ドロップダウンメニューで、**色分解**を選択します。
3. **設定**ドロップダウンメニューで、下記のオプションを選択します。

- **In-RIP分版**オプションを選択すると、プロセスカラーとスポットカラーの版がすべて印刷されます。この場合の出力形式はコンポジットです。ただし、印刷するPostScriptファイルには色分解の情報が含まれます。PostScriptレベル3のデバイスを使用する場合は、**In-RIP分版**オプションを選択する必要があります。また、**設定**ドロップダウンメニューには、**デフォルト出力セットアップ**ダイアログボックス（**編集 > 出力セットアップ**）のリストにある色分解ベースの出力設定もすべて含まれています。

4 **ハーフトーン**ドロップダウンメニューで、下記のオプションを選択します。

- 指定するハーフトーン設定を使用するには、**計算値**を選択します。
- RIPに組み込まれているハーフトーン設定を使用するには、**プリンタ**を選択します。このオプションを選択すると、このペインのハーフトーンコントロールは無効になります。

5 デフォルト以外の線数の値を指定するには、**線数**フィールドに1インチ当たりのライン数（lpi）の値を入力するか、**線数**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

6 **カラー**ペインの下端にあるリストには、デフォルトの**ハーフトーン**、**線数**、**角度**、**網点形状**の設定に加えて、レイアウトで使用する版が表示されます。一般的に、版のリストにあるデフォルト設定で、適切な印刷結果が得られます。ただし、これらの設定を調整しなければならない場合もあります。列のダッシュ記号は、その列のエントリが編集不可であることを示しています。

- **モード**ドロップダウンメニューで**色分解**を選択すると、**版**列にドキュメントのスポットカラーとプロセスインキが一覧表示されます。**カラー**ペインの上端にある**設定**ドロップダウンメニューで、一覧に表示するレイアウト版を指定します。
- **ハーフトーン**ドロップダウンメニューでは、スポットカラーに対してさまざまな画面の角度を割り当てることができます。スポットカラーに対するデフォルトの画面の値は、**カラーの編集**ダイアログボックス（**編集 > カラー > 新規**）の**ハーフトーン**ドロップダウンメニューで指定します。
- **線数**列には、ライン画面の線数の値が一覧表示されます。これは1インチ当たりのライン（lpi）の値で、カラー版ごとに適用されます。版のデフォルト値を使用しない場合、**線数**ドロップダウンメニューで**その他**を選択し、**線数／その他**ダイアログボックスを表示します。
- **角度**列には、カラー版ごとの画面の角度が一覧表示されます。デフォルト値を使用しない場合、**角度**ドロップダウンメニューで**その他**を選択し、**角度／その他**ダイアログボックスを表示します。
- 印刷画面で別のドット形状を指定するには、**網点形状**列のドロップダウンメニューでオプションを選択します。

カラーコンポジットの印刷

（色分解ではなく）カラーコンポジット出力で印刷するには、下記の手順に従ってください。

1 **印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**カラー**ペインを表示します。

2 **モード**ドロップダウンメニューから**コンポジット**を選択します。

3 **設定**ドロップダウンリストからオプションを選択します。

- **グレイスケール**
- **グレースケール100K**
- **コンポジットRGB**
- **コンポジットCMYK**
- **コンポジットCMYKおよびスポット**（コンポジットPostScriptで印刷、In-RIP分版をサポートするデバイス向け）
- **カラー変更なし**（ソースのカラースペースを使用してカラーアイテムを描く、PostScriptコンポジットカラーデバイスへの出力向け）

また**設定**ドロップダウンメニューには、**デフォルト出力スタイル**ダイアログボックス（**編集 > 出力スタイル**）のリストにあるすべての出力スタイルが含まれています。

4 **ハーフトーン**ドロップダウンンメニューから、**計算値**または**プリンタ**を選択します。**計算値**オプションを選択すると、QuarkXPressで計算されたハーフトーンの画面の値が使用されます。**プリンタ**オプションを選択すると、選択したプリンタで指定するハーフトーン画面の値が使用されます。この場合、QuarkXPressからハーフトーンの情報が送信されません。

5 デフォルト以外の線数の値を指定するには、**線数**フィールドに1インチ当たりのライン数（lpi）の値を入力するか、または**線数**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。

レイアウトの書き出し

書き出し、**印刷**、その他のコマンドでは、ファイルを次の形式で出力できます。

- 画像（PNGまたはJPEG）
- PostScript（PS）
- EPS（Encapsulated PostScript）
- PDF（Portable Document Format）、PDF/X認証ありまたはなし
- HTML5出版物（詳細は『**Digital Publishing with QuarkXPress**』を参照してください）
- iOSの単独アプリ（詳細は『**Digital Publishing with QuarkXPress**』を参照してください）
- 固定レイアウトePubおよびリフローePub（詳細は『**Digital Publishing with QuarkXPress**』を参照してください）
- Kindle（詳細は『**Digital Publishing with QuarkXPress**』を参照してください）。

書き出しオプションにアクセスするには、**ファイル > 書き出し**を選択するか、**書き出し**ボタンをクリックします。

EPS形式でのレイアウトの書き出し

EPS（Encapsulated PostScript）ファイルとしてレイアウトページを書き出すと、ファイル名と場所を指定して、（カスタムコントロールまたはEPS出力スタイルから）複数のEPS書き出しパラメータを設定できます。基本的なEPS書き出しコントロールを使用するには、下記の手順に従ってください。

1. **ファイル > 書き出し形式 > EPS**を選択します。**EPSファイルでページ保存**ダイアログボックスが表示されます。
2. **ページ**フィールドにページの範囲を入力します。
3. 既存の出力スタイルを使用するには、**EPSスタイル**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。
4. 出力設定を変更するには、**オプション**をクリックします。書き出されたファイルの形式を制御するには、表示されるダイアログボックスのペインを使用します。
   - EPS出力スタイルを使用するには、**EPSスタイル**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。現在の設定でEPS出力スタイルを作成するには、**新規EPS出力スタイル**を選択します。
   - EPSファイルの倍率、EPSファイルのプレビュー形式、データ形式（ASCII、バイナリ、またはクリーン8ビット）、EPSファイルでページの白い領域を透明にするか不透明にするか、印刷でEPSファイルをスプレッドとして出力するかどうかを指定するには、**一般**ペインを使用します。
   - EPSファイルの出力設定および出力に含める版を選択するには、**カラー**ペインを使用します。
   - 書き出されるEPSファイル内に埋め込むフォントを指定するには、**フォント**ペインを使用します。
   - EPSファイルでトンボの位置、幅、長さを指定するには、**トンボ**ペインを使用します。
   - ブリードの種類を均等と不均等のどちらにするか、およびEPSファイルの周囲のブリード距離を指定するには、**ブリード**ペインを使用します。
   - 透明度をオンまたはオフに設定する、またはEPSファイルで平滑化されたアイテムの解像度を制御するには、**透明度**ペインを使用します。
   - EPSファイルの作成と同時にJDF（Job Definition Format）ファイルを作成するかどうかを指定するには、**JDF**ペインを使用します。このオプションを選択するのは、JDFワークフローでジョブジャケットを使用する場合です。
   - EPSをPostScriptレベル2とPostScriptレベル3のどちらに準拠させるかを選択するには、**詳細設定**ペインを使用します。
   - **概要**ペインには、前のペインで行ったすべての選択について、概要が表示されます。
5. **OK**をクリックします（EPSファイルを作成せずに現在の設定を保存するには、**保存して閉じる**をクリックします。）
6. **保存**をクリックします。

PDF形式でのレイアウトの書き出し

PDF形式でアクティブなレイアウトを書き出すには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 書き出し形式 > PDF**を選択します。**PDFとして書き出し**ダイアログボックスが表示されます。

2 **ページ**フィールドにページの範囲を入力します。

3 既存の出力スタイルを使用するには、**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

4 **書き出し後にPDFを開く**チェックボックスをオンにすると、ファイルが書き出された後でPDFが開きます。

5 出力設定を変更するには、**オプション**をクリックします。書き出されたファイルの形式を制御するには、表示されるダイアログボックスのペインを使用します。

- PDF出力スタイルを使用するには、**PDFのスタイル**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。現在の設定でPDF出力スタイルを作成するには、**新規PDF出力スタイル**を選択します。
- PDF/X認証を使用するには、**認証**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。使用可能なオプションは、**PDF/X-1a**、**PDF/X-3**、**PDF/X-4**です。**PDF/X-1a**認証で使用できるのはCMYKおよびスポットカラーのみですが、**PDF/X-3**認証では、他のカラースペースを使用するカラーおよび画像と、ICCカラープロファイルを含めることができます（これらはカラーマネージメントのソースおよび出力セットアップで定義されます）。**PDF/X-4**ではネイティブの透明度を使用できますが、**PDF/X-1a**と**PDF/X-3**では使用できません。
- コンポジット出力または分版のどちらを作成するかを指定する、PDFファイルの出力セットアップを選択する、および出力に含める版を選択するには、**カラー**ペインを使用します。
- PDFファイルのさまざまな画像タイプの圧縮オプションを指定するには、**圧縮**ペインを使用します。
- スプレッドで書き出すかどうか、各ページを個別のPDFファイルとして書き出すかどうか、空白ページを含めるかどうか、およびPDFファイルのサムネールを埋め込むかどうかを指定するには、**ページ**ペインを使用します。
- PDFファイルでトンボの位置、幅、長さを指定するには、**トンボ**ペインを使用します。
- レイアウトのリンクおよびリストの書き出し方法、およびハイパーリンクをPDFに表示する方法を指定するには、**ハイパーリンク**ペインを使用します。また、このペインを使用してPDFファイルのデフォルトの表示倍率を指定できます。
- Adobe Acrobat Readerの**文書のプロパティ**ダイアログボックスの**詳細設定**タブに表示される詳細情報を設定するには、**メタデータ**ペインを使用します。
- 書き出されるPDFファイル内に埋め込むフォントを指定するには、**フォント**ペインを使用します。
- PDFファイルでのブリードの処理方法を指定するには、**ブリード**ペインを使用します。
- PDFファイルに含めるレイヤーを指定する、またはQuarkXPressレイアウトのレイヤーからPDFレイヤーを作成するには、**レイヤー**ペインを使用します。
- 透明アイテムを平滑化する方法を制御するには、**透明度**ペインを使用します。平滑化を無効にし、書き出されるPDFで透明度の関係を維持するには、**ネイティブの透明度で書き出し**をクリックします。不透明度の値を考慮せずにアイテムを出力する

には、**透明度を無視**をクリックします。平滑化をオンにするには、**透明度を平滑化**をクリックします。

平滑化をオンにした場合、透明度の関係にベクトルデータを含む、画像のラスタライズに使用する解像度を指定できます。これを行うには、**ベクトル画像**ドロップダウンメニューをクリックし、dpiの値を選択または入力します。この制御は平滑化をオンにした場合にのみ適用されます。

平滑化がオンであるかどうかにかかわらず、ベクトルオブジェクトの解像度を指定するには、**ベクトル画像**ドロップダウンメニューをクリックし、dpiの値を選択または入力します。平滑化がオンであるかどうかにかかわらず、ドロップシャドウのラスタライズの解像度を指定するには、**ドロップシャドウ**ドロップダウンメニューをクリックし、dpiの値を選択または入力します。

平滑化をオンにした場合に、回転および傾斜したオブジェクトの解像度を指定するには、**回転／傾斜のアップサンプル**をクリックし、**アップサンプルの値**フィールドに値を入力します。**アップサンプルの値**フィールドの値は、**ベクトル画像**および**ドロップシャドウ**フィールドの最大解像度の値以上にする必要があります。

取り込まれたPDFファイルとAdobe Illustratorファイルで、平滑化された透明度の解像度を制御するには、**平滑化解像度**フィールドに値を入力します。

➡ **ネイティブの透明度で書き出し**は、**PDF/X−1a:2001**または**PDF/X−3:2002**を**認証**ドロップダウンメニューで選択している場合には利用できません。この機能は、**カラー**ペインの**モード**ドロップダウンメニューで**色分解**を選択している場合も使用できません。

- PDFファイルと同時にJDF（Job Definition Format）ファイルを作成するかどうかを指定するには、**JDF**ペインを使用します。このオプションを選択するのは、JDFワークフローでジョブジャケットを使用する場合です。
- 選択したPDF書き出しオプションの概要を表示するには、**概要**ペインを使用します。

6 **OK**をクリックします（PDFファイルを作成せずに現在の設定を保存するには、**保存して閉じる**をクリックします。）

7 **保存**をクリックします。

➡ サードパーティ製のディスティラープログラムを使っていて、PostScriptファイルを作成する場合、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**PDF**ペインで設定を変更します。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - PDF*」を参照してください。

PostScriptファイルの作成

レイアウトからPostScriptファイルを作成するには、**環境設定**ダイアログボックスの**PDF**ペインに移動し（**QuarkXPress／編集 > 環境設定 > アプリケーション > PDF**）、**PDFのワークフロー**の下にある**PostScriptファイルを一時作成**を選択します。**ファイル > 書き出し形式 > PDF**を選択すると、PDFファイルが作成される代わりに、QuarkXPressにより、指定した名前と場所にPostScriptファイルが生成されます。

レイアウトを画像として書き出す

レイアウトページを画像ファイルとして書き出すとき、ファイル名と場所を指定し、各種の画像書き出しオプションを設定できます。レイアウトを画像として書き出すには、下記の手順に従ってください。

1. **ファイル > 書き出し形式 > イメージ**を選択します。**ページを画像として書き出し**ダイアログボックスが表示されます。
2. **ファイル名**ドロップダウンメニューで、書き出すレイアウトを選択します。
3. 出力設定を変更するには、**オプション**をクリックします。書き出される画像の形式を設定するには、表示されるダイアログボックスのペインを使用します。
   - **解像度**フィールドに値を入力します。
   - **フォーマット**ドロップダウンメニューで、画像フォーマット（PNGまたはJPEG）を選択します。
   - **圧縮**ドロップダウンメニューで、圧縮の値を選択します。
   - **透明バックグラウンド**を選択すると、画像のバックグラウンドが透明になります。
   - スプレッドを書き出すには、**スプレッド**を選択します。
   - 画像に画面ガイドを含めるには、**ガイドを含める**を選択します。
   - 画像にテキストグリッドを含めるには、**テキストグリッドを含める**を選択します。
4. **OK**をクリックします。
5. **保存**をクリックします。

Using Collect for Output

To use the **Collect for Output** feature:

1. Display the **Fonts** pane of the **Usage** dialog box (**Utilities** menu) to confirm that all fonts are available. Then check the **Pictures** pane of the **Usage** dialog box to confirm that all imported pictures are linked to the document and display a status of **OK**.
2. Choose **File > Collect for Output**. The **Collect for Output** dialog box displays.
3. Display the **Collect for Output** tab. When you use this feature, a report is generated automatically. To generate only this report, check **Report Only** in the **Collect for Output** tab. If you uncheck this box, you can check one or more of the following boxes:
   - The **Layout** option copies the project file to the specified target folder. In the selection box you can see all layouts of your project. Check or uncheck the ones you want to collect.
   - The **Linked Pictures** option copies imported picture files that must remain linked to the document for high-resolution output. When QuarkXPress collects pictures with the document, the path to each collected picture is updated to reflect the new file locations in the "Pictures" folder within the

target folder. If you have more than one layout selected, then all images of all selected layouts will be collected.

- The **Color Profiles** option copies any International Color Consortium (ICC) profiles associated with the document or imported pictures. If you have more than one layout selected, then all ICC profiles used in all selected layouts will be collected.
- *Mac OS X only:* The **Screen Fonts** option copies any screen fonts required for displaying the document. If you have more than one layout selected, then all screen fonts used in all seelcted layouts will be collected.
- *Mac OS X only:* The **Printer Fonts** option copies any printer fonts required for printing the document. If you have more than one layout selected, then all printer fonts used in all selected layouts will be collected.
- *Windows only:* The **Fonts** option copies any fonts required for printing the document. If you have more than one layout selected, then all fonts used in all selected layouts will be collected.

➡ On *Mac OS X*, TrueType fonts function as both screen fonts and printer fonts. If your document uses only TrueType fonts, QuarkXPress will collect them either when you check **Screen Fonts** or when you check **Printer Fonts**. If your document uses a combination of TrueType and Type 1 fonts, or uses only Type 1 fonts, check both **Screen Fonts** and **Printer Fonts** to be sure the Type 1 fonts are collected completely.

4 Click **Save**.

➡ When you choose to collect fonts, QuarkXPress will also collect fonts within imported EPS files, if those fonts are active on your computer.

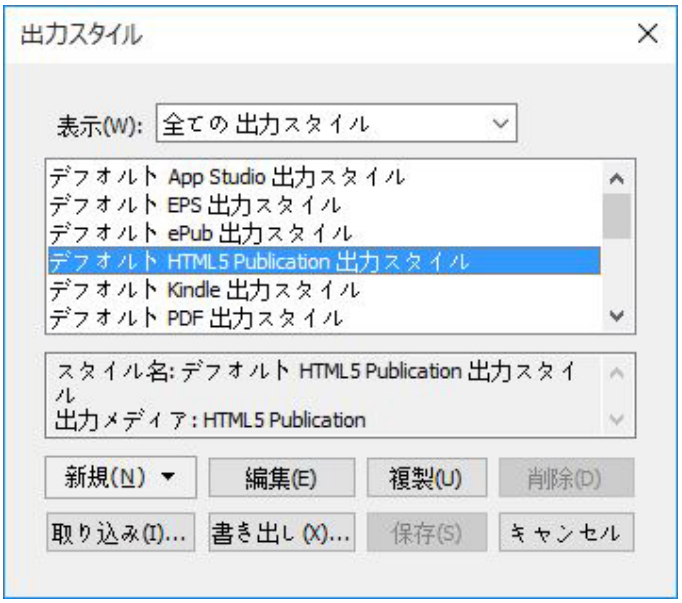
➡ The Collect for Output feature is not designed for use with layouts that have been customized for export in the App Studio issue formats. You can use this feature with such layouts, but it will not collect all of the assets used in App Studio interactivity, and it will not collect every layout in a layout family.

出力スタイルの使用

出力スタイルを使用すると、印刷、PDF、ePUB、App Studio、Kindle、HTML5出版物、EPS形式の出力の設定を保存できます。出力スタイルは、**ファイル > 印刷**、**ファイル > 書き出し形式 > PDF**、**ファイル > 書き出し形式 > iOSアプリ**、**ファイル > 書き出し形式 > HTML5出版物**、**ファイル > 書き出し形式 > EPS**、**ファイル > 書き出し形式 > ePub**、**ファイル > 書き出し形式 > Kindle**コマンドで使用できます。 QuarkXPressには、すべての出力オプションのデフォルト設定が含まれており、必要ならこれらの設定を基礎としてカスタマイズできます。または、出力スタイルを最初から作成することもできます。

出力スタイルの作成については、下記の手順に従ってください。

1 **編集 > 出力スタイル**を選択します。**出力スタイル**ダイアログボックスが表示されます。



出力スタイルを作成、取り込み、書き出し、編集、削除するには、**出力スタイル**ダイアログボックスを使用します。

2 **新規**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

3 **名前**フィールドに、スタイルの名前を入力します。

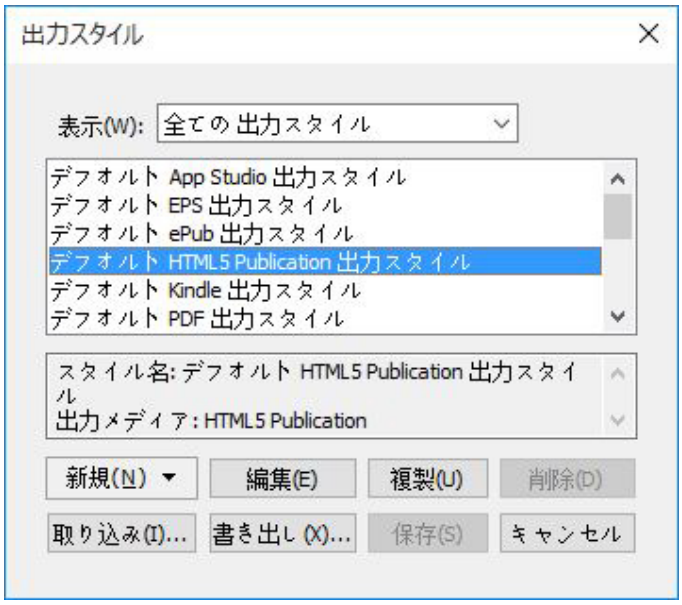
4 各ペインで設定を指定します。EPSオプションの詳細は、「*EPS形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。PDFオプションの詳細は、「*PDF形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。

5 **OK**をクリックします。

6 **保存**をクリックします。

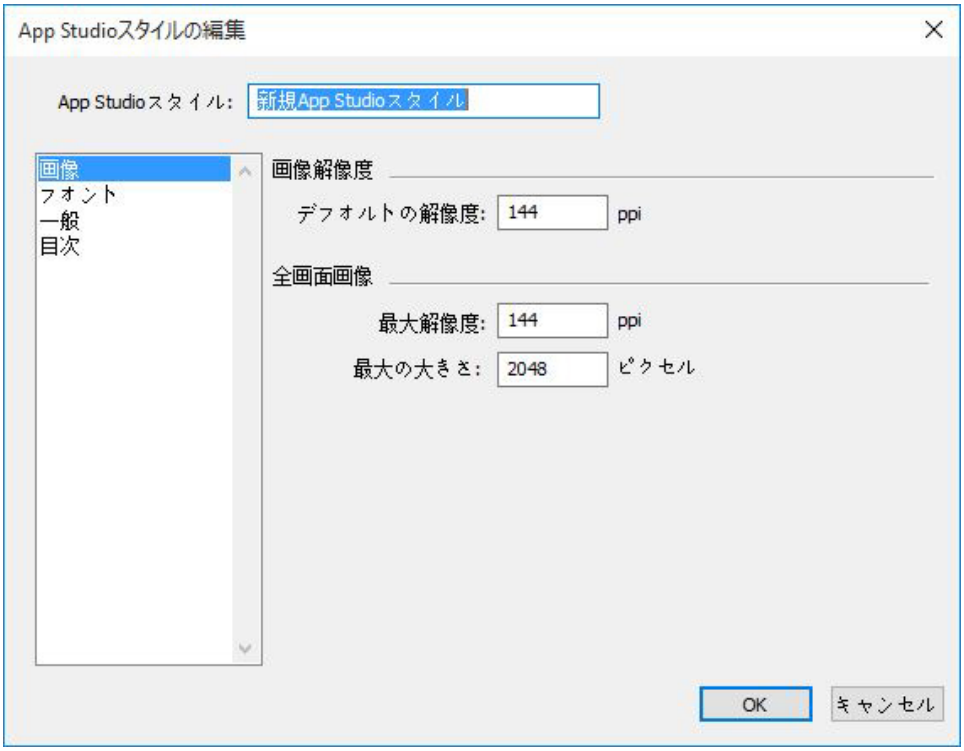
App Studioの出力スタイル

App Studioの出力スタイル設定を指定するには、下記の手順に従ってください。



出力スタイルダイアログ。

1 App Studioの出力スタイルを編集するには、出力スタイルを選択して**編集**をクリックします。新しい出力スタイルを追加するには、**新規**ドロップダウンメニューで**App Studio**を選択します。**App Studioの出力スタイルの編集**ダイアログが表示されます。



App Studioの出力スタイルの編集ダイアログ

2 **App Studioの出力スタイル**フィールドにスタイルの名前を入力します。

- **画像**ペインでは、アプリ用に書き出される画像のデフォルト解像度を設定できます。Retina/HiDPIデバイスの解像度に対して、整数倍（2x／3x）の解像度を選択しま

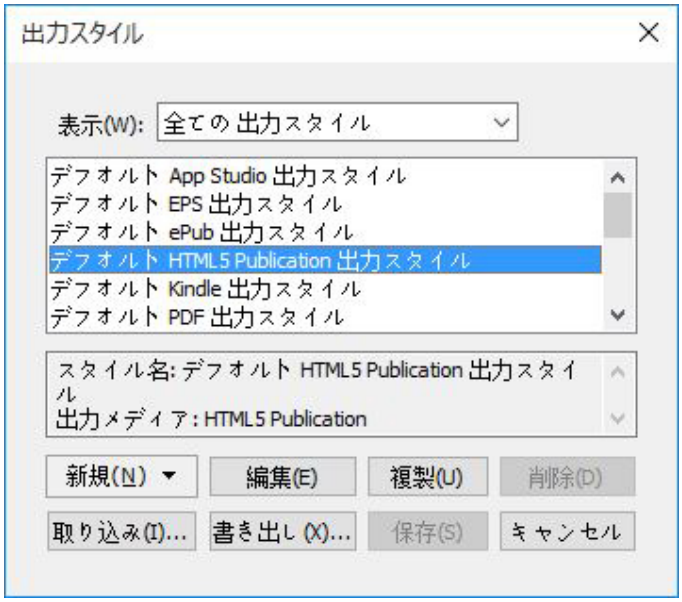
す。最大解像度、変換／ダウンサンプリングされる画像の寸法（HTML5インタラクティブ機能で使用される画像にのみ適用されます）、または両方を選択します。

- **フォント**ペインでは、アプリで参照されるフォントのパッケージ化を有効／無効にできます。無効の場合、フォントは収集されず、出力はWYSIWYGでない可能性があります。有効の場合、フォントのライセンスについての警告がユーザーに提示されます。
- **ページ**ペインでは、QuarkXPressレイアウトのセクションをアプリのページスタックに変換する動作を有効／無効にできます。「連続ページスタック」を有効／無効にすると、セクション内のすべてのページから1つの連続ページを作成できます。
- **目次**ペインでは、リストから名前付きセクションを選択でき、そのセクションに含まれるすべてのページは目次ページとして書き出されます。また、**出版物にページを含める**も選択できます。これを行わない場合、それらのページはコンテンツページに追加されません。目次のタイトルを指定します。

3 **OK**をクリックします。

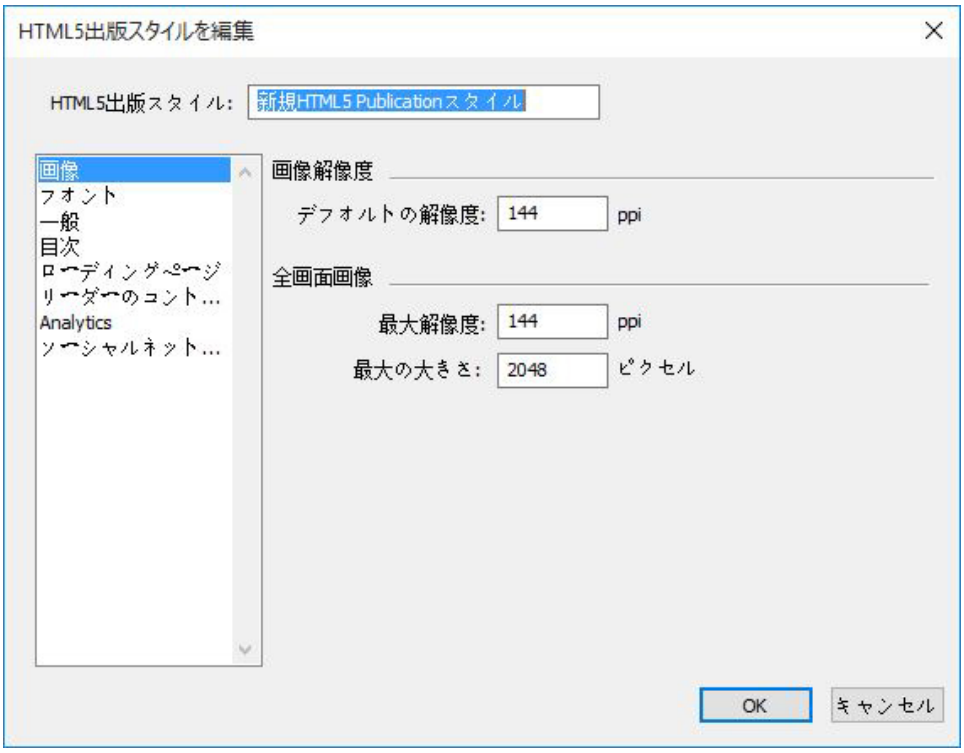
HTML5出版物の出力スタイル

HTML5出版物の出力スタイル設定を指定するには、下記の手順に従ってください。



出力スタイルダイアログ。

1 HTML出版物の出力スタイルを編集するには、出力スタイルを選択して**編集**をクリックします。新しい出力スタイルを追加するには、**新規**ドロップダウンメニューの**HTML5出版物**を選択します。**HTML5出版物スタイルの編集**ダイアログが表示されます。



HTML5出版物スタイルの編集ダイアログ

2 **HTML5出版物スタイル**フィールドにスタイルの名前を入力します。

- **画像**ペインでは、HTML5出版物ファイルの画像の解像度を指定できます。
- **フォント**ペインでは、フォント収集のオプションを設定できます。
- **全般**ペインでは、ページスタックのオプションと、表示方向のロックを設定できます。
- **目次**ペインでは、HTML5出版物ファイルの目次に関するオプションを設定できます。
- **読み込みページ**ペインでは、Webリーダーの読み込みページの外観と動作を指定できます。
- **リーダーコントロール**ペインでは、Webリーダーのレイアウトの外観と動作を指定できます。
- **Analytics**ペインでは、Google Analyticsを有効／無効にし、位置情報用のGoogleマップAPIキーを定義できます。
- **ソーシャル共有**ペインでは、ソーシャルメディアプラットフォームの設定を指定できます。

3 **OK**をクリックします。

トラップの使用

オーバープリントやノックアウトは**カラー**パレットで制御できます。

平滑化の理解と製品の問題点

平滑化とは、ページ要素を変更して透明度をシミュレートし、目的のデザインを生成するプロセスです。平滑化は、印刷エンジンに送られる、またはPDFへ書き出される、出力ストリームのアイテムにのみ行われ、QuarkXPressのレイアウトが実際に変更されることはありません。QuarkXPressの平滑化の仕組みは以下のとおりです。

まず、ボックスが分解されて透明度の要素が識別されます。その後不連続な形状（テキストのアウトラインを含む）の関係が分解されます。ラスタライズされない領域に、既存の色を融合して作成される新しい色が入力されます（不透明度なしおよび0%の領域は、グラデーションや画像で使用しない限り平滑化する必要はありません）。

ラスタライズの必要がある領域により、クリッピングパスが作成されます（ページ要素に重なっている半透明画像、ドロップシャドウ、半透明ブレンド、および半透明アイテムはラスタライズする必要があります）。

印刷ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）の**透明度**ペインの設定により、透明度の効果またはドロップシャドウによりラスタライズされるページ要素の出力解像度が制御されます。詳細は、「*透明度ペイン*」を参照してください。

一般的に、透明度の関係を使用する場合、トラップは不要です。

PDFを書き出す場合、透明度の関係にあるアイテムの平滑化、ネイティブPDFの透明度の使用のいずれかを選択できます。ネイティブPDFの透明度とともにPDFを書き出す場合、透明度の関係にあるベクトル画像はベクトルフォーマットのまま残ります。これによって出力が早くなり、カラーマネージメントも簡単になります。今日のワークフローのほとんどは、平滑化されていない透明度を出力することの恩恵を受けられます。PDF/X-4が理想的なフォーマットで、推奨されます。

PDF

印刷およびプリプレス業界では、ファイル交換のためにISO標準のPDFが広く採用されています。

QuarkXPressを使用すると、次のことが可能です。

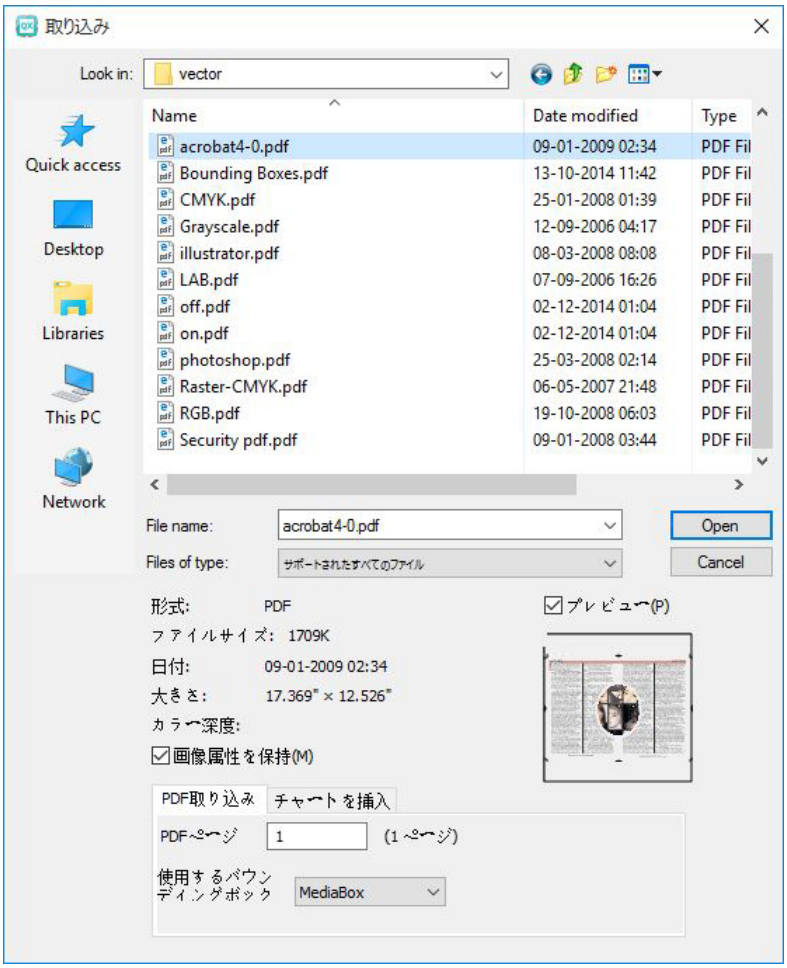
- ポータブルドキュメントフォーマット（PDF）ファイルとして、QuarkXPressレイアウトのページまたはページの範囲を保存します。詳細は、「*PDF形式でのレイアウトの書き出し*」を参照してください。
- 画像ボックスにPDFファイルのページを取り込みます。詳細は、「*画像ボックスへのPDFファイルの取り込み*」を参照してください。

画像ボックスへのPDFファイルの取り込み

アクティブな画像ボックスへのPDFファイルの取り込みについては、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 取り込み**を選択します。

取り込みダイアログが表示されます。



2 **ファイルの種類**ドロップダウンメニューで、**PDF（*PDF）**を選択します。取り込むPDFファイルを選択します。

3 **プレビュー**をオンにすると、取り込むPDFのプレビューを確認できます。

4 **PDF取り込み**セクションで、下記の操作を行います。

PDFページに、取り込むPDFファイルのページ番号を入力します。
使用するバウンディングボックスで、ドロップダウンメニューから次のいずれかのオプションを選択します。

-
- • **MediaBox**：ブリードまたはトンボのスペースを含まないページのサイズを使用します。
  - **CropBox**：ページサイズと指定したブリードのスペースおよびトンボ用に割り当てられたスペースを足したサイズを使用します。**CropBox**は、PDF Boxer XTソフトウェアスタンドポイントのレイアウトスペースのサイズに等しくなります。
  - **BleedBox**：ページサイズとブリードのスペースを足したサイズを使用します。
  - **TrimBox**：トリム実行後のページのサイズを使用します。このオプションはトンボを含まず、PDFが作成されたときにレイアウトスペースに適用されるブリードによって影響されません。

5 **チャートを挿入**セクションで、下記の操作を行います。

チャート名ドロップダウンメニューで、選択したPDFで利用可能なチャートのリストから、チャートを選択します。

6 **開く**をクリックします。

➡ **画像の取り込み**ダイアログボックスでPDFファイルの異なるページをプレビューするには、**プレビュー**チェックボックスをオンにしてから、**PDFページ**フィールドにページ番号を入力します。

➡ PDFファイルのどのページがレイアウトに取り込まれたかを確認するには、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**画像**ペインを表示してから、**詳細**をオンにします。

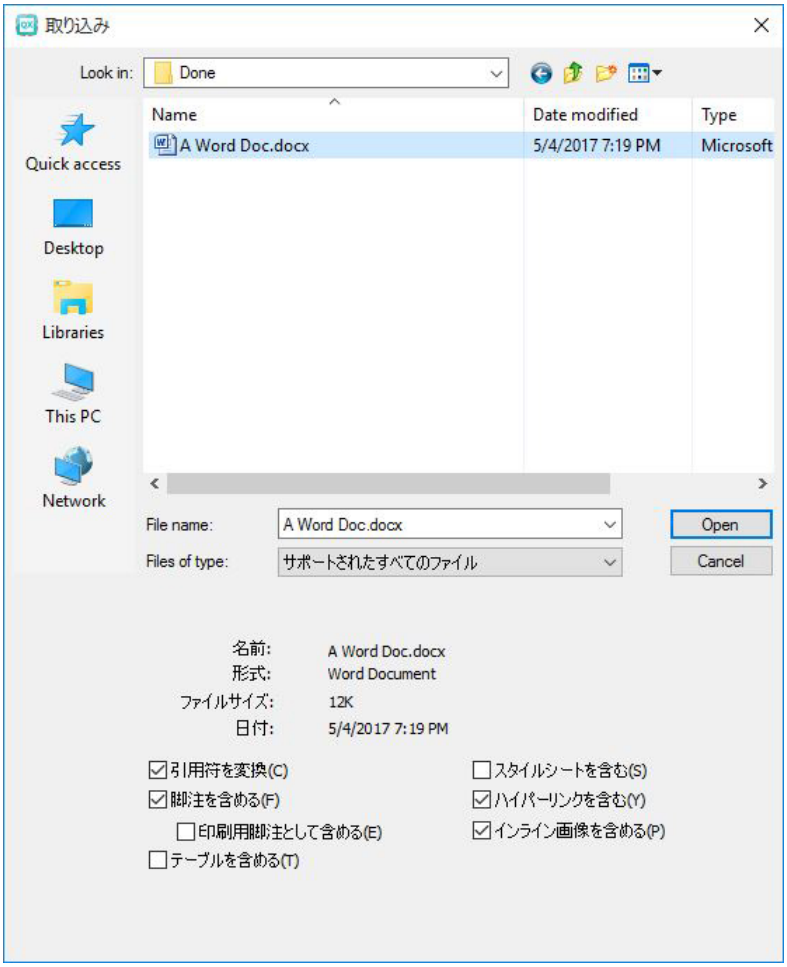
Word Filter

Word Filterを使用すると、ドキュメントを.docxフォーマットで取り込みまたは書き出しできます。

➡ 廃止された.docフォーマットはサポートされていません。

Wordドキュメントを取り込むには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 取り込み**を選択します。
2 **取り込み**ダイアログが表示されます。



3 **ファイルの種類**ドロップダウンメニューで、**Wordドキュメント（*.DOCM、*.DOCX、*.DOTM、*.DOTX）**を選択します。取り込むWordファイルを選択します。

4 Wordのフィルタ設定を指定します。

- **引用符を変換**をオンにすると、Wordドキュメントに含まれているすべての引用符が、環境設定（**編集 > 環境設定 > アプリケーション > 入力設定**）で指定されている形式に変換されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **スタイルシートを含む**をオンにすると、取り込むWordドキュメントに含まれているスタイルシートも取り込まれます。
- **脚注を含む**をオンにすると、取り込むWordドキュメントに含まれている脚注も取り込まれます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- **静的脚注として含める**をオンにすると、取り込むWordドキュメントに含まれている脚注が、プレーンテキストの脚注として取り込まれます。このボックスがオフの場合、脚注は動的なQuarkXPress脚注として取り込まれます。このオプションは、デフォルトでオフになっています。
- **テーブルを含む**をオンにすると、取り込むWordドキュメントに含まれているテーブルも取り込まれます。これらのテーブルはレガシーテーブルとして取り込まれ、QuarkXPressで編集できます。
- **ハイパーリンクを含む**をオンにすると、取り込むWordドキュメントに含まれているハイパーリンクも取り込まれます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。

- **インライン画像を含む**をオンにすると、取り込むWordドキュメントに含まれているインライン画像も取り込まれます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。

Script XTensionsソフトウェア

Script XTesnsionsソフトウェアがロードされている場合、QuarkXPressメニューバーにスクリプトメニューが表示されます。このメニューから、QuarkXPressアプリケーションフォルダの"Scripts"フォルダにある任意のAppleScriptスクリプトを実行できます。Script XTensionsソフトウェアによって、デフォルトでこのメニューから一連のAppleScriptスクリプトを使用できるようになり、独自のAppleScriptスクリプトをメニューに追加することもできます。

Script XTensionsソフトウェアを使用するには、スクリプトメニューからスクリプトを選択すると、スクリプトが実行されます。提供されるデフォルトのスクリプトは、サブメニューにまとめられています。

これらのスクリプトは、可能なかぎりの数のワークフローで実行するように設計されていますが、ワークフローの設定によっては、正しく動作しない場合があることに注意してください。したがって、レイアウトに影響するスクリプトを実行する前に、レイアウトを保存しておくことをお勧めします。

➡ Script XTesnsionsソフトウェアは、**Mac OS X**のみを対象としています。

➡ Script XTensionsソフトウェアは、スクリプトがQuarkXPressから起動されるか、デスクトップなどの別の場所から起動されるかに関係なく、QuarkXPressに影響するAppleScriptスクリプトを実行する前にロードされている必要があります。

その他の必要なコンポーネントには、下記が含まれます。

- Standard Additions Scripting Addition
- AppleScript Extension

QuarkXPress 2017は、Mac OS用の「アプリバンドル」としてリリースされます。これを可能にするため、デフォルトスクリプトを含むすべてのサポート用フォルダは、自己充足のアプリバンドル内に移動されています。QuarkXPress 2017は、次の2つの場所からサードパーティ製スクリプトを読み込みます。

- ~/Library/Application Support/Quark/QuarkXPress 2017/Scripts
- /Library/Application Support/Quark/QuarkXPress 2017/Scripts

これらのスクリプトは、スクリプトメニューではセパレータ付きで表示されます。

ボックスツールサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**ボックスツール**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- **切り抜きマークを追加**を使用して、選択したボックスの周囲に切り抜きマークを配置します。
- **簡易バナー**を使用して、選択したボックスの左上に「バナー」（テキストボックス）を作成し、バナーのテキストを指定します。
- **キャプションボックスを作成**を使用して、選択したボックスの下にキャプションボックス（テキストボックス）を作成します。
- **センターで縮小または拡大**を使用して、ボックスの原点（座標0,0）ではなく、ボックスのセンターからボックスのサイズを変更します。

グリッドサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**グリッド**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

ボックスを分割を使用して、選択したボックスの大きさに基づいてボックスのグリッドを作成します。

イメージサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**イメージ**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトについて説明します。

- ファイルに選択した画像のPICTプレビューを保存するには、**PICTファイルに変換**を使用します。
- 特定のフォルダに選択した画像ボックスの画像のコピーを保存するには、**フォルダにコピー**を使用します。
- 選択した画像ボックスに特定のフォルダの画像ファイルを取り込むには、**フォルダから選択画像ボックスへ**を使用します。画像は、アルファベット順に取り込まれます。

画像ボックスサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**画像ボックス**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトについて説明します。

- アクティブな画像ボックスの周囲に切り抜きマークを配置し、その画像ボックスの下のテキストボックスに画像ファイルの名前を入力するには、**切り抜きマーク&名前**を使用します。
- 画像を含む画像ボックスの下のテキストボックスに画像の名前を入力するには、**名前を入力**を使用します。
- レイアウトのすべての画像のバックグラウンドカラーを**なし**に変更するには、**すべてのバックグラウンドをなしに設定**を使用します。
- レイアウトのすべての画像のバックグラウンドカラーを特定のカラーおよびシェードに変更するには、**すべてのバックグラウンドを設定**を使用します。

保存中サブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**保存中**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

カラーTIFFプレビュー付きの個別のEPSファイルとしてレイアウトの各ページを保存するには、**各ページをEPSとして保存**を使用します。

- EPSファイルとしてアクティブなレイアウトのページを保存するには、**オン**をクリックします。
- 異なるプロジェクトにレイアウトのページを保存するには、**選択**をクリックして**ファイルを選択**ダイアログボックスを表示し、ターゲットプロジェクトに移動して**選択**をクリックします。スクリプトは、プロジェクトが最後に保存されたときにアクティブであったレイアウトのページを保存します。

特殊サブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**特殊**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- "Scripts"フォルダ内の選択されたフォルダに、選択したAppleScriptスクリプトをコピーまたは移動するには、**スクリプトフォルダに移動**を使用します。
- "A Guide to Apple Events Scripting.pdf"を開くには、**Apple Events Scripting PDFを開く**を使用します。このPDFには、QuarkXPressのAppleScriptスクリプトの記述についての詳細情報が含まれます。
- QuarkXPressフォルダ内の特定のフォルダを開くには、**QuarkXPressフォルダを開く**を使用します。

ストーリーサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**ストーリー**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- 選択されたテキストボックスをリンクするには、**選択されたテキストボックスをリンク**を使用します。テキストチェーン順は、テキストボックスのスタック順に基づきます。
- 選択したボックスのテキストをXPress Tagsコードに、またはXPress Tagsコードからフォーマットテキストに（テキストは、XPress Tagsコードを使用してフォーマットされます）変換するには、**XPress Tagsとの変換**を使用します。このスクリプトを使用するには、"XPress Tags"フィルタが読み込まれている必要があります。
- テキストチェーンのテキストの位置を維持しながら、選択されたテキストボックス間のリンクを解除するには、**選択されたボックスのリンクを解除**を使用します。

テーブルサブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**テーブル**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- テーブルの行または列に特定のカラーおよびシェードを交互に適用するには、**行または列のカラー**を使用します。

組版サブメニュー

このトピックは、Script XTensionsソフトウェアがインストールされている場合にスクリプトメニューの**組版**サブメニューから利用できるAppleScriptスクリプトを説明します。

- ベースライングリッドのサイズ（グリッドライン間のスペース）を1ポイントずつ増やすには、**ベースライングリッド+1pt**を使用します。
- ベースライングリッドのサイズ（グリッドライン間のスペース）を1ポイントずつ減らすには、**ベースライングリッド-1pt**を使用します。
- 選択したテキストボックスの列幅およびコラム間隔（コラム間のスペース）を設定するには、**列幅＆コラム間隔**を使用します。
- スラッシュの前または後にあるすべての数値インスタンス（1/2など）をフォーマットされた分数に変換するには、**分数の作成**を使用します。
- 選択したテキストボックスの各サイドにテキストボックス開始位置値を指定するには、**テキストボックスの開始位置を設定**を使用します。

グループ作業およびシングルソース

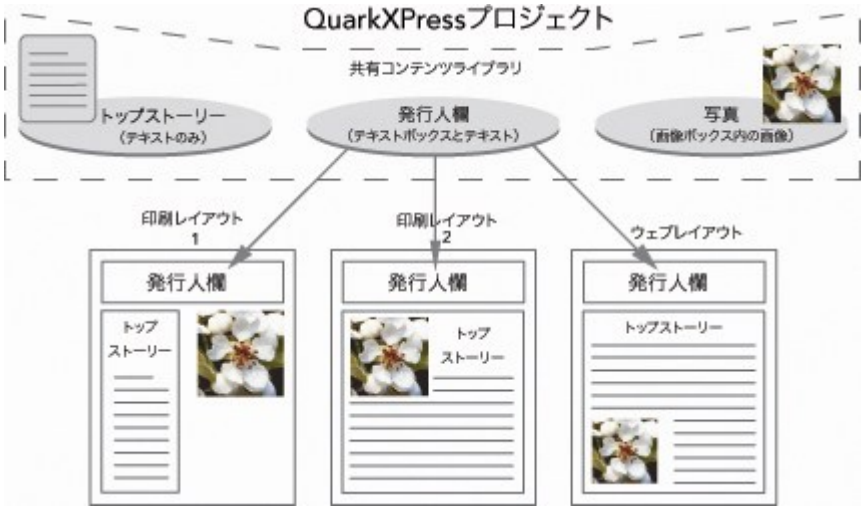
同期機能を使用すると、複数のチャンネルを介して複数のフォーマットで配布する同一の情報を簡単にパッケージ化できます。印刷するのかウェブ上で公開するのかなど、メディアに応じてデザインをカスタマイズできるだけでなく、複数のレイアウトサイズを含むプロジェクトを作成することもできます。特に、任意の種類のレイアウト間でコンテンツを自動的に同期することによって、作業を合理化できます。

共有コンテンツの使用

複数の場所にある同じコンテンツをまったく同一に維持する必要のあるプロジェクトを使用したことがあるユーザーであれば、ある程度のリスクが伴うことは理解しているでしょう。ドキュメントの印刷バージョンが更新されても、デジタルバージョンが更新されない場合はどうなるのでしょうか。この問題を解消するために、QuarkXPressには**共有コンテンツ**機能が含まれています。この機能では、プロジェクトファイル内で異なる場所に使用されているコンテンツをリンクできます。コンテンツのコピーが変更されると、その他のコピーは、それらの変更を反映するように、ただちに自動的に更新されます。

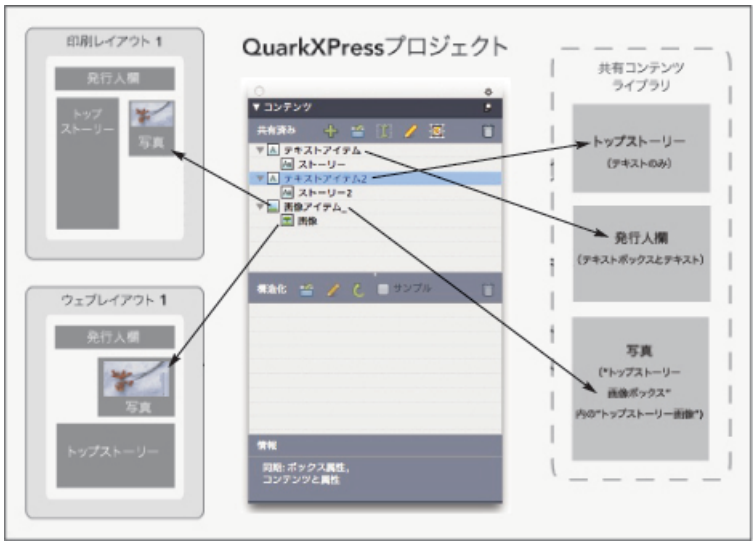
QuarkXPressでは、ほとんどの同期アイテムについて、**共有コンテンツライブラリ**と呼ばれるプロジェクトファイルの表示されない領域で、マスターバージョンが管理されています。レイアウト内の任意の同期アイテムに変更を適用すると、まずその変更は共有コンテンツライブラリ内のマスターバージョンに書き込まれます。その後、プロジェクト内の対象アイテムのすべての同期コピーにその変更が反映されるように、QuarkXPressによって更新されます。つまり、アイテムAを更新すると、アイテムBは共有コンテンツライブラリのマスターアイテムを介して自動的に更新され、アイテムBを更新すると、同様にアイテムAが更新されます。

共有コンテンツライブラリは、画像、ボックス、ライン、フォーマットおよびフォーマットなしテキスト、一連のテキストボックス、グループ、およびコンポジションゾーンを格納できます。共有コンテンツライブラリに何かを追加するとき、そのコンテンツまたはアイテムのどの部分を**同期し**（すべてのインスタンスを同一に維持）、どの部分を**同期しない**かを制御できます。



共有コンテンツライブラリには、プロジェクト内の異なるレイアウトで使用できるテキスト、画像、ライン、コンポジションゾーン、およびアイテムが含まれます。レイアウトで共有コンテンツライブラリアイテムのインスタンスを変更すると、これらのインスタンスは共有コンテンツライブラリのマスターバージョンにリンクされているため、すべてのレイアウトにあるすべてのインスタンスは自動的に更新されます。

共有コンテンツライブラリのアイテムは、**コンテンツ**パレットに表示されます。下記に示すとおり、このパレットを使用して、異なるレイアウト間でコンテンツを複製して同期できます。



共有コンテンツライブラリのアイテムには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。ここで「印刷レイアウト1」は、「トップストーリー画像ボックス」と、その中の画像を使用していますが、「印刷レイアウト2」は画像だけを使用しています（より大きな画像ボックス内）。いずれかのレイアウトで画像が変更されると、両方のレイアウトは自動的に更新されます。

➡ 単一プロジェクトに異なるタイプのレイアウトを含める方法についての詳細は、「*プロジェクトとレイアウト*」を参照してください。

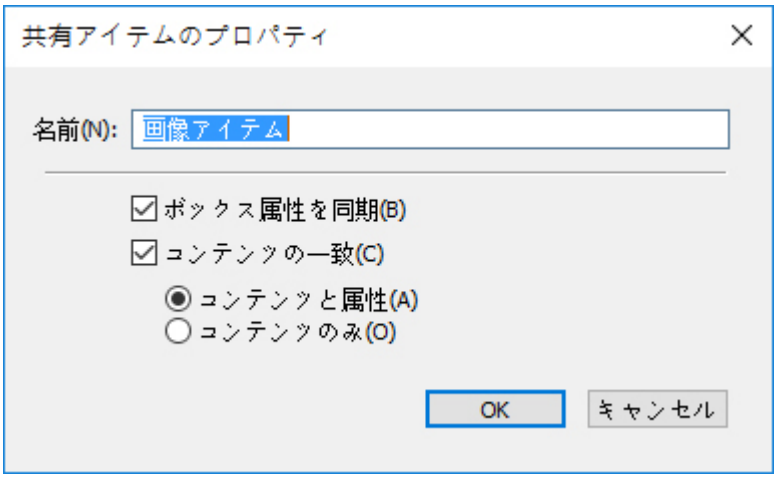
コンテンツの共有および同期

ボックス、ライン、グループ、コンテンツの共有および同期については、下記の手順に従ってください。

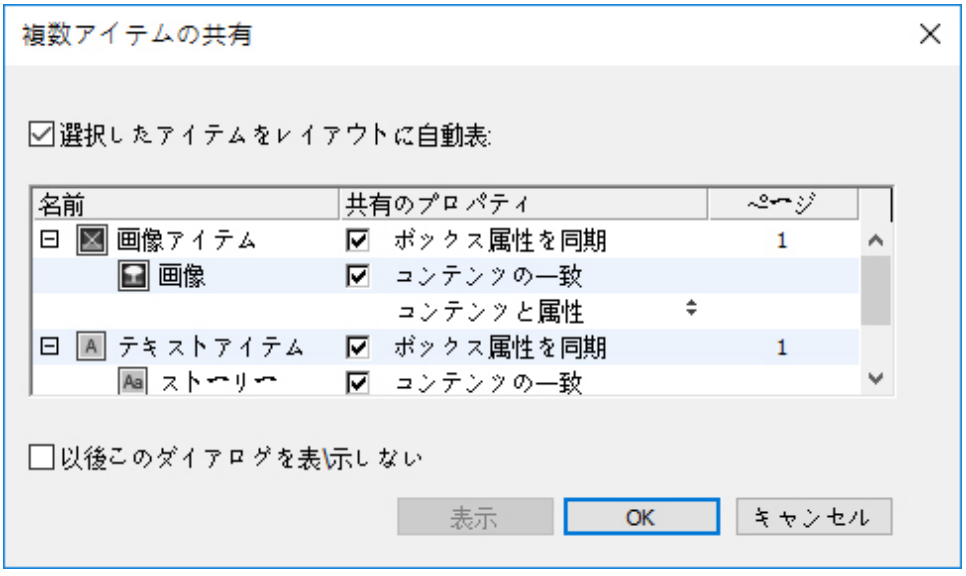
1 **ウィンドウ**メニューで、**コンテンツ**パレットを表示します。

2 同期するアイテムを選択します。

3 **コンテンツ**パレットで、**アイテムの追加**をクリックします。1つのアイテムが選択されると、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。複数のオブジェクトが選択されると、**複数アイテムの共有**ダイアログボックスが表示されます。



共有アイテムのプロパティダイアログボックスを使用して、個々のアイテムを共有および同期します。



複数アイテムの共有ダイアログボックスを使用して、複数のアイテムを共有および同期します。

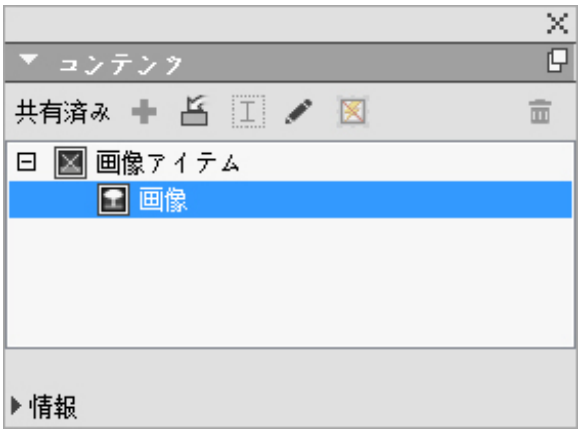
➡ **選択したアイテムをレイアウトに自動表示**をオンにしている場合、リスト内のアイテムの名前をクリックして、そのアイテムにナビゲートできます。

➡ 共有されたラインの属性のみが同期されます。

4 選択されたアイテムの特徴を共有するには、対象のアイテムの**ボックス属性を同期**をオンにします。

5 選択されたアイテムのテキストまたは画像を共有するには、対象のボックスの**コンテンツの一致**をオンにします。テキストまたは画像とそれぞれのフォーマットを共有するには、**コンテンツと属性**をクリックまたは選択します。テキストまたは画像のみを共有するには、**コンテンツのみ**をクリックまたは選択します。ボックスおよびコンテンツのオプションについての詳細は、「*同期オプションの理解*」を参照してください。

6 OKをクリックして、選択したアイテムを**コンテンツ**パレットに追加します。



共有コンテンツライブラリのアイテムおよびコンテンツには、**コンテンツ**パレットからアクセスできます。

➡ テキストボックスのコンテンツを共有すると、テキスト全体が共有されます。テキストの一部のみを共有することはできません。テキストの一部のみを共有する必要がある場合は、コンテンツ変数を使用する必要があります。コンテンツ変数では、カスタム変数を使用してこの動作を実現できます。

同期オプションの理解

コンテンツパレットにアイテムおよびコンテンツを追加する場合、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスでさまざまな同期オプションを選択できます。

- ボックスまたはパス自身を同期せずに、選択されたテキストボックス、テキストパス、または画像ボックスのコンテンツを同期するには、**ボックス属性を同期**をオフにし、**コンテンツの一致**をオンにします。この方法で同期されたテキストをテキストボックスまたはパスにドラッグし、画像を画像ボックスにドラッグする必要があります。
- テキストや画像およびそのコンテンツ属性（テキストのフォーマットおよび画像の比率、回転、効果など）は、**コンテンツと属性**をクリックまたは選択して同期できます。
- **コンテンツのみ**をクリックまたは選択すると、固有のコンテンツ属性の編集を許可した状態で、テキストまたは画像を同期できます。これを行うと、プロジェクトの異なる部分に、テキストまたは画像を別々にフォーマットできます。ただし、1つの

位置でテキストの編集または画像の更新を行うと、その変更はすべてに適用されます。

- コンテンツを**同期せずに**テキストボックス、テキストパス、画像ボックス、およびその属性を同期するには、**ボックス属性を同期**をオンにし、**コンテンツの一致**をオフにします。たとえば、テキストまたは画像ボックスでこの操作を行い、そのボックスから2つのコピーをドラッグするとします。この後で、コピーしたボックスの1つのサイズを変更し、フレームを追加すると、もう1つのボックスも自動的にサイズ変更され、同じフレームが追加されます。ただし、各ボックスに異なるコンテンツを取り込むことができます。

アイテム属性、コンテンツ、およびコンテンツ属性を同期するには、**ボックス属性を同期**および**コンテンツの同期**をオンにし、**コンテンツと属性**をクリックまたは選択します。この方法で2つのボックスを同期すると、片方に適用される変更（ボックスのサイズ、コンテンツ、およびフォーマットへの変更を含む）は、自動的にもう一方にも適用されます。

同期アイテムの配置

同期アイテムまたはグループの配置については、下記の手順に従ってください。

1. **コンテンツ**パレットで、ターゲットのエントリを選択します。
2. **コンテンツ**パレットのエントリを、ページにドラッグします。

同期コンテンツの配置

同期コンテンツの配置については、下記の手順に従ってください。

1. テキストボックス、テキストパス、または画像ボックスを選択します。
2. **コンテンツ**パレットでテキストまたは画像コンテンツのエントリを選択し、**挿入**をクリックします。アイテムのサイズ変更ハンドルが同期シンボルに変化します。また、**コンテンツ**パレットから、アクティブなテキストボックス、テキストパス、または画像ボックスに、テキストまたは画像のエントリをドラッグできます。

   また、**コンテンツ**パレットから、アクティブなテキストボックス、テキストパス、または画像ボックスに、テキストまたは画像のエントリをドラッグできます。

共有コンテンツライブラリへのコンテンツの取り込み

テキストや画像をテキストや画像ボックスへ取り込む他に、**コンテンツ**パレットの**取り込み**ボタンを使用して、コンテンツを直接**コンテンツ**パレットへ取り込むことができます。ただし、このボタンは、**コンテンツ**パレットでテキストコンテンツアイコンAaまたは画像コンテンツアイコンが選択されている場合にのみ使用できます。

➡ この方法で取り込まれたテキストは、プロジェクトファイルに埋め込まれており、ソーステキストファイルへのリンクは維持されません。ただし、この方法で取り込まれた画像は、**使用状況**ダイアログボックスの**画像**ペインで表示および更新されます。

Composition Zonesの使用

下記のトピックは、チームメンバーが同時にQuarkXPressプロジェクトの作業を行うことで、Composition Zonesがどうやって既存のワークフローを合理化できるかを説明します。

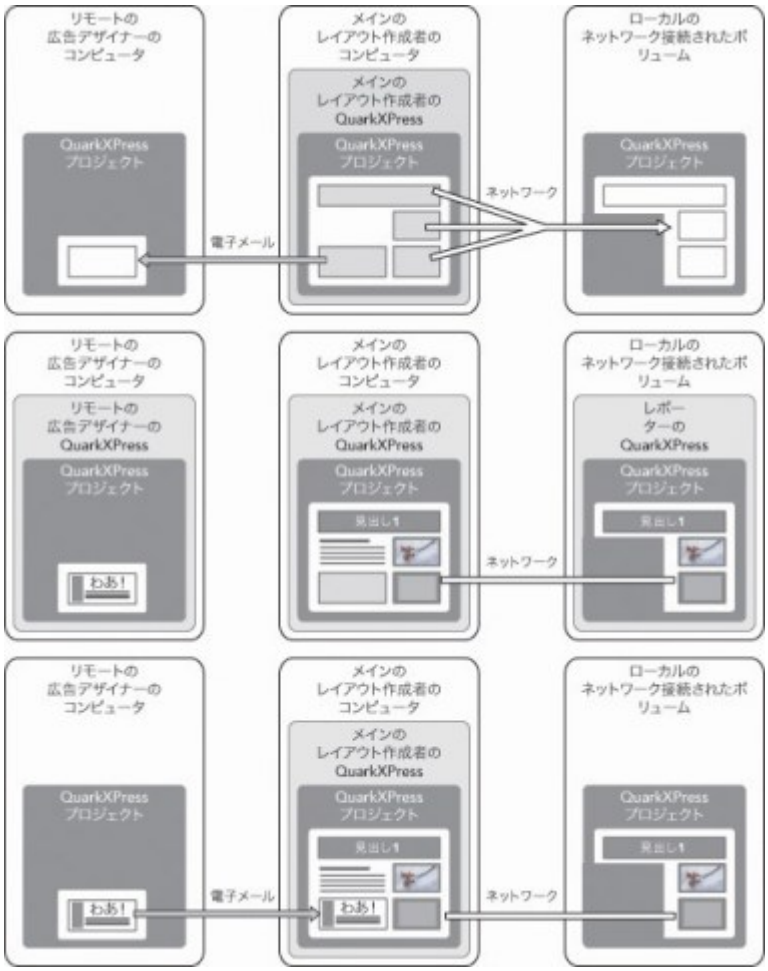
コンポジションゾーンの理解

コンポジションゾーンアイテムは、他のQuarkXPressユーザーと共有できるレイアウト、またはレイアウト内のユーザー定義領域です。

ある雑誌のQuarkXPressプロジェクトファイルを担当するレイアウトアーティストがいるとします。レイアウトアーティストは、コンポジションゾーンを使用して、執筆者、編集者、グラフィックアーティスト、および遠隔地でQuarkXPressを使用して作業する担当者とコンテンツを共有できます。

レイアウトアーティストはQuarkXPressを使用して、**コンポジションゾーン**ツールで広告プロジェクトのエリアを「描き」、そのコンポジションゾーンアイテムを別のファイルとして書き出します。書き出されたファイルには正しい仕様が含まれるため、この方法によって、リモート広告作成者がファイルを受け取るときの手順が省略されます。広告作成者は、QuarkXPressでコンテンツを追加してから、必要な画像やフォントと共にそのファイルをレイアウトアーティストに返却します。レイアウトアーティストは更新されたファイルを適切なフォルダに格納し、広告を表示するようにレイアウトが自動的に更新されます。また、コンポジションゾーンアイテムはQuarkXPressレイアウトとまったく同様に機能するため、レイアウトアーティストはそのファイルを開いて編集できます。

この間、レイアウトアーティストは、記事に使用する別のコンポジションゾーンアイテムを広告と同じページ上に指定できます。レイアウトアーティストは、ヘッドライン用、記事の本文用、画像用の3つのボックスを作成します。Shiftキーを使用して3つのボックスをすべて選択し、これらのボックスから新しいコンポジションゾーンファイルを作成します。そのファイルを書き出してから、ファイルがスタッフの共有ネットワークフォルダにあることを執筆者に通知します。執筆者がそのファイルで作業し、更新されたバージョンを保存するたびに、更新内容がレイアウトアーティストのプロジェクトに表示されます。また、広告と同様に、記事も後で編集できます。



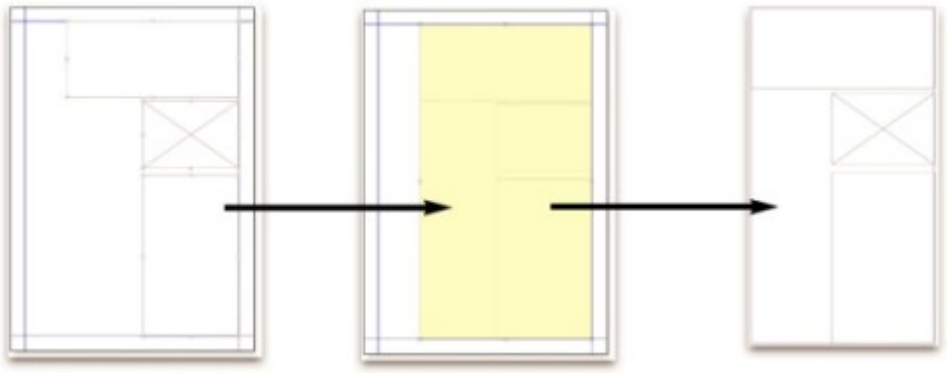
上：メインのレイアウトアーティストは、プロジェクトの一部をコンポジションゾーンとして書き出し、リモート広告デザイナーに電子メールでファイルを1つ送信して、もう1つのファイルをローカルネットワーク上のサーバーに配置します。**中間**：メインのレイアウトアーティスト、レポーター、および広告デザイナーは、ページ上の各担当部分を同時に編集します。**下**：完成した広告を広告デザイナーが電子メールメッセージでメインのレイアウトアーティストに送信すると、ページが自動的に更新され、レイアウトが完成します。

上記のシナリオではコンポジションゾーンの主な用途が説明されていますが、この機能によって、その他のグループ作業ワークフローの問題も解消されます。たとえば、さまざまな理由により、コンポジションゾーンは定義されたプロジェクトに制限されている場合があります。レイアウトアーティストがある広告をプロジェクト内の2つ以上の位置で使用したいと考えており、その広告には複数のテキストや画像ボックスが含まれている場合、**コンテンツ**パレットを使用してアイテムのグループを同期することはできません。しかし、レイアウトアーティストが、選択された複数のアイテムに基づいてコンポジションゾーンアイテムを作成した場合、そのコンポジションゾーンアイテムは同期され、プロジェクト全体で使用できるようになります。そのため、レイアウトアーティストは、印刷される雑誌に1つのレイアウトを指定し、その広告が含まれるデジタルページの同じプロジェクトに、もう1つのレイアウトを使用できます。レイアウトアーティストは、コンポジションゾーンアイテムの使用を1つのプロジェクトに制限できますが、広告は、印刷物とデジタル出力とで完全に一致させることができます。

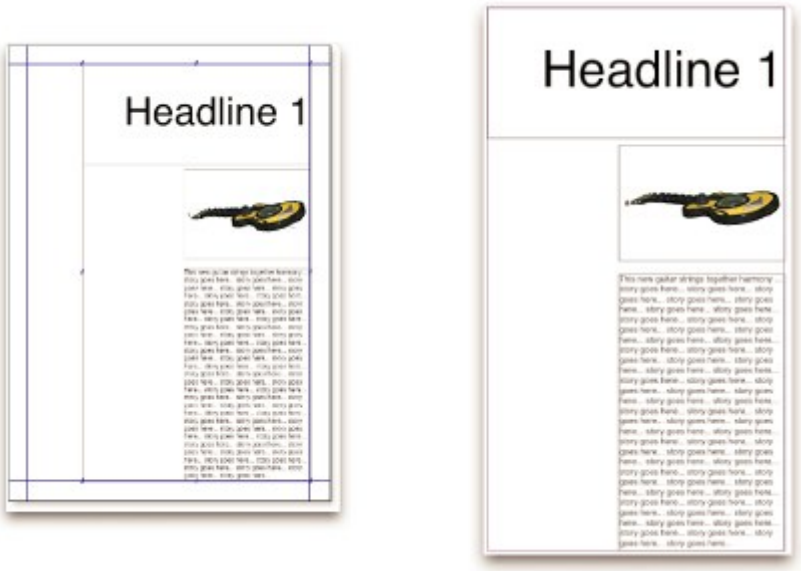
コンポジションゾーンの用語

コンポジションゾーンには、レイアウトに配置すると**アイテム**のように動作し、コンテンツを編集する場合は**レイアウト**のように動作する、特有な特徴があります。

- **コンポジションゾーンアイテム**：さまざまな箇所に存在するレイアウトのコンテンツを表示するアイテムです。コンポジションゾーンアイテムは、異なるレイアウトのコンテンツを参照できる「ウィンドウ」として捉えることができます。コンポジションゾーンアイテムに表示されるレイアウトは、**コンポジションレイアウト**と呼ばれます（次の定義を参照）。各コンポジションゾーンアイテムは、単一かつ唯一のコンポジションレイアウトからコンテンツを取得します。
- **コンポジションレイアウト**：コンポジションゾーンアイテムにコンテンツを提供するためだけに使用される特殊なレイアウトです。コンポジションレイアウトは、言わばコンポジションゾーンアイテムの「ウィンドウ」を介して表示できるレイアウトです。同期された複数のコンポジションゾーンアイテムは、1つのコンポジションレイアウトのコンテンツを表示できます。ただし、コンポジションレイアウトを複数のユーザーが同時に編集することはできません。



QuarkXPressでは、コンポジションゾーンアイテムを作成すると、コンポジションレイアウトが自動的に作成され、そのコンポジションゾーンアイテムにコンテンツが提供されます。



コンポジションレイアウトにコンテンツを追加すると、対応するコンポジションゾーンアイテムは自動的に更新されます。更新内容は、コンポジションゾーンアイテムが含まれるレイアウトに設定されている環境設定に基づいて、ただちに、印刷時に、またはプロジェクトを開くときに、コンポジションゾーンアイテムに表示されます。

- **元のコンポジションゾーンアイテム**：コンポジションゾーンアイテムが作成された初期レイアウトまたはユーザー定義領域です。
- **配置済みのコンポジションゾーンアイテム**： **コンテンツ**パレットを使用してレイアウトに配置したコンポジションゾーンアイテムです。
- **元のホストレイアウト**：コンポジションゾーンアイテムが作成されたレイアウトです。
- **ホストレイアウト**：コンポジションゾーンアイテムが配置されているレイアウトです。

Composition Zonesアイテムの作成

Composizion Zonesアイテムおよび対応するコンポジションレイアウトを作成するには、3つの方法を使用できます。

- 複数のオブジェクトを選択し、**アイテム > Composition Zones > 作成**を選択します。
- レイアウト全体をComposition Zonesアイテムとして指定できます。
- **Composition Zones**ツールを選択し、Composition Zonesアイテムのスペースのアウトラインを手動で描きます。

下記のトピックでは、Composition Zonesアイテムの作成方法として、上記の3つの方法を説明します。ここでは、1つのプロジェクト内または**単一プロジェクトのコンポジションレイアウト**内での排他的な使用を例としています。

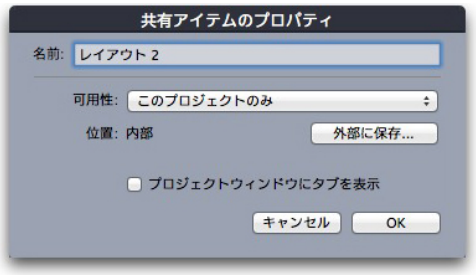
選択した複数アイテムからのコンポジションゾーンアイテムの作成

選択した複数のアイテムに基づいたコンポジションゾーンアイテムを作成する方法については、下記の手順に従ってください。

1 **アイテム**ツール✣または**コンテンツ**ツール🅃 🖼を選択してShiftキーを押し、2つ以上のアイテムを選択します。

2 **アイテム > コンポジションゾーン > 作成**を選択します。グループの境界のサイズに等しいボックスがそのグループに置き換わります。

3 コンポジションゾーンアイテムの作成を完了するには、**アイテム > 共有**を選択するか、**ウィンドウ**メニューで**コンテンツ**パレットを表示して**アイテムの追加**をクリックします。いずれの方法でも、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。



共有アイテムのプロパティダイアログボックスを使用して、コンポジションレイアウトに名前を付け、利用可能性を指定します。

4 **名前**フィールドにコンポジションレイアウトの名前を入力します。

5 **有効性**ドロップダウンメニューで**このプロジェクトのみ**を選択します。

6 **プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにすると、プロジェクトウィンドウの下部にあるレイアウトタブからコンポジションレイアウトにアクセスできます。

7 **OK**をクリックしてコンポジションレイアウトを保存します。

➡ 1つ以上の選択されたアイテムがロックされている場合（**アイテム > ロック > 設定位置**）、コンポジションゾーンアイテムを作成できません。

レイアウトからのコンポジションゾーンアイテムの作成

レイアウト全体に基づいてコンポジションゾーンアイテムを作成する方法については、下記の手順に従ってください。

1 コンポジションゾーンアイテムとして指定するレイアウトを表示します（「レイアウト1」など）。

2 **レイアウト > 詳細レイアウトプロパティ**を選択します。

3 **レイアウトの共有**をオンにします。



詳細レイアウトプロパティダイアログボックスを使用して、レイアウト全体に基づいたコンポジションレイアウトの共有を指定します。

4 **有効性**ドロップダウンメニューで**このプロジェクトのみ**を選択します。

5 **プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにすると、プロジェクトウィンドウの下部にあるレイアウトタブから簡単にアクセスできるようにコンポジションレイアウトを表示できます。**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオフにすると、コンポジションゾーンアイテムを選択して**アイテム > コンポジションゾーン > 編集**を選択することによって、コンポジションレイアウトにアクセスできます。

6 **OK**をクリックします。コンポジションレイアウトが**コンテンツ**パレットに表示されます。

➡ コンポジションレイアウトには、複数のページが含まれる場合があります。**ページ**メニューまたは**ページレイアウト**パレットを使用して、ページを追加、削除、または移動できます。

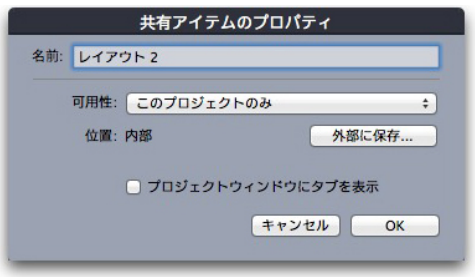
コンポジションゾーンツールを使用したコンポジションゾーンアイテムの作成

コンポジションゾーンアイテムを手動で定義する方法については、下記の手順に従ってください。

1 **ツール**パレットで**コンポジションゾーン**ツールを選択します。

2 ドラッグしてコンポジションゾーンアイテムを描画します。

3 コンポジションゾーンアイテムの作成を完了するには、**アイテム > 共有**を選択するか、**ウィンドウ**メニューで**コンテンツ**パレットを表示して**アイテムの追加**をクリックします。いずれの方法でも、**共有アイテムのプロパティ**ダイアログボックスが表示されます。



共有アイテムのプロパティダイアログボックスを使用して、コンポジションレイアウトに名前を付けます。さらに、有効性を指定して、プロジェクトウィンドウの下部にタブを表示するかどうかを指定します。

4 **名前**フィールドにコンポジションレイアウトの名前を入力します。

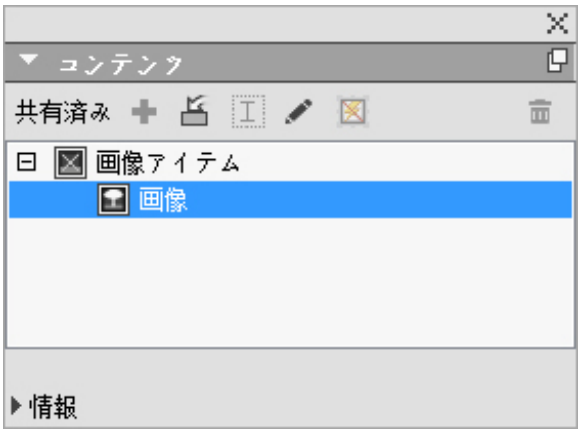
5 **有効性**ドロップダウンメニューで**このプロジェクトのみ**を選択します。

6 **OK**をクリックします。コンポジションレイアウトが**コンテンツ**パレットに表示されます。

コンポジションゾーンアイテムの配置

コンテンツパレットにコンポジションレイアウトを追加した後で、そのコンポジションレイアウトに基づいたコンポジションゾーンアイテムをページに配置できます。コンポジションゾーンアイテムの配置については、下記の手順に従ってください。

1 **ウィンドウ**メニューで、**コンテンツ**パレットを表示します。



コンテンツパレットには、コンポジションレイアウトや、他の共有コンテンツのリストが表示されます。

2 配置するコンポジションレイアウトを選択します。

3 **コンテンツ**パレットからそのレイアウトに、コンポジションレイアウトをドラッグします。

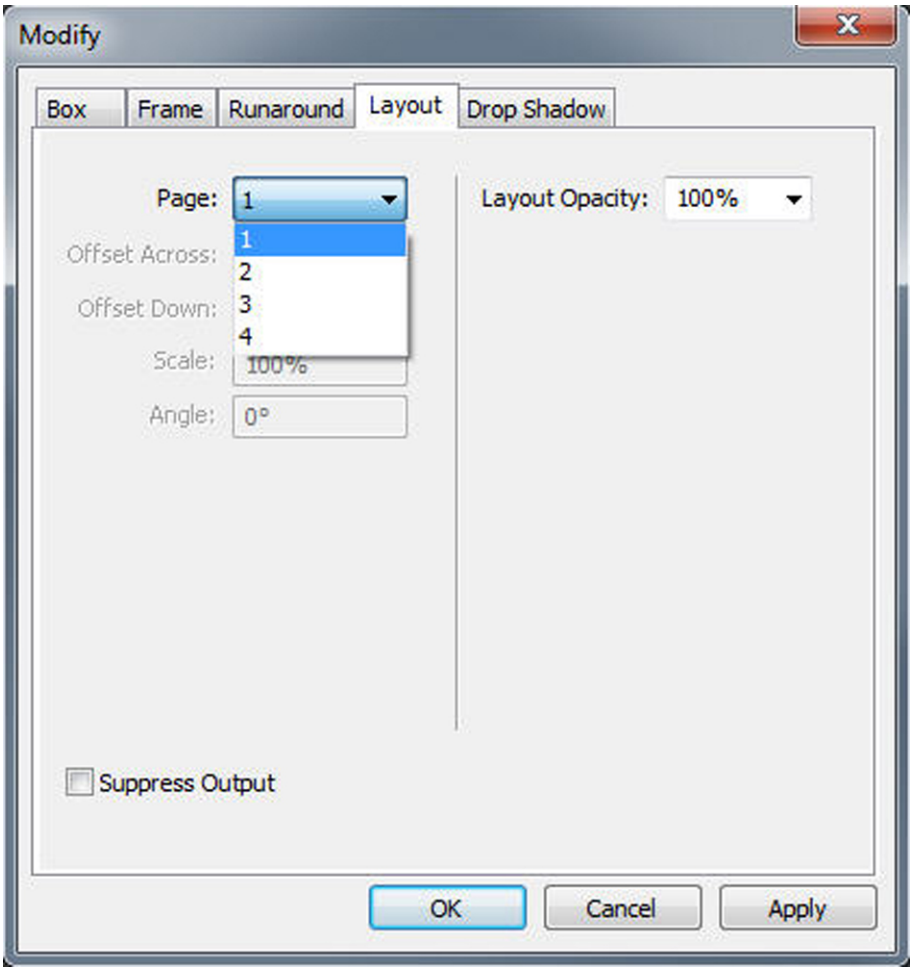
配置したComposition Zonesアイテムでの複数ページの管理

コンポジションレイアウトには、複数のページが含まれる場合があります。ただし、そのコンポジションレイアウトに基づいたComposition Zonesアイテムは、一度に1ページのみ表示できます。Composition Zonesアイテムに表示するページの指定については、下記の手順に従ってください。

1 Composition Zonesアイテムを選択します。

2 **アイテム > 設定**を選択して、**レイアウト**タブをクリックします。

3 **ページ**ドロップダウンメニューからページを選択します。



設定ダイアログボックスの**レイアウト**タブにある**ページ**ドロップダウンメニューを使用して、配置されたComposition Zonesアイテムにコンポジションレイアウトの特定のページを指定します。

4 **OK**をクリックします。

Composition Zonesアイテムの属性の編集

Composition Zonesアイテムの属性の編集については、下記の手順に従ってください。

1 Composition Zonesアイテムを選択します。

2 **アイテム > 設定**を選択します。

3 **設定**ダイアログボックスの**ボックス**タブを使用して、設定位置、サイズ、行揃え、カラー、不透明度、および印刷の機能を指定します。

4 **フレーム**、**回り込み**、および**ドロップシャドウ**タブを使用して、その他の構造上の調整を行います。

5 **レイアウト**タブを使用して、ページ間のナビゲーション、印刷の無効化または有効化、レイアウトの不透明度の調整を行います。

コンポジションゾーンアイテムから画像への変換

コンポジションゾーンアイテムから外部画像ファイルを作成するには、**アイテム > コンポジションゾーン > 画像へ変換**を選択します。選択すると、コンポジションゾーンが作成されたレイアウトタイプ内に、適切な画像が作成されます。

画像に変換する前のコンポジションゾーンアイテムは、**使用状況**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の**Composizion Zones**ペインに表示されます。ただし、**アイテム > コンポジションゾーン > 画像へ変換**を選択すると、Composizion Zonesアイテムは同期されないことを示す警告が表示されます。変換された画像は、**使用状況**ダイアログボックスの**画像**ペインに表示されますが、コンポジションレイアウトは、**コンテンツ**パレットに残ります。

コンポジションゾーンアイテムの同期の解除

コンポジションゾーンアイテムの同期を解除しても、そのコンポジションレイアウトはプロジェクト内で引き続き使用できます。コンポジションゾーンアイテムの同期の解除については、下記の手順に従ってください。

1. レイアウトウィンドウでコンポジションゾーンアイテムを選択します。
2. **アイテム > 同期の解除**を選択します。 コンポジションレイアウトは、将来使用するため**コンテンツ**パレットに保持されます。ただし、同期が解除されたレイアウトウィンドウのコンポジションゾーンアイテムへの後続の変更は、同期されません。

コンポジションレイアウトの編集：コンテンツ

コンポジションレイアウトを編集する場合、コンテンツを変更してレイアウトレベルの属性を調整できます。

コンポジションレイアウトのコンテンツの編集については、下記の手順に従ってください。

1. プロジェクトウィンドウの下端にあるレイアウトタブの、レイアウト名をクリックします（**プロジェクトウィンドウにタブを表示**チェックボックスがオンになっている場合のみ利用可能です）。コンポジションレイアウト名がレイアウトタブに表示されていない場合は、**アイテム**ツール✣を選択し、コンポジションゾーンアイテムをダブルクリックします。
2. コンポジションレイアウトが表示されたら、すべてのコンポジションレイアウトのコンテンツを編集できます。テキスト、画像、およびアイテムを変更するにはメニューおよびパレットのコマンドを使用し、コンテンツを追加するにはツールを使用できます。
3. ウィンドウを閉じると、コンポジションゾーンのアイテムのコンテンツが更新されます。

コンポジションレイアウトのコンテンツの編集

編集するコンポジションレイアウトにアクセスする方法は、**詳細レイアウトプロパティ**ダイアログボックスの**プロジェクトウィンドウにタブを表示**設定で決定します。**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにすると、プロジェクトウィンドウの上部にあるレイアウトタブからコンポジションレイアウトにアクセスできます。コンテンツとレイア

ウト属性を編集するコンポジションレイアウトをアクティブ化するには、そのタブをクリックします。

プロジェクトウィンドウにタブを表示をオンにしない場合は、アイテムツールを選択し、元のコンポジションゾーンアイテムをダブルクリックします。コンポジションレイアウトが表示されます。

レイアウト全体から作成されたコンポジションレイアウトについては、そのレイアウトに簡単にアクセスできるように、**詳細レイアウトプロパティ**ダイアログボックスの**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにします。オンにしない場合は、**コンテンツ**パレットでコンポジションレイアウトを選択し、**編集**をクリックしてから**プロジェクトウィンドウにタブを表示**をオンにする必要があります。

コンポジションレイアウトの同期の解除

コンポジションレイアウトの同期を解除すると、コンポジションレイアウトと、そのコンポジションレイアウトに基づく既存のコンポジションゾーンアイテム間のリンクがすべて解除されます。プロジェクトに含まれているコンポジションゾーンアイテムのすべてのインスタンスの同期を解除するには、**コンテンツ**パレットで対象のコンポジションレイアウトを選択して、**すべて同期解除**ボタンをクリックします。ただし、後でコンポジションレイアウトを変更し、それに基づく新しいコンポジションゾーンアイテムを配置すると、その新しいコンポジションゾーンアイテムに変更が適用されます。

コンポジションレイアウトの削除

コンポジションレイアウトの削除については、下記の手順に従ってください。

1. **コンテンツ**パレットを表示します。
2. パレットでコンポジションレイアウトを選択し、**削除** をクリックします。

ノート

ノート機能を使用して、実際のプロジェクトのコンテンツに影響を与えることなく、プロジェクトにコメントを保存できます。 ノートを使用してコンテンツに警告やコメントを追加したり、プロジェクトにURLを追加したりできます。 開いたノートはハードコピーに張り付ける付箋のように見えます。

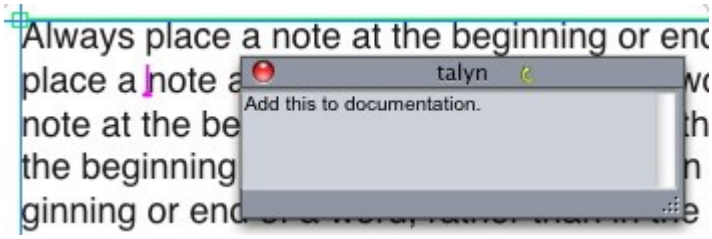
Quark Publishing Platformで使用する場合、ノート機能ではQuark Publishing Platformで定義済みの設定が使用されます。 詳細は、『**A Guide to Quark Publishing Platform**』を参照してください。

ノートの作成

ノートを操作するには、まず**表示 > ノートの表示**を選択してノートが表示されていることを確認します（このメニューアイテムが**ノートを非表示にする**と表示されていれば、ノートがすでに表示されています）。このオプションをオフにすると、テキストでノートアイコンが表示されなくなり、ノートを操作するメニューアイテムが無効になります。

ノートを作成するには、ノートを入力するテキスト挿入ポイントの場所を指定し、**編集 > ノート > 挿入**を選択します。 ノートウィンドウが表示され、WYSIWYG表示ではテキスト挿入ポイントの右側に**ノート**アイコンも表示されます。ノートのテキストをノートウィンドウに入力します。

Mac OS Xでは、ノートアイコンとノートウィンドウとの間にリンクも表示され、新たに作成されたノートはアーティクル領域に表示されず、代わりにペーストボード領域に表示され、アーティクルテキストを隠しません。



ノートを使用してプロジェクトにコメントを保存できます。

実際、**ノート**アイコンは特殊なテキスト文字です。ノートアイコンはテキストフローに影響しませんが、別の方法で通常のテキスト文字のような動作をします。たとえば、**ノート**

アイコンを含むテキストの範囲を選択してから文字入力を開始すると、**ノート**アイコンを含むテキストが入力した文字に置き換わり、ノートが失われてしまいます。

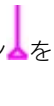
ノートの書式を変更するには、**ノート**環境設定を使用します。 詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - ノート*」を参照してください。

ノートの使用

アイテム > ノートサブメニューのコマンドを使用して、ノートからノートに移動し、個々のノートを作成および削除し、プロジェクト内のすべてのノートを開いたり閉じたりすることができます。

ノートの開始と終了

ノートをレビューコメントとして開いたり閉じたりするには、下記の手順を実行します。

- 既存のノートを開くには、**ノート**アイコンをクリックして、**アイテム > ノート > ノートを開く**を選択します。
- プロジェクトのすべてのノートを開くには、**アイテム > ノート > すべてのノートを開く**を選択します。
- ノートを閉じるには、ノートウィンドウの左上隅（Mac OS X）または右上隅（Windows）の閉じるボックスをクリックするか、または**アイテム > ノート > ノートを閉じる**を選択します。
- プロジェクトの開いているすべてのノートを閉じるには、**アイテム > ノート > すべてのノートを閉じる**を選択します。
- テキスト挿入ポイントをテキスト内の次のノートへ移動させるには、**アイテム > ノート > 次へ進む**を選択します。 テキスト挿入ポイントをテキスト内の前のノートへ移動させるには、**アイテム > ノート > 前へ戻る**を選択します。

ノートの表示および非表示

非表示のノートを表示するには、**表示 > ノートの表示**を選択します。表示されているノートを非表示にするには、**表示 > ノートを非表示にする**を選択します。

ノートの削除

ノートを削除するには、下記のいずれかを実行します。

- **ノート**アイコンをクリックしてから、**アイテム > ノート > 削除**を選択します。
- 開いているノートウィンドウをクリックしてから、**アイテム > ノート > 削除**を選択します。
- ノートアイコンの右側にテキスト挿入バーを配置して、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。
- ノートアイコンを含むテキストの範囲を選択して、DeleteキーまたはBackspaceキーを押します。

ノートおよびテキストの相互変換

選択したテキストをノートに変換するには、 **アイテム > ノート > 選択をノートに変換**を選択します。

作成者、日付、名前、または色別のノートの表示

特定の作成者別または作成された日付別にノートを表示するには、**表示 > ノートの表示**を選択してノートを有効にし、**アイテム > ノート > ノートを開く（条件指定）・・・**を選択して**開いたノート**ダイアログボックスを表示し、**すべてのノート**をクリックして、**すべてのノート**領域のコントロールを使用します。

名前別または色別にノートを表示するには、 **アイテム > ノート > 新規ドキュメント内のすべてのノートを開く** を選択して、**名前別**サブメニューまたは**色別**サブメニューからオプションを選択します。 ノートがテキストとして新規プロジェクトに表示されます。

ノートの移動とサイズ変更

ノートウィンドウを移動するには、タイトルバーをドラッグします。 ノートウィンドウはプロジェクトアーティクル内のどこにでも移動できます。 Windowsでは、ノートの ボタンをクリックして、移動されたノートを元の場所に戻すことができます。

ノートのサイズを変更するには、ノートウィンドウの右下にあるサイズ変更ボックスをクリックしてドラッグします。

ノートの印刷

プロジェクトを印刷するとき、ノートを含めるかどうか、およびどのようなフォーマットにするかを選択できます。**印刷**ダイアログボックス（**ファイル**メニュー）で左のリストにある**ノート**をクリックすると、**ノート**ペインが表示されます。次に**ノートを印刷**をオンにして、出力にノートを含めます。 すべてのノートを含めるか、開いているノートのみを含めるかを選択できます。

PDFのノート

ノートを含むプロジェクトからPDFを作成する場合、PDFでノートを表示するかどうかを選択できます。ノートはPDFノートとして含まれます。

ノートをPDFファイルに含めるには、**PDFとして書き出し**ダイアログボックス（ **ファイル > 書き出し形式 > PDF**）の**オプション**をクリックし、左側に表示されるリストの**ノート**をクリックして、**PDFにノートを含める**をオンにします。

変更履歴

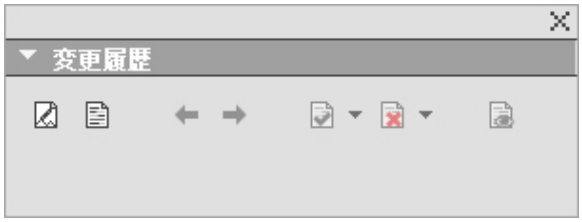
ドキュメントのレビュー環境では、管理編集者やコピー編集者などのレビュー担当者がプロジェクトに変更を加えます。 変更履歴はそれらの変更点を追跡するための機能で、これにより執筆者、編集者、プロジェクトマネジャー、および他のユーザーは、プロジェクトの変更内容を確認し、その変更が適切かどうかを判断できます。 変更履歴機能を使用して、プロジェクトに加えられた挿入や削除の部分を参照し、その変更を受け入れるか拒否するかを決定できます。

Quark Publishing Platform®で使用する場合、変更履歴機能ではQuark Publishing Platformで定義済みの設定が使用されます。 詳細は、『**A Guide to Quark Publishing Platform**』を参照してください。

トラッキングの切り替え

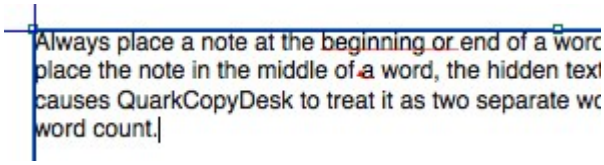
トラッキングをオンにするには、下記のいずれかを実行します。

- **補助 > 変更履歴 > トラッキングする**がオンになっていることを確認します。
- **変更履歴**ツールバー（**補助 > 変更履歴 > ツールバーを表示する**）を表示し、**トラッキングする**ボタンをクリックします。



変更履歴ツールバーを使用して、トラッキングのオンとオフを切り替えることができます。

トラッキングをオンにすると、QuarkXPressは、アクティブなプロジェクトのテキストに加えられるすべての変更をトラッキングします。削除されたテキストはWYSIWYG表示に表示されませんが、削除内容は引き続きトラッキングされます。 削除内容は、ゲラおよび全画面表示で見ることができます。



変更履歴機能を使用して、自分が行った変更をトラッキングできます。

➡ フォーマットの変更はトラッキングされません。

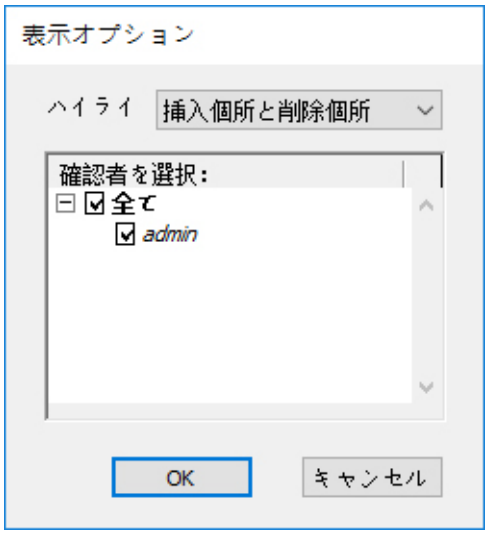
トラッキングされた変更内容の表示

すべてのトラッキングされた変更内容を表示するには、下記のいずれかを実行します。

- **補助 > 変更履歴 > ハイライトする**がオンになっていることを確認します。
- **変更履歴**ツールバー（**補助 > 変更履歴 > ツールバーを表示する**）を表示し、**ハイライトする**ボタンをクリックします。

コンポーネントに対する変更内容の中では、**変更履歴**ツールバーのナビゲーションボタン（**前へ**および**次へ**）を使用して移動できます。

表示される変更の種類を指定するには、**変更履歴**ツールバーの**ハイライト表示オプション**をクリックします。**ハイライト表示オプション**ダイアログボックスが表示されます。**ハイライトする**ドロップダウンメニューでは、**挿入個所のみ**、**削除個所のみ**、または**挿入個所と削除個所**を表示するように選択できます。**確認者を選択**リストを使用して特定の確認者によって加えられた変更内容のみを表示したり、**すべて**をオンにしてすべての確認者による変更内容を表示したりできます。



表示オプションダイアログボックスを使用して、どの確認者の編集内容を表示するか指定したり、挿入個所、削除個所、またはその両方を表示するように指定したりできます。

➡ ハイライト表示されるのは、**トラッキングする**が有効になっている間にコンポーネントに対して行われた挿入個所と削除個所だけです。

変更内容のトラッキングフォーマットのアピアランスを変更するには、**アプリケーション環境設定**ダイアログボックス（**編集 > 環境設定**（Windows）または（**QuarkXPress > 環境設定**（Mac OS X））の**変更履歴**ペインのコントロールを使用します。

変更内容の同意および拒否

挿入に同意すると、ハイライトが削除され、コンポーネントのコンテンツにテキストが追加されます。削除に同意すると、コンポーネントからコンテンツが削除されます。変更内容に同意するには、変更対象のテキストを選択し、**同意する**ドロップダウンメニュー（**変更履歴**ツールバー）からオプションを選択します。

- **変更内容に同意する**： 選択された変更を受け入れます。
- **表示されているすべての変更内容に同意する**： コンポーネント内でハイライトされているすべての変更を受け入れます。
- **すべての変更内容に同意する**： レビューアによって行われたすべての変更を受け入れます。

挿入を拒否すると、コンポーネントからテキストが削除されます。削除を拒否すると、ハイライトが削除され、テキストが通常のテキストとしてコンポーネントに残されます。変更内容を拒否するには、変更対象のテキストを選択し、**拒否**ドロップダウンメニュー（**変更履歴**ツールバー）からオプションを選択します。

- **変更内容を拒否する**： 選択された変更を拒否します。
- **表示されているすべての変更内容を拒否する**： コンポーネント内でハイライトされているすべての変更を拒否します。
- **すべての変更内容を拒否する**： レビューアによって行われたすべての変更を拒否します。

ジョブジャケット

ジョブジャケット機能は、プリフライトに替わる革新的な機能です。印刷ジョブが、**作成された時点から**印刷機により出力されるまでのすべての工程にわたり、仕様に準拠して、逸脱しないように管理します。また、スタイルシートやカラー、ページサイズ、カウントまでを含めて同期され、動的にアップデート可能なデザインにプロジェクトをリンクすることで、これまで個々のユーザーレベルで考えられていたジョブ仕様順守の概念を拡大しました。

ジョブジャケットの理解

ジョブジャケットには、下記の2つの目的があります。

- ジョブの定義者が、印刷レイアウトおよびデジタルレイアウトの詳細仕様を作成できるようにします。
- レイアウト担当デザイナーが、これらの仕様を基にプロジェクトおよびレイアウトを作成し、他のレイアウト担当デザイナーと仕様を共有して、レイアウトが仕様に従っているかどうかを確認できるようにします。

レイアウトの作成や出力へのレイアウトの正常な送信が複雑な作業であるため、ジョブジャケットが作り出されました。

たとえば、印刷レイアウトの作成者がある問題で困っているとします。印刷機によって機能は異なるため、最新のページレイアウトアプリケーションではこれらの機能すべてをサポートする柔軟性が必要になります。単純な人為的ミスの可能性も排除できないため、予想外なことが数多く起きる可能性もあります。そのいくつかの例を見てみます。

- レイアウト担当デザイナーが、依頼先の印刷業者で正確に再現できない可能性のあるカラーやインポート済み画像を使用することがあります。
- 100ページを想定して予算の組まれたドキュメントが、出力用に送信されたときには112ページになっていることがあります。
- 必要な画像ファイルやフォントが含まれていない状態でプロジェクトが出力デバイスに送信されることもあります。
- スポットカラーの小さいテキストが使用されたレイアウトが4色印刷に送信され、テキストが読めなくなってしまうことがあります。
- カラーマネージメント設定が、出力デバイスに対して正しく設定されていないため、予期しない結果になることがあります。

大型で複雑な印刷作業では、ミスの発生する可能性も高くなり、ミスによるコストが増大します。ジョブジャケットにより、最初に印刷不可能な作業や正しく構築されていない作業が発生することを防ぎます。

ジョブジャケットとは

技術的な面から言えば、ジョブジャケットとは、QuarkXPressレイアウトを作成して検査するための仕様とルールを含むXML構造です。概念としては、ジョブジャケット構造は、さまざまな種類のプロジェクトとレイアウトだけでなく他の種類の情報も記述するジョブチケットを含んだフォルダと比較することができます。

ジョブジャケットは、JDF（Job Definition Format）スキーマの最新バージョンに基づいています。QuarkXPress関連の仕様を制御できるようにするだけでなく、ジョブジャケットにより、バインディングやクロスオーバー設定など、JDFが網羅する他のさまざまな仕様に値を設定できます。出力にレイアウトを送信するときには、ダウンストリームシステムが自動化の情報および情報目的の情報を使用できるように、レイアウトのJDF情報を含めるオプションが用意されています。また、ジョブジャケットの使用は拡張可能であるため、JDF互換システムの開発者は、ジョブジャケットアップストリームをレイアウト担当デザイナーに渡す前に、自身の仕様に固有の設定をジョブジャケットに埋め込むことができます。これらの設定は、その後ジョブジャケットファイルに保存され、XTensionsソフトウェア、JDF対応アプリケーション、その画のシステムがこの設定を使用して、非常に多様な処理を自動化および効率化します。

また、ジョブジャケットは、ワークグループ内での共同作業に役立つこともあります。仕様の同一セットを共有するレイアウトで作業している数人のレイアウト担当デザイナーは、自身のプロジェクトを共有ジョブジャケットファイルにリンク付け、1人のレイアウト担当デザイナーがスタイルシートなどに変更を加えた場合、他のレイアウト担当デザイナーのレイアウトにも同じ変更内容が自動的に伝わるようにできます。

ジョブジャケットの構造

ジョブジャケットとは、仕様とルールを含んだXML構造です。下記のトピックでは、これらの仕様とルールがジョブジャケット内で編成される方法を説明します。

リソース

ジョブジャケットには**リソース**が入っています。リソースには下記のものがあります。

1. **プロジェクトレベルリソース**：個々のプロジェクトに適用できる、スタイルシート、カラー、出力スタイル、およびカラーマネージメント設定などの要素です。
2. **レイアウトレベルリソース**：個々のレイアウトに適用できるリソースで、下記のものがあります。

    - **レイアウトの仕様**：レイアウトに特定のサイズや方向などを割り当てるために使用される設定です。
    - **ルールおよびルールセット**：レイアウトを検査するためのテストで、仕様に準拠しているかどうかを検証します。

ジョブジャケットには、上記で説明したリソースの他に、下記のような情報リソースを含めることができます。

- **ジョブの説明：**このカテゴリには、ジョブ番号、リビジョン、説明、ノート、およびキーワードなとが含まれます。
- **連絡先：**ジョブの定義者やジョブに関連するその他の連絡先情報です。連絡先を含めておくと、問題が発生した場合により早く適切な担当者に連絡することができます。

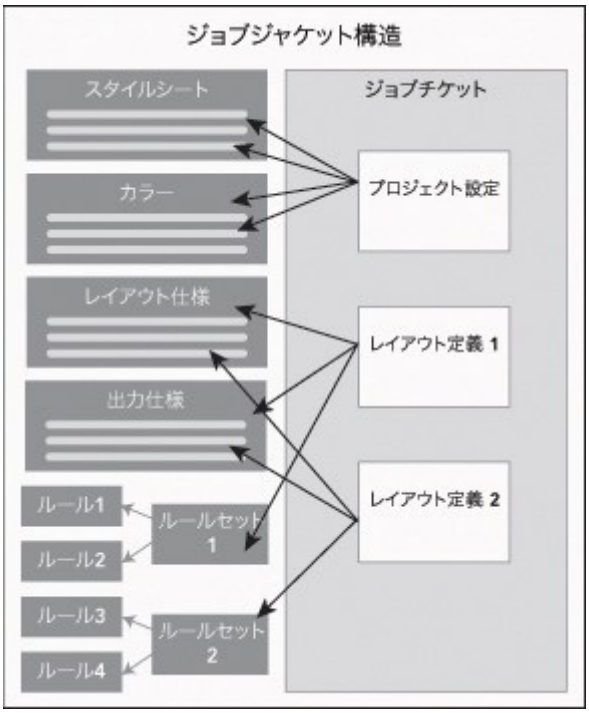
ジョブチケット

ジョブジャケットのリソースは、1つ以上の**ジョブチケット**で構成されています。各ジョブチケットには、QuarkXPressのプロジェクトに適用できる、特定リソースのセットが含まれています。

ジョブチケットでは、リソースは下記のように分類されます。

1. **プロジェクト設定値：** プロジェクトレベルのリソースで、単一のプロジェクトに適用できます。プロジェクト設定値には、スタイルシート、カラー、出力スタイル、およびカラーマネージメント設定などがあります。各ジョブチケットには、1組のプロジェクト設定値が含まれています。
2. **レイアウト定義：** レイアウトレベルのリソースセットで、それぞれが1つのレイアウトに適用できます。ジョブチケットに、レイアウト定義を含めることができます。レイアウト定義には、下記の項目を含めることができます。

    - レイアウトの仕様（ページサイズ、方向など）
    - 出力仕様（特定の出力デバイス用の設定）
    - ルールセット（レイアウトの検査用）
    - メディアタイプ（印刷またはデジタル）
    - カラーマネージメント設定（ソースセットアップおよび出力セットアップ）
    - プルーフ仕様（出力のプルーフおよびプルーフ方法）
    - 情報リソース（説明、ジョブの説明など）

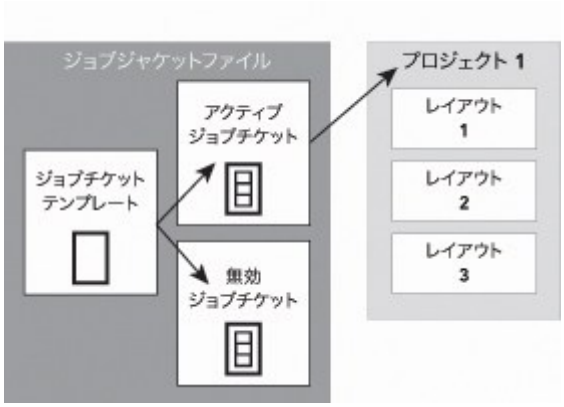


リソースは、ジョブジャケット構造に定義および保存されます。ジョブチケットには、各プロジェクトタイプ用のプロジェクト設定値、およびレイアウト用のレイアウト定義が含まれています。リソース定義は、ジョブチケットには「常駐」していません。ジョブチケットは、ジョブジャケット構造に常駐しているリソース定義を「参照」します。

ジョブチケットおよびジョブチケットテンプレート

ジョブチケットには下記の3種類があります。

- **ジョブチケットテンプレート**は、「マスター」ジョブチケットの定義です。ジョブチケットテンプレートには、マスターページやQuarkXPressテンプレートファイルに似たところもあります。
- **アクティブジョブチケット**は、特定のプロジェクトに関連付けられたジョブチケットテンプレートのコピーです。
- **無効ジョブチケット**は、プロジェクトに関連付けられていたが、現在はそのプロジェクトに関連付けられていないジョブチケットテンプレートのコピーです。プロジェクトを保存せずに閉じた場合などが該当します。



ジョブジャケットファイルには、ジョブチケットの定義を含んだジョブチケットテンプレート、特定のプロジェクトに関連付けられたアクティブジョブチケット、およびあるプロジェクトに関連付けられていたが、今はそのプロジェクトに関連付けられていない無効ジョブチケットを含めることができます。

複数のプロジェクトのジョブチケットを作成するときに、各ジョブチケットテンプレートを使用できます。各ジョブチケットは、1つのプロジェクトにのみ適用できます。ジョブチケットをプロジェクトに適用すると、そのジョブチケットのリソースがプロジェクトで使用可能になります。たとえば、プロジェクトは、ジョブチケットにリストされているすべての色、スタイルシート、レイアウト定義を継承します。

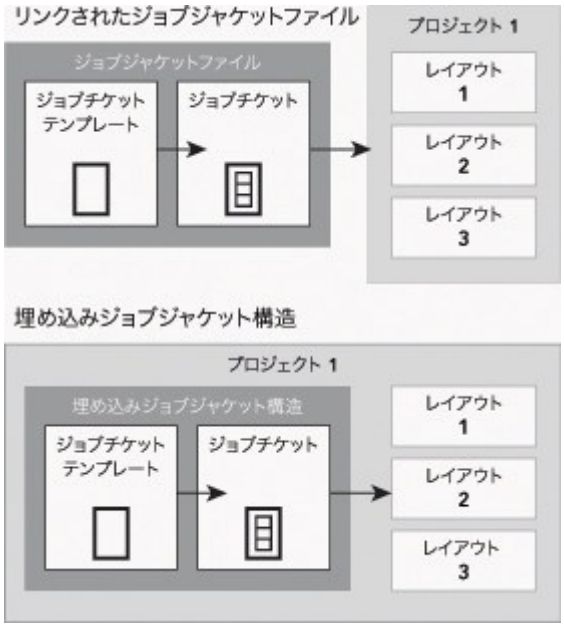
ジョブチケットをプロジェクトに適用する方法は2つあります。

- プロジェクトの作成時に、**ファイル > 新規 > チケットからプロジェクト作成**の順に選択し、次にジョブチケットテンプレートを選択します。QuarkXPressが、ジョブチケットテンプレートの情報を新規プロジェクトの新規ジョブチケットにコピーします。新規プロジェクトは、ジョブチケットテンプレートにある各レイアウト定義のあらかじめ設定されたレイアウトを自動的に含め、さらにジョブチケットテンプレートで定義されたすべてのプロジェクト設定も含めます。
- プロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトを開き、**ファイル > ジョブジャケット > プロジェクトのリンク**の順に選択してから、ジョブチケットテンプレートを選択します。QuarkXPressは、再度ジョブチケットテンプレートの情報をこの特定プロジェクトの新規ジョブチケットにコピーします。そのプロジェクトは、ジョブチケットテンプレートで定義されたすべてのプロジェクト設定を取得し、ジョブチケットテンプレートにある各レイアウト定義に対して、あらかじめ設定されたレイアウトが新たに作成されます。

ジョブチケットでは、作成元のジョブチケットテンプレートへのリンクは保持されません。ジョブチケットテンプレートに加えられた変更は、既存のジョブチケットには反映されません。

リンクジョブジャケットおよび埋め込みジョブジャケット

それぞれのQuarkXPressプロジェクトは、ジョブジャケット構造に関連付けられます。プロジェクトのジョブジャケット構造は、そのプロジェクトに埋め込まれるか、ローカルファイルシステムのXMLジョブジャケットファイルに保存されます。プロジェクトのジョブジャケット構造の場所は、プロジェクトの作成方法によって異なります。詳細は、「プロジェクトへのジョブチケットテンプレートの適用」を参照してください。



ジョブジャケット構造は、ファイルシステムにXMLファイルとして含めることも、プロジェクトファイルに埋め込むこともできます。

デフォルトでは、非埋め込みジョブジャケットファイルは、**QuarkXPress/編集**メニューにある**環境設定**ダイアログボックスの**ジョブジャケット**ペインで指定した場所に保存されます。また、ジョブジャケットファイルは好きな場所に保存することもできます。たとえば、ワークグループのレイアウト担当デザイナー間で1つのジョブジャケットを共有している場合（「*共有ジョブジャケットファイル*」を参照）、それぞれがネットワーク経由でアクセスできるように、共有しているジョブジャケットファイルをファイルサーバーに配置できます。

ジョブジャケットの保存先となるデフォルトの場所を変更するには、**QuarkXPress/編集**メニューにある**環境設定**ダイアログボックスの**ジョブジャケット**ペインに移動し、**Select the path**をクリックしてから**選択**ボタンをクリックし、対象ディレクトリを指定します。

ジョブジャケットのワークフロー例

本トピックでは、ジョブジャケットのワークフローについて説明します。ここで説明するのは、実行可能なワークフローの1つであり、ジョブジャケットの使用方法を説明するための一例です。使用されている用語の定義は下記のとおりです。

- **ジョブの定義者**：ページ番号、サイズ、カラーなどの印刷ジョブに必要な設定に精通しているユーザーです。
- **出力担当者**：印刷ジョブの作成方法、および目的の印刷機で正しく印刷するための設定方法を熟知しているユーザーです。
- **レイアウト作成者**：QuarkXPressで実際にレイアウトを作成するユーザーです。

ジョブジャケットのワークフローは下記のとおりです。

1 出力担当者とジョブの定義者が共同で、印刷ジョブ（または関連する印刷ジョブのセット）に適した出力仕様とルールを定義します。これには、ページサイズ、ページ数、カラーリスト、トラップ設定、スタイルシート、ラインの太さおよび取り込む画像のカラースペースの有効範囲などが含まれます。

2 ジョブの定義者は、これらの仕様やルールに従って、ジョブジャケットファイル内にジョブチケットテンプレートを作成します。ジョブチケットテンプレートは、個々のプロジェクトについて記述したもので、そのプロジェクト内の各レイアウトについてさまざまな仕様やルールを含めることができます。ただし、ここでは、ジョブチケットテンプレートにレイアウトが1つしか定義されていない場合を想定しています。ジョブジャケットファイルを作成し終えると、ジョブの定義者はそのファイルをレイアウト作成者に渡します。

3 レイアウト作成者は、**ファイル > 新規 > チケットからプロジェクト作成**コマンドを使用して、ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成します。QuarkXPressは、自動的にジョブチケットテンプレートからジョブチケットを作成して、そのジョブチケットをプロジェクトに関連付けます。QuarkXPressは、ジョブチケットを読み込み、自動的にジョブチケットのすべてのリソース（カラー、スタイルシート、カラーマネージメント設定など）をプロジェクトに挿入します。また、QuarkXPressは、ジョブチケット内で定義されたすべてのレイアウトを自動的に作成します。

4 レイアウト作成者は、ジョブチケットを一組のガイドラインとして使用して、レイアウトを作成します。レイアウト作成者は、定期的に**ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**を選択して、ジョブチケットに定義されているガイドラインに準拠していることを確認します。レイアウトの評価を実行すると、ダイアログボックスに従ってジョブチケットに定義されているルールに違反している設計要素を特定し、そこに移動することができます。これにより、レイアウト作成者は、プリプレスまで問題を放置しておくのではなく、問題の発生時にその問題を修正することができます。

5 レイアウトが完成すると、レイアウト作成者は、直接印刷、出力ファイルの収集、PDF（またはPDF/X）への書き出しなどの方法で出力に送信します。ジョブジャケットファイルに出力仕様が含まれている場合は、それらの出力仕様のフォーマットおよび設定値を使用してジョブを出力に送信できます。レイアウトはジョブチケットテンプレートに指定された仕様に準拠して作成されているため、印刷時には正しいレイアウトになります。

ジョブジャケットの使用

ジョブジャケット情報は、XML形式で保存されます。ただし、QuarkXPressには、ジョブジャケットの作成と変更を簡単に行える総合的なインターフェイスが用意されています。次のトピックでは、ジョブジャケットユーザーインターフェイスの基本を説明しています。

基本モードと詳細設定モード

➡ **基本モード**は Windowsでのみ利用できます。

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックス（**ユーティリティ > ジョブジャケットマネジャー**）には、ジョブの定義者がジョブジャケットとジョブジャケットを構成するコンポーネントの作成と設定を行える、統一されたインターフェイスが提供されています。

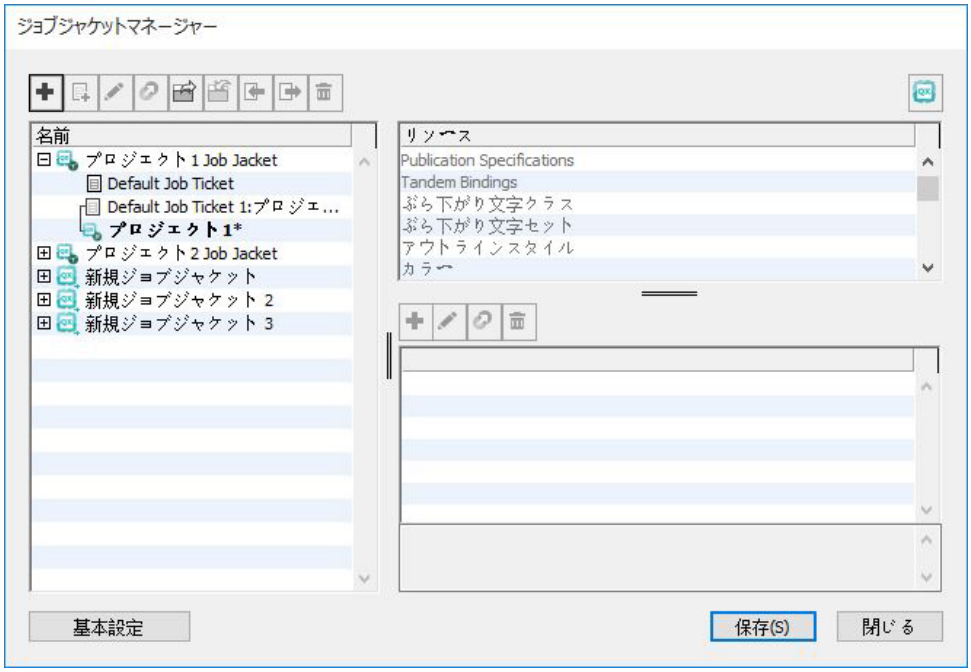
デフォルトで**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスには、ジョブジャケットフォルダにあるジョブジャケット（「*デフォルトのジョブジャケットファイル*」を参照）、および開いているすべてのプロジェクトに関連するジョブジャケットが表示され

ます。アクティブなプロジェクトが存在する場合、アスタリスク付きで太字で表示されます。

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスには、以下に挙げる2つのモードがあります。

- **（Windowsのみ）基本モード**は、ジョブジャケットの詳細JDF機能を使用する必要のない、レイアウト作成者やジョブの定義者向けの機能です。基本モードでは、ジョブジャケットの作成や管理、共有に必要なすべてのコントロールが用意されています。
- **詳細設定モード**は、ワークフローの統合部分を自動化するのにJDFの機能が必要な製品管理者向けです。詳細設定モードは、基本モードに加え、ルールなどの追加リソース、および製本およびクロスオーバーの仕様などのJDFのみのリソースにアクセスできる、別のユーザーインターフェイスを使用します。

（Windowsのみ）詳細設定モードを使用するには、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開き、**詳細設定**ボタンをクリックします。基本モードに戻すには、**基本設定**ボタンをクリックします。



ジョブジャケットマネジャーダイアログボックス（**ユーティリティ > ジョブジャケットマネジャー**）では、ジョブの定義者がジョブジャケットファイルとコンポーネントを操作できます。このダイアログボックスには、基本モード（上）と詳細設定モード（下）があります。

ジョブジャケットファイルの作成

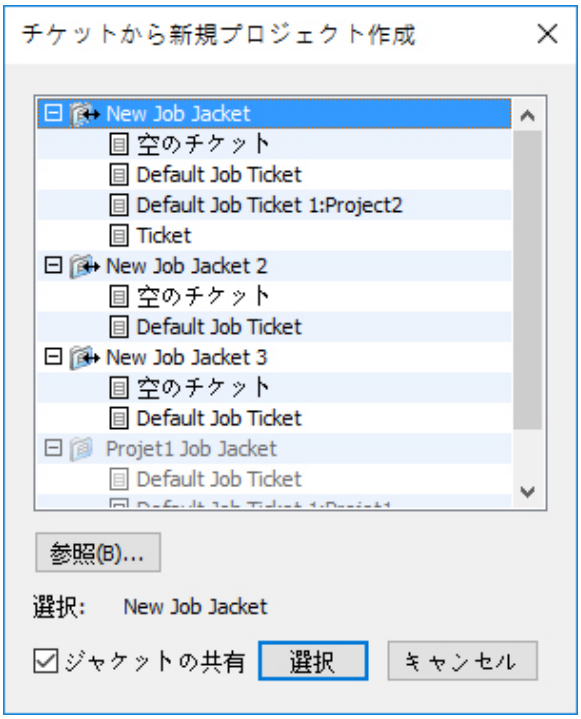
まず、ジョブの定義者は、**どのような場合**に、**どのような理由で**ジョブジャケットファイルを作成する必要があるでしょうか。特に厳密な規則はなく、必要に応じて、すべての印刷ジョブのジョブチケットを1つの大きなジョブジャケットファイルに入れることができます。ただし、独立したジョブジャケットファイルが必要となる場合を示すガイドラインがいくつかあります。

- 同一リソース（カラー、スタイルシート、トラップ設定、カラーマネージメント設定、およびページサイズ）を共有する多数の印刷ジョブを作成する場合、このような印刷ジョブすべてに対して1つのジョブジャケットファイルを作成します。それぞれが独自のビジュアルアイデンティティを持つ、いくつかの異なるクライアントを抱えるデザイン事務所の場合は、各クライアントに1つのジョブジャケットファイルを作成します。
- 設計グループを担当し、プロモーションキャンペーンなどの特定プロジェクトで作業する各レイアウト作成者が同一リソースを使用するようにする場合、ジョブジャケットファイルと、リソースを含むジョブチケットテンプレートを作成して、レイアウト作成者全員がそのジョブジャケットファイルを共有するようにします。
- 出力プロバイダーであり、特定要件を持つ特定印刷機がある場合、カスタマーの印刷機の要件をキャプチャしたジョブジャケットファイルを作成することで、要件範囲の超過を避けることができます。印刷機の要件を含むジョブジャケットファイルを、印刷機の製造元からダウンロードすることもできます。

ジョブジャケットファイルの作成：基本モード（Windowsのみ）

基本モードを使用してジョブジャケットファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助> ジョブジャケットマネジャー**）を開きます。
2. ダイアログボックスに複数のリストが表示される場合は、**基本設定**をクリックして基本設定画面を表示します。
3. **新規ジョブジャケット**ボタン⊞をクリックします。**新規ジョブジャケット**ダイアログボックスが表示されます。
4. **名前**フィールドにジョブジャケットファイルの名前を入力します。
5. 複数のユーザーがこのジョブジャケットファイルを共有できるようにする場合は、**このジャケットを共有**をオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合は、そのジョブジャケットファイルがアクティブなプロジェクト（存在する場合）に埋め込まれます。詳細は、「*共有ジョブジャケットのグループ作業*」を参照してください。
6. 前の手順で**このジャケットを共有**をオンにした場合は、**保存位置**ドロップダウンメニューからオプションを選択することによって、ジョブジャケットファイルを保存するロケーションを指定します。
   - デフォルトのロケーションを使用する場合（「*リンクジョブジャケットおよび埋め込みジョブジャケット*」を参照）は、**デフォルトジャケットフォルダ**を選択してください。
   - アクティブなプロジェクトと同じフォルダに共有ジョブジャケットファイルを保存するには、**プロジェクトフォルダ**を選択します。
   - 別の場所に共有ジョブジャケットファイルを保存するには、**その他**を選択してターゲットディレクトリ（すべてのレイアウト作成者がアクセス可能なネットワーク接続されたボリュームなど）を参照します。
7. **設定**コントロールをクリックして、**チケット、スタイル設定、連絡先**、および**レイアウトの仕様**タブを表示します。



新規ジョブジャケットダイアログボックスでは、新規ジョブジャケットファイルにリソースを追加できます。

8 **チケット**タブでは、ジョブジャケットファイルにジョブチケットテンプレートを追加します。 詳細は、「*ジョブチケットテンプレートの作成：基本モード （Windowsのみ）*」を参照してください。

9 **スタイル設定**タブでは、ジョブジャケットファイルにリソースを追加します。**追加元**オプションを使用して、さまざまなソースからプロジェクトレベルのリソースを追加できます。

- アプリケーションのデフォルト設定からリソースを追加するには、**アプリケーション**をクリックします。
- プロジェクトファイルまたは別のジョブジャケットファイルからリソースを追加するには、**その他**をクリックし、次に**選択**をクリックしてターゲットファイルに移動します。

ジョブチケットテンプレートにリソースをコピーするには、ダイアログボックスの下部にある3つのリストを使用します。最初のリストからリソースの種類を選択し、次に2番目のリストから特定のリソースを選択し、ボタンをクリックして選択したリソースを3番目のリストにコピーします（3番目のリストにはジョブチケットテンプレート内にあるこの種類のリソースが表示されます）。

ジョブジャケットファイルからリソースを削除するには、最初のリストからリソースの種類を選択し、次に3番目のリストで特定のリソースを選択して、**消去**ボタンをクリックします。

10 連絡先を指定すれば、QuarkXPressファイルを使用する作業者は、問題が生じたときにジョブの定義者とすぐに連絡を取ることができます。ジョブジャケットファイルにJDF連絡先情報を追加するには、**連絡先**タブをクリックし、次に**新規アイテム**ボタンをクリッ

クして連絡先を追加します。新規連絡先の横にある展開ボタンをクリックしてフィールドを表示し、各フィールドに詳細を入力します。

11 レイアウトの仕様では、自動生成されるレイアウトのページサイズやページ数のような属性を設定できます。ジョブジャケットファイルにレイアウトの仕様を追加するには、**レイアウトの仕様**タブをクリックし、次に**新規アイテム**ボタンをクリックします。新しいレイアウトの仕様の横にある展開ボタンをクリックしてフィールドを表示し、フィールドごとに詳細を入力します。

12 OKをクリックします。

ジョブジャケットファイルの作成：詳細設定モード

詳細設定モードを使用してジョブジャケットファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。

2 ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。

3 **新規ジョブジャケット**ボタンをクリックします。**新規ジョブジャケット**ダイアログボックスが表示されます。

4 ジョブジャケットファイルの名前を入力し、ターゲットディレクトリに移動して、**保存**をクリックします。複数のレイアウト作成者が同じジョブジャケットファイルにアクセスできるようにする場合は、すべてのレイアウト作成者がネットワークからジョブジャケットファイルにアクセスすることが可能なディレクトリを選択できます。

5 「*ジョブジャケットファイルへのリソースの追加：詳細設定モード*」の説明に従って、ジョブジャケットファイルにリソースを追加します。

ジョブジャケットファイルへのリソースの追加：詳細設定モード

下記の手順は、既存のプロジェクトのリソースを使用してジョブジャケットファイルを作成する場合に便利です。たとえば、去年のパンフレットプロジェクトのコピーがあり、そのパンフレットプロジェクトのスタイルシートやカラーなどをすべて新規のジョブジャケットファイルで使用する場合は、この手順を実行してください。また、この手順を使用して、ジョブジャケットファイルから別のジョブジャケットファイルにリソースをコピーすることもできます。

詳細設定モードでジョブジャケットファイルにリソースを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。

2 ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。

3 リソースのコピー元を指定します。

- ジョブジャケット構造、ジョブチケットテンプレート、またはジョブチケットからリソースをコピーするには、左側のリストでソースアイテムを選択します。
- 開いているプロジェクトからリソースをコピーするには、左側のリストでそのプロジェクトを選択します。

- アプリケーションのデフォルトからリソースをコピーするには、**アプリケーションリソースの読み込み**ボタンをクリックします。

4 右上のリストでリソースカテゴリを選択します。

5 右下のリストから左側のリストにある対象のジョブジャケットアイコンに、個々のリソースをドラッグ＆ドロップします。

ジョブチケットまたはプロジェクトにリソースをドラッグすることもできます。

ジョブジャケット内でのリソース位置の変更についての詳細は、「*リソースの場所の指定：詳細設定モード*」を参照してください。

ジョブチケットの使用

ジョブチケットとは、1つ以上のQuarkXPressプロジェクトに適用できる仕様およびルールであるリソースのセットです。各ジョブチケットには名前があり、特定のジョブジャケット構造に保存されます。ジョブチケットには、カラー、スタイルシート、およびカラーマネージメント設定などのプロジェクトレベルリソースと、レイアウト仕様およびレイアウト定義などのレイアウトレベルリソースの両方が含まれています。

ジョブチケットには下記の3種類があります。

- **ジョブチケットテンプレート**は、「マスター」ジョブチケットの定義です。ジョブチケットテンプレートには、マスターページやQuarkXPressテンプレートファイルに似たところもあります。
- **アクティブジョブチケット**は、特定のプロジェクトに関連づけられたジョブチケットテンプレートのコピーです。
- **無効ジョブチケット**は、プロジェクトに関連づけられていたが、現在はそのプロジェクトに関連付けられていないジョブチケットテンプレートのコピーです。プロジェクトを保存せずに閉じた場合などが該当します。

ジョブチケットテンプレートの作成

ここでは、独立したジョブチケットテンプレートを作成する場合のガイドラインを示します。

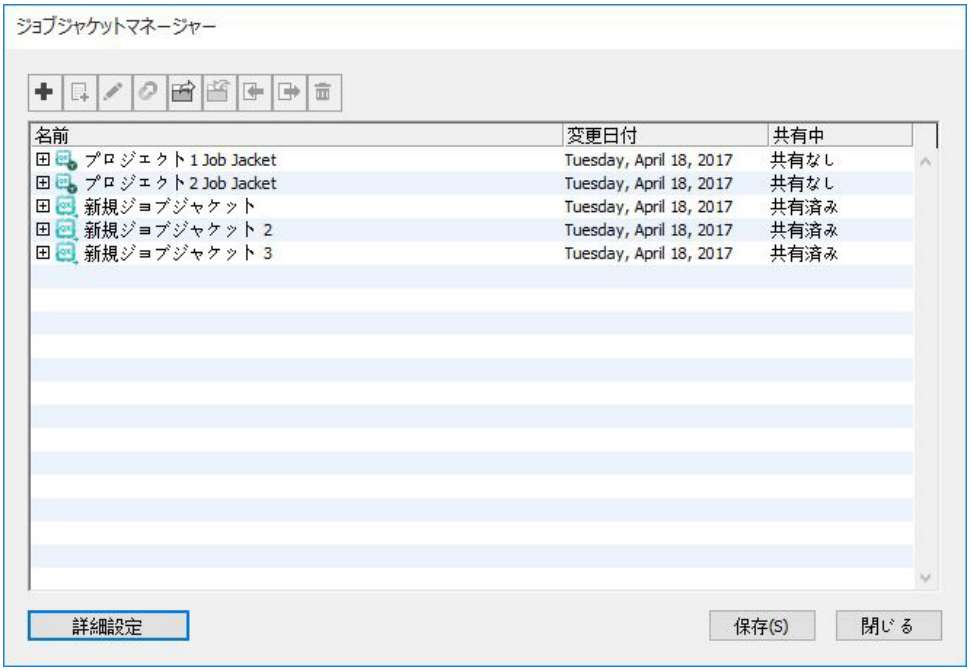
- ニュースレターや雑誌などの何度も行う印刷ジョブがある場合、そのジョブのジョブチケットテンプレートを作成できます。
- 単一のキャンペーンやテーマを基にして、何種類かのレイアウト（ポスター、ポストカード、デジタルメディアなど）を作成する場合、各レイアウトのジョブチケットテンプレートを作成して、すべてのジョブチケットテンプレートを単一のジョブジャケットファイルに格納できます。このようにして、すべてのレイアウトが同一スタイルシート、カラーなどを共有できます。
- 広告フォーマットなどの多数のユーザーが使用する標準フォーマットがある場合、ジョブチケットテンプレートを使用して、ガイドラインに従った広告をカスタマーが作成するようにできます。
- レイアウト作成者のグループで、全員が同じスタイルシート、カラー、またはその他リソースを使用し、リソースが万が一変更されてもレイアウト作成者間でリソー

スが同期されるようにする必要がある場合、共有ジョブジャケットファイルを介してレイアウト作成者がリソースにアクセス可能となるように、リソースをジョブチケットテンプレートに格納します。このアプローチは、大きな組織で企業ブランド規格を維持するのに役立ちます。

ジョブチケットテンプレートの作成：基本モード （Windowsのみ）

基本モードを使用してジョブジャケット構造にジョブチケットテンプレートを追加するには、下記の手順に従ってください。

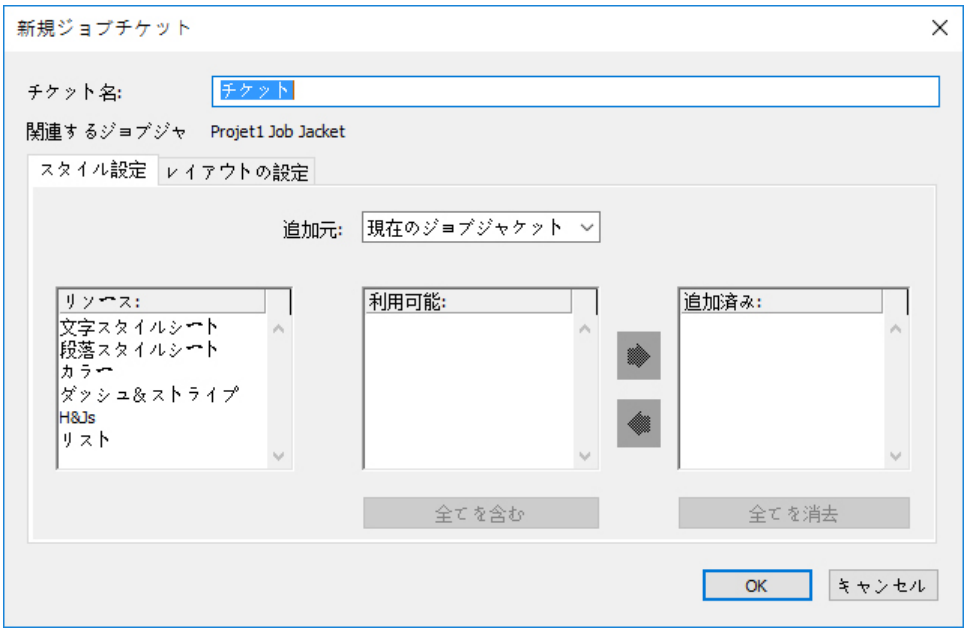
1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助> ジョブジャケットマネジャー**）を開きます。ダイアログボックスに複数のリストが表示される場合は、**基本設定**をクリックして基本設定画面を表示します。



ジョブチケットテンプレートは、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の基本設定画面で作成できます。

2 ジョブチケットテンプレートを含めるジョブジャケット構造を選択します。

3 **新規チケットのテンプレート**ボタンをクリックします。**新規ジョブチケット**ダイアログボックスが表示されます。



新規ジョブチケットダイアログボックスでは、新規ジョブチケットテンプレートにリソースを割り当てることができます。

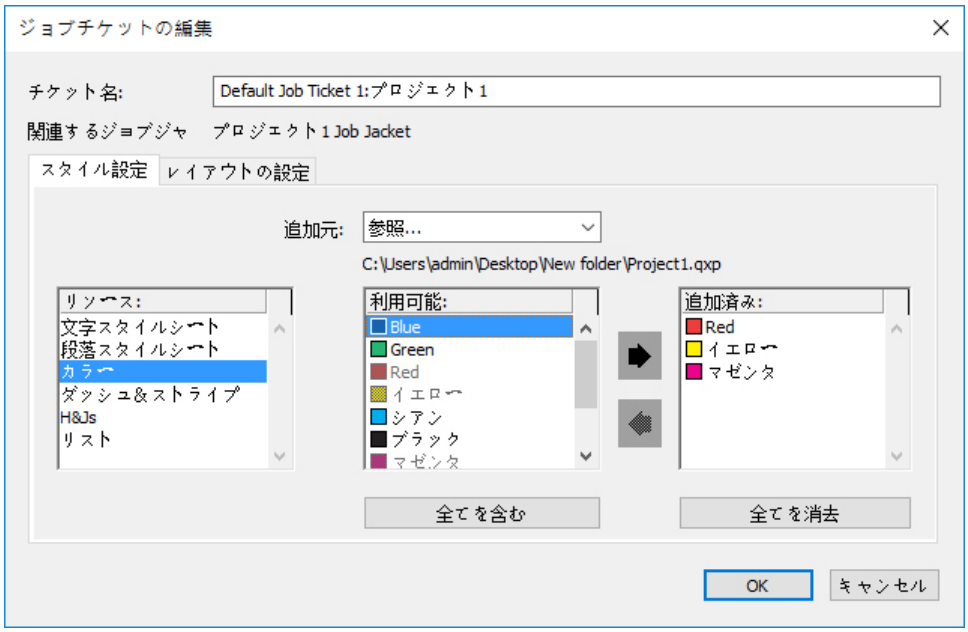
4 「*ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード （Windowsのみ）*」の説明に従って、新規ジョブチケットテンプレートを設定します。

ジョブチケットの編集：基本モード （Windowsのみ）

プロジェクトのアクティブなジョブチケットを編集するには、プロジェクトを開いて、**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**を選択します。**ジョブジャケットの編集**ダイアログボックスが表示されます。**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスの使用方法についての詳細は、「*ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード （Windowsのみ）*」を参照してください。

ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード （Windowsのみ）

本トピックでは、**新規ジョブチケット**ダイアログボックスまたは**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスを使用して、ジョブチケットまたはジョブチケットテンプレートのリソースを追加および削除する方法を説明します。上記の2つのダイアログボックスは基本的に同じものですが、**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスは、ジョブチケットで作業する場合とジョブチケットテンプレートで作業する場合で画面が多少異なります。



新規ジョブチケットおよび**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスで、ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットにリソースを追加できます。

新規ジョブチケットまたは**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスを使用したリソースの割り当てについては、下記の手順に従ってください。

1 プロジェクトレベルのリソースを追加または削除するには、**スタイル設定**タブ（ジョブチケットテンプレートの場合）、または**プロジェクト設定**タブ（アクティブおよび無効ジョブチケットの場合）のコントロールを使用します。

追加元ドロップダウンメニューを使用して、さまざまなソースからプロジェクトレベルのリソースを追加できます。

- ジョブチケットの親ジョブジャケット構造からリソースを追加する場合は、**現在のジャケット**を選択します。
- アクティブプロジェクトからリソースを追加するには、**現在のリンクしたプロジェクト**を選択します。
- アプリケーションのデフォルトからリソースを追加するには、**アプリケーション**を選択します。
- プロジェクトファイル、またはジョブジャケットファイルからリソースを追加するには、**その他**を選択してから**選択**をクリックして、追加先のファイルに移動します。

リソースをジョブチケットにコピーするには、ダイアログボックスの下部にある3つのリストを使用します。最初のリストでリソースのタイプを選択し、2番目のリストで特定のリソースを選択して右向き矢印をクリックし、リソースを3番目のリストにコピーします。3番目のリストには、選択したタイプのリソースで既にレイアウト定義に入っているものが表示されています。

ジョブチケットからリソースを削除するには、最初のリストでリソースのタイプを選択してから、3番目のリストで削除するリソースを選択し、左向き矢印をクリックします。

2 レイアウト定義がある場合、QuarkXPressは、このジョブチケットがプロジェクトに適用されると自動的にレイアウトを作成します。レイアウト定義を作成するときに、レイ

アウトの仕様（ページサイズやページ数などの情報を含む）、メディアタイプ（印刷またはデジタル）、ルールセット、および出力仕様を指定できます。

レイアウト定義をジョブチケットに追加するには、**レイアウトの設定**タブをクリックしてから＋ボタンをクリックします。これでレイアウト定義がリストに追加されます。

選択したレイアウト定義を設定するには、まず、**レイアウトプロパティ**コントロールをクリックして、レイアウトプロパティコントロールを表示します。

- レイアウト定義に名前を付けるには、**レイアウト名**フィールドに名前を入力します。この名前は、自動的に生成されるレイアウトに適用されます。
- レイアウト定義にページサイズおよびページ数などの情報を指定するには、**レイアウトの仕様**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。ただし、レイアウトの仕様がジョブジャケット構造内に存在していないと、レイアウトの仕様を選択することはできません。「*ジョブジャケットファイルの作成*」を参照してください。
- このレイアウト定義を使用して自動的に作成するレイアウトのタイプを指定するには、**メディアタイプ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- ルールセットおよび出力仕様を親ジョブジャケット構造からレイアウト定義にコピーするには、ダイアログボックスの下部にある3つのリストを使用します。最初のリストでリソースのタイプを選択し、2番目のリストで特定のリソースを選択してボタンをクリックし、リソースを3番目のリストにコピーします。3番目のリストには、選択したタイプのリソースで既にレイアウト定義に入っているものが表示されています。

レイアウト定義を削除するには、定義を選択して－ボタンをクリックします。

3 ジョブチケットの設定が終了したら、**OK**をクリックします。

ジョブチケットテンプレートの作成：詳細設定モード

詳細設定モードを使用してジョブジャケット構造にジョブチケットテンプレートを追加するには、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助＞ジョブジャケットマネジャー**）を開きます。ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。

2 新規ジョブチケットテンプレートの保存先を指定するには、左側のリストでジョブジャケットアイコンを作成または選択します。

3 **新規チケットのテンプレート**ボタンをクリックします。選択したジョブジャケット構造にジョブチケットテンプレートが追加されます。

4 「*ジョブチケット内のリソースの使用：詳細設定モード*」の説明に従って、新規ジョブチケットテンプレートを設定します。

ジョブチケット内のリソースの使用：詳細設定モード

ジョブチケットのリソースは、下記のような場合に使用します。

- 既存のプロジェクト内のリソースを使用してジョブチケットテンプレートを作成する場合。たとえば、去年のパンフレットのプロジェクトで使用したスタイルシート、

カラーなどのすべてを、新しいジョブチケットテンプレートまたは既存のプロジェクトでアクティブになっているジョブチケットでも使用する場合には、この方法を使用します。

- リソースを1つのジョブチケットから別のジョブチケットへコピーする場合。
- リソースをジョブジャケット構造またはプロジェクトからジョブチケットにコピーする場合。

詳細設定モードを使用したリソースのジョブジャケット構造への追加については、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。
2. ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして詳細設定画面を表示します。
3. リソースのコピー元を指定します。
   - リソースをジョブジャケット構造、ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットからコピーするには、左上のリストからソースアイテムを選択します。
   - 開いているプロジェクトからリソースをコピーするには、左側のリストでそのプロジェクトを選択します。
   - アプリケーションのデフォルトからリソースをコピーするには、**アプリケーションリソースの読み込み**ボタンをクリックします。
4. 右上のリストでリソースカテゴリを選択します。
5. 個々のリソースを右下のリストからコピー先である左側のリストのジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットにドラッグ＆ドロップします。

ジョブチケットへのレイアウト定義の追加：詳細設定モード

レイアウト定義は、いくつかの仕様を含む1つのグループであり、それらの仕様が組み合わさって単一のレイアウトが記述されます。レイアウト定義には、メディア（出力）タイプ（印刷またはデジタル）、出力仕様、ルールセットなどのリソースがあります。

ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成する場合、QuarkXPressは、ジョブチケットテンプレートでレイアウト定義ごとにレイアウトを自動的に作成します。レイアウト定義にレイアウトの仕様が含まれていない場合は、QuarkXPressに**新規プロジェクト**ダイアログボックスが表示されるので、ページのサイズや余白などを指定できます。

レイアウト定義をアクティブなジョブチケットに追加すると、そのレイアウト定義に基づいてレイアウトが作成され、対応するプロジェクトに自動的に追加されます。

ジョブチケットテンプレートにレイアウト定義を追加するには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助＞ジョブジャケットマネジャー**）を開き、左側のリストで対象のジョブチケットを選択します。
2. リソースのコントロール類を表示するには、**詳細設定**ボタンをクリックします。
3. 右上のリストで**レイアウト**を選択します。ジョブチケット内のレイアウト定義は、すべて右下のリストに表示されます。

4 右下のリストの上にある**新規アイテム**ボタンをクリックします。"レイアウト"という名前のレイアウト定義が追加されます（レイアウト定義に付ける名前は、プロジェクトを作成するときに実際のレイアウトに適用される名前です。レイアウト定義の名前を変更するには、名前をダブルクリックして新しい名前を入力します）。

5 レイアウト定義名の横にある展開ボタンをクリックして、レイアウト定義のフィールドを表示します。

6 使用するフィールドの値を指定または入力します。

7 **保存**をクリックします。

レイアウト定義の使用についての詳細は、「*プロジェクトへのレイアウト定義の適用*」を参照してください。

プロジェクトへのジョブチケットテンプレートの適用

ジョブチケットテンプレートをプロジェクトに適用するには、下記の2つの方法があります。

- ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成します。
- 既存プロジェクトをジョブチケットテンプレートにリンクします。

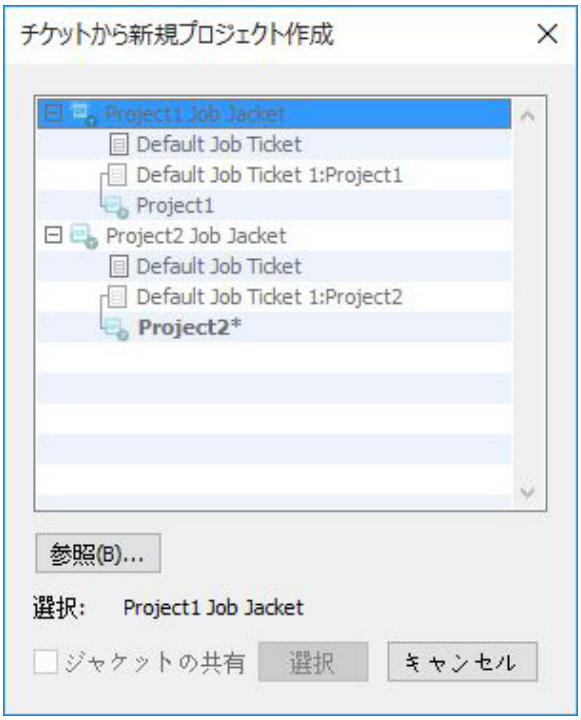
いずれの場合も、ジョブチケットはジョブチケットテンプレートから作成され、新規ジョブチケットインスタンスが新規プロジェクトに適用されます。下記のトピックでは、両方のアプローチについて説明します。

ジョブチケットテンプレートからのプロジェクトの作成

ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成する場合、常にそのジョブチケットテンプレートからジョブチケットを作成します。ジョブチケットの保存先として、共有ジョブジャケットファイルか、またはプロジェクトファイル内の埋め込みジョブジャケット構造のいずれかを選択できます。

ジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成するには、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > 新規 > チケットからプロジェクト作成**を選択します。**チケットから新規プロジェクト作成**ダイアログボックスが表示されます。



チケットから新規プロジェクト作成ダイアログボックスを使用して、新規プロジェクト用のジョブチケットテンプレートを選択します。

2 必要なジョブジャケット構造が表示されない場合は、**参照**をクリックし、ジョブジャケットファイルに移動して**開く**をクリックします。

3 リストで対象のジョブチケットテンプレートを選択します（無効ジョブチケットを選択することもできます）。

4 下記の操作を行って、**ジャケットの共有**チェックボックスをオンまたはオフにします。

- 外部のジョブジャケットファイルにこのプロジェクトのアクティブなジョブチケットを保存し、ジョブチケットがそのジョブジャケットファイルの他のユーザーとリソースを共有できるようにするには、**ジャケットの共有**をオンにします（詳細は、「*共有ジョブジャケットのグループ作業*」を参照してください）。
- プロジェクトファイルの埋め込みジョブジャケット構造にこのプロジェクトのジョブチケットを保存するには、**ジャケットの共有**をオフにします。

5 **選択**をクリックします。新規プロジェクトはジョブチケットテンプレートのプロジェクト設定を継承し、ジョブチケットテンプレート内のレイアウト定義に従ってレイアウトが自動的に作成されます。

ジョブチケットをデフォルトのジョブジャケット構造に保存することはできません。したがって、デフォルトのジョブジャケット構造にあるジョブチケットテンプレートからプロジェクトを作成し、**ジャケットの共有**をオンにする場合は、新規ジョブジャケットファイルをファイルシステムに保存するように指示されます。

ジョブジャケットファイルへの既存のプロジェクトのリンク

既存のプロジェクトをジョブジャケットファイルにリンクするには、現在プロジェクトでアクティブになっているジョブチケットを削除して、そのプロジェクトを他のジョブジャケットファイルのジョブチケットテンプレートで作成された新しいジョブチケット

にリンクします。この方法は、たとえば、既存のプロジェクトを他のレイアウト作成者によってアクティブにされたジョブチケットが入っているジョブジャケットファイルにリンクして、両方のレイアウト作成者が使用しているリソースを同期する場合に選択します。詳細は、「*共有ジョブジャケットのグループ作業*」を参照してください。

既存のプロジェクトへのジョブチケットの適用については、下記の手順に従ってください。

1. プロジェクトを作成するか、開きます。
2. **ファイル > ジョブジャケット > プロジェクトのリンク**を選択します。**プロジェクトのリンク**ダイアログボックスが表示されます。
3. 必要なジョブジャケットが表示されない場合は、**参照**をクリックしてそのファイルに移動して、**開く**をクリックします。
4. リストで対象のジョブチケットテンプレートを選択します
5. 下記の操作を行って、**ジャケットの共有**チェックボックスをオンまたはオフにします。
   - このプロジェクトのジョブチケットを、ターゲットのジョブチケットテンプレートが含まれているジョブジャケットファイルに保存するには、**ジャケットの共有**チェックボックスをオンにします。
   - プロジェクトファイルの埋め込みジョブジャケット構造にこのプロジェクトのジョブチケットを保存するには、**ジャケットの共有**をオフにします。
6. **リンク**をクリックします。プロジェクトでは、ジョブチケットテンプレートのプロジェクト設定値が継承され、レイアウト作成時に、自動的にそのジョブチケットテンプレートのレイアウト定義が適用されます。

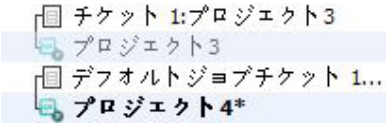
➡ ジョブチケットテンプレートをデフォルトのジョブジャケット構造で使用し、かつ**ジャケットの共有**チェックボックスをオンにする場合は、新しいジョブジャケットファイルをファイルシステムに保存することを促すメッセージが表示されます。これは、ジョブチケットは、デフォルトのジョブジャケット構造には保存できないためです。

ジョブチケットの関係の表示

補助メニューの**ジョブジャケットマネージャー**ダイアログボックスには、ジョブジャケット、ジョブチケットテンプレート、ジョブチケット、およびプロジェクトの間の関係を表示できます。このダイアログボックスに表示されるアイコンは、下記のとおりです。

- ジョブジャケット構造（リンク付き）
- ジョブジャケット構造（埋め込み）
- ジョブチケットテンプレート
- アクティブジョブチケットまたは無効ジョブチケット
- プロジェクト（太字のプロジェクト名は、アクティブプロジェクトであることを示します）

アクティブジョブチケットにリンクされているプロジェクトは、下記のように表示されます。



アクティブジョブチケットにリンクされているプロジェクト

無効ジョブチケットには、アイコンがついていますが、プロジェクトにはリンクされていません。つまり、プロジェクトは移動、削除された、または保存されなかったと考えられます。

プロジェクトへのレイアウト定義の適用

レイアウト定義では、一連の設定を組み合わせてレイアウトを定義します。これらの設定には、メディアタイプ（印刷またはデジタル）、ルールセット、出力セットアップ、およびカラーマネージメントソースセットアップを含めることができます。レイアウト定義には、ページサイズやページ数などのレイアウトの仕様を含めることもできます（レイアウトの仕様はジョブジャケットレベルに作成する必要があります）。

プロジェクトをジョブチケットテンプレートに関連付けると、各レイアウト定義のレイアウトがそのジョブチケットテンプレートに自動的に作成されます。このようなレイアウトには、基のレイアウト定義と同じ名前が付けられます。

レイアウト定義をプロジェクトに適用するには、下記の2つの方法があります。

- 「*ジョブチケットテンプレートからのプロジェクトの作成*」の説明に従って、レイアウト定義が含まれるジョブチケットからプロジェクトを作成します。
- プロジェクトを作成したら、「*ジョブジャケットファイルへの既存のプロジェクトのリンク*」の説明に従ってジョブチケットをアクティブなプロジェクトにリンクします。

いずれのアプローチを使用しても、定義されたレイアウトが自動的に作成されます。

ジョブチケットの書き出しと取り込み

ジョブの定義者が、ジョブチケットテンプレートやジョブチケットをジョブジャケットファイルから別のジョブジャケットファイルにコピーしたり、ジョブジャケット構造のジョブチケットテンプレートとジョブチケットすべてを別のジョブジャケット構造に取り込んだりする必要がある場合があります。ジョブチケットの書き出し機能と取り込み機能で両者とも実行できます。

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットの書き出し

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットの書き出しについては、下記の手順に従ってください。

1. **補助**メニューの**ジョブジャケットマネージャー**ダイアログボックスを開き、左側のリストから書き出しを行うジョブチケットを1つ以上を選択します。
2. 左側のリストの上の**チケットの書き出し**ボタンをクリックします。**新規ジョブチケット**ダイアログボックスが表示されます。
3. 名前と場所を指定して、**保存**をクリックします。選択したすべてのジョブチケットが、指定したファイル名および必要なリソースと一緒にジョブジャケットファイルに保存されます。

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットの取り込み

ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットのジョブジャケット構造への取り込みについては、下記の手順に従ってください。

1. **補助**メニューの**ジョブジャケットマネージャー**ダイアログボックスを開き、左側のリストから取り込み先のジョブジャケットのアイコンを選択します。
2. 左側のリストの上の**取り込み**ボタンをクリックします。**ジョブジャケットファイルの選択**ダイアログボックスが表示されます。
3. ジョブジャケットファイルを選択して、**開く**をクリックします。選択したファイル内のすべてのジョブチケットテンプレートおよびジョブチケットが、必要なリソースと一緒に、選択したジョブジャケット構造に取り込まれます。

デフォルトのジョブジャケットファイル

QuarkXPressをインストールすると、デフォルトのジョブチケットテンプレートが含まれる「DefaultJacket.xml」という名前のデフォルトのジョブジャケットファイルもインストールされます。このファイルは、**QuarkXPress／編集**メニューの**環境設定**ダイアログボックスにある**ジョブジャケット**ペインで指定した場所にインストールされます。

ファイル > 新規 > プロジェクトを選択してプロジェクトを作成すると、下記の処理が実行されます。

- 「Default Job Jackets」という名前でこのデフォルトのジョブジャケットファイルのコピーが作成され、新しいプロジェクトに埋め込まれます。埋め込まれたジョブジャケット構造には「*[filename]* Job Jackets」という名前が付けられます。
- 埋め込まれたジョブジャケット構造では、「Default Job Ticket」という名前のデフォルトのジョブチケットテンプレートからジョブチケットが作成されます。新規ジョブチケットには、「[*filename*] Ticket」という名前が付けられます。
- 埋め込まれたジョブジャケット構造のジョブチケットは、新しいプロジェクトに関連付けられます。

デフォルトのジョブジャケットファイルを使用すれば、新しいQuarkXPressプロジェクトで使用するリソースを制御できます。また、**ファイル > 新規 > プロジェクト**で作成したプロジェクトが使用するデフォルトのジョブチケットテンプレートも編集できます。このトピックでは、両方の手順を説明します。

新しいジョブチケットは、デフォルトのジョブジャケットファイルには保存できません。詳細は、「*ジョブチケットテンプレートからのプロジェクトの作成*」を参照してください。

デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：ファイルメニュー

デフォルトジョブチケットテンプレートは、**ファイル > 新規 > プロジェクト**の手順で作成するプロジェクトで使用されます。デフォルトジョブチケットテンプレートを編集する方法は、2つあります。

ファイルメニューからのデフォルトジョブチケットテンプレートの編集については、下記の手順に従ってください。

1. 開いているプロジェクトをすべて閉じます。
2. **ジョブチケットの変更**ダイアログボックスでデフォルトジョブチケットテンプレートを開くには、**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**を選択します。
3. **ジョブチケットの変更**ダイアログボックスのコントロールを使用して、デフォルトジョブチケットテンプレートを設定し、OKをクリックします。

デフォルトジョブチケットテンプレートの編集：補助メニュー

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスからのデフォルトジョブチケットテンプレートの編集については、下記の手順に従ってください。

1. **補助**メニューの**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを表示します。
2. **ジャケットを開く**ボタンをクリックしてデフォルトジョブジャケットファイルに移動し、**開く**をクリックします。
3. デフォルトジョブジャケット構造を展開し、リストから**"デフォルトジョブチケット"**という名前のジョブチケットテンプレートを選択します。
4. **編集**ボタンをクリックします。**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスが表示されます。
5. **ジョブチケットの編集**ダイアログボックスのコントロールを使用して、デフォルトジョブチケットテンプレートを設定します。
6. OKをクリックします。

   次回に**ファイル > 新規 > プロジェクト**の手順で作成するプロジェクトでは、変更後のデフォルトジョブチケットテンプレートが使用されます。

デフォルトジョブジャケットファイルの編集

デフォルトのジョブジャケットファイルを使用すれば、新しいQuarkXPressプロジェクトで使用するリソースを制御できます。デフォルトジョブジャケットファイルの編集については、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。
2. **ジャケットを開く**ボタンをクリックし、デフォルトジョブジャケットファイルに移動して、**開く**をクリックします。
3. リストから、「デフォルトジョブジャケット」という名前のジョブジャケット構造を選択します。
4. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスのコントロールを使用してデフォルトジョブジャケット構造を設定し、OKをクリックします。

   リソースについての詳細は、「*ジョブチケット内のリソースの使用：詳細設定モード*」を参照してください。

リソースの使用：詳細設定モード

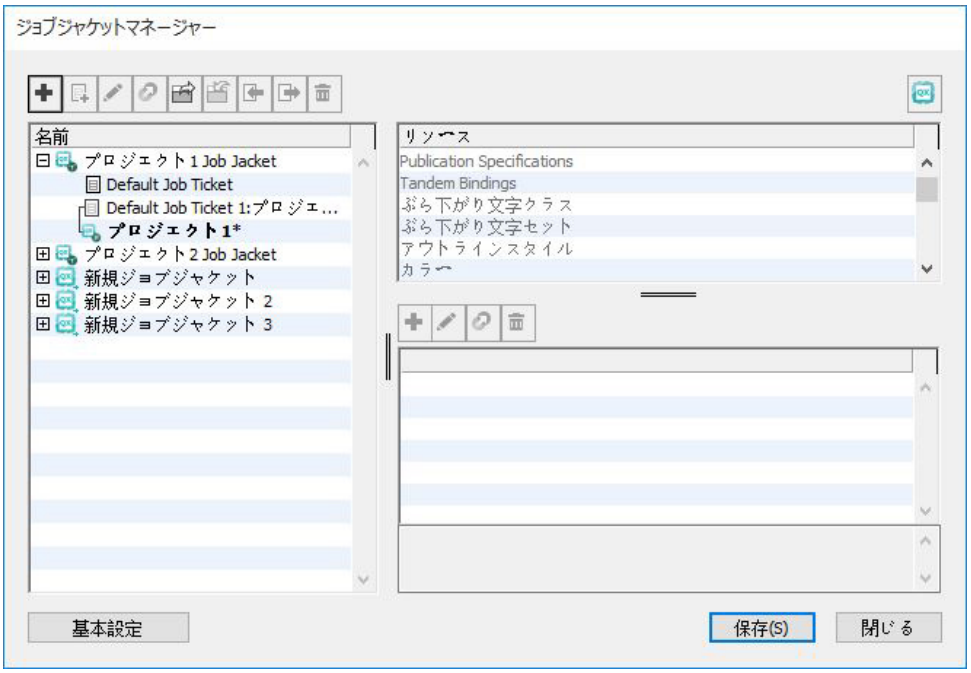
「リソース」は、ジョブジャケットおよびジョブチケットを構成するほとんどのコンポーネントについて説明する一般カテゴリです。リソースには、スタイルシートからページサイズ仕様までのすべてが含まれます。下記のトピックでは、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）の詳細設定画面でリソースを表示、作成、および更新する方法を説明します。

ジョブの定義者は、さまざまな目的でこの手順を頻繁に使用します。ただし、レイアウト作成者はこの手順を実行する必要はありません。

リソースへのアクセス：詳細設定モード

リソースを操作するには、まずリソースにアクセスする必要があります。リソースにアクセスするには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。
2. ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして**詳細設定**ペインを表示します。
3. 左側のリストで、ジョブジャケットファイルを開くか、または作成します。ジョブジャケットファイルのリソースカテゴリは、右上のリストにアルファベット順に表示されます。
4. ジョブジャケット構造に固有のリソースで作業するには、左側のリストでターゲットのジョブジャケット構造を選択します。使用できないリソースのカテゴリは、ジョブチケットレベルで指定する必要があるリソースを表しています。
5. ジョブチケットに固有のリソースを使用して作業するには、ジョブジャケット構造を展開し、ジョブチケットの作成、複製、または取り込みを行います。次いで、左側のリストでターゲットジョブチケットが選択されていることを確認します。輪郭がはっきりしないリソースのカテゴリは、ジョブジャケットレベルで指定する必要があるリソースを表します。
6. 右上のリストでリソースタイプを選択します。選択したタイプの既存のリソースが右下のリストに表示されます。



ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスを使用して、リソースの表示、作成、複製、削除、取り込み、および書き出しを行います。

リソースの設定：詳細設定モード

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックスでリソースに移動して、そのリソースを設定できます。このダイアログボックスには、次に示すとおり、さまざまなタイプのリソースに対してさまざまなオプションが用意されています。

- ほとんどのリソースの場所を指定できます。
- ほとんどのリソースを削除できます。
- 一部のタイプのリソースを作成および設定できますが、それ以外のリソースは、QuarkXPressユーザーインターフェイスの他の部分を使用して作成および設定する必要があります。
- ジョブジャケット構造のレイアウト定義、出力仕様、レイアウトの仕様、ジョブの説明、連絡先、段落罫線、ルールセットを、作成、複製、削除、および設定できます。

ジョブジャケットでは、App Studioレイアウトはデジタルレイアウトリソースによって示されます。

リソースで許可されている場合は、下記の手順に従って、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスでそのリソースを作成および設定できます。

1 右上のリストで選択したタイプのリソースを作成するには、右下のリストで**新規アイテム**ボタンをクリックします。リソースの名前を変更するには、その名前をクリックします。

2 リソースに展開アイコンが付いている場合は、そのアイコンをクリックしてリソースを展開し、表示されるフィールドで設定します。一部のリソースにはドロップダウンメ

ニューを含むフィールドが表示され、別のリソースには値を手動で入力できるフィールドが表示されます。

3 リソースにボタンがある場合は、そのボタンをクリックしてリソースの追加インスタンスを作成します。たとえば、レイアウトの仕様を作成する場合は、**スポットカラー**リソースでこのボタンをクリックして、追加のスポットカラーを作成できます。

リソースの場所の指定：詳細設定モード

リソースは、複数の場所に保存できます。

- **ジャケット内**：ジョブジャケット構造内に保存されますが、そのジョブジャケット構造のジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットでは使用されません。
- **チケット内**：ジョブジャケット構造に保存され、ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットに関連付けられます。"チケット内"のリソースが、プロジェクトに関連付けられているジョブチケットテンプレートにある場合、リソースはそのプロジェクトでも使用できます。
- **プロジェクト内**：プロジェクト内に保存されますが、ジョブジャケット構造またはジョブチケットには関連付けられません。

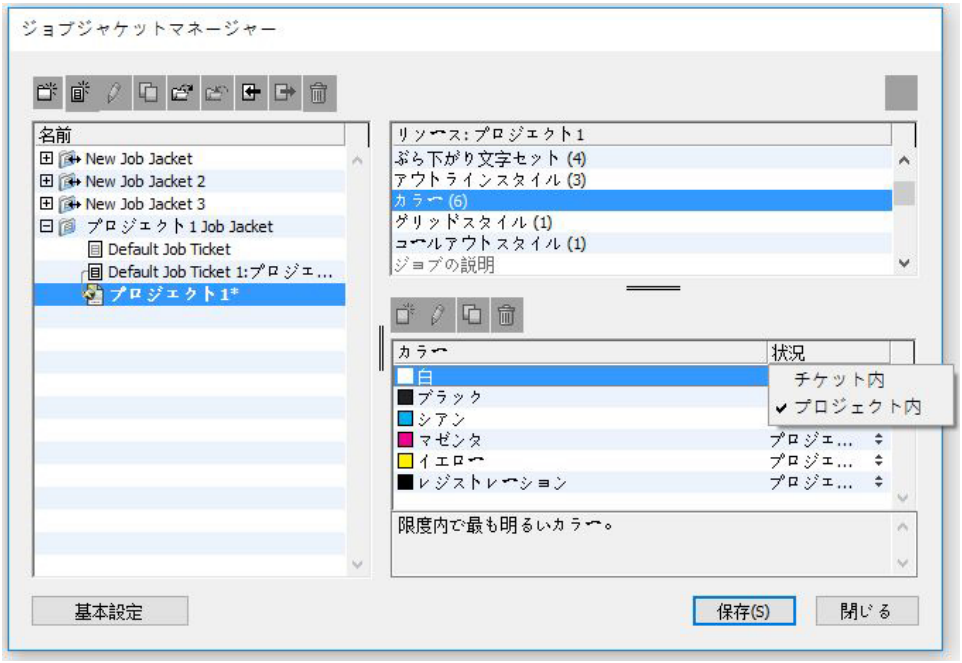
リソースの場所の指定については、下記の手順に従ってください。

1 **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用してリソースにアクセスします。詳細は、「*リソースへのアクセス：詳細設定モード*」を参照してください。

2 右下のリストでリソースを選択します。

3 **状況**列のドロップダウンメニューから場所を選択します。

- 左側のリストでジョブジャケット構造を選択した場合、選択できるのは**In Jacket**のみです。
- 左側のリストでジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットを選択した場合は、**In Jacket**または**チケット内**を選択して、リソースをそのジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットに関連付けるかどうかを指定できます。
- 左側のリストで選択したアイテムがプロジェクトである場合は、**状況**に**プロジェクト内**を指定して、リソースをそのプロジェクト内のみで定義するように指定するか、**状況**に**チケット内**を指定して、定義をプロジェクトのアクティブなジョブチケットで使用するかを指定できます。



補助メニューの**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用して、リソースの保存場所を指定します。

レイアウト仕様の使用

レイアウトの仕様によって、ページサイズ、ページ数、マージン、スプレッド情報、ブリード情報、製本情報など、レイアウトに固有の情報を定義することができます。

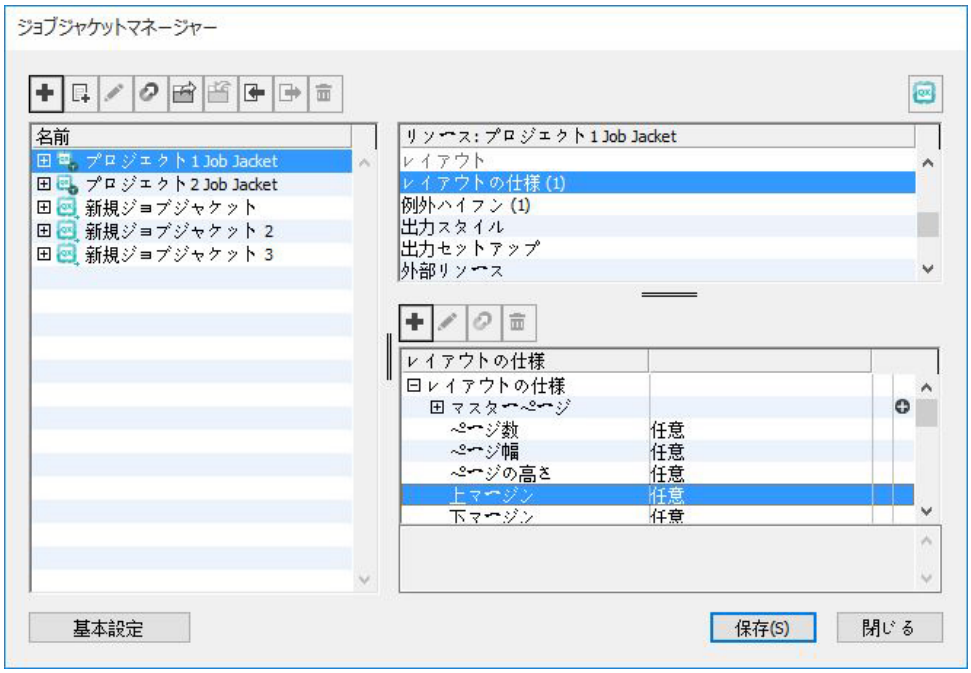
レイアウトの仕様を定義するための標準的な手順は下記のとおりです。

1. レイアウト仕様を作成します。詳細は「*レイアウトの仕様の作成：詳細設定モード*」を参照してください。通常、この作業はジョブの定義者によって行われます。
2. ジョブチケットテンプレートまたはジョブチケットを使用して、レイアウトの仕様をレイアウトに関連付けます。通常、この作業はレイアウト作成者によって行われます。

上記の手順についての詳細は、下記のトピックで説明します。

レイアウトの仕様の作成：詳細設定モード

レイアウトの仕様はリソースであるため、「リソースの使用：詳細設定モード」の説明に従って、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスで作成する必要があります。

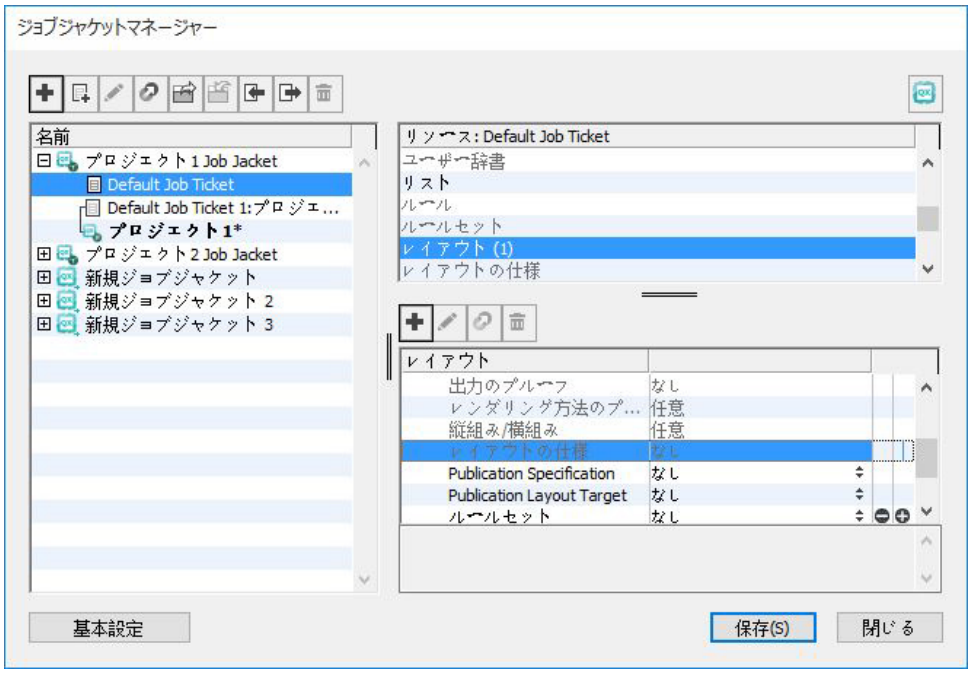


ジョブジャケットマネジャーダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を使用して、レイアウトの仕様を作成できます。

レイアウトへのレイアウトの仕様の適用

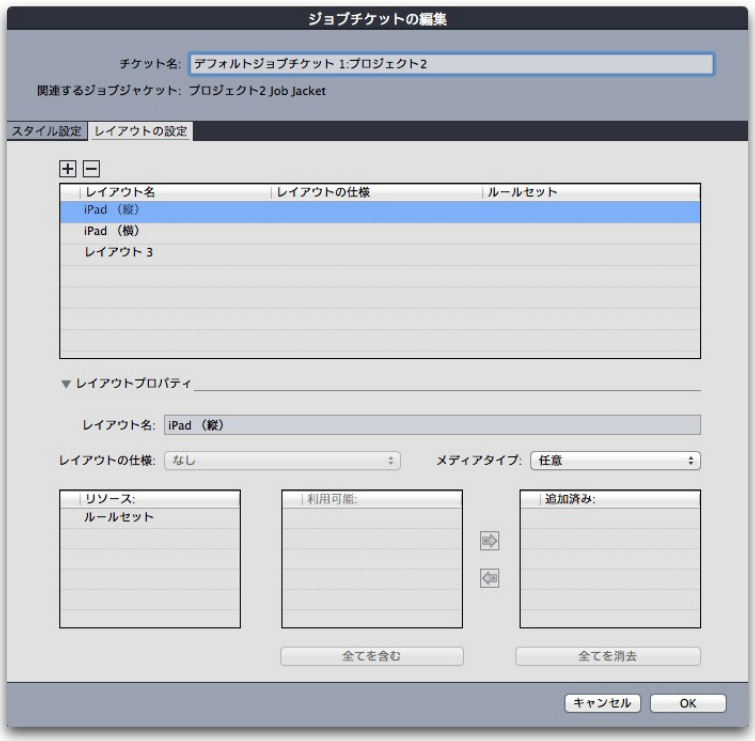
レイアウトの仕様をレイアウトに関連付けるには、ジョブチケットテンプレートからレイアウトを作成するか、またはレイアウトの仕様を既存のレイアウトのアクティブなジョブチケットに適用するという2つの方法があります。

通常は、実際のプロジェクトやレイアウトを作成する**前に**レイアウトの仕様をジョブジャケットファイルにあるレイアウト定義に追加します。レイアウトの仕様はリソースであるため、レイアウトの仕様は他のリソースと同じ方法でレイアウト定義に追加できます（「*リソースの使用：詳細設定モード*」を参照してください）。



特定のレイアウトの仕様に従うレイアウトを自動的に作成するようにジョブチケットテンプレートを構成するには、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用してレイアウトの仕様をレイアウト定義に関連付けます。

プロジェクトとレイアウトを作成したら、レイアウト作成者は**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を使用して、レイアウトの仕様をレイアウトのアクティブなジョブチケットに適用できます。レイアウトの仕様をアクティブなジョブチケットに追加するには、**レイアウトの設定**タブをクリックして、レイアウトリストにあるレイアウトを選択してから、**レイアウトの仕様**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。



ジョブチケットの編集ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を使用して、レイアウトの仕様をアクティブなプロジェクトのレイアウトに割り当てることができます。

ルールおよびルールセットの使用

ルールは、アクティブなレイアウトに対して行うテストで、実行するには**ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**を選択します。

1つのルールで1つの条件をテストします。たとえば、ルールによって、すべてのテキスト文字をオーバープリントすることを指定できます。ルールには、説明、ポリシー（その条件が必須、推奨、または禁止であるのかをレイアウト作成者に示します）、および問題が発生した場合の修正手順を含めることもできます。

ルールまたはルールセットを使用するときの標準的な手順は下記のとおりです。

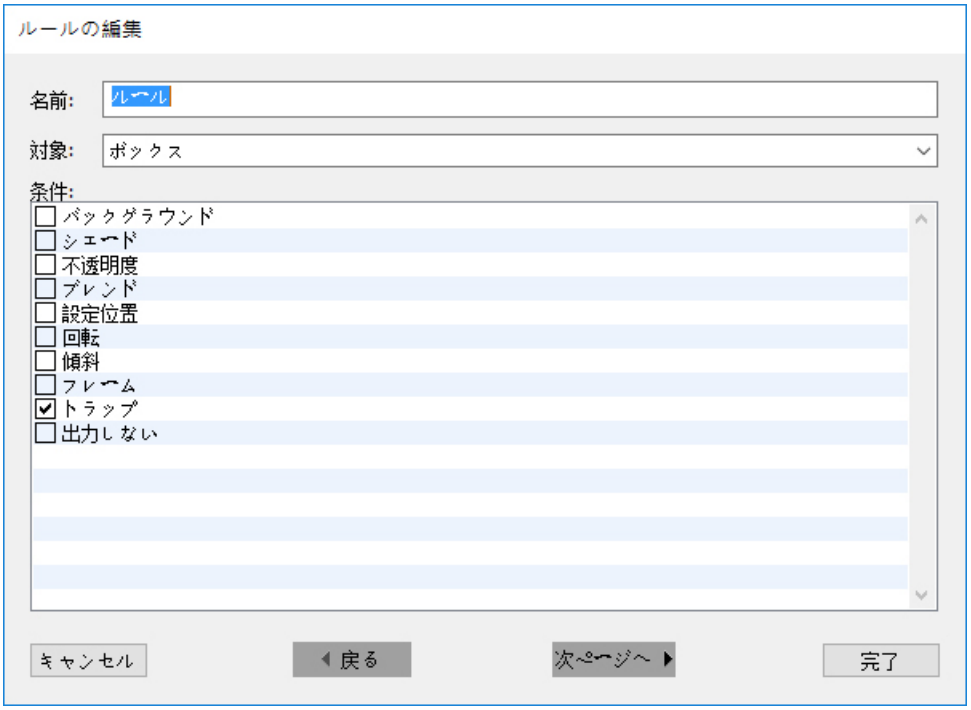
1. ルールを作成して（「*ルールの作成：詳細設定モード*」を参照）、それらをルールセットに追加します（「*ルールセットへのルールの追加：詳細設定モード*」を参照）。通常、この作業は出力担当者と共同作業をしているジョブの定義者によって行われます。
2. ジョブチケットテンプレートを使用して、ルールセットをレイアウトに関連付けます。「*レイアウトへのルールセットの適用*」を参照してください。通常、この作業はジョブの定義者によって行われます。
3. ルールセットを使用してレイアウトを評価します。「*レイアウトの評価*」を参照してください。通常、この作業はレイアウト作成者によって行われます。

上記の手順についての詳細は、下記のトピックで説明します。

ルールの作成：詳細設定モード

ルールを作成するには、まず、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスのルールリソースに移動します。「リソースの使用：詳細設定モード」を参照してください。その後、下記の手順に従ってルールウィザードを使用します。

1. **新規**ボタンをクリックします。**ルールの編集**ダイアログボックス（ルールウィザードの最初の画面）が表示されます。
2. **名前**フィールドにルールの名前を入力します。
3. ルールに適用するオブジェクトの種類を指定するには、**表題**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。表題一覧には、すべてのボックス、テキストボックス、画像ボックス、テキスト文字、ライン、テキストパス、画像およびフォントが含まれます。

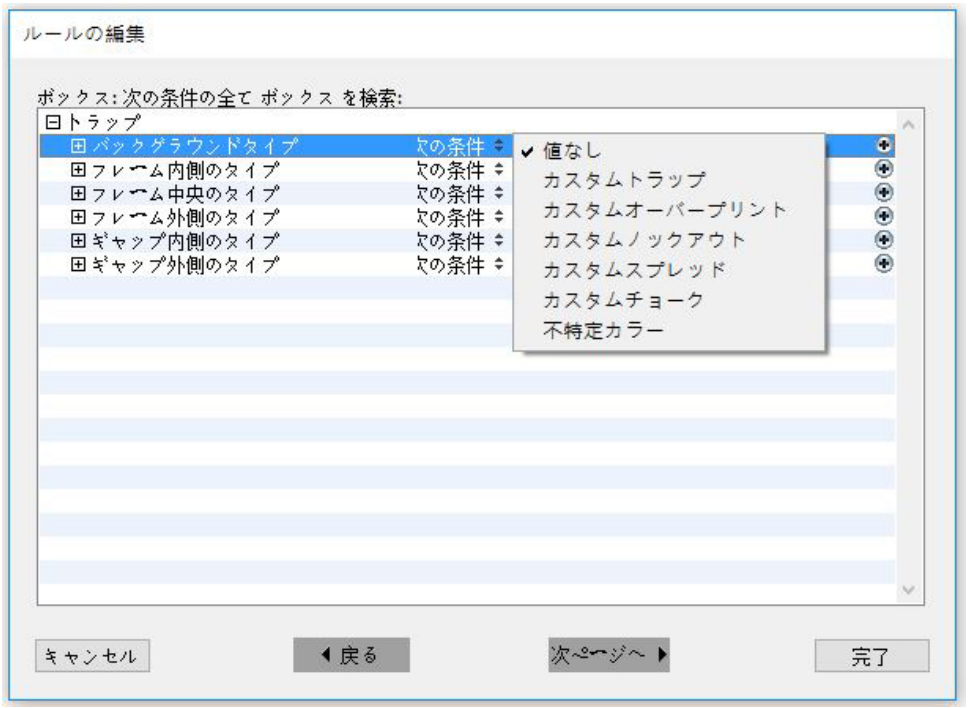


ルールの編集ダイアログボックスを使用して、ルールを作成します。

4. ルールによってチェックする内容を指定するには、**条件**領域で、オプションのチェックボックスをオンにします。使用できる条件は、選択した表題によって異なります。

   ルールに含める条件それぞれについて、この手順を繰り返します。条件は、論理AND演算子と組み合わせて使用します。たとえば、テキストボックスのバックグラウンドが青50%であることを指定するルールを作成するには、**テキストボックス**を選択して、**バックグラウンド**と**シェード**の両方のチェックボックスをオンにします。

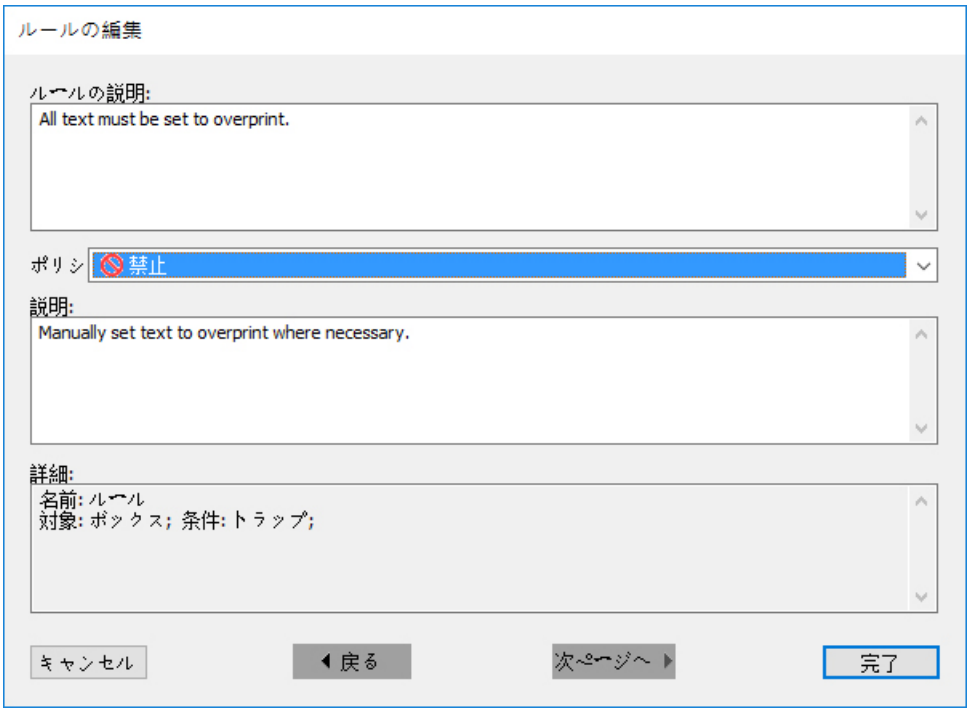
5. **次へ**をクリックして、ルールウィザードの次のダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、ルールを起動する条件（たとえば、"オーバープリントではない"または"10pt未満"）を指定します。各条件を設定するには、展開ボタンをクリックしてリスト内のアイテムを展開し、オプションを選択してフィールドに値を入力します。



ルールウィザードの2番目のダイアログボックスを使用して、ルールを設定します。

条件に⊕ボタンが付いている場合は、このボタンをクリックして条件にさらに節を追加できます。節は、論理OR演算子と組み合わせて使用します。たとえば、アイテムの色をCMYKカラーまたはスポットカラーにすることを指定するには、最初の行で**CMYK**をチェックするように設定してから、2行目を追加して、**スポットインキ**をチェックするように設定します。

6 **Next**をクリックして、ルールウィザードの3番目であり最後のダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスを使用して、ルールの**設定内容**、ルールに違反している場合にどのようなアイコンを表示するかを決定する**ポリシー**、および問題の修正に関する**説明**を指定します。**説明**に入力する情報は、ルールに違反している場合にレイアウト作成者が**レイアウトを評価**を選択すると表示されます。



ルールウィザードの3番目のダイアログボックスを使用して、ルール違反の場合の対応方法を管理します。

ルールセットへのルールの追加：詳細設定モード

ルールは、ルールの名前付きコレクションである**ルールセット**に含める必要があります。ジョブの定義者は、ジョブチケットテンプレートのレイアウト定義に1つ以上のルールセットを含めることができます。そのレイアウト定義を基準とするレイアウトで作業するレイアウト作成者は、それらのルールセットのルールを使用してレイアウトを評価できます（「*レイアウトの評価*」を参照してください）。ルールセットにルールを追加するには、下記の手順に従ってください。

1. **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を開きます。
2. ダイアログボックスにリストが1つだけ表示される場合は、**詳細設定**をクリックして**詳細設定**ペインを表示します。
3. ジョブジャケット構造を作成または選択します。
4. 右上のリストで**ルールセット**を選択します。
5. ルールセットを作成するには、**新規**ボタンをクリックします。**ルールセットの編集**ダイアログボックスが表示されます。



ルールセットの編集ダイアログボックスを使用して、ルールセットを編集します。

6 **名前**フィールドにルールセットの名前を入力します。

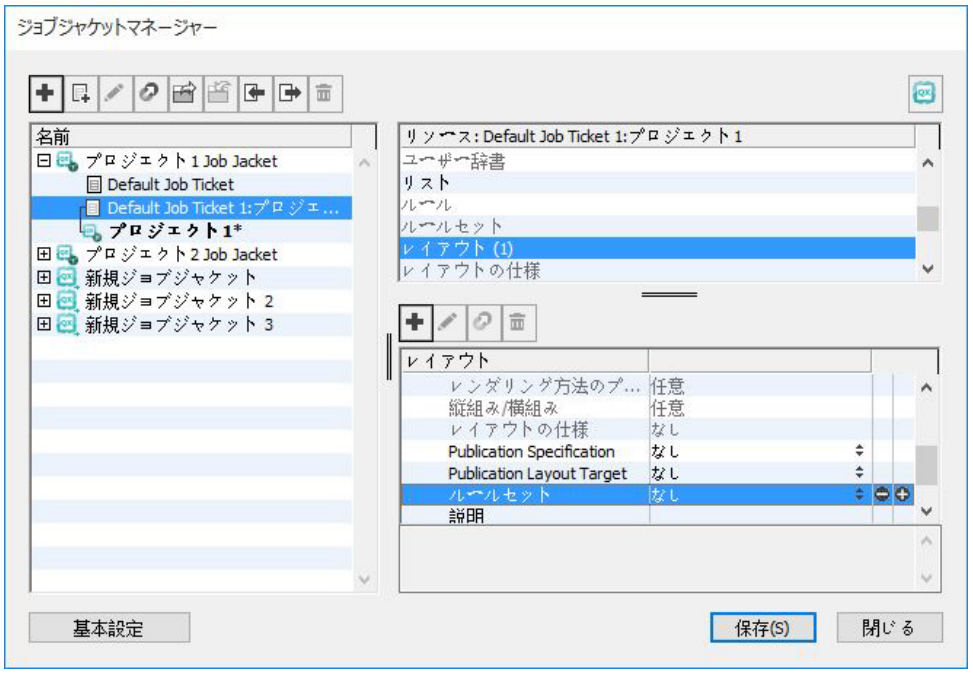
7 **利用可能**リストで必要なルールを選択してボタンをクリックするか、または**すべてを含む**をクリックして、**利用可能**リストのルールすべてをアクティブなルールセットに追加します。

8 **OK**をクリックします。

レイアウトへのルールセットの適用

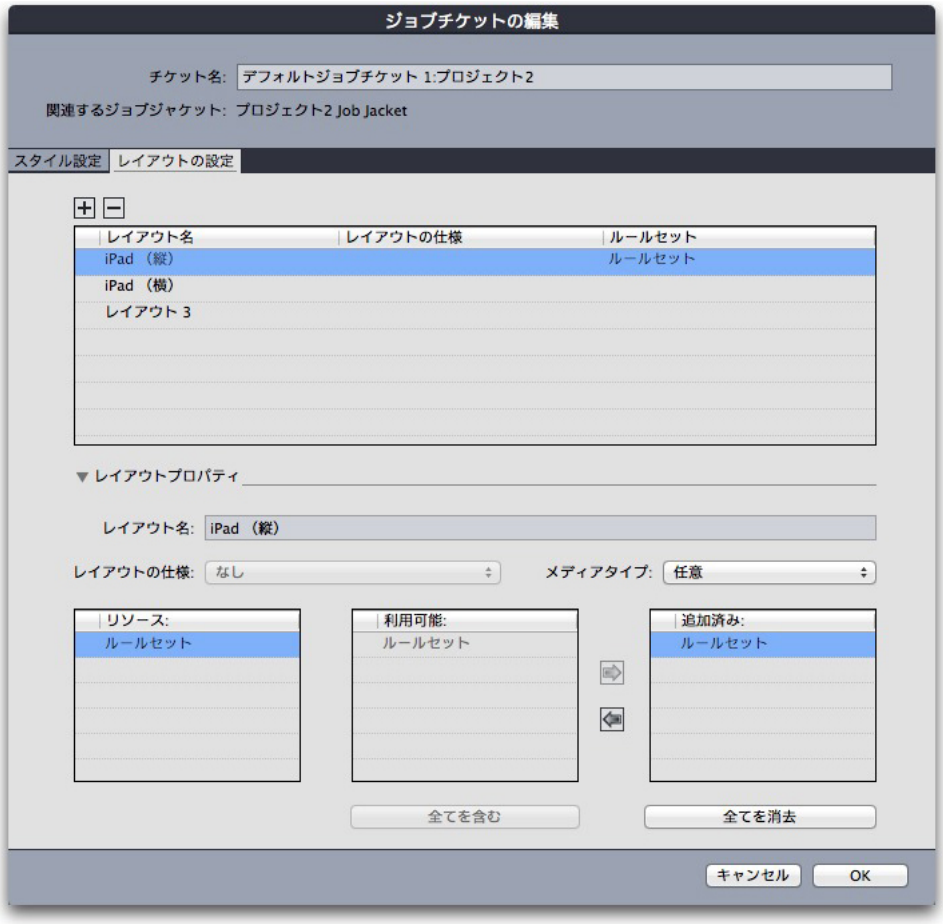
ルールセットがレイアウトのジョブチケットテンプレートインスタンスに関連付けられると、レイアウト作成者は、レイアウトをルールセットに対して評価できるようになります（「*レイアウトの評価*」を参照してください）。ルールセットをレイアウトに関連付けるには、下記の2つの方法があります。

通常は、実際のプロジェクトやレイアウトを作成する**前に**ルールセットをジョブジャケットファイルにあるレイアウト定義に追加します。ルールセットはリソースであるため、ルールセットは他のリソースと同じ方法でレイアウト定義に追加できます（「*リソースの使用：詳細設定モード*」を参照してください）。



レイアウトの作成後、すぐにルールセットをレイアウトで利用できるようにするには、**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを使用してルールセットをレイアウト定義に関連付けます。

プロジェクトとレイアウトをした**後で**、ルールセットをレイアウトに追加できるようになります。この方法についての詳細は、「*ジョブチケット内のリソースの使用：基本モード（Windowsのみ）*」を参照してください。



レイアウト作成者は、**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を使用して、ルールセットをアクティブなプロジェクトのレイアウトに割り当てることができます。

レイアウトの評価

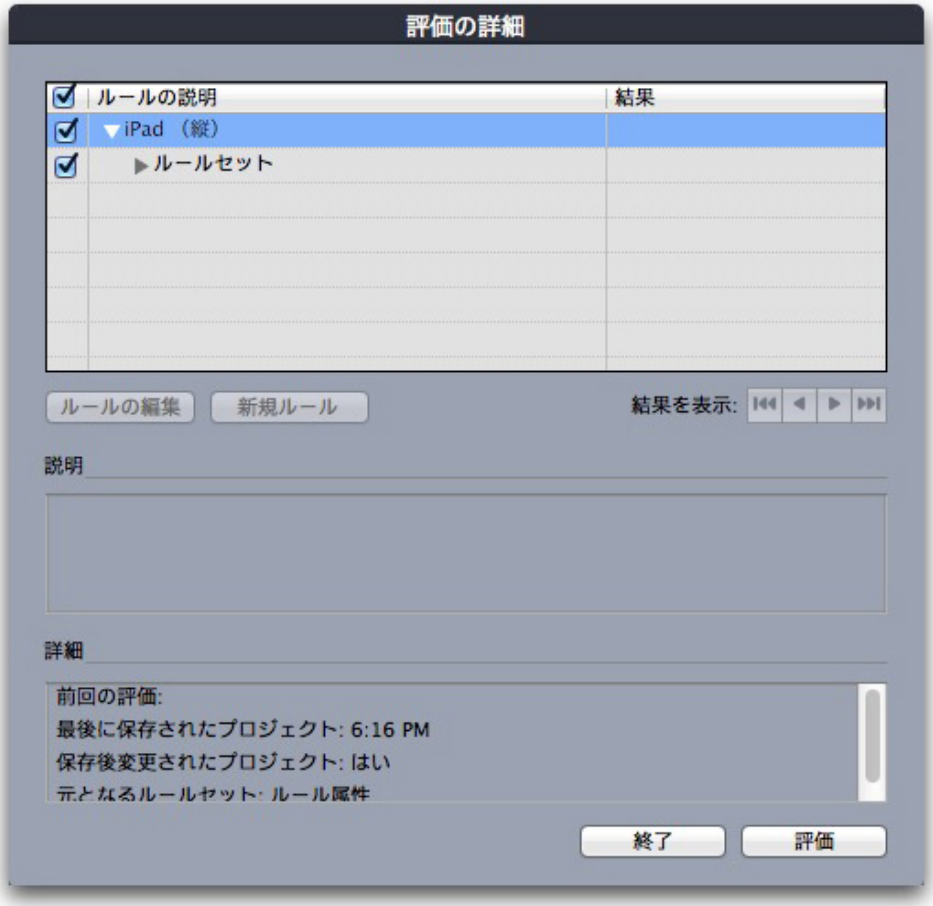
ルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様では、レイアウトがジョブの定義者によって作成された仕様を順守しているかどうかを評価するためのテストが用意されています。**レイアウトを評価**コマンドによって、これらのテストを実行して、違反の有無、違反している場合はその内容を特定できます。また、このコマンドは、レイアウト定義と照らし合わせて、レイアウトのメディアタイプ（印刷またはデジタル）およびカラーマネージメント設定を検証します。違反が特定されると、レイアウト作成者がそれにどう対処するかを決定します。

➡ レイアウトを評価する前に、プロジェクトが、アクティブなレイアウトのルールセットまたは出力仕様を定義しているジョブチケットに関連付けられていることを確認してください。

➡ **レイアウトを評価**機能の目的は、レイアウトの問題を明らかにし、その問題をどのように修正することができるかを示すことです。しかし、この機能では、レイアウト作者がジョブチケットに定義された仕様やルールに違反するような変更を行うことを防ぐことはできません。

レイアウトの表示については、下記の手順に従ってください。

1 **ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**を選択します。**レイアウトの評価**ダイアログボックスが表示され、適用可能なルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様が一覧表示されます。ルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様を展開してそのコンポーネントルールを確認するには、それぞれの横にある展開アイコンをクリックします。



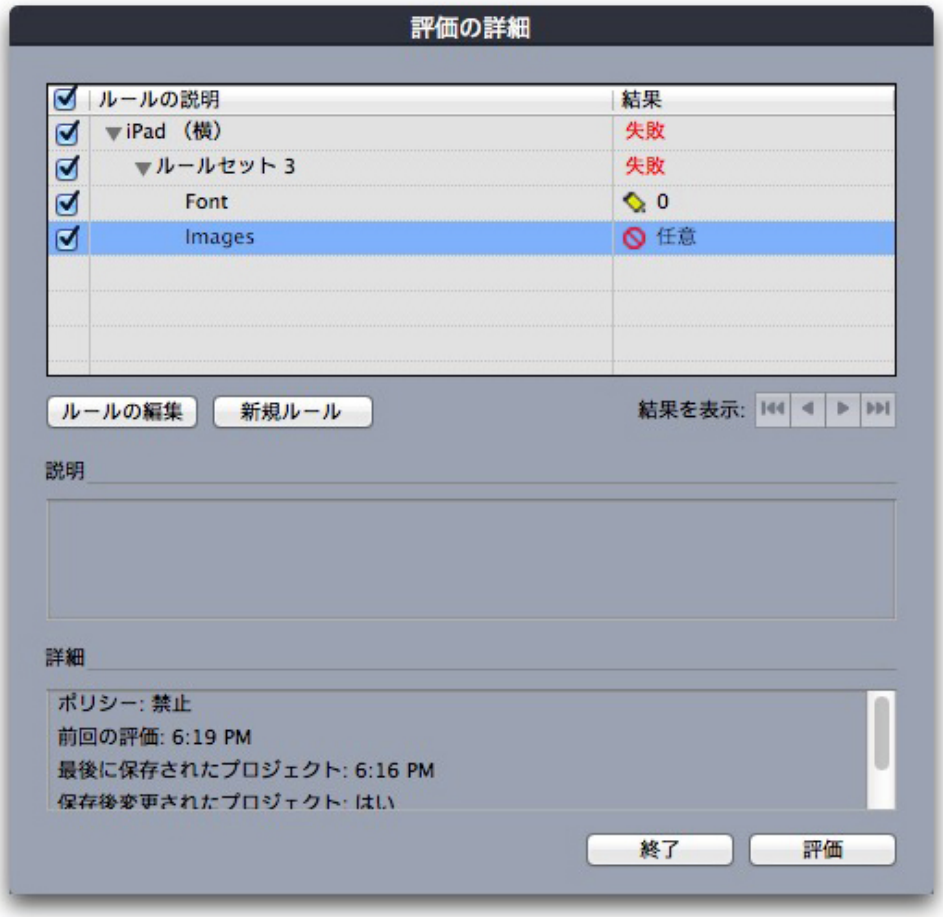
レイアウトの評価ダイアログボックスを使用して、アクティブなレイアウトをルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様と照らし合わせて評価します。

2 選択したルールを編集するには、ルール名をクリックして、**ルールの編集**ボタンをクリックします。ルールに対して行った変更はすべてジョブジャケットファイルに書き込まれ、そのジョブチケットを使用するほかのプロジェクトに適用されます。

3 個々のルールをチェックするように指定するには、各ルールの横にあるチェックボックスをオンにします。ルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様のすべてのルールをチェックするように指定するには、それぞれのルールセット、レイアウトの仕様、および出力仕様の名前の横にあるチェックボックスをオンにします。

4 オンにしたルールとアクティブなレイアウトを照合して評価するには、**評価**をクリックします。**結果**列が更新され、ドキュメントが各ルールチェックに合格したかどうかが表示されます。

5 違反しているルールの詳細を表示するには、ルールの名前をクリックして、**説明**ボックスと**詳細**ボックスを確認します。**説明**ボックスには、ルールの作成者によって書かれた説明が表示され、**詳細**ボックスには、プロジェクトに関する情報（前回の評価の後に変更されたかどうかなど）が表示されます。



レイアウトの評価ダイアログボックスには、合格したルールと違反しているルールが表示されます。

6 ルールに違反しているレイアウトの場所までスクロールするには、**結果を表示**ボタンをクリックします。これによって、ルール違反の修正が容易になります。

プロジェクトを開いたとき、プロジェクトを保存するとき、プロジェクトを閉じるとき、およびレイアウトを出力用に送信するときに、自動的に各レイアウトを評価するように設定できます。詳細は、「*環境設定 - アプリケーション - ジョブジャケット*」を参照してください。

ジョブジャケットのロック

2人が同時にリソースを編集しないようにするため、QuarkXPressは下記の条件の下、共有ジョブジャケットファイルをロックします。

- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトのユーザーが**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）を表示すると、QuarkXPressはそのジョブジャケットファイルをロックします。
- ユーザーが**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を表示すると、QuarkXPressは**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスに表示されているすべてのジョブジャケットファイルをロックします。

- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトのユーザーが、共有ジョブジャケットファイル内でリソースの作成、複製、編集、または削除を行うと、QuarkXPressはそのジョブジャケットファイルをロックします。たとえば、Taraが"Product List"ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトで作業しているときに、**編集 > カラー**を選択してプロジェクトのジョブチケットにあるカラーを変更しようとすると、QuarkXPressは"Product List"ジョブジャケットファイルにあるすべての共有リソースをロックして、Taraのみが変更できるようにします。

ジョブジャケットファイルがロックされている場合の制限事項

- そのジョブジャケットファイルにあるジョブチケットテンプレートで、プロジェクトは作成できません。
- ジョブジャケットファイルにプロジェクトはリンクできません。
- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクトの**ジョブチケットの編集**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > ジョブチケットの変更**）は表示できません。
- **ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）は表示できますが、ロックされたジョブジャケットファイルやその任意のジョブチケットは編集できません。
- ジョブジャケットファイルにある共有リソースは編集できません。たとえば、Taraが"Product List"ジョブジャケットファイルをロックしている場合に、Samuelが**編集 > カラー**を選択して、プロジェクトのジョブジャケットにあるカラーを変更しようとしても、Taraがジョブジャケットファイルをロック解除するまで、カラーは淡色表示され変更できません。
- ジョブジャケットファイルを共有するプロジェクト内で、レイアウトの追加や、既存レイアウトの名前の変更はできません。
- **レイアウトの評価**ダイアログボックス（**ファイル > ジョブジャケット > レイアウトを評価**）でルールを編集できません。

ロックされたジョブジャケットファイルは、以下に挙げる時点でロック解除されます。

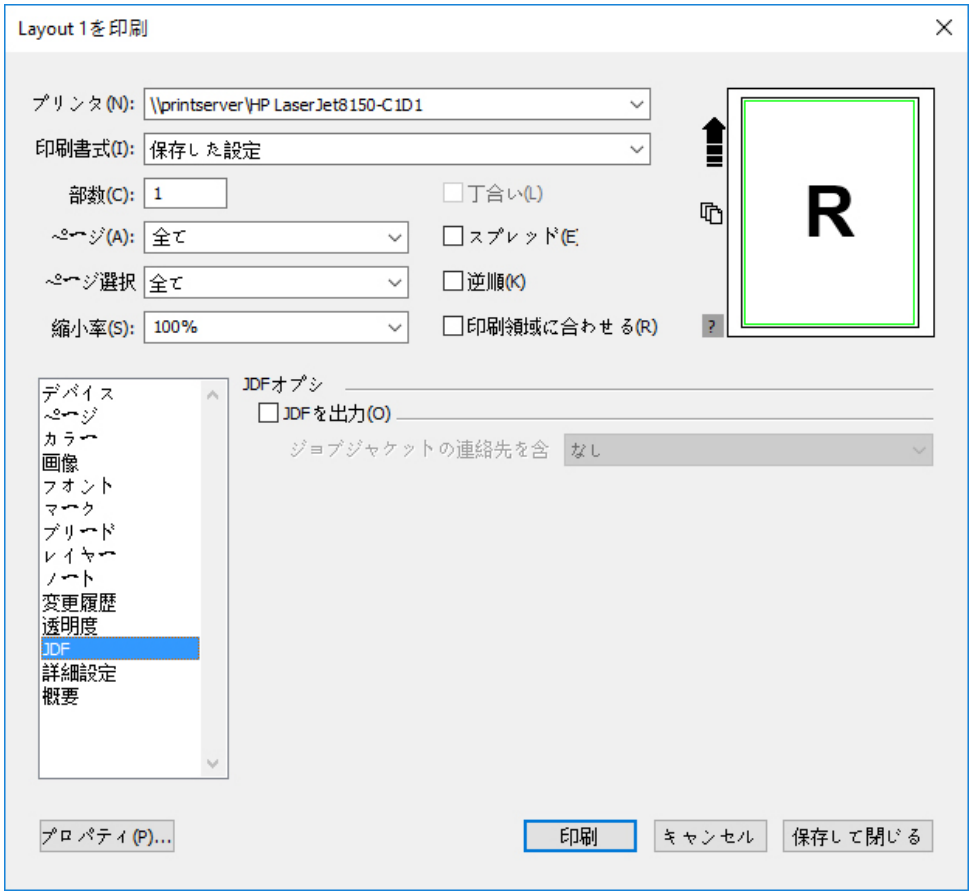
- ロックしたユーザーが**ジョブチケットの編集**ダイアログボックスを閉じたとき。
- ロックしたユーザーが**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを閉じたとき。
- ロックしたユーザーが、共有ジョブジャケットファイルにあるリソースの編集を完了したとき。上記例では、Taraが共有カラーの変更後、**カラー**ダイアログボックスで**保存**または**キャンセル**をクリックした場合が該当します。

ジョブジャケットのロックがあるため、必要な場合に限り**ジョブチケットの編集**および**ジョブジャケットマネジャー**ダイアログボックスを表示し、必要な作業を終えたらすぐに閉じることが重要です。

ジョブジャケットマネジャーダイアログボックス（**ユーティリティ**メニュー）を表示しても、プロジェクトに関連付けられているジョブジャケットファイルが編集できない場合は、そのジョブジャケットファイルは別のユーザーによってロックされていることがほとんどです。

JDF出力での印刷

出力用にプロジェクトを送信する場合に、JDFファイルを作成して出力ファイルの保存場所に保存するように指示できるようになりました。ただし、出力デバイスで直接印刷する場合、JDFファイルは作成されません。



JDF準拠のXMLファイル形式の出力時にジョブジャケット情報を含めるには、**印刷**ダイアログボックスの**JDF**ペインを使用します。

多言語の使用

QuarkXPressは、複数の言語設定で使用できます。言語設定でサポートされていれば、次の機能を使用できます。

- サポートされている**文字言語**を使用するプロジェクトを開いて編集する。文字言語とは、属性の1つで、テキストに適用してそのテキストで使用する自動ハイフンとスペルチェックのルールを指定することができます。文字言語は文字レベルで適用できます。そのため、たとえ1つの文に2つの言語の単語が含まれていても、すべての単語に対して正しくハイフネーションとスペルチェックを行うことができます。詳細は、「*文字言語の適用*」を参照してください。
- **（Windowsのみ）**ユーザーインターフェイスとキーボードコマンドを、サポートされている任意の **表示言語**に変更できます。表示言語とは、アプリケーションメニューやダイアログボックスで使用される言語のことです。表示言語はユーザーインターフェイスにのみ影響します。スペルチェックや自動ハイフンには影響しません。詳細は、「*表示言語の変更*」を参照してください。
- **（Mac OS Xのみ）**表示言語はインストール時に、OS言語に従って決定されます。UIの言語を変更するには、OS Xのシステム環境設定で表示言語を変更してから、QuarkXPressを再起動します。

QuarkXPressのすべての言語版で、CJK機能を使用するプロジェクトを開く、表示する、および出力することが可能です。ただし、CJK機能を使用するテキストは、CJK環境設定を有効にしているときのみ編集できます（**QuarkXPress／編集 > CJK**）。

文字言語の適用

文字言語属性は、スペルチェックに使用される辞書および自動ハイフンに使用されるルールと例外を決定します。複数の言語を使用するテキストのスペルをチェックする場合、各単語が、割り当てられた言語辞書を使用してチェックされます。複数の文字言語を使用するプロジェクトで自動ハイフンが有効な場合、各単語には、その言語の該当する自動ハイフンルールと例外ハイフンを使用してハイフネーションが行われます。

テキストに文字言語を適用するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ） 文字属性**ダイアログボックス（**スタイル**>**文字**）の**言語**ドロップダウンメニューを使用します。
- スタイルシートと、**メジャー**パレットの**文字／文字属性**ペインを使用します。

表示言語の変更

表示言語を指定するには、下記の操作を行ってください。

- **（Windowsのみ） 編集** > **表示言語**サブメニューからオプションを選択します。
- **（Mac OS Xのみ）**表示言語はインストール時に、OS言語に従って決定されます。UIの言語を変更するには、OS Xのシステム環境設定で表示言語を変更してから、QuarkXPressを再起動します。

メニュー、ダイアログボックス、およびパレットが選択した言語に変更されます。キーボードコマンドは表示言語に基づいています。

➡ 表示言語が、自動ハイフンとスペルチェックに影響を与えることはありません。

XTensionsソフトウェア

XTensionsモジュールを使用して、実行するほぼすべてのアクティビティを拡張するパレット、コマンド、ツール、およびメニューなどの機能を追加できます。

XTensionsモジュールの使用

QuarkXPressの機能を拡張するため、Quarkまたはサードパーティによって開発された追加のXTensionsソフトウェアをインストールできます。

多くのXTensionsには、2つの要素があります。1つはXTensionsモジュールの機能用のファイルで、もう1つはユーザーインターフェイス用のファイルです。ユーザーインターフェイスのモジュールの名前は、通常、最後が「UI」です。ユーザーインターフェイスのないXTensionsモジュールには、UIファイルは必要ありません。

XTensionsモジュールのインストール

QuarkXPressには、デフォルトのXTensionsモジュールのセットが同梱されています。また、Quarkまたはサードパーティによって開発されたその他のXTensionsソフトウェアをインストールすることもできます。

Mac OS X

QuarkXPress 2017は、**Mac OS X**用の「アプリバンドル」としてリリースされています。これを可能にするため、デフォルトXTensionsを含めたすべてのサポート用のフォルダは、、内蔵されているアプリバンドル内に移動されました。QuarkXPress 2017は、次の2つの場所から、サードパーティXTensionsを読み込みます。

- ~/Library/Application Support/Quark/QuarkXPress 2017/XTensions
- /Library/Application Support/Quark/QuarkXPress 2017/XTensions

XTensionsがメインライブラリパスに置かれている場合、すべてのユーザーがそのMac上でXTensionsを利用できます。ユーザーのライブラリパスに置かれている場合、そのユーザーのみがXTensionsを利用できます。同じXTensionsがこれらの両方の場所に存在する場合、ユーザーのライブラリの場所に存在する方が優先されます。

QuarkXPress 2017で読み込むには、いずれかのフォルダにXTensionsを置く必要があります。QuarkXPressアプリバンドルに変更を加えてはいけません。新しくインストールされたXTensionsモジュールは、次回の起動時に読み込まれます。

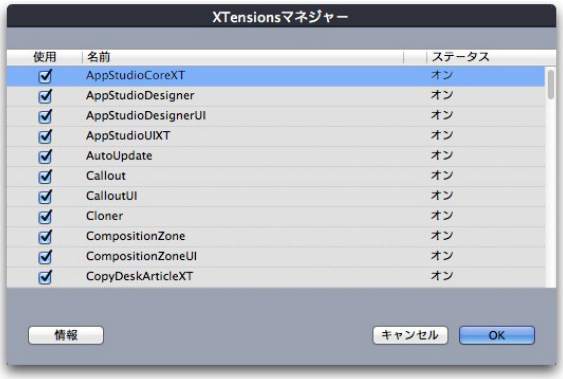
XTensions Disabledフォルダは、Mac用のQuarkXPress 2017では廃止予定だったため、サポートされなくなります。使用停止になったXTensionsは、次のファイルに記録されます。~/Library/Application Support/Quark/QuarkXPress 2017/XTSettings.plist.

Windows

XTensionsモジュールを**Windows**にインストールするには、アプリケーションフォルダ内のXTensionsフォルダにモジュールを配置します。新しくインストールされたXTensionsモジュールは、次回の起動時に読み込まれます。

XTensionsの有効化と無効化

メモリ不足のときに、またはトラブルシューティング時に、XTensionsモジュールを無効にする場合があります。XTensionsモジュールを有効化または無効化するには、まず、**補助 > XTensionsマネジャー**を選択し、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックスを表示します。



XTensionsマネジャーダイアログボックスを使用して、XTensionsモジュールを有効化および無効化できます。

モジュールを有効化するには、**使用する**コラムのモジュール名の横にあるボックスをオンにします。モジュールを無効化するには、このボックスをオフにします。この変更は、アプリケーションの次回起動時に適用されます。

XTensionsセットの使用 （Windowのみ）

XTensionsモジュールの特定のグループを頻繁に有効化および無効化する場合、XTensionsセットを作成して、これらのグループを簡単に切り替えることができます。

XTensionsグループを作成するには、まず、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックス（**補助**メニュー）を表示して、グループに含めるXTensionsモジュールを有効にします。次に、**新規保存**をクリックして、グループの名前を入力します。このグループに切り替える場合は、**XTensionsマネジャー**ダイアログボックスを表示し、**セット**ドロップダウンメニューからメニューそのグループの名前を選択します。

また、その他のユーザーとXTensionsセットを共有する場合には、**取り込み**および**書き出し**ボタンを使用して、XTensionsセットを取り込みおよび書き出しすることもできます。

環境設定

環境設定では、QuarkXPressのデフォルトの動作を制御します。

環境設定の理解

環境設定コマンド（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）を実行すると、**環境設定**ダイアログボックスが表示されます。**環境設定**ダイアログボックスにはいくつかのペインが含まれており、これらのペインでは、アプリケーションのさまざまな機能のデフォルト設定を指定できます。ペインを表示するには、左のリストから名前をクリックします。環境設定には下記の3種類があります。

- **アプリケーションの環境設定**はアプリケーションに適用され、プロジェクトすべての処理方法に影響します。
- **プロジェクトの環境設定**は、アクティブなプロジェクトのレイアウトすべてに影響します。ただし、プロジェクトが開かれていない状態でプロジェクトの環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規プロジェクトのデフォルト設定になります。
- **レイアウト環境設定**は、アクティブなレイアウトのみに影響します。ただし、プロジェクトが開かれていない状態でレイアウト環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規レイアウトのデフォルト設定になります。

その他のペインおよびオプションは、特定のXTensionsソフトウェアを読み込んだ場合に**環境設定**サブメニューに表示されます。

環境設定が一致しませんという警告

現在の環境設定ファイルにある設定とは異なるカーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、または例外ハイフンで前回保存したプロジェクトを開くと、**環境設定が一致しません**という警告が表示されます。プロジェクトの設定、または環境設定ファイルの設定を使用するオプションを選択できます。

- **XPress Preferencesを使用**をクリックすると、プロジェクトと一緒に保存された環境設定情報は無視され、すべてのレイアウトが環境設定ファイルにある環境設定に変更されます。異なる自動カーニングやトラッキングの情報、または例外ハイフンを使用すると、テキストがリフローする可能性があります。プロジェクトがアクティブであるときに行ったこれらの設定に対する変更は、プロジェクトと環境設定ファイルの両方に格納されます。**XPress Preferencesを使用**機能の利点は、カーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、例外ハイフンを他のプロジェクトと共有できることです。

- **プロジェクト設定値を使用**をクリックすると、プロジェクトは各レイアウトについて以前に指定された環境設定を保持します。テキストはリフローしません。プロジェクトがアクティブであるときに行われた、自動カーニング、トラッキング、または例外ハイフンの変更は、そのプロジェクトにのみ格納されます。テキストリフローの危険を伴わずにレイアウトを開いて印刷する場合に、プロジェクト設定値を使用の機能が便利です。

QuarkXPress環境設定への変更

QuarkXPress環境設定への変更は、以下の方法で処理します。

- **環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）でアプリケーション環境設定を変更すると、開いているプロジェクトの有無にかかわらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、開いているすべてのプロジェクト、および今後開くすべてのプロジェクトにただちに影響します。
- **XTensionsマネジャー**設定（**補助**メニュー）を変更すると、開いているプロジェクトの有無にかかわらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、QuarkXPressの再起動後にすべてのプロジェクトに影響します。
- **PPDマネジャー**設定（**補助**メニュー）を変更すると、開いているプロジェクトの有無にかかわらず、変更内容は環境設定ファイルに保存され、開いているすべてのプロジェクト、および今後開くすべてのプロジェクトにただちに影響します。
- プロジェクトを開いた状態で**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）でレイアウト環境設定を変更すると、アクティブなプロジェクトにのみ変更内容が保存されます。
- プロジェクトを開いた状態で別のユーザー辞書を選択すると、アクティブなプロジェクトにのみ変更内容が保存されます。
- 新規プロジェクトでカーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、例外ハイフンを変更すると、アクティブなプロジェクトと環境設定ファイルにこれらの変更が保存されます。

プロジェクトを開いて**環境設定が一致しません**警告が表示されたとき、**XPress Preferencesを使用**をクリックすると、カーニングテーブル情報、トラッキングテーブル情報、例外ハイフンは、そのプロジェクトと環境設定ファイルの両方に格納されます。

環境設定ファイルの内容

環境設定ファイルの内容は下記のとおりです。さまざまな環境設定の保存方法に応じて、リストは3つのグループに分かれます。

グループA

グループAには下記の情報が含まれています。

- カーニングテーブル（**編集 > カーニングペア**）
- トラッキングテーブル（**編集 > フォントトラッキングテーブル**）
- 例外ハイフン（**補助 > 例外ハイフン**）

プロジェクトが開かれていない状態でグループAの設定を変更すると、環境設定ファイルにその変更が保存され、以降作成されるすべてのプロジェクトで使用されます。

プロジェクトを開いて**環境設定が一致しません**という警告が表示され、**XPress Preferencesを使用**をクリックした場合、それ以後にグループAの設定を変更すると、その変更がプロジェクトと環境設定ファイルの両方に保存されます（**XPress Preferencesを使用**をクリックすると、プロジェクトの元のグループA設定は破棄されます）。

プロジェクトを開いて**環境設定が一致しません**という警告が表示され、**ドキュメント設定を保持**をクリックした場合、それ以後にグループAの設定を変更すると、その変更がプロジェクトのみに保存されます。

グループB

グループBには下記の情報が含まれています。

- デフォルトのスタイルシート、カラー、ダッシュとフレーム、リスト、条件付きスタイル、ぶらさがり文字、自動番号付き箇条書きとアウトラインスタイル、脚注スタイル、テキストシェーディングスタイル、フォントセット、文字組みセット、コールアウトスタイル、グリッドスタイル、ハイパーリンク、ハイフネーションと文字揃えの指定（**編集**メニュー）
- **環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**プロジェクト**ペインの設定
- デフォルトユーザー辞書のパスの情報：Windowsでは**補助 > ユーザー辞書**、Mac OS Xでは**補助 > 英文スペルチェック > ユーザー辞書**

プロジェクトが開かれていない状態でグループBの設定を変更すると、環境設定ファイルにその変更が保存され、以降作成されるすべてのプロジェクトで使用されます。プロジェクトが開いている状態でグループBの設定を変更すると、変更はそのプロジェクトのみに保存されます。

グループC

グループCには下記の情報が含まれています。

- 出力スタイル（**編集 > 出力スタイル**）
- **XTensionsマネジャー**ダイアログボックスの設定
- **PPDマネジャー**ダイアログボックスの設定（**補助**メニュー）
- **環境設定**ダイアログボックスの**アプリケーション**ペインの設定（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）

グループCの設定を変更すると、プロジェクトが開いているかどうかに関係なく、変更は常に環境設定に保存されます。

アプリケーションの環境設定

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**アプリケーション**ペインにあるコントロールは、プロジェクトの表示方法と保存方法など、QuarkXPressでの全プロジェクトの使用方法に影響します。これらの設定は、アプリケーションに保存され、プロジェクトには保存されません。

環境設定 - アプリケーション - 表示

すべてのプロジェクトで、アプリケーションのペーストボードや他の要素を画面上でどのように表示するかを指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**表示**ペインを使用します。

ペーストボード領域には次の設定があります。

- 印刷レイアウト上のページやスプレッドのいずれかの側にあるペーストボードの幅を指定するには、**ペーストボードの幅**フィールドを使用します。ペーストボードの幅は、レイアウトの幅に対する割合として測定されます。
- ペーストボードのカラーを指定するには、**カラー**コントロールを使用します。
- アクティブなスプレッドのペーストボードを別な色で表示するには、**ペーストボードのカラーを変えて、アクティブなスプレッドを表示します。**をオンにし、対応する**カラー**コントロールでカラーを選択します。
- トリムビューモード（**表示 > トリムビュー**）のときにペーストボードを別のカラーで表示するには、**トリムビューのペーストボードのカラー**をオンにして、対応する**カラー**コントロールでカラーを選択します。

表示領域には次の設定があります。

- テキストボックスを編集中だけ一時的に不透明にするには、**テキストボックス編集時の不透明化**をオンにします。
- **（Windowsのみ）**画面上でドキュメントの表示が最良になるようモニターを調整するには、**解像度(DPI)**フィールドを使用します。
- **モニタープロファイル**ドロップダウンメニューでモニターに応じたプロファイルを選択するか、**自動**を選択します。プロファイルは、QuarkXPressアプリケーションフォルダ内の"Profiles"フォルダに配置できますカラーマネージメント環境設定の詳細は、「*環境設定 - レイアウト - カラーマネジャー*」を参照してください。
- **（Windowsのみ）**カラーテーマの環境設定を使用して、QuarkXPressの外観を変更できます。

環境設定 - アプリケーション - カラーテーマ

➡ Mac OS Xのみ。

QuarkXPressのカラーテーマを指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集** メニュー）の**カラーテーマ**ペインを使用します。

カラーテーマドロップダウンメニューを使用して既存のカラーテーマを選択するか、アイコンをクリックして既存のカラーテーマを複製します。

各カテゴリのカラーを指定するには、**カラー**コントロールを使用します。

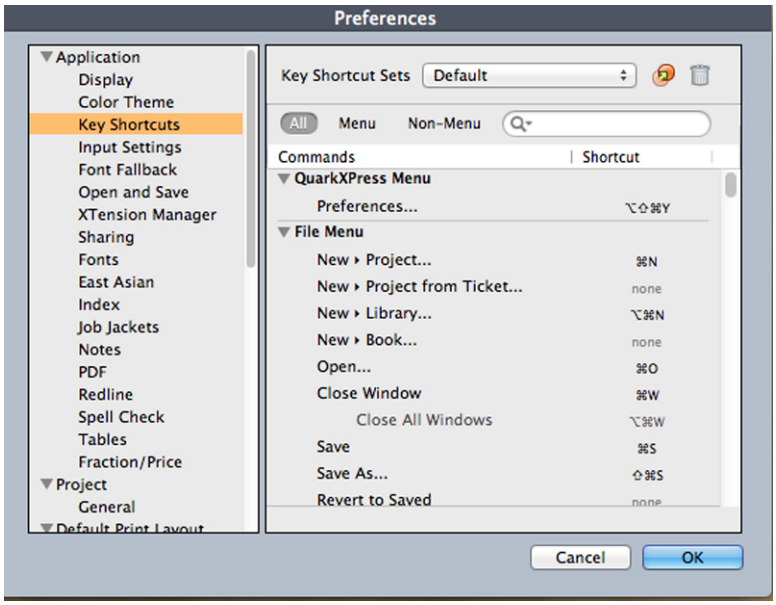
環境設定 - アプリケーション - キーショートカット

➡ Mac OS Xのみ。

QuarkXPressのキーショートカットをカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集** メニュー）の**キーショートカット**ペインを使用します。

キーショートカット設定ドロップダウンメニューを使用して既存のキーショートカット設定を選択するか、アイコンをクリックして既存の設定を複製します。

すべてのキーショートカットを表示するには**すべて**を、 QuarkXPress メニューアイテムに関連するショートカットのみを表示するには**メニュー**を、メニューアイテムに関連しないすべてのショートカットを表示するには**メニュー以外**を選択します。



環境設定ダイアログボックスの**キーショートカット**ペイン

環境設定 - アプリケーション - 入力設定

スクロールとその他の「オンザフライ」アクションをカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**入力設定**ペインを使用します。

- レイアウトをスクロールできるスピード、および画面上でのレイアウトの更新方法を指定するには、**スクロール**領域を使用します。（**Windowsのみ**）レイアウトウィンドウのスクロールバーのスクロールボックスをドラッグするとき、同時にレイアウト表示が更新されるようにするには、**ライブスクロール**をオンにします。スクロール時の**ライブスクロール**のオン／オフを切り替えるには、スクロールボックスをドラッグするときにAltキーを押します。
- **引用符とダッシュ**領域を使用して、直線引用符を引用符の自動変換に、連続ダッシュをスマートダッシュに代替します。**引用符の自動変換**および**スマートダッシュ**ボックスをオンにしているとき、直線引用符を入力すると、引用符の自動変換環境設定で選択されているものに置き換えられ、連続するダッシュはスマートダッシュに置き換えられます。
  テキストをインポートするとき、**テキストの取り込み**ダイアログで**引用符を変換**オプションがオンになっていると、直線引用符と連続ダッシュは、選択されている引用符の自動変換およびスマートダッシュに置き換えられます。この代替機能は、**環境設定**ダイアログで**引用符の自動変換**および**スマートダッシュ**チェックボックスがオンになっているかどうかに依存しません。

  二重引用符ドロップダウンメニューを使用して、テキストの入力時、およびテキストの取り込み時に、直線型二重引用符を置き換える、二重引用符の自動変換を選択します。

一重引用符ドロップダウンメニューを使用して、テキストの入力時、およびテキストの取り込み時に、直線型一重引用符を置き換える、二重引用符の自動変換を選択します。

- ハイフンとカンマは、印刷レイアウトの**印刷**ダイアログボックスの**ページ**フィールドで、連続、および不連続の範囲を指定するときに使用する、デフォルトのセパレータです。**セクション**ダイアログボックス（**ページ**メニュー）にページ番号の一部としてカンマやハイフンを指定した場合、ここでデフォルトのセパレータを変更する必要があります。たとえば、ページ番号が「A-1、A-2」である場合、**ページ**フィールドでハイフンを使用して範囲を指定することはできません。セパレータを編集するには、**連続**および**非連続**フィールドに新しい文字を入力します。
- ***Mac OS Xのみ：*** Controlキーでの操作内容を制御するには、**キーを押すと有効**領域を使用します。Controlキーで一時的に**ズーム**ツールを起動するには、**ズーム**をクリックします。Controlキーでコンテキストメニューを起動するには、**コンテキストメニュー**をクリックします（Control+Shiftキーを押すと、選択されていない機能が実行されます）。
- ***Windowsのみ：*** ライブリドローのクリックとドラッグとの間の遅延を指定するには、**ライブリドロードラッグまでのディレイ**フィールドを使用します。ライブリドローには、アイテムの移動によって起こる回り込みの変化がリアルタイムに表示されます。このオプションがオンになっている場合、サイズ変更ハンドルが表示されなくなるまでマウスボタンを押してからアイテムをドラッグすることによって、ライブリドローをアクティブにできます。
- ストーリーのテキストのカット、コピー、ペーストを、メニューやキーボードコマンドではなくマウスを使用して行うには、**テキストのドラッグ＆ドロップ**をオンにします。Mac OS Xでは、ドラッグを開始する前にControl+Commandを押すことで、この機能を一時的にオンにできます。カットしてペーストするには、テキストを選択してから、新しい位置にドラッグします。コピーしてペーストするには、テキストを選択してから、Shiftを押しながら新しい位置にドラッグします。
- **（Windowsのみ）**ツールやパレットアイコンの上にポインタを置いたときにアイコンの名前を表示するには、**ツール・ヘルプ**をオンにします。
- 新規画像をボックスに取り込むとき、倍率や他の属性を画像ボックスにデフォルトで「記憶させる」には、**画像ボックス属性を保持**をオンにします。
- **（Windowsのみ）**デフォルトでは、CJK文字を入力するためシステムで提供されているウィンドウに入力するのと同じ方法で、テキストボックスにテキストを直接入力できます。この機能を無効にするには、**インライン入力**をオフにします。
- **（Windowsのみ） OTFプリンタフォント検索を行う**をオンにすると、**ファイル**メニューの**印刷**ダイアログボックスにある**フォント**ペインで**プリンタの検索**をクリックしたとき、OpenTypeフォントも検索されるようになります。

環境設定 - アプリケーション - 未定義キャラクタの代替

不足フォントが使用されるプロジェクトをアプリケーションで開いたときの動作を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkXPress／**編集**メニュー）の**未定義キャラクタの代替**ペインを使用します。

未定義キャラクタの代替機能を有効にするには、**未定義キャラクタの代替**をオンにします。この機能をアクティブにすると、現在のフォントでは表示できない文字が使用された場合、その文字を表示できるフォントの検索を試みます。

アプリケーションでプロジェクトを開いたときに不足フォントが見つかると、このペインの環境設定で使用する代替フォントを決定します。

➡ 文字を既存のプロジェクトに追加しようとして、その文字がフォントでサポートされていない場合、その文字を表示できるシステムのフォントが検索されます。

アクティブストーリーで使用する適切なフォントをアプリケーションに検索させるには、**検索**をオンにします。特定の範囲に検索を限定するには、**最後**をオンにして、**段落**フィールドに数値を入力します。フォントが見つからない場合に、ストーリー全体にまで検索を広げるには、**アクティブストーリー**をオンにします。

他のフォントが見つからない場合に使用する代替フォントを指定するには（**検索**設定を考慮して）、**スクリプト／言語**リストに表示される各スクリプト／言語の**フォント**コラムでオプションを選択します。

レイアウトをトンボ付きで印刷するときに、スラグラインで使用するフォントを指定するには、**ページ情報フォント**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

環境設定 - アプリケーション - 取り消し

➡ Windowsのみ。

複数取り消しオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkXPress／**編集**メニュー）の**取り消し**ペインを使用します。

- **やり直し**コマンドを呼び出すキーボードコマンドを指定するには、**「やり直し」キー**ドロップダウンメニューを使用します。
- 取り消し履歴に格納できるアクションの回数を指定するには、**「取り消し/やり直し」アクションの最大回数**フィールドを使用します。取り消し履歴には100回までの操作が保持されます。

環境設定 - アプリケーション - 開く＆保存

アプリケーションでのバックアップの保存と実行の方法をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkXPress／**編集**メニュー）の**開く＆保存**ペインを使用します。

- システムまたは電力の障害から作業を保護するには、**自動保存**をオンにします。このオプションをオンにすると、プロジェクトフォルダにある一時ファイルに変更内容が、指定した時間間隔で自動的に記録されます。 **間隔（分）**フィールドに間隔を分単位で入力します。指定できる最短の時間間隔は、0.25分です。**自動保存**がオンの場合、デフォルト設定は**5分間隔**です。手動で保存（**ファイル > 保存**）しない限り、元のファイルは上書きされません。システムが中断された後にプロジェクトを開くと、プロジェクトが最後に自動保存されたバージョンに復元される旨の警告が表示されます。
- **自動バックアップ**をオンにして、**リビジョンを保持**フィールドに値を入力すると、1プロジェクトにつき最大100のリビジョンを保持できます。手動で保存（**ファイル > 保存**）するたびに、以前に手動で保存したバージョンが、指定した**対象**フォルダにコピーされます。**自動バックアップ**のデフォルト設定はオフです。プロジェクトと同じフォルダにリビジョンを保存するには、**プロジェクトフォルダ**をクリックします。リビジョンを保存する別のフォルダを選択するには、**その他のフォルダ**をクリッ

クしてから**参照**をクリックします。各バックアップを表す連番がファイル名に追加されます。最新リビジョン（5個のうちの5番目など）が作成されると、フォルダで最も古いリビジョンが削除されます。保存フォルダからバックアップを取得するには、リビジョンファイルを開きます。

- プロジェクトウィンドウのサイズ、位置、縦横比をアプリケーションへ自動的に保存するには、**レイアウト位置の保存**をオンにします。
- **検索／置換履歴**セクションで、検索／置換履歴のインスタンスの最大数を指定します。最大値は20です。デフォルト値は10です。値を0に設定した場合、検索/置換履歴は保存されません。
- Unicode以外のテキストの文字の表示方法を指定するには、**Unicode以外のサポート**の下にある**エンコーディング**ドロップダウンメニューでオプションを選択します。

環境設定 - アプリケーション - XTensionsマネジャー

XTensionsマネジャーダイアログボックスが表示されるタイミングを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**XTensionsマネジャー**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - 共有

新規共有コンテンツのデフォルトオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**共有**ペインを使用します。これらのオプションの意味についての詳細は、「*コンテンツの共有および同期*」を参照してください。

共有コンテンツスペースに複数アイテムを追加するときに、このペインで指定したオプションを常に使用するには、**複数のアイテムを共有する際ダイアログを表示しない**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - フォント

以下の環境設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**フォント**ペインを使用します。

各フォント名を、それに対応するフォントで表示するには、**フォントプレビュー**領域で、**フォントメニューに表示**をオンにします。

最近使用したフォント領域で、QuarkXPressのすべてのフォントメニューに表示する**最近使用したフォントの数**を指定します。デフォルトは5で、指定できる最大数は20です。最近使用したフォントのリストは、QuarkXPressを終了して再起動しても保持されます。最近使用したフォントのリストを無効にするには、この数を0に設定します。

フォントマッピング領域で、下記の操作を実行できます。

- **不足フォント**ダイアログボックスを非表示にするには、**不足フォントダイアログを表示しない**をオンにします。置換フォントが定義されていない不足フォントを含むプロジェクトを開いたときの動作を、このチェックボックスの下にあるラジオボタンで決定します。
- デフォルトの置換フォントを指定するには、**デフォルト置換フォントを指定します**をオンにし、**欧文**および**CJK**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- 中国語（繁体字）エンコーディングのUDA／VDA（ユーザ定義領域／ベンダー定義領域）範囲にある文字を強調表示して、該当文字を視覚的に確認できるようにするには、**繁体字ベンダ-が定義した文字範囲を強調表示**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - テキストのハイライト

➡ Windowsのみ。

下記の環境設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**テキストのハイライト**ペインを使用します。

不足フォントのバックグラウンド領域で、下記の操作を行ってください。

- **カラー**コントロールを使用してカラーを指定します。
- **不透明度**コントロールを使用して、不透明度の値を0%（完全に透明）から100%（完全に不透明）の間で指定します。

環境設定 - アプリケーション - 東アジア

東アジア言語の機能を有効にするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**CJK**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - ダイナミックガイドのカラー

➡ Windowsでのみ使用できます。 **Mac OS X**では、**環境設定**ダイアログボックスの**カラーテーマ**ペインを使用して、ダイナミックガイドのカラーを設定できます。

（Windowsのみ） 環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／Edit**メニュー）の**ダイナミックガイドのカラー**ペインを使用して、ダイナミックガイドの種類ごとにカラーを指定できます。

カラーコントロールを使用して、ダイナミックガイドの下記の種類ごとにカラーを指定します。

- ダイナミックガイド：アイテムの中央
- ダイナミックガイド：ページの中央
- ダイナミックガイド：アイテムのエッジ
- ダイナミックガイド：同じ寸法
- ダイナミックガイド：同じ間隔

環境設定 - アプリケーション - ファイルリスト

➡ Windowsでのみ使用できます。 **Mac OS X**では、OSレベルの環境設定が継承されます。

ファイルメニューで、最近開いて保存したファイルの表示をカスタマイズするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ファイルリスト**ペインを使用します。

- 最近開いて保存したファイルの表示数を指定するには、**最近表示したファイルの数**フィールドを使用します。
- 最近開いたファイルのリストを表示するメニューを選択するには、**ファイルリストの位置**領域を使用します。

- アルファベット順でファイルリストを表示するには、**名前をアルファベット順に**をオンにします。
- ファイルの位置を表示するには、**フルパス表示**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - デフォルトパス

（Windowsのみ） 開く、**保存／新規保存**、**取り込み**コマンド用に、ファイルシステムまたはネットワーク上のデフォルトの場所を定義するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**デフォルトパス**ペインを使用します。

環境設定 — アプリケーション — 索引

索引ペインで、作成した索引マーカの色および約物をカスタマイズできます。

索引マーカの色を変更するには、**索引マーカの色**ボタンをクリックします。

作成した索引の約物の方法を制御するには、**区切りキャラクタ**設定を使用します。

- 索引の各見出し語の直後に挿入する約物を指定するには、**見出し語の後**フィールドに文字を入力します。
- 索引のページ番号のリストを分割する単語や約物を指定するには、**ページ番号の間**フィールドに文字を入力します。
- 索引のページ範囲を分割する単語または約物を指定するには、**ページ範囲の間**フィールドに文字を入力します。
- クロス参照の前に使用される単語または約物（通常は、ピリオド、セミコロン、またはスペース）を指定するには、**クロス参照の前**フィールドに文字を入力します。
- クロス参照に適用する文字スタイルシートを選択するには、**クロス参照スタイル**ドロップダウンリストを使用します。このスタイルシートは、「参照」、「参照（追加）」、および「以下を参照」にのみ適用され、見出し語や参照には適用されません。
- 追い込み索引の見出し語の間や、階層付き索引の段落の最後に挿入される単語や約物を指定するには、**見出し語の項目間**フィールドに文字を入力します。

環境設定 - アプリケーション - ジョブジャケット

自動レイアウト評価用の環境設定を指定し、ジョブジャケットファイルのデフォルトの場所を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**ジョブジャケット**ペインを使用します。

QuarkXPressが**ファイル > レイアウトの評価**コマンドを自動的に実行するタイミングを制御するには、**レイアウトの評価**領域にあるオプションを使用します。たとえば、**出力の際に**をオンにすると、出力用に送信する前に、常にレイアウトを評価するように設定できます。オプションは下記のとおりです。

- **オープン時**
- **保存時**
- **出力時**
- **終了時**

ジョブジャケットファイルのデフォルトの保存先を指定するには、**ロケーション**領域にあるオプションを使用します。デフォルトの場所にジョブジャケットファイルを保存するには、**共有ジャケット用のデフォルトパスを使用**をクリックします。デフォルトの場所は、 **Mac OS X**では"Documents"フォルダ、Windowsでは"My Documents"フォルダです。

環境設定 - アプリケーション - ノート

ノートの表示方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**）の**ノート**ペインを使用します。

付箋の属性セクションで、下記の操作を行います。

- **フォント**ドロップダウンメニューでフォントを選択します。
- **サイズ**ドロップダウンメニューでフォントサイズを選択します。
- **行送り**フィールドを使用して、行間隔を指定します。
- **バックグラウンド**セクションの**カラー**ドロップダウンメニューを使用して、バックグラウンドカラーを指定します。

環境設定 - アプリケーション - PDF

PDF書き出しの環境設定を行うには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**PDF**ペインを使用します。

PDFファイルの作成方法を指定するには、**PDFのワークフロー**領域にあるオプションを使用します。

- QuarkXPressにPDFファイルを作成させるには、**PDF作成**をクリックします。
- PDFマーク付きでPostScriptファイルを書き出すには、**PostScriptファイルを一時作成**をクリックします。このオプションを使用することで、他社製PDF作成アプリケーションを使用してPDFファイルを作成できます。このオプションをオンにすると、**監視フォルダを使用**もオンにして、PostScriptファイルが保存されるディレクトリ（PDF作成ツールの自動処理用）を指定できます。**監視フォルダを使用**をオンにしないと、PostScriptファイルの保存場所を指定するように指示されます。

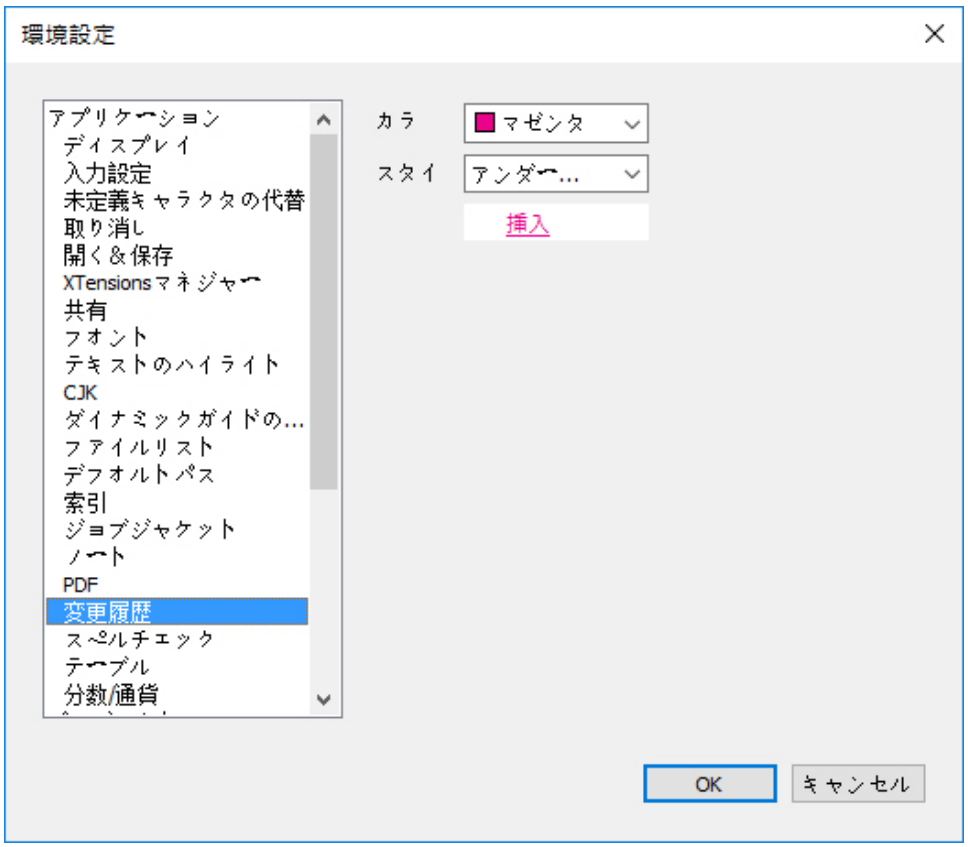
（Mac OS Xのみ）：PDF書き出し処理中に、大きなPDFファイルのレンダリングに使用するための仮想メモリの容量を増やすには、**仮想メモリ**フィールドの値を増やします。

書き出されたPDFファイルのデフォルト名を選択するには、**デフォルト名**ドロップダウンメニューを使用します。

PDFファイル作成中のエラー（ある場合）のログを作成するには、**ログエラー**をオンにします。このオプションがオンの場合、**ログフォルダの使用**をオンにしてログファイルの保存先を指定します。**ログフォルダの使用**がオフの場合、書き出されたPDFファイルと同じディレクトリにログファイルが作成されます。

環境設定 - アプリケーション - 変更履歴

挿入されたテキストと削除されたテキストの表示方法を設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**変更履歴**ペインを使用します。



環境設定ダイアログボックスの**変更履歴**ペイン

WYSIWYG表示領域で、下記の操作を行います。

- **カラー**コントロールを使用してカラーを指定します。
- **スタイル**ドロップダウンを使用してスタイルを指定します。

環境設定 - アプリケーション - スペルチェック

スペルチェックのオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkXPress／**編集**メニュー）の**スペルチェック**ペインを使用します。

スペルチェックの例外領域で、以下の操作を実行します。

- スペルチェックから数字を含む単語を除外するには、**数字を含む単語を無視**をオンにします。
- スペルチェックから電子メールアドレスおよびURLを除外するには、**インターネットおよびファイルアドレスを無視**をオンにします。
- スペルチェックの際、ドイツ言語に適用されている大文字小文字の区別および単語間スペースの確認を無効にするには、**ドイツ語で大文字化を無視**をオンにします。ドイツ言語とは、ドイツ語、スイスドイツ語、ドイツ語（新正書法）、スイスドイツ語（新正書法）です。
- スペルチェックの際、非ドイツ言語に適用されている大文字小文字の区別および単語間スペースの確認を無効にするには、**ドイツ語以外で大文字化を無視**をオンにします。

ドイツ語文字でタグ付けされたテキストをスペルチェックする場合にドイツ語（新正書法）を使用するには、**新正書法の適用される言語**領域にある**ドイツ語（新正書法2006年版）を使用**をオンにします。

環境設定 - アプリケーション - テーブル

アンカーテーブルに自動分割を許可機能を有効／無効にするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**テーブル**ペインを使用します。

環境設定 - アプリケーション - 分数／通貨

分数と通貨を自動的にフォーマットするには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**分数/通貨**ペインを使用します。

- **分子**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にして分子が配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントで分子の高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントで分子の幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。
- **分母**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にして分母が配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントで分母の高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントで分母の幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。
- **スラッシュ**領域では、**オフセット**オプションにより、ベースラインを基準にしてスラッシュが配置されます。**縦比率**オプションでは、フォントサイズのパーセントでスラッシュの高さを指定します。**横比率**オプションでは、通常の文字幅のパーセントでスラッシュの幅を指定します。**カーニング値**オプションで、文字とスラッシュ間の間隔を調整します。**スタイル > 文字飾り > 分数の作成**を選択した場合に、タイプサイズを保持するには、**分数用スラッシュ**をオンにします。
- **通貨**領域では、**¢ にアンダーラインを適用**オプションでセント記号（¢）の下にアンダーラインを配置し、**Radixの削除**オプションで通貨から小数点やカンマ記号を削除します。

プロジェクトの環境設定

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**プロジェクト**ペインは、アクティブなプロジェクトのレイアウトすべてに影響します。ただし、プロジェクトが開かれていない状態でプロジェクトの環境設定を変更すると、新しい環境設定がすべての新規プロジェクトのデフォルト設定になります。

環境設定 - プロジェクト - 一般

自動画像取込み、単独レイアウトモード、OpenTypeカーニング（OpenTypeフォントの場合）のデフォルト設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**一般**ペインで、**プロジェクト**バージョンを使用します。

レイアウトを最後に開いてから変更された画像をアプリケーションで自動的にアップデートするかどうかを設定するには、**自動画像取込み**ドロップダウンメニューを使用します。

- **自動画像取込み**機能を有効にするには、**オン**を選択します。プロジェクトを開くと、変更済みの画像が自動的に再度取り込まれます。

- **自動画像取込み**機能を無効にするには、**オフ**を選択します。
- アプリケーションで変更済み画像を取り込む前に警告を表示するには、**確認する**をクリックします。

プロジェクトが開かれていない状態で**単独レイアウトモード**をオンにすると、**新規プロジェクト**ダイアログボックスの**単独レイアウトモード**チェックボックスが自動的にオンになります。

OpenTypeフォントのデフォルトのカーニング値を有効にするには、**OpenTypeのカーニング情報を使用**をオンにします。OpenTypeカーニングがアクティブな場合、そのカーニングは、OpenTypeフォントの**カーニングエディタ**（**補助**メニュー）で指定したすべてのカーニングよりも優先されます。

混合カラーテキストでOpenType変換を許可するをオンにすると、ユーザーが混合カラーテキストに対してOpenType変換を適用できるようになります。

出力ですべてのクロス参照を同期するをオンにすると、プロジェクトを出力するとき、すべてのクロス参照がQuarkXPressによって自動的に同期されます。

クロス参照へのローカルな変更を保持するをオンにすると、クロス参照テキストに加えられたすべてのローカルな変更は、出力時の同期で保持されます。

全角文字のOpenTypeカーニングを無効にするには、**全角文字をカーニングしない**をオンにします。

➡ このオプションはCJK設定でのみ利用できます。

レイアウト環境設定

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集 > 環境設定**）の**レイアウト**ペインの設定は、テキストオーバーフロー時にページを自動挿入するかどうか、およびカラーのトラップ方法など、特定のQuarkXPress機能でのドキュメントの使用方法に影響します。

環境設定 - レイアウト - 一般

環境設定ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**一般**ペインで**レイアウト**バージョンを使用すると、ガイドの吸着距離やハイパーリンクおよびアンカーの色など、ページレイアウトのさまざまなデフォルト設定を指定できます。

表示領域で、下記の操作を行ってください。

- **グリークテキスト(<)**チェックボックスをオンにしてフィールドに値を入力すると、「グリーキング」によりQuarkXPressの画面の再描画速度が上がります。グリーキングとは、指定したサイズよりも小さなテキストの代わりにグレイのバーを表示する処理のことです。グリーキングは印刷や書き出しには影響しません。テキストのグリーキングは表示率の影響を受けます。
- **画像グリーキング**チェックボックスをオンにすると、取り込んだ画像をQuarkXPressにグレイのボックスで表示できます。グリーキングされた画像を含むボックスを選択すると、画像が普通に表示されます。このチェックボックスはデフォルトでオフになっています。

アンカーアイコンおよびハイパーリンクの色を選択するには、**ハイパーリンク**領域を使用します。ハイパーリンクアイコンとアンカーアイコンのカラーは両方とも、印刷およびデジタルレイアウトで使用できます。

マスターページを適用した場合にマスターアイテムの動作を制御するには、**マスターページアイテム**領域を使用します。新しいマスターページは、次のいずれかの場合に常にレイアウトページに適用されます。（1）マスターページのアイコンを**レイアウト**パレットのマスターペー領域から**レイアウト**パレット（**ウィンドウ > レイアウト表示**）のレイアウトページアイコンへドラッグ＆ドロップした場合、（2）**レイアウト**パレットを使用してレイアウトページに適用されたマスターページを削除した場合、または（3）見開きページレイアウトの奇数ページを追加、削除、または移動した場合。

- 新しいマスターページが適用されたときに現在のレイアウトページに変更済みのマスターアイテムを残す場合、**変更箇所保持**をクリックします。保持されるアイテムはマスターアイテムではなくなります。
- 新しいマスターページが適用されたときに現在のレイアウトページに変更済みのマスターアイテムを削除する場合、**変更箇所消去**をクリックします。

フレームをテキストボックスおよび画像ボックスの内側と外側のどちらに配置するかを指定するには、**フレーム**領域を使用します。

- **内側**をクリックすると、テキストとフレームの距離がボックスの**テキストとの間隔**（**アイテム > 設定**）の値により決まります。フレームを画像ボックスの内側に配置すると、そのフレームが画像と重なります。
- **外側**をクリックすると、フレームがボックスの外側に配置され、ボックスの幅と高さが大きくなります。フレームのサイズがボックスまたはペーストボードの制限を超えないようにする必要があります。

CJK文字のジャスティフィケーションを許可をチェックすると、H&Jに指定されているEA Punct、Han、Kana／Hangul／ZhuYinのCJKテキストカテゴリのジャスティフィケーション設定が有効になります。

印刷レイアウトのみ：自動テキストボックス、または（自動テキストボックスを含むマスターページに関連付けられたページの）連続するテキストボックスからテキストがはみ出さないようにするために、ページを自動的に挿入するかどうかを決定するには、**自動ページ挿入**オプションを使用します。ドロップダウンメニューからもページを挿入するかどうかを指定できます。

環境設定 - レイアウト - 単位

レイアウトルーラーおよび**メジャー**パレットのデフォルトの単位を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**単位**ペインを使用します。

- レイアウトウィンドウの上と左に沿って表示されるルーラーの基準単位を指定するには、**水平方向**および**垂直方向**ドロップダウンメニューを使用します。**水平方向**は上のルーラーに対応し、**垂直方向**は左のルーラーに対応します。
- **メジャー**パレットのデフォルトの**X**座標や**Y**座標を含むその他いくつかのユーザーインターフェイスの縦横比は、これら2つのドロップダウンメニューにより決まります。フォントのサイズ、フレームの幅、行送り、線の幅などは、選択した単位に関係なくQuarkXPressにより自動的にポイント単位に変換されます。

- 72ポイント／インチのデフォルト値を上書きするには、**ポイント/インチ**フィールドを使用します。QuarkXPressでは、このフィールドの値をすべてのポイントおよびパイカとポイント／インチ変換およびパイカ／インチ変換の単位の基本として使用します。DTPのポイント／インチ変換の基準は72です。ただし、大部分の組版用の金属製ルーラーで使用されていた従来の組版基準は、約72.27または72.307ポイント／インチ（範囲は60～80pt、基準単位はポイント、最小増分値は0.001）です。
- シセロからセンチメートルへの変換値を標準の2.1967（範囲は2～3c、基準単位はシセロ、最小増分値は0.001）とは異なる値に指定するには、**シセロ/cm**フィールドを使用します。
- 水平方向のルーラーの増分値を**ページ**ごとにゼロから繰り返すか、**スプレッド**全体を通じて続けるかを指定するには、**ルーラー適用範囲**ボタンを使用します。この設定によりフィールドに表示されるアイテムの座標が決まります。デフォルトのオプションは**ページ**です。
- 新規レイアウトのデフォルトの単位を設定するには、**単位**ドロップダウンメニューを使用します。

環境設定 - レイアウト - 段落

さまざまな段落レベルの設定を制御するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**段落**ペインを使用します。

行間隔を自動的に設定するには、**行送りの自動設定**機能を使用します。**段落設定**ダイアログボックス（**スタイル > 行送り**）の**行送り**フィールドに「auto」または「0」を入力すると、この設定を段落に適用できます。行送りが絶対的な設定になっている段落（すべての行で行間隔が等しい段落）とは異なり、行送りが自動設定されている段落の場合、フォントやフォントサイズが同じ段落内で混在している場合、行間隔の異なる行が含まれている場合があります。

行送りの自動設定では、行送りの基本値から始まります。この基本値は、自動設定の行送りの行とその上の行で使用するフォントに組み込まれたアセントおよびディセントの値を検証することにより、QuarkXPressで計算されます。ただし、この基本値の計算で最も大きな要素となるのは、ユーザーが指定するテキストサイズ（**スタイル > サイズ**）です。最後に、**行送りの自動設定**フィールドでユーザーが指定した値を行送りの基本値に加算すると、行送りの合計値が算出されます。

行送りの自動設定をパーセントで指定するには、0%から100%までの値を1%刻みで入力します。この値により、テキストの2行間の行送りが次のように決定されます。上の行の最大フォントサイズに、このパーセントの値を乗算します。その結果を、2行間の行送りの自動設定の基本値に追加します。特定のフォントのデザインによってプロセスが複雑になる場合もありますが、単純化した例を次に示します。10ポイントのテキストで、スタイル設定を一貫して「標準」フォントにし、**行送りの自動設定**を20%に設定した場合、行送りは12ポイントとなります（10ポイント + [10ポイントの20%] = 12ポイント）。行送りの自動設定を増分値で指定するには、値の前にプラス記号（+）またはマイナス記号（-）を付けて入力します。範囲は-63ポイントから+63ポイントまでで、単位は任意です。「+5」と入力すると、5ポイントの行送りが行送りの自動設定の基本値に追加されます。「+5 mm」と入力すると、5ミリメートル追加されます。

列またはボックスで障害物の直下にあるテキスト行の配置を制御するには、**行送り値の保持**チェックボックスを使用します。**行送り値の保持**チェックボックスをオンにすると、行のベースラインは適用されている行送り値に従って配置されます。**行送り値の保持**

チェックボックスをオフにすると、行のアセントは障害物または適用されている回り込み値（**アイテム > 回り込み**）の下に隣接します。

グリッド固定のベース領域では、下記の操作を行えます。

- 文字のアセンダーおよびディセンダーに基づいてテキストをグリッドに固定するには、**アセントおよびディセント**をクリックします。
- 文字の仮想ボディのサイズに基づいてグリッドにテキストを固定するには、**フォントサイズ（仮想ボディ）**をクリックします。

例外ハイフン辞書で対応する見出し語が見つからない場合に、QuarkXPressが段落の自動ハイフネーションに使用する方法を指定するには、**自動ハイフン**リストの言語ごとに、**自動ハイフン**領域の**方法**ドロップダウンメニューを使用します。ここで選択する設定は、**自動ハイフン**（**編集 > H&J**）が有効な段落のみに影響します。

  - バージョン3.1以前のQuarkXPressに組み込まれているアルゴリズムを使用してハイフネーションを実行するには、**標準**を選択します。
  - **拡張**および**拡張、3.3互換**オプションは、いずれかの言語について、これらのハイフネーションのいずれかが適用されているレガシープロジェクトを、QuarkXPress 2017で開いたときのみ利用できます。新規プロジェクトでは、このオプションは利用できません。
- **Extended 2**では、Dieckmannの例外リソースとアルゴリズムをハイフネーションに使用します。このオプションを母言語で使用可能な場合、これがQuarkXPressで作成されたプロジェクトのデフォルト方式となります。

環境設定 - レイアウト - 文字設定

新規共有コンテンツのデフォルトオプションを設定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**共有**ペインを使用します。QuarkXPressが上付きや下付きの字形などの組版スタイルを構成する方法を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**文字設定**ペインを使用します。

- 上付き文字の配置と縮小率（サイズ）を制御するには、**上付き字形**領域を使用します。**オフセット**値で、上付き文字がベースラインよりどれだけ下に配置されるかを指定します。**オフセット**値は、フォントサイズに対するパーセントで測定されます。デフォルト値は33%です。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズに対するパーセントで表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナによって指定された通常の文字の幅に対するパーセントで表されます。両方の縮小率のデフォルト値は60%です（範囲は0～100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- 下付き文字の配置と縮小率（サイズ）を制御するには、**下付き字形**領域を使用します。**オフセット**値で、下付き文字がベースラインよりどれだけ上に配置されるかを指定します。**オフセット**値は、フォントサイズに対するパーセントで測定されます。デフォルト値は33%です。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズに対するパーセントで表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナによって指定された通常の文字の幅に対するパーセントで表されます。両方の縮小率のデフォルト値は100%です（範囲は0～100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- **スモールキャップス**タイプスタイルが適用されている文字の倍率を制御するには、**スモールキャップス**領域を使用します。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。

フォントサイズに対するパーセントで表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナによって指定された通常の文字の幅に対するパーセントで表されます。両方の縮小率のデフォルト値は75%です（範囲は0～100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。

- 肩文字の縮小率を制御するには、**肩文字**領域を使用します。**縦比率**値で、文字の縦サイズを指定します。フォントサイズに対するパーセントで表されます。**横比率**値で、横幅を指定します。フォントデザイナによって指定された通常の文字の幅に対するパーセントで表されます。両方の縮小率のデフォルト値は60%です（範囲は0～100%、測定はパーセント方式、最小単位は0.1）。
- フォントに組み込まれた合字を使用するには、**合字**領域を使用します。合字とは、特定の複数文字を組み合わせて単一字形にする組版手法です。大抵のフォントには、「f」とそれに続く「i」、「f」とそれに続く「l」のための合字が含まれています。**カーニング(>)で分割**フィールドで、合字への組み合わせが行われるカーニングとトラッキングの上限値（単位は1/200 emスペース）を指定できます。たとえば、大きなトラッキング値を含む見出しに合字が含まれることはありません。デフォルト値は1です（範囲は0～10、測定方法は0.005（1/200）全角スペース、最小単位は0.001）。「office」や「waffle」など、「ffi」と「ffl」にある2番目の2文字が合字に組み合わされないようにするには、**"ffi"または"ffl"は使用しない**をオンにします。従来のタイプセッティングシステムによく見られるこれらの組み合わせの3文字合字は、Mac OS X用にデザインされたフォントでは標準化されていないため、3文字のうちの2文字のみを組み合わせるのではなく、3文字すべてを別々にしておくことを望む組版作成者もいます。多くのPostScriptフォントには「ffi」および「ffl」合字はありませんが、ほとんどのOpenTypeフォントにはあります。このチェックボックスはデフォルトでオフになっています。
- 文字間隔を制御するために、ほとんどのフォントに組み込まれているカーニングテーブルを使用するには、**自動カーニング(>)**をオンにします。**自動カーニング(>)**フィールドで、自動カーニングを使用する必要があるポイントサイズの下限を指定できます。**自動カーニング(>)**機能には、選択したフォントの**トラッキング値**ダイアログボックス（**補助 > トラッキングの編集**）で指定する、カスタムトラッキング情報も実装されています。このオプションはデフォルトでオンになっていて、4ポイントのしきい値が設定されています（範囲は0～72ポイント、測定方法はインチ、ポイント、cmなど、最小単位は0.001）。
- テキストのポイントサイズに等しいemスペース（たとえば、24ポイントのテキストでは24ポイントのemスペース）を指定するには、**標準emスペース**をオンにします。**標準emスペース**がオフの場合、現在のフォントで2つのゼロの幅がemスペースの幅として使用されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。Option+スペースキー／Ctrl+Shift+6を押して、テキストに全角スペースを挿入できます。
- フレックススペース幅のデフォルト値50%を変更するには、**フレックススペース幅**フィールドを使用します。改行のあるフレックススペースを作成するには、Option+Shift+スペースキー／Ctrl+Shift+5を押します。改行のないフレックススペースを作成するには、Command+Option+Shift+スペースキー／Ctrl+Alt+Shift+5を押します。**フレックススペース幅**の値は、指定されたフォントとフォントサイズの通常のenスペースに対するパーセントで表されます（範囲は0～400%、測定はパーセント単位、最小単位は0.1）。

- オールキャップス文字飾りが適用されているアクセント付き文字にアクセント記号を含めるかどうかを指定するには、**オールキャップスのアクセント記号**チェックボックスを使用します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- 中国語、日本語、または韓国語の文字と隣接する欧文文字との間にデフォルトで含める間隔の大きさを指定するには、**CJK／欧文間スペース**フィールドを使用します。

環境設定 - レイアウト - ツール

ズームツールおよび**アイテム**ツールのデフォルトの特性を指定したり、アイテム作成ツールで作成されたアイテムのデフォルト設定を行うには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkXPress／**編集**メニュー）の**ツール**ペインを使用します。

Windows

- **アイテム**ツールのオプションを構成するには、**アイテム**ツールを選択してから**設定**をクリックします。**アイテム**ツールによりアイテムを少しずつ動かすためのピクセル数を制御するには、**Shiftキーを使って少しずつ増分**領域を使用します。ボックスをダブルクリックしたときの動作を決定するには、**ボックスをダブルクリックしたときのアクション**の下にあるラジオボタンを使用します。**アイテム**ツールから適切なコンテンツツールに切り替えるか、**設定**ダイアログボックスを開くかを選択できます。
- **ズーム**ツールの表示変更の範囲と増分を制御するには、**ズーム**ツールを選択してから**設定**をクリックします。
- **テキストコンテンツ**および**画像コンテンツ**ツールのドラッグオプションを構成するには、この2つが結合したコンテンツツールを選択して**設定**をクリックします。選択したコンテンツツールを使用してドラッグしたときに新規ボックスを作成するには、**ボックスを作成**をクリックします。選択したコンテンツツールを使用してドラッグしたときにボックスを選択するには、**ボックスを選択**をクリックします。
- 1つ以上の関連するアイテム作成ツールで作成されたアイテムのデフォルトの属性を変更するには、ツールを選択してから**設定**をクリックします。
- ツールの環境設定を変更していて、その環境設定をデフォルトに戻したい場合は、ツールをリストから選択して**復元**をクリックします。複数のツールの環境設定を変更していて、それらすべてのツールの環境設定をデフォルトに戻すには、**すべて復元**をクリックします。

Mac OS X

レイアウトを行うツールのデフォルトの環境設定は、ボックスから直接設定できます。ツールの環境設定を行うには、希望するようにボックスを設定してから、**編集 > 選択内容からツールの環境設定を設定**を使用して、ボックスの属性をツールの環境設定に適用します。**編集 > ツールの環境設定をデフォルトに復元**を使用すると、ツールの環境設定をデフォルトに戻すことができます。

環境設定 - レイアウト - ガイドとグリッド

ガイドやデザイングリッドのさまざまなデフォルト設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（QuarkXPress／**編集**メニュー）の**ガイドとグリッド**ペインを使用します。

ガイド吸着距離フィールドでは、6ピクセルのデフォルトの吸着距離を変更できます。**ガイドへの吸着**チェックボックス（**表示**メニュー）をオンにすると、この距離でオブジェクトがページガイドに吸着します（範囲は1〜216、基準単位はピクセル、最小増分値は1です）。

ガイド領域で、下記の操作を行ってください。

- デフォルトのマージンとガイドの色を指定するには、**マージンの色**ボタンと**ガイドの色**ボタンを使用します。
- ルーラーガイドおよびページガイドをページアイテムの前後どちらに配置するかを指定するには、**コンテンツの前**または**コンテンツの後ろ**をクリックします。

ページグリッド領域で、下記の操作を行ってください。

- マスターページグリッドとテキストボックスグリッドを表示できるズームの最小倍率を制御するには、**ズーム表示倍率**フィールドに値を入力します。
- マスターページグリッドをページアイテムの前後どちらに配置するかを指定するには、**コンテンツの前**または**コンテンツの後ろ**をクリックします。**コンテンツの前**をクリックすると、マスターページグリッドをガイドの前後どちらに配置するかも指定できます。

環境設定 - レイアウト - カラーマネジャー

すべての機器で一貫した表示や出力を行えるように色を定義するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**カラーマネジャー**ペインを使用します。

ソースオプション領域で、下記の操作を行ってください。

- **ソースセットアップ**ドロップダウンメニューを使用して、画像のソースカラースペースとQuarkXPressで使用する色を指定します。
- **ウィンドウ**メニューの**プロファイル情報**コマンドと**画像の取り込み**ダイアログボックスの**カラーマネージメント**タブを有効にするには、**画像プロファイルへのアクセスを可能にする**チェックボックスをオンにします。このオプションにより、プロファイルに関する情報を表示できます。

印刷レイアウトのみ： 表示 > 出力のプルーフサブメニューを使用するとき、レイアウトがどのように表示されるかを指定するには、**ソフトプルーフ**領域で下記のオプションを使用してください。

- デフォルトのプルーフ出力セットアップを指定するには、**出力のプルーフ**ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
- ソフトプルーフのレンダリング方法を指定するには、**レンダリング方法**ドロップダウンリストからオプションを選択します。**視覚的**を選択すると、すべての色がターゲットの範囲内に収まるように、ソースの範囲内ですべての色を調整します。**相対的な色域を維持**を選択すると、ソースとターゲットの両方の範囲内の色が維持されます。唯一変更されるソースカラーは、ターゲットの範囲内に収まらないソースカラーです。**彩度**を選択すると、ソースカラーの彩度を考慮して、ターゲットの範囲で相対的な彩度が同じ色に変更します。**絶対的な色域を維持**を選択すると、ソースとターゲットの両方の範囲内の色が維持されます。ターゲットの範囲外の色は、白紙に印刷されたときの外観に合わせて調整されます。**ソースによる定義**では、すべ

ての色および画像に対してソースのセットアップで定義したレンダリング方法を使用します。

印刷レイアウトのみ： ベクトルEPS/PDFファイル領域で、下記の操作を行ってください。

- 取り込んだEPSおよびPDFファイルでベクトルコンテンツの色を管理するには、**新規のベクトルEPS/PDFをカラー管理する**チェックボックスをオンにします。この環境設定は、このチェックボックスをオンにしてから取り込まれたEPSおよびPDFファイルのみに適用されます。
- アクティブなプロジェクトで既に取り込まれているEPSおよびPDFファイルでベクトルコンテンツの色を管理するには、**配置済みのベクトルEPS/PDFを含む**チェックボックスをオンにします。

環境設定 — レイアウト — レイヤー

新規レイヤーの作成時に使用する設定を指定するには、**環境設定**ダイアログボックス（**QuarkXPress／編集**メニュー）の**レイヤー**ペインを使用します。

- 新規レイヤーをデフォルトで表示するには、**可視**チェックボックスをオンにします。
- デフォルトで新規レイヤーを印刷しないようにするには、**出力しない**をクリックします。
- 新規レイヤーをデフォルトでロックするには、**ロック**チェックボックスをオンにします。
- 表示されているレイヤーが隠されたレイヤー上のアイテムに回り込むよう、新規レイヤーの回り込みを維持するには、**回り込み保持**をクリックします。

法律上の注記

©2022 Quark Software Inc. and its licensors.All rights reserved.

次の米国特許によって保護されています。5,541,991、5,907,704、6,005,560、6,052,514、6,081,262、6,633,666 B2、6,947,959 B1、6,940,518 B2、7,116,843、7,463,793およびその他の出願中の特許。

Quark、Quarkロゴ、QuarkXPress、QuarkCopyDeskは、Quark Software Inc.とQuark関連会社の米国およびその他各国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

索引

A

App Studio 390
App Studioレイアウト 80, 447
AppleScript 398, 399, 400, 401

C

CMYK 293
Collect for Output 388
Composition Zones 407, 410, 413, 414
Composition Zonesアイテム 410, 413, 414

D

DejaVu 322
docx 155, 396

E

emスペース、標準 483
EPS 385
Excelスプレッドシート 151
Excelチャート 141, 151
Excelテーブル 139

G

Guide Manager Pro 358, 359, 360, 361, 362, 364, 365

H

HSB 293
HTML5 64
HTML5出版物 392

I

ICCプロファイル 307

J

JDF 381, 424, 462
JPEG 388

L

LAB 293

O

OpenTypeカーニング 479
OpenTypeスタイル 232
OpenTypeフォント 231, 236
OTFプリンタ検索 471
output 388
output setups 307, 308, 309, 310

P

PDF 385, 394, 477
PDF Filter 394
PDF/X-4 385
PDFレイヤー 338
Photoshopの取り込み 58
Photoshopファイル 285, 286, 287, 288
PNG 388
PostScript 387
PSD画像 58, 285, 286, 287, 288

R

RGB 293

S

Scissors 21
Script XTensionsソフトウェア 398, 399, 400, 401
Shape of Things 22
Super Step and Repeat 116

T

Table Import 151
Type Tricks 264, 265, 266, 267

U

Unicode 62

W

Word 396
Word Filter 396

X

XTensions 465, 466, 474
XTensionsセット 466

あ

アイテム 100, 101, 108, 126, 127, 128, 129, 130, 226
アイテムスタイル 318, 319, 320
アイテムツール 18
アイテムの書式のコピー／貼付けツール 18
アイテムハンドル 101
アイテム検索／置換 106
アプリケーションの環境設定 467, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479
アルファマスク 285
アンカー 267, 269, 270, 271
アンカーカラー 480
アンカーボックス 130, 231
アンカーライン 231

い

イメージグリッド 371
インデックスカラー 288
インデント 175
インラインテーブル 141
インライン入力 471

う

ウィドウ 184
ウィンドウ 76
ウィンドウの分割 76

お

オーサリング表示 78
オーファン 184
オールキャップスのアクセント記号 483

か

カーニング 189
ガイド 88, 89, 358, 359, 360, 361, 362, 364, 365, 485
ガイドへの吸着 259
カスタムアンダーライン 267
カット 127
カラー 59, 62, 111, 112, 171, 275, 292, 293, 294, 297, 300, 301, 379
カラーエンジン 307
カラーコンポーネント 70, 307, 308, 309, 310, 313
カラーテーマ 470
カラーマネージメント 307, 311, 312, 313, 486
カラーマネージメント、EPS 307
カラーマネージメント、PDF 307
カラーマネージメント、レガシー 309
カラーマネージメント、画像 312

き

キーコマンド 18
キーショートカット 470

く

グラデーション 294
グリーキング 480
グリッド 362
グリッドスタイル 255, 257
グリッドライン 145
グリッド固定 482
クリッピングパス 114, 282, 284, 288
グループ 128, 147, 306
グループ化 128
グループ作業 402
グループ作業設定 406
クローナー 369
クロス参照 343, 344

こ

コールアウト 131
コピー 127, 231
コンテキストメニュー 57
コンテンツ 100
コンテンツ変数 60, 96, 97
コンポジションゾーン 407, 409, 410, 411, 412, 413, 415, 416
コンポジションゾーンアイテム 407, 409, 410, 411, 412, 413, 415
コンポジションゾーンツール 18
コンポジションレイアウト 409, 410, 415, 416

さ

サイズ変更 109, 123, 128

し

シェイプメーカー 22, 25, 27, 29, 32, 34, 36, 38, 117
シェード 171, 275, 300, 301
ジャスティフィケーション 190
ジョブジャケット 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 433, 434, 435, 436, 438, 439, 440, 441, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 452, 453, 455, 456, 458, 460, 476
ジョブジャケット、共有 444
ジョブチケット 308, 309, 424, 425, 426, 429, 434, 435, 436, 438, 439, 440, 442, 443, 444, 462
ジョブチケットテンプレート 426, 435, 436, 438, 440, 441, 442, 443, 444, 445
ジョブの定義者 428
シングルソース 402

す

ズーム 75
ズームツール 18
スタイルシート 71, 203, 208, 209
スタックの順序 127
ストーリーエディタ表示 77
スペース 240
スペルチェック 165, 167, 478
スポイト 297
スモールキャップス 483

せ

セクション 351
セル全体のボックス 242
センター 123
センターライン 242

そ

ソースセットアップ 307, 308, 309, 310, 311
ソフトプルーフ 310

た

ダイアモンドツール 18, 29
ダイナミックガイド 475
ダイナミックガイドのカラー 475
タブ 183

ち

チャプター 349, 350, 351, 352
チャンネル 287, 288

つ

ツール 73, 485
ツール・ヘルプ 471
ツールパレット 18, 73

て

テーブル 50, 72, 100, 136, 137, 138, 139, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 150, 479
テーブルスタイル 142
テーブルツール 18
テキスト 96, 153, 154, 155, 160, 162, 165, 167, 225, 226, 227, 228, 229, 231
テキストコンテンツツール 18
テキストシェーディング 72, 184, 188
テキストシェーディングスタイル 184
テキストストローク 172
テキストとの間隔 224
テキストのドラッグ＆ドロップ 153, 471
テキストのハイライト 475
テキストのボックス化 225
テキストの位置 223
テキストの挿入ポイント 153
テキストパス 226, 229
テキストフォーマット 44
テキストボックス 108, 114, 223, 227
テキストボックスグリッド 243, 247, 257
テキスト連結ツール 18
テキスト連結解除ツール 18
デザイングリッド 242, 243, 246, 247, 248, 250, 251, 252, 255, 257, 258, 259, 485
デジタルレイアウトリソース 447
デフォルトパス 476
テンプレート 82

と

ドイツ語（新正書法2006年版） 478
トップライン 242
トラッキング 202
トラッキングテーブル 203
トラップ 393
トリムビュー 52, 470
ドロップキャップス 230
ドロップシャドウ 105, 313, 314

の

ノート 477

ノートを非表示にする 52
ノートを表示する 52

は

ハイパーリンク 267, 268, 269, 270, 271, 272
ハイパーリンクカラー 480
ハイフネーション 190
ハイフネーション設定 482
はさみツール 18
はじめに 458
パス 288
バックグラウンドカラー 275
パレット 57
パレットグループ 73
パレットセット 73
パンツール 18
ハンドル 101

ひ

ひとつ後ろへ 127
ひとつ前へ 127

ふ

ファイルリスト 475
フォント 169, 225, 379
フォントサイズ 169
フォントマッピング 241, 474
ブック 58, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355
フッター 150
ぶら下がり文字 260, 262, 263, 264
ぶら下がり文字クラス 260, 262
ぶら下がり文字セット 260, 263, 264
ぶら下がり約物 260
ブリード 316, 317, 365, 380
フリーハンド描画ツール 18
フリップ 275
フレーム 111, 480
フレックススペース幅 483
プレビュー 382
ブレンド 112, 307
ブレンドモード 286, 301
プロジェクト 80, 82, 85
プロジェクトの環境設定 467, 479
プロジェクト設定値 425
プロファイル 70, 312, 313

へ

ページ 49
ページグリッド 255, 258
ページセパレータ 471
ページレイアウトパレット 70
ページ番号 351
ペースト 127, 231
ベースライン 242
ベースライングリッド 223
ベースラインシフト 172
ベジエ 102, 111, 112, 122, 124
ベジエペンツール 18
ベジエボックス 109, 225
ヘッダー 150
ヘルプ 56

ほ

ポイント 102
ポイント削除ツール 18
ポイント選択ツール 18
ポイント追加ツール 18
ポイント変換ツール 18
ボックス 100, 101, 108, 109, 111, 112, 113, 114, 126, 127, 128, 129, 130
ボックスのアンカー解除 231
ボトムライン 242

ま

マーク 380
マージン揃え 260
マスターチャプター 352
マスターページ 70, 324, 329, 337
マスターページアイテム 480
マスターページグリッド 243, 246, 255, 258
マスターページトグル 75

め

メジャーパレット 66

も

モニタープロファイル 307

や

やり直し 90

ゆ

ユーザー辞書 167

ら

ライブスクロール 471
ライブラリ 355, 356, 357, 358
ライン 47, 100, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 226, 301
ラインセグメント 102
ラインチェック 266
ラインツール 18
ラインのアンカー解除 231

り

リスト 66, 338, 339, 340, 341, 355
リソース 85, 424, 425, 433, 434, 435, 436, 438, 439, 440, 445, 446, 447, 448, 449, 450
リンクスター 373
リンク先 267, 268, 270, 271

る

ルール 452, 453, 455, 458
ルールセット 452, 455, 456, 458

れ

レイアウト 49, 80, 82, 84, 85, 375, 384, 411, 413
レイアウトの仕様 449, 450
レイアウトの書き出し 82
レイアウトファミリー 329
レイアウト環境設定 467, 480, 481, 482, 483, 485, 486, 487
レイアウト作成者 428
レイアウト定義 425, 439, 443
レイヤー 65, 286, 287, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 380, 487
レンダリング方法 307

ろ

ロック 130, 337, 406